



伊勢志摩サミット

記録誌



伊勢志摩サミット
三重県民会議

序文—ご挨拶

伊勢志摩サミット三重県民会議

会長 鈴木英敬
(三重県知事)



5月26日、27日の2日間にわたり開催されました伊勢志摩サミットは、天気予報を覆す奇跡的な天候の下、無事故かつ成功裏に閉幕しました。三重県民の皆さんをはじめ、関わった全ての方々のおかげであり、心から感謝申し上げます。

今回のサミットを振り返って、「県民の皆さんの大活躍」「安全な開催」「G7首脳による伊勢神宮訪問」「情報発信」の4つの点から、大成功につながったと考えています。

1つ目は、サミットに関わった県民の皆さんに広く活躍いただいたことです。

おもてなし大作戦、外国語案内ボランティア、ジュニア・サミットなど、オール三重での取組を通じて、県民の皆さんの底力を改めて感じました。特に、若者の活躍が次世代を担う人材育成のきっかけにつながったことは、今回のサミットのレガシーの1つであり、三重県の財産といえます。

2つ目は、サミットを無事安全に開催することができたことです。

我が国の警察関係者がその威信をかけて、過去最大規模で警備に臨まれ、また海上保安庁や自衛隊等、多くの連携があったからこそ、逮捕者もゼロという結果を得ることができました。また、安全・安心に万全を期すため、県民の皆さんや事業者の方々にさまざまな面でご不便やご負担をおかけしましたが、皆さんのご協力があったからこそ、サミットを無事に閉幕することができました。

3つ目は、G7首脳による伊勢神宮訪問が実現したことです。

安倍総理がG7首脳と宇治橋を渡り、ご正宮前で記念撮影が行われましたが、これは非常に感動的な情景でした。

伊勢神宮は人種や宗派、世代を越えて、多様な価値観を寛容に受け入れ、平和への祈りをささげる場であり、G7のリーダーが、伊勢神宮のある三重の地に集い、世界平和の確立に向けたメッセージを発信したことは、歴史に残る画期的な出来事です。このことは、サミット終了後のオバマ大統領の広島訪問と合わせ、「前向きな未来志向」に立ったものであり、G7首脳の伊勢神宮訪問は大変意義深いものであったと思います。

4つ目は、情報発信です。サミット開催に向けて全力で三重県の情報発信に努めてきた結果、当初の予想を超える成果があったと感じています。

食材や調度品について、一品でも多く県産材や県産品を使っていただけよう国等に働きかけを行った結果、首脳や配偶者のランチやディナーには、伊勢えび、松阪牛、伊賀牛等の三重県産の食材を生かした料理が提供され、首脳の食事の際の乾杯は全て三重県の酒蔵から提供された地酒で行われた等、三重県の食の魅力を最大限にアピールすることができました。国際メディアセンターで国内外の報道関係者に提供された食事においても、ほぼ全てのメニューに三重県の食材が使用されました。その他、乾杯で使用された萬古焼、尾鷲ヒノキの会議用テーブル等、多くの県産品が使用されました。

このようにサミットを通じて、多くの県民の皆さんが自分たちのふるさとの魅力に改めて気づき、愛着や誇りを持たせたことが、サミットの最大の資産（レガシー）といえます。このことは地域住民が地域をより良くしていこうという動機付けとなり、そのための具体的な行動が活発化して、自立的かつ持続的に発展する契機となります。

サミット開催は、チャンスでしかありません。県民の皆さん一人ひとりがチャンスを掴みに行こうとする思いと行動が大切です。

サミットというチャンスを生かし、三重県がさらなる飛躍を遂げられるよう、今後とも、皆さんのご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

この度、伊勢志摩サミットの記憶を後世に引き継ぐため、サミットの準備段階から開催経過、県民会議や市町の取組などを取りまとめ、記録誌として刊行しました。サミット後の県や市町の施策展開や民間企業等の取組に役立てられることを期待しています。

最後になりますが、伊勢志摩サミットの開催をご決定くださった安倍総理をはじめ、政府関係者の方々にあらためて敬意と感謝の意を表しますとともに、ご協力いただいた三重県民の皆さんをはじめ、全国の企業や団体の皆さんに心から感謝申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

ご挨拶

伊勢志摩サミット三重県民会議

副会長 竹内 千尋
(志摩市長)



2016年のG7サミットが伊勢志摩で開催され、成功裏に閉幕しましたことは、三重県の歴史の中で記念すべきことであり、誠に慶びに堪えません。政府のご努力はもちろんのこと、三重県においても官民一体となった協力体制の賜と敬意を表する次第です。

志摩市は、平成27年6月に安倍総理大臣から伊勢志摩でのサミット開催が発表されて以来、開催地の自治体として、サミットの成功に向け、官民一体となった「伊勢志摩サミット市民会議」を立ち上げ、県民会議とともに取り組みを進めてまいりました。開催地としての環境を整えるための事業には、資材の提供やボランティアの派遣など、県民会議から多くの人的・物的支援を受けて、おもてなしの体制を整えることができました。訪れた関係者の方々には、地元の歓迎の気持ちを伝えることができたと思います。

また、県民会議によるプレスツアーや首都圏でのPRイベントなどで、三重県全体の情報発信が効果的に行われました。今回のサミットにより知名度は格段に向上し、素晴らしい自然環境、豊かな食、歴史・伝統文化などの多くの魅力が広く発信され、活性化が図られましたが、この成果を一過性のものとせず、将来にわたって持続させる必要があります。このサミットを通して得た経験を生かし、官民一体となって継続して努力を重ねていくことが、「ポストサミット」にとって重要であると考えております。

最後になりましたが、政府関係者の皆様、並びに県民会議の運営をはじめ、様々な事業にご協賛・ご協力賜りました多くの企業や県民の皆様に深く感謝申し上げます。

ご挨拶

伊勢志摩サミット三重県民会議

副会長 中村 進一
(三重県議会議長)



世界各国からお越しいただいた皆様を心から歓迎し、オール三重でおもてなししたサミットが成功裏に終わったことは、誠に喜ばしく、明日への大きな自信となりました。この場をお借りして、ご支援とご協力をいただいた皆様に心から感謝を申し上げます。

今回のサミットは、三重県の文化や産業にも触れていただくなど、世界に向けた三重の魅力発信という意味だけでなく、各国首脳の前伊勢神宮訪問、サミット終了後の米国オバマ大統領の広島訪問など世界平和への強力なメッセージが発信された歴史的なサミットでもありました。

サミットの開催により、伊勢志摩の名前と世界平和への思いを世界中に広めることができたことは大きな財産であり、その効果は計り知れないものがあります。

また、様々な場面で県民と交流する機会が設けられていたことから、県民は普段では得難い経験を行うことができました。特に未来を担う子どもたちがサミットで得た経験は、将来に向けた大きな財産であると思います。

今後は、伊勢志摩サミットで得られた資産（レガシー）を三重の未来に生かしていくため、県民一丸となってしっかり取組を進めていく必要があると考えています。引き続き皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

最後になりますが、様々な場面で伊勢志摩サミットを成功に導いてくださった皆様に敬意を表しますとともに、心から感謝を申し上げ、私からのご挨拶とさせていただきます。

ご挨拶

伊勢志摩サミット三重県民会議

副会長 小林 長久
(三重県商工会議所連合会会長)



伊勢志摩サミットが無事成功裏に終了できましたことに、心から感謝申し上げます。また、国・県の関係者は勿論のこと、成功裏に終了されることを念願されておられました三重県民の皆様に、心から御礼申し上げます。本当に無事大成功に終了でき、ありがたく思っているところです。

思えば昨年6月5日、伊勢志摩サミット開催が公表されて以来、その誘致活動に奔走してきた三重県、地元伊勢志摩地域、様々な関係者が喜びとともに、不安と覚悟が錯綜する中、一年足らずで準備を展開してまいりました。私ども産業経済界も財政面、人材面、実践面で様々な協力を行ってまいりました。とりわけ、伊勢志摩地域の皆様方におかれましては、表舞台に立たれる関係者へだけでなく、警備、移動確保、ロジスティックスといった裏方を担当される方々へのご理解とご協力を賜り、あらためて心から御礼申し上げます。

このサミット開催で得たものには国・県はもとより、地域や三重県の産業経済界にも大きなものがあります。今回の開催が三重県・伊勢志摩をブランド化して観光誘客の増進につながることは当然であります。最大の効果は、三重県産業経済界を含め様々な主体が連携して実行すれば世界的イベントを成功させることができると言う成功体験の味わいではないかと思えます。今後は、この体験に酔いしれることなく、実感を活用してさらなる三重県の発展のために連携協力をしてまいりたいと考えていますので、県民の皆様方もよろしくご理解ご協力をお願いいたします。誠にありがとうございました。

ご挨拶

伊勢志摩サミット三重県民会議

副会長 雲井 敬
(公益社団法人三重県観光連盟会長)



伊勢志摩サミットが、日本の原風景といわれる風光明媚な三重県で、本年5月に開催され、成功裏に終了いたしました。

三重の誇る歴史、文化、食などの魅力あふれる素材が、各国首脳、政府関係者をはじめ世界各国のプレスを通じて、国内外に発信され、「MIE」・「ISE-SHIMA」の文字が多くの国のニュースや新聞紙面を飾ったであろうことを思うと、この千載一遇のチャンスに立ち会えたことは感慨深いものとなりました。

首脳会議には、世界経済やテロ対策、難民問題、海洋安全保障など幅広いテーマが挙がっておりましたが、各国の首脳や配偶者、メディアをお迎えする私達にとりましては、「三重」「伊勢志摩」がいかに世界に発信され、人々の記憶に残るかが、今後の三重の観光振興そして、これから三重県を訪れる訪日外国人の増加に大きく影響するであろうと考えていました。

伊勢神宮の神域やリアス式海岸の絶景、提供された御饌つ国を象徴する県産食材の豊富さとその実力、桑名で開催されたジュニア・サミットでの次世代を担う若い世代の交流も含め、短い時間ではあったものの、三重の魅力とその素晴らしさを感じていただけたのではないかと考えています。改めて、わが故郷の持つポテンシャルの高さを再認識する良き機会になったと実感しており、国内外の観光客の皆様にも繰り返し訪れていただけるよう、更に努力してまいります決意です。

三重県が、観光立県へと大きく舵を切り、観光が一大産業へと発展することをめざし、この伊勢志摩サミットの経験を生かして三重が選び続けられる観光地となるよう、県民の皆様とともに歩み続けていきたいと考えています。

今後ともよろしくご支援をお願いいたします。

目次

序文—ご挨拶	1
第1編 サミット概要	9
第1章 G7サミットの概要	10
第2章 伊勢志摩サミットの概要	11
1 日 程	11
2 参加国・参加者	13
3 関連施設	13
4 首脳会議等の概要及び成果	19
第3章 配偶者プログラム	27
第2編 サミット開催に向けて	33
第1章 誘 致	34
1 経 緯	34
2 誘致決定	34
3 三重県の提案内容	34
4 2016年みえ伊勢志摩サミット誘致推進協議会	36
5 国による事前調査	36
6 知事等による要望活動	36
7 議会の決議	37
8 開催決定	37
9 開催日の決定	37
10 海外開催地視察	37
11 国内開催地視察	39
第2章 体 制	40
1 県庁内の推進体制	40
2 伊勢志摩サミット三重県民会議	46
3 伊勢志摩サミット国関係機関連絡会議	49
4 伊勢志摩サミット市町連絡調整会議	51
5 伊勢志摩サミット地域連絡調整会議	53
6 国への応援体制（外務省業務への応援）	53
第3編 県民会議等の取組	55
第1章 概 要	56
1 取組の基本的な考え方	56

2	企業、団体等との協働の推進	57
3	伊勢志摩サミット通信	59
4	広報計画	60
第2章 開催支援		62
1	宿泊予約センターの設置	62
2	県産食材等の利用促進	66
3	弁当供給体制の整備	67
4	外国語案内ボランティア	70
5	インフォメーション機能の整備	74
6	輸送サービスの円滑な提供	76
7	警備関係への協力や住民への情報提供	78
8	伊勢志摩サミット開催記念セミナー 及び伊勢志摩サミット開催レセプション～三重へのいざない～	81
9	在外公館における天皇誕生日レセプションでのPR	84
10	各国先遣隊歓迎夕食会	84
11	国際メディアセンター完成式及び完成記念祝典	87
12	三重のおもてなしバッグ	89
13	識別証、車両証の発行	92
14	NGOへの対応	93
15	G7首脳等に対する歓迎行事等	95
16	G7首脳等による芳名帳	95
17	G7首脳による記念植樹	96
18	贈呈品	97
19	各国首脳等と県民との交流 ～「世界との絆づくり」～	100
第3章 おもてなし		104
1	伊勢志摩サミットフォーラム	104
2	おもてなし大作戦	107
3	カウントダウンボード、ノベルティを活用したPR	110
4	おもてなし向上研修	113
第4章 明日へつなぐ		115
1	ジュニア・サミット	115
2	多様な主体における国際理解・国際交流事業	125
3	大学生・留学生との交流事業	130
4	サミット協力宿泊施設経営向上支援補助金	135
5	伊勢志摩サミット開催記念・三重の魅力再発見キャンペーン	135
6	伊勢志摩サミット記念館（仮称）の設置	135

第5章 三重の発信	136
1 ホームページ、SNSでの発信	136
2 ポスターによるPR	138
3 シンボルマーク	142
4 伊勢志摩サミット・ロゴマーク	145
5 海外プレスツアー等の実施による情報発信	145
6 海外メディア等を活用した情報発信	152
7 県内での情報発信イベント	153
8 県外での情報発信イベント	155
9 海外ミッションの機会等を利用したPR	157
10 情報誌の発行	159
11 PR動画の放映	161
12 三重情報館	162
第6章 市町の取組	170
1 地元4市町（志摩市・伊勢市・鳥羽市・南伊勢町）及び桑名市の取組	171
2 その他市町の取組	185
第7章 広域の連携	204
1 東海三県一市の連携体制	204
2 関係閣僚会合開催自治体との連携体制	207
3 ヒロシマ・ナガサキ原爆展	208
第8章 警備・消防・保健医療	211
1 警備	211
2 消防	214
3 保健医療	219
4 警備・防災・医療等事務担当者情報交換会	226
第9章 ポストサミット	229
第4編 予算・決算	233
第1章 県民会議事業の予算・決算	234
第2章 行政事業（伊勢志摩サミット関連予算）	237
資料編	243
1 伊勢志摩サミット三重県民会議規約	244
2 伊勢志摩サミット三重県民会議会員等名簿	247
3 伊勢志摩サミット三重県民会議部会運営規程	249
4 伊勢志摩サミット三重県民会議事務局規程	251
5 三重県伊勢志摩サミット推進本部設置要綱	255

6	三重県伊勢志摩サミット防災・危機対策委員会設置要綱	257
7	三重県伊勢志摩サミット保健・医療対策委員会設置要綱	258
8	伊勢志摩サミット開催に向けた全体のスケジュール	260
9	シンボルマークの使用に関する取扱い	262
10	伊勢志摩サミット三重県民会議寄附金要綱	265
11	協賛、応援事業に関する手続	267
12	寄附金に関する手続	269
13	協賛、応援事業の実績	271
14	寄附金の実績	306
15	サミット食材等活用リスト	317
16	おもてなし大作戦の実施状況一覧	325
17	プレスツアーの取材に基づく報道状況	329
18	三重情報館及び国際メディアセンター政府広報展示スペースの出展内容一覧	332
19	知事臨時記者会見記録	336
20	知事定例会見記録	342
21	伊勢志摩サミットに係る経済効果等の最終試算結果	351
22	伊勢志摩サミットの「レガシー」	362
23	G7伊勢志摩首脳宣言	369
24	桑名ジュニア・コミュニケ	404

第1編 サミット概要

第1章 G7サミットの概要

(1) G7サミットとは

G7サミットとは、日本、米国、英国、フランス、ドイツ、イタリア、カナダの7か国の首脳並びに欧州理事会議長及び欧州委員会委員長が参加して開催される首脳会議である。ウクライナ情勢を受けたロシアのG8への参加停止により、2014年以降G7サミットとなっている。

G7サミットでは、国際社会が直面する様々な課題について、首脳は一つのテーブルを囲みながら、非公式かつ自由闊達な意見交換を通じてコンセンサスを形成する。そして、その成果が宣言としてまとめられる。グローバル化が進むと世界各国の相互依存関係が進み、物事が起こりかつ展開する速度が速くなり、その影響するところも国境を越えて大きくなるが、それらに有効に対処するためには、柔軟で果断かつバランスのとれた決断、効果的な措置が必要となる。G7サミットには他の多くの国際的なフォーラムと異なり事務局はないが、それぞれの国で総合的・横断的に様々な分野を総覧する立場にある首脳がトップダウンで物事を決めるため、適切な決断と措置を迅速に行うことが可能になる。

G7サミットを開催する国が、開催する年の1月～12月の1年間、G7議長国となる。G7議長国は、サミット開催に向けた事前の準備会合や、実際の首脳会合や外相会合をはじめとした閣僚会合の開催のための諸準備及び議事進行を行う。

これまで日本は1979年、1986年、1993年、2000年、2008年の5回、議長国となっている。そして2016年三重県伊勢志摩にて、6回目の議長国としてG7サミットを開催した。

(2) サミット開催の経緯

1970年代に入り、ニクソン・ショック(ドルの切り下げ)や第1次石油危機などの諸問題に直面した先進国の間では、世界経済問題(マクロ経済、通貨、貿易、エネルギーなど)に対する政策協調について首脳レベルで総合的に議論する場が必要であるとの認識が生まれた。

このような背景の下、ジスカール・デスタン仏大統領(当時)の提案により、1975年11月、パリ郊外のランブイエ城において、日本、米国、英国、フランス、西ドイツ、イタリアの6か国による第1回首脳会議が開催された。

1975年のランブイエ首脳会議の結果、世界経済問題に対応するために先進国の首脳が集まって政策協調のための議論の場を持つことの重要性が認識され、各国が持ち回りで議長国を務めつつ毎年首脳が集まって会合をもつことになった。

その後、世界経済の諸問題と並んで、冷戦を背景とした東西問題、更には冷戦崩壊後の国際問題、南北問題やその時々の世界情勢などの政治問題が議論の対象とされるようになり、さらには気候変動、エネルギー、貿易、開発などの地球規模の問題についても議論されるようになっていく。このようにして、主要国の政策協調の場であるサミットの重要性はますます高まっている。

また、討議内容の広がり等を踏まえ、2000年の九州・沖縄サミット以来、G7以外の国々(アウトリーチ国)との対話も行われるようになっていく。

第2章 伊勢志摩サミットの概要

1 日程

伊勢志摩サミットは、平成28年5月26日（木）、27日（金）の2日間で開催された。

伊勢志摩サミット関連日程の一覧は、下記のとおりである。

日程		首脳プログラム	配偶者プログラム	二国間会談等	県及び県民会議等が 関与した行事
5/24 (火)	午前				
	午後				
	夜			日加首脳会談	
5/25 (水)	午前				
	午後				
	夜			日英首脳会談 日米首脳会談 日米共同記者会見	G7首脳のホテルでの出迎え(石垣副知事、大口志摩市長が出迎え) 【於：志摩観光ホテル】
5/26 (木)	午前	総理によるG7首脳出迎え 【於：伊勢神宮】 伊勢神宮訪問、記念植樹	伊勢神宮訪問		G7首脳のホテルでの出迎え(石垣副知事、大口志摩市長が出迎え) 【於：志摩観光ホテル】 G7首脳の伊勢神宮での出迎え(鈴木知事、鈴木伊勢市長が出迎え) G7首脳による記念植樹(鈴木知事が参加) 【於：伊勢神宮】
	昼	セッション1(G7の価値・結束、世界経済)：ワーキング・ランチ 【於：志摩観光ホテル】	総理夫人主催昼食会 【於：杉風荘】		《世界との絆づくり》 英国同行プレスによる皇學館大学生との交流 【於：皇學館大学】 《配偶者プログラム》 総理夫人主催昼食会(鈴木知事が出迎え) 【於：杉風荘】
	午後	サイドイベント(自動走行車・燃料電池自動車のプレゼンテーション) 【於：志摩観光ホテル】 G7首脳記念撮影 【於：志摩観光ホテル】 セッション2(貿易)・3(政治・外交) 【於：志摩観光ホテル】	ミキモト真珠島訪問 記念植樹 【於：志摩観光ホテル】		《配偶者プログラム》 ミキモト真珠島訪問(鈴木知事が参加) 記念植樹(鈴木知事が参加) 【於：志摩観光ホテル】

日程		首脳プログラム	配偶者プログラム	二国間会談等	県及び県民会議等が 関与した行事
	夜	総理夫妻主催カクテル 【於：志摩観光ホテル】 サイドイベント(テロと文化財) 【於：志摩観光ホテル】 セッション4(政治・外交): ワーキング・ディナー 【於：志摩観光ホテル】	総理夫妻主催カクテル 【於：志摩観光ホテル】 総理夫人主催夕食会 【於：志摩観光ホテル】		愛知・名古屋歓迎レセプション(石垣副知事が出席) 【於：名古屋観光ホテル】
5/27 (金)	午前	セッション5(気候変動、エネルギー) 【於：志摩観光ホテル】 総理によるアウトリーチ首脳出迎え 【於：志摩観光ホテル】 アウトリーチ・セッション1(アジアの安定と繁栄) 【於：志摩観光ホテル】 G7及びアウトリーチ首脳記念撮影 【於：志摩観光ホテル】	国際メディアセンター視察	安倍総理とインドネシア大統領との懇談	≪世界との絆づくり≫ ベトナム閣僚による松阪市訪問(石垣副知事が参加) 【於：松阪もめん手織りセンター、旧長谷川邸等】 ≪配偶者プログラム≫ 国際メディアセンター視察(鈴木知事が案内及び参加)
	昼	アウトリーチ・セッション2(開発、アフリカ):ワーキング・ランチ 【於：志摩観光ホテル】	総理夫人主催昼食会 【於：志摩観光ホテル】		
	午後	議長国会見 【於：賢島宝生苑】		日米両首脳による広島訪問	≪世界との絆づくり≫ OECD事務総長による伊勢神宮訪問(石垣副知事が案内) IMF専務理事によるミキモト真珠島訪問 ベトナム首相による伊勢神宮訪問(鈴木知事が案内)
5/28 (土)	午前			日・チャド首脳会談 日・バングラデシュ首脳会談 日・スリランカ首脳会談 日・パプアニューギニア首脳会談	
	昼			日・ラオス首脳会談及び総理主催昼食会	
	午後			日・ベトナム首脳会談	

※アウトリーチには、チャド、インドネシア、スリランカ、バングラデシュ、パプアニューギニア、ベトナム、ラオス、国際連合 (UN)、国際通貨基金 (IMF)、世界銀行 (WB)、経済協力開発機構 (OECD)、アジア開発銀行 (ADB) が参加。

2 参加国・参加者

【G7】

国名	首脳
日本	安倍晋三内閣総理大臣（議長）
アメリカ合衆国	バラック・オバマ大統領
英国（グレートブリテン及び北アイルランド連合王国）	デービッド・キャメロン首相
フランス共和国	フランソワ・オランド大統領
ドイツ連邦共和国	アンゲラ・メルケル首相
イタリア共和国	マッテオ・レンツィ首相
カナダ	ジャスティン・トルドー首相
欧州連合	ドナルド・トゥスク欧州理事会議長
欧州連合	ジャン＝クロード・ユンカー欧州委員会委員長

【アウトリーチ】

国名／機関名	首脳
バングラデシュ人民共和国	シェイク・ハシナ首相
チャド共和国	イドリス・デビー・イトゥノ大統領
インドネシア共和国	ジョコ・ウィドド大統領
ラオス人民民主共和国	トンレン・シースリット首相
パプアニューギニア独立国	ピーター・オニール首相
スリランカ民主社会主義共和国	マイトリーパーラ・シリセーナ大統領
ベトナム社会主義共和国	グエン・スアン・フック首相
国際連合（UN）	潘基文事務総長
国際通貨基金（IMF）	クリスティーヌ・ラガルド専務理事
世界銀行（WB）	ジム・ヨン・キム総裁
経済協力開発機構（OECD）	アンヘル・グリア事務総長
アジア開発銀行（ADB）	中尾武彦総裁

3 関連施設

（1）首脳会議場

首脳会議は、「志摩観光ホテル ザ クラシック」（以下「クラシック」）及び「志摩観光ホテル ザ ベイスイート」（以下「ベイスイート」）で開催された。両ホテルは、首脳会議（G7ワーキングセッション、アウトリーチ会合）以外にも、配偶者プログラム、社交行事等公式行事の会場となったほか、G7首脳及び代表団の宿舎として利用された。



志摩観光ホテル ザクラシック



志摩観光ホテル ザベイスイート^{*1}

【クラシックの概要】

昭和26年4月開業。伊勢志摩国立公園内にある賢島に戦後初となる本格的なリゾートホテルとして誕生。6階建ての建物に、114室を擁し、開業当初より昭和天皇をはじめとする数多くの賓客を迎え入れてきた。

【ベイスイートの概要】

平成20年10月開業。クラシックから南西約200mに位置する。地上5階建ての建物に50室の客室を擁し、全室スイートルームかつ客室面積が100㎡以上と国内リゾートホテルでは最大級の広さを誇る。

(2) 国際メディアセンター（IMC）

報道関係者の作業スペースを備えるサミット取材のための総合施設として、「国際メディアセンター」（以下「IMC」）を既設施設の「三重県営サンアリーナ」（以下「サンアリーナ」）及び隣接する仮設施設の「アネックス」に設置した。

平成28年5月25日（水）8時から28日（土）正午までの4日間に、約5,000人（実人数）の内外報道機関関係者がIMCを利用した。



三重県営サンアリーナ



アネックス外観^{*2}



三重県営サンアリーナ内部

【アネックスの整備概要】

建物の整備業務は外務省から支出委任を受けた国土交通省（中部地方整備局）が担当し、サンアリーナの隣接地に建設した。

- ・開設期間 平成28年5月25日（水）8時から28日（土）正午まで（期間中24時間運営）
- ・整備費 約28.5億円
- ・環境への配慮 建材、工法、使用機器等について3R（Reduce、Reuse、Recycle）等環境への配慮が行われた。
- ・解体 平成28年7月20日（水）から解体工事を開始。使用された資機材は9割以上が再利用される。

【主な施設・サービス】

サンアリーナ内には、報道関係者の取材支援として、放送設備（マスターコントロールルーム、テレビ・ラジオ放送局用ブース、編集室等）を有する「国際放送センター（IBC）」に加えて、インターネット環境（有線・無線）、電話、プリンタ、FAXが配備された「共用ワーキングスペース」（約1,020席）、及び共用プレスブリーフィングルームが設置された。

また、IMC利用の利便性向上のために、IMCの総合案内やWi-Fi、プリンター利用のサポートを行う「インフォメーション&ITヘルプデスク」、シャトルバスの運行状況を確認できる「IMCシャトルバスインフォメーション」、外国語案内ボランティアを配置して地元の観光や交通について案内する「観光・交通案内デスク」、郵便局やATM、両替機、またカメラの修理窓口を有する「サービスブース」や「軽食コーナー」及び「売店」も設置された。

アネックス内には、日本の魅力を発信する「政府広報展示スペース」、三重の魅力を発信する「三重情報館」及び三重県産の食材を用いた料理の提供等が実施された報道関係者向けのダイニングスペースが設置された（詳細はP 332参照）。

なお、IMC（及びIMC内に設置した三重情報館）のオープンに際して、県民会議は完成式及び完成記念祝典を開催した（詳細はP 87参照）。

【政府広報展示スペースの概要】

「伝統」と「革新」及び国際社会が直面する様々な課題の解決に資する日本の技術をテーマに、サミットの課題と連動するカテゴリーごとに関連する日本の技術・製品約80点がパネル、模型、映像、体験といった形式で展示された。



政府広報展示スペース



スポーツ展示コーナー

また、屋外展示スペースにおいて、次世代自動車、パーソナルモビリティや自動ブレーキ・自動駐車システムの試乗体験が行われたり、IMC内では、2020年東京オリンピック・パラリンピックやラグビーワールドカップ2019、また日本政府が推進するスポーツを通じた国際貢献策である「スポーツ・フォー・トゥモロー」に関する展示も実施された。

【IMCのセキュリティ対策】

サミット期間中IMC周辺は規制区域となったことから、IMCの利用は伊勢志摩サミット取材者証の所有者に限定された。また、入館にあたっては、入口前に設置された保安検査場にて、手荷物検査及び金属探知機によるセキュリティチェックが実施された。

(3) サブメディアセンター1 (SMC1)

賢島で行われる公式行事や二国間会談等を取材する代表取材記者の待機スペース及び議長国記者会見場として、「サブメディアセンター1」(以下「SMC1」)が「賢島宝生苑」に設置された。

(4) サブメディアセンター2 (SMC2)

各国首脳の記者会見場として、「サブメディアセンター2」(以下「SMC2」)が「伊勢志摩ロイヤルホテル」に設置された。

(5) 政府代表団宿舎

クラシック及びベイスイートに宿泊できる人数は限られているため、G7各国代表団の宿舎として、志摩市内のホテルが利用された。また、アウトリーチ会合に出席したG7以外の首脳等は、主に名古屋市内のホテルに宿泊した。

(6) 日本政府現地事務所

日本政府の現地作業の拠点として、賢島宝生苑が使用された。

(7) 三重県現地事務所

三重県志摩庁舎に、現地における情報収集、関係機関との連絡調整及び緊急時の対応を行う事務所を設置した。また、報道対応のための情報整理、取りまとめを実施する事務所を三重県伊勢庁舎へ、三重情報館の運営等県民会議の事業を行う事務所をIMC内に設置した。

(8) 空港

各国の政府専用機の離発着には、中部国際空港が利用された。中部国際空港には、各国首脳の到着及び出発を支援するため、仮施設として、貴賓室及び合同事務棟が国土交通省により設置された。

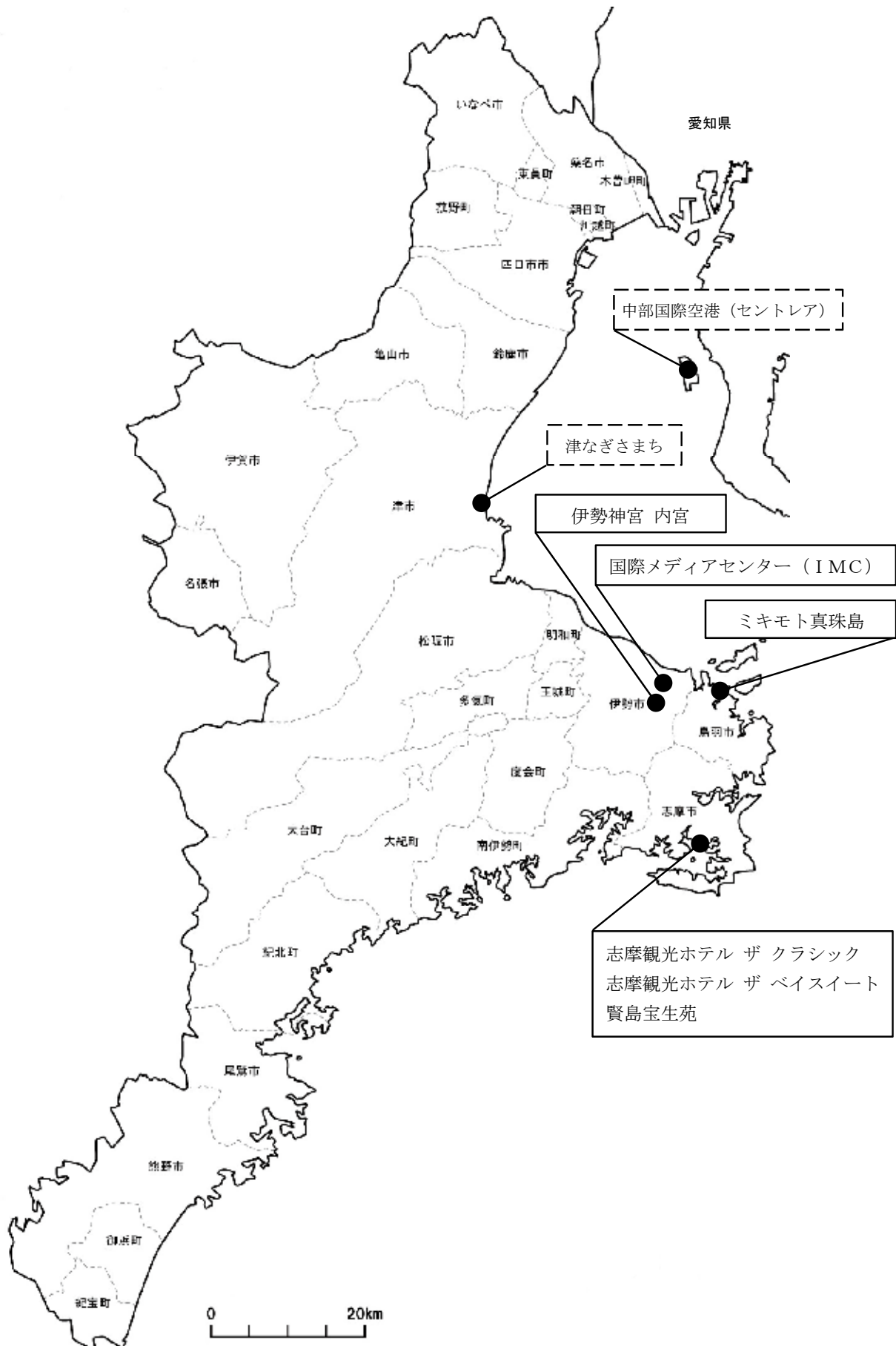
(9) 志摩ヘリポート

中部国際空港と賢島間の首脳の移動は、荒天等でヘリコプターが飛行できない場合を除き、ヘリコプターによる空路の輸送が実施され、賢島近辺の離発着地として、「志摩スペイン村」の駐車場が臨時のヘリポートとして利用された。

〔関連施設の写真：※1は(株)近鉄・都ホテルズ提供

※2は国土交通省提供、その他は外務省提供〕

主な関連施設の位置図



4 首脳会議等の概要及び成果

(1) 首脳会議等の概要

5月24日（火）の概要

【日加首脳会談】

安倍総理はトルドー首相と総理官邸にて会談し、伊勢志摩サミットへ向けた連携の確認及び「日加協力新時代」を切り拓き、多分野で二国間が協力関係を強化することで一致した。

会談終了後、共同記者会見も行われた。



日加首脳会談

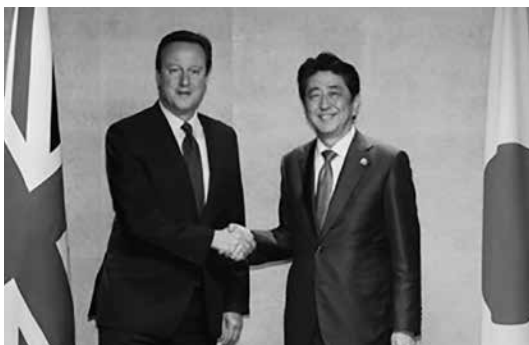


日加共同記者会見

5月25日（水）の概要

【日英首脳会談】

安倍総理はキャメロン首相と志摩観光ホテルで会談し、日EU経済連携協定（EPA）、環太平洋パートナーシップ協定（TPP）等のメガFTAの推進が世界経済の成長にとって重要であること、日EU・EPAの早期実現に向けて緊密に協力していくことを確認した。また、両首脳は、政治・安全保障、貿易・投資、原子力を含む経済等、幅広い分野で日英二国間関係を強化していくこと及びサミットの最大のテーマである世界経済や腐敗対策等について先だって意見交換を実施した。



英国のキャメロン首相と安倍総理



日英首脳会談

【日米首脳会談】

安倍総理はオバマ大統領と志摩観光ホテルで会談し、冒頭の少人数会合の全ての時間を割いて、平成28年4月に沖縄で発生した米軍属のアメリカ人による日本人女性の殺害事件について議論した。本件について、安倍総理からオバマ大統領へ強い抗議を表明するとともに、実効的な再発防止策の徹底および厳正な処分を求め、オバマ大統領からは、心からの哀悼と深い遺憾の意が表明されるとともに、日本の捜査及び正義の実現のために全面的に協力する旨の発言があった。両者は、日米でよく協議して実効的な再発防止策を追求すること、また、日米で協力して失われた信頼を回復し、沖縄の負担軽減に全力を尽くしていくことで一致した。

全体会合においては、世界経済、TPP、北朝鮮、東アジア情勢、気候変動について議論し、G7サミットに向けて、日米が緊密に連携していくことで一致した。

会談終了後、共同記者会見も行われた。



日米共同記者会見

5月26日（木）の概要

【伊勢神宮訪問、記念植樹】

伊勢神宮内宮の宇治橋にて、安倍総理自らG7首脳を出迎えた。神宮附属幼稚園の園児46名もサミット参加国の国旗を手に、G7首脳の到着を歓迎した。



神宮附属幼稚園の園児と一緒に
G7首脳を出迎える安倍総理



イタリアのレンツィ首相を出迎える安倍総理

内宮敷地内では、鈴木知事も参加して記念植樹を行った後、安倍総理の案内でG7首脳は正宮を訪れ、正宮前で記念撮影が行われた。



宇治橋を渡る米国のオバマ大統領と安倍総理



内宮神苑前で記念植樹



正宮へ向かうG7首脳



正宮前で記念撮影

【G7首脳会議】

1日目の首脳会議では、「G7の価値・結束」、「世界経済」、「貿易」、「政治・外交」について議論された。また、ワーキング・ランチ、ワーキング・ディナーにおいては、三重県産の食材、酒類がふんだんに活用された（G7首脳に提供された県産食材、酒類についてはP 317参照）。



セッション1：ワーキング・ランチ



セッション4：ワーキング・ディナー

【自動走行車・燃料電池自動車のプレゼンテーション】

志摩観光ホテル敷地内にて、自動走行車・燃料電池自動車のプレゼンテーション及びこれらの自動車の試乗が行われた。安倍総理から参加した首脳に対し、自動走行車の実用により、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向け、世界で最も安全な道路交通社会を実現すること及び燃料電池自動車の普及により、世界をリードして、環境・エネルギー問題の解決に取り組むことが伝えられた。



プレゼンテーションする安倍総理



英虞湾を背景に記念撮影

【G7首脳記念撮影】

志摩観光ホテル ザ ベイスイートの屋上庭園にて、英虞湾を背景にG7首脳の記念撮影が行われた。

【日EU経済連携協定（EPA）に関する共同ステートメントの発出】

日本、EU、フランス、ドイツ、イタリア、英国首脳により、日EU経済連携協定（EPA）に関する共同ステートメントが発出され、日EU・EPAの早期の合意を目指すこと、同席の関係首脳と引き続き緊密に連携していくことが確認された。

【総理夫妻主催カクテル】

ワーキング・ディナー前に行われた総理夫妻主催カクテルにおいて、三重県産の日本酒等が提供・紹介され、日本や三重県の食文化のPRを行う上で、非常に有意義な機会となった。



日EU経済連携協定（EPA）に関する
共同ステートメントの発出

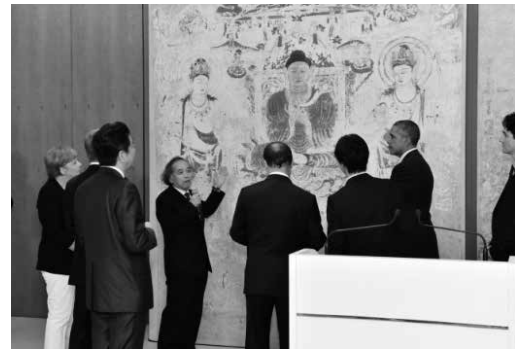


カナダのトルドー首相夫妻と安倍総理夫妻

【テロと文化財】

タリバーンによって破壊されたバーミヤン東大仏天井壁画及び焼失した法隆寺金堂壁画第6号壁を「クローン文化財」*として復元したものが展示される中、東京藝術大学宮廻（みやさこ）教授により壁画に関する説明がなされ、日本の高度な遺跡修復技術がアピールされた。

※クローン文化財…高精度かつ同素材同質感の文化財複製。



首脳に壁画について説明する宮廻教授

5月27日（金）の概要

【G7首脳会議】

2日目の首脳会議は、「気候変動・エネルギー」を議題として議論が行われた。

【アウトリーチ会合】

8年ぶりにアジアで開催されるサミットであることを踏まえ、アジアから、ラオス、ベトナム、インドネシア、バングラデシュ、スリランカ、パプアニューギニアの首脳、また、サミットの成果をTICAD（アフリカ開発会議）につなげるべく、アフリカ連合の議長国であるチャドの首脳、さらに、国際機関から、国連、経済協力開発機構（OECD）、アジア開発銀行（ADB）、国際通貨基金（IMF）、世界銀行の首脳が招かれ、G7首脳とともに「アジアの安定と繁栄」、「開発・アフリカ」を議題としてアウトリーチ会合が開かれた。



セッション5の様子



アウトリーチ会合の様子

【安倍総理とインドネシア大統領との懇談】

ワーキング・ランチの前に安倍総理とジョコ大統領との懇談が行われ、アジアの発展や南シナ海問題について意見交換するとともに、今後も質の高いインフラ整備を通じ、電力や運輸分野で引き続き協力していくことで一致した。

【G7首脳及びアウトリーチ首脳記念撮影】

志摩観光ホテル敷地内において、G7首脳及びアウトリーチ首脳の記念撮影が行われた。



インドネシアのジョコ大統領と安倍総理



G7首脳及びアウトリーチ首脳記念撮影

【議長国会見】

安倍総理による議長国会見が賢島宝生苑にて行われ、「G7伊勢志摩首脳宣言」に基づく声明が発表された。また、国会見の最後には、サミット開催に協力した地元の伊勢志摩の住民及び三重県民に対して感謝の意が表明された。

（「G7伊勢志摩首脳宣言」はP 369参照）



議長国会見

5月28日（土）の概要

【アウトリーチ各国との首脳会談】

安倍総理は、アウトリーチ招待国であるチャド、バングラデシュ、スリランカ、パプアニューギニア、ラオス、ベトナムの首脳と会談を行い、会談を通じて各国と多分野で協力関係を強化していくことが確認された。



日・チャド首脳会談



日・バングラデシュ首脳会談



日・スリランカ首脳会談



日・パプアニューギニア首脳会談



日・ラオス首脳会談



日・ベトナム首脳会談

(2) 首脳会議等の成果

【G7首脳会議の成果】

「G7の価値・結束」「世界経済」「貿易」「政治・外交」「気候変動・エネルギー」について2日間で行われた議論を踏まえ、「G7伊勢志摩首脳宣言」が発出された。

特に、最大のテーマである「世界経済」については、G7首脳同士で世界経済が大きなりスクに直面しているという強い危機意識が共有され、世界経済、貿易、インフラ、保健、女性、サイバー、腐敗といった具体的な分野におけるG7の行動が「G7伊勢志摩経済イニシアティブ」に取りまとめられたことで、G7が世界経済を牽引していくという明確な姿勢が発信された。

また、併せて、以下の附属文書も発出された。

- ①質の高いインフラ投資の推進のためのG7伊勢志摩原則
- ②国際保健のためのG7伊勢志摩ビジョン
- ③女性の能力開花のためのG7行動指針
- ④サイバーに関するG7の原則と行動
- ⑤腐敗と戦うためのG7の行動
- ⑥テロ及び暴力的過激主義対策に関するG7行動計画

【アウトリーチ会合の成果】

伊勢志摩サミットは、8年ぶりにアジアで開催されたG7サミットであることから、「アジアの安定と繁栄」をテーマに、「質の高いインフラ投資」及び「開かれ、安定した海洋」について議論された。さらに、「持

「持続可能な開発のための2030アジェンダ（SDGs）」採択後初めてのG7サミットでもあることから、「保健」や「女性の活躍」に焦点を当てつつ、SDGsの推進及びアフリカの開発について議論が行われた。

【次回サミット】

レンツィ伊首相より、2017年のサミットをイタリア（シチリア島）で開催する旨発表された。

〔首脳会議等の概要及び成果の写真：外務省提供〕

第3章 配偶者プログラム

配偶者プログラムでは、G7首脳とともに来日した配偶者に三重を通じて日本を感じていただくべく、「伊勢志摩にみる日本の伝統・文化」をテーマに、伊勢志摩地域各地の訪問や、県民との様々な交流が行われた。

【参加配偶者】

国名	氏名
日本	安倍昭恵 総理夫人
ドイツ連邦共和国	ヨアヒム・ザウアー 首相夫君
カナダ	ソフィー・グレゴワール＝トルドー 首相夫人
欧州連合	マウゴジャータ・トゥスク 欧州理事会議長夫人

【プログラム日程】

月日	時間	プログラム	場所
5月26日(木)	11:15-13:00	伊勢神宮訪問	伊勢神宮内宮
	13:15-14:15	総理夫人主催昼食会 [※]	杉風荘(さんぷうそう)
	14:35-16:20	ミキモト真珠島訪問 [※]	ミキモト真珠島
	17:10-17:20	記念植樹(県民会議主催) [※]	志摩観光ホテル
	19:50-21:30	総理夫人主催夕食会	志摩観光ホテル
5月27日(金)	11:00-11:09	政府広報展示スペース視察	国際メディアセンター
	11:10-11:20	三重情報館視察 [※]	
	11:25-11:45	パラスポーツ視察	
	11:55-12:15	竹あかり制作ワークショップ	
	12:55-14:00	総理夫人主催昼食会	志摩観光ホテル

※伊勢志摩サミット三重県民会議がコンテンツ提供及び実施サポートを行ったプログラム。

【伊勢神宮訪問】

宇治橋前で神宮附属幼稚園の園児による出迎えを受けた後、正宮を訪問した。



園児の出迎え



伊勢神宮宇治橋

【総理夫人主催昼食会】

伊勢市内の杉風荘（さんふうそう）において、県立相可高等学校食物調理科の生徒が県産食材をふんだんに用いて料理し、全て英語でおもてなしをした。同校は国際的な料理コンクールで数々の受賞歴があり、調理クラブが実践教育の場として運営するレストラン「まごの店」で日々研鑽に努めている。

昼食会は鈴木知事と相可高等学校生による挨拶の後、主催者である安倍総理夫人の乾杯の発声で始まった。料理やサービスは、時折、拍手喝采を浴びるなど、配偶者の方々に非常に好評であった。

また、尾鷲ヒノキのテーブルやイス、伊賀焼や四日市萬古焼の食器、伊勢形紙で染めたナプキンなど、多くの三重県産品が食卓を彩った。



杉風荘の月見台にて



鈴木知事及び生徒代表挨拶



料理の写真（八寸）



記念撮影

日 時	5月26日(木) 13:15-14:15	
参加者	<ul style="list-style-type: none"> ・日本、ドイツ、カナダ首相及び欧州理事会議長の配偶者 ・相可高等学校生徒9名(調理場、サービス、お茶・お菓子をそれぞれ担当) ・相可高等学校校長、食物調理科教諭2名 ・鈴木知事(冒頭挨拶) 	
メニュー	<p>【八寸】</p> <p>志摩産鮑酒蒸し 三色団子・学校ミニトマト・厚焼き卵・牛乳団子 花茗荷甘酢漬け 初かつお煮凍り 三重県産米「結びの神」の海老手まり寿司</p> <p>【煮物椀】</p> <p>伊勢海老真丈</p> <p>【だし巻き卵】</p> <p>県内の農業高校 飼い卵のだし巻き卵・あおさ</p> <p>【すき焼き】</p> <p>特選松阪肉・すべて三重県産の椎茸・本しめじ 小松菜・玉葱・牛蒡・人参・白葱・焼豆腐・温泉卵</p> <p>【御飯】</p> <p>安倍昭恵様丹精こめて作った特別栽培米「昭恵米」 県内の農業高校自家製味噌の味噌汁・あおさ 松阪赤菜の漬物</p> <p>【お菓子】</p> <p>花菖蒲じょうよ饅頭・干菓子・伊勢茶・珈琲・紅茶</p>	<p>伊勢湾産穴子ごぼう銚込み 志摩捕れ烏賊酒盗焼き あのりふぐ一夜干し 熊野地鶏松風焼き 三重県産五月鱒 燻製の笹寿司</p> <p>胡麻豆腐・つるな・結び人参・柚子</p>

【ミキモト真珠島訪問】

知事、地元首長、海女及び女将団体等による出迎えの後、ミキモト真珠島所属の海女による採取デモンストラーションの見学、真珠博物館の見学及び真珠採取体験が行われた。



鈴木知事挨拶



海女との交流



伊勢音頭実演



鳥羽九鬼水軍太鼓保存会による太鼓演奏*

真珠採取体験は、県水産研究所が養殖したアコヤ貝を用い、ミキモト真珠島社員及び県水産研究所職員の指導により行われた。取り出した真珠は、記念品として配偶者に贈られた。

その後の休憩時に、県内の障がい者が作った、シフォンケーキ（はあぶ工房together）と伊賀の飛猿サブレ（維雅幸育会ふっくりあモンマール）を提供した。

休憩後は屋外に移動し、海女との交流、鳥羽九鬼水軍太鼓保存会による太鼓演奏、伊勢音頭実演が行われた。

海女との交流では、鳥羽市及び志摩市の海女一人一人と握手をしながら言葉を交わした後、海女代表者と海女の仕事の大変さや自然との共生等についての対話が行われた。

また、伊勢音頭実演では、伊勢音頭保存会と伊勢市の小中学生「伊勢っ子」がそれぞれ踊りを披露した後、配偶者も加わり一緒に輪になって、参加者全員が伊勢音頭を踊った。

日 時	5月26日(木) 14:35-16:20
参加者	<ul style="list-style-type: none"> ・日本、ドイツ、カナダ首相及び欧州理事会議長の配偶者 ・海女85名、伊勢音頭保存会18名、伊勢っ子23名、鳥羽九鬼水軍太鼓保存会8名、真珠採取指導者5名、鳥羽市女将団体9名及び外国語案内ボランティア5名 ・地元市町（鳥羽市、志摩市、伊勢市、南伊勢町）の各首長 ・鈴木知事

【記念植樹】

伊勢志摩サミット三重県民会議の主催により、志摩観光ホテル内の庭園において、記念植樹を行った。

植栽樹には、様々な課題に連携して対峙していかなければならないサミットにおいて、友好を象徴する樹としてふさわしく、また古くから日本人に愛されてきた樹種である桜（ヤマザクラ）を選定した。



鈴木知事による案内



志摩市立神明小学校代表挨拶



記念植樹



記念撮影

記念植樹では、主催者代表として鈴木知事による歓迎の挨拶の後、地元の志摩市立神明小学校の代表による挨拶、続いて、参加配偶者、大口志摩市長及び鈴木知事が、神明小学校児童のサポートにより記念植樹を行った。

なお、植樹された3本のヤマザクラは、それぞれ横山展望台、登茂山展望台及び志摩観光ホテルに移植され、今後、地域の財産として大切に育てていくこととなった。

日時	5月26日(木) 17:10-17:20
参加者	<ul style="list-style-type: none"> ・日本、ドイツ首相及び欧州理事会議長の配偶者 ・志摩市立神明小学校児童(9名) ・大口志摩市長 ・鈴木知事

【総理夫人主催夕食会】

夕食会では、過去に全日本学生音楽コンクールで1位になった、津市在住の中学生である巽千夏さんがバイオリン演奏を披露した。

【国際メディアセンター政府広報展示スペース視察】

国際メディアセンターアネックス入口にて鈴木知事夫妻等による出迎えの後、視察が行われ、四輪駆動の電動車椅子に試乗するなどした。



総理夫人主催夕食会



電動車椅子試乗

【三重情報館視察】

鈴木知事夫妻の案内により、国際メディアセンター内の三重情報館において、映像も交えた海女の説明、伊賀くみひもの実演視察、伊勢茶の手もみ実演視察と氷出しのお茶の提供、フリクションペンの説明、仮想試着の体験、観光情報等をスマートフォンやタブレット等で持ち帰ることができる装置「PONTANA(ポインタナ)」の体験が行われた。

訪問日時	5月27日(金) 11:10-11:20
参加者	<ul style="list-style-type: none"> ・日本、カナダ首相及び欧州理事会議長の配偶者 ・三重県組紐協同組合1名、三重県手もみ茶技術伝承保存会2名 ・三重情報館コンテンツ選定委員 生駒芳子氏 ・鈴木知事、知事夫人



鈴木知事による挨拶



伊賀くみひもの実演視察

【パラスポーツ視察】

ボッチャ、車椅子バスケットボールを視察し、その後、伊勢市等の子どもたちとともに、ブラインドサッカー体験を行った。

【竹あかり制作ワークショップ】

熊本を拠点に活動する竹あかり演出グループ「ちかけん」の企画により、鈴木知事夫妻等も参加し、三重県産の竹を使用して伊勢形紙のデザインを用いた竹あかりの制作を行った。



ブラインドサッカー体験



竹あかり制作

〔配偶者プログラムの写真：外務省提供（※を除く）〕

サミット裏話・こぼれ話 ～総理夫人主催の昼食会・英語でのおもてなし～

配偶者プログラムのうち、26日の昼食は安倍昭恵総理夫人主催により、相可高等学校の生徒の皆さんが心をこめたおもてなしを行いました。

生徒たちは、実は歓迎の挨拶やメニュー紹介、給仕の言葉のやり取りを全て英語で行っています。料理に比べると、英語は彼らにとって得意ではなかったかもしれませんが、自分たちで言葉を考え、何度も練習を重ねることで、配偶者の方々にはしっかり思いを伝えることができました。

伊勢志摩サミットをきっかけに、三重県を訪れる外国人の方も多くなることでしょう。外国語でのコミュニケーションは勇気のいることかもしれませんが、おもてなしの心があれば、きっと相手に伝わると思います。

第2編 サミット開催に向けて

第1章 誘致

1 経緯

サミットは、毎年各国の持ち回りで開催され、平成28年には日本での開催が予定されていた。外務省から、首脳会議及び関係閣僚会合の開催地が公募される中、三重県においては、平成26年8月20日（水）に、関係閣僚会合の開催地として誘致を表明した。ただし、首脳会議については、地元負担も含めて財政スキームが明らかになった段階での誘致を留保したものであった。

三重県以外では、仙台市、新潟市、浜松市、長野県軽井沢町、名古屋市、神戸市、広島市が首脳会議の誘致を、また、北海道・札幌市、茨城県・つくば市、静岡県・静岡市、京都市、香川県、大分県、熊本県、宮崎県が関係閣僚会合の誘致をしていると報道されていた。

2 誘致決定

平成26年8月20日（水）に関係閣僚会合の誘致を表明して以降、円安の進行などにより訪日外国人観光客が増加の勢いを増している中、国内外に情報発信する絶好の機会であると判断したこと、地方創生が最重要課題とされ、「まち・ひと・しごと」の創生に向けた交付金の創設等、地方一般財源の充実が見込まれること、県内市町から首脳会議を誘致して資源をPRしたいとの意向や、経済界や県民の皆さんから首脳会議の誘致をしてほしいとの声を多く受けたことから、平成27年1月21日（水）に首脳会議の誘致を表明した。

3 三重県の提案内容

サミットの誘致にあたっては、「『日本人の心のふるさと』『里海』のある『聖地 伊勢志摩』から『共生』『成長』のメッセージを世界に発信」することをテーマに、次の点をアピールした。

(1) 多様な世界観の共存による世界平和を発信

- ・日本人は、伊勢参宮を通じて人々が支え合って生きていくことを学んできた。テロ行為には断固とした措置は当然としつつ、今こそ、他者を受け入れ共に生きるという、世界平和の実現のメッセージを伊勢志摩の地から発信

(2) 環境と産業の両立、自然と成長の調和を発信

- ・伊勢神宮から広がる森・山・海と独自の生活様式が融合した景観を1300年以上継承しており、平成28年は、伊勢志摩国立公園指定70周年
- ・三重県は公害に立ち向かってきた経験を持ち、高度な環境技術を世界に移転する拠点（ICETT）の設立地
- ・世界需要の4割を供給する「NAND型フラッシュメモリ」や「MRJ」の生産拠点を有し、EVや水素エネルギーの先進的取組も推進する「技術のショールーム」であり、「2025年までの都道府県別成長率予測」No.1（民間発表）

(3) リトリート方式を実践・海洋リゾートの一体感とリラックスできる雰囲気の中で

- ・会場として想定する志摩観光ホテルクラシックは、戦後初の純洋式リゾートホテルで、小説「華麗なる一族」の舞台となった日本を代表するホテル
- ・首脳の前泊地として想定するベイスイートは、全室が100㎡以上の日本屈指の快適さを誇るスイートルームで、部屋から見える英虞湾に沈む夕日は絶景
- ・近年の高原リゾートでの開催と差別化した「おもてなし」になり、日本の観光地のプレゼンス向上

(4) 日本を代表する豊富な歴史・伝統文化

- ・日本の原風景とも言える田園が広がる「伊勢平野」、400年以上にわたって守られてきた「丸山千枚田」は地域の人々の知恵と努力の結晶
- ・世界でも有数の景観を有する伊勢志摩地域のリアス式海岸、かつて朝廷に海の幸を献上してきた「御食国（みけつくに）」として、今でも豊富な海産資源を提供
- ・世界遺産「熊野古道」は伊勢と熊野を結ぶ祈りの道、シーボルトが持ち帰り西欧デザインに影響を与えた「伊勢形紙」
- ・日本人の世界観・価値観を探求した「本居宣長」、俳聖「松尾芭蕉」、日米友好の礎を築いた「尾崎行雄」、真珠養殖を世界で初めて成功させた「御木本幸吉」、「伊賀流忍者」を生み出した地

4 2016年みえ伊勢志摩サミット誘致推進協議会

平成26年10月30日（木）に平成28年開催予定の主要国首脳会議（サミット）関係閣僚会合の誘致について、オール三重県で誘致活動を展開していくため官民一体の組織として「2016年みえ伊勢志摩サミット関係閣僚会合誘致推進協議会」を設立し、設立総会を開催した。

その後、首脳会議の誘致表明に伴い、名称を「2016年みえ伊勢志摩サミット誘致推進協議会」に改め、要望活動を展開した。



2016年みえ伊勢志摩サミット関係閣僚会合誘致推進協議会設立総会

5 国による事前調査

三重県の提案を受け、平成27年1月までに、外務省及び警察庁が三重県を訪れ、提案内容に基づく関係施設等の現地視察が行われた。



国による事前調査

6 知事等による要望活動

平成27年3月10日（火）、2016年みえ伊勢志摩サミット誘致推進協議会の会長である三重県知事、構成団体である志摩市商工会会長、志摩市観光協会会長等が上京し、本県の誘致のポイントを菅内閣官房長官、岸田外務大臣、加藤内閣官房副長官、世耕内閣官房副長官に説明し、要望書を手渡した。

知事からは、三重県のアピールポイントとして、伊勢志摩地域には他者や多様な価値観を受け入れる精神性があり、平和を発信できるメッセージ性があることや、環境と産業の両立や自然と成長の調和が取れている地域であることなど、安倍総理がホストとして開催するサミットにふさわしい地域であることを力強くアピールした。



菅内閣官房長官への要望書



岸田外務大臣への要望書

7 議会の決議

三重県議会においては、全議員が「2016年みえ伊勢志摩サミット誘致推進協議会」顧問に就任したほか、平成27年第1回定例会での議論を経て、3月17日（火）に「2016年主要国首脳会議の三重県開催を求める決議案」が提出され、全会一致で可決された。

このほか、伊勢市議会、桑名市議会、南伊勢町議会、菰野町議会、亀山市議会、志摩市議会、鳥羽市議会、四日市市議会、玉城町議会においても同趣旨の決議がなされた。

8 開催決定

安倍総理がエルマウ・サミットに出発する平成27年6月5日（金）の夕方、安倍総理から鈴木知事に直接電話が入り、三重県での開催決定が伝えられた。安倍総理は、空港で記者団に対し、「伊勢志摩サミット」の開催決定を発表した。

この後、鈴木知事は臨時記者会見を開き、今後の取組への決意とこれまでの謝意を述べた。

なお、名称については、後日、文書で「みえ伊勢志摩サミット」にしてほしいと県から外務省に要望したが、かなわなかった。



開催決定の発表を受けての知事会見

9 開催日の決定

平成27年6月23日（火）、菅内閣官房長官が記者会見において、伊勢志摩サミットの開催日を、平成28年5月26日（木）、27日（金）と発表した。サミット開催まで、すでに1年を切る状況であった。

10 海外開催地視察

(1) ドーヴィル

平成27年3月26日（木）、27日（金）、三重県としての取組の参考とするために、2011年にサミットが開催されたフランスのドーヴィルを事務レベルで訪れ、当地の自治体やコンベンションセンターの担当者と意見交換を行うなど、様々な情報収集を行った。



首脳が宿泊したホテル・ノルマンディ・バリエール



首脳会議場となったドーヴィル国際会議場

(2) エルマウ・サミット視察

サミット開催時の現地の様子を把握するため、事務レベルでドイツのエルマウを訪問した。

三重県での開催が決まった翌日の6月6日（土）から6月10日（水）にかけて、エルマウ・サミットの現地視察を行った。

公使や総領事等から助言を受けるとともに、ミュンヘン、ガルミッシュ・パルテンキルフェン、エルマウ、ミッテンヴァルトを視察し、市内の状況や規制の状況などを確認した。



首脳会議場となったエルマウ城



メディアセンター

(3) ロック・アーン

サミットの開催地決定以前から計画されていた三重県知事の欧州訪問の機会を活用し、平成27年7月5日（日）に2013年のロック・アーン・サミットの開催地となった北アイルランドを訪問した。

サミット開催時に首脳が宿泊し会議場ともなったロック・アーンリゾート（ホテル）を中心に周辺施設等も合わせて視察し、当時の担当者等からサミット開催時の状況などを聞くことができた。ホテルは湖に囲まれた風光明媚な立地にあるなど、伊勢志摩と共通する点もあり、地元食材の活用、開催地を含む広域での観光振興など現地を訪問しなければ分からない有益な情報を得ることができた。



ロック・アーンリゾートで説明を受ける鈴木知事

11 国内開催地視察

(1) 北海道視察

サミット開催決定を受けて、県としての取組の参考とするため、鈴木知事が平成27年7月26日（日）、27日（月）に、日本での前回のサミット開催地である北海道を訪問し、高橋はるみ知事、サミット時に洞爺湖町長であった真屋敏春氏、北海道経済連合会副会長の山本邦彦氏及び常務理事の浜田剛一氏と面談し、サミットを経験された方々から、現場での生の声など、有益な情報を伺った。また、外務省の現地事務所であった北海道洞爺湖サミット記念館、首脳会議場として使用されたザ・ウィンザーホテル洞爺、国際メディアセンターであったルスツリゾートを視察した。



高橋知事との面談

(2) 沖縄県視察

サミット開催決定を受けて、県としての取組の参考とするため、前々回日本でサミットが開催された沖縄県を平成27年9月10日（木）から11日（金）に、事務レベルで訪問・視察し、情報収集を行った。

九州・沖縄サミット時に首脳会議場として使用された万国津梁館、開催時の森総理をはじめとした日本の関係者の宿泊場所であったブセナテラスなどで、サミット開催時の業務に従事された方と面談し、準備の進め方等について貴重なアドバイスを受けた。



首脳会議場として使用された万国津梁館

第2章 体制

1 県庁内の推進体制

(1) 伊勢志摩サミット推進局

平成27年6月5日（金）に、三重県でのサミット開催が決定したことを受け、6月8日（月）付けて、「みえ伊勢志摩サミット推進局」を雇用経済部内に設置し、局長（部長級）をはじめとした16名の職員を配置した。

6月24日（水）には人事異動により、県職員12名を加増するとともに、警察2名、市町4名の職員を受け入れ、7月15日（水）には民間企業から9名が派遣された。

業務の増加にあわせて順次増員し、サミット開催時には兼務発令された県職員及び現地業務の動員も含め、総勢100名の体制で業務を遂行した。なお、8月1日（土）に内閣官房へ1名、9月1日（火）と10月1日（木）に外務省へ1名ずつ計2名の職員を派遣し、国との連携強化や調整に当たった。

当初、みえ伊勢志摩サミット推進局は、県庁8階の雇用経済部内と7階の旧サーバー室で執務していたが、その後大幅な人員増が見込まれたことから、7月15日（水）からは、庁外の民間ビルの一部を借り上げ執務室として使用するとともに、推進局の名称も「伊勢志摩サミット推進局」と改称した。

【職員数の推移（平成28年10月時点）】

年度	月日	県			企業	市町	国	計
		専任	兼務	動員				
H27	6月8日	16						16
	6月24日	30				4		34
	7月15日	30			9	4		43
	8月1日	34			14	5		53
	8月20日	34			14	5	1	54
	8月21日	34			16	5	1	56
	9月1日	35			16	5	2	58
	10月1日	35			19	5	2	61
	11月1日	37			19	5	4	65
	12月1日	37			20	5	4	66
	12月24日	37		1	20	5	4	67
	1月19日	37		2	20	5	4	68
	2月1日	37		2	20	7	4	70
H28	4月1日	38		2	20	7	4	71
	4月15日	38		12	20	7	4	81
	5月1日	38		12	20	5	4	79
	5月9日	38		21	20	5	4	88
	5月21日～28日	38		21	12 (50)	20	5	100
	6月1日	38		1	20	5	4	68
	6月6日	36		1	20	5	2	64
	6月11日	36			20	5	2	63
	7月1日	21						21
10月1日	16						16	

(2) サミット期間中の体制

サミット期間中においては、危機管理や報道対応のための情報収集等様々な業務を円滑に実施するために現地事務所を設置するとともに、首脳による記念植樹や配偶者プログラム等の開催支援のため現地に職員を配置した。

また、期間中の情報伝達については、既存の三重県伊勢志摩サミット推進本部（詳細は次ページ）の枠組みを活用するとともに、志摩現地事務所へ情報を集約し、各部局等のリエゾン（連絡要員）を活用した連絡調整を図り、サミットの円滑な開催に向けて支援を行った。

また、外務省現地危機対策室へ職員を派遣し、サミットの進捗状況等現地での情報収集に努めた。

①各部局からの職員の応援

開催に向けた準備と期間中の対応のため、業務の進捗にあわせ、平成28年4月15日（金）と5月9日（月）の2回に分け、5月31日（火）までを兼務期間として19名が増員された。

また、5月21日（土）から28日（土）までの8日間には、外務省が担当する業務への応援者50名と、インフォメーションセンターに配置される外国語案内ボランティアの運営支援等の業務に対応するため、12名の動員を行った（業務内容等により、応援及び動員の期間は5月21日（土）から28日（土）の間で最短2日間から、最長6日間まで様々であった）。

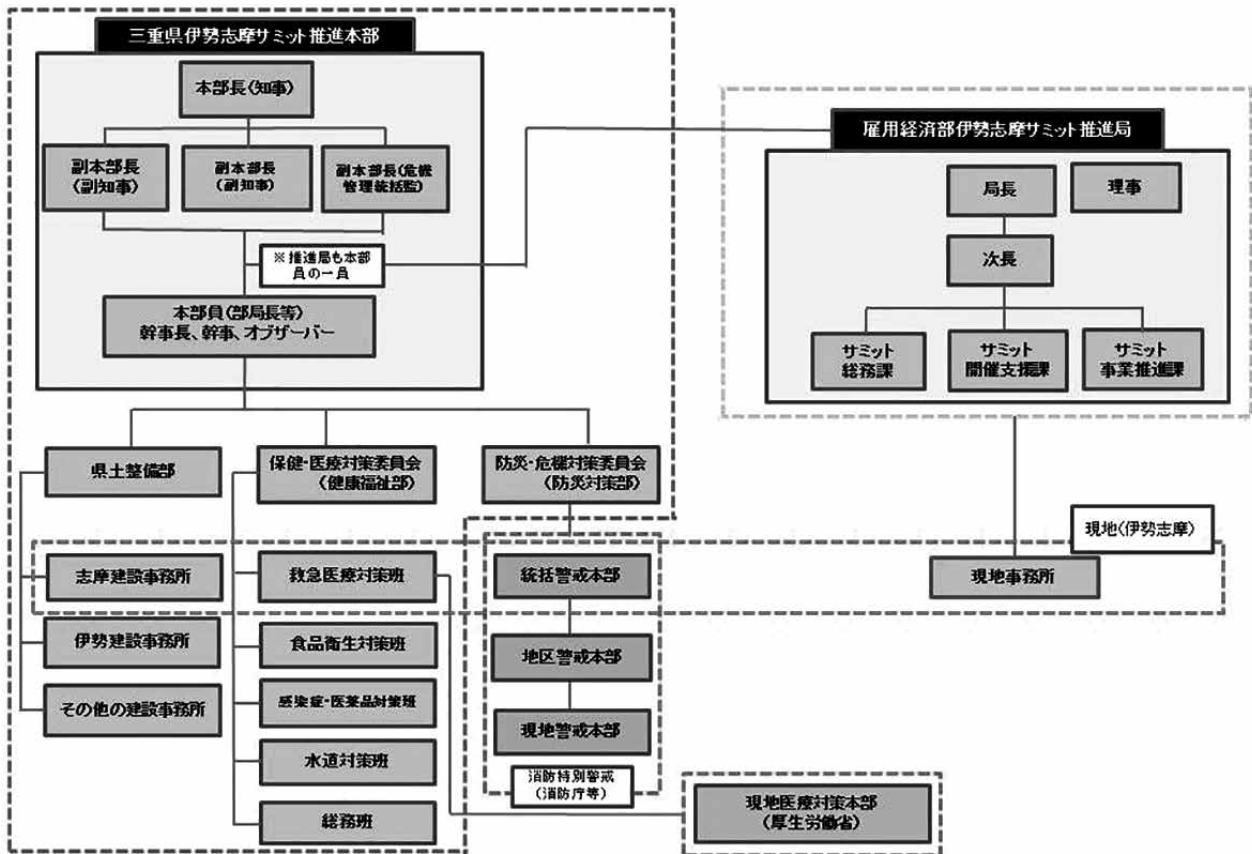
②現地事務所の設置

サミット期間中の危機管理や円滑な業務運営のため、志摩市と伊勢市に現地事務所を設置するとともに、国際メディアセンターにも伊勢志摩サミット推進局職員及び各部局からの応援職員を配置し、取組を推進した。

現地事務所の設営にあたっては、県地域庁舎の会議室を使用したため、県庁のネットワーク環境を利用することができたほか、コピー、ファクスは協賛品を活用することができ、短期間の使用ではあるものの、費用を抑えながら従来の執務室と同程度の環境を作ることができた。

地域	設置場所	業務内容
志摩	県志摩庁舎会議室	危機管理、各種情報収集、情報共有
伊勢	県伊勢庁舎会議室	報道対応資料作成
	国際メディアセンター	三重情報館の運営、インフォメーションカウンター運営、おもてなしバッグ配布

伊勢志摩サミット開催時の体制



(3) 三重県伊勢志摩サミット推進本部

県庁内ではみえ伊勢志摩サミット推進局（平成27年7月15日に「伊勢志摩サミット推進局」に改称）を設置したが、サミット開催に向けた準備にあたっては、企業庁・病院事業庁・教育委員会事務局・県警察本部を含む、全庁横断的な推進体制の構築が不可欠であったことから、平成27年6月26日（金）、知事を本部長、副知事と危機管理統括監を副本部長とする「みえ伊勢志摩サミット推進本部（7月15日に「三重県伊勢志摩サミット推進本部」に改称）を設置した。推進本部の所掌事項は、①サミットの円滑な実施を図るための総合調整に関すること、②その他サミットの推進に必要な事項に関することとした。

<三重県伊勢志摩サミット推進本部の構成員>

防災対策部長、戦略企画部長、総務部長、健康福祉部長、健康福祉部医療対策局長、健康福祉部子ども・家庭局長、環境生活部長、環境生活部廃棄物対策局長、地域連携部長、地域連携部スポーツ推進局長、地域連携部南部地域活性化局長、農林水産部長、雇用経済部長、雇用経済部観光局長、雇用経済部伊勢志摩サミット推進局長、雇用経済部伊勢志摩サミット推進局理事、県土整備部長、会計管理者兼出納局長、企業庁長、病院事業庁長、教育長、警察本部長、東京事務所長、関西事務所長

推進本部には、各部局総務課長等で構成する幹事会を設置した。幹事会は、推進本部に提案する事項、各部局等の所掌事項について相互に調整する事項を所掌することになり、サミットの準備に関する事務的な調整を行った。さらに、平成27年7月14日（火）には、防災対策部が「防災・危機対策委員会」、健康福祉部が「保健・医療対策委員会」をそれぞれ設置した。



平成27年度第1回推進本部会議

【開催状況（平成28年9月時点）】

平成27年6月26日（金）平成27年度第1回推進本部会議

- ・推進本部の設置について
- ・サミット開催地の視察報告について

7月9日（木）平成27年度第1回幹事会

- ・各部局における諸課題の検討状況
- ・現状報告（情報共有）

7月14日（火）平成27年度第2回推進本部会議

- ・委員会の設置について
- ・現状報告（情報共有）

8月3日（月）平成27年度第2回幹事会

8月7日（金）平成27年度第3回推進本部会議

- ・2008年北海道洞爺湖サミット視察結果について
- ・サミット開催に向けた取組について ほか

8月20日（木）平成27年度第3回幹事会

- ・県民会議事業の概要について
- ・9月補正予算におけるサミット関連予算の状況について
- ・各部局の取組状況等について ほか

9月4日（金）平成27年度第4回幹事会

9月9日（水）平成27年度第4回推進本部会議

- ・各取組の報告について ほか

9月17日（木）平成27年度第5回幹事会

9月25日（金）平成27年度第5回推進本部会議

- ・県産食材等の利用促進に向けた取組について
- ・東海三県一市知事市長会議の報告について ほか

10月15日（木）平成27年度第6回幹事会

10月22日（木）平成27年度第6回推進本部会議

- ・伊勢志摩サミット三重県民会議シンボルマークの決定について
- ・伊勢志摩サミットに係る外務省飯倉公館におけるセミナー及びレセプションの開催について
- ・200日前ウィークに向けた取組について ほか

11月10日（火）平成27年度第7回幹事会

11月13日（金）平成27年度第7回推進本部会議

- ・各委員会、各部局からの報告 ・住民懇話会の開催について
- ・国際理解・国際交流プログラム等について
- ・東京での駐日外交団、プレス等に対する情報発信について
- ・県民会議主催のプレスツアーについて
- ・ジュニア・サミットの三重県開催の決定について ほか

11月19日（木）平成27年度第8回幹事会

- ・サミット関連予算の全体像について ほか

12月16日（水）平成27年度第9回幹事会

12月24日（木）平成27年度第8回推進本部会議

- ・ジュニア・サミット体験・交流プラン等の提案について
- ・「伊勢志摩サミット三重県民会議」会員の追加について
- ・クラウドファンディングの活用開始について
- ・県民会議 収支予算（平成27・28年度）の考え方について
- ・伊勢志摩サミット宿泊予約センターについて ・弁当供給体制の整備について
- ・伊勢志摩サミット開催150日前イベントについて ほか

平成28年1月6日（水）平成27年度第10回幹事会

- ・伊勢志摩サミット開催に向けた県民会議事務局におけるテロ対策について ほか

1月21日（木）平成27年度第11回幹事会

1月27日（水）平成27年度第9回推進本部会議

- ・開催100日前ウィークイベントについて
- ・三重県情報館（仮称）コンテンツ選定委員会の開催結果について
- ・宿泊施設の状況について ・住民懇話会の開催について
- ・伊勢志摩サミット・関係閣僚会合開催自治体の連携について ほか

2月3日（水）平成27年度第12回幹事会

- ・開催100日前ウィークイベントについて ・海外への情報発信について
- ・伊勢志摩サミット東海三県一市との連携について
- ・伊勢志摩サミット・関係閣僚会合開催自治体の連携について ほか

2月10日（水）平成27年度第13回幹事会

2月17日（水）平成27年度第10回推進本部会議

- ・各国首脳等と県民との交流について ・各国先遣隊夕食会について
- ・海外への情報発信について ・伊勢志摩サミットに係る経済効果の試算について

・「おもてなし大作戦」キックオフイベントの開催結果について ほか

3月7日（月）平成27年度第14回幹事会

3月16日（水）平成27年度第11回推進本部会議

- ・ジュニア・サミットについて ・開催50日前ウィークイベントについて
- ・三重県情報館（仮称）について
- ・伊勢志摩サミット・関係閣僚会合開催自治体代表者での総理大臣官邸訪問について
- ・伊勢志摩サミットにおける交通総量抑制対策について ほか

3月24日（木）平成27年度第15回幹事会

- ・小型無人機（通称ドローン）の飛行規制について
- ・伊勢志摩サミットにおける交通総量抑制対策について
- ・三重のおもてなしバックについて ・ジュニア・サミットについて
- ・国際メディアセンター（IMC）アネックス（三重県情報館（仮称）を含む）のサミット終了後の公開についてほか

4月8日（金）平成28年度第1回幹事会

4月14日（木）平成28年度第1回推進本部会議

- ・伊勢志摩サミットにおける三重県の交通総量抑制対策に係る取組について
- ・小型無人機（通称ドローン）の飛行規制について ・住民懇話会の開催について
- ・G7広島外相会合視察の概要について ほか

4月22日（金）平成28年度第2回幹事会

- ・伊勢志摩サミット開催直前の全庁応援について

5月12日（木）平成28年度第3回幹事会

5月17日（火）平成28年度第2回推進本部会議

- ・公式行事等について ・国際メディアセンターについて
- ・ジュニア・サミットの開催結果について ・国際理解・国際交流について
- ・サミット開催に伴う住民への影響について
- ・サミット終了時の県民等へのメッセージ発信について ほか

5月31日（火）平成28年度第4回幹事会

6月2日（木）平成28年度第3回推進本部会議

- ・伊勢志摩サミット開催報告（速報）について ・各委員会からの報告
- ・伊勢志摩サミット終了後の取組について

8月1日（月）平成28年度第5回幹事会

8月4日（木）平成28年度第4回推進本部会議

- ・伊勢志摩サミットに係る「職員向け説明会」の開催について ほか

9月5日（月）平成28年度第6回幹事会

- ・伊勢志摩サミットについて（経済効果 ほか）

9月20日（火）平成28年度第7回幹事会

9月27日（火）平成28年度第5回推進本部会議

- ・「2016大学生国際会議in三重」について

- ・伊勢志摩サミット三重県民宣言（仮称）について ほか

2 伊勢志摩サミット三重県民会議

（1） 設立の経緯

平成28年に三重県で開催されるサミットの成功をめざし、官民一体となった三重県全体の受け入れ体制を確立するとともに、併せて関連する事業に取り組むため、平成27年6月26日（金）、県内の産業・経済、観光、教育、文化、国際交流等の114団体（開催時140団体）が官民による「伊勢志摩サミット三重県民会議」を設立した。



県民会議設立総会

（2） 組織体制

①総会・役員会・部会

県民会議の行う事業は、①サミット開催に対する支援、協力及び受入れに向けた準備の推進に関する事、②サミット関連事業の企画及び実施に関する事、③サミット開催に関する広報・啓発及び三重県の情報発信に関する事とし、その基本方針や決算等を決議する「総会」、事業計画や予算、県民会議の運営に関する事等を決議する「役員会」を設置した。

【県民会議の役員】

会 長	三重県知事
副 会 長	志摩市長 三重県議会議長 三重県商工会議所連合会会長 公益社団法人 三重県観光連盟会長
理 事	三重県商工会連合会会長 三重県中小企業団体中央会会長 三重県農業協同組合中央会会長 三重県漁業協同組合連合会代表理事会長 三重県木材協同組合連合会理事長 公益社団法人 伊勢志摩観光コンベンション機構会長 三重県旅館ホテル生活衛生同業組合理事長 一般社団法人 全国旅行業協会 三重県支部長 近鉄グループホールディングス株式会社取締役社長 三重交通グループホールディングス株式会社代表取締役社長 公益財団法人 三重県国際交流財団理事長 三重県ボランティア連絡協議会会長 三重県市長会会長 三重県町村会会長 伊勢市長 鳥羽市長 南伊勢町長
監 事	三重県商工会連合会事務局長 三重県会計管理者兼出納局長

また、必要に応じ県民会議に「部会」を設置することができるものとし、平成27年7月27日（月）、県民会議の運営全般に関することや収支計画に関することを扱う「企画運営部会」、事業の企画・立案に関することを扱う「事業推進部会」を設置した。

企画運営部会は、三重県商工会議所連合会専務理事を部会長とし、産業・経済関係、宿泊・観光関係、交通・運輸関係、教育関係、環境・市民・文化・国際交流関係等の21団体で構成し、事業推進部会は、公益社団法人三重県観光連盟専務理事を部会長とし、同じく26団体で構成した。

これら総会等の会議は、県民会議の設立以降、サミット閉幕時点までに、総会3回、役員会4回、部会延べ14回を開催し、関連事業の企画・実施等の推進にあたった。

また、三重県の情報発信拠点として設置する三重情報館について、三重県の魅力を効果的に国内外に発信するためのコンテンツを選定するため、事業推進部会には、「コンテンツ選定委員会」を設置し、三重情報館における展示品の募集・選定及びその基準の策定に関する検討を進めた。



第3回役員会

【県民会議各種会議の開催状況（平成28年9月時点）】

- 平成27年6月26日（金） 設立総会、第1回総会、第1回役員会
- 7月27日（月） 第1回企画運営部会・事業推進部会
- 8月19日（水） 第2回企画運営部会・事業推進部会
- 9月14日（月） 第3回企画運営部会・事業推進部会
- 9月16日（水） 第2回役員会
- 10月13日（火） 第2回総会
- 11月20日（金） 第4回企画運営部会・事業推進部会
- 12月15日（火） 第5回企画運営部会・事業推進部会
- 12月18日（金） 第3回役員会
- 平成28年2月2日（火） 第6回企画運営部会・事業推進部会
- 2月17日（水） 第4回役員会
- 3月29日（火） 第3回総会
- 5月12日（木） 第7回企画運営部会・事業推進部会
- 6月20日（月） 第8回企画運営部会・結果報告会
- 8月30日（火） 第9回企画運営部会

②事務局

県民会議の事務局は、三重県雇用経済部伊勢志摩サミット推進局内に置かれ、事務総長のもと、副事務総長、事務局長、3課で構成された。

事務局には、民間企業・国・市町からも職員が派遣され、官民一体での運営を行った。

【県民会議事務局への職員派遣を行った企業・団体一覧】 ※五十音順で記載

イオンリテール株式会社	1名	株式会社NTTドコモ	1名
近鉄グループホールディングス株式会社	3名	J Aグループ三重	2名
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	1名	株式会社第三銀行	1名
中部電力株式会社	1名	株式会社電通	1名
西日本電信電話株式会社	1名	日本通運株式会社	1名
株式会社博報堂	1名	株式会社百五銀行	2名
マックスバリュ中部株式会社	1名	株式会社三重銀行	1名
三重交通グループホールディングス株式会社	2名		計15社20名

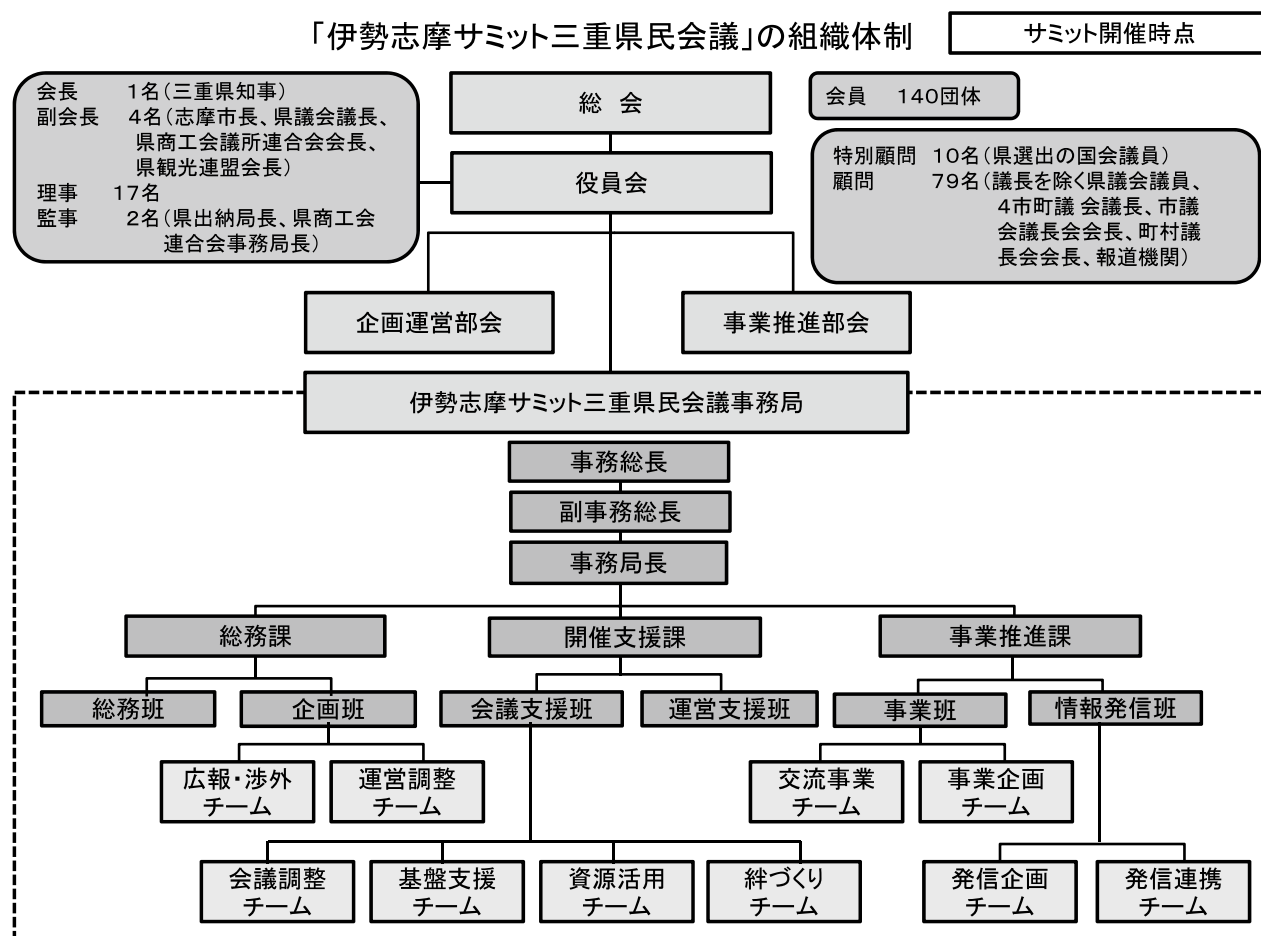
【国】

環境省1名 経済産業省1名 外務省1名 財務省東海財務局1名 計4名

【市町】

伊勢市1名 鳥羽市1名 志摩市2名 南伊勢町1名 桑名市2名 計7名

③組織体制図



3 伊勢志摩サミット国関係機関連絡会議

三重県内を管轄する国関係機関と三重県が緊密に連携し、情報共有することで、伊勢志摩サミット開催に向けた準備を進めるため、伊勢志摩サミット国関係機関連絡会議を設置した。

【第1回会議】

①実施日時・場所

平成27年7月29日(水) 14時から15時まで
三重県教育文化会館本館3階「第5会議室」

②出席機関

32機関58名

③議題

- ア 伊勢志摩サミットについて
(外務省大臣官房伊勢志摩サミット・広島外相会合準備事務局総括次長)
- イ 伊勢志摩サミットに係るこれまでの経過と今後の取組について
(三重県雇用経済部伊勢志摩サミット推進局サミット開催支援課長)

- ウ 県及び市町の推進体制並びに県民会議事業実施基本方針について
(三重県雇用経済部伊勢志摩サミット推進局サミット開催支援課長)
- エ 伊勢志摩サミット県民会議事業計画(素案)及び宿泊予約センターについて
(三重県雇用経済部伊勢志摩サミット推進局サミット開催支援課長)
- オ 質疑応答

④その他

以下の各機関から、伊勢志摩サミットに向けた取組について発表があった。

東海財務局 名古屋税関 中部運輸局 津地方気象台
第四管区海上保安本部 中部地方環境事務所



会議の様子

【第2回会議】

①実施日時・場所

平成27年11月16日(月)14時40分から15時40分まで
三重県勤労者福祉会館6階「講堂」

②出席機関

36機関45名

※第1回会議は、伊勢志摩サミット業務に従事する事務担当者レベルの会議としたが、第2回会議は、
国関係機関連絡会議参加機関の長を対象としたため、鈴木三重県知事も出席した。

③議題

- ア 伊勢志摩サミットについて
(外務省大臣官房伊勢志摩サミット・広島外相会合準備事務局長)
- イ 伊勢志摩サミットに係るこれまでの経過と今後の取組について
(三重県雇用経済部伊勢志摩サミット推進局長)
- ウ 伊勢志摩サミットに係る国関係機関の取組について
東海総合通信局 中部公安調査局 東海財務局 中部経済産業局
中部運輸局 中部地方整備局 第四管区海上保安本部

【第3回会議】

①実施日時・場所

平成28年3月14日(月)14時30分から16時まで

三重県勤労者福祉会館6階「講堂」

②出席機関

34機関52名

③議題

- ア 伊勢志摩サミット開催に係る外務省の準備状況について
(外務省大臣官房伊勢志摩サミット・広島外相会合準備事務局総務班長)
- イ 伊勢志摩サミットに係るこれまでの経過と今後の取組について
(三重県雇用経済部伊勢志摩サミット推進局サミット開催支援課長)
- ウ 伊勢志摩サミットに係る国関係機関の取組について
東海総合通信局 名古屋入国管理局 名古屋税関 中部地方整備局
第四管区海上保安本部



会議の様子

4 伊勢志摩サミット市町連絡調整会議

サミット開催に向けて、県内市町と連携し、万全の体制で準備を進めていくことを目的として「伊勢志摩サミット市町連絡調整会議」を開催した。

【構成市町】

県内全29市町

【開催状況】

第1回 平成27年7月14日(火)

〔議題〕

- 伊勢志摩サミットの推進体制について
- 県内市町の推進体制について
- 伊勢志摩サミット開催に係る現在の状況について
- ジュニアサミットについて
- 今後のスケジュールについて ほか

第2回 平成27年8月26日（水）

〔報告〕

県民会議事業の概要について

〔議題〕

県民会議事業に関する連携について

市町の主体事業における検討状況について

その他

ブロック別意見交換会 平成27年10月20日（火）、21日（水）、23日（金）

Aブロック【伊勢市、鳥羽市、志摩市、玉城町、度会町、大紀町、南伊勢町】

Bブロック【津市、松阪市、多気町、明和町、大台町】

Cブロック【尾鷲市、熊野市、紀北町、御浜町、紀宝町】

Dブロック【名張市、伊賀市】

Eブロック【四日市市、桑名市、鈴鹿市、亀山市、いなべ市、木曾岬町、東員町、菰野町、朝日町、川越町】

〔議題〕

200日前イベントについて

花いっぱいおもてなし運動について

クリーンアップ運動について ほか

第3回 平成27年11月26日（木）

〔議題〕

「伊勢志摩サミット三重県民会議」への県内各市町の参画について

インフォメーション機能の整備について

クリーンアップ活動（環境美化・清掃活動）について

花いっぱいおもてなし運動について

ジュニアサミットの三重県開催決定について

三重県情報館（仮称）について

〔報告〕

伊勢志摩サミット三重県民会議事業の概要について

サミットに関連する会議等の設置に係る各市町の状況について ほか

第4回 平成28年2月2日（火）

〔議題〕

100日前ウィークイベント等について

おもてなし大作戦について

第1回三重県情報館（仮称）コンテンツ選定委員会の開催結果について

〔報告〕

伊勢志摩サミット三重県民会議事業の概要について ほか

5 伊勢志摩サミット地域連絡調整会議

サミット開催に向けて、三重県と関係市町（伊勢市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町）とが緊密に連携し、万全の態勢で準備を進めていくことを目的として、6回開催した。

6 国への応援体制（外務省業務への応援）

サミット期間中（5月23日（月）又は24日（火）から27日（金）まで）には、外務省の現地業務への支援のため、50人の職員を派遣した。

【志摩 21名】

- ・各国代表団の車両等への誘導
- ・チェックポイントでの案内、誘導
- ・主会場（志摩観光ホテル）への業者誘導 ほか

【伊勢（国際メディアセンター） 29名】

- ・プレス用シャトルバス案内、誘導
- ・広報スペースにおける案内、連絡
- ・NGOワーキングスペースにおける連絡調整、案内 ほか

第3編 県民会議等の取組

第1章 概要

1 取組の基本的な考え方

伊勢志摩サミット三重県民会議では、「サミットを安全・安心に開催すること」、「サミットに全県的に取り組むこと」、「サミット開催を一過性のものとせず、次世代にサミットの資産を残すこと」の3つをサミットの成功要因とし、伊勢志摩・三重県の知名度向上や国際観光地としてのレベルアップのみならず、地域の総合力の向上につなげることにした。そのため、三重県民会議では、伊勢志摩サミットの成功に向けて、「開催支援」、「おもてなし」、「明日へつなぐ」、「三重の発信」の4つの柱に基づき、様々な取組を展開した。

一つ目の柱の「開催支援」の取組については、宿泊・輸送サービスの円滑な提供やインフォメーション機能の整備、弁当供給体制の整備、警備関係への協力や住民への情報提供など、受入準備に向けて、開催地として最大限の支援・協力を行った。

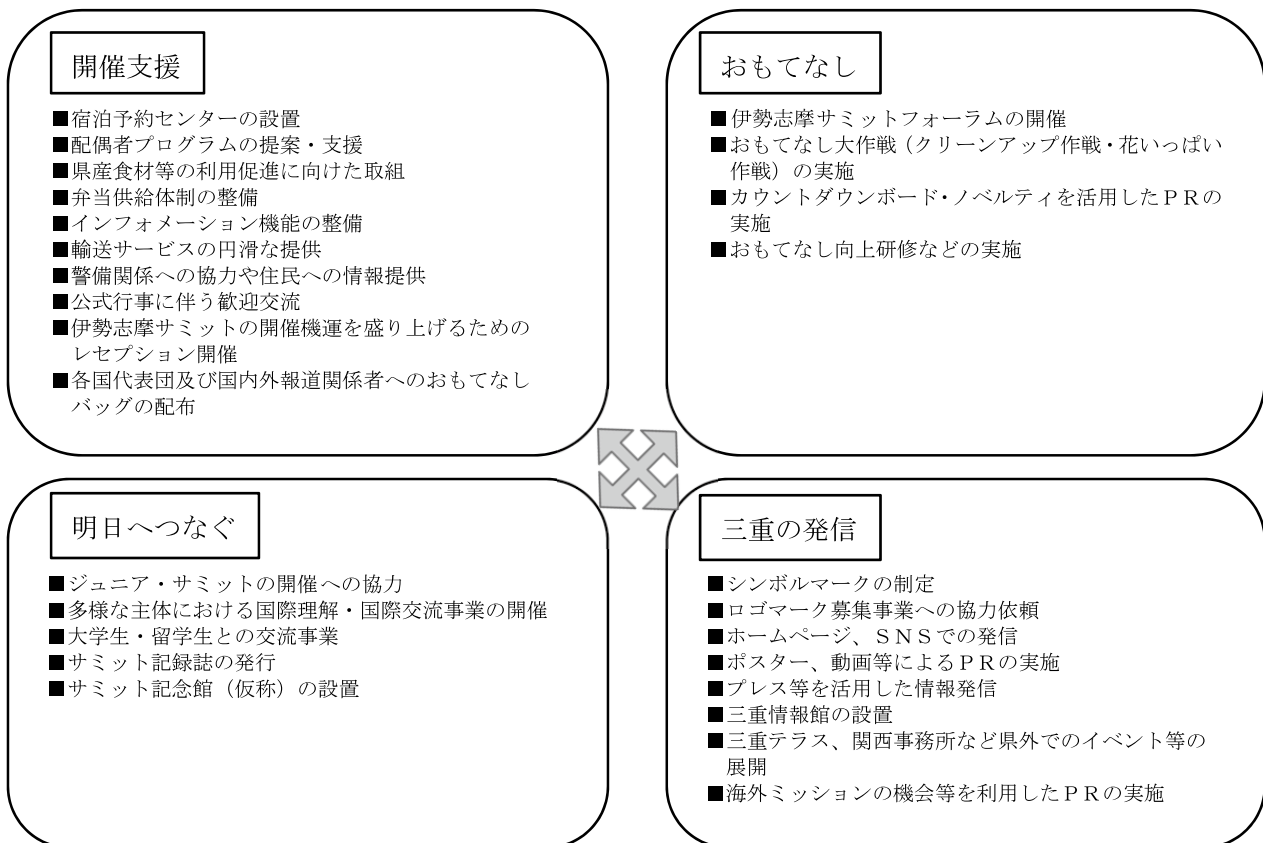
二つ目の柱の「おもてなし」の取組については、「おもてなし大作戦」として「クリーンアップ作戦」や「花いっぱい作戦」の県内各地での実施、伊勢志摩サミットフォーラムの開催、県内外へのカウントダウンボードの設置などの取組を行った。

三つ目の柱の「明日へつなぐ」の取組については、G7各国から中高生等が集まり討議を行うサミット関連行事のジュニア・サミットの開催への協力、国際理解・国際交流プログラムの実施などの次世代を担う若者・子どもの人材育成を行った。

四つ目の柱の「三重の発信」の取組については、三重情報館の設置、海外プレスツアーの実施、県民会議シンボルマークの制定、県民会議公式ポスターの掲出など、三重の魅力の発信を行った。

県民会議の具体的な事業内容においては、①県民会議が主体的に企画・実施する取組（県民会議事業）、②サミットを契機に県や市町が実施する取組や、県・市町・民間団体等と県民会議が連携・協力して実施する取組、③企業・団体・個人における県民会議事業の推進に資する取組（協賛、応援、寄附）を推進することとし、官民を挙げて総合的、一体的にサミット開催の支援に取り組んだ。

伊勢志摩サミット三重県民会議4つの柱に基づく事業展開



2 企業、団体等との協働の推進

(1) 寄 附

伊勢志摩サミット三重県民会議では、サミットという世界最高峰の国際会議が本県で開催されるにあたり、オール三重で一丸となってサミットを成功させ、開催後の地域の活性化につなげるための事業を展開した。これらの事業に県内外の企業、団体、個人と共に取り組むことを目的として、広く協力を求め、寄附を募集した。

寄附金の使途は県民会議が行う事業に資するために活用するものとし、受入の仕組みは、寄附者が税制上の優遇措置を受けられるようにするため、寄附先を三重県とし、三重県から県民会議へ負担金として支出することにした。

寄附の募集は、平成27年8月31日（月）から平成28年5月31日（火）までとし、寄附の募集にあたっては、県内企業や県に関係のある企業等に広く依頼をするとともに、個人からもふるさと応援寄附金（ふるさと納税）の仕組みを活用して広く募集した。

また、個人からの寄附金募集にあたっては、より広く広報し、多くの方からご支援をいただくため、インターネットにより多数の個人から資金を集める手法であるクラウドファンディングを平成27年12月16日（水）から平成28年2月29日（月）まで活用した。

こうした取組により、寄附金は993件で計5億2,565万5,282円となった（詳細はP 306参照）。

(2) 協賛・応援

サミットの成功に向けて、県民会議では協賛・応援の仕組みにより県内外の企業、団体等多様な主体の有する技術や資源等を積極的に活用して事業を展開した。

協賛・応援の募集は平成27年8月31日（月）から開始した。終了時期は当初、平成28年5月31日（火）までとしたが、事業を見直し、5月10日（火）に終了した。協賛199件、応援843件の実績であった（詳細はP 271参照）。

協賛としては、県民会議事業への飲食料品をはじめとする自社製品の提供や、自社の技術やノウハウ等、各種サービスの提供などがあり、事業をより効果的かつ効率的に実施することができた。また、県民会議公式ポスター制作への協賛や、クリーンアップ作戦への参加、外国語案内ボランティアの派遣といった形でのご支援もいただいた。

応援事業としては、サミット応援商品の開発や、サミット応援セールの開催の他、講演会や演奏会でのサミットのPR、自社の店舗や施設でのサミット応援メッセージやポスター掲示によるPR、県民会議のシンボルマークの活用などに取り組んでいただくことにより、広くサミットの情報発信し、開催機運を醸成することにつながった。

サミット終了直後の5月28日（土）、伊勢志摩サミットにご支援、ご協力いただいた多くの方々へ感謝の意を表するとともに、サミットのレガシー（資産）を引き継ぎ、ポストサミットの取組をスタートすることを宣言するための新聞広告を、読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、日本経済新聞、産経新聞、中日新聞、伊勢新聞の計7紙に掲載した。



伊勢志摩サミットへのご支援とご協力、ありがとうございました





三重県民の皆さまをはじめ、全国の企業や団体の皆さま等からの温かいご支援とご協力のおかげで、伊勢志摩サミットは、大きな成果とともに、無事閉幕しました。心から感謝を申し上げます。おもてなし大作戦、協賛・応援・寄附、外国語案内ボランティア、ジュニア・サミットなど様々な機会を通じて、産・学・民・官が一体となり、素晴らしい力を発揮できたことは、私たち全員の誇りです。

三重県では、伊勢志摩サミットの資産（レガシー）を三重の未来に生かしていくため、サミットを契機とした様々な事業を展開していきます。引き続き皆さまのご支援とご協力をよろしくお願い致します。



伊勢志摩サミット三重県民会議会長
三重県知事 鈴木 英敬



様々な国で活躍した外国語案内ボランティア



26ヶ国（地域）のプレスからの取材を受けた海外プレスツアー



17自治体の若者20人が参加し、地元との交流を深めたジュニア・サミット



地元の前ままがー丸になっておもてなしを行った飲食店等



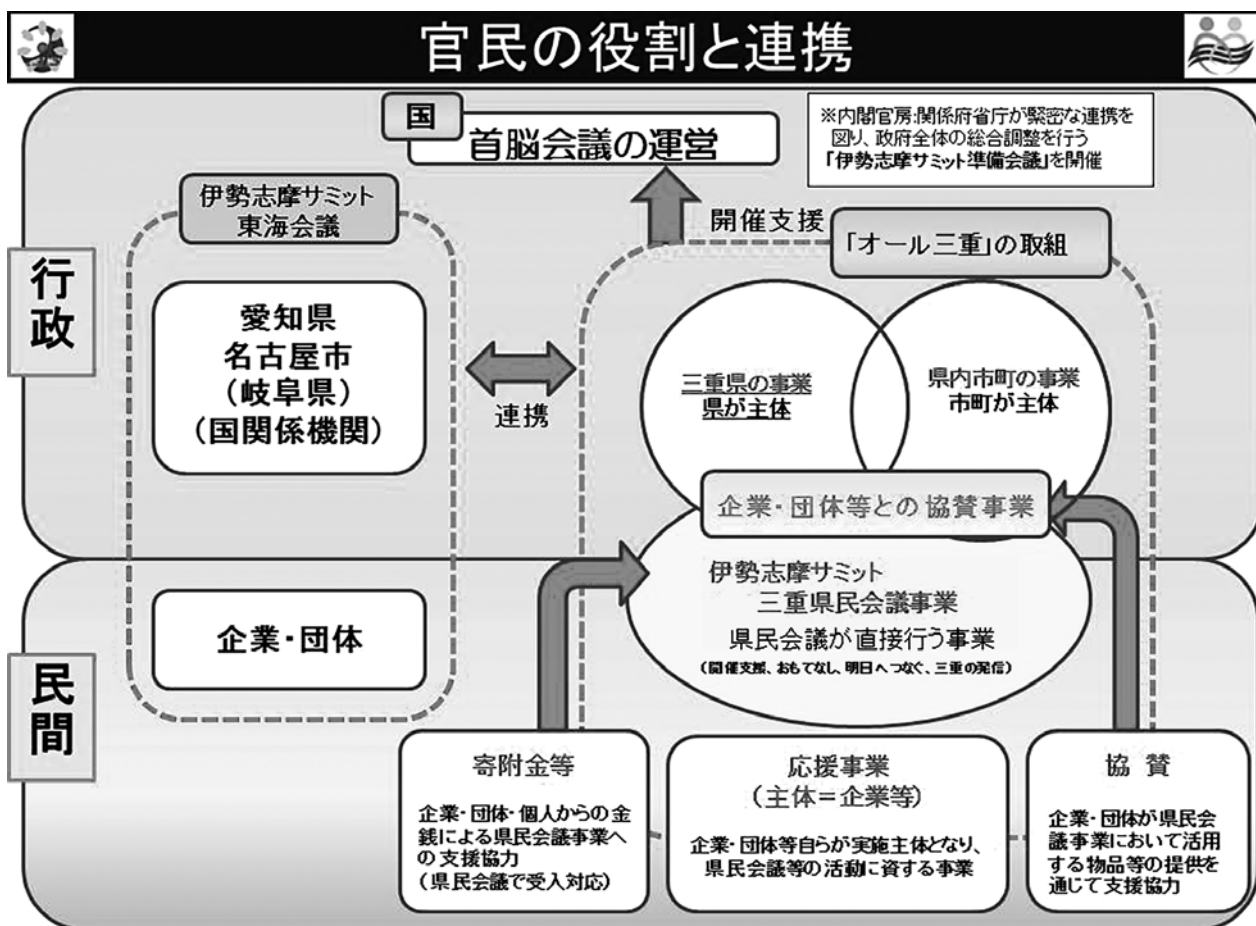
三重県内全20市町で取り寄せられ、11万本以上の花が飾られた「花いっぱい作戦」



6万人以上の方々に参加いただいた「クリーンアップ作戦」

—— つぎの三重へ、つぎの明日へ ——

新聞広告



官民の連携と役割

3 伊勢志摩サミット通信

伊勢志摩サミット三重県民会議が実施する取組や、伊勢志摩サミット関連情報について県民会議会員等と共有するため、「伊勢志摩サミット通信」を発行し、県民会議構成団体（会員140団体、特別顧問、顧問）等に主にE-mailにより配信し、併せて県民会議ホームページにも掲載した。

【発行実績（平成28年10月時点）】

- 第1号（平成27年11月6日発行）
- 第2号（平成27年12月18日発行）
- 第3号（平成28年1月8日発行）
- 第4号（平成28年2月25日発行）
- 第5号（平成28年3月30日発行）
- 第6号（平成28年5月13日発行）
- 第7号（平成28年6月2日発行）
- 第8号（平成28年9月6日発行）
- 第9号（平成28年9月16日発行）
- 第10号（平成28年10月11日発行）
- 第11号（平成28年10月24日発行）

【サミット通信の例】



サミット通信第1号



サミット通信第7号

4 広報計画

すべての方にとって分かりやすい広報とするため、開催までの節目日（サミット開催200日前、150日前、100日前、50日前等）を展開軸とする広報を実施した。

節目日を含む概ね2週間前後を「〇〇日前ウィーク」と設定し、県および県民会議の事業や市町との連携事業、さらには応援事業等の広報要素を「〇〇日前ウィーク」の中に束ね、およそ50日間隔の「広報・発信のリズム」、「広報のヤマ場」を創ることにより、広報のテーマ浸透や県民参加などの各種活動の活発化を推進した。

上記に合わせて、県各部署及び県内企業等の独自事業等についても、各節目日での開催を推進した。

【各節目の主な活動】

■サミット開催200日前（平成27年11月8日（日））ウィーク

※重点ポイント：県内を中心としたサミットの認知促進

- 1 三重県庁カウントダウンボード除幕式
- 2 県内へのカウントダウンボードの一斉設置
- 3 県内集客施設（イオンモール東員）でのサミット開催200日前イベント
- 4 県による広報（「みえだより」）でのサミット特集の発行
- 5 県民会議ホームページトップ画面でのカウントダウン表示開始

6 市町・県各部局等と連携した広報

市町イベント：14件 県各部局イベント：11件

■サミット開催150日前（平成27年12月28日（月））ウィーク

※重点ポイント：県内に加え、首都圏をはじめとする県外でのサミットの認知促進、興味喚起

- 1 県外（東京 三重テラス）でのサミット開催150日前イベント
- 2 カウントダウンボードの県外設置
- 3 県内市町、各県庁舎での懸垂幕・横断幕の設置
- 4 公式ポスター第3弾の発表
- 5 第2回伊勢志摩サミットフォーラム開催
- 6 市町・県各部局・応援事業等と連携した広報

市町イベント：8件 県各部局イベント：9件 応援事業イベント：1件

■サミット開催100日前（平成28年2月16日（火））ウィーク

※重点ポイント：県内及び県外に加え、国際的な発信によるサミットの認知促進、興味喚起、行動喚起

- 1 「おもてなし大作戦」キックオフイベント
- 2 外国語案内ボランティアへの研修開始
- 3 海外プレスツアーの実施
- 4 海外メディアでの広告展開
- 5 伊勢志摩サミット開催・I C E T T設立25周年記念事業
「ASEAN環境フォーラム in 三重」の共催
- 6 ホームページ・SNSリニューアル
- 7 市町・県各部局・応援事業等と連携した広報

市町イベント：35件 県各部局イベント：30件 応援事業イベント：1件

■サミット開催50日前（平成28年4月6日（水））ウィーク

※重点ポイント：県内及び県外に加え、国際的な発信によるサミットへの行動促進と県内アクションの活発化

- 1 伊勢志摩サミット「おもてなし大作戦」～「花いっぱい作戦」スタート
- 2 第3回伊勢志摩サミットフォーラム開催
- 3 外国語案内ボランティア接遇研修の実施
- 4 公式ポスター第4弾の発表
- 5 海外プレスツアーの実施
- 6 海外メディアでの広告展開
- 7 市町・県各部局・応援事業等と連携した広報

市町イベント：37件 県各部局イベント：7件 応援事業イベント：1件

第2章 開催支援

1 宿泊予約センターの設置

サミット開催時に集中的に来県する関係者の宿泊先を、安定的かつ効率的に確保・提供するため、運営事業者を公募し、県民会議の公認機関として「伊勢志摩サミット宿泊予約センター」を設置した。

宿泊予約センターでは、サミット関係者の宿泊先となるホテル等を確保し、宿泊希望者に対し、申込、配宿、精算、情報提供等のサービスを一元的に提供するとともに、宿泊施設に対するサミット関係者受入にあたってのサポートや三重県の観光振興に係る取組などを行った。

(1) 運営事業者

伊勢志摩サミットに係る宿泊手配等業務コンソーシアム

(株式会社JTB中部、近畿日本ツーリスト株式会社、株式会社日本旅行の3社による共同事業体)

(2) 設置期間

平成27年8月24日(月)から平成28年7月15日(金)まで

(3) 取扱対象者

G7各国代表団、報道関係者、日本政府関係者、警備関係者、消防関係者、支援事業者等

(4) 運営方法

宿泊予約センターの運営は、宿泊予約センターと宿泊施設、宿泊者間の契約に基づく仲介業務による手数料収入で運営された。

(5) 取扱件数等

宿泊予約センターを通じたサミット関係者の宿泊は、県内外で延べ約38万3千人、1日あたり最大約2万人(5月25日の宿泊)であった。志摩市、伊勢市、鳥羽市、南伊勢町、津市、松阪市、菰野町、四日市市など県内16市町の他、名古屋市、常滑市を含めた計18市町の約300宿泊施設から宿泊予約センターに客室の提供を受けた。

<宿泊者の内訳>

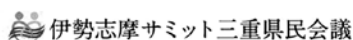
区分	宿泊期間	延べ人数
G7各国代表団	5/16～5/28	約700人
報道関係者	5/17～5/29	約3,500人
警備関係者	—	約345,000人
支援事業者ほか	4/25～6/10	約33,000人

(6) スケジュール

平成27年	7月	運営事業者公募
	8月24日	宿泊予約センター設置
	8月31日～9月7日	宿泊施設説明会
	10月1日	宿泊予約センター事務所開所
	12月、28年1月、3月	各国代表団等受入施設意見交換会
	12月21日	宿泊予約センターホームページ開設
平成28年	1月20日、21日	報道関係者受入施設説明会
	1月22日、25日	報道関係者向け宿泊予約申込に関する説明会
	1月29日～4月25日	報道関係者のWEBシステム予約受付
	2月20日～3月16日	警察関係者受入施設説明会
	4月18日	外国人サミット関係者の受け入れに関するおもてなし研修
	5月23日～28日	現地拠点（志摩市内ホテル）設置
	5月23日～27日	国際メディアセンター内デスク設置

(7) 宿泊予約センターホームページ開設

平成27年12月、報道関係者等の予約申込受付を行うため、ホームページを開設した。



伊勢志摩サミット宿泊予約センターのご案内

G7 Ise-Shima Summit Accommodation Booking Center

伊勢志摩サミット宿泊予約センターでは、伊勢志摩サミット三重県民会議との協定の下、サミット開催時における関係者（各国代表団、日本政府関係者、報道関係者、支援事業者等）に対し、宿泊予約業務を行います。サミット開催時の宿泊申込は、宿泊予約センターをご利用ください。

The G7 Ise-Shima Summit Accommodation Booking Center, established under the agreement with the G7 Ise-Shima Summit Mie Citizens Council, will offer accommodation booking services for G7 delegations, journalists, contractors and other concerned parties.

報道関係者を対象とする宿泊申込Webサイトを1月29日（金）午前10:00（日本時間）に開設します。宿泊申込は先着順となります。開設までしばらくお待ちください。ただし、ホテルリストは下記よりご覧いただくことが可能です。

The accommodation booking website for journalists will open at 10:00 am Japan time (GMT+9) on 29 January 2016. Rooms will be reserved on a first-come-first-served basis.

Please refer to the Hotel List as follows.

尚、ホテルの収容人数の都合上、IMCから近いホテル（伊勢市や鳥羽市など）だけでなく、IMCから離れたホテル（津市や松阪市など、IMCから車で所要時間90分ほど）となる可能性があります。

シャトルバスの運行情報は、後日掲載いたします。

(宿泊予約センターホームページ)

(8) 宿泊施設説明会の開催

伊勢志摩地区などの宿泊施設を対象に、平成27年8月から9月にかけて、県内5箇所、宿泊予約センターの役割・機能や伊勢志摩サミットの概要、宿泊受け入れにあたっての留意事項等についての説明会を計10回開催し、客室提供への協力を依頼した。

また、宿泊予約センターに客室を提供した宿泊施設を対象に、平成27年12月から28年3月にかけて、各国代表団、報道関係者、警備関係者といったカテゴリー別に、宿泊受け入れに関する説明会等を順次開催した。

(9) 外国人サミット関係者の受け入れに関するおもてなし研修の実施

平成28年4月18日（月）、伊勢市において、サミット期間中に各国代表団や報道関係者など外国からの宿泊客を受け入れるホテル従業員を対象としたおもてなし研修を実施した。

<研修内容>

- ・欧米人ビジターが求めるおもてなしの基本知識
- ・国際プロトコールについての知識
- ・ホテル館内に必要なおもてなしの準備
- ・おもてなし英語の基礎
- ・想定できるトラブルとトラブルシューティング など

(10) 国際メディアセンター内デスク設置

平成28年5月23日（月）から27日（金）まで、国際メディアセンター内に宿泊予約センターのデスクを設置し、報道関係者等の宿泊変更等の支援を行った。

(11) 観光振興に関する取組等

サミットを契機とした訪日外国人の増加に向け、伊勢志摩サミット開催と魅力ある三重県を海外に紹介するため、平成28年1月、「JAPAN INFOCUS」（JTBグループが全世界の旅行会社約5000社へ月1回配信するメールマガジン）1月号、平成28年4月、「JTBGMT News Letter」（JTBグループ在外各社約270拠点に配信するニュースレター）4月号で三重県特集を実施した。

なお、4、5月の伊勢志摩方面への旅行について「宿が取れないのではないかな」などの風評が一部であり、県民会議では、その対策として県雇用経済部観光局と連携し、旅行代理店や観光客への適時的確な情報提供、伊勢志摩観光PRに取り組むことにより、正確な理解の促進と誘客に努めた。

(12) 大規模な宿泊取消・変更

平成28年4月に発生した熊本地震や、サミット終了後に行われたオバマ米大統領の広島訪問により、警備計画の変更が生じたことから、警備関係者の宿泊先において、急遽、宿泊予定の部隊が来県を中止したり、滞在中の部隊が予定よりも早く帰るといった事態が生じた。このため、大規模な宿泊取消や変更への対応を行った。

サミット裏話・こぼれ話 ～ある旅館のおもてなし～

伊勢志摩サミット開催前後は、警備のために日本全国の警察の方々にお越しいただいていました。

鳥羽の旅館に宿泊された警察官のご家族の方から、鳥羽市に届いたメールをご紹介します。

（以下、メール抜粋）

私の息子は警察官です。23日よりサミットの警備のため鳥羽の旅館にお世話になっていたそうです。

昨日帰宅した息子の話で、夜中に旅館に帰ってもその時間に合わせて食事支度をしてくれたこと。早朝の勤務で朝食は要らないと告げると、コンビニを走り回ってパンを準備してくれたとのこと。その気持ちでしんどさも半減したはずですよ。

しっかりと息子の胃袋と精神を支えてくださった気持ちに、話を聞き鳥羽の方々の親切さに感謝しました。

報道では「伊勢志摩で鳥羽が抜けている」なんて話も聞きましたが、「あんな美味しいもんが毎日食べれるんやったら住みたいわ。釣りしても大きいの釣れそうやしなあ」なんて鳥羽のファンになった様子でした。

私自身、小学生の時の修学旅行以来訪れていませんが、思い出をたどりに行かせて頂きますね。

どうしてもお礼が言いたくて。本当ありがとうございました。

以上、このような温かいメールを送付いただき、ありがとうございます。

親切・丁寧なおもてなしをしていただいた旅館・ホテルの皆さまのおかげで、三重のファンが増えました。

2 県産食材等の利用促進

(1) 県産食材等のサミットでの活用

首脳会議、配偶者プログラム、国際メディアセンターにおいて、県内26市町から、把握可能な範囲では少なくとも269品目の県産食材等（食材・加工品・日本酒）が活用された。

平成27年10月に外務省に提出した推薦リストからは、561品目のうち、延べ198品目の県産食材等が活用され、推薦リスト掲載品目以外でも多くの県産食材等が活用された。

首脳の食事では県産の日本酒が乾杯・食中酒として使われたほか、県産のジュースも振る舞われた。配偶者の食事では、5月26日の昼食は県立相可高等学校の生徒が提供するなど、将来を担う地元の若者の活躍が見られた。

国際メディアセンターでは、三重県産の食材がふんだんに使われたメニューが提供されたほか、伊勢茶の呈茶や松阪牛の試食等のイベントも行われ、世界各国から取材に訪れた報道関係者に対して三重の食を発信することができた。

県産食材以外にも、首脳会議のテーブル・イス、国際メディアセンターダイニングの割り箸など県産木材を使った製品の他、総理夫人主催昼食会での机・イスや食器類等、少なくとも42品目の県産品が活用された。

※サミット食材等活用リストはP 317参照

(2) その他サミット関連行事での活用

サミット当日の他、サミットに向けての各種関連行事においても、県産食材をふんだんに活用した料理が振る舞われ、三重県の食の魅力を国内外に向け発信する絶好の機会となった。

- ・伊勢志摩サミット開催レセプション～三重へのいざない～（P 81参照）
- ・海外プレスツアー（P 145参照）
- ・各国先遣隊歓迎夕食会（P 84参照）

(3) 県産食材等情報の収集及び働きかけ

県民会議では、1品でも多くの県産食材、県産品、伝統工芸品等が活用され、三重県の魅力を世界に向けて発信できるよう、外務省への要請や関係機関への働きかけ等の取組を行った。

三重県が誇る質の高い県産食材等の情報を収集し、推薦リストとして取りまとめ、平成27年10月9日（金）、鈴木知事から外務省へ提出した。また、関係ホテル等への働きかけや県民会議ホームページへの掲載等を行い、サミット関係施設における活用促進を図った。



鈴木知事から外務省齋木事務次官へ
提案書を手交



伊勢志摩サミット開催レセプション
～三重へのいざない～での
相可高等学校生による振る舞い



首脳の食事で提供された
鮑のポワレ[※]



首脳の食事で提供された
松阪牛フィレ肉[※]



国際メディアセンターダイニング



国際メディアセンターでの
松阪牛の振る舞い

【外務省に提出した推薦リスト等の概要】

リスト等名	概要
市町推薦食材リスト (205品目)	県内市町から推薦のあった食材のリスト
みえフードインベーション食材カタログ (195品目)	これまでに三重県で取りまとめてきたリストからサミット向けに食材を抜粋
みえセレクションの食材リスト (8品目)	
県産加工食品推薦品リスト (113品目)	調味料、麺、漬物、餅菓子等の加工食品を県内事業者から公募
日本酒推薦リスト (40銘柄)	三重県内の蔵元が推薦する日本酒
三重県産材の説明資料	尾鷲ヒノキ等の県産材の紹介及びその製品カタログ
三重県産木材を使用した製品カタログ	—
パンフレット「三重の伝統工芸品」	伝統工芸品の紹介及びその活用例
三重テラスでの伝統工芸品活用例	—
花き花木推薦リスト	県産花き花木の推薦リスト

(県産食材等の利用促進の写真：※は外務省提供)

3 弁当供給体制の整備

伊勢志摩サミットの開催に際して、警備、消防、医療、現地スタッフ等に対し、県産食材を活用した安全・安心かつ美味しい食事を大量に継続して提供することを目的に、以下の2種類の弁当需要を想定し、それぞれに対応する供給体制を整備した。

- 1 屋外保管を前提とする大規模かつ継続的な弁当需要 (以下、「大規模需要」)
- 2 屋内保管を前提とする比較的小規模かつ短期・不定期的な弁当需要 (以下、「小規模需要」)

(1) 大規模需要への対応について

①業務内容

弁当の受注、製造、配送及び空容器の回収

②取扱対象者

警備関係者、消防関係者、医療関係者、現地スタッフ等

③実施事業者の選定

以下の方針に基づき、企画提案コンペを実施し、実施事業者を選定した。

【県内事業者の参画】

実施事業者の選定にあたっては、仕様書に、県内弁当製造事業者を1社以上含めることを参加資格にするとともに、配送事業者等についても可能な限り県内事業者を多く参画させるよう規定し、その参画度合を選定の評価基準の一つとすることで、県内事業者の参画を確保した。

また、より多くの県内事業者の参画を図るため、弁当の配送場所を2地区に分けることとした。

【食品衛生管理体制】

万全の食品衛生管理体制が確保できることを最重要方針とし、弁当の製造過程において、H A C C P (※) 及び大量調理施設衛生管理マニュアルに基づく衛生管理を実施するとともに、提供する弁当について、屋外で保管されることを想定し、三重県が定める食品の衛生管理指標の目標値の達成及び異物混入対策として金属探知機での検査等を求めた。

また、供給開始後も、月2回程度の監視指導を実施した。

(※) H A C C P：食品を製造する際に工程上の危害を起こす要因を分析し、それを最も効率よく管理できる部分を連続的に管理して安全を確保する管理手法

【県産食材の活用】

弁当に使用する米は全て県産米とし、その他の県産食材についても、可能な限り使用に努めるよう、企画提案コンペの仕様書に規定した。

また、実施事業者決定後、県農林水産部と連携して県民会議から食材及びメニューの提案を行うなど、県産食材の活用促進に努めた。

④実施事業者

【A地区：志摩市】

- ・株式会社ローソンを代表とする4社による共同事業体

構成員：株式会社ローソン

オーケーズデリカ株式会社（県内弁当製造事業者）

株式会社キャリアカーサービス（県内運送事業者）

日本クッカー株式会社

【B地区：津市、伊勢市、鳥羽市等】

- ・株式会社セブン-イレブン・ジャパンを代表とする9社による共同事業体

構成員：株式会社セブン-イレブン・ジャパン

プレミアムキッチン株式会社（県内弁当製造事業者）
 わらべや東海株式会社
 フジフーズ株式会社
 株式会社エフベーカーコーポレーション
 株式会社ベストランス
 株式会社デイリートランスポート
 物産ロジスティクスソリューションズ株式会社
 日本ルートサービス株式会社

※本業務に係る必要経費については、実施事業者が弁当の販売収入を得て賄うこととした。

⑤供給実績

【料 金】 朝食400円、昼食650円、夕食650円

【供給期間】 平成28年3月24日（木）から5月29日（日）まで

【供給数】 約33万食

（内訳）

地区別：A地区 約247,000食、B地区 約83,000食

需要者別：警備関係者 約323,000食、消防関係者 約5,500食

医療関係者 約900食、現地スタッフ 約800食

※サミット開催期間中のピーク時には、1日あたり約2万食が供給された。

【活用県産食材】

18品目（両実施事業者の重複分を除く）

米、伊勢ひじき、あおさ佃煮、醤油、のり、かつお、ぶり、はなびらたけ、大豆、豚肉、鶏肉、さば、伊勢うどん、味付け海苔、あおさ海苔、ブナシメジ、小女子（こうなご）、小麦粉

【メニュー】

県産食材をふんだんに使用した弁当が、本業務のために開発・供給されるとともに、実施事業者が開催したサミットフェア等を通じて、東海・北陸地域において一般販売されるなど、県産食材の魅力をPRする取組も展開された。



県産食材をふんだんに使用したサミット弁当
 写真左：三重まんさい弁当、写真右：三重味わい幕の内弁当
 （株式会社ローソン） （株式会社セブン-イレブン・ジャパン）

(2) 小規模需要への対応について

①方針

比較的小規模かつ短期・不定期な弁当需要に対しては、地元の小規模な弁当製造事業者による供給が行えるよう、需要が発生するそれぞれの地域の商工団体等との連携・協力を基に、両者のマッチングを促進した。

②取組

サミット関連で活動する事業者等への聞き取りを行い、期間・地区ごとに発生する弁当需要量の把握に努めるとともに、各地域の商工団体等を通じて、弁当供給の意向や適性のある事業者及び供給可能な数量の把握に努め、得られた弁当の需要と供給に関する情報を相互に提供することで、マッチングを行った。

③供給事例

○志摩市弁当協力会

志摩市商工会が中心となって、市内の弁当製造事業者による団体（志摩市弁当協力会）を自主的に組織し、サミット関係者に対して、地元食材を活用した弁当を供給した。

【設 立 日】 平成28年2月19日（金）

【会 員 数】 16事業者（全て志摩市内の弁当製造事業者）

【取 扱 対 象 者】 海上保安庁、電力関係支援事業者等

【供 給 期 間】 平成28年5月12日（木）から5月29日（日）まで

【供 給 数】 約1万8千食

【活用県産食材】

少なくとも10品目を活用

（米、豚肉、ぶり、しらす、たこ、わかめ、ひじき、あらめ、あおさ、さば等）

※志摩市弁当協力会は、サミット期間限定ではなく、サミット後も、市内で開催される各種事業に対して弁当供給を行う組織として発足した。

4 外国語案内ボランティア

サミットの取材で三重県を訪れる外国人報道関係者の方々をおもてなしの心で歓迎し、円滑な取材・報道活動を行っていただくため、外国語による移動・滞在・観光等の支援を行うことを目的に外国語案内ボランティアを募集した。採用された方には事前に語学研修や接遇研修を受講していただいた。企業・学校単位の協賛事業として活動に参加された方を加えた総勢339名のボランティアの皆さんが、サミット開催に合わせ国際メディアセンターや県内主要ターミナルに設置されたインフォメーション等で活動した。

(1) 活動結果

活動期間	平成28年5月20日（金）から28日（土）まで
活動場所	11ヶ所のインフォメーション （国際メディアセンター、中部国際空港、名古屋駅、津駅、津なぎさまち、松阪駅、伊勢市駅、近鉄宇治山田駅、近鉄五十鈴川駅、鳥羽駅、近鉄鶴方駅）
活動人数	339名（うち一般公募277名、企業・学校（※）の協賛62名） （※）日本トランスシティ株式会社、株式会社百五銀行、住友電装株式会社、私立セントヨゼフ女子学園

(2) 募 集

【募集内容】

募集期間	平成27年10月30日（金）から12月10日（木）まで
募集方法	公益財団法人三重県国際交流財団を通じて募集
応募条件	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年4月1日現在15歳以上の方 ・英語により、案内等を行える方 ※目安・・・英検2級、TOEIC600点程度以上の英会話能力 日本語が母語でない方は、日本語能力検定N2程度以上の日本語能力 ・事前の研修に参加可能な方（3回程度）

【募集結果】

応募総数	1,003名
応募者内訳	地域別：県内815名、県外188名 年代別：10代298名、20代179名、30代108名、40代135名、 50代158名、60代102名、70代18名、80代5名
採用人数	300名（募集開始時予定数200名程度）
採用者内訳	地域別：県内261名、県外39名 年代別：10代60名、20代68名、30代39名、40代49名、 50代52名、60代28名、70代3名、80代1名

(3) 研 修

【第1回語学研修】

研修日程	鈴鹿会場：平成28年2月14日（日）10時から15時まで 鈴鹿医療科学大学・白子キャンパス
	伊勢会場：平成28年2月20日（土）10時から15時まで 伊勢市観光文化会館
参加者	鈴鹿会場：133名 伊勢会場：163名

内 容：

県民会議より、「伊勢志摩サミットについて」と題し伊勢志摩サミットについての概要や、県民会議の取組等を紹介した。

続いて、通訳講師による「通訳の基本」「公式の場での外国語の言葉づかいについて」「活動日までに自分のできる通訳トレーニング」についての講義と、参加者同士のロールプレイングを行った。

【第2回語学研修】

研修日程 鈴鹿会場：平成28年3月13日（日）10時から15時まで

鈴鹿医療科学大学・白子キャンパス

伊勢会場：平成28年3月26日（土）10時から15時まで

伊勢市観光文化会館

参加者 鈴鹿会場：136名 伊勢会場：153名

内 容：

第2回語学研修は、国際メディアセンター班と駅・なぎさまち班の2つのグループに分けて研修を行った。

国際メディアセンター班は、一般財団法人日本国際協力センター（J I C E）講師により、交通・観光案内を想定したロールプレイング中心の講習とイレギュラーで対応に困るような場面を想定した講義を受けた。

駅・なぎさまち班は、伊勢市観光協会職員から伊勢市観光案内所での活動の紹介をいただき、J I C E講師により、駅・なぎさまちでの交通・観光案内を想定したロールプレイング中心の講習とイレギュラーで対応に困るような場面を想定した講義を受けた。

【接遇研修『心でつながるインバウンド対応』】

研修日程 第1回：平成28年4月15日（金）13時30分から16時30分まで

三重県総合文化センター・生涯学習棟大研修室

第2回：平成28年4月16日（土）9時から12時まで

三重県伊勢庁舎 4階会議室

第3回：平成28年4月16日（土）13時30分から16時30分まで

三重県伊勢庁舎 4階会議室

第4回：平成28年4月17日（日）9時から12時まで

鈴鹿医療科学大学・白子キャンパス3号館

第5回：平成28年4月17日（日）13時30分から16時30分まで

鈴鹿医療科学大学・白子キャンパス3号館

参加者 第1回：61名、第2回：58名、第3回：52名、第4回：57名、第5回：53名

内 容：

接遇マナー講師により、「接遇の重要性と基本マナー」として接遇の基本とおもてなしの心の表し方（笑顔、身だしなみ、立ち居振る舞い等）及び、「グローバル化と異文化理解」として国別・地域別のコミュニケーションの取り方の違いを学んだ。また、講習の最後には、「異文化対応力の向上」として非言語のコミュニケーションやプロトコールについて学んだ。



第1回語学研修



接遇研修

(4) 結団式・解散式

【結団式】

開催日程：平成28年5月15日（日）14時から16時まで 津市センターパレスホール

参加者： 217名

内 容：

結団式では、鈴木知事による激励、外務省大臣官房伊勢志摩サミット・広島外相会合準備事務局 滝崎事務局長からのメッセージの代読の後、ボランティア代表による決意表明、鈴木知事からのIDカードとユニフォームの手渡しの後、全員での記念撮影を行った。

その後、協賛事業として、大塚製薬株式会社が『ボランティア活動時の熱中症予防について』、エルテス株式会社が『SNSの怖さを知る』について講習を行った。

活動用のユニフォームは、プリントデザインを県立飯野高等学校 応用デザイン科2年 伊藤萌香さんが考案し、大塚製薬株式会社に協賛いただき製作した。



結団式集合写真



ユニフォーム完成お披露目会（H28.5.12 県庁）

【解散式】

開催日程：平成28年6月11日（土）14時から15時30分まで 津市センターパレスホール

参加者： 239名

内 容：

解散式では、鈴木知事が感謝と今後への期待を述べ、代表者へ感謝状を手渡した。続いて、ボランティアからの活動報告と事務局からの今後の活動についての案内がなされ、全員で記念撮影を行った。

その後、それぞれの体験を共有し、今後の取り組みに繋げていく場として交流を行った。



解散式集合写真

サミット裏話・こぼれ話 ～舞台も自分たちで作る!～

国際メディアセンターで外国語案内ボランティアが活躍した「交通・観光案内デスク」。
最初は、観光案内パンフレットは並べたものの、殺風景でさみしい感じでしたが、ボランティアの皆さんが活動を開始したとたん、デスクがみるみる間に充実していきました。
パソコンで観光の動画と音楽を流し、地図をポスターのように貼り、英語の案内表示を手づくり、必要な文具や案内パンフレット、時刻表なども自主的に持ち寄って・・・。
用意された舞台で活躍するだけでなく、活躍するための舞台から工夫して作り上げてしまう、ボランティアのみなさんのパワーとアイデアは感動ものでした!

サミット裏話・こぼれ話 ～国際メディアセンターで国内メディアの方々にも通訳ボランティア?～

国際メディアセンターでの外国語案内ボランティアの業務は、海外メディアの方々に対する交通と観光の案内、のほけでした。
が、国内メディアの方から、「海外メディアの方にインタビューしたいのですが、英語に自信がないので、通訳していただけませんか?」のまさかの通訳ボランティア依頼!(しかも評判を聞きつけたのが、2件や3件ではなかった・・・)
国際メディアセンターの外国語案内ボランティアの方々は、本来業務ではない国内メディアのための通訳業務も快くお受けくださいました。
海外メディアに対してはもちろん、国内メディアに対しても、素晴らしいおもてなしをしていただきました!

5 インフォメーション機能の整備

サミットの取材で訪れる海外報道関係者の移動・滞在・観光等の支援を行うことを目的に国際メディアセンターや県内主要ターミナルにインフォメーションを設置した。玄関口となる愛知県の中部国際空港へは、伊勢志摩サミット東海会議※（以下、「東海会議」）が設置したおもてなしブースと連携し、県民会議独自のワンストップ型の簡易案内カウンターを設置した。また、名古屋駅でも東海会議のおもてなしブースと連携し、県民会議が募集した外国語案内ボランティアの派遣を行い駅構内で乗換えや観光案内の役割を担った。

【インフォメーション設置一覧表】

設置地区	設置場所	設置期間	運営主体
国際メディアセンター	国際メディアセンター正面玄関付近	5/24～5/28	県民会議
津地区	津エアポートライン津なぎさまち高速船旅客ターミナル	5/23～5/28	津市・県民会議
	津駅前観光協会案内所	5/23～5/28	津市
	近鉄津駅改札付近	5/23～5/28	近鉄
松阪地区	松阪駅観光協会案内所	5/23～5/28	松阪市
	近鉄松阪駅改札付近	5/23～5/28	近鉄
伊勢地区	伊勢市駅観光案内所	5/20～5/28	伊勢市
	近鉄伊勢市駅改札付近	5/23～5/28	近鉄
	近鉄宇治山田駅観光案内所	5/20～5/28	伊勢市
	近鉄宇治山田駅改札付近	5/24～5/28	近鉄
	近鉄五十鈴川駅改札付近	5/24～5/28	近鉄
鳥羽地区	鳥羽駅観光案内所	5/20～5/28	鳥羽市
志摩地区	鵜方駅観光協会案内所	5/20～5/28	志摩市
名古屋駅	名古屋駅構内	5/23～5/28	東海会議
中部国際空港	津エアポートラインセントレア旅客ターミナル	5/23～5/26	県民会議
	国際線到着ロビー前簡易カウンター	5/23～5/26	県民会議

※伊勢志摩サミット東海会議

東海地域の魅力を世界に発信することを目的に、三重県、愛知県、名古屋市の行政機関、中部経済連合会をはじめとする経済団体や運輸業界、観光協会など計24団体で構成する官民一体の組織（詳細はP 205参照）。

(1) 国際メディアセンター

国際メディアセンターにおいては、外務省が設置したインフォメーション&ITヘルプデスクの近くに「観光・交通案内デスク」を設置し、報道関係者に対し、観光・交通の案内と共に三重の情報発信を行った。



国際メディアセンター内「観光・交通案内デスク」



津なぎさまち高速船旅客ターミナル



伊勢市駅構内

(2) 県内主要ターミナル

県内の主要ターミナルにおいては、津なぎさまち高速船旅客ターミナル、津駅、松阪駅、伊勢市駅、近鉄宇治山田駅、近鉄五十鈴川駅、鳥羽駅、近鉄鵜方駅にインフォメーションを設置した。

(3) 中部国際空港

中部国際空港においては、東海会議が国際線到着ロビー付近に、伊勢志摩への交通案内と中部の情報発信を行うおもてなしブースを設置した。県民会議は、おもてなしブースに立寄る時間のない方へ国際線到着ロビー前にワンストップの簡易インフォメーションカウンターを設置し、主に交通案内を行った。また、高速船（中部国際空港⇄津）の旅客ターミナルにもインフォメーションを設置した。

(4) 名古屋駅

名古屋駅においては、東海会議が伊勢志摩への交通案内と中部の情報発信を行うおもてなしブースを設置した。県民会議から派遣した外国語案内ボランティアが、駅構内でおもてなしブースへの誘導や交通・観光案内を行った。

6 輸送サービスの円滑な提供

サミットの取材で訪れる報道関係者の移動の支援を行うことを目的に、外務省と連携しシャトルバスの運行を行った。サミット開催期間中の国際メディアセンター発着の報道関係者用シャトルバスを外務省が運行し、サミットの取材で三重県を訪れる海外報道関係者に対する空港と宿泊施設間の移動支援を県民会議が担った。

(1) 国際メディアセンター発着のシャトルバス

外務省は、サミット期間中に、報道関係者が取材のために訪れる国際メディアセンターと各宿泊施設間の

シャトルバス、サミット取材用シャトルバスを運行した。

【国際メディアセンター発着、シャトルバス運行一覧】

区分	区間	運行期間	運行間隔
国際メディアセンター シャトルバス	国際メディアセンター ⇔ 伊勢地区 ⇔ 松阪地区 ⇔ 久居地区 ⇔ 津地区 ⇔ 亀山地区	5/24～5/28	約60分間隔にて 24時間運行
	国際メディアセンター ⇔ 鳥羽地区	5/24～5/28	約20分間隔にて 24時間運行
	国際メディアセンター ⇔ 五十鈴川駅・伊勢市駅	5/24～5/28	30分間隔にて 6:00～22:00の間運行
取材用バス	国際メディアセンター ⇔ サブメディアセンター1	議長会見に合わせて運行	
	国際メディアセンター ⇔ 伊勢神宮(内宮) ミキモト真珠島 サブメディアセンター1	配偶者プログラムに合わせて運行	
	国際メディアセンター ⇔ サブメディアセンター2	各国首脳記者会見に合わせて運行	
	国際メディアセンター ⇔ 志摩地中海村	報道関係者の取材に合わせて運行	
	国際メディアセンター ⇔ 中部国際空港	首脳の到着に合わせて運行	

(2) 津なぎさまち高速船旅客ターミナル発着のシャトルバス

県民会議は、サミットの取材のために来訪する主に海外報道関係者に対して、中部国際空港から高速船を利用し、最短ルートで宿泊地までを結ぶ、津なぎさまち高速船旅客ターミナル発着のシャトルバスを運行した。

【津なぎさまち高速船旅客ターミナル発着、シャトルバス運行一覧】

区分	区間	運行期間	運行間隔
プレス用シャトルバス	津なぎさまち高速船旅客ターミナル ⇒ 鳥羽地区 ⇒ 伊勢地区 ⇒ 津地区経由、松阪地区 (往路)	5/24・25	中部国際空港からの高速船到着時間に合わせ て11:00～23:00の間で 3ルート計10便運行
	往路と逆コース	5/28	津なぎさまちの高速船の出発時間に連絡し、 3ルート計12便運行



国際メディアセンター、シャトルバス乗り場



津なぎさまち、バス乗り場

7 警備関係への協力や住民への情報提供

(1) 住民懇話会

警備関係機関と連携しながら住民の皆さんに情報提供を行い、サミット開催に伴う生活への影響について理解と協力を求めるとともに、住民の皆さんから意見や要望を聴き取り、今後の事業方針に活用していくことを目的として、関係4市町（伊勢市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町）において住民懇話会を開催した。

主催：三重県

共催：海上保安庁第四管区海上保安本部

三重県警察及び関係4市町

住民懇話会は、平成27年11月中旬から平成28年4月末までの間で、3回に分け計20会場で開催し、合計1,096名の参加があった。

なお、住民懇話会は、懇話会に参加できない方にも広く内容を伝えるため、全て公開で行った。



第2回住民懇話会（賢島）

【第1回住民懇話会】（計191名参加）

各地区を代表する自治会（区）長を対象として、サミット開催に関する説明を行った。

地域	日付	時間	場所	人数
南伊勢町	平成27年11月20日（金）	19:00～	南伊勢町役場南勢庁舎	32名
鳥羽市	平成27年11月28日（土）	11:00～	鳥羽市民文化会館	36名
志摩市	平成27年11月28日（土）	15:00～	志摩市役所	38名
伊勢市	平成27年12月10日（木）	19:00～	ハートプラザみその	85名

- 対 象：地元自治会（区）長
 内 容：サミット警備の概要（第四管区海上保安本部・三重県警察）
 各市町のサミットへの取組（関係4市町）
 サミットの概要及び県民会議の取組（伊勢志摩サミット推進局）

【第2回住民懇話会】（計684名参加）

住民の皆さんや地元企業に広く参加を呼びかけ、サミット開催に関する説明を行った。

地域	日付	時間	場所	人数
志摩市	平成28年2月7日（日）	19:00～	浜島B&G海洋センター	52名
	平成28年2月10日（水）	19:00～	磯部生涯学習センター	62名
	平成28年2月11日（木）	14:00～	志摩市役所	94名
		19:00～	志摩市役所	34名
	平成28年2月13日（土）	19:00～	神明地区公民館	99名
	平成28年2月15日（月）	19:00～	賢島パークホテル「みち潮」	53名
	平成28年2月21日（日）	13:30～	間崎島開発総合センター	40名
平成28年2月27日（土）	14:00～	志摩文化会館	90名	
	19:00～	大王公民館	34名	
南伊勢町	平成28年2月7日（日）	14:00～	南伊勢町町民文化会館	60名
伊勢市	平成28年2月13日（土）	14:00～	伊勢市生涯学習センターいせトピア	40名
鳥羽市	平成28年2月28日（日）	14:00～	鳥羽市民文化会館	26名

- 対 象：参加制限なし
 内 容：サミット警備の概要（第四管区海上保安本部・三重県警察）
 各市町のサミットへの取組（関係4市町）
 サミットの概要及び県民会議の取組（伊勢志摩サミット推進局）
 サミット期間中の消防体制（防災対策部）

【第3回住民懇話会】（計221名参加）

住民の皆さんや地元企業に広く参加を呼びかけ、サミット期間中の生活への影響に関する説明を行った。

地域	日付	時間	場所	人数
南伊勢町	平成28年4月29日（金）	14:00～	南伊勢町役場南勢庁舎	38名
伊勢市	平成28年4月29日（金）	19:00～	伊勢市生涯学習センターいせトピア	53名
志摩市	平成28年4月30日（土）	14:00～	磯部生涯学習センター	100名
鳥羽市	平成28年4月30日（土）	19:00～	鳥羽市商工会議所3階かもめホール	30名

- 対 象：参加制限なし
 内 容：期間中の会場周辺での海上航行規制（第四管区海上保安本部）
 期間中の交通規制（三重県警察）
 各市町のサミットへの取組（関係4市町）
 県民会議の取組（伊勢志摩サミット推進局）
 期間中の消防体制（防災対策部）
 期間中の救急医療体制（健康福祉部）

(2) その他

【伊勢志摩サミット座談会】（計485名参加）

志摩市自治会連合会が主催する伊勢志摩サミット座談会に参加し、サミット開催直前や開催中の生活への影響に関する説明を行った。

なお、伊勢志摩サミット座談会は、住民懇話会に出席した方から出された「公開の場では、質問や意見がしにくい。」との声を受けて、報道関係者には非公開とした。

地域	日付	時間	場所	人数
志摩市	平成28年5月2日（月）	13:30～	間崎島開発総合センター	30名
	平成28年5月7日（土）	14:00～	志摩文化会館	54名
		16:30～	船越地区公民館	39名
		19:00～	磯部生涯学習センター	64名
	平成28年5月8日（日）	14:00～	神明小学校	169名
		16:30～	浜島B&G海洋センター	55名
		19:00～	志摩市役所	74名

内 容：サミット開催への理解と協力要請（外務省（一部会場のみ参加））

県民会議の取組（伊勢志摩サミット推進局）

期間中の会場周辺での海上航行規制（第四管区海上保安本部）

期間中の交通規制（三重県警察）

警備関係機関への協力要請（志摩市）

期間中の消防体制（防災対策部）

期間中の救急医療体制（健康福祉部・志摩広域消防組合）

【その他住民や企業等を対象とした説明】（計420名参加）

住民懇話会や伊勢志摩サミット座談会以外にも、説明会を開催して欲しいとの要請を受けた場合や、他機関主催会議に出席する機会を利用して、住民の皆さんや自治会長、企業等を対象とした説明を計10回行い、420名の参加があった。

	月日	場所	参加者		内容
			対象	人数	
1	平成27年 9月25日（金）	志摩市役所	志摩市自治会長	20	志摩市自治会連合会理事会
2	平成27年 10月23日（金）	鳥羽市市民文化会館	鳥羽市自治会長	20	鳥羽市自治会連合会総会
3	平成27年 11月4日（水）	南伊勢町役場南島庁舎	南伊勢町自治会長	30	南伊勢町区長会
4	平成27年 11月5日（木）	伊勢市御菌総合支所	伊勢市自治会長	30	伊勢市総連合自治会市長懇談会後
5	平成27年 11月18日（水）	伊勢市産業支援センター	朝熊山麓開発事業地立地事業所	22	朝熊山麓開発事業地立地事業所連絡会議
6	平成27年 12月1日（火）	プラザ洞津（津市）	（公社）三重県バス協会	22	三重県バス協会会議
7	平成27年 12月25日（金）	間崎島開発総合センター（志摩市）	間崎島住民	14	間崎地区住民懇談会の開始前

	月日	場所	参加者		内容
			対象	人数	
8	平成28年 3月27日(日)	間崎島開発総合センター(志摩市)	志摩市住民他	31	伊勢志摩サミット座談会 (外務省説明)
9	平成28年 3月27日(日)	神明小学校体育館	志摩市住民他	200	伊勢志摩サミット座談会 (外務省説明)
10	平成28年 5月17日(火)	宇治公民館(伊勢市)	伊勢おはらい町会議	31	伊勢志摩サミットおはらい町 懇話会

8 伊勢志摩サミット開催記念セミナー及び 伊勢志摩サミット開催レセプション ～三重へのいざない～

駐日外交団、駐日商工会議所、外国プレス等を対象に、三重の魅力を伝えるとともにサミットの開催機運を盛り上げるため、外務省飯倉公館でセミナーとレセプションを開催した。

三重の地に静かに息づく自然や伝統と、世界をリードし未来を動かそうとする革新の技を、「日本の原風景・心のふるさと三重」、「常に新しく、未来を生み出す三重」の2つのテーマで展開し、サミット開催地・三重のポテンシャルを体感していただいた。

日 時	平成27年10月27日(火) (第一部) 16時30分から17時30分まで 伊勢志摩サミット開催記念セミナー 「伝統と革新～日本のこころを三重から世界へ～」 (第二部) 18時から19時30分まで 伊勢志摩サミット開催レセプション～三重へのいざない～
場 所	外務省飯倉公館
参加者	(第一部) セミナー 約70名 (第二部) レセプション 約300名 駐日外交団、駐日商工会議所、外国プレス、三重県選出国會議員、関係企業等

(1) プログラム概要

【第一部】セミナー（三重県主催、外務省協力）

主催者挨拶：鈴木知事

トークセッション：「世界から見た三重の魅力！」

(出席者) 井原慶子氏（カーレーサー／慶應義塾大学大学院特任准教授）

片山右京氏（元F1ドライバー／Team Ukyo（チーム右京）代表）

鈴木亜久里氏（元F1ドライバー／ARTA Project プロデューサー／AUTOBACS RACING TEAM AGURI 代表・監督）

講演及び対談：「日本人の心のふるさと伊勢神宮」

(出演者) 講演 河合真如氏（神宮禰宜／神宮司廳文化部長）

対談 鷹司尚武氏（神宮大宮司）、鈴木知事



トークセッションの様子



対談の様子

【第二部】レセプション（外務省及び三重県の共催）

主催者挨拶：岸田外務大臣

安倍総理からのビデオメッセージ披露

主催者挨拶：鈴木知事

鏡割り：岸田外務大臣、鈴木知事、塩崎厚生労働大臣、

三重県選出国會議員（岡田衆議院議員、中川(正)衆議院議員、田村衆議院議員、
三ツ矢衆議院議員、島田衆議院議員、吉川参議院議員）

セミナー出席者（鷹司尚武氏、井原慶子氏、片山右京氏、鈴木垂久里氏）

乾杯の発声：三ツ矢衆議院議員

伊勢志摩サミットPR用DVD上映

和楽器演奏及びパフォーマンス（AUN-J）

抽選会

伊勢音頭（伊勢商工会議所女性部すまいる連）

締め挨拶：池 史彦氏（本田技研工業株式会社代表取締役会長（日本自動車工業会会長））

レセプションでは、松阪牛、伊勢えび、伊勢まだい、熊野地鶏、伊賀コシヒカリなど、三重の食材を可能な限り多く取り入れた料理を提供した。



鏡割り



相可高等学校生による料理の提供



赤福茶屋



マクラーレンホンダのF1マシン（展示車）

（2） 展示、実演等

会場エントランスでは、三重の竹や自然素材等によるオブジェを金屏風とともにシンメトリーに配置し、赤福茶屋での試食・呈茶、アイルトン・セナが1991年のチャンピオンシップで乗車したマクラーレンホンダのF1マシン（展示車）とレーシングスーツ、ヘルメットの展示でお迎えした。

ほかにも、「伝統と革新」を体感いただく以下の展示や実演等（主なもの）を行った。

- ・小型旅客機MR Jの1/20の模型の展示
- ・海女漁の道具の展示と現役海女5名による説明
- ・伊賀くみひも、伊勢形紙の伝統工芸士による実演
- ・伊勢神宮の模型展示
- ・NAND型フラッシュメモリ、超低消費電力テクノロジー使用のLSI製品、有機薄膜太陽電池の展示
- ・県立相可高等学校生による「伊勢まだいの鯛茶漬け」と「すき焼き」の提供
- ・三重テラスレストランシェフによる料理（伊勢えびと南紀みかんを使った料理、伊勢茶ティラミスと蓮台寺柿のジャム添え）提供
- ・日本酒（県内の全35蔵の日本酒を試飲）
- ・伊勢茶の提供
- ・ギネスに登録された長さ222mの真珠のネックレスをメインに花やヒノキ等を使って三重に受け継がれる自然の恵み、美しさを表現するオブジェ展示

（3） ケータリングメニュー

- ・プレミアム松阪豚の生ハム ラタトゥイユとポーチドエッグ バルサミコ酢のヴィネグレット
- ・伊勢海老と伊賀コシヒカリの“アロス・カルドソ”
- ・伊勢まだいの塩殻包み焼き フヌイユの香りを添えて
- ・熊野地鶏モモ肉のグリエ 梅肉と山葵風味
- ・伊勢えびのお造り 三重県産あおさ寄せと共に
- ・三重県産さざえのみぞれ和え
- ・伊勢ひじきと花切り大根の胡椒和え
- ・特産松阪牛のローストビーフ 三重県産はなびらたけと温野菜のグラン・メール風
- ・大内山ヨーグルトのクレーム タンジェ フランボワーズのクーリー

9 在外公館における天皇誕生日レセプションでのPR

伊勢志摩サミット開催に向け、三重の魅力を発信するため、在外公館における天皇誕生日祝賀レセプションにおいて、三重県産品等を展示し、PRを行った。

同行事は、天皇誕生日に近い適当日（例年12月頃）に在外公館において、大使又は総領事が任国・任地の各界関係者を招待し、天皇誕生日を祝賀するものである。

このため、三重県からはG7各国の大使館または総領事が主催するレセプションにおいて、日本酒、伊勢茶、県産菓子の試飲・試食のほか、海産物（わかめ）の提供、伊勢志摩サミットのPRポスター掲示、パンフレット配布、DVD上映等によるPRを行った。各レセプションでは、現地の財政界、文化・学術関係者、マスコミ関係者、日系人団体幹部、日系企業関係者等多くの関係者が参加した。開催を翌年に控えたサミットに向け、三重を知っていただく絶好の機会となった。

【PRを行ったレセプションの一覧】

開催日	開催場所
平成27年11月5日（木）	在イタリア日本国大使館
平成27年11月26日（木）	在ドイツ日本国大使館
平成27年11月30日（月）	在カナダ日本国大使館
平成27年12月7日（月）	在ニューヨーク日本国総領事館
平成27年12月10日（木）	在英国日本国大使館
平成27年12月10日（木）	在アメリカ合衆国日本国大使館
平成27年12月16日（水）	在フランス日本国大使館

10 各国先遣隊歓迎夕食会

来県する各国先遣隊（本国政府の関係者がサミットの準備状況確認のため来県するもの）に対し、三重の食材を生かした料理や酒、伝統芸能等の披露等によるおもてなしで慰労するとともに、三重の魅力を発信し、本国に伝えていただくことを目的に夕食会を開催した。

夕食会では、三重の魅力を英語でプレゼンテーションするとともに、サミットに向けたDVDを上映する等、三重のPRに努めた。

また、松阪牛や伊勢えび等、三重の食材をふんだんに使った料理の提供、三重の地酒による乾杯、伝統芸能の披露等によるアトラクション、華や伝統工芸品等による装飾・展示等、多くの協賛をいただきながら三重の魅力を発信した。

なお、この機会を捉え、サミット開催前後における各国首脳等と県民との交流（「世界との絆づくり」）を実現するための働きかけを行った。

【協賛】

食 材：尾鷲市海面養殖振興協議会、一般財団法人熊野市ふるさと振興公社
 飲 料：アサヒビール株式会社中部統括本部、株式会社伊勢萬、一般財団法人熊野市ふるさと振興公社、
 清水清三郎商店株式会社、国立大学法人三重大学、株式会社宮崎本店、合名会社森喜酒造場、
 尾呂志夢アグリ、尾鷲名水株式会社、有限会社森と水を守る会、
 味の素ゼネラルフーズ株式会社
 華の装飾：真生流いけばな 家元目代 爪橋静華、草月会三重県支部、池坊津支部
 展 示：黒瀬町自治会、めがね工房ごうじ、榎並孝子（人形作家）、
 小林豊子きもの学院近畿本部
 通訳ボランティア：住友電装株式会社、日本トランスシティ株式会社、株式会社百五銀行

【お土産品の提供】

伊勢市、志摩市、鳥羽市、尾鷲市、熊野市、松阪市、公立大学法人三重県立看護大学、
 皇學館大学、国立大学法人三重大学、株式会社稲藤、鳴海製陶株式会社



団長への記念品



アトラクション



懇談の様子

【先遣隊歓迎夕食会 一覧】

月日	国	相手国 参加人数	市町長等	アトラクション	乾杯酒	場所
平成28年2月22日（月）	ドイツ	12名	大口 志摩市長 小山 南伊勢町長 久保 多気町長 亀井 鈴鹿市副市長 尾西 三重大学理事兼副学長	恵利原早餅つき （恵利原早餅つ き保存会）	三重大学 （純米大 吟醸）	賢島宝生苑
平成28年3月9日（水）	欧州連合	8名	大口 志摩市長 竹上 松阪市長	—	宮の雪酒 塊（純米 大吟醸）	志摩観光ホテル ザベイスイート
平成28年3月15日（火）	イタリア	8名	木田 鳥羽市長 大口 志摩市長 河上 熊野市長 久保 多気町長	磯部楽打ち（神 童会）	ラカント 梅酒「豊 穰の海」	ブライムリゾ ート賢島
平成28年4月14日（木）	米国	47名	木田 鳥羽市長 鈴木 伊勢市長 大口 志摩市長	木遣り（伊勢神 宮奉仕会青年 部）	おかげさ ま（大吟 醸）	NEMU HOTEL&RESORT
平成28年4月18日（月）	カナダ	14名	小山 南伊勢町長 藤本 伊勢市副市長 岩田 尾鷲市長	尾鷲節（尾鷲節 保存会）	るみ子の 酒（純米 大吟醸）	ホテル志摩スペ イン村
平成28年4月27日（水）	英国	8名	鈴木 伊勢市長 小山 南伊勢町長 清水 皇學館大学学長 玉田 看護大学学長代理、 理事兼学生部長	雅楽の演奏（皇 學館大学雅楽 部）	おかげさ ま（大吟 醸）	賢島宝生苑
平成28年5月10日（火）	フランス	19名	大口 志摩市長 木下 鳥羽市副市長 亀井 鈴鹿市副市長	鈴鹿墨を使った 書道パフォーマンス （鈴鹿墨進 誠堂）	作（純米 大吟醸 雅 乃智中取 り）	ホテル志摩スペ イン村

※夕食会のホストは、すべて三重県副知事（ドイツ：植田副知事、ドイツ以外：石垣副知事）

サミット裏話・こぼれ話 ～各国先遣隊歓迎夕食会～

サミット前の「下見」のため、2月から5月にかけて、伊勢志摩の地を各国の本国政府関係者等（各国先遣隊）が訪問された際、県民会議主催で歓迎夕食会を開催しました（計7回（6か国とEU））。

開催日時や場所は厳秘でしたが、先遣隊の皆さんにおもてなしをし、三重の魅力を発信するため、様々な団体等の皆様に御協力をお願いしました。

この中で、お花の紹介をします。お迎え花や卓上花について、3つの団体に御協力（協賛）いただきました。

最初に開催した夕食会は、2月22日のドイツ先遣隊。このとき御協力いただいたのは池坊津支部さんです。昨年6月5日のサミット開催決定後いち早く県民会議をご訪問のうえ、協力の申し出をさせていただきました。お声掛けさせていただいたところ、快く引き受けていただき、当日は、とても豪華なお花で会場を彩っていただきました。

アメリカと英国の先遣隊歓迎夕食会でご協力いただいた草月会三重県支部さん。

4月14日のアメリカの夕食会の際には、お迎え花や卓上花に加えて、「桑名の千羽鶴」もご用意いただきました（しかも、G7をイメージして、7羽の連鶴!）。

会場を飾っていただいた素敵なお花はもちろんですが、草月会三重県支部の皆さんのおもてなしの心に、県民会議スタッフはとても感銘を受けました。

実際、夕食会中、アメリカの方々も鶴にとっても興味を持たれ、ご説明したところ、「ホスピタリティが素晴らしい!」と絶賛いただき、ほとんどお持ち帰りになりました。

なお、その後開催した夕食会では、県民会議から直接、「めがね工房ごうじ」さんに協力をお願いして、7羽の連鶴を卓上に置いたところ、大変な好評をいただきました。

最後は、カナダとフランスの夕食会で御協力いただいた真生流さんです。「みえの文化びと」である伊勢市の爪橋静華さんが主宰する真生流さん。

カナダの夕食会では、伊勢神宮を表す「杉」、伊勢市南部の鷲嶺山頂の「ヤマザクラ」、そして坂手島の「カキツバタ」などを使った、とても大がかりな作品を制作いただきました。

制作にあたり、ヤマザクラは3日間、地元の方の大型冷蔵庫を借りて保存され、また、鳥羽市の天然記念物であるカキツバタを使うにあたっては、坂手島をはじめ鳥羽市教育委員会や地元の方々に御協力いただいたそうです。

フランスの夕食会では、志摩市磯部町夏草の「ササユリ」や伊勢市矢持町の「雄松・雌松」などの提供を受けたとのことで、作品を直接手掛けられた方以外にも、本当に多くの皆さんの御協力があつて、先遣隊歓迎夕食会は各国の皆さんに喜んでいただきました。ありがとうございました。



11 国際メディアセンター完成式及び完成記念祝典

平成28年5月22日（日）、国際メディアセンター完成式を外務省及び県民会議の共催で開催するとともに、国際メディアセンターの完成を祝し、伊勢志摩サミットの開催を県内外に発信するための国際メディアセンター完成記念祝典を県民会議主催で開催した。

国際メディアセンター・アネックス1階エントランスで行われた完成式では、菅内閣官房長官、県民会議会長である鈴木知事による挨拶のあと、テープカットが行われた。

引き続き、完成式出席者はアネックス内の政府広報展示スペース、三重情報館を内覧した。

国際メディアセンター・アネックス1階ダイニングで行われた完成記念祝典では、鈴木知事による主催者挨拶、地元の日本酒による鏡開き、菅内閣官房長官による乾杯が行われた。アトラクションとして、伊勢志摩サミット公認サポーターである平井堅氏がサプライズで登場し、サミット応援ソング「TIME」が披露された。

出席者は祝典中、政府広報展示スペース、三重情報館を内覧し、また料理は、サミット時にダイニングを運営する事業者が提供するなど、一足早くサミットの雰囲気を感じることができた。

【国際メディアセンター完成式】

- (1) 日 時 平成28年5月22日（日）11時から11時20分まで
- (2) 場 所 国際メディアセンター・アネックス 1階 エントランス
- (3) 出席者 27名

菅内閣官房長官、鈴木知事、G7各国大使館関係者、県選出国會議員、
関係県議會議員、県内市町長、その他関係企業・団体など

(4) 式次第

主催者あいさつ 菅内閣官房長官
鈴木知事
来賓あいさつ 三ツ矢衆議院議員
テープカット
菅内閣官房長官、鈴木知事、
三ツ矢衆議院議員、吉川参議院議員、
鈴木伊勢市長、蔦田(株)鴻池組社長



テープカット

【国際メディアセンター完成記念祝典】

(1) 日 時 平成28年5月22日(日) 11時45分から12時40分まで

(2) 場 所 国際メディアセンター・アネックス 1階 ダイニング

(3) 出席者 153名

県民会議(会長、副会長、理事等)、菅内閣官房長官、G7各国大使館関係者、
国内外報道関係者、県選出国會議員、関係県議會議員、県内市町長、
その他関係企業・団体など

(4) 式次第

オープニング 日本太鼓財団による太鼓の披露

主催者あいさつ 県民議會議長(鈴木知事)

鏡開き

県民議會議長(鈴木知事)・副会長(大口志摩市長、中村三重県議會議長、
雲井三重県観光連盟会長)、菅内閣官房長官、三ツ矢衆議院議員、
中川(康)衆議院議員、吉川参議院議員、三田中部経済連合會會長、平井堅氏

乾杯あいさつ 菅内閣官房長官 ※乾杯酒:おかげさま「大吟醸」

アトラクション 伊勢志摩サミット公認サポーター 平井堅氏による
サミット応援ソング「TIME」の披露

閉会あいさつ 鈴木伊勢市長

(5) 会場装飾

「草月會三重県支部」、「真生流いけばな家元目代 爪橋静華」、「池坊伊勢支部」による華の装飾

(6) 協 賛

株式会社伊勢萬、アサヒビール株式会社、味の素ゼネラルフーズ株式会社、尾鷲名水株式会社、
JAグループ三重



鏡開き



平井堅氏による「TIME」の披露

※乾杯に使用した枅(「伊勢志摩サミット2016」と焼印、株式会社伊勢萬協賛)は、ご出席の皆さんに記念にお持ち帰りいただいた。

(7) 料理、飲料メニュー

【料理メニュー】

- ・桑名産ハマグリ(ハマグリ)の塩麴グラタン
- ・みえジビエ鹿肉の香草マリネ ロースト タリアータ仕立て 三重産フルーツソース

- ・特製伊勢えびのピンチョス オランダーズソースとともに
- ・熊野地鶏のフリット ゴルゴンゾーラディップ添え
- ・伊勢まだいの岩塩姿焼き「塩釜仕立て」
- ・松阪牛のロースト シェフのデグバージュ 特製ソース
- ・伊勢うどん
- ・三重の地魚にぎり寿司 各種
- ・新姫ムース

【飲料メニュー】

- ・「おかげさま」大吟醸（株式会社伊勢萬）
- ・焼酎「光年」（株式会社伊勢萬）
- ・リキュール「ステラハーフムーン」（株式会社伊勢萬）
- ・サミットラベル瓶ビール・アサヒスーパードライ（アサヒビール株式会社）
- ・ウィスキー「竹鶴PureMalt」（アサヒビール株式会社）
- ・熊野古道水（尾鷲名水株式会社）
- ・尾鷲海洋深層水（尾鷲名水株式会社）
- ・伊勢茶（アイス）（J Aグループ三重）
- ・コーヒー（ホット・アイス）（味の素ゼネラルフーズ株式会社）
- ・ソフトドリンク（三重県産みかんジュース、三重県産トマトジュース）

12 三重のおもてなしバッグ

伊勢志摩サミットが開催される機会に来県される国内外報道関係者及び各国政府代表団の方へ、県民のおもてなしの心と歓迎の意を表すとともに三重の持つさまざまな魅力を伝えるため、三重県及び伊勢志摩の広報資料セット、県内観光施設・文化施設の入場券、事務用品やお菓子類など全15品目を組み合わせた「三重のおもてなしバッグ」を編成し、配布した。なお、三重県及び伊勢志摩の広報資料セット及び三重県・鳥羽市提供の物品以外の物品等については、すべて企業及び団体から協賛いただいたものである。

バッグの配布にあたっては、国内外報道関係者へは国際メディアセンターにおいて政府の「サミットバッグ」とともに配布し、各国政府代表団へは、指定された場所へ送付する形で配布した。

（1） 配布数

約3,600セット

(2) 三重のおもてなしバッグの内容



『ウエルカムメッセージ』



(1) 三重県及び伊勢志摩の広報資料セット

『県内観光施設・文化施設の入場券』



- (2) 鈴鹿サーキット
[株式会社モビリティランド協賛]
- (3) 伊勢・安土桃山文化村
[株式会社伊勢・安土桃山文化村協賛]
- (4) 鳥羽水族館
[株式会社鳥羽水族館協賛]
- (5) 伊賀流忍者博物館
[一般社団法人伊賀上野観光協会協賛]
- (6) 三重県総合博物館、斎宮歴史博物館、三重県立美術館
[三重県提供]

『地元自治体提供品』



- (7) 海女の魔除け印ハンカチ
[鳥羽市提供]

『事務用品等』



- (8) uni-ball Signo 307
[三菱鉛筆株式会社／第一工業製薬株式会社協賛]
- (9) ポストイット 強粘着モバイルメモ
[スリーエム ジャパン株式会社協賛]
- (10) アエルマスク
[亀山製絲株式会社協賛]
- (11) G2TAMコインおしぼり
[株式会社ピーキューテクノ協賛]

『飲食物等』



- (12) ベビースターラーメン
[株式会社おやつカンパニー協賛]
- (13) おにぎりせんべい
[株式会社マスヤ協賛]
- (14) 〈煎〉レギュラー・コーヒー
[味の素ゼネラルフーズ株式会社協賛]

『その他』



- (15) 三重交通バス全線無料乗車証
[三重交通株式会社協賛]

(3) サミットバッグ

国は、これまでのサミットの慣例にならい、伊勢志摩サミットで現地に来訪するG7各国代表团及びプレス関係者に対して、記念品としてサミットバッグを製作し、配布した。

サミットバッグは、日本のカバンメーカーにより日本で作成されたもので、ファスナーの取手部分には三重県の伝統工芸品「伊賀くみひも」が取り付けられ、日本の文化を紹介する伝統工芸品やその場で使える文房具等の実用品等、十数点が採用された。

【サミットバッグ内容物一覧】

- ・「Discover the Spirit of Japan」(DVD)
- ・「We are TOMODACHI」(政府公式海外広報誌)
- ・「ABENOMICS IS PROGRESSING」(パンフレット)
- ・フリクションペン
- ・文房具一式
- ・東京2020公式クリアファイル
- ・ラグビーW杯2019公式ピンバッジ
- ・日本酒(三重県産の日本酒 銘柄は数種類ある)
- ・お猪口(常滑焼、萬古焼、瀬戸焼、美濃焼の組合せ2個セット)
- ・歌舞伎フェイスパック
- ・熊野筆チークブラシ
- ・将棋の駒ストラップ
- ・リンゴ型タオル
- ・お菓子各種



サミットバッグ (写真: 外務省提供)

13 識別証、車両証の発行

サミット開催前後を含む一定期間、賢島島内及び国際メディアセンターは入域規制が行われ、住民の方々や行政の関係職員、関係事業者には、外務省から識別証(IDカード)が発行された。同様に規制区域への車両の入域については、車両証が発行された。

県民会議では県関係者の識別証のとりまとめ及び配付を行った。



車両証とIDカード

14 NGOへの対応

(1) NGOの活動状況

日本のNGOは、国際政治、経済、途上国の開発や環境など多くの課題について連携しており、日本政府やG7諸国政府等との対話や政策提言を目的として、平成27年11月26日に「2016年G7サミット市民社会プラットフォーム」(63団体)を設立し、各国首脳の個人代表(シェルパ)への政策提言や外務省との協議を重ねた。

東海地域では、G7伊勢志摩サミットの開催を契機に、愛知・岐阜・三重のNGO/NPOのネットワークによって「市民サミット」を開催し、市民社会の政策提言力の向上を図ることを目的として、平成27年12月に東海「市民サミット」ネットワーク(39団体)が発足した。

東海「市民サミット」ネットワークと「2016年G7サミット市民社会プラットフォーム」は共催により、サミット直前の平成28年5月23日(月)、24日(火)の2日間に、「市民の伊勢志摩サミット」(略称:市民サミット)を開催した。

市民サミットでは、市民地域課題や国際的な課題を16の分科会で議論し提言書を作成し、全体会で採択された市民宣言は、5月25日(水)に国際メディアセンターにおいて、国内外のメディアを通じて世界へ発信された。

また、平成28年3月22日(火)、23日(水)には京都市内において日本を含むアジアやアフリカなど約20ヵ国からNGO関係者100名が集い、保健や気候変動、人権など8テーマを議論し、16項目にまとめた政策提言を伊勢志摩サミットに集う各国首脳の個人代表(シェルパ)に示す「G7市民社会対話」が開かれた。

(2) NGOワーキングスペースの設置

外務省は、近年の国際社会におけるNGOが果たす役割の重要性を踏まえ、伊勢市内に設けられた国際メディアセンターに隣接する伊勢フットボールビレッジのクラブハウス2階にNGOワーキングスペースを設けた。NGOワーキングスペースには、国内外のNGO代表(約101名、8ヵ国56団体)がアクセスを認められIDカードが発給された。

なお、NGO関係者の選定にあたっては、「2016年G7サミット市民社会プラットフォーム」を通じて国内外の主要なNGOに募集を行い、同フォーラムの意見及び関係省庁などとの協議を踏まえ決定された。NGOワーキングスペースへのアクセスを認めるNGO関係者に対しては、記者ブリーフィングのモニタリングを認め、作業室やブリーフィングなどのためのスペースを提供した。さらに、報道関係者用シャトルバスの使用や食事の提供などについても報道関係者に準じた便宜が図られた。

(3) NGOに対する対応

近年、NGOが政治、貧困、環境などの問題に取り組む中で、サミットの開催に合わせて様々な活動を通じて提言を行う機会が増えていることをふまえ、伊勢志摩サミットにおいても政策提言についてのシンポジウム、フォーラム、デモ等を行うため国内外から多くの団体が来県することが予想された。

そのため、北海道洞爺湖サミットでは実績のあったNGOへの宿营地や集会場所の提供について、県内数

十ヶ所の公営施設の視察及び管理者との調整を行ったが、今回のサミットにおいてはNGOからの支援要請はなかった。

(4) NGOの活動結果

①三重県内における市民サミット開催

活動内容：「市民の伊勢志摩サミット」

開催日時：平成28年5月23日（月）、5月24日（火）

場 所：じばさん三重（四日市市）

参加者数：2日間で国内外のNGO/NPOスタッフを含め延べ約500名

開催概要：国内外の市民団体にて「アフリカ」「食料安全保障」「災害」「環境」「平和」「持続可能な開発目標（SDGs）」「移民・難民・多文化共生」など16のテーマについて分科会を設け議論・意見交換を実施し、先進国の首脳に訴える政策提言及び市民宣言を取りまとめた。

②三重県、愛知県での主なサミット関連の集会、デモ行進

日 時：5月21日（土）午後

場 所：名古屋市中区

参加者数：約80名

日 時：5月25日（水）午前

場 所：志摩市 志摩磯部駅周辺

参加者数：約20名

日 時：5月26日（木）午後

場 所：津市 津市勤労者福祉センターから津駅

参加者数：約100名

日 時：5月27日（金）午前

場 所：志摩市 木場公園から鵜方駅

参加者数：約70名



5月25日のデモの様子



5月26日のデモの様子

15 G7首脳等に対する歓迎行事等

(1) ホテルにおける首脳歓迎

平成28年5月25日（水）夜及び26日（木）朝に志摩観光ホテルに順次到着したG7首脳8名に対し、石垣副知事及び大口志摩市長が、内閣官房副長官等とともに出迎えを行った。首脳が出発する際の見送り行事は行われなかった。

なお、首脳が到着する中部国際空港は愛知県にあるため、三重県は空港での出迎えは実施できなかった。

【出迎えを行った首脳】（到着順）

5月25日（水）夜 キャメロン英首相、トゥスク欧州理事会議長、安倍総理、ユンカー欧州委員会委員長
オバマ米大統領

5月26日（木）朝 レンツィ伊首相、メルケル独首相、トルドー加首相

(2) 伊勢神宮における首脳歓迎

5月26日（木）朝、伊勢神宮内宮参集殿に順次到着したG7首脳9名に対し、鈴木知事及び鈴木伊勢市長が、岸田外務大臣等とともに出迎えた。



オバマ米大統領を出迎える鈴木知事

(3) アウトリーチ国首脳及び国際機関代表の歓迎

アウトリーチ国首脳及び国際機関代表は主に愛知県に宿泊したため、三重県での歓迎行事は実施しなかったが、5月26日（木）夜、名古屋観光ホテルにおいて、愛知・名古屋に滞在されるアウトリーチ国首脳及び国際機関代表を招待した「愛知・名古屋歓迎レセプション」が、愛知・名古屋サミットおもてなし委員会主催で開催されたため、石垣副知事が出席し交流を行った。

16 G7首脳等による芳名帳

G7首脳等が伊勢志摩サミットで三重県を訪れた記念に、芳名帳へサインいただくよう外務省を通じて依頼した結果、下記的首脳等からサインをいただいた。

【G7】

安倍総理、オバマ米大統領、オランダ仏大統領、キャメロン英首相、メルケル独首相、
レンツィ伊首相、トルドー加首相、トゥスク欧州理事会議長、ユンカー欧州委員会委員長

【アウトリーチ国】

フック首相（ベトナム）、シリセーナ大統領（スリランカ）、シースリット首相（ラオス）、
オニール首相（パプアニューギニア）

【国際機関】

キム総裁（世界銀行）、グリア事務総長（経済協力開発機構）、ラガルド専務理事（国際通貨基金）、
中尾総裁（アジア開発銀行）、潘事務総長（国際連合）

17 G7首脳による記念植樹

平成28年5月26日（木）、伊勢神宮内宮参集殿に順次到着したG7首脳9名（安倍総理、オバマ米大統領、オランダ仏大統領、メルケル独首相、キャメロン英首相、レンツィ伊首相、トルドー加首相、トゥスク欧州理事会議長、ユンカー欧州委員会委員長）を、鈴木知事、鈴木伊勢市長が岸田外務大臣等とともに出迎えた後、神苑前においてG7首脳と鈴木知事の10名で記念植樹を行った。

植樹した木は三重県の木「神宮スギ」3本で、知事の英語での合図により木に土を被せた。スコップを渡したり受け取ったりする手伝いを、南勢志摩地域（伊勢市、志摩市、鳥羽市、南伊勢町、大紀町、玉城町、度会町）の小学生20人が行った。

なお、記念植樹は、伊勢志摩サミット開催記念及び開催地としてのシンボルとするため、平成27年10月9日（金）、県から外務省に提案していたものである。



記念植樹を行うG7首脳及び知事

木は、植樹後、5月29日（日）19時の内宮参拝時間終了まで、多くの方々に見ていただいた後、広く県民の皆さんの目に触れる場所に定植することを前提に生育環境のよい場所に移した。

サミット裏話・こぼれ話 ～首脳記念植樹でお手伝いをした小学生～

伊勢神宮で行われた首脳記念植樹で、スコップを渡したり受け取ったりした小学生は、南勢志摩地域の7市町（伊勢市、志摩市、鳥羽市、南伊勢町、大紀町、玉城町、度会町）の小学生20人でした。

当日は9時10分に神宮司廳に集合し、現地でリハーサル。その後、参集殿横で待機して、11時過ぎから本番！無事、大役を果たしてくれました。

記念植樹後には、鈴木知事と少しトーク。G7首脳が神宮を出られるまで、参集殿2階で待機していたのですが、緊張で疲れ果て、言葉も出なくなってしまう様子も印象的でした・・・

日本の子どもの代表として頑張ってくれた20人の小学生の皆さんの心に、G7首脳と触れ合ったこの日のことは、深く刻まれたことと思います。

本当に、お疲れ様でした！

〔G7首脳による記念植樹の写真：外務省提供〕

18 贈呈品

各国首脳等に歓迎の意を表し、三重県への訪問を長く記憶に留めていただくため、三重県ゆかりの品をウエルカムメッセージとともに、外務省を通じて贈呈した。

ギフトの選定に際しては、コンセプトに基づいた候補品を取りまとめ、県民会議の副会長による書面審査のうえ、会長が最終決定した。

【コンセプト】

- ・「三重県ゆかり」の品であること
- ・各国首脳や配偶者の身近に置いていただけるもの（使用するもの、飾るもの）であること

（1）カップ&ソーサー（ペア）

世界に誇るボーンチャイナ素材にサミット会場である賢島と訪問先である伊勢神宮をジャパンプルー（藍色）でハンドペイントして制作した。

【制作】三重ナルミ株式会社（志摩市）

【贈呈先】G7首脳（9名）

【ラッピング】

- ・木箱（三重県産杉材） 制作：松阪飯南森林組合（松阪市）
- ・飾り紐（伊賀くみひも） 制作：松島組紐店（伊賀市）
- ・中袋（伊勢木綿）

制作：〔加工〕三重ナルミ株式会社、
株式会社SUNKI Branding（伊勢市）

〔素材〕臼井織布株式会社（津市）

- ・風呂敷（松阪木綿）

制作：〔加工〕松阪もめん手織りセンター（松阪市）

〔素材〕御絲織物株式会社（明和町）



カップ&ソーサー



木箱（三重県産杉材）



中袋（伊勢木綿）



ソーサーの裏印



風呂敷（松阪木綿）

（2） 文箱&ボールペン

文箱は、三重県産の檜と杉を使い、伝統技術である組子で「輪継ぎ（わつなぎ）」という吉祥文様により制作し、三重県で真珠養殖を世界で初めて成功したこともアピールするため、真珠付きのボールペンとともに贈った。

【制作】

- ・文箱：指勘建具工芸（菰野町）
- ・ボールペン：ミキモトインターナショナル（東京）

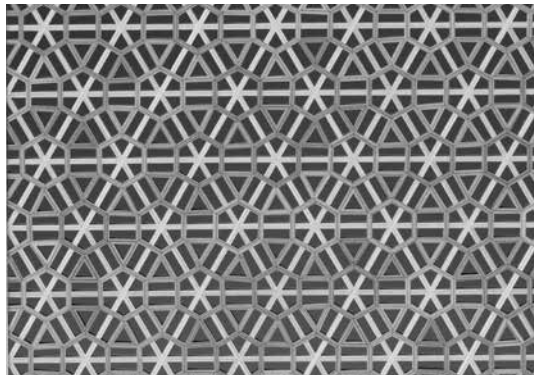
【贈呈先】 アウトリーチ国首脳（7名）、国際機関の長（5名） 合計12名

【ラッピング】

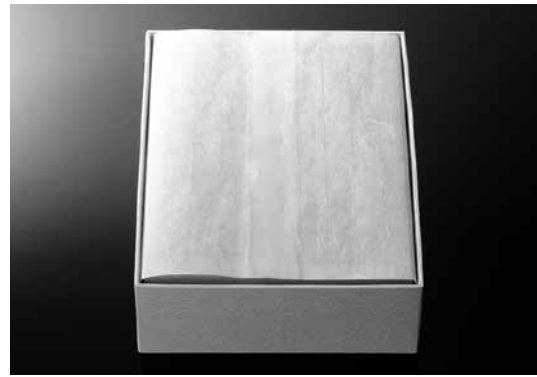
- ・包み紙（伊勢紙）
制作：〔加工〕 ミフジ株式会社（津市）
〔素材〕 大豊和紙工業株式会社（伊勢市）
- ・飾り紐（伊賀くみひも）
制作：松島組紐店（伊賀市）
- ・風呂敷（伊勢木綿）
制作：臼井織布株式会社（津市）



文箱&ボールペン



組子 (輪継ぎ)



包み紙 (伊勢紙)

(3) ウェルカムメッセージ

知事メッセージを伊勢神宮と賢島（会議場）の写真とともに、伊勢形紙文様を施した尾鷲ヒノキ（F S C 認証材）のフレームに入れて、贈呈品とともに贈った。

- ・フレーム（尾鷲ヒノキ（F S C 認証材））制作：ウッドメイクキタムラ（紀北町）
- ・メッセージ（伊勢紙） 素材：大豊和紙工業株式会社（伊勢市）
提供：株式会社小津商店（東京都）
- ・写真 撮影：〔伊勢神宮〕 増浦行仁氏、〔賢島〕 志摩観光ホテル
- ・伊勢形紙 制作：伊勢形紙協同組合

※文様をレーザー彫刻 「三重の四彩」

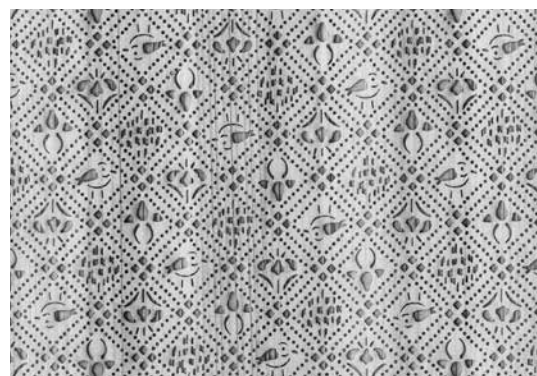
＝三重県の三本線に三重の木（神宮スギ）、花（ハナショウブ）、鳥（シロチドリ）、
獣（カモシカ）を文様化。



内面



外面



伊勢形紙文様（三重の四彩）

(4) 各国首脳からの贈呈品

サミットに参加した米国、フランス、アウトリーチ国のインドネシア、スリランカの首脳から、三重県知事に贈呈品が贈られた。

- ・コアウッドの置時計（米国 オバマ大統領）
- ・銀のトレイ（フランス オランド大統領）
- ・民芸品の布地（インドネシア ジョコ大統領）
- ・象の置物（スリランカ シリセーナ大統領）



コアウッドの置時計



銀のトレイ



民芸品の布地



象の置物

19 各国首脳等と県民との交流 ～「世界との絆づくり」～

地域の国際化や情報発信の促進、学生や子ども達のサミットへの参加意識の高揚、各国と地域の一層の関係強化につなげるため、伊勢志摩サミット開催中に来県される各国首脳等に県内市町や大学を訪問していただき、姉妹都市関係、大学間協定をはじめとする歴史、文化、教育、産業等のつながりを踏まえた県民との交流「世界との絆づくり」を実施した。

実施にあたっては、各地に潜在する各国等との絆を新たな交流につなげたり、既存の交流を拡大する契機とするため、県内の全市町と大学に交流プログラム案を募集した。

G7やアウトリーチ国・機関との交流希望は、11市町26件、3校4件、県2件合計32件の提案があった。

提案のとりまとめ後は、鈴木知事による各国大使に対する働きかけをはじめ、様々な機会を活用して各国関係者に働きかけるとともに、交流実現の可能性のある国には、提案首長が大使館を訪問し交流実現に向けた働きかけを実施した。また、G7各国の先遣隊歓迎夕食会では、提案市町長・大学長等にも出席いただき、G7各国との交流のほか、各市町の自慢の食材や地域、大学紹介をはじめとする提案市町と大学に関する幅広い情報が提供された。

近年のサミット日程の短縮や空港が愛知県にあること、警備環境の強化など交流実現に向けた課題が多くあったが、こうした取組の結果、ベトナムのフック首相の伊勢神宮訪問、ベトナム閣僚の松阪市訪問、英国首相同行プレスの皇學館大学訪問による県民との交流が実現した。

また、グリア経済協力開発機構事務総長の伊勢神宮訪問や、ラガルド国際通貨基金専務理事のミキモト真珠島訪問も実現した。

(1) ベトナム

平成28年4月に首相に就任したフック首相は、首相として初来県になる機会に伊勢神宮を訪問し、県民との交流を行った。フック首相及び閣僚等は伊勢神宮宇治橋前で鈴木知事や県民の出迎えを受けた後、正宮を訪れた。

また、松阪市とホイアン市は観光交流協定を締結していることから、ズン政府官房長官をはじめとする閣僚が、松阪市の松阪もめん手織りセンターなどを訪問し、小学生の和太鼓演奏による出迎えや松阪木綿機織り体験、松阪木綿の着物体験など県民との交流を行った。

【伊勢神宮】

日 時	平成28年5月27日(金) 16時50分から18時まで
場 所	伊勢神宮(内宮)
概 要	伊勢神宮訪問、記念撮影、会談
参加者	フック首相、閣僚5名他随行者、三ツ矢衆議院議員、鈴木知事、廣田雇用経済部長、小野三重県・ベトナム友好協会会長、県民の皆さん約30名

【松阪市】

日 時	平成28年5月27日(金) 9時10分から11時15分まで
場 所	松阪もめん手織りセンター、旧長谷川邸 他
概 要	小学生の和太鼓演奏による出迎え、松阪木綿機織り体験、松阪木綿の着物体験、茶席体験、松阪牛昼食 等
参加者	ズン政府官房長官、アイン商工大臣、クオン駐日ベトナム大使、フン首相補佐官、ミン外務大臣補佐官他随行者12名、石垣副知事、竹上松阪市長、小林同副市長、山路同副市長、東同教育長、大平松阪市議会議長、川口同副議長、谷川松阪商工会議所会頭兼松阪国際交流協会会長、松阪市立第一小学校5、6年生他 合計約100名



フック首相の伊勢神宮訪問



ベトナム閣僚の松阪市訪問

(2) 英国

英国のケント大学と皇學館大学は大学間協定を締結していることから、首脳等との交流の働きかけを実施してきた。その想いが伝わり首脳同行プレスが同大学を訪問し雅楽部学生との交流が実現した。

【皇學館大学】

日 時	平成28年5月26日(木) 12時45分から13時15分まで
場 所	皇學館大学 祭礼教室
概 要	雅楽部学生による演奏や舞の披露を通じた交流
参加者	英国首相同行プレス19名、大橋県民会議事務局長、雅楽部学生55名、教職員20名



英国首脳同行プレスの皇學館大学訪問

(3) アウトリーチ機関

アウトリーチ拡大大会合に出席したグリアOECD事務総長が伊勢神宮を、ラガルドIMF専務理事がミキモト真珠島を訪問した。

①経済協力開発機構（OECD）

日 時	平成28年5月27日(金) 14時45分から15時50分まで
場 所	伊勢神宮(内宮)
概 要	伊勢神宮訪問
参加者	グリア事務総長他5名、石垣副知事

②国際通貨基金（IMF）

日時	平成28年5月27日（金）15時20分から16時15分まで
場所	ミキモト真珠島
概要	真珠博物館見学、真珠取り出し体験、御木本幸吉像前で海女と記念撮影 等
参加者	ラガルド専務理事他4名、大橋県民会議事務局長、木下鳥羽市副市長、海女



グリア事務総長の伊勢神宮訪問



ラガルド専務理事のミキモト真珠島訪問

第3章 おもてなし

1 伊勢志摩サミットフォーラム

県民の皆さんとともに、サミットが開催されることの意義や美しい自然、豊かな文化に恵まれた伊勢志摩の魅力への理解を深め、サミット開催に向けた県民総参加の取組について考えるため、平成27年9月から平成28年4月までに、3回の伊勢志摩サミットフォーラムを開催した。

(1) 第1回伊勢志摩サミットフォーラム

日時：平成27年9月5日（土）14時から16時15分まで

会場：志摩市磯部生涯学習センター 多目的ホール

内容：

○あいさつ

鈴木知事、大口志摩市長

○ビデオメッセージ

安倍総理

○講演

滝崎成樹氏（外務省大臣官房伊勢志摩サミット・広島外相会合準備事務局長）

「伊勢志摩サミットに期待すること」

○トークセッション

テーマ「サミット開催地から学ぶ、伊勢志摩の魅力とその発信、県民総参加への取組」

スピーカー

・山谷吉宏氏（北海道副知事）

・ロビン・ハーディング氏（フィナンシャルタイムズ東京支局長）

・江崎貴久氏（海島遊民くらぶ代表）

・鈴木知事

フォーラムには約300人が参加し、講演者、スピーカーからは、サミットの仕組みやサミット開催による地域への効果・影響についての解説や提言があった。



滝崎氏講演



トークセッション

(2) 第2回伊勢志摩サミットフォーラム

日時：平成28年1月16日（土）13時から15時45分まで

会場：鈴鹿医療科学大学 白子キャンパス 講堂

内容：

○あいさつ

鈴木知事、末松鈴鹿市長

○講演

中村好明氏（株式会社ジャパンインバウンドソリューションズ代表取締役社長）

「伊勢志摩サミットのレガシーを生み出す“おもてなし”戦略とは」

○トークセッション

テーマ「おもてなし、食を中心とした情報発信、サミットのレガシー（遺産）」

スピーカー

- ・山田文比古氏（東京外国語大学教授（元沖縄県サミット推進事務局長））
- ・ラース・ニコライゼン氏（ドイツ通信社東京支局長）
- ・清水慎一郎氏（清水清三郎商店株式会社代表取締役）
- ・森川徹氏（外務省大臣官房報道課長）
- ・中村好明氏（株式会社ジャパンインバウンドソリューションズ代表取締役社長）

フォーラムには約600人が参加し、講演者、スピーカーからは、実例も交えて、サミット開催後を見据えた三重県のおもてなしのあり方や効果的な情報発信、サミットのレガシーについての提言があった。



中村氏講演



トークセッション

(3) 第3回伊勢志摩サミットフォーラム

日時：平成28年4月16日（土）13時から16時15分まで

会場：三重県総合文化センター 中ホール

内容：

○あいさつ

鈴木知事、前葉津市長

○講演

溝渕将史氏（外務省大臣官房伊勢志摩サミット・広島外相会合準備事務局総括次長）

「伊勢志摩サミットの最新情報」

デービッド・アトキンソン氏（株式会社小西美術工藝社代表取締役社長）

「英国人アナリスト、三重の未来を語る」

○トークセッション

テーマ「世界とつながる、三重の未来」

スピーカー

・高野秀行氏（ノンフィクション作家）

・田中里沙氏（事業構想大学院大学学長／株式会社宣伝会議取締役副社長兼編集室長）

・寺岡夕里氏（東北大学大学院生（2009年ジュニア8サミット日本代表））

・デービッド・アトキンソン氏（株式会社小西美術工藝社代表取締役社長）

コーディネーター

・鈴木知事

○クロストーク

・平井堅氏（伊勢志摩サミット公認サポーター）

・鈴木知事

フォーラムには約650人が参加し、講演者、スピーカーからは、伊勢志摩サミットの最新情報、インバウンド産業の重要性、世界とつながる面白さなどについて解説や提言があった。また、伊勢志摩サミット公認サポーターの平井堅氏による応援ソングのタイトル発表とデモ音源の公開があった。



トークセッション



平井堅氏と知事とのクロストーク

2 おもてなし大作戦

サミット開催にあたって三重県を訪れる方々に歓迎の意を表現するとともに、一人でも多くの県民の皆さんが来訪者歓迎に関わることにより、サミットに向けた機運醸成や参加意識の向上を図るため、県民参加型の「おもてなし大作戦」を実施した。

「おもてなし大作戦」は、「クリーンアップ作戦」と「花いっぱい作戦」の2つの取組で構成し、両取組を連携させて展開することで、おもてなしに向けた県民運動の一体感を醸成するとともに、運動の訴求力と発信力の向上を図った。

(1) 伊勢志摩サミット「おもてなし大作戦」キックオフイベント

サミット開催に向けて県民一人ひとりの皆さんに、おもてなしの心を持って全県的に取り組んでいくことをPRするとともに、サミットに向けた機運の醸成や一体感の構築を図るため、平成28年2月14日（日）に阿児ふるさと公園芝生広場において伊勢志摩サミット「おもてなし大作戦」キックオフイベントを開催した。直前まで雨が降り続ける中、多くの関係者の思いが実り、奇跡的にイベント開催時間のみ雨が止み、県民、団体、企業関係者ら約700名が参加した。



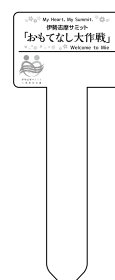
「おもてなし大作戦」キックオフイベント（H28.2.14）

【統一デザインによる一体感づくり】

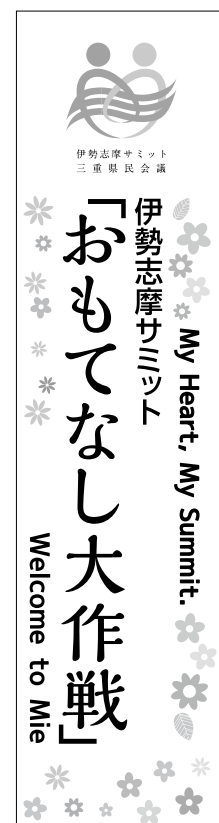
「おもてなし大作戦」の統一デザインを作成し、横断幕、のぼり、ガーデンピック（プレート）などに活用することで、「クリーンアップ作戦」と「花いっぱい作戦」の視覚的統一感を図り、県民参加型運動としての盛り上げを図った。



（左）横断幕（W1800×H600）、（右）のぼり（W450×H1800）



（左）ガーデンピック中型（W300×H220）、（右）同小型（W105×H274）



(2) クリーンアップ作戦

伊勢志摩サミット「おもてなし大作戦」キックオフイベントを開催した2月14日（日）からサミット開催直前の5月下旬までの間、各市町や自治会をはじめ、企業、団体等による全県的なクリーンアップ作戦の展開を図った。



県営サンアリーナ周辺でのクリーンアップ作戦（H28.5.7）

①市町における展開

三重県自治会連合会と市町との連携等により、100日前ウィーク周辺の2月9日（火）から2月23日（火）には、延べ15市町においてクリーンアップ作戦が実施された。

また、5月下旬までの間、県内各地でクリーンアップ作戦が実施され、合わせて6万人以上の方に参加いただいた。

※各市町における実施状況はP 325のとおり

②企業、団体等における展開

企業、団体等へ協賛、応援事業としての参加の呼びかけを行うことにより、クリーンアップ活動を実施していただくとともに、資材・物品等での提供等で協力をいただいた。

※協賛、応援事業の実施状況はP 326のとおり



松阪市松名瀬干潟でのクリーンアップ作戦（H28.5.14）

③東海三県一市との連携事業

東海三県一市（愛知県、岐阜県、三重県、名古屋市）が平成24年4月に設置した「伊勢湾総合対策協議会・海岸漂着物対策検討会」の取組と連携し、三重県では、伊勢湾流域圏の環境活動団体に呼びかけ、「伊勢湾 森・川・海のクリーンアップ大作戦」を実施している。

サミット開催への機運醸成を図るため、サミット開催50日前ウィークに合わせ、東海三県一市で環境活動団体に清掃活動実施の呼びかけを行い、平成28年4月2日（土）から10日（日）の取組期間中に、計10団体（三重県8団体、愛知県1団体、岐阜県1団体）、1,487人の方に参加いただいた。

※主な実施団体・場所はP 327のとおり



愛知県南知多町師崎海岸でのクリーンアップ作戦（H28.4.6）

(3) 花いっぱい作戦

各種団体（NPO、ボランティア、サークル等）、個人、学校、市町、自治会、生産者、企業等多様な主体の活動を「花いっぱい作戦」として集約することで、4月から5月下旬までの開花・飾花をめざして活動を行った。

サミット開催前の50日前ウィーク前後に「花いっぱい作戦」のアクションスタートとして、スタートセレモニーを実施するとともに、県内10カ所で花の寄せ植え体験講座を開催し、幅広い層のサミットへの歓迎機運及び参加意識の向上を図った。

また、「おもてなし大作戦」の統一デザインを活用したガーデンピック（プレート）を市町や小中学校、県民会議会員へ配布し、花いっぱい作戦への参画促進を図った。

①伊勢志摩サミット「花いっぱい作戦」スタートセレモニー

鈴木知事、伊藤桑名市長、北勢地域市町代表、県立四日市農芸高等学校生徒をはじめ、県民の皆さんや企業、団体など約300名が集結してスタート宣言を行った。

日時：平成28年4月2日（土）14時から15時30分まで（サミット開催50日前ウィーク）

会場：桑名市総合福祉会館 大会議室



「花いっぱい作戦」スタートセレモニー

②伊勢志摩サミット「花いっぱい作戦」寄せ植え体験講座

各県庁舎10カ所で1日2回実施し、各会場とも定員を上回る1,664名の方から応募があり、抽選により1,000名の方にご参加いただいた。

4月2日（土）伊勢（120名）、伊賀（100名）

4月3日（日）桑名（80名）、志摩（120名）、熊野（60名）

4月9日（土）四日市（100名）、鈴鹿（120名）

4月10日（日）津（120名）、松阪（120名）、尾鷲（60名）



寄せ植え体験講座（伊賀市）

③スタートセレモニー以降の展開

スタートセレモニーからサミット開催直前の5月下旬までの間、各市町、企業、団体等による全県的な花いっぱい作戦の展開を図った。

ア 市町における展開

市町には、庁舎や公園、花壇等関係施設への飾花を行うなど花いっぱい作戦を推進するとともに、地域における団体の活動の集約等により、花いっぱい運動の支援等で協力をいただいた。

5月下旬までの間、県内各地で花いっぱい作戦が実施され、合わせて11万本以上の美しい花々が県内全域で飾られた。

※各市町における実施状況はP 327のとおり

イ 企業、団体等における展開

企業、団体等には、協賛、応援事業の枠組みを活用する等、花を植える活動や飾る活動、物品の提供等で協力をいただいた。

また、応援事業としても、例えばホームセンター等の店舗内に「伊勢志摩サミット開催記念」花いっぱいコーナーを設置していただくことで、個人レベルでの参画を図るなどの協力をいただいた。

※協賛、応援事業の実施状況はP 328のとおり



鳥羽駅周辺での花いっぱい作戦



鬼ヶ城センター（熊野市）での花いっぱい作戦

3 カウントダウンボード、ノベルティを活用したPR

(1) カウントダウンボード

サミット開催の周知及び期待感を高めるため、県内主要駅、県庁、各市町等にサミット開催までの残日数を示すカウントダウンボードを設置した。

サミット開催まで200日前となる平成27年11月4日（水）に、県庁へカウントダウンボードを設置し、除幕式を実施した。また、民間企業等の皆さんのご協力により、県内各所に様々なカウントダウンボードを設置した。

伊勢志摩でのサミット開催を全国の方々に広く情報発信するため、平成27年12月には近鉄名古屋駅、近鉄京都駅、近鉄大阪難波駅に設置するとともに、平成28年1月には外務省、内閣府、2月にはJR東京駅に設置するなど県外への設置に取り組んだ。

また、1月には保健大臣会合の開催地である神戸市にカウントダウンボードを設置して連携を図るとともに、5月には国内外のメディアが訪れる国際メディアセンターにも設置して歓迎機運を盛り上げた。

カウントダウンボードを設置して歓迎機運を盛り上げる取組は県内外に波及して、サミット開催までに、県民会議、民間企業等によるカウントダウンボードの設置台数は、総数544台となった。

【カウントダウンボード設置場所と台数】

○県民会議による設置

- ・各鉄道駅（JR東京駅、近鉄大阪難波・京都・名古屋、県内主要駅など） 15台
- ・外務省、内閣官房、国際メディアセンター、県内市町、職員派遣元企業、県関係機関など 77台
- ・その他（伊勢神宮など） 13台

○協賛、応援事業による設置

- ・企業、団体による制作・設置 439台
- 計 544台



近鉄京都駅



国際メディアセンター



卓上式カウントダウンボード

【県庁カウントダウンボード除幕式】

日 時：平成27年11月4日（水）8時30分から

場 所：三重県庁 正面玄関

出席者：鈴木知事

大口志摩市長

中村三重県議会議長

雲井三重県観光連盟会長

藤本三重県商工会議所連合会専務理事

【外務省カウントダウンボード除幕式】

日 時：平成28年1月8日（金）16時から

場 所：外務省 中央庁舎7階

出席者：山田外務省大臣政務官

金杉外務省経済局長

滝崎伊勢志摩サミット・広島外相会合準備事務局長

鈴木知事

西城伊勢志摩サミット三重県民会議事務総長

真伏三重県東京事務所長

主 催：外務省伊勢志摩サミット・広島外相会合準備事務局

伊勢志摩サミット三重県民会議

協 賛：三重県森林組合連合会



県庁カウントダウンボード除幕式



外務省カウントダウンボード除幕式

サミット裏話・こぼれ話 ～北海道から受け継いだ紅白の紐～

平成28年1月8日に外務省で、伊勢志摩サミットカウントダウンボードの除幕式が行われました。この時使われた紅白の紐、実は北海道から受け継いだものなのです！

2008年北海道洞爺湖サミットの際に、洞爺湖町に設置されたカウントダウンボード、こちらの除幕式を担当されたのは北海道庁の職員の方でした。時間がない中、除幕式に使用する紅白の紐は前夜にご夫人が手作りされました。

平成27年9月に開催した伊勢志摩サミットフォーラムの縁があって、北海道の山谷吉宏副知事を鳥羽市の江崎貴久さん（海島遊民くらぶ代表）が11月に訪問し、紅白の紐を預かりました。さらに江崎さんから伊勢志摩サミット三重県民会議へと託され、紅白の紐は、伊勢志摩サミットのカウントダウンボード除幕式へと繋がっていきました。

次の8年後、紅白の紐はどこに受け継がれるでしょうか。

(2) ノベルティ

広く県民の皆さんに対して伊勢志摩サミットの開催を周知するとともに、県外の方にも開催地である三重県を幅広く周知することを目的として、多様な対象者や使用場面に応じた各種PRツールを作成し、県内外における節目イベントや各種会議等において配布した。

<種類および作成個数>

- ポストカード（日本語・英語・フランス語・イタリア語） 120,000枚
- ウェットティッシュ 19,000個
- クリアファイル（2種類） 37,000枚
- ポチ袋 600枚
- 手提げ袋（紙製） 4,000枚
- ビニールバッグ 10,000枚
- 風船 2,000個
- ICカードステッカー 4,500枚
- みえックスキャンディ 2,000個
- 伊勢志摩サミットWAON 10,000枚
- ご当地キャラクターシール 5,000枚



作成したノベルティ（一部）



イベントでのノベルティ配布

4 おもてなし向上研修

国際観光地としての三重県のレベルアップを図るため、世界各国からの訪問者に満足いただけるおもてなしを行えるよう、外国人に対する接遇等の方法を学ぶ研修を実施した。

(1) 訪日外国人おもてなし研修

受講対象：生活衛生関係営業施設の営業者（飲食店、旅館業等）

第1回 日 時：平成28年2月2日（火）13時30分から16時まで

場 所：三重県伊勢庁舎

テーマ：外国からのお客様に喜ばれるおもてなし

参加者：75名

第2回 日 時：平成28年2月24日（水）15時から16時まで

場 所：三重県合同ビル（津市）

テーマ：アレルギー物質及び宿泊者名簿の外国語表記

参加者：76名



第1回訪日外国人おもてなし研修



第2回訪日外国人おもてなし研修

（2）心でつながるインバウンド対応接客研修

受講対象：県内各市町の観光部署及び観光協会・観光案内所の職員等（外国語案内ボランティア向けの接客研修と合同で実施）

テーマ：接客の重要性を理解し基本的なマナーを身に付けること

異文化を理解し外国人対応力を高めること



心でつながるインバウンド対応接客研修

日 時	場 所	参加者
平成28年4月15日（金）13:30～16:30	三重県総合文化センター	74名
平成28年4月16日（土）9:00～12:00	三重県伊勢庁舎	59名
平成28年4月16日（土）13:30～16:30		54名
平成28年4月17日（日）9:00～12:00	鈴鹿医療科学大学・白子キャンパス	61名
平成28年4月17日（日）13:30～16:30		53名

計301名（内281名は外国語案内ボランティア）

第4章 明日へつなぐ

1 ジュニア・サミット

ジュニア・サミットは、2005年のG8グレンイーグルス・サミット（英国）から開始された青少年のサミットで、各国の代表チームが、首脳会議と関連する議題について討議し、成果文書を作成するプログラムである。2010年以降中断していたが、2015年のG7エルマウ・サミット（ドイツ）の機会に再開された。

(1) ジュニア・サミットの開催誘致・決定

平成27年8月5日（水）、鈴木知事から中山外務副大臣に対し、三重県でのジュニア・サミットの開催を強く要望するとともに、県内の複数自治体から会場受入の意向があり、県・市町一体となって開催に臨む機運が高まっていることを説明した。

また、9月17日（木）には、伊勢志摩サミット三重県民会議事務総長から外務省大臣官房人物交流室長に提案書を手交し、①開催日程については、討議に資する視察や県内分散型の体験・交流プランを含む9日間とすること。②討議については、「次世代につなぐ地球～環境と持続可能な社会～」をテーマとし、環境保全と経済成長を両立し、健全な環境を次世代に継承し、持続的な発展をする方策について議論いただきたいこと。③討議前に、三重県ならではの討議テーマに関する視察を行い、環境・産業技術、自然との共生、地域資源を活用した地域ビジネスの観点等を学び、実りある議論をしていただきたいことを要望した。

10月27日（火）、外務省飯倉公館で開催された外務省及び三重県共催の「伊勢志摩サミット開催レセプション～三重へのいざない～」にて、岸田外務大臣から、G7各国の高校生によるジュニア・サミットを、平成28年4月22日（金）から、桑名市を主会場とし、県内各地で視察、交流イベントを行う形で開催することが発表された。

これを受け、平成27年12月25日（金）、県民会議事務総長から改めて外務省大臣官房人物交流室長に、ジュニア・サミット参加者に美しい自然や豊かな伝統・文化など、三重の魅力を体験・体感していただくため、県内分散型の体験・交流プラン及び三重ならではの歓迎交流行事について提案を行った。同日、外務省大臣官房人物交流室長から主会場をナガシマリゾートに決定した旨発表があった。

平成28年2月24日（水）、三重県から提案していた討議に資する視察及び県内各地分散型の体験・交流行事の訪問先について外務省による決定があり、視察については、「赤須賀漁業協同組合」、「四日市公害と環境未来館」、「NTN株式会社先端技術研究所」の3施設を、また、県内分散型体験・交流行事については、4コースに分かれ、県内10ヶ所を訪問する旨発表があった。

(2) 「2016年ジュニア・サミットin三重」の概要

2016年伊勢志摩サミットの関連行事として、G7各国から15～18才の若者28名が集まり、「次世代につなぐ地球～環境と持続可能な社会」をメインテーマとして議論を行い、その結果を、成果文書『桑名ジュニア・コミュニケ』にとりまとめ、安倍総理に提出した。

また、県民会議では、開催期間中、体験・交流行事など、ジュニア・サミット参加者が三重県の魅力に触れるとともに、三重県の子ども達と交流する行事を企画・実施した。

開催期間：平成28年4月22日（金）から28日（木）まで

場 所：桑名市を主会場とし、県内各地、東京都での視察を実施

＜主会場 ナガシマリゾート（桑名市長島町浦安）＞

参 加 者：G7各国からの15～18才の青少年、各国男女2名の計28名

（付添人 G7各国から1名、日本のみ2名）

議 題：メインテーマ

「次世代につなぐ地球～環境と持続可能な社会」

サブテーマ

①環境保護と経済成長の共生

②より良い社会とより良い世界に向けて

ワーキンググループテーマ

①気候変動と脱炭素化

②経済格差と包括的経済成長

③人材育成

④ジェンダーによる格差の克服

主 催：外務省

共 催：伊勢志摩サミット三重県民会議

特別協力：公益財団法人イオン1%クラブ

【日 程】

日付	時間	内容	会場	備考
4月21日(木)		G7各国代表参加者三重県到着		
	18:00-19:00	ブリーフィング	ナガシマリゾート（ホテルナガシマ）	
4月22日(金)	9:30-10:00	開会式	ナガシマリゾート（ホテル花水木）	
	10:30-12:00	オリエンテーション		
	13:30-18:30	第一セッション		
4月23日(土)	9:00-12:00	第二セッション	ナガシマリゾート（ホテル花水木）	
	13:30-17:45	討議に資する視察	赤須賀漁業協同組合	
			四日市公害と環境未来館	
			NTN株式会社先端技術研究所	
18:15-20:05	桑名市交流行事	ナガシマリゾート（なばなの里）	ジュニア・サミット桑名市民会議事業	
4月24日(日)	9:00-12:00	第三セッション	ナガシマリゾート（ホテル花水木）	
	13:30-17:00	第四セッション		
4月25日(月)	9:00-17:00	体験・交流行事	Aコース（御在所ロープウェイ、鈴鹿サーキット、関宿）	県民会議事業
			Bコース（深野だんだん田、まごの店、一身田寺内町専修寺）	
			Cコース（伊賀流忍者博物館、赤目四十八滝）	
			Dコース（伊勢神宮、いつきのみや歴史体験館）	

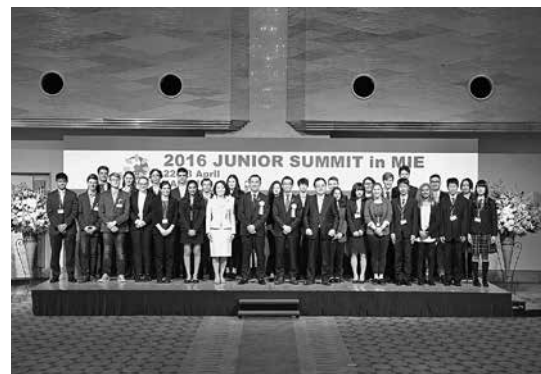
日付	時間	内容	会場	備考
4月26日(火)	9:00-10:30	第五セッション	ナガシマリゾート(ホテル花水木)	
	11:00-12:00	成果発表		
	12:00-14:00	三重県送別ランチ		
	14:30-	東京へ移動		
4月27日(水) (東京日程)	12:00-16:00	学校体験プログラム	筑波大学附属高等学校	
	17:35-17:55	総理表敬訪問	首相官邸	
4月28日(木) (東京日程)	10:10-11:10	東京湾クルーズ		
	11:30-12:00	寿司体験	ホテルニューオータニ東京	
	13:30-16:00	東京都内視察	①浅草 ②秋葉原 ③原宿	
	18:30-20:00	送別レセプション	ホテルニューオータニ東京	
4月29日(金) (東京日程)		帰国		

(3) 主な行事

【開会式】

4月22日(金)9時30分から、ホテル花水木「花翠の間」において、開会式が行われた。開会式では、山田外務大臣政務官による主催者挨拶に続き、共催者として県民会議会長の鈴木知事が挨拶を行った。

また参加者紹介の後、参加者を代表し日本代表参加者が決意表明を行った。



開会式での記念撮影※

【討議】

4月22日(金)から24日(日)にかけて、「次世代につなぐ地球～環境と持続可能な社会」をメインテーマに、集中して議論が行われた。参加者は、以下の4つのテーマごとに分科会形式で議論を行い、その結果を成果文書『桑名ジュニア・コミュニケ』にとりまとめた。

①気候変動と脱炭素化

気候変動に起因する様々な課題を解決するために、炭素税、排出量取引制度を活用したカーボン・プライシングを促進すること、再生可能エネルギー発電を推奨することの重要性が強調された。また、都市部のインフラ開発を通じた温室効果ガスの低減についても触れられ、諸取組の実現に向けた日本のリーダーシップに期待する旨の議論がなされた。

②経済格差と包括的経済成長

先進国と発展途上国の格差是正を図るためにどのような対策が可能か議論された。この観点から、先進国から途上国への技術移転に着目し、先進国の企業に対する技術移転を促すためのインセンティブの付与の可能性等について提案された。また汚職と租税回避の課題も取り上げられ、制度改革を通じた対策が必要との提案がなされた。

③人材育成

すべての子ども達の初等・中等教育へのアクセスを可能にすることを念頭に、教育の質向上のための国際的な連携や、教育インフラ、教師のレベルの向上、先進国と途上国間の学校単位でのノウハウの共有を促す制度について提案がなされた。

④ジェンダーによる格差の克服

日本がリーダーシップを発揮している女性のエンパワーメントの分野について、女性の社会進出を促すために、企業の働きやすさを採点形式で可視化していくことや、途上国においては基本的な女子教育の底上げを図るために、経済的支援も含めた制度設計をしていくことなどが提案された。

【討議に資する視察】

4月23日（土）午後、メインテーマ「次世代につなぐ地球～環境と持続可能な社会」に基づき、環境保全と経済成長を両立し、健全な環境を次世代に継承し、持続可能な発展をする方策について議論するため、参加者が、次の3施設を視察した。

①赤須賀漁業協同組合

漁業者から、自然資源を持続的に利用するための干潟の環境調査や稚貝放流、漁獲量の制限等の取組について説明を受けた。

②四日市公害と環境未来館

県立四日市高等学校の生徒や四日市公害と環境未来館職員、公益財団法人国際環境技術移転センター（ICETT）職員から、四日市公害の歴史や教訓を通じた産業発展と環境保全を両立したまちづくりや環境保全技術の海外移転等の取組について説明を受けた。

③NTN株式会社先端技術研究所

二酸化炭素発生の削減や低炭素化社会実現のための自然エネルギー循環型モデルや省エネルギー技術の取組を伺い、グリーンパワーパークを視察した。



赤須賀漁業協同組合の視察



四日市公害と環境未来館の視察*



NTN（株）先端技術研究所の視察*

【桑名市交流行事「KUWANA NIGHT」】

4月23日（土）夜、ジュニア・サミット桑名市民会議が主催する交流行事「KUWANA NIGHT」がナガシマリゾート・なばなの里で実施され、約2,000名の桑名市民が出迎える中、参加者は、桑名石取祭の祭車の見学や、太鼓や鉦の打ち鳴らしを体験するとともに、ハマグリ等のバーベキュー料理、ベゴニアガーデンやイルミネーションの見学を楽しんだ。



桑名石取祭の祭車見学*

【体験・交流行事】

4月25日（月）、ジュニア・サミット参加者が、県内4コースに分散して各地を訪れ、三重の美しい自然や豊かな伝統・文化等を体験・体感するとともに、県民との交流を深めた。

当日、県内高校生が各コース7名が参加し、各訪問先を案内するとともに、バス移動時間等を利用し交流を深めた。

《Aコース》

①御在所ロープウェイ（菟野町）

ロープウェイで伊勢平野や御在所岳を眺める空中散歩を楽しむとともに、山上公園では、雄大な展望と自然を楽しみながら散策した。

②鈴鹿サーキット（鈴鹿市）

私立鈴鹿高等学校書道部の生徒による鈴鹿墨を用いた書道パフォーマンスの披露の後、伊勢形紙彫刻体験を行った。国際レーシングコースでの最先端EVマシン「サーキットチャレンジャー」の運転体験、マーシャルカーに同乗してのコース走行、バイクのデモレースの見学を行った。

③関宿（亀山市）

ボランティアの案内で関宿を散策し、「関の山車」保存会の子どもたちによる祭り囃子演奏や、亀山紅茶とお菓子によるおもてなしを受け日本の歴史文化に触れながら、地元小中学生や地域住民と交流した。

《Bコース》

①深野だんだん田（松阪市）

日本棚田百選に選ばれている「深野だんだん田」を見学し、伝統的な土木工学技術や棚田の機能を学ぶとともに、松阪牛肥育農家を見学し、松阪牛にブラッシングをしたり、触れたりする体験を行った。

②まごの店（多気町）

県立特別支援学校玉城わかば学園生徒の太鼓演奏による歓迎を受けた後、県立相可高等学校食物調理科の生徒とだし巻き卵や巻き寿司、鰹節削りの体験を行うとともに、食物調理科の生徒が作った昼食を楽しみながら交流した。

③一身田寺内町 専修寺（津市）

国の重要文化財に指定されている専修寺内の御影堂を見学するとともに、庭園・雲幽園内を散策し、茶室・安楽庵を見学した。

《Cコース》

①伊賀流忍者博物館（伊賀市）

忍者衣装に着替えて、伊賀上野城の高石垣や上野公園を散策した後、忍者屋敷で様々なからくりを見学した。また、迫力ある忍者ショーを見学し、手裏剣打ち体験も行った。

②赤目四十八滝（名張市）

不動滝、千手滝、布曳滝を見学しながら溪谷内を散策するとともに、日本サンショウウオセンターでは、サンショウウオについて飼育員から説明を受けた後、実際にサンショウウオに触れる体験を行った。

《Dコース》

①伊勢神宮（伊勢市）

式年遷宮記念せんぐう館で、式年遷宮を通じて伝えられてきた日本の伝統的精神文化を学ぶとともに、伊勢神宮（内宮）では、神宮の持つ荘厳で凜とした空気を体感した。

②いつきのみや歴史体験館（明和町）

さいくう平安の杜の復元建物を見学し、いつきのみや歴史体験館にて、平安装束の試着や盤すごろく等、平安時代の遊びを体験した。



Aコース（御在所岳）



Bコース（まごの店）



Cコース（伊賀流忍者博物館）



Dコース（いつきのみや歴史体験館）

【成果発表・三重県送別ランチレセプション】

4月26日（火）11時から、ホテル花水木「花翠の間」において、総理夫人が臨席する中、ジュニア・サミット参加者による成果発表として『桑名ジュニア・コミュニケ』が発表された。4つのサブテーマごとに、各国からの参加者が発表し、日本代表参加者が日本語で概要を述べた。

（『桑名ジュニア・コミュニケ』はP 404参照。）

成果発表後、三重県送別ランチレセプションが行われ、県立白子高等学校吹奏楽部による演奏の後、参加者と招待者が交流を図った。



成果発表

【総理表敬訪問】

4月27日（水）17時半過ぎから首相官邸において、ジュニア・サミット参加者らが、安倍総理を表敬訪問し、『桑名ジュニア・コミュニケ』を提出するとともに、議論の成果及び滞在中の感想などを報告した。



各国代表による総理表敬訪問*

【送別レセプション】

4月28日(木)18時30分から都内ホテルにて送別レセプションが行われた。このレセプションをもってすべての公式プログラムが終了し、「2016年ジュニア・サミット in 三重」が閉幕した。



送別レセプションでの集合写真

(4) ジュニア・サミットへの県民参加

【県内の中・高校生等の参加】

県民会議では、サミットの開催を一過性のものとせず開催の経験を「明日へつなぐ」ため、今回のジュニア・サミットに、一人でも多くの次代を担う子どもたちが参加する機会を設ける取組を展開した。

①日本代表参加者 県内高校生4名

②討議に資する視察及び県内分散型体験・交流行事への参加(案内・交流)

- ・討議に資する視察⇒県立四日市高等学校 9名
- ・県内分散型体験・交流行事⇒各地域の高校生(4コース×7名)28名

Aコース

県立桑名高等学校1名、県立川越高等学校1名、県立四日市高等学校1名、県立四日市南高等学校1名、私立暁中学校・高等学校1名、私立海星高等学校1名、私立鈴鹿中学校・高等学校1名

Bコース

県立津高等学校1名、県立津西高等学校1名、県立松阪高等学校1名、県立相可高等学校1名、私立高田高等学校1名、私立セントヨゼフ女子学園高等学校1名、私立三重高等学校1名

Cコース

県立上野高等学校2名、県立名張桔梗丘高等学校1名、県立名張高等学校1名、県立名張西高等学校1名、私立青山高等学校1名、私立桜丘高等学校1名

Dコース

県立宇治山田商業高等学校3名、県立伊勢高等学校3名、私立皇學館高等学校1名

③おもてなし

- ・県内農業高校等による花のプランターづくり(180個)
 - 県立四日市農芸高等学校、県立久居農林高等学校、県立相可高等学校、
 - 県立伊賀白鳳高等学校、県立明野高等学校、私立愛農学園農業高等学校 141名
- ・開催日程中のハンドベル演奏
 - 私立セントヨゼフ女子学園高等学校・中学校 32名
- ・県内分散型体験・交流行事でのおもてなし
 - 鈴鹿墨のパフォーマンス 私立鈴鹿高等学校書道部 14名
 - まごの店での昼食のふるまい 県立相可高等学校食物調理科 19名
 - 太鼓演奏 県立特別支援学校玉城わかば学園 31名
 - 歓迎 亀山市立関中学校 9名、松阪市立柿野小学校 21名
 - 多気町立西外城田保育園 19名、多気町立佐奈保育園 22名

県立上野高等学校 40名、明和町立みどり保育所 30名

お囃子演奏 亀山市立関小学校 17名

・送別ランチレセプション吹奏楽演奏等 県立白子高等学校吹奏楽部30名

スタンド花作成 県立久居農林高等学校 3名

・参加者用名札（伊賀くみひも）の作成

県立杉の子特別支援学校石薬師分校、県立特別支援学校伊賀つばさ学園 19名

・土産品 マイ箸袋（さをり織り）の作成

県立稲葉特別支援学校、県立特別支援学校西日野にじ学園 25名

・ウェルカムメッセージの作成（開発したまごころ商品とともに）

県立相可高等学校生産経済科 5名（協賛：万協製薬株式会社）

【県民の参加】

分散型体験・交流行事での各地案内やおもてなし、交流や、討議・宿泊会場におけるサポートデスク設置（看護師・臨床心理士、通訳ボランティアの配置、将棋体験などリフレッシュコーナーの設置）等、県民や企業、団体の参加・協力を得て実施した。



県内農業高校生による
花のプランターづくり



県立白子高等学校生による送別ランチ
レセプションでの吹奏楽演奏



サポートデスクの様子（将棋体験）

（5） 日本代表参加者の選考及び事前研修

日本代表参加者については、外務省から三重県に対し、代表4名を選出するよう依頼があった。三重県教育委員会及び三重県環境生活部において広く公募したうえで平成27年12月に選考会を実施し、男女2名ずつ、計4名を選考するとともに、県民会議において、平成28年1月から4月まで、全7回の事前研修を実施した。

【日本代表参加者】

- ・稲葉 陽樹さん 県立津高等学校 3年生 津市在住
- ・加藤 杏弥さん 県立川越高等学校 3年生 四日市市在住
- ・上堀内 陸王さん 私立東海高等学校（愛知県）2年生 桑名市在住
- ・藤山 春衣さん 県立四日市高等学校 3年生 四日市市在住

【事前研修】

- ①オリエンテーション・事前トレーニングⅠ（英語）
1月23日（土）9:30-12:30
- ②事前トレーニングⅡ（環境）
1月30日（土）13:00-17:00
- ③事前トレーニングⅢ（英語）
2月6日（土）9:30-12:30
- ④事前トレーニングⅣ（環境）
2月13日（土）10:00-16:00 フィールドワーク
- ⑤事前トレーニングⅤ（英語）
3月12日（土）9:30-12:30
- ⑥事前トレーニングⅥ（環境）※一部環境省と共催
3月19日（土）9:30-15:00
3月20日（日）8:45-16:40 フィールドワーク
- ⑦事前トレーニングⅦ（英語）
4月9日（土）9:30-12:30



日本代表による知事表敬訪問



事前トレーニングの様子

（6） 桑名市の取組**【市民会議の設立】**

開催地の桑名市においては、平成27年12月18日（金）、産業・経済関係分野、観光関係分野などの団体が参加し、「ジュニア・サミット桑名市民会議」が設立され、おもてなし部会、交流部会、発信部会、運営部会、危機管理部会、協賛部会、支援部会の計7部会を設置し、受入れ準備を行った。

【活動内容の概要】

ジュニア・サミット開催期間中、安全対策活動の一環として、桑名医師会や桑名消防本部と連携し、救急・医療体制を整えるとともに、桑名地域生活安全協会や長島地区防犯ボランティアなどで結成した「ジュニア・サミット防犯パトロール隊」による桑名市長島町地内のパトロールを実施した。

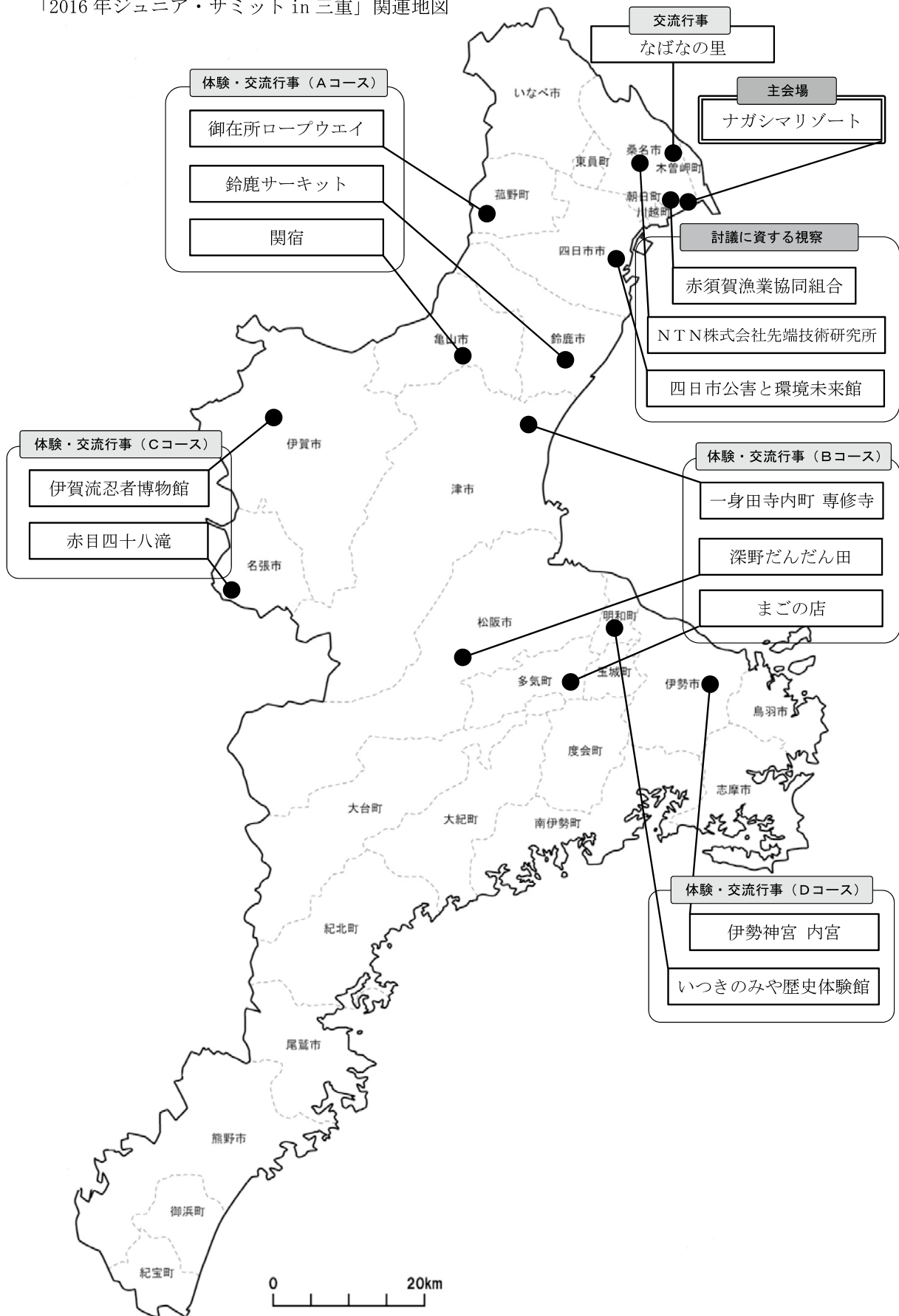
また、4月23日（土）の夜、なばなの里において、ジュニア・サミット参加者を歓迎する桑名市独自の交流事業「KUWANA NIGHT」を実施した。

さらに、開催期間中、県民会議と共催で宿泊施設内に設置したサポートデスクにて、桑名の千羽鶴を体験する「折り鶴ブース」や書道を体験する「書道ブース」を設けるとともに、参加者にプレゼントした伊勢形紙を使用した浴衣の着方をレクチャーする「浴衣講座」を開催し、参加者に桑名や日本の伝統文化を体感してもらう機会を提供した。

このほか、桑名市では、開催前、開催中の期間を通し、ジュニア・サミット桑名市民会議主催の開催100日前、50日前、30日前イベントや桑名エキシビションのほか、市内の企業や団体、自治会など様々な団体が主催したジュニア・サミット関連イベントが開催され、計48件、約8,400名の市民等が参加した。

〔ジュニア・サミットの写真：※は2016年ジュニア・サミットin三重事務局提供〕

「2016年ジュニア・サミット in 三重」関連地図



2 多様な主体における国際理解・国際交流事業

伊勢志摩サミット開催を契機に、参加国について学ぶ機会を設け、県民の皆さんのサミット開催に向けた機運やおもてなしの心を醸成するとともに、学校や市町、民間企業・団体等、多様な主体が、国際理解・国際交流を深めること、特に、次世代を担う子ども達にとって国際的な視野や感覚を身に付けるきっかけとなることを目的に、以下の事業を実施した。

(1) 国際理解・国際交流プログラムの開発及び実施

【平成27年度】

幼稚園・保育所、学校、市町、企業、団体等、多様な主体が行う授業や講座等に、サミット参加国出身の在住外国人や留学生などのサミット参加国に詳しい方々を講師として派遣し、参加国について、楽しみながら学べる18のプログラムを準備した。平成27年11月30日（月）から平成28年3月14日（月）までの期間で全91回実施し、約3,030人が参加した。

(開発したプログラム)

プログラム			
主に園児対象	参加国の遊びを楽しもう	主に中学生対象	参加国の料理を作ってみよう
	参加国の音楽を楽しもう		参加国の生活を知ろう
	参加国の言葉でお話してみよう		参加国について調べたことを講師に発表してみよう
主に小学校低学年対象	参加国の言葉でお話してみよう	主に高校生対象	参加国の生活を知ろう
	参加国の生活についてのクイズに挑戦		参加国の大学への留学方法、大学生活を知ろう
	参加国の音楽を楽しもう		参加国について調べたことを講師に発表してみよう
主に小学校高学年対象	参加国の料理を作ってみよう	主に一般県民対象	親子で参加国の遊びを体験してみよう
	参加国を世界地図で探そう		参加国の家庭料理を作ってみよう
	参加国のスポーツを体験してみよう		参加国の音楽を楽しもう

(実施回数)

	実施地域					回数計
	北勢	中南勢	伊賀	伊勢志摩	東紀州	
幼稚園・保育所	12	5	1	7	0	25
小学校	15	10	3	5	1	34
中学校	4	1	0	5	0	10
高等学校	2	0	1	4	0	7
特別支援学校	3	1	0	1	0	5
一般	4	0	3	3	0	10
計	40	17	8	25	1	91

※申込は196回分あった。

(実施状況)

実施日	実施主体	対象国	参加者	実施日	実施主体	対象国	参加者
H27.11.30	三重県立鳥羽高等学校	イタリア	3年生10名	H28.1.13	鈴鹿市立一ノ宮幼稚園	アメリカ	5歳児16名
H27.12.4	津市立養正小学校	ドイツ	5～6年生80名	H28.1.14	大台町立宮川小学校	ドイツ	5年生14名
H27.12.7	志摩市立大王幼稚園	ドイツ	4歳児31名	H28.1.17	志摩国際交流協会	アメリカ	一般県民約40名
H27.12.7	志摩市立大王幼稚園	ドイツ	5歳児29名	H28.1.18	いなべ市立中里小学校	アメリカ	1～2年生9名
H27.12.8	大台町立三瀬谷小学校	ドイツ	3年生20名	H28.1.19	桑名市立大和小学校	アメリカ	4年生17名
H27.12.8	大台町立三瀬谷小学校	ドイツ	3年生20名	H28.1.21	志摩市立下之郷保育所	ドイツ	5歳児28名
H27.12.8	三重県立盲学校	アメリカ	小学部1～2年生10名	H28.1.24	子どもアイデア楽工	アメリカ	小学校高学年約10名
H27.12.9	伊勢市立神社幼稚園	アメリカ	4～5歳児15名	H28.1.24	子どもアイデア楽工	アメリカ	小学校低学年約10名
H27.12.9	伊賀総合ケアセンターシルバーケア豊壽園	アメリカ	施設利用者20名	H28.1.25	しまの杜保育園	ドイツ	5歳児22名
H27.12.10	三重県立くわな特別支援学校	アメリカ	小学部4～6年生20名	H28.1.25	子育てセンターわくわくの森	ドイツ	親子約30名
H27.12.10	三重県立くわな特別支援学校	アメリカ	小学部1～3年生15名	H28.1.26	尾鷲市立宮之上小学校	イタリア	1～2年生41名
H27.12.11	高花平保育園	アメリカ	4～5歳児35名	H28.1.28	三重県立度会特別支援学校	ドイツ	高等部18名・中学部11名・小学部6名
H27.12.12	伊勢学園高等学校	アメリカ	3年生41名				
H27.12.12	伊勢学園高等学校	アメリカ	3年生40名	H28.1.28	津市立一志西小学校	カナダ	5年生30名
H27.12.14	玉城町立外城田保育所	フランス	5歳児48名	H28.1.28	津市立一志西小学校	カナダ	5年生30名
H27.12.14	玉城町立外城田保育所	フランス	4歳児33名	H28.2.1	南伊勢町立南島西小学校	ドイツ	5年生13名
H27.12.14	桑名市立多度青葉小学校	アメリカ	2年生17名・3年生18名	H28.2.1	三重県立四日市農芸高等学校	イタリア	2年生20名
H27.12.14	暁幼稚園	アメリカ	5歳児65名	H28.2.2	伊勢市立港中学校	アメリカ	2年生56名
H27.12.14	マリア・モンテッソーリ幼稚園	イタリア	3～6歳児80名	H28.2.2	伊勢市立港中学校	アメリカ	2年生56名
H27.12.14	三重県立くわな特別支援学校	イタリア	中学部1～3年生20名	H28.2.3	津田学園中学校	イタリア	1年生29名
H27.12.15	亀山市立亀山東小学校	ドイツ	6年生37名	H28.2.4	志摩市立磯部小学校	ドイツ	1年生41名
H27.12.15	亀山市立亀山東小学校	ドイツ	6年生38名	H28.2.4	三重県立桑名西高等学校	イタリア	2年生40名
H27.12.15	津市立新町小学校	カナダ	1年生86名	H28.2.5	三重県立宇治山田商業高等学校	イタリア	1年生40名
H27.12.16	名張市立桔梗が丘東小学校	フランス	6年生25名	H28.2.5	名張市立梅が丘小学校	カナダ	5～6年生11名
H27.12.16	名張市立桔梗が丘東小学校	フランス	3年生32名	H28.2.9	四日市市立楠中学校	イタリア	1年生42名
H27.12.17	鈴鹿市立神戸小学校	アメリカ	6年生31名	H28.2.9	四日市市立楠中学校	イタリア	1年生42名
H27.12.17	鈴鹿市立神戸小学校	アメリカ	6年生31名	H28.2.9	四日市市立楠中学校	イタリア	1年生42名
H27.12.17	鈴鹿市立神戸小学校	アメリカ	6年生31名	H28.2.9	名張市立薦原保育所	カナダ	1～5歳児36名
H27.12.17	鈴鹿市立神戸小学校	アメリカ	6年生31名	H28.2.10	くわな幼稚園	アメリカ	5歳児100名
H27.12.17	安永保育園	アメリカ	5歳児27名	H28.2.15	ファボール鳩(とき)	イタリア	施設利用者10名
H27.12.17	志摩市立鵜方小学校	イギリス	1年生28名	H28.2.18	鈴鹿市箕田公民館	ドイツ	一般県民12名
H27.12.17	志摩市立鵜方小学校	イギリス	1年生26名	H28.2.18	津市立安濃小学校	アメリカ	5年生30名
H27.12.17	志摩市立鵜方小学校	イギリス	1年生27名	H28.2.22	津市立桃園幼稚園	アメリカ	3～5歳児67名
H27.12.17	津市立神戸小学校	アメリカ	1年生30名	H28.2.22	いなべ市立阿下喜小学校	イタリア	3～6年生15名
H27.12.17	桑名市立山崎乳児保育所	アメリカ	5歳児25名	H28.2.26	伊賀市国際交流協会	フランス	一般県民20名
H27.12.18	伊勢市立城田中学校	イギリス	2年生52名	H28.3.1	津市立みさと幼稚園	アメリカ	5歳児21名
H27.12.18	三重県立名張桔梗丘高等学校	イタリア	2年生53名	H28.3.2	くわな幼稚園	アメリカ	4歳児107名
H27.12.21	津愛児園	イタリア	3～5歳児70名	H28.3.3	桑名市立大山田東小学校	カナダ	2年生60名
H27.12.22	四日市市立下野中央保育園	アメリカ	5歳児19名	H28.3.3	桑名市立大山田東小学校	カナダ	2年生60名
H27.12.23	水谷新聞店	アメリカ	親子10名	H28.3.3	桑名市立大山田東小学校	カナダ	2年生30名
H27.12.24	朝日学童保育所	アメリカ	1～5年生20人	H28.3.4	亀山愛児園	アメリカ	4～6歳児45名
H27.12.25	明和町立ささふえ保育所	ドイツ	5歳児29名	H28.3.5	伊勢市生活環境部市民交流課	アメリカ	一般県民30名
H27.12.25	あかつき保育園	イタリア	5～6歳児21名	H28.3.9	桑名ヒッポファミリークラブ	アメリカ	4～10歳児及び保護者12名
H28.1.6	Kids Duo津	ドイツ	3～6歳児15名	H28.3.14	松阪市立大江中学校	ドイツ	1～2年生16名
H28.1.6	Kids Duo津	ドイツ	6～10歳15名	H28.3.14	南伊勢町立南島中学校	イギリス	2年生37名
H28.1.10	ボーイスカウト桑名第三団ビーバー隊	アメリカ	親子約50名	H28.3.14	南伊勢町立南島中学校	アメリカ	1年生34名



プログラムのリーフレット（平成27年度）



大台町立三瀬谷小学校での様子

【平成28年度】

平成28年度については、27年度事業を踏襲しつつ、特に、次世代を担う子どもたちが国際的な視野や感覚を身に付けるきっかけとなることを目的とし、学校（小学校・中学校・高等学校・特別支援学校）を対象として、12のプログラムを準備し、平成28年6月6日（月）から平成28年10月11日（火）までの期間で全30回実施し、約900人が参加した。

（プログラム）

プログラム			
主に小学校 低学年対象	参加国の言葉でお話してみよう	主に中学生 対象	参加国の言葉でお話してみよう
	参加国の生活についてのクイズに挑戦		参加国の生活を知ろう
	参加国の音楽を楽しもう		参加国について調べたことを講師に発表してみよう
主に小学校 高学年対象	参加国の言葉でお話してみよう	主に高校生 対象	参加国の生活を知ろう
	参加国の生活についてのクイズに挑戦		参加国について講師に質問してみよう
	参加国を世界地図で探そう		参加国について調べたことを講師に発表してみよう

（実施回数）

	実施地域					回数計
	北勢	中南勢	伊賀	伊勢志摩	東紀州	
小学校	11	3	3	1	1	19
中学校	5	0	0	1	0	6
高等学校	0	1	0	0	0	1
特別支援学校	1	3	0	0	0	4
計	17	7	3	2	1	30

※申込は、56回分あった。

(実施状況)

実施日	実施主体	対象国	参加者	実施日	実施主体	対象国	参加者
H28.6.6	桑名市立多度青葉小学校	アメリカ	5年生18名	H28.6.27	四日市市立西朝明中学校	アメリカ	3年3組約31名
H28.6.8	鈴鹿市立明生小学校	イタリア	6年生47名	H28.6.27	四日市市立西朝明中学校	アメリカ	3年4組約31名
H28.6.9	伊賀市立依那古小学校	アメリカ	1・2年生35名	H28.6.28	三重県立稲葉特別支援学校	ドイツ	高等部3年生26名
H28.6.10	いなべ市立丹生川小学校	アメリカ	2年生17名	H28.6.30	四日市市立桜台小学校	イタリア	5年生24名
H28.6.10	いなべ市立丹生川小学校	アメリカ	1年生14名	H28.6.30	四日市市立桜台小学校	イタリア	5年生25名
H28.6.13	三重県立飯南高等学校	イタリア	2年生17名	H28.7.14	三重県立緑ヶ丘特別支援学校	ドイツ	中部部・高等部10名
H28.6.13	鈴鹿市立若松小学校	アメリカ	2年生60名	H28.9.9	松阪市立射和小学校	イギリス	6年生30名
H28.6.14	三重県立城山特別支援学校	イタリア	中学部1・3年生14名	H28.9.9	松阪市立射和小学校	イギリス	5年生31名
H28.6.16	皇學館中学校	アメリカ	3年生46名	H28.9.12	伊賀市立久米小学校	アメリカ	3年生33名
H28.6.22	松阪市立第二小学校	カナダ	5年生21名	H28.9.26	三重県立特別支援学校 北勢きらら学園	アメリカ	中部部1~3年生26名
H28.6.22	名張市立桔梗が丘南小学校	アメリカ	5年生39名	H28.9.28	鈴鹿市立旭が丘小学校	イタリア	5年生約66名①
H28.6.22	津田学園中学校	アメリカ	1年生27名	H28.9.28	鈴鹿市立旭が丘小学校	イタリア	5年生約33名②
H28.6.24	熊野市立五郷小学校	イタリア	1~6年生14名	H28.9.28	鈴鹿市立旭が丘小学校	イタリア	5年生約33名③
H28.6.27	四日市市立西朝明中学校	アメリカ	3年1組約31名	H28.9.28	鈴鹿市立旭が丘小学校	イタリア	5年生約33名④
H28.6.27	四日市市立西朝明中学校	アメリカ	3年2組約31名	H28.10.11	玉城町立田丸小学校	フランス	5年生41名



プログラムのリーフレット（平成28年度）



県立飯南高等学校でのプログラムの様子

(2) 参加国紹介等パネルの作成・展示

サミット及びサミット参加国紹介、過去に開催されたサミットの年表、過去に日本で開催されたサミット当時の世相を紹介するパネルを作成し、平成27年9月5日（土）の第1回伊勢志摩サミットフォーラム以降、三重テラスや「2016年ジュニア・サミットin三重」の主会場である桑名市内などにおける各イベント等で展示した。



イオンモールでの展示



展示パネル例

(3) 国際理解・国際交流に資するイベントや講演会

平成27年11月14日（土）、15日（日）、紀北町で開催された「第10回子育て応援！わくわくフェスタ」にブースを出展した。子どもや子育て世代を対象として、サミット参加国を含む海外に関心を持っていただくため、サミット及びサミット参加国紹介パネルの展示や、国旗を使った折り紙やパズルを楽しんでいただいた。また、伊勢志摩サミットに関心を持っていただくため、多くの来場者の参加を得て、伊勢志摩サミット開催までのカウントダウンボードを手づくりで作成した。完成したカウントダウンボードは、伊勢志摩サミット開催まで道の駅「紀伊長島マンボウ」に掲示し、機運醸成の一助とした。



ブース



作成したカウントダウンボード

平成28年1月19日（火）、津市との共催事業として、津市立南が丘中学校で在名古屋米国領事館首席領事を講師として招き、「伊勢志摩サミット国際理解講演会」を開催した。首席領事スティーブン・G・コバチーチ氏から「アメリカ人の目から見た日本」と題した講演をいただき、その後前葉津市長を交え、生徒たちと対話を行った。1～2年生の生徒約240名、教職員約20名が聴講した。



津市立南が丘中学校での講演会

(4) 外務省事業「イチからわかる！サミット塾」の支援

当事業は、外務省が、次世代を担う子ども達に外交についての関心を高めていただくとともに、伊勢志摩サミットを世代を超えて盛り上げるため、三重県内の小・中・高等学校に職員を派遣するものであり、伊勢志摩サミット三重県民会議では、募集や申込受付等について支援を行った。

平成27年12月7日（月）から平成28年3月15日（火）までの期間で、小学校15校、中学校5校、高等学校9校で実施し、4,670人を超える児童・生徒が参加した。



県立上野高等学校での様子

3 大学生・留学生との交流事業

サミットの開催成果を確かな資産として「明日へつなぐ」ため、県外大学生や留学生が三重に集い、県内高等教育機関の学生や留学生と共に、サミットに関するグローバルなテーマ等について討議を行う大学生版のサミットを開催した。

(1) 概要

- ①名称 「2016大学生国際会議in三重」(略称：UNICOM/ユニコム)
英語名：University Students' International Conference in Mie
- ②主催 伊勢志摩サミット三重県民会議
一般社団法人KIP知日派国際人育成プログラム
- ③後援 外務省
- ④期間 平成28年8月31日(水)から9月3日(土)まで3泊4日
- ⑤場所
 - 伊勢市：神宮会館 他伊勢市内各所(8月31日・9月1日・3日)
 - 南伊勢町：海ぼうず 他南伊勢町内各所(9月1日・2日)
- ⑥参加者
 - 県外大学生、留学生 53人(うち留学生15人)
 - 県内高等教育機関の学生、留学生 23人(うち留学生4人)
 - 計 76人(うち留学生19人)

⑦主な内容

- 知事講話
テーマ「未来を担う若者へ」
- 討議に資する視察等
 - 伊勢市内視察
 - ・伊勢神宮(外宮)、せんぐう館、外宮参道(8月31日)
 - ・伊勢神宮(内宮)(9月1日)
 - ・分散型(9月1日)
 - Aコース：神宮神田、御塩浜、岩戸の塩工房など
 - Bコース：神宮徴古館、おはらい町・おかげ横丁など
 - Cコース：伊勢河崎商人館、伊勢古市参宮街道資料館、麻吉旅館など
 - 南伊勢町一次産業現場視察・体験(分散型)(9月2日)
 - Aコース：みかん(①ないぜしぜん村、②農事組合法人土実樹)
 - Bコース：干物(有限会社山藤)
 - Cコース：スナップエンドウ(伊勢農協南勢・南島育苗センター)
 - Dコース：アサリ養殖(五ヶ所前浜)
 - Eコース：小麦栽培・獣害対策(河内地区)
 - 志摩市視察(9月3日)

横山展望台

○討議

討議Ⅰ

「～地域資源を活用した地方創生～『ふるさと納税は地域活性化や地域のためになるのか』」

討議Ⅱ

「～地場産業とグローバル社会～『貿易の自由化は促進されるべきか』」

○総括討議

「三重県における地域活性化の方法について」

(2) 取組内容**① 1日目(8月31日(水))****【開会式】**

主催者あいさつでは、鈴木知事から「多様な価値観を共有し、新しいイノベーションを生む4日間となることを期待する」と話があった。

参加者代表あいさつでは、「日本中の学生や留学生とともに内なる国際化を図れることを楽しみにしている。イノベーションに満ちた4日間としたい」と決意が述べられた。

【知事講話】

開会式後、知事から「未来を担う若者へ」と題した講話があり、参加者は熱心に知事の話聴講した。

【伊勢市内視察】

伊勢神宮外宮へ移動し、班別に神宮司庁職員の案内による外宮訪問や学芸員の案内によるせんぐう館見学を行うとともに、県内学生ボランティアから外宮参道のまちづくりの取組の説明や案内を受けながら、外宮参道周辺を散策した。

【交流】

夜は宿泊先である神宮会館において、参加者が企画した交流行事が行われ、クイズやゲームなどで参加者同士の親睦を深めた。



UNICOM参加者記念撮影



伊勢神宮外宮訪問



せんぐう館の視察

②2日目（9月1日（木））

【伊勢市内視察】

古から伊勢に伝わる朔日詣の文化を体感するため、早朝から伊勢神宮内宮を訪問した。また、午後の討議Ⅰのテーマ「～地域資源を活用した地方創生～」に関連して、伊勢神宮や伊勢の文化に触れ、伊勢ならではの地域資源の保全や活用方法を学ぶため、3班に分かれて、神宮神田、御塩浜、岩戸の塩工房、神宮徴古館、おはらい町・おかげ横丁、伊勢河崎商人館、伊勢古市参宮街道資料館、麻吉旅館などを視察した。

【討議Ⅰ】

午後、11グループに分かれ、討議テーマⅠ「～地域資源を活用した地方創生～『ふるさと納税は地域活性化や地域のためになるのか』」について討議を行った。

参加者からは、「ふるさと納税は、日本には根付いていない『寄附』という文化への第一歩として捉えてはどうか」や「ふるさと納税を通じて、自分の町を真剣に考えるきっかけになり、希薄化している郷土への愛着を強めることにつながる」といった賛成の意見や、「生産者は、製品の良さを知ってもらいたいと思っているが、納税者は人気に左右されがちであり、本来生産者が伝えたいモノの価値が伝わらない」といった反対の意見が出るなど、学生ならではの自由な視点から、闊達な意見交換が行われた。

【交流】

夕方、南伊勢町に移動し、夜、小山南伊勢町長からの歓迎挨拶の後、相賀浦区の住民の皆さんとともに「大漁旗」を作り、交流を深めた。



伊勢神宮内宮訪問



伊勢神宮神田の視察



おはらい町の視察



伊勢河崎商人館の視察



討議Ⅰ



相賀浦区住民と大漁旗作成

③3日目（9月2日（金））

【南伊勢町現地視察・体験】

午後からの討議に生かすため、午前中5コース（6班）に分かれ、以下の施設を視察し、実際に作業体験を行った。

○Aコース：みかん（ないぜしぜん村、農事組合法人土実樹）

南伊勢町特産品のみかん生産、加工販売や商品の高付加価値化に向けた取組等を学ぶとともに、みかんの摘果作業やジュース加工等の体験を行った。

○Bコース：干物（有限会社山藤）

南伊勢町の基幹産業ともいえる漁業に関し、水産加工業の実情や商品の高付加価値化、差別化などの取組等を学ぶとともに、干物づくりの体験を行った。

○Cコース：スナップエンドウ（伊勢農協南勢・南島育苗センター）

南伊勢町の新たな振興作物として、生産に注力しようとする生産の現場から、その取組に係る背景や取組内容等を学ぶとともに、スナップエンドウの播種作業の体験を行った。

○Dコース：アサリ垂下養殖（五ヶ所前浜 アサリ養殖場）

漁獲量が減少しているアサリに関し、養殖技術の発展を踏まえ、漁場整備や資源管理など漁獲量の増加に向けた取組等を学ぶとともに、アサリの垂下試験栽培に関する作業の体験を行った。

○Eコース：小麦栽培・獣害対策（河内地区小麦栽培予定地）

一次産業を中心に、地域活性化に向けた新規就農の取組や、近年、一次産業に深刻な影響を及ぼしている獣害被害の実状と対策のための取組等を学ぶとともに、獣害対策用防護柵の張替作業等の体験を行った。

【討議II】

午後、11グループに分かれ、討議テーマII「～地場産業とグローバル社会～『貿易の自由化は促進されるべきか』」について討議を行った。参加者からは「海外から安い商品が大量に流入するという懸念があるが、高い品質とブランド化で防ぐ必要がある。また、自由化により海外市場が拡大するため、そういう意味でもブランド化を図る必要がある」「ブランド化を進めるには、情報発信が課題となる。地元の大学とのコラボレーションを進めてはどうか」といった賛成の意見や、「一次産業が衰退すると食料自給率の低下や日本固有の文化の衰退が起こる」といった反対の意見、「ブランド化が簡単にできるのか。ブランド化できる地場産業がない地域はどうしたらよいか」といった意見など、多角的な視点から幅広い意見が出され、深い議論が行われた。



みかん摘果作業の視察



みかん生産・加工販売等の視察



干物づくり体験



スナップエンドウ播種作業の視察



アサリ採苗設置作業の視察



獣害対策用防護柵の張替作業の視察



討議II



南伊勢町「たいみー」のおもてなし



交流行事を終えて記念撮影

④4日目（9月3日（土））

【志摩市視察】

南伊勢町から伊勢市への移動の途中、伊勢志摩サミットが開催された賢島を望める横山展望台を訪問した。

【総括討議】

神宮会館において、伊勢市、南伊勢町で行った視察及び討議を踏まえて、三重県における地域活性化の方法について討議し、知事に対し提案が行われた。

主な提案としては、三重のみかんを日本一にするブランディングについて、修学旅行でミカン農家の体験をしたり、みかんのキャラクターでアニメを作ることや、三重への若者観光客のリピーター増加について、農業体験、住みこみキャンプなど三重の特性を生かしたイベントの企画、SNSでの発信や、三重県でのビジネスフォーラムの開催など、若者の視点で具体策の提案が行われた。

【閉会式】

参加者代表から「都会でなく自然豊かな三重で、いろんな視点で議論できたことは勉強になった」「地元の方と交流でき、視野が広がって良かった。今後もこうしたイベントに参加したい」「一生自分の背中を押してくれる財産となった」など、日程を終えた感想等が述べられた。

【伊賀市視察】《オプション》

午後、希望者のみ伊賀の文化を体感するため、伊賀市の上野公園に移動し、伊賀流忍者博物館や伊賀上野城などを視察した。



横山展望台



総括討議



学生からの提案に対する知事コメント

4 サミット協力宿泊施設経営向上支援補助金

伊勢志摩サミット終了後の取組の一つとして、「サミット協力宿泊施設経営向上支援補助金」制度を創設し、平成28年7月1日から募集を開始した。

宿泊予約センターによるサミット関係者の宿泊の確保・調整業務に協力した宿泊施設（約300施設）のうち、「三重県版経営向上計画ステップ2または3」の認定を受けた中小企業・小規模企業を対象として、上限100万円（下限50万円；定額）を補助し、サミットを機に一層の経営向上を図り、サミット後の経営環境に即した集客力や生産性の向上、高付加価値化などに取り組むことを支援することとした。

5 伊勢志摩サミット開催記念・三重の魅力再発見キャンペーン

伊勢志摩サミット終了後の取組の一つとして、サミットやジュニア・サミットの開催を機に再発見された三重の魅力ある食、文化、産業、観光スポットなどの観光資源を広くPRするとともに、企画ツアー等を通じた具体的な集客により三重の魅力を体験・体感し、積極的に発信してくれるファンづくりに取り組むこととした。

6 伊勢志摩サミット記念館（仮称）の設置

伊勢志摩サミット開催を記念し、サミットの様子や使用された調度品・県産材等の紹介を行うこと等により、サミットの足跡を後世に伝えるものとして、近鉄賢島駅2階に伊勢志摩サミット記念館（仮称）を設置することとした。

第5章 三重の発信

1 ホームページ、SNSでの発信

伊勢志摩サミット三重県民会議の活動等をタイムリーに周知していくため、伊勢志摩サミット開催決定後、平成27年6月5日（金）にSNS（Facebook、Twitter）を、6月8日（月）にホームページをそれぞれ開設した。

（1）ホームページ

平成27年6月8日の開設以降、平成28年2月16日（火）まで、県民会議の職員が更新作業等を行い運用した。しかしながら、伊勢志摩サミット開催が近づき、発信すべき情報が日々増す中、職員のみではタイムリーな発信が困難となってきたことから、2月17日（水）のホームページリニューアル以降、運営を事業者への委託へ切り替えた。切り替えにあたっては、三重県の実施する企業の本社機能移転促進補助金事業適用の第1号である、株式会社FIXERにホームページの開発・構築を協賛いただき、以降の運営は同社と業務委託契約を締結し実施した。



リニューアル式

委託期間中は時期に合わせてホームページの構成を適宜変更し、その時々で必要な情報、提供すべき情報、例えば、開催数カ月前から警備・交通規制情報をトップページに常に表示したり、報道機関が集まり始めるサミット開催1週間前には、報道機関向け情報を表示したりすることで、アクセスしやすい運営を行った。

また、一部のコンテンツについては、多言語（日・英・仏・独・伊）に対応した。

開設からサミット最終日の平成28年5月27日（金）までの間に約98万件のページビューがあり、一日あたりの最多は5月25日（水）の約43,000件のページビューであった。

【掲載内容】

○三重県概要など

県民会議会長あいさつ、開催地（賢島）情報、三重県の基礎情報（人口、面積など）等

○サミット情報

県民会議の最新情報、サミット概要、警備・交通規制情報等

○伝統・文化

三重県の「伝統」と「革新」、自然、食等

○三重の産業

産業構造、ものづくり産業、農林水産業、インフラ等

○伊勢志摩サミット三重県民会議とは

県民会議概要、県民会議事業紹介、シンボルマーク紹介、サミット通信掲載等

○協賛、応援、寄附

協賛事例・応援事業事例の紹介、寄附の紹介等

○気候・アクセス

気候、アクセス、宿泊予約センター、プレス向けシャトルバス等



サミット終了後日本語版HP



サミット終了後英語版HP



(2) SNS

平成27年6月5日にFacebook及びTwitterを開設して以降、伊勢志摩サミット三重県民会議の取組や三重県の情報を発信した。開催直前は、三重県警察、愛知県警察、外務省のFacebook、Twitterに掲載されたサミット情報、警備・交通規制情報をシェア・リツイートするなどし、タイムリーな情報発信を行った。

【サミット終了時点での実績】

Facebook	投稿数：329件	通算「いいね」：6,121いいね
Twitter	投稿数：331件	フォロワー数：1,333フォロワー

また、サミット終了後も、「サミット裏話・こぼれ話」と題して、サミットに関する様々な情報を継続的に発信した。

2 ポスターによるPR

サミット開催への期待感と県民会議の基本方針である「おもてなし」「三重の発信」「明日へつなぐ」への県民の皆さんの機運醸成を図ることを目的に、伊勢志摩サミット三重県民会議公式ポスターを第1弾から第5弾まで制作し、県民会議会員や県内市町等に配布して掲出を依頼した。また応援事業として自社の店舗やイベントにおいてポスターを掲出する企業、団体もあった。なお、各弾のテーマは以下のとおりである。

※（ ）は印刷枚数

第1弾	サミット開催の告知	(35,700枚・英語版2,700枚含む)
第2弾	県民会議シンボルマークの決定	(12,000枚)
第3弾	サミット開催に向けてのおもてなしの心	(15,000枚)
第4弾	三重から世界へ(三重の魅力の発信)	(15,000枚)
第5弾	明日へつなぐ	(13,500枚)

第1弾【平成27年7月～】



第1弾【英語版】



第2弾【平成27年10月～】



第3弾【平成27年12月～】



第4弾【平成28年3月～】



第5弾【サミット終了後】



(1) デザインの公募

第3弾及び第4弾のポスターは公募とし、選考委員会による審査・決定を経て制作した。

①伊勢志摩サミット三重県民会議公式ポスター選考委員会

- 座長 水谷 孝次 氏 水谷事務所/MERRYPROJECT代表・アートディレクター
 委員 田端 英明 氏 公益社団法人三重県観光連盟専務理事（県民会議事業推進部会長）
 江崎 貴久 氏 海島遊民くらぶ代表
 三田 絢子 氏 有限会社伊勢福・広報担当
 森岡 佳菜 氏 三重大学大学院工学研究科建築学専攻



ポスター選考委員の皆さん

②第3弾ポスター選定の経過

応募資格：不問

応募期間：平成27年10月14日（水）から11月13日（金）まで

応募作品：22作品

最優秀賞：家田 幸奈さん（愛知県名古屋市）

（制作意図）

「お祝い事などの贈り物に使われる水引には贈る相手への想いがこめられ、日本ならではのおもてなしの心が宿っています。そこで、伊勢志摩を象徴する伊勢エビを各国をあらわす7本の紐で水引にしました。結び方は、匏結びという種類の結び方を参考にアレンジして制作いたしました。匏結びは、結び目が絡み合い、互いの輪が互いに結びあっていることからいつまでも良きお付き合いをとの願いが込められているそうです。伊勢志摩サミットをきっかけとして各国との絆が末永く結ばれればと思います。」

優秀賞：奥山 知香さん（度会郡玉城町）

有村 綾さん（兵庫県神戸市）

丹羽 和乃さん（岐阜県海津市）

③第4弾ポスター選定の経過

応募資格：不問

応募期間：平成27年12月21日（月）から平成28年2月5日（金）まで

応募作品：31作品

最優秀賞：積木 孝典さん（津市）

（制作意図）

「海から昇る日の出と水面のゆらぎをモチーフに、三重の魅力の根源でもある『自然の恵み、祈り、感謝』を表現しました。ゆらぎをイメージしたイラストは、海山の幸、祈りや感謝から生まれた文化・伝統、四季のうつろいや自然との営み等の三重の多彩な魅力を表し、美しく華やかな色調となるように心がけて、制作しました。また、太陽と重なる7つの水しぶきは、サミット参加国を表し、この地から明るい未来と平和の波を三重の魅力と共に、世界に広げてほしいという願いが込められています。」

優秀賞：坂倉 亮子さん（津市）

安藤 真理さん（愛知県名古屋市）

秀島 康修さん（愛知県名古屋市）

④ポスター表彰式

第3弾ポスターについては平成27年12月18日（金）、第4弾ポスターについては平成28年3月16日（水）に、それぞれ県庁において表彰式を行った。表彰式では、鈴木知事から賞状が手渡された。



各表彰式の記念撮影

(2) 広告の募集

サミット開催に伴う各事業へより多くの方々に参加していただく機会づくりのひとつとして、社名広告を前提としたポスターの印刷・発送費用を負担する協賛事業者を募集した。

【応募事業者（五十音順）】

（第3弾）6社

イオングループ、損害保険ジャパン日本興亜株式会社、株式会社第三銀行、株式会社トーエネック、株式会社ナミカワ、株式会社百五銀行

（第4弾）11社

イオングループ、J Aグループ三重、損害保険ジャパン日本興亜株式会社、株式会社第三銀行、東京海上日動火災保険株式会社、日本通運株式会社三重支店、株式会社百五銀行、株式会社三重銀行、三重交通グループホールディングス株式会社、株式会社三菱東京U F J銀行、明治安田生命保険相互会社

(3) 県民会議公式ポスター公募原画展の開催

応募者の皆さんの力作を多くの方々にご覧いただくため、応募作品の原画展をイオングループの協賛により下記のとおり開催した。

①展示したポスター及び内容

(第3弾) 応募数：22作品（うち展示に対し応募者から了承を得られた15作品）

(第4弾) 応募数：31作品（うち展示に対し応募者から了承を得られた30作品）

応募作品と併せて、制作にあたっての本人のコメントを展示した。

②日程

- ・ 3月24日（木）～ 3月27日（日） イオン津ショッピングセンター
- ・ 4月1日（金）～ 4月3日（日） イオンモール鈴鹿
- ・ 4月8日（金）～ 4月10日（日） イオン名張店
- ・ 4月15日（金）～ 4月17日（日） イオンモール東員
- ・ 4月22日（金）～ 4月24日（日） イオンモール桑名
- ・ 4月29日（金）～ 5月1日（日） イオンモール四日市北
- ・ 5月6日（金）～ 5月8日（日） イオンモール明和
- ・ 5月13日（金）～ 5月15日（日） イオン伊勢店
- ・ 5月20日（金）～ 5月22日（日） イオン鳥羽店
- ・ 5月27日（金）～ 5月29日（日） イオン阿児店

③協賛内容

展示スペース及び展示備品の無償貸与

④主催・協力

主催：伊勢志摩サミット三重県民会議

協力：イオングループ



原画展（イオンモール鈴鹿）



原画展（イオンモール明和）

（4）スマートフォンの壁紙利用によるPR

県民の皆さんにスマートフォンの壁紙としてポスターの画像を利用させていただくことで、通常のポスター掲出と併せて一層のPRにつなげた。自身のスマートフォンから県民会議ホームページ及びFacebookにてポスターデータをダウンロードし、壁紙として設定する方法を採った。

3 シンボルマーク

三重県全体が一体となり、サミット開催に向けた活動を盛り上げていくために、伊勢志摩サミット三重県民会議の活動を象徴するマークとして、シンボルマークを制作した。制作にあたっては、デザイナーの近藤敦也氏に候補案を制作いただき、県民投票及び県民会議会長、副会長、理事の投票を経て決定した。

平成27年10月13日（火）の決定からサミット終了まで、企業・団体・個人の皆さんにシンボルマークを様々な形で活用いただき、県民会議としても公式ポスター、懸垂幕・横断幕、ノベルティ等で活用した。



伊勢志摩サミット
三重県民会議

（1）制作経緯

①制作者への依頼

平成27年8月21日（金）、鈴木知事より、四日市市在住のデザイナー近藤敦也氏に候補案制作を依頼した。

近藤氏は、県立特別支援学校北勢きらら学園在校時の作品が平成20年の北海道洞爺湖サミットのロゴマーク公募で最優秀作として採用された後、夢であったグラフィックデザインの仕事に従事し、継続的にデザインに関わってこられた。

このような背景から、今回のシンボルマーク制作にあたり、北海道



シンボルマーク制作依頼

洞爺湖サミットの経験を伊勢志摩サミットの成功と三重県の明日へつないでいくこと、また多様な主体に参画いただくことを県民会議からの強いメッセージとして県内外に伝えていくため、近藤氏が制作者に最もふさわしいと考え依頼した。




②候補案に対する県民投票、県民会議会長、副会長、理事による投票

「オール三重」で一丸となってサミットの成功に向けて取り組む県民会議のシンボルマークを決定するため、近藤氏に制作いただいたシンボルマーク候補案3件に対し、「オール三重」すなわち全県民対象の県民投票を実施した。

当該投票で候補案を上位2件へ絞った後、県民会議会長、副会長、理事による投票を経て、シンボルマークを決定した。

【県民投票概要】

○候補案

A 案	B 案	C 案
		
三重県から世界にメッセージを発信していくことを表現しています。サミットを機に、人々のつながりが三重県を飛び出して、国際的により発展してほしいという願いを込めています。	手を繋ぐ2人で、次世代へのつながりを表現しています。波線(なみせん)は、世界の人々と三重県の人々のつながりのタスキを表現しています。サミットで培われたあたたかなつながりを次世代へ受け継いでいこうという決意を込めています。	赤色の円と包む葉で、おもてなしの心を表現しています。3本の波線で、三重の三、そして、自然・文化・世界の人々と三重県民のつながりを表現しています。サミットで培われたおもてなしの心が未来へつながって、笑顔溢れる世界にしていこうという決意を込めています。

○投票条件 三重県に在住または通勤、通学している方

○投票期間 平成27年9月25日(金)正午から10月1日(木)24時まで

○投票方法 (ア)インターネットによる投票 (イ)郵送・FAXによる投票
以上2通りの方法により実施。

○投票結果 候補案をA案とB案に絞った。

総投票数：3,577票	(内訳)	得票数	得票率
	A案	1,109票	約31.0%
	B案	1,594票	約44.6%
	C案	874票	約24.4%

【県民会議会長、副会長、理事による投票概要】

○投票者 県民会議の会長、副会長、理事 計21名

○投票期間 平成27年10月2日(金)から10月5日(月)まで

○投票結果 B案に決定

(計算方法)

【会長等による投票結果】×【県民投票におけるそれぞれの候補案の得票率】

A案： 100点 × 31.0% = 31点

B案： 110点 × 44.6% = 49点

※会長、副会長、理事による1票をそれぞれ10点とし、集計した。

※県民会議の会長、副会長、理事の投票に、県民投票におけるそれぞれの候補案の得票の割合を乗じることで、県民投票の結果を反映させた。

③シンボルマーク発表

平成27年10月13日(火)に開催した伊勢志摩サミット三重県民会議第2回総会において、決定したシンボルマークを発表した。

制作者である近藤敦也氏も登壇し、「シンボルマークのように、人々のつながりを世界に広げ、三重県がグローバルな地域として発展してほしい」とコメントされた。



シンボルマーク発表

(2) シンボルマークの活用結果

①協賛、応援事業としての活用

シンボルマークの発表以降、企業・団体・個人の皆さんから使用申請を受け付け、各種商品や広報媒体に活用いただいた。

申請件数：402件

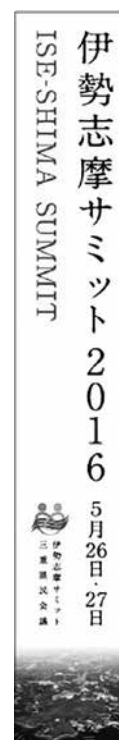
(シンボルマークの使用に関する取扱いはP 262、活用事例はP 280参照)

②県民会議としての活用

公式ポスター、カウントダウンボードやノベルティ等で活用したほか、サミット開催150日前の節目日に、県内29市町、県関係10庁舎へ懸垂幕・横断幕を掲出した。



横断幕デザイン(上) 懸垂幕デザイン(右)



4 伊勢志摩サミット・ロゴマーク

国（内閣官房内閣広報室）は、日本の伝統や文化、美しい自然、ふるさとなど、日本の素晴らしさをイメージしたロゴマークを、全国の小学校、中学校、中等教育学校、高等学校及び特別支援学校の児童・生徒を対象とした公募により制作した。

平成27年7月8日（水）から9月25日（金）の募集期間で、7,084作品の応募があった。これは、過去の北海道、沖縄と比較し、最多の応募数であった。三重県内では、県及び各市町がロゴマーク応募の広報活動に協力したこともあり、三重県からの応募が都道府県別で最多となった。

鈴木知事、県民会議シンボルマークの制作者である近藤敦也氏も委員を務めた、有識者等からなる「伊勢志摩サミット・ロゴマーク選考会」での3度にわたる審査を経て、総理に推薦する6作品を選定し、総理が採用作品を決定した。三重県からは2名の作品が優秀作品として選出され、平成27年12月28日（月）に表彰式が開催された。



【制作者】

大分県立鶴崎工業高等学校3年 宇津宮 志歩さん

【制作者による作品の説明】

「中央の赤い丸は日の丸を表しています。周囲には日本の象徴である桜の花びらを散りばめ、日本、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、カナダの7カ国の参加国を表しています。

背景は伊勢志摩の美しい海を表現しました。この美しい海は世界につながっています。これからも世界が平和でありますよう祈っています。」

5 海外プレスツアー等の実施による情報発信

(1) 県民会議主催プレスツアー

世界に向けて三重県全体の情報発信を行うため、公益財団法人フォーリンプレスセンターと連携した海外プレスツアーを3回実施し、環境、農業、漁業、林業、後継者、女性の活躍等のテーマで幅広く取材してい

ただいた。3回のプレスツアーには海外メディア22社が参加し、世界各地で少なくとも24回報道された。

プレスツアーの実施にあたっては、世界が抱える共通課題など記者が関心を持つテーマを選定し、県内で特筆すべき取組をピックアップして行程に組み込んだ。また、事前に取材先と説明手法等について十分な打ち合わせを行うとともに、当日の記者の反応や理解に応じた説明を行った。

	実施日	取材場所
第1回	平成27年12月7日(月)、8日(火)	伊賀の里モクモク手づくりファーム(伊賀市)、伊賀流忍者博物館(伊賀市)、アグリー農園(名張市)、木の子の里(名張市)、うれし野アグリ(株)(松阪市)、知事インタビュー
第2回	平成28年2月17日(水)、18日(木)	速水林業(紀北町)、三重県立熊野古道センター(尾鷲市)、松本峠(熊野市)、花の窟神社(熊野市)、ビジョン早田実行委員会(尾鷲市)、尾鷲物産(株)(尾鷲市)、(株)ディーグリーン(紀北町)、知事インタビュー
第3回	平成28年5月11日(水)、12日(木)	伊勢神宮(伊勢市)、志摩観光ホテル(志摩市)、答志島(寝屋子制度、鳥羽磯部漁業協同組合)(鳥羽市)、(有)進誠堂(鈴鹿墨)(鈴鹿市)、(株)光機械製作所(津市)



農福連携の取組(名張市)



鈴鹿墨(鈴鹿市)

(2) 外務省主催プレスツアー

外務省が海外からメディアを日本に招へいして行ったプレスツアーにおいては、その滞在日程中、サミット開催地選ばれた三重県への訪問が多く盛り込まれた。

同プレスツアーは9回実施され、計37社が参加し、世界各地で少なくとも22回報道された。

県民会議としては、外務省との協力関係のなかで、メディアの関心の高いテーマを中心に取材先候補の提案を行った。その結果、サミット会場や伊勢神宮だけでなく、持続可能な農業・漁業、環境保護、女性の活躍、先端技術等多岐にわたる対象を取材していただくことができた。

対象国	日程	取材場所
第1回 (ASEAN10ヶ国)	平成27年8月27日(木)、28日(金)	四日市公害と環境未来館(四日市市)、日本アルシー(株)(菟野町)、四日市コンビナート夜景クルーズ(四日市市)
第2回 (中東5ヶ国)	平成27年8月30日(日)、31日(月)	せんぐう館(伊勢市)、伊勢神宮(伊勢市)、おかげ横丁(伊勢市)、横山展望台(志摩市)、海の博物館(鳥羽市)、はちまんかまど〔海女小屋〕(鳥羽市)
第3回 (ベルギー)	平成27年10月30日(金)、31日(土)	伊勢神宮(伊勢市)、おかげ横丁(伊勢市)、ミキモト真珠島(鳥羽市)、はちまんかまど〔海女小屋〕(鳥羽市)
第4回 (イスラエル)	平成27年11月14日(土)、15日(日)	米由商店(鳥羽市)、河武醸造(株)(多気町)、頭之宮四方神社(大紀町)

対象国	日程	取材場所
第5回 (クウェート)	平成28年1月30日(土)、31日(日)	(有)佐藤養殖場(志摩市)、はちまなかまど〔海女小屋〕(鳥羽市)、伊勢神宮(伊勢市)、おかげ横丁(伊勢市)、(有)オズ(鳥羽市)
第6回 (G7の5ヶ国)	平成28年5月11日(水)～13日(金)	伊勢神宮(伊勢市)、志摩観光ホテル(志摩市)、答志島〔寝屋子制度、鳥羽磯部漁業協同組合〕(鳥羽市)、(有)進誠堂〔鈴鹿墨〕(鈴鹿市)、(株)光機械製作所(津市)、航空宇宙産業振興・みえライフイノベーション総合特区(※県庁で説明)、鈴鹿ロボケアセンター(鈴鹿市)、伊勢根付彫刻館〔伊勢根付〕(伊勢市)
第7回 (11ヶ国)	平成28年5月25日(水)、28日(土)	(株)光機械製作所(津市)、伊勢市立五十鈴中学校(伊勢市)、海女漁(鳥羽市)、はちまなかまど〔海女小屋〕(鳥羽市)、伊勢神宮(伊勢市)、おかげ横丁(伊勢市)
第8回 (ケニア)	平成28年5月26日(木)、28日(土)	県立津高等学校(津市)、海女漁(鳥羽市)、相差かまど〔海女小屋〕(鳥羽市)、伊勢神宮(伊勢市)、おかげ横丁(伊勢市)
第9回 (ベトナム)	平成28年5月28日(土)	伊勢神宮(伊勢市)、おかげ横丁(伊勢市)、海女漁(鳥羽市)、はちまなかまど〔海女小屋〕(鳥羽市)



伊勢神宮の記念植樹場所



海女漁(鳥羽市)

(3) 海外の富裕層への戦略プロモーション事業(県民会議主催)

三重の食や文化を海外、特に欧米の富裕層に広く知っていただくためには、対象とする層に発信力のある著名人に自らの言葉で三重の魅力を語っていただくことが効果的である。そこで、著名シェフ2名とシェフに同行するメディアを招へいし、シェフが自ら味わい、感じていただいたことを、メディアを通じて映像や記事として世界に発信した。

また、欧米の富裕層に対して発信力のあるメディアを招へいし、三重県が世界に発信したい食や文化のスポットを取材いただき、メディアを通じて三重の魅力を世界へ発信した。

本事業は計3回実施し、10社のメディアが参加し、世界各地で少なくとも18回報道された。

招へいした著名シェフ	日程	取材場所
シリル・リニャック氏	平成28年2月15日(月)～19日(金)	養肝漬宮崎屋(株)(伊賀市)、せんぐう館(伊勢市)、(有)佐藤養殖場(志摩市)、海の博物館(鳥羽市)、答志島(鳥羽市)、まるてん(有)(志摩市)、伊勢神宮(伊勢市)、おかげ横丁(伊勢市)、県立相可高等学校(多気町)、(株)三重エスカルゴ開発研究所(松阪市)、(株)桔梗屋織居(伊賀市)、(有)精肉のオクダ(名張市)、瀧白慢酒造(株)(名張市)
NOBU氏	平成28年3月28日(月)～30日(水)	せんぐう館(伊勢市)、伊勢神宮(伊勢市)、相差海女文化資料館(鳥羽市)、相差かまど〔海女小屋〕(鳥羽市)、(有)友栄水産〔伊勢まだい〕(南伊勢町)、畦地水産〔渡利かき〕(紀北町)、尾鷲物産(株)(尾鷲市)、鬼ヶ城センター〔熊野地鶏、新姫〕(熊野市)、(有)深緑茶房(松阪市)

※シリル・リニャック氏

16歳から料理を学び、パリの有名レストランのシェフであるアラン・パッサール、プルセル兄弟に師

事した実力を持ち、現在はパリの一つ星レストラン「ル・キャンジエム」のオーナーシェフ。

※NOBU氏

寿司職人として東京・新宿「松栄鮨」で修業した後、ペルー、アルゼンチン、アラスカでのレストランの経験を経て、1987年にビバリーヒルズに「Matsuhisa」を開店。ハリウッドの著名人たちを魅了する人気店となっている。

日程	取材場所
平成28年3月3日(木)～6日(日)	鳥羽ビューホテル花真珠(鳥羽市)、横山展望台(志摩市)、志摩観光ホテル(志摩市)、まるてん(有) (志摩市)、相差かまど〔海女小屋〕(鳥羽市)、和田金(松阪市)、せんぐう館(伊勢市)、伊勢神宮(伊勢市)、赤福〔五十鈴茶屋〕(伊勢市)、おかげ横丁(伊勢市)、夫婦岩(伊勢市)、賓日館(伊勢市)、ミキモト真珠島(鳥羽市)、関宿(亀山市)、長谷製陶(株)(伊賀市)、伊賀流忍者博物館(伊賀市)



県立相可高等学校を訪問(多気町)



松阪牛のPR(松阪市)

(4) その他団体主催プレスツアー

各種団体が実施する海外メディア向けプレスツアーにおいても、三重の多様な魅力が発信されることを目指し、様々な形で連携を行った。

主催	日程	取材場所
—	平成27年9月5日(土)	伊勢神宮(伊勢市)、横山展望台(志摩市)
—	平成28年1月15日(金)、16日(土)	志摩観光ホテル(志摩市)、伊勢神宮(伊勢市)
関西地域振興財団	平成28年1月23日(土)、24日(日)	志摩観光ホテル(志摩市)、横山展望台(志摩市)、はちまんかまど〔海女小屋〕(鳥羽市)、ミキモト真珠島(鳥羽市)、夫婦岩(伊勢市)、伊勢神宮(伊勢市)、伊賀上野城(伊賀市)、伊賀流忍者博物館(伊賀市)
日本貿易振興機構(JETRO)	平成28年2月15日(月)～18日(木)	長谷製陶(株)(伊賀市)、伊賀流忍者博物館(伊賀市)、伊賀越(株)(伊賀市)、(株)大田酒造(伊賀市)、せんぐう館(伊勢市)、伊勢神宮(伊勢市)、おかげ横丁(伊勢市)、ミキモト真珠島(鳥羽市)、(有)丸善水産(鳥羽市)、はちまんかまど〔海女小屋〕(鳥羽市)、川口農園(志摩市)、(有)山藤(南伊勢町)、(株)川原製茶(多気町)、(有)すぎもと農園(御浜町)、尾鷲物産(株)(尾鷲市)、(株)ディーグリーン(紀北町)、和田金(松阪市)、(有)丸中本店(松阪市)、知事インタビュー
日韓文化交流基金	平成28年2月23日(火)	扇芳閣(鳥羽市)、(特非)伊勢志摩バリアフリーツアーセンター(鳥羽市)、ミキモト真珠島(鳥羽市)、海の博物館(鳥羽市)、万協フィギュア博物館(多気町)
環境省	平成28年3月8日(火)～10日(木)	伊勢神宮(伊勢市)、おかげ横丁(伊勢市)、海の博物館(鳥羽市)、まるてん(有)(志摩市)、志摩自然学校(志摩市)、(有)友栄水産(南伊勢町)、ミキモト真珠島(鳥羽市)、海女文化資料館(鳥羽市)
関西地域振興財団	平成28年4月4日(月)、5日(火)	覚田真珠(株)(伊勢市)、横山展望台(志摩市)、志摩自然学校(志摩市)、三重県水産研究所(志摩市)、志摩観光ホテル(志摩市)、夫婦岩(伊勢市)

(5) 報道関係者を対象とした知事会見等の開催

伊勢志摩サミットに向けた三重県の取組状況を説明するとともに、サミット開催地に選ばれた三重の魅力を紹介し、国内外の報道関係者等に広く発信するため、鈴木知事が説明を行った。

①日本記者クラブにおける知事会見

日 時：平成27年11月11日（水） 15時30分から16時50分まで

場 所：（社）日本記者クラブ

参加者：約50名（在京の報道関係者、企業・団体関係者等）

冒頭、鈴木知事が、伊勢志摩サミットの概要や開催県としての取組状況の説明のほか、伊勢神宮や海女など三重の魅力についてPRを行った。説明の最後に知事から「今回のサミットは三重県にとって千載一遇のチャンスである。その一方、式年遷宮の経験を経て、今後は地域の総合力を上げていく必要がある、サミットをそういう契機にしたい。政府とも連携して安全に開催し、三重県でやってよかったと言われるよう全力で取り組みたい」との発言があった。

参加者からは、警備面での課題、観光への影響、財政負担への対応などについて質疑があった。



日本記者クラブでの会見



日本外国特派員協会での会見

②日本外国特派員協会における知事ブリーフィング

日 時：平成27年11月18日（水） 12時から14時まで

場 所：（社）日本外国特派員協会

参加者：約40名（在京の外国報道関係者等）

会見に先立ち、参加者には、三重県産の食材を中心とした昼食が準備され、メイン料理の「松阪牛のローストビーフ」のほか、キャンディトマトやハナビラタケなどの県産野菜が提供され、三重県の豊かな食の魅力を実際に目と舌で感じていただいた。

知事は冒頭、日本時間11月14日に発生した、パリ同時多発テロ事件に関して「犠牲になられた皆様に哀悼の意を表するとともに、フランス国民や政府関係者等の方々にお見舞いを申し上げる」と述べた。その後、伊勢志摩サミットの概要説明や開催地三重県の紹介などを行った。特に、「サミットを安全に開催することが三重県にとって最も重要な課題だ」とし、「国を含んだ官民一体のテロ対策を推進する」と述べた。そのほか、サミットを通じて三重県が発信したいメッセージは「伝統と革新の共栄する姿」だとし、伊勢神宮の精神性や県内産業の発展性などについて訴えた。そして最後に、参加した外国報道関係者に向けて「今後、海外メ

ディア向けプレスツアーを10回以上用意しているの、ぜひご参加いただきたい。また、サミットをきっかけにたくさんの方々に三重県を訪れてもらえるよう、準備を進めたい」と述べた。

参加者からは、サミットの役割や議論の中身、サミットに要する費用負担、地元住民の理解を得るための方策、伊勢神宮の宗教性と精神性などについて質疑があった。また、海外メディアへの対応について聞かれ、「海外メディア関係者へのおもてなしは非常に大事。なるべく不便をかけないよう、そしておいしい食事で満足してもらえるよう努力する」と述べた。

③関西プレスクラブにおける知事講演

日 時：平成28年1月29日（金） 12時30分から14時まで

場 所：ヒルトン大阪

参加者：約100名（在阪の報道関係者、企業・団体関係者等）

講演に先立ち、参加者による昼食会が行われ、メイン料理には「松阪牛のローストビーフ」が提供された。

冒頭、鈴木知事が、伊勢志摩サミットの概要や開催県としての取組状況の説明のほか、伊勢神宮や海女など三重の魅力についてPRした。特に、関西と三重の関わりについて、三重は関西圏と中部圏の両方にアクセスが充実していることを取り上げ、「関西からの観光客が増加しており、道路網の整備などにより今後ますます期待できる」と説明した。また、ポストサミットに向けた取組として、「関西国際空港経由のインバウンド増加や、リニア新幹線の東京～大阪間同時開業への働きかけなど、関西地域全体の活性化を目指したい」との考えを示した。また「各国首脳にはぜひ伊勢神宮を訪問してほしい」と繰り返し述べた。

参加者からの「サミットを通じて関西の近隣県とどう連携するか」との質問に対し「関西国際空港からのインバウンド増加に向けて、他県と連携して伝統・文化をテーマにした周遊ルートをつくりたい。また、滋賀県と連携して伊賀・甲賀の忍者をPRしたい」と述べた。また、「ポストサミットに向けたアイデアや構想は」との質問に対し「観光客を呼び込む発地対策は県などの広域自治体が担うので、受け入れ態勢を充実させる着地対策は地元自治体や観光事業者等に取り組みをお願いしたい」と述べた。



関西プレスクラブでの会見



提供された松阪牛のローストビーフ

サミット裏話・こぼれ話 ～三重の食の多様性～

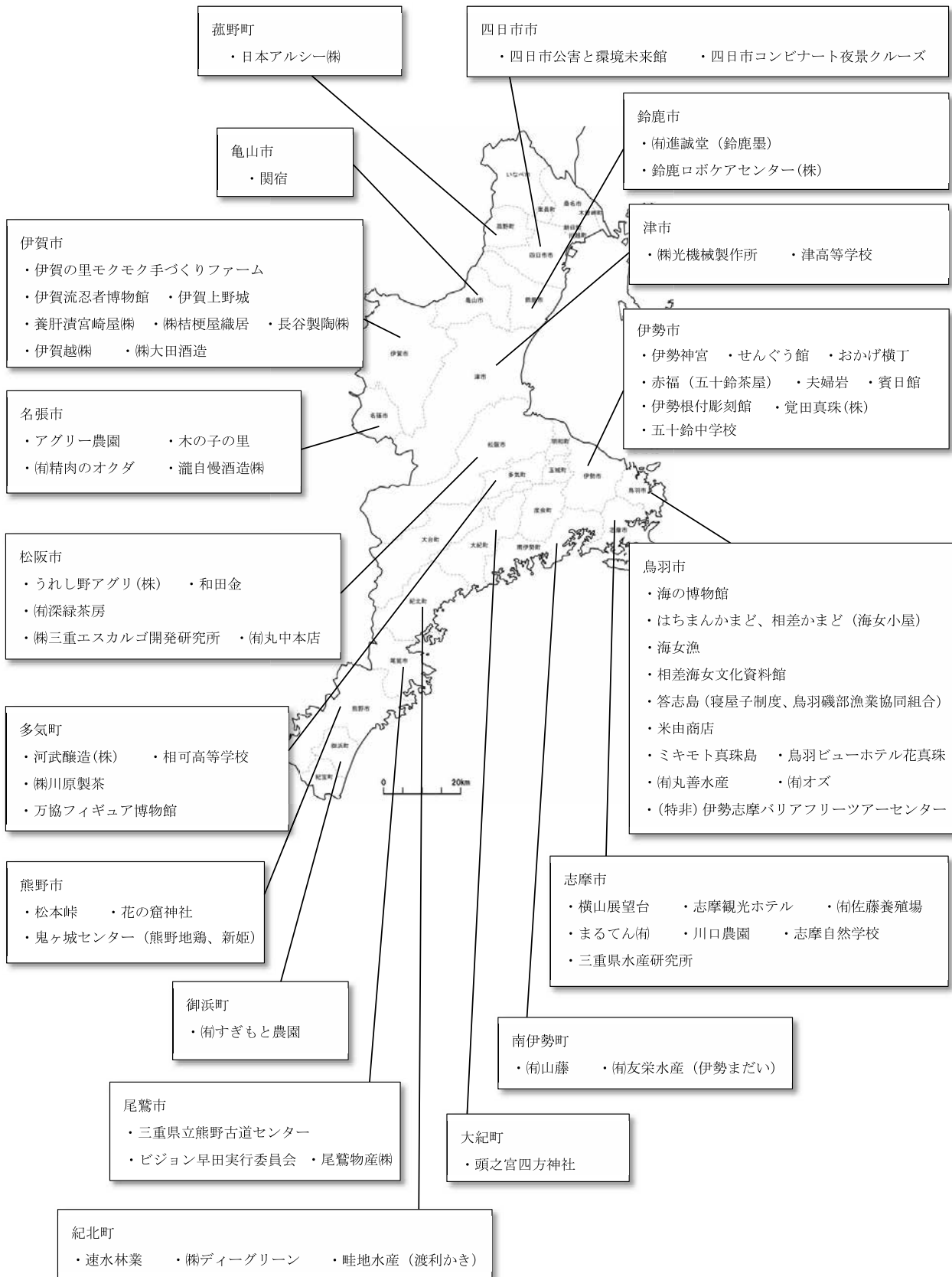
中東（エジプト、トルコなど5カ国）の報道機関を招いたプレスツアーで的一幕をご紹介します。

中東、特にイスラム教を信仰されている方は、宗教上の理由から、日本とは食文化が大きく異なる部分があります。

担当者も当初は不安に感じていましたが、日本茶を提供した際、皆さん美味しそうに飲み干されており、お茶をたてる器具を購入された方もいらっしゃいました。さらに、一部記者は、自身のSNSで抹茶の写真を公開したところ、すぐに多くの反響があったと話していました。

このほか、海女小屋を視察した際はアワビなどの海産物も美味しそうに食べられており、三重の食は様々な方に受け入れられる多様性を持っていると実感しました。

海外プレスツアー各市町別取材箇所



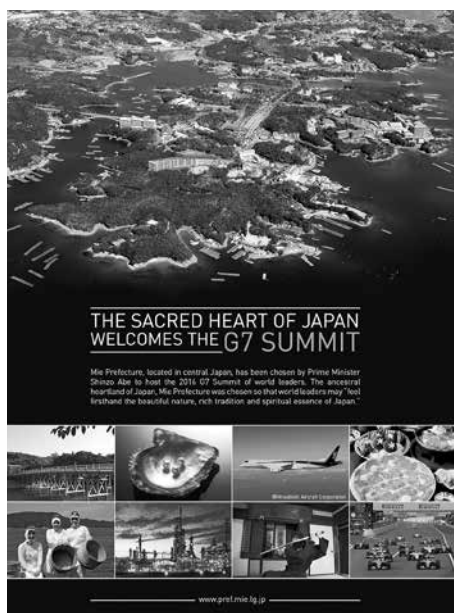
6 海外メディア等を活用した情報発信

伊勢志摩サミット開催を、海外に三重県を認知・理解していただくための千載一遇の機会と捉え、海外メディア等を通じ様々な手法で、サミット開催地三重県の魅力をPRした。

(1) 有料広告事業の展開

①サミット開催準備期間

サミット開催に向けた機運醸成のため、海外有力ニュース誌への広告掲載や国際線機内での機内誌、映像等によるPR活動を行った。



ニュースウィーク紙に掲載された三重県広告と鈴木知事インタビュー記事

②サミット開催期間（5月下旬）

三重県や伊勢志摩への注目が特に高まるサミット開催期間に集中的なPR活動を行った。

- ・ A P 通信社による映像等の制作及び配信〔5月24日(火)〕
外国人の視点による三重県PR映像を作成し、関連する写真とともに世界の主要メディアに配信した。
- ・ ジャパンタイムズ紙への広告掲載〔5月25日(水)〕
同紙サミット特集号に約2ページのカラー広告（うち純広告は1/3ページ）を掲載し、三重県の観光をPRした。
- ・ ウォール・ストリート・ジャーナル紙への広告掲載〔5月26日(木)〕
同紙サミット特集号に1ページの白黒広告（うち純広告は1/4ページ）を掲載し、三重県の観光、ビジネスメリットをPRした。
- ・ フィナンシャル・タイムズ紙ウィークエンド版への広告掲載〔5月28日(土)〕
同紙トラベル欄に1/2カラー広告（純広告のみ）を掲載し、海外の購読者に対し三重県の観光をPRした。

【掲載された海外向け広告】



フィナンシャルタイムズ紙



ウォール・ストリート・ジャーナル紙

(2) 海外メディアへの取材協力

サミット開催決定後、海外メディアを通じた三重県の情報発信が1件でも多く行われるよう、海外メディアの取材ニーズに対応した取材先等の提案、調整等を行い、本県の持つ多様な魅力の記事化、映像化に努めた。

例えば、4月15日（金）にフィナンシャル・タイムズ紙、5月24日（火）にARDドイツテレビ及びAP通信社が知事インタビューを行い、記事や映像が発信された。

7 県内での情報発信イベント

県民の皆さんの伊勢志摩サミット開催の認知度向上を図るとともに、開催機運を盛り上げるため、県内で各種イベントを開催した。

(1) イオンモール東員でサミット開催200日前イベントを実施

平成27年11月7日（土）、8日（日）に、ワークショップ「伊勢志摩エコバック作り」、サミットパネルの展示、ノベルティの配布などを実施した。8日には、みえの国観光大使の吉田沙保里氏も参加してカウンタダウンボード除幕式を実施し、約500名の来場者があった。



カウントダウンボード除幕式



ワークショップ

(2) 三重県立みえこどもの城でサミット開催1ヶ月前イベントを実施

平成28年4月29日（金）に、こどもを中心とした3世代を対象として、サミットにちなんだ体験ブース設置、クイズイベント、世界の絵本読み聞かせなどを実施した。また、5月29日（日）までサミットパネル展を開催した。



体験ブース



絵本読み聞かせ

(3) 各種イベントへ出展

企業・団体や市町、県各部局などが開催するイベントにおいて、伊勢志摩サミットのブースを出展し、パネル展示やノベルティ配布を通じてサミットPRを実施した。

日程	内容	主催
平成27年10月14日（水）、15日（木）	神嘗奉祝祭へ出展	神嘗奉祝祭委員会
平成27年10月31日（土）、11月1日（日）	みなとオアシスとば Festa2015へ出展	みなとオアシスとば Festa2015 実行委員会、みなとオアシス全国協議会
平成27年11月20日（金）、21日（土）	みえリーディング産業展2015へ出展	みえリーディング産業展2015 実行委員会
平成27年12月27日（日）	年末・きいながしま港市へ出展	年末・きいながしま港市実行委員会
平成28年2月12日（金）	伊勢志摩サミット開催・ICETT設立25周年記念事業「ASEAN環境フォーラムin三重」を共催、出展 翌2月13日（土）には伊勢志摩の視察を実施	三重県、公益財団法人国際環境技術移転センター（ICETT）、四日市市 ※共催にて開催
平成28年2月21日（日）	伊勢志摩サミット開催記念 第9回美し国三重市町対抗駅伝・市町交流市場（物産展）へ出展	美し国三重市町対抗駅伝実行委員会

日程	内容	主催
平成28年3月20日(日)、21日(月)	伊勢志摩サミット応援Day！へ出展 (MieMu 無料開放)	東邦ガス株式会社・東邦液化ガス株式会社
平成28年4月15日(金)～18日(月)	伊勢志摩サミット開催記念みえ伊勢志摩フェアにペーパークラフト展・サミットパネルを出展	イオンリテール株式会社



みなとオアシスとばFesta2015へ出展



A S E A N環境フォーラムを共催



美し国三重市町対抗駅伝へ出展



伊勢志摩サミット開催記念みえ伊勢志摩フェアにペーパークラフト展を出展

8 県外での情報発信イベント

伊勢志摩サミットに向けて県内のみならず県外でもサミットの開催を広く周知するとともに、三重県、伊勢志摩の魅力ある情報を発信することにより、県外でのサミットの認知度を向上し、三重県への関心を高め、開催機運の醸成を図った。

(1) 三重テラス（東京）での150日前イベント

サミット開催150日前を、首都圏をはじめ全国的な話題性を向上させる時期と位置付け、首都圏のメインイベントとして、三重県のアンテナショップである三重テラスにおいてサミット開催記念イベントを実施した。

日 時：平成27年12月27日（日）、28日（月）

場 所：三重テラス（東京都中央区日本橋）

参加者：約460名

初日の27日は「三重の誇り！食を欲張り体感！」と題し、大口志摩市長による伊勢まぐろ解体ショー・ふるまい、第66回松阪肉牛共進会優秀賞一席（落札額3,310万円サミット価格）の試食、県産いちごやみかん・伊勢茶の試食・試飲・販売、赤福餅販売、ひなたやけ・あらめ巻等の試食などを行い、三重が誇る食を肌で感じていただくとともに、サミット紹介パネル展示、伊勢志摩地域紹介パンフレット配布などを行った。

翌28日には、鈴木知事、外務省の溝渕総括次長、みえの国観光大使の堀口文宏氏により、サミットに関するトークセッションを行った。トークでは、溝渕総括次長から「首脳の仕事の乾杯のお酒は、必ず三重のお酒で。」との発言もあった。

約60名が参加し、アンケートにも多くの方々が「大変良かった」「関心が深まった」と回答するなど、サミットや開催地伊勢志摩についての理解を深めていただくことができた。



伊勢まぐろ解体ショー



トークセッション

(2) その他の県外イベントでのPR

上記以外にも、県外でのさまざまなイベントにおいて、伊勢志摩サミットのPRに関するブースを出展したり、伊勢志摩サミットノベルティグッズを配布するなど、サミットのPRに努めた。主なものは以下のとおり。

日程	地域	内容	主催
平成27年12月20日(日)	東京	「宮城県×広島県×三重県」牡蠣競演イベントへ出展	宮城県、広島県、三重県
平成28年1月26日(火)	東京	平成28年三重県観光交流会へ出展	三重県観光キャンペーン推進協議会
平成28年2月13日(土)、14日(日)	東京	伊勢志摩サミット開催100日前記念 三重県フェア～実はそれ、ぜんぶ三重なんです～へ出展	三重県雇用経済部
平成28年3月6日(日)	大阪	三重もんづくし!うまいもん おもしろもん 祭!へ出展	三重県関西事務所
平成28年3月8日(火)、9日(水)	名古屋	第47回 中部マーケティング会議へ出展	中部マーケティング協会
平成28年4月7日(木)、8日(金)	東京	JA三重マルシェへ出展	JAグループ三重
平成28年4月8日(金)から5月29日(日)の間で5回	各地エリア	伊勢志摩サミット開催記念みえ伊勢志摩フェアにペーパークラフト展を出展	イオンリテール株式会社



伊勢志摩サミット開催100日前記念
三重県フェア



三重もんづくし! うまいもん おもろいもん 祭!

9 海外ミッションの機会等を利用したPR

三重県でのサミット開催をアピールするとともに、三重県の知名度向上を図るため、県が主催する海外ミッションにおいてサミットに関するPRを行った。

(1) ヨーロッパ訪問

「食と祈りの食卓」をテーマに開催されたミラノ国際博覧会（ミラノ万博）日本館への三重県の出展に合わせて、平成27年7月1日（水）から8日（水）にかけて、イタリア、フランス、イギリスに経済ミッション団を派遣し、新たなネットワークを構築し、海外展開の一層の促進を図るとともに、開催決定から間もない伊勢志摩サミットのPRを各地で行った。

イタリアでは、ミラノ国際博覧会三重県出展オープニングセレモニー及びミラノ市内で現地の行政関係者、食関連企業、日系企業等を招待して開催したレセプションにおいて、三重の食の魅力紹介とともに、伊勢志摩サミット紹介動画（イタリア語版）を上映し、サミットをPRした。

フランス・パリでは、前日に産業連携に関する覚書（MOU）の締結を行ったヴァルドワーズ県の関係者や、現地企業、日系機関の関係者等を招待し、三重県の魅力をPRするレセプションを開催し、松阪牛や三重県産日本酒、伊勢茶の振る舞いや真珠の展示、忍者の実演と合わせて、伊勢志摩サミット紹介動画（フランス語版）を上映して、サミットのPRを行った。

また、イギリスでは、ロンドンにて三重県ビジネスセミナー・交流会を開催し、英国企業、英国政府関係者及び現地進出日系企業等を対象に、鈴木知事や県内企業から三重県の産業や企業等の技術の強みのプレゼンテーションを行ったほか、伊勢志摩サミット紹介動画（英語版）でサミットをPRした。

(2) ニューヨーク訪問

2016年の伊勢志摩サミット、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて高まりつつある日本の魅力を発信することを目的に、平成27年9月28日（月）、アメリカ・ニューヨークで、日本貿易振興機構（JETRO）主催の経済セミナーが開催された。当日は、現地企業関係者、メディア関係者等、約300名が

出席し、自治体からは三重県のほか、横浜市がプレゼンテーションを行った。

セミナーの冒頭では、安倍総理が挨拶を行い、日本市場の魅力をPRし、伊勢志摩サミットで、さらに魅力を増した日本を見せるとの決意も表明された。

鈴木知事からは、①三重県の素晴らしさやポテンシャル、②サミットにおいて三重県から発信するメッセージやサミットを通じた三重県のビジョン、③シンガポール、マレーシア、中国などアジア地域と比べた三重県のビジネス環境の優位性の3点について、プレゼンテーションを行った。

また、会場では三重県のブースを出展し、ポスター掲示やポストカードの配布等を通じて伊勢志摩サミットをPRするとともに、伊勢茶の試飲等を通じた「伝統文化」のPR、NAND型フラッシュメモリー等の「革新技術」のPR等を行った。

そのほか、アメリカ国務省のG7担当者のドッドマン補佐官や高橋ニューヨーク総領事・大使を訪問し、三重の魅力のPR等を行った。

行事名	ニューヨーク経済セミナー
日時	平成27年9月28日(月)
場所	ニューヨーク・アスレチック・クラブ
主催	日本貿易振興機構(JETRO)
参加者	安倍総理、鈴木知事、林横浜市長、現地企業関係者、メディア関係者等 計約300名



フランス・パリのレセプションにおける
松阪牛の炙り寿司の提供



ニューヨーク経済セミナーでのプレゼンテーション

(3) タイ訪問

平成27年11月19日(木)から22日(日)にかけて、伊勢志摩サミット開催の好機を活かし、本県の観光誘客や食の販路開拓のトップセールスなどを行うため、タイを訪問した。

四日市港利用促進協議会がバンコク市内で開催した四日市港セミナーでは、伊勢志摩サミットを紹介する動画を上映し、サミットをPRするとともに、四日市港管理組合の管理者でもある鈴木知事から四日市港及び三重県の工業実績や観光の魅力を紹介するプレゼンテーションを行った。



四日市港セミナーにおける
伊勢志摩サミット紹介動画の上映

(4) 香港及び台湾訪問

伊勢志摩サミット開催の好機をとらえ、新たな連携ネットワークを構築するとともに、三重県の食の販路拡大、観光誘客、産業等に関するトップセールスを行うため、日本にとって最大の食品輸出先（日本からの食品輸出の約25%）である香港を、また、これまでに構築した台湾との連携ネットワークを台湾中南部にも拡大するため、台湾の台東県及び高雄市等を訪問した。

香港では、平成28年1月20日（水）に、イオンストアーズ香港で開催された三重県フェア開催記念セレモニーに鈴木知事が竹上松阪市長とともに出席し、伊勢志摩サミットの開催をPRするとともに、松阪牛をはじめ、真珠、お茶、日本酒、牡蠣等の県産品のトップセールスを行った。

また、台湾でも、サミット開催地の大口志摩市長や岡本伊賀市長とともに台湾南東部の台東県を1月21日（木）に訪問し、台東県と志摩市、伊賀市3者の自治体間連携覚書（MOU）の締結に鈴木知事が立ち会い、伊勢志摩サミット開催を契機とした新たなネットワークを構築するとともに、伊勢志摩サミットによる知名度向上を生かしたトップセールスを行った。



イオンストアーズ香港でのPR



台東県と志摩市、伊賀市3者の自治体間連携覚書（MOU）締結式

10 情報誌の発行

伊勢志摩サミットの開催に向け、国内外の報道関係者及び各国代表団等に、三重県に対する関心を高め、理解を深めていただくため、三重の多彩な魅力を紹介した2種類の三重県情報誌を日本語版と英語版でそれぞれ作成し、配布した。どちらの情報誌も「人」を中心に構成することで、「三重県人」「三重県を愛する人」から三重県の情報を発信した。

(1) 「CLOSE UP MIE」

プロローグ版として、三重県が誇る歴史、文化、伝統、食、先端技術を、伝統と革新に関わる「三重県人」にフォーカスして発信した「CLOSE UP MIE」を平成27年10月に発行した。10月27日（火）に外務省飯倉公館で開催した「伊勢志摩サミット開催レセプション～三重へのいざない～」(P81参照)などで配布した。

内 容：「三重県人」にフォーカスして、三重の「伝統と革新」を発信

- ・伊勢志摩エリア お伊勢さんのおもてなし、海女の思い、真珠王
- ・中南勢エリア 松阪牛の食文化
- ・伊賀エリア 伊賀流忍者
- ・北勢エリア 国際レーシングコース、四日市公害からの再生
- ・東紀州エリア 熊野古道を語り継ぐ
- ・三重の先端技術 国産リージョナルジェット機MRJ

規 格：A4判、12ページ

発行部数：日本語版2,000部、英語版2,000部

(2) 「和～THE SPIRIT OF WA～」

三重県を愛する人へのインタビューを通じて、「伝統と革新」を兼ね備えた三重県を感じていただく内容とし、「伊勢神宮」「伝統、文化と自然」「食」「先端技術」「おみやげ」の5つのテーマを中心として、三重県ならではの多彩な魅力を発信する「和～THE SPIRIT OF WA～」を平成27年12月に発行した。

内 容：三重県を愛する人へのインタビューを通して、三重県の魅力を発信

- ・宮澤 正明氏 伊勢神宮の紹介
- ・中田 英寿氏 地域別に伝統、文化、自然等の紹介
- ・村林 信吾氏 特選食材、食文化の紹介
- ・錦見 泰郎氏 先端技術の紹介
- ・生駒 芳子氏 おみやげの紹介

規 格：A4判、40ページ

発行部数：日本語版10,000部、英語版10,000部



三重県情報誌「CLOSE UP MIE」



三重県情報誌「和～THE SPIRIT OF WA～」

(3) 配布・閲覧

国内外報道関係者及び各国代表団関係者等に配布したほか、伊勢志摩サミット開催レセプション、海外プレスツアー、ジュニア・サミットなど、サミット開催に向けた様々なPR行事や各国先遣隊、関係省庁、市町、伊勢志摩サミット三重県民会議構成団体にも配布した。

また、県民会議ホームページでも、快適に閲覧ができるよう電子ブック形式で各情報誌を掲載し、国内外に広く情報発信を行った。

11 PR動画の放映

伊勢志摩サミット開催を契機として、主に都市圏の人々及び訪日外国人をターゲットに、三重県を印象づけ、興味を持っていただけるように、三重県PR動画を制作し放映した。

(1) 動画の内容

伊勢志摩サミット三重県民会議の情報発信の基本コンセプトである「伝統と革新」をテーマに制作した。豊かな自然、食とともに、伊勢神宮に代表される「伝統」と先端産業に代表される「革新」が共存する地域であり、伝統を守りながらも革新を積み重ねることで進化してきた三重の姿を動画として表現した。

音声は日本語とし、英字テロップを挿入した。下記の場所での放映をするにあたり、動画時間はコンパクトに30秒とした。

(2) 放映場所

地域	放映場所	放映期間
首都圏	JR品川駅	平成28年5月23日(月)～29日(日)
	JR東京駅	平成28年5月1日(日)～31日(火)
	京成電鉄成田スカイライナー	平成28年5月1日(日)～31日(火)
中部圏	セントレア	平成28年3月1日(火)～5月31日(火)
	名鉄名古屋駅	平成28年5月23日(月)～29日(日)
関西圏	関西国際空港	平成28年5月1日(日)～31日(火)
その他	県民会議HP及びYoutube	平成28年3月1日(火)～



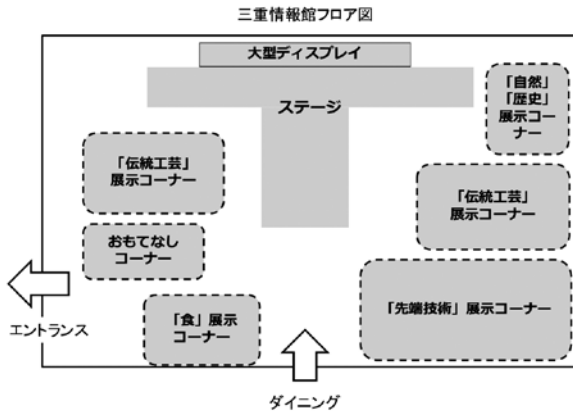
動画の一場面

上記の他、県民会議への協賛としてANAの国内線機内VTRで5月1日から31日まで放映していただいたのをはじめ、放映について多くの企業にご協力いただいた。

12 三重情報館

伊勢志摩サミット三重県民会議は、国内外の報道関係者を通じて三重の情報を世界に発信するための拠点「三重情報館」（英語表記：Exhibition of Mie）を国際メディアセンターアネックス内に開設した。

三重情報館では、大型ディスプレイを使った映像・展示物・実演等で、三重の情報を発信した。



フロア全景

(1) 準備

①調整経緯

会場については、多くの報道関係者が来場できるように、三重情報館をアネックス内の動線上に配置することを外務省に要望し、アネックス内のダイニング及びエントランスに隣接する空間（約350㎡）に開設することになった。

②コンテンツ選定委員会の設置

展示コンテンツを選定するため、県民会議では、学識経験者等6名で構成されるコンテンツ選定委員会を県民会議事業推進部会の下に設置した。委員の人選については、各分野に精通しているだけでなく、三重の宝や誇りといえる魅力を国内外の報道関係者がより関心を持てる方法でどのように発信するかという視点で判断いただける方々をお願いした。

選定委員会は非公開で3回開催し、展示コンセプト、展示カテゴリ、コンテンツの選定基準（独自性、先進性、優位性、将来性、基本コンセプト及び展示コンテンツとの調和）等を決定し、企業や関係団体等から応募・推薦のあった181件の展示物等の中から63件を選定した。

(ア) 選定委員（五十音順）

生駒芳子氏	FUTURADITION WAO プロデューサー
大川吉崇氏	学校法人大川学園理事長
坂美幸氏	月兎舎 季刊「NAG I」編集長
田中里沙氏	株式会社宣伝会議取締役副社長兼編集室長
西村訓弘氏	国立大学法人三重大学副学長【委員長】
丸川竜也氏	株式会社イストグラフ代表

※所属・役職は平成28年1月時点

(イ) 展示カテゴリ及びコンテンツ数

展示カテゴリ	コンテンツ数	主なコンテンツ
自然	4	伊勢志摩の自然、真珠等
歴史・文化	9	伊勢神宮、海女、伊賀流忍者等
伝統工芸	8	伊賀くみひも、伊勢形紙、四日市萬古焼等
先端技術	20	断熱・保温ペイント、TMPS®担持触媒**等
食	22	伊勢えび、伊賀米コシヒカリ、松阪牛等

**TMPS (メソポーラスシリカ) の細孔内に金属ナノ粒子を担持した常温触媒。植物老化ホルモンであるエチレンを分解し、野菜の鮮度を保つ。

(2) 概要

①コンセプト

三重情報館の基本コンセプトは「伝統と革新～“和”の精神～」とし、三重の歴史、多様で豊かな文化、自然、食、産業等における「伝統と革新」を「和の精神」という切り口で捉え、「静と動」の織り成す三重の多様な魅力を発信することとし、展示コンセプトは、「いつまでも瑞々しくて若々しい『常若』思想に根付く『三重』の『姿』『技』『食』－『伝統』を守りながらも『革新』を積み重ねることで進化してきた－」を伝えることに決定した。

②展示構成

(ア) 映像 (大型ディスプレイ)

インパクトのある映像で来場者の目を惹きつけるため、入口正面に大型ディスプレイ (高さ2.5m、幅9m) を設置し、日本人の心のふるさと三重が育ててきた精神性について、伊勢神宮を中心とした、自然との共生、多様な価値観や文化との調和、おかげさまという感謝の心、平和への祈りといったメッセージ、三重の自然と食、三重のものづくりについて、3種類の映像 (各4分程度) で表現した。来場者からは「映像美が素晴らしい」とのコメントを多数いただいた。



大型ディスプレイ

また、大型ディスプレイを活用して、伝統工芸の実演時に手元を大型ディスプレイに映し出したり、フォトロケーションとして忍者や熊野古道の大型画像を背景に記念写真撮影を実施できるようにした。

(イ) 実物

伝統工芸については、国指定の伝統的工芸品である5品目 (伊賀くみひも、四日市萬古焼、鈴鹿墨、伊賀焼、伊勢形紙) に加えて、三重県指定の伝統工芸品を展示した。

先端技術については、三重県内の企業から応募のあった中から、世界に誇るべき最先端技術を用いた高度部材製品を中心に、選りすぐりの技術を紹介した。



伝統工芸



先端技術

(ウ) 実演・振る舞い

伊勢神宮の宇治橋をイメージした、尾鷲ひのき（FSC認証）を使ったステージでは、伝統工芸をはじめ様々な実演等を行い、来場者が出演者と双方向で交流する場を提供した。

【5月25日（水）】

○鈴鹿墨を使った書の実演

書道家の万代香華氏が書道パフォーマンスを行い、「常若」を縦2.4m×横1.8mの紙上に書き上げる様子を約80名が見学し、作品を会場内に展示した。その後、書の実演（万代氏がうちわに漢字を書いてプレゼント）を2回行い、約60名が参加した。来場者からは、「墨の香りがよい」「書の実演はとても躍動感がある」とのコメントや、うちわプレゼントでは子どもの名前や「調和」「平和」といった文字のリクエストがあった。



書のパフォーマンス



うちわプレゼント

○日本酒の振る舞い

三重県内全35歳の日本酒の試飲を実施し、約260名が参加した。酒杯には萬古焼の「ぐい呑み」を使用し、試飲後にプレゼントした。来場者からは、「とても美味しい、素晴らしい」「日本酒は種類とフレーバーが豊富で楽しい」との好意的な感想をいただいた。

また、先端技術コーナーでは濃縮日本酒「作」を振る舞い、約60名が試飲した。

【5月26日（木）】

○伊勢形紙の実演

伝統工芸士の小林満氏が伊勢形紙の実演を行い、約190名が見学した。来場者からは「集中力が素晴らしい」「日本の技術の高さや優雅さに圧倒される」等の感想をいただき、特に女性は伊勢形紙が着物の

デザインになるというストーリーに感動している様子であった。



日本酒振る舞い



伊勢形紙実演

○忍者ショー

伊賀忍者特殊集団「阿修羅」が忍者ショーを実施した。約150名が見学し、動きのあるアトラクションに見入っていた。来場者からは「運動能力がとても高く、驚いた。楽しかった」「忍者は映画で観たことがあった。ハイレベルで運動能力が高く、非常に感心した」とのコメントをいただいた。

【5月27日（金）】

○伊賀くみひもの実演

伝統工芸士の前沢恵津子氏が伊賀くみひもの実演を行った。伝統工芸士の匠の技とともに伝統的な組台で美しく染め上げられた絹糸が織りなす「組み」独自の風合いを、約30名の来場者に感じていただいた。



忍者ショー



伊賀くみひも実演

○海女のトークショー

配偶者プログラムに参加した海女（鳥羽市答志島：橋本加津代氏、濱口ちづる氏）のトークショーを実施し、約50名が見学した。トークショーでは、海女漁の姿が理解できるよう、実際に使われている道具を展示するとともに、海女さんには、生命の源である美しい里海を守り、伝統を守りながら生活する海女文化について語っていただいた。

【5月25日（水）～28日（土）】

○呈茶のおもてなし

伊勢木綿の着物を着た外国語案内ボランティアが、伊勢茶を約1,200名、餅を約800名に提供し、来場者は伊勢木綿の布を敷いたベンチでくつろぎ「伊勢茶はとても美味しい」と評判だった。

また、27日（金）には、配偶者プログラムの実施と併せて、中森慰氏（三重県手もみ茶技術伝承保存会会長）が手揉み茶の実演を行い、来場者からは「ずっと揉み続けるのはすごい」「とても美味しい。エスプレッソのようだ」とのコメントをいただいた。



海女トークショー



呈茶サービス

（エ） その他展示ツール

【空間演出】

会場中央にある2本の柱には、佐々木直喜氏（アーティスト）による「光柱のドウダンツツジ」、高根京子氏（書家）による書「心」「和」で、三重の自然の美しさを表現した。また、会場内に尾鷲ヒノキのチップを仕込んで香りの空間を演出した。

【食・日本酒コーナー】

食・日本酒コーナーでは、首脳や配偶者に提供された食や酒について即時に「首脳に提供されました」等のラベルを添付して情報館で掲示し、来場者の注目を集めた。

【小型ディスプレイ】

40インチディスプレイで、伊勢神宮、齋宮、海女、伊勢志摩の自然、熊野古道、先端技術、伝統工芸を紹介した。

【Pepper】

三重県庁臨時職員である人型ロボットPepperが三重情報館の案内役として参加し、来場者が伊勢音頭を楽しんだり、記念撮影をするなど、人気を集めた。

【仮想試着システム】

ディスプレイ装置を活用した伊勢木綿の着物や忍者衣装の仮想試着サービスを提供し、海外報道関係者を中心に喜ばれた。

【PONTANA】

デジタル情報スタンド「PONTANA」を活用して、展示コンテンツの詳細情報や三重の観光情報を電子データで提供し、来場者が各々のスマートフォンに欲しい情報を取り込んでいた。



光柱のドウダンツツジと「和」



光柱のドウダンツツジと「心」



Pepper



PONTANA

(3) 来場者数

三重情報館は5月24日（火）8時から5月28日（土）正午までの5日間開設し、延べ12,729名の来場者を集めた。

22日（日）の開所式の際には内閣官房長官が視察した。また、27日（金）には配偶者プログラムでカナダ首相及び欧州理事会議長の夫人及び安倍総理夫人が三重情報館を訪れ、知事夫妻が案内した。期間中は県内報道関係者を中心に、在京報道関係者からも多数の取材を受けた。さらに、閉館した29日（日）以降も様々な新聞やテレビで三重情報館の内容や取組が紹介された。なお、海外報道関係者は政治記者が中心であることもあり、三重情報館自体の取材を行う海外報道関係者は少なかった。

来場者数及び開館時間

5月24日（火）	1,126名（うち外国人 12名）	8時～22時
5月25日（水）	3,672名（うち外国人 324名）	8時～22時
5月26日（木）	4,889名（うち外国人 586名）	6時～22時
5月27日（金）	2,880名（うち外国人 280名）	6時～22時
5月28日（土）	162名（うち外国人 0名）	8時～12時

※集計方法は1時間のうち10分間の来場者数をカウントして6倍した

※来場者は報道関係者のみをカウントした

(4) アンケート調査

5月25日(水)から27日(金)までの3日間、三重情報館を訪れた海外報道関係者等(NGO含む)に対して、アンケート調査を実施し、32名から回答を得た。なお、快適に三重情報館を楽しんでいただくため、アンケートについては定量的な集計を目的とせず、海外報道関係者の感想を聞くことを目的とした。

三重情報館全体の印象としては、「伝統的なものと新技術の両面が見事である」「自然豊かなポルトガルの郊外に住んでいるので、自然と共生する三重の感覚がよく伝わってきた」等の意見があった。

関心の高かった展示物及び実演は、フリクションペン(6名)、伊勢形紙(4名)、忍者ショー(4名)、鈴鹿墨による書のパフォーマンス(3名)、TMPS®担持触媒(3名)であり、母国に発信したい情報としては、フリクションペン(3名)、三重の食(2名)との回答であった。

(5) 一般公開

サミットの現場を、次世代を担う県内小・中・高等学校生をはじめ、県民の方々に肌で感じていただくため、サミット終了後の5月30日(月)から6月10日(金)まで、国際メディアセンターアネックス(以下、IMCアネックス)を部分的に公開した(外務省と伊勢志摩サミット三重県民会議との共催事業)。

①公開施設

IMCアネックス1階(三重情報館、政府広報展示スペース、ダイニングスペース)

IMCアネックス2階(ブリーフィングルーム)

②公開の対象・期間・参加者

【県内小・中・高・特別支援学校の児童・生徒】

平成28年5月30日(月)から6月10日(金)まで(平日のみ)9時から16時まで

参加者数33校 2,424名(引率者含む)

【子どもふるさとサミット参加者及び三重の高校生サミット参加者】

平成28年6月4日(土)9時から14時まで 参加者数103名(保護者含む)

【一般県民等】

平成28年6月4日(土)13時から16時まで、5日(日)9時から16時まで 参加者数1,040名

③見学方法等

見学者は、初めに2階のブリーフィングルームにおいて、「サミット塾」と題して、サミット期間中の最新映像を見ながら、具体的にサミット期間中に行われたことや各国首脳が話し合ったことなど、サミットについて外務省職員から説明を受けた。

その後、20人~30人を一グループとし、係員の誘導・説明によるツアー形式で各公開エリアの見学を順次行った。

公開エリアのうち、1階の三重情報館や政府広報展示スペースでは、外国人記者の方々を通じて世界に情報発信した、三重県や日本の“伝統と革新”について、展示物や映像を通じて学び、再発見できるようにした。

また、1階のダイニングスペースでは、サミット当日の様子を伝えるパネルや実際に首脳会議で使われたテーブルと椅子が展示され、サミットの雰囲気を実感できるようにした。



ブリーフィングルーム



三重情報館



政府広報展示スペース



首脳会議で使われたテーブルと椅子を展示

1 地元4市町（志摩市・伊勢市・鳥羽市・南伊勢町）及び桑名市の取組

（1）志摩市の取組

①志摩市の取組体制

（ア）伊勢志摩サミット推進本部

平成27年6月19日（金）、全庁を挙げてサミット関連事業の推進に取り組むべく、伊勢志摩サミット推進本部を設置した。本部は部長級以上の職員で構成し、本部長を市長とした。本部会議は、サミット開催までに10回開催した。

（イ）サミット推進室

平成27年6月24日（水）、サミットの成功に向け、市内の取組推進や国・県との調整を図るべく、企画部（平成28年4月から政策推進部）内にサミット推進室を設置した。

（ウ）伊勢志摩サミット調査推進特別委員会

サミット開催自治体の議会として、市民の要望や不安等に応え、又情報を共有することなどを目的に、平成27年9月1日（火）、「伊勢志摩サミット調査推進特別委員会設置に関する決議について」が本会議において可決され特別委員会が設置された。特別委員会はサミット開催までに8回開催された。

②伊勢志摩サミット市民会議～光輝く志摩づくり会議～

（ア）市民会議の設立と会議の開催

平成27年7月3日（金）、志摩市の多くの関係者がサミットの成功及びサミットを生かした地域づくりのために集い・考え・行動するための会議として、官民一体となった「伊勢志摩サミット市民会議～光輝く志摩づくり会議～」が設立された。44の構成団体からなり、会長は市長、副会長は市商工会長、市観光協会長、市自治会連合会長が務めた（事務局は志摩市）。

第1回総会では、市民会議の基本方針として、「開催地にふさわしい環境の整備」、「観光地『志摩』の世界への発信」、「サミット開催を契機とした志摩づくり」、「伊勢志摩サミット三重県民会議との連携」という4つの柱が確認された。この方針に基づき具体的に検討・実施していくことを目的に、下部組織として、「まちの雰囲気づくり部会」、「ひらかれた観光地づくり部会」、「未来に続く志摩づくり部会」の3つの部会が設置された。また、サミット開催100日前を迎えるにあたり、記念イベントを企画する実行委員会も設置された。

(イ) 取組内容

a 開催地にふさわしい環境の整備

【市民会議シンボルマーク】

志摩市誕生10周年を記念して平成25年度に制定した「志摩市シンボルマーク」を期間限定でサミットバージョンに一部変更し、サミット開催に向け、市内における周知・啓発活動等に用いるシンボルマークとした。

＜シンボルマーク＞
志摩の「し」をモチーフに、豊かな自然環境と共生し、志摩の魅力を発信・PRするひろがり・笑顔を表し、志摩の目指す姿をイメージしている。



【歓迎機運の醸成】

サミット歓迎機運の醸成を図るため、市内各所にポスター、懸垂幕、横断幕、のぼり旗、歓迎看板や卓上旗などを設置した。また、県立志摩高等学校美術部の協力により「志摩らしさ、賢島をイメージできる」カウントダウンボードを制作し、サミット開催250日前の時期を捉え市役所1階に設置した。各地域や団体により制



カウントダウンボード除幕式 (H27.9.17)

作されたウェルカムボードについても、市内の公共施設等において展示を行った。その他、広報紙「伊勢志摩サミット市民会議NEWS」を平成27年11月から毎月、全戸配布を行ったほか、サミットについて紹介するクリアファイルを児童・生徒全員へ配布した。また、市民会議シンボルマークをあしらったマグネットシート、ピンバッチ、ボールペン、マフラータオル等の物品を市民に配布するなど、さまざまな方法でサミット開催の周知啓発に努めた。

【市内清掃活動】

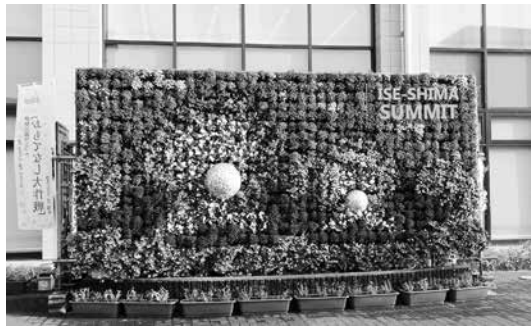
平成28年2月14日(日)、市内阿児ふるさと公園芝生広場において、県民会議主催で開催された伊勢志摩サミット「おもてなし大作戦」キックオフイベントに合わせ、市内一斉清掃活動を実施した。市内17か所で約2,000名の参加があり、約5トンのごみを回収した。その後、サミット開催までの間、各自治会や各団体・企業において、自主的な清掃活動が実施された。

【花いっぱい作戦】

サミットの開催にあたり、おもてなしの心と美しい花々で来訪者を歓迎するため、市内ボランティア団体等の協力の下、約30か所の花壇に花を植えた。また、市役所庁舎及び鵜方駅前広場にフラワーパネルを設置し、道の駅「伊勢志摩」前の国道167号沿いにはハンギングバスケットを設置した。市内全体が、約3万本の花でいっぱいになった。



＜ハンギングバスケット＞
道の駅「伊勢志摩」前の国道167号沿い



＜フラワーパネル＞ 市役所庁舎（左）・鶴方駅前広場（右）

b 観光地『志摩』の世界への発信

サミット開催150日前となった平成27年12月28日（月）に、8か国語に対応可能な市民会議のホームページを開設した。ホームページでは、市内のサミットに向けた取組の紹介のほか、志摩市の自然風景、伝統文化・祭、豊かな食材について情報発信を行った。また、観光パンフレットやPR映像の多言語化にも取り組んだほか、地元の産品を用いたお土産を紹介するパンフレットを作成するなど、広く志摩らしさをPRする取組を展開した。

c サミット開催を契機とした志摩づくり

未来に続く志摩づくり部会において、7回の市民ワークショップを重ね、今後の地域の活性化に向けた提言書を取りまとめた。

d 伊勢志摩サミット三重県民会議との連携

県民会議が実施する節目イベントやおもてなし大作戦、海外プレスツアー等の事業に対し、連携・協力を行った。

また、県の実施する住民懇話会において、警備関係機関とともに説明を行い、地域住民の理解・協力を求めた。

e 100日前記念イベント「志摩市まるごとおもてなしムーブメント」

サミット開催100日前を迎えるにあたり、記念イベントを企画する実行委員会を組織し、「志摩市まるごとおもてなしムーブメント」と題して、平成28年2月20日（土）、21日（日）に各5町地区で特色あるイベントを実施した。サミットの機会に来訪される多くの関係者や観光客の皆様を、市民一丸となってあたたかくお迎えできるよう、市民の「おもてなし」の機運醸成を目的として、各種企画に取り組んだ。また、開催100日前から開催日までの100日間、毎日、市民でカウントダウン映像をつなげていく企画にも取り組み、出演者は延べ約3,000名にもなった。終了後、これらの映像を一本の動画にまとめあげ、平成28年7月23日（土）の「第6回志摩の夏まつり」において、お披露目を行った。



100日前記念イベント時のカウントダウン撮影風景

③その他の主な取組

(ア) インフォメーションセンター

サミット開催に伴い、観光客や、サミット参加国のメディア関係者等の海外からのお客様の増加を想定し、平成28年4月16日（土）から5月28日（土）までの期間、近鉄鵜方駅1階旧観光案内所に、インフォメーションセンターを開設し、外国語対応が可能な職員を4名配置した。5月20日（金）から28日（土）までの期間には、県民会議の外国語案内ボランティアスタッフも配置され、連携して業務を行った。期間中、1日平均40～50名程度の利用があった。



インフォメーションセンター開設（H28.4.16）

(イ) 志摩市弁当協力会

海上警備に当たる海上保安庁第四管区海上保安本部から弁当供給の依頼が市商工会にあったことを受け、市内の飲食店や仕出し業者16業者が集まり平成28年2月に「志摩市弁当協力会」を発足した。志摩の食の魅力を発信すべく、アオサやヒジキ、豚肉など地域の食材を取り入れたメニューを考案した。その他、サミット関連業務を担った民間企業からの注文も含め、計1万8千食が提供された。

(ウ) 志摩市ナイト

平成27年11月11日（水）、東京都千代田区有楽町の日本外国特派員協会において、日本外国特派員協会主催、市観光協会後援により、志摩市の食と文化を海外の記者にPRするイベント「美しい志摩市の夕べ Shimashi Night」が開催された。来場者には、郷土料理のてこね寿司をはじめ、あのみふぐや伊勢えびといった特産の食材を用いた料理がふるまわれた。また、大口市長による志摩産ワラサの解体や、現役の海女が磯着姿で登場し、アコヤ貝から養殖真珠を取り出してプレゼントするといった「志摩ならではの」の演出を取り入れた情報発信がなされた。

(2) 伊勢市の取組

①伊勢市

(ア) 取組体制

a 伊勢志摩サミット担当

サミット開催に向け、新設の部署は設けず、情報戦略局企画調整課にサミット担当職員を配置（平成27年6月24日（水）に1名、同年10月1日（木）に2名（管理職1名含む）の計3名）し、諸調整や業務を遂行した。

b 伊勢志摩サミット伊勢市庁内調整会議

平成27年6月15日（月）、サミットの円滑な実施を図り、伊勢市の観光振興及び地域経済の活性化に寄与するため、市長を会長とする「伊勢志摩サミット伊勢市庁内調整会議」を設置し、また下部組織としておもてなし部会、情報発信部会、安全対策推進部会を設け、各種準備・調整を進めた。

(イ) 取組内容

a おもてなし事業の実施

サミット開催にあたり、美しい花々で来訪者を歓迎するため、市内の団体が実施する花いっぱい作戦に係る花の購入支援や、国際メディアセンター周辺で花文字の植栽を実施したほか、伊勢市内において様々な歓迎装飾を市民とともにを行った。

また来訪者を迎えるにあたり、Wi-Fi環境の整備やクレジットカード決済機器導入促進に係る取組を進めた。



伊勢市駅前の行灯もサミット仕様に装飾

b 伊勢の魅力発信

サミットの取材を予定している国内外の報道関係者に、伊勢市の魅力を伝え、自然や歴史、店舗、食、観光などの情報を取材していただき、情報発信を促進し、ひいては海外における伊勢市の知名度向上を図るため、平成28年2月1日（月）から6月15日（水）までの間、伊勢市情報発信センターを設置した。

独自のプレスツアーや首都圏でのプレスイベント、そして首都圏に向けての積極的なプレスリリースを実施したほか、伊勢市の観光資源や伝統工芸、食などの地域資源をそれぞれまとめたコンテンツシートや各種パンフレットを配布・閲覧できるようにし、伊勢市を訪れる国内外のメディア等に対して情報発信を行った。

また、訪問した報道関係者が快適に取材できるように伊勢市内の物産店や飲食店、宿泊施設などが取材協力や情報提供を行う「伊勢志摩サミットプレスサポーターズ～おもてなし100～」を組織し、積極的に情報発信をしたいという事業所を後押しした。



プレスツアーの様子



プレスサポーターズサミット開催直前決起集会

c 明日へつなぐ

未来を担う子どもたちにもこの地でサミットが開催されたことを記憶に留めてもらえるように様々な取組に参加・参画してもらった。

地元の高校生には、カウントダウンボードの製作、花いっぱい作戦での花の育苗など様々な協力を得た。

また、市立の小中学生に、世界に興味や関心をもってもらうため、サミット参加国にちなんだ「サミット給食」や啓発グッズにより世界に触れる機会の提供などを行った。



カウントダウンボード除幕式



啓発（サミット授業）の様子

d サミットに向けた各種準備

伊勢志摩サミットの公式行事や県民会議の行事の実施に向けた支援・協力を行った。

配偶者プログラムに向けては、伊勢音頭体験による交流を行うに際し、伊勢音頭保存会とともに伊勢っ子（観光客のおもてなしを学ぶ事業に参加した伊勢の子ども達）が練習会を開催し、本番に備えた。

また、市内の三重県営サンアリーナに国際メディアセンターが設置されることとなったため、それに係る準備等につき協力や各種調整を行った。

そして、サミットの開催を控え、伊勢市が設置する公共施設の管理者等への注意喚起と管理の徹底を促すための「テロ対策研修会」を実施するなど、テロ対策を推進するための取組も実施した。



伊勢音頭の練習の様子



研修会の様子

②伊勢志摩サミット伊勢おもてなし会議

平成27年7月31日（金）、サミットの開催を契機として、市民及び事業者の「おもてなし」の心を育むとともに、伊勢を訪れる方々を「おもてなし」の心を持って温かく迎えることにより、何度も訪れたい魅力あるまちにすることを目的として、「伊勢志摩サミット伊勢おもてなし会議」を設立した（事務局：伊勢市）。

構成員としては、教育・研究機関、商工業・観光等の各種団体、公共交通等事業者など合計14団体で、会長は伊勢市長、副会長は伊勢商工会議所会頭、顧問には伊勢市議会議長、オブザーバーは伊勢警察署が務めた。

伊勢志摩サミット伊勢おもてなし会議は、サミット開催まで合計5回開催され、吊下げ旗（バナー）や外国語指差し会話シートの作成、クリーンアップ作戦、花いっぱい作戦などの実施について決定した。



4種の指差し会話シート



花いっぱい作戦

(3) 鳥羽市の取組

①鳥羽市の推進体制

(ア) ～真珠養殖発祥のまち・海女が日本一多いまち～伊勢志摩サミット鳥羽おもてなし会議の設置

鳥羽市では、サミット開催に関するあらゆる対応を「おもてなし」と捉え、長い歴史のなかでつくりあげてきた「おもてなし」を最大限発揮することによってサミットの成功を目指すとともに、サミット開催後も長期間にわたり地域経済が好循環するよう「おもてなし」に磨きをかけることを目指し、「伊勢志摩サミット鳥羽おもてなし会議」を平成27年7月13日（月）に立ち上げた（事務局：鳥羽市総務課）。経済団体や交通事業者など10団体と市の関係課で構成され、会長は鳥羽市長、オブザーバには地元警察や海上保安部などの警備関係者等をお迎えした。

平成27年9月16日（水）には、鳥羽おもてなし会議に副市長を実行委員長とする実行委員会を設置し、会議で承認された事業計画を班体制で推進した。官民一体となった取組を行うため、市だけの推進本部等は設けず、あらゆる取組を鳥羽おもてなし会議で協議・実施したことが、まちの一体感を高める結果にもつながった。

サミット開催までに、会議を5回、実行委員会を3回開催したほか、実行委員会の班ごとに入念な打ち合わせを重ね、会議のサブタイトルとなっている「真珠養殖発祥」・「海女の数日本一」と、鳥羽の誇る「豊かな海がもたらす食文化」や「質の高いおもてなし」を掛け合わせて情報発信できるよう取組を進めた。

②鳥羽おもてなし会議の取組

(ア) 公式行事や県民会議主催行事に対する支援

a 配偶者プログラムの開催支援

女性をおもてなしすることが海女や真珠といった鳥羽の持つ女性的なイメージと合致したことなどから、鳥羽市では早くから配偶者プログラムの誘致にターゲットを絞り活動を行った。

平成27年8月28日（金）には、鳥羽おもてなし会議の役員が三重県知事を訪れ、海女100人によるお出迎え等を含むミキモト真珠島での実施提案書を提出し、知事に鳥羽での開催をアピールした。

こういった積極的な姿勢とプログラム当日までの外務省等との調整が実り、平成28年5月26日（木）に開催された配偶者プログラムでは、鳥羽志摩の海女・女将によるお出迎え、戦国の時代に名を馳せた九鬼水軍太鼓の披露、海女と配偶者との対話など、多くの市民と配偶者との交流が実現した。

配偶者の皆さんをお迎えするにあたり、真珠島入場口へウェルカムボードを設置し、島と鳥羽をつなぐパールブリッジには、池坊伊勢支部の皆さんのご協力のもと、鳥羽市指定天然記念物のカキツバタを活けていただくなど会場の装飾を行ったほか、記念撮影用横断幕を提供したことにより、鳥羽の名を公式行事の記録として世界に発信することができた。



配偶者プログラムの記念撮影



海女や女将が笑顔でお出迎え



九鬼水軍太鼓の披露



海女と配偶者との対話風景



ブリッジから見える坂手島で満開のカキツバタを表現



三重情報館に出演する鳥羽の海女

b 三重情報館への海女の出演

平成28年5月27日（金）、三重情報館実演プログラム「現役海女による講和と対話」に、鳥羽の海女2人が出演した。会場では、多くの報道陣から取材を受け、海女文化や鳥羽の海産物の魅力が世界中に発信された。



海女と真珠をあしらったピンバッジ・ミニのぼり

c まちの美化と歓迎機運づくり

公式行事等の開催に備え、平成27年度から清掃活動や花による美化等、まちの環境・景観整備を行うとともに、市内の観光施設、宿泊施設、店舗等にミニのぼりを設置し、従業員の方にはピンバッジを着用していただくなど、市民のおもてなし機運を高める取組を行った。

(イ) 鳥羽のプロモーション

「海女」、「真珠」、「食文化」に関する国内外向け情報発信を独自に行ったほか、県民会議等への積極的な働きかけにより多数の海外プレスツアーを呼び込むなど、サミット開催後の活性化を目指し、鳥羽市の魅力発信に努めた。

a 「真珠養殖発祥のまち」

平成28年3月16日（水）から5月9日（月）にかけて、鳥羽駅前前の鳥羽一番街で開催した「海女と真珠展」に合わせて、在京の海外プレスや各国大使館に、世界で最初に真珠養殖を成功させた御木本幸吉の功績を紹介した開催案内をメール配信し、真珠養殖発祥の歴史を認知していただいた。

また、配偶者プログラムがミキモト真珠島で開催される機会をとらえた情報発信も検討していたが、外務省による公式発表がなされなかったため、事前のプロモーションは実施できなかった。配偶者プログラム開催後の報道として、プログラムがミキモト真珠島で開催されたこと、安倍総理夫人から各国配偶者への贈呈品に鳥羽の真珠が採択されたことが大きく取り上げられたことから、鳥羽の真珠への注目が高まった。

b 「海女が日本一多いまち」

平成28年5月14日（土）、伊勢神宮に奉納する「のし鮑」用の鮑を海女が採取する儀式「御潜神事」の再現イベントに、鳥羽志摩の海女84人が鳥羽市国崎町に集まった。

国内外の多くの報道陣が取材に訪れ、その模様が報道されたほか、前日まで催行されていた外務省主催G7プレスツアー参加者を鳥羽おもてなし会議でお引き受けし、取材をしていただいた。イベント前後に市長からのブリーフィングや海の博物館での海女に関する説明なども加えることで、G7各国へユネスコ無形文化遺産登録を目指す「海女文化」の情報発信を行うことができた。

また、サミット取材メディアに鳥羽の印象が残るよう、国際メディアセンター利用記者に配布された「三重のおもてなしバッグ」に海女関連グッズを協賛したほか、市内の観光施設、宿泊施設、店舗及び希望者に「カウントダウン海女カレンダー」を配布し、話題提供に努めた。



御潜神事を再現する鳥羽志摩の海女



海女の取材をする
G7各国プレス



カウントダウン海女カレンダー

c 「食の宝庫」

日本古来より、鳥羽は「御食国（みけつくに）」、つまり食べ物がおいしい国と呼ばれ、他の地域が租税を米で納めていたのに対し、鳥羽は鮑や魚、海藻などの豊かな海の幸を、朝廷や皇室に納めてきた歴史を持つ。サミット開催を契機として、宿泊拠点としての鳥羽の国際的な地位を向上させることを狙い、食文化とその歴史背景を広く世界に発信する取組を行った。

平成28年5月18日（水）から4日間、「鳥羽の食」「料理人の技」「おもてなしの心」を世界へ発信するため、海外12カ国から20名の食・旅行関連メディアを招へいし、鳥羽マルシェでの歓迎晩餐会を皮切りとするプレスツアーを開催した。

またグランド ハイアット 東京とのタイアップ企画により、伊勢えび、アワビ、サワラ、シラスなど当地域が誇る厳選食材を活用した「伊勢志摩厳選食材フェア」を平成28年4月1日（金）から30日

(土)の1ヶ月間開催し、首都圏の富裕層に向けPRを行った。フェアの開催にあたっては、三重県、伊勢市、志摩市、南伊勢町にも協力を呼びかけ、地域全体で取り組むことで、スケールメリットを生かした事業展開となった。



海外メディア歓迎晩餐会



ランチメニュー「まる三重海鮮丼」



“TOBA TIMES” トップページ

d 鳥羽の魅力の多言語化

サミット開催で注目が高まる鳥羽の観光・食・地域等の情報を、実際の外国人の取材により製作した英語版サイト“TOBA TIMES”を開設した。

(ウ) 記念イベント等の実施

a おみやげ開発

北海道洞爺湖町を視察した際、サミットに向け早目に準備していた事業者のおみやげがよく売れたとの声があったことから、民間事業者のおみやげ品開発に対する助成を行ったほか、鳥羽の魅力を熟知する旅館の女将と海女がセレクトしたおみやげ10選「～サミット各国に自慢したい！～鳥羽・新！おみやげセレクト」を発表した。選定された商品には「海女と女将の太鼓判！TOBA」のロゴマークを使用して販売できる特典を設けた。



おみやげセレクト選定結果発表ポスター

(4) 南伊勢町の取組

①伊勢志摩サミット南伊勢町民会議

サミットの成功を期するため、官民一体となった南伊勢町全体の受け入れ体制を確立するとともに、併せて関連する事業を実施することにより、サミット開催後も長期にわたり地域経済が好循環するよう、町の活性化及び地域の総合力の向上に資することを目的に、平成27年9月17日(木)、経済産業団体、地域の各種団体、行政機関および地域活性化団体が参加する「伊勢志摩サミット南伊勢町民会議」が組織され、「開催支援・おもてなし」「明日へつなぐ・南伊勢の発信」2つの部会を設置した。

②機運の醸成

サミット歓迎機運の醸成やサミット関係者を歓迎するため、歓迎装飾の取組を実施した。サミット開催150日前の平成27年12月28日(月)に役場庁舎へ歓迎懸垂幕を設置するとともに、サミット開催100日前の平成28年2月16日(火)に伊勢志摩サミット三重県民会議のシンボルマークと町のキャラクター「たいみー」を使用したのぼり旗を国道260号沿い等の12箇所に240本設置した。



のぼり旗の設置

③おもてなしの心でお出迎え

(ア) クリーンアップ作戦

サミット開催に伴い、国内外から訪れる方をきれいな環境でお迎えするため、サミット開催100日前ウィークを中心に、平成28年2月14日(日)、21日(日)、28日(日)の3日間で、町内37地区において1,259名の方に参加いただき、地区内のクリーンアップを実施した。

また、サミット開催30日前ウィークの4月23日(土)に123人のボランティア及び町職員の参加により、サニーロード鍛冶屋トンネル南伊勢側出口から県道磯部南勢線(神津佐)町境・県道南勢浜島線(下津浦)町境まで、道路沿いのごみ拾いを実施した。

(イ) 花いっぱい作戦

町内の小中学生が、サミット参加国の国旗のシールを貼ったプランターにパンジーを植え替え、G7サミットにちなみ、町内の公共施設18箇所にプランター7基ずつを配布し、おもてなしの心と美しい花々で訪れる方々を歓迎するための花いっぱい作戦を実施した。

平成28年4月には、町内の全保育所や愛洲の館周辺において、マリーゴールド、ペチュニア、金魚草の花苗を植え、花いっぱいでお出迎えの取組を行った。



クリーンアップ作戦



花いっぱい作戦

(ウ) 国道260号沿道整備ボランティア

国内外から当町を訪れる方々をきれいな海の景色でお迎えするため、サミット開催30日前ウィークの平成28年4月23日(土)に、国道260号や県道沿いの景観向上の取組として、南伊勢の路さくら活動隊が道路沿線の雑木伐採のボランティア活動を実施した。



南伊勢の路さくら活動隊によるボランティア活動



サミット給食の様子

④子どもたちが国際的な感覚を身に付けるきっかけづくり

町内の全小中学校において、各学校、学級での食教育につなげるため、サミット参加国の代表的な料理を給食のメニューに加えたサミット給食を、平成28年1月12日(火)から5月27日(金)までの期間において20回実施した。

5月14日(土)に伊勢市で開催された「子どもふるさとサミット」に、南島西小学校6年生の13名が参加し、自分たちの学校で全校児童がアジの開きを作る「あじっこ集会」や漁業体験、塩づくり体験などの取組を発表した。

⑤南伊勢町の魅力の発信

南伊勢町の外国語版パンフレットを作成し、外国人観光客等を受け入れる宿泊施設や観光施設、及び国際メディアセンターに設置した。

また、広域連携の取組として、伊勢志摩の各市町とともにホームページの多言語化(英語、中国語〔繁体・簡体〕、韓国語、フランス語)や国際メディアセンター発着のシャトルバス等でのPR映像の放映、日本語英語併記ガイドブックの作成を行った。

さらに、基盤整備として、下津浦エコパークトイレの全洋式化や道路沿いの看板(サンロード及び国道260号沿線、下津浦エコパーク)の英語併記タイプへの改修を行った。



南伊勢町の外国語版パンフレット

(5) 桑名市の取組

①桑名市の取組体制

(ア) ジュニアサミット推進課

平成27年10月27日(火)、岸田外務大臣よりジュニア・サミットが桑名市を主会場として開催されることが発表された。これを受けて、桑名市としてジュニア・サミットを成功させ、今後の国際化推進及び地域活性化につながる事業とするために、11月9日(月)付けて市長公室の中にジュニアサミット推進課を設置した。当初は課長以下3名体制で、12月17日(木)付けて課長以下13名体制へ増員された。

(イ) 庁内プロジェクトチーム

平成27年11月25日(水)には、全庁を挙げてジュニア・サミット関連事業に取り組むべく、関係各部署の部長や課長をメンバーとして、「庁内プロジェクトチーム」を設置した。

②ジュニア・サミット桑名市民会議

(ア) 市民会議の設立

ジュニア・サミット開催による効果を一過性のものとせず、市民一人ひとりが積極的にに関わり、全市民的な取組とするために、公民連携による地域主体の歓迎や交流を実践し、国内外の認知度向上と誘客の促進を進めることを目的とした「ジュニア・サミット桑名市民会議」を平成27年12月18日(金)に、産業・経済関係分野、観光関係分野等の団体や市民を構成員として設立した。

市民会議には、おもてなし部会、交流部会、発信部会、運営部会、危機管理部会、協賛部会、支援部会の7つの部会を設置し、受け入れ準備を行い、総会及び役員会、部会の会議等を合計31回開催した。

(イ) 取組内容

【おもてなし力向上研修】

接客、接遇に携わる桑名市内の商業事業者のグローバルおもてなし力を向上させるため、おもてなし力向上研修を3回実施し、接客英語や「和のおもてなし」スキルを学んだ。

【くわなし おもてなし大作戦】

ジュニア・サミット開催50日前にあたる平成28年3月5日(土)に、開催に向けた事前の環境整備の一環として、「くわなし おもてなし大作戦」と題したクリーンアップ作戦及び花いっぱい作戦を実施した。クリーンアップ作戦には、桑名市内の企業やボランティア等約500人が参加し、約200kgのゴミを回収した。また、ボーイスカウトやガールスカウトの子どもたち及びボランティアを中心として、桑名駅東口ロータリーに設置されている花壇、吉之丸コミュニティパーク内及び九華公園内の花壇にパンジーを植え、花壇を華やかに彩った。



クリーンアップ作戦



花いっぱい作戦

【安全対策に関する取組】

ジュニア・サミット開催期間中の救急・医療体制については、桑名医師会や桑名市消防本部の協力のもと、協議を重ね、連携を図った。また、開催前には、防犯や危機管理活動の一環として、桑名地域生活安全協会や桑名地区交通安全協会を中心とした啓発活動やPR活動も実施した。

さらに、主会場となるナガシマリゾート内のホテルでは、平成28年3月17日（木）に、テロを想定した消防訓練を実施し、ホテル従業員や消防署員ら約90人が、英語を交えての避難誘導訓練に参加した。

3月25日（金）には、近鉄益生駅において、「テロ対策パートナーシップ」の参画機関である桑名警察署、桑名市消防本部、三重県警察本部機動隊が合同で鉄道テロ対応訓練を実施し、約60人が参加して爆弾テロ、化学兵器テロを想定した避難誘導訓練を行った。



ホテルでの避難誘導訓練

【国際交流ツアー】

ジュニア・サミット開催前に桑名市の魅力やジュニア・サミットをPRし、海外での認知度向上とインバウンドのきっかけとなることを目的として、平成28年4月9日（土）、留学生と高校生の国際交流ツアーを実施した。来日している東海地区の留学生14人と桑名市在住の高校生11人が参加し、ジュニア・サミットの視察先であるNTN(株)先端技術研究所、なばなの里のほか、六華苑で日本文化の見学、体験を行い、交流を深めた。

この他にも、伊勢志摩サミット及びジュニア・サミットの応援企画として、鈴木知事や伊藤市長、県立桑名西高等学校調理部の生徒が参加したバレンタインイベントや、NPO法人による児童向けのイベントなども多数開催し、ジュニア・サミットの開催PRを行った。



六華苑で着物を来て桑名の千羽鶴の体験

③桑名エキシビジョン企画

(ア) 概要

ジュニア・サミットが桑名市を主会場として開催されることを記念して、ホテル花水木コンベンションホールにおいて、平成28年4月22日（金）から24日（日）まで桑名市独自のエキシビジョン企画を実施した。

このイベントは入場無料で行われ、桑名市の魅力をPRし、ポストジュニア・サミットとしてのインバウンドに繋がるような事業の創出をするとともに、国際交流の推進をすることを目的とした。

(イ) 内容

桑名を題材とした浮世絵の中に自分が入ったように画像合成されるクロマキー体験ブースや市内の企業等4社の環境取組を紹介する企業ブースを設けて“自然との共生”等により育まれてきた日本の文化や技術を紹介した。また、桑名市内の全ての中学校9校と木曾岬町の中学校1校で製作したジュニア・サミット参加者を歓迎する「WELCOME MOVIE」の上映も行った。

イベントステージとして、23日（土）に県内7校の工業高校から合計10チームが参加して、トーナメント方式でロボットのアメフト大会を実施した。また、ロボット競技大会の開会式、途中休憩、閉会式

の際には、ご当地映画「クハナ！」に登場するキッズバンドが演奏を披露し、会場を盛り上げた。

24日（日）には桑名市独自企画の国際交流事業「ジュニア・サミット in くわな 2016」を実施した。40名の高校生と28名の三重大学の留学生が、①桑名の水環境②桑名の食③桑名の文化④桑名の観光産業⑤桑名の国際化の各テーマに分かれ、英語で討議を行った。三重大学人文学部の朴恵淑教授が全体コーディネーターを務め、討議の内容をまとめた宣言文を伊藤市長に手渡した。

その後、「平和」、「希望」のシンボルであるオリーブをナガシマリゾート北側の農園エリアに記念植樹した。



ロボット競技大会



「桑名ジュニアサミットユース宣言」
提出後の記念撮影



記念植樹式

2 その他市町の取組

(1) 北勢地域

①四日市市

(ア) 歓迎装飾

平成27年7月より、サミット歓迎機運の醸成や県民・来県者への周知を図るため、ポスターの掲示、チラシの配布、懸垂幕の掲出、のぼり旗・カウントダウンボードの設置等を行った。

(イ) おもてなし大作戦

a クリーンアップ作戦

サミット開催100日前ウィークの活動として、平成28年2月14日（日）、自治会連合会の協力のもと約150名が参加し、近鉄四日市駅前の清掃活動を行った。

また、3月12日（土）には鈴鹿川クリーン作戦として、地域住民や学校、企業、関係団体等、約1,500名が参加し鈴鹿川河川敷の清掃を、5月21日（土）には三菱化学グループ従業員と家族約1,000名が近隣住民と一緒に清掃するなど、市民の皆さんと一緒に取り組んだ。

b 花いっぱい作戦

ジュニア・サミット開催に先立ち、ジュニア・サミット参加者と同世代である県立四日市農芸高等学校の生徒が事前にプランターに植栽し、視察先である「そらんぼ四日市」の周辺に設置した。

また、5月2日（月）、9日（月）には近鉄四日市駅周辺にプランターを設置した。

(ウ) 「2016年ジュニア・サミットin三重」

平成28年4月23日（土）、討議に資する視察としてジュニア・サミット参加者が四日市公害と環境未来館を訪問した。環境保全と経済成長を両立し健全な環境を次世代に継承し持続的な発展をする方策について、討議テーマに基づき議論されるよう、四日市市が有する環境改善の歩みと技術について説明を行った。

(エ) 伊勢志摩サミット給食

サミット参加国の特色ある料理を通して、子どもたちが外国の食文化や世界について興味・関心を持つことができるよう、2月から5月の給食に参加国のメニューをとり入れた。各学校では、給食時間の校内放送や掲示板でメニューや参加国を紹介し、子どもたちがさまざまな食文化に触れる機会となった。



県立四日市農芸高等学校生による花いっぱい作戦



「四日市公害と環境未来館」を視察する
ジュニア・サミット参加者

②鈴鹿市

(ア) 歓迎装飾

平成27年7月より、サミット歓迎機運の醸成や県民・来県者への周知を図るため、ポスターの掲示、チラシの配布、懸垂幕の掲出、のぼり旗・カウントダウンボードの設置等を行った。

(イ) サミットPRイベントの開催

全県的にサミット開催機運を高めるため、開催100日前、50日前など、サミット節目日周辺などにおいて、第40回鈴鹿市植木まつりをはじめとするイベントで、サミットをPRした。各イベント会場ではポスターの掲示、のぼり旗の設置、ノベルティの配布などを実施した。

(ウ) おもてなし大作戦**a クリーンアップ作戦**

サミット開催100日前ウィークの活動として、平成28年2月14日（日）、国道23号沿いにある桜の森公園において、サミットののぼり旗を掲げ、自治会連合会が中心となって、地域の協力のもと公園内の清掃活動を行い機運を高めた。

また、サミットを契機に、日常的に行っている公民館のクリーンアップをバージョンアップし、国内外からの多くの訪問者に気持ちよく鈴鹿市を楽しんでいただくことを目的に、平成28年3月から5月にかけて、公民館周辺や近隣地区のクリーンアップを行った。本活動には、市内6公民館（白子・旭が丘・一ノ宮・郡山・清和・長太）が参加した。加えて、一部自治会等においても、地域でクリーンアップを行った。

b 花いっぱい作戦

平成28年4月6日（水）から10日（日）まで、自治会連合会が主催して、市外からお越しの方へのおもてなしとして、近鉄白子駅前において花の設置を行った。設置作業中にはサミットののぼり旗を掲げるとともに、プランターにサミットのガーデンピックを掲げた。

また、4月から5月にかけて、市内12公民館において、多くのボランティアとともに、街道に面した敷地内に花苗を植えたり、植栽の剪定などの美化事業を行った。

さらに、4月下旬には、近鉄鈴鹿市駅及びAGF鈴鹿体育館（鈴鹿市立体育館）において、花壇の植栽などを行った。

(エ) 「2016年ジュニア・サミットin三重」体験・交流行事

平成28年4月25日（月）に実施された体験・交流行事で、ジュニア・サミット参加者が鈴鹿サーキットを訪問した。鈴鹿高等学校書道部による鈴鹿墨を用いた書道パフォーマンスの披露、伊勢形紙彫り体験や国際レーシングコースでの最新カート体験乗車などを通して、参加者に鈴鹿市の伝統工芸やモータースポーツといった魅力を体感いただいた。

(オ) 地域資源の発信

海外プレスツアーなどにおいて、鈴鹿市の伝統的工芸品である鈴鹿墨や伊勢形紙を活用した地域資源の魅力発信を行った。

サミット開催期間中には、鈴鹿市産品の日本酒、ハナビラタケなどが紹介・活用された。

(カ) 国際理解・交流の展開

サミット開催の効果を明日へつなぎ、次世代を担う子どもたちがサミット参加国についての理解や交流を深められるよう、合川小学校の児童が平成28年5月14日（土）に伊勢市で開催された子どもふるさ

とサミットに参加し、明生小学校が6月8日（水）に、若松小学校が6月13日（月）に、旭が丘小学校が9月28日（水）に国際理解・国際交流プログラムを実施した。

③亀山市

（ア）「2016年ジュニア・サミットin三重」体験・交流行事

平成28年4月25日（月）に実施された体験・交流行事でジュニア・サミット参加者が亀山市関宿を訪問した。関宿「関の山車」保存会の子どもたちによる祭り囃子の演奏や、関中学校生徒のメッセージ披露のほか、亀山紅茶のふるまいやボランティアによる関宿案内などが行われ、参加者は、日本の歴史文化に触れるとともに地域の人々との交流を深める機会となった。

（イ）おもてなし大作戦

a クリーンアップ作戦

サミット開催100日前ウィークの活動として、平成28年2月14日（日）、J R亀山駅および亀山市文化会館周辺において、自治会連合会がのぼり旗を掲げて清掃活動を行い、サミット開催に向けての機運を高めた。

b 花いっぱい作戦

サミット開催50日前ウィークの活動として、平成28年4月6日（水）から、自治会連合会や婦人会連絡協議会等の協力を得て、ジュニア・サミット会場となる関宿をはじめ市内各所へプランターを設置し、飾花した。

（ウ）伊勢志摩サミット給食

サミットの開催に合わせ、市内の小中学校で「伊勢志摩サミット給食」を実施した。平成28年5月10日（火）に市内小学校および関中学校でサーモングラタンなどカナダの特産品を使った給食が、11日（水）に亀山中学校および中部中学校でスコッチエッグやフィッシュアンドチップスといったイギリスの伝統料理が登場した。校内放送でメニューの紹介も行い、子どもたちが外国の食文化や世界について興味や関心を持つ機会となった。

④いなべ市

（ア）おもてなし大作戦

a クリーンアップ作戦

平成28年5月14日（土）に市職員による市内の清掃活動を行った。

b 花いっぱい作戦

平成28年4月に市役所員弁庁舎前に花苗を植えたプランターを並べ、一部自治会の花壇にも花苗を植えた。

⑤木曾岬町

(ア) おもてなし大作戦

a クリーンアップ作戦

平成28年2月28日(日)に町内のスポーツ少年団に加入する約100人により、町内全域を対象に清掃活動を実施した。

b 花いっぱい作戦

平成28年5月6日(金)に町役場庁舎駐車場にて町内の希望者に花苗を配付した。

⑥東員町

(ア) 「2016年ジュニア・サミットin三重」

ジュニア・サミット関係者に東員町をPRするため、平成28年4月22日(金)から28日(木)まで、「2016年ジュニア・サミットin三重」会場のホテルにおいて、東員町英語版パンフレットを配布した。

(イ) おもてなし大作戦

a クリーンアップ作戦

平成28年4月24日(日)に町内の様々な団体が清掃活動を実施した。

b 花いっぱい作戦

- ・平成27年12月に東員花卉クラブの皆さんが、県民会議のシンボルマークをデザインした花壇を町役場に設置した。
- ・平成28年4月に町役場や公共施設等で飾花活動を実施した。

⑦菰野町

(ア) 役場庁舎と御在所ロープウェイ山上公園駅でのカウントダウン映像等投影

平成28年2月15日(月)から5月25日(水)まで、映像によって効果的に菰野町の魅力も含めたサミットの発信をするため、サミットカウントダウンの表示とともに、菰野町庁舎壁面では愛知県の3つの大学が制作した菰野町の観光ビデオ等を投影し、御在所ロープウェイ山上公園駅内では御在所岳の紹介映像等を投影することにより、市町からの機運の盛り上げに努めた。なお、投影映像の作成にあたっては旭電機株式会社の無償協力を得た。

(イ) おもてなし大作戦

a クリーンアップ作戦

平成28年3月20日(日)に菰野町区長会主催で、町内一円において約10,000人の方々が参加し、「菰野町クリーン大作戦」を実施した。

b 花いっぱい作戦

平成28年4月26日(火)から5月上旬にかけて、町内の各種団体、企業等の皆さんにより、町内一円においてサミット開催に伴う「花いっぱい作戦」を実施した。約3,000ポットの飾花を行い、三重

県を訪れる方々を歓迎した。

(ウ) 「2016年ジュニア・サミットin三重」体験・交流行事

平成28年4月25日(月)に実施された体験・交流行事でジュニア・サミット参加者が御在所岳を訪問した。ロープウェイでの空中散歩の後、山上で菰野町の豊かな自然を満喫していただいた。



役場庁舎でのカウントダウン映像等投影の様子



御在所岳を訪れたG7各国の高校生

⑧朝日町

(ア) おもてなし大作戦

a クリーンアップ作戦

毎年5月末の日曜日は町内一斉「ごみゼロ運動日」としているが、平成28年度はサミット開催に伴い、5月15日(日)に「クリーンアップ作戦」として清掃活動を行った。

b 花いっぱい作戦

平成28年4月から5月にかけて「花いっぱい作戦」を展開した。

町民の皆さんにも花に親しんでいただくため、縄生・朝日ヶ丘・柿・埋縄自治区の皆さんのご協力のもと、プランターに花を植え、町内各所に飾花した。

⑨川越町

(ア) おもてなし大作戦

a クリーンアップ作戦

三重県にお越しいただく方々を、きれいな街でおもてなしするため、平成28年4月6日(水)に清掃活動を実施した。

b 花いっぱい作戦

三重県にお越しいただく方々を、おもてなしの心と歓迎の気持ちでお迎えするため、平成28年4月11日(月)に近鉄川越富洲原駅及び庁舎にプランターを設置した。

(2) 中勢地域

①津市

(ア) 特設サイトの作成

サミットの開催に向け、津市ホームページ内に平成27年7月17日（金）、英語と日本語で情報を発信するサミット関連特設サイトを新設し、津市の魅力や観光情報、アクセス情報、宿泊情報などを一元化して発信した。

(イ) 歓迎装飾

平成28年3月23日（水）から6月中旬まで、市内の商店街、商業者による歓迎ムードの盛り上げ、及び商店街への誘客・商業の活性化を図るため、市内の商店街組織7団体、経済団体4団体が連携し、各商店街や各店舗前及び津駅前には歓迎フラッグやのぼり旗を設置した。

また、津駅前と立町商店街入り口に「伊勢志摩サミット歓迎」の大型看板をそれぞれ設置し、サミットの開催と津市の歓迎ムードを演出した。

のぼり旗とフラッグについては、「歓迎！伊勢志摩サミット」の文字やロゴマーク、各参加国の国旗を載せたデザインで日本語版と英語版の2種類を作成した。

(ウ) 「津なぎさまち」にかかる各種PR

a PR用展示パネルの設置

サミットの開催を契機として、津市の海の玄関口である「津なぎさまち」を広くPRするため、展示パネルを作成し、平成28年4月28日（木）から5月30日（月）まで、津なぎさまち内旅客船ターミナル交流広場に設置した。

b 花装飾おもてなし事業

平成28年3月から4月にかけて、サミットの開催に伴い、津なぎさまち内を花で装飾し、高速船を利用する来訪者へのおもてなしを実施した。

c G7大使館へのダイレクトメールの発送

平成28年4月14日（木）、中部国際空港からサミット会場への移動にあたっては、海上アクセスを利用し津なぎさまちを経由することが、早くて便利であることをG7大使館から関係機関等へ発信していただくために、各国大使宛に市長名の親書を発送した。

d 歓迎装飾

平成28年4月28日（木）から5月30日（月）まで、サミットの開催により、津なぎさまちを利用された方を歓迎するために、「津なぎさまち」⇔「臨港道路」⇔「フェニックス通り」に歓迎のぼり旗を、津なぎさまち内旅客船ターミナルに歓迎フラッグを設置した。

また、津なぎさまちにおける来訪者の歓迎機運を盛り上げるため、「レッツ津！夢みなとプラン推進協議会」が主体となった取組として、歓迎用横断幕を作成し、津なぎさまち内高速船アクセス港に設置した。

e 観光PRイベント及びおもてなし事業

平成28年5月23日（月）から27日（金）まで、津なぎさまちイメージアップ事業実行委員会と津市観光協会が連携し、津なぎさまち内旅客船ターミナル内にて、津の観光PR、津の物産販売及び甲冑武者隊によるおもてなしを行った。

f 清掃美化活動

平成28年5月20日（金）、サミットの開催にあたり、三重県への来訪者を気持ちよく歓迎するため、津なぎさまち及び周辺道路の清掃活動を実施した。

(工) 「2016年ジュニア・サミットin三重」体験・交流行事

平成28年4月25日（月）に実施された体験・交流行事で、ジュニア・サミット参加者が津市の一身田寺内町と専修寺を訪問した。

地元住民や津市長が参加者7名と県内高校生7名を出迎えた後、参加者たちは、地元の高田高等学校の生徒や専修寺からの説明を聴きながら、御影堂や庭園内の茶席「安楽庵」などを見学し、津市の歴史・文化に触れていただいた。

(オ) イベントにおけるPR

a 伊勢志摩サミット&お伊勢さん菓子博2017開催記念第6回スイーツフェスタ～桜フェア～

平成28年4月9日（土）、10日（日）に開催された同イベントにおいて、サミット開催記念企画として、各店がG7の国旗シールを貼付したスイーツを販売したほか、市内企業が販売する「伊勢志摩サミット応援商品」を集めた展示ブースを設置し、サミットの開催や応援商品をPRした。

b 第49回高虎楽座

平成28年4月16日（土）に開催された同イベントのステージでは、PRタイムを設け、司会からサミットの開催等をPRした。

また、会場内では、サミット歓迎ののぼり旗を多数掲出するとともに、「2016年ジュニア・サミットin三重」の開催をPRするため、体験・交流行事の訪問先となっている一身田寺内町と専修寺のPRも併せて行った。

c 第30回津市物産まつり

平成28年5月21日（土）に開催された同イベントにおいて、サミットの開催地を代表して、ミス伊勢志摩を招き、津クイーンや津っキャラとともにステージでサミットをPRするとともに、会場内で伊勢志摩サミット応援ソング「TIME」を流し、会場の雰囲気盛り上げた。

また、会場内に点在する「伊勢志摩サミット」等に関連した謎を解く「リアル謎解きアトラクション」を開催し、アトラクションの体験を通じて、親子連れをはじめとした多くの来場者にサミットの開催をPRした。

(カ) おもてなし大作戦**a クリーンアップ作戦**

平成28年2月10日（水）から17日（水）及び5月18日（水）から25日（水）に、サミットの開催にあたり、訪れる方をおもてなしの心でお迎えするため、市内公共施設のトイレの一斉清掃・点検を行った。

b 花いっぱい作戦

- 平成28年4月22日（金）に美里園芸福祉ボランティアの方々が美里地区内公共施設周辺及び国道163号線沿いにおいて、花苗を植えたプランターを設置した。
- 平成28年4月23日（土）に津市NPOサポートセンター主催で、津市まん中広場の花壇に花苗を植えた。
- 平成28年4月25日（月）に津市本庁舎の花壇等に花苗を植えた。
- 平成28年4月に津市自治会連合会10支部役員及び事務局で花苗を植えたプランターを本庁舎及び各総合支所へ設置した。



歓迎看板（津市立町商店街入り口）



おもてなし事業（津なぎさまち）

②松阪市**(ア) おもてなし大作戦****a クリーンアップ作戦**

- 平成28年2月17日（水）にサミット開催100日前イベントとして、松阪市自治会連合会や松阪市職員他60名が参加して、松阪駅周辺で清掃活動を行った。
- 平成28年5月22日（日）に嬉野自治会連合会や松阪市（嬉野地域振興局）職員他7,357名が参加して、嬉野地域振興局管内全域で清掃活動を行った。

b 花いっぱい作戦

- 平成28年4月5日（火）にサミット開催50日前ウィークイベントとして、松阪市役所本庁舎前にて松阪市自治会連合会から松阪市長にプランターに植栽された花60苗が寄贈された。花苗は以後、市役所本庁舎に設置した。
- 平成28年4月19日（火）にクラギ文化ホールにて花1,022苗を市内公共施設20か所の職員に配付した。花苗は以後、各施設の玄関、敷地に設置した。

(イ) 「2016年ジュニア・サミットin三重」体験・交流行事

平成28年4月25日（月）に実施された体験・交流行事で、ジュニア・サミット参加者が松阪市の飯南町深野を訪問した。

参加者7名と県内高校生7名を松阪市長と柿野小学校6年生児童が出迎えた後、日本棚田百選の一つ「深野だんだん田」を見学し、地域特産品の「松阪茶」を味わったり、特産松阪牛肥育農家にて松阪牛と触れ合うなど、地元深野区の住民の歓迎・協力の下、食と農に関する伝統・文化を体験していただいた。



松阪牛に触れる参加者



機織をするベトナムの閣僚ら

(ウ) ベトナム社会主義共和国・松阪市友好交流会

平成28年5月27日（金）、松阪市の伝統文化である松阪木綿を由縁とする繋がりから、サミットのアウトリーチ会合に参加するベトナム社会主義共和国のマイ・ティエン・ズン政府官房長官ら閣僚5名を含む17名が松阪市を訪問した。

第一小学校児童の和太鼓演奏による歓迎セレモニーの後、松阪木綿の機織体験や着物体験、地域特産品「松阪茶」の茶席体験、松阪牛すき焼きの食事など、松阪市の文化と食を堪能していただき、友好交流を深めた。

(エ) 伊勢志摩サミット給食

児童・生徒等がサミット参加国の食文化や世界について興味や関心を持つとともに、日本や三重県の食文化を理解する機会とするため、松阪市内の学校給食にサミット参加国の料理を献立内容に取り入れた。サミット給食は、4月から5月にかけて、各給食センター及び単独調理場ごとに実施した。

(オ) 配偶者プログラムレセプション用和紙の紙漉き

サミットの配偶者プログラムにおいて、レセプション用ディスプレイの一部に使用するため、平成28年1月22日（金）に地元の伝統工芸品である「深野和紙」の紙漉きを行い、レセプション用和紙として提供した。

③多気町

(ア) おもてなし大作戦

a クリーンアップ作戦

- ・平成28年2月14日（日）、町内観光施設従業員等が参加して、元丈の館周辺、ふれあいの館周辺、五桂池ふるさと村周辺でそれぞれ清掃活動を行った。

- ・平成28年5月15日（日）、毎年6月第一日曜日に町内一斉の「美化デー」として実施している清掃活動を、平成28年度はサミット開催に伴い、クリーンアップ作戦として各自治会地域住民が参加して各自治会で行った。

b 花いっぱい作戦

平成28年4月23日（土）、24日（日）、五桂池ふるさと村、元丈の館、ふれあいの館で、それぞれの施設従業員及び一般参加者約500名が参加して飾花活動を行った。

(イ) 「2016年ジュニア・サミットin三重」体験・交流行事

平成28年4月25日（月）に実施された体験・交流行事で、ジュニア・サミット参加者が多気町五桂にある高校生レストラン「まごの店」を訪問した。

参加者7名と県内高校生7名を多気町長と町立西外城田保育園児が手作りの国旗を振って歓迎し、さらに県立特別支援学校玉城わかば学園の生徒による歓迎の太鼓演奏で出迎えた後、県立相可高等学校食物調理クラブの生徒達と調理体験等を通し、日本の料理、食文化に触れていただきながら、参加者全員で昼食を食べていただいた。

最後も多気町長、町立佐奈保育園児、県立特別支援学校玉城わかば学園の生徒たちが参加者を見送った。

④明和町

(ア) サミット応援太鼓演奏

サミット開催を盛り上げるため、「さいくう平安の杜」の正殿前で、地元の業平夢太鼓（なりひらゆめだいこ）が中心となり、平成28年3月19日（土）、県内5団体による太鼓演奏を行い、サミットを応援した。

(イ) 歓迎装飾

a ジュニア・サミット歓迎看板の設置

「2016年ジュニア・サミットin三重」体験・交流行事の開催にあたり、平成28年4月13日（水）から25日（月）まで、歓迎機運の盛り上げや参加者への歓迎の意を込めて、会場となった「いつきのみや歴史体験館」近くの近鉄沿線に看板を設置した。

b サミット応援看板の設置

サミット開催を町を挙げて応援するとともに、電車利用者へのPRのため、平成28年4月27日（水）から5月27日（金）まで、近鉄斎宮駅近くの沿線に応援看板を設置した。

(ウ) おもてなし大作戦

a クリーンアップ作戦

平成28年5月8日（日）、大淀ビーチクリーンとして清掃活動を行った。

b 花いっぱい作戦

サミットの開催に合わせて、国史跡「斎宮跡」に来ていただく方を「花いっぱい」でおもてなししようと、平成28年4月17日（日）、地元ボランティアの「みどりの会」や「呉竹倶楽部」の皆さん、町内の小学生らが参加して、花の苗をプランターに移植し、500個のプランターを史跡周辺に並べた。

⑤大台町

(ア) おもてなし大作戦

a クリーンアップ作戦

平成28年4月10日（日）、町内一斉のクリーンアップ作戦を実施した。当日は約2,300の方が参加し、サミット開催機運の醸成と町の美化に努めた。

b 花いっぱい作戦

平成28年4月23日（土）から5月5日（木）、町内の各所にて活動されている景観保全ボランティアと連携し、花苗を植栽した。植栽した花は、サミット開催期間に丁度見頃を迎えた。

(イ) サミット特別給食

町の子どもたちに外国の食文化や世界について興味や関心を持ち、改めて日本や三重県の食文化を理解する機会とするため、平成28年5月23日（月）から27日（金）まで実施した。子どもたちからは、「7カ国の料理が食べられたのが嬉しい」「とても楽しみな1週間だった」などの感想が寄せられた。

(ウ) “水”を活かす

県内企業が連携し、サミット開催期間中、国際メディアセンターで世界各国のメディア等に対し、水質日本一に何度も認められた清流宮川の水「森の番人」で淹れたコーヒーを提供した。

(3) 南勢地域

①玉城町

(ア) おもてなし大作戦

a 田丸城跡クリーン作戦

毎年行っている田丸城跡クリーン作戦について、平成28年度は伊勢志摩サミット開催記念と銘打って5月22日（日）に実施した。早朝から、約60団体・750名超の方が参加し、清掃活動を行った。

b 花いっぱい作戦

平成28年4月から5月にかけて、サミット開催に向けて町内各地に花の苗を植えた。

②度会町

(ア) おもてなし大作戦

a クリーンアップ作戦

平成28年4月3日（日）、宮リバー度会パークで開催された春まつりにおいて清掃活動を行った。

b 花いっぱい作戦

平成28年4月13日（水）から18日（月）まで、町職員だけでなく度会町商工会や長原地区の環境美化のため活動されている「長原環境美化部会」、同じく立岡地区で活動されている「立岡環境美化部会」とともに、町内各地へ数種類の花を設置する取組を行った。



花いっぱい作戦（長原地内）



花いっぱい作戦（立岡地内）

(イ) 伊勢志摩サミット応援ソングの放送

平成28年5月24日（火）、伊勢志摩サミット公認サポーターの平井堅氏が制作した伊勢志摩サミット応援ソング「TIME」を、町内の小学校・中学校のサミット給食に合わせ、給食時間内に放送した。

③大紀町

(ア) PR看板の設置

平成28年1月26日（火）より、大紀町の大紀公園にサミットPR看板（縦2m16cm×横2m56cm）を設置し、サミット開催機運の醸成と情報発信に努めた。

(イ) おもてなし大作戦

a クリーンアップ作戦

平成28年5月15日（日）に町民約3,000人が参加し、町内で清掃活動を行った。

b 花いっぱい作戦

町内の花の会等の団体（野原公園花の会、野添花の会、野原公園花の会、さとの会、ひまわり会、三ヶ野花の会、大内山ピュアグリーン、めばえ）、保育園（ななほ保育園、大宮保育園、柏崎わかば保育園、錦あおぞら保育園、大内山保育園）、小中学校（大紀小学校、錦小学校、大宮小学校、七保小学校、大紀中学校、大宮中学校）、役場により、平成28年4月14日（木）から4月27日（水）にかけて、それぞれの地域の花壇やプランターに花苗の植栽を行った。

(ウ) 伊勢志摩サミット開催記念遠足

サミットの会場である志摩観光ホテル周辺と、取材拠点の国際メディアセンターを大紀町の小学4年生から中学3年生が見学し、サミットの空気を肌で感じてもらうとともに、センター内に設置された政府広報展示スペースや三重情報館を見学することによって、日本の伝統文化や最先端技術、三重県の魅力に触れることを目的として、平成28年5月30日（月）、31日（火）、6月6日（月）に伊勢志摩サミッ

ト開催記念遠足を行った。

(4) 伊賀地域

①名張市

(ア) おもてなし大作戦

a 「名張クリーン大作戦2016 & 名張しぜん環境再発見サミット」

例年実施している市内一斉の清掃行動「名張クリーン大作戦」を、県民会議のおもてなし大作戦に位置づけ、平成28年5月15日（日）、市民（地域組織）や住民団体・企業・行政など約75団体6,000人が参加し、市内一斉の清掃行動を実施した。

また、同日に開催したイベント「名張しぜん環境再発見サミット」では、名張の美しい自然環境を再発見する機会として、ギフチョウやオオサンショウウオなど名張市特有の自然等に触れ合う催しの他、大阪方面から来る電車に向かって、花いっぱい田園地から手を振り、三重県を訪れる人々におもてなしの心を表現した。

b 花いっぱい作戦

平成28年4月には、市内各地において、各団体により、2,000個の花苗の植栽を実施した。

(イ) 伊勢志摩サミット応援ソング映像の放送

平成28年5月25日（水）から27日（金）まで、名張市出身のシンガーソングライター平井堅氏が歌う伊勢志摩サミット応援ソング「TIME」のPR映像を、市庁舎1階ロビーにカウントダウンボードとともに設置し、市民へサミットの周知を行った。



伊勢志摩サミット応援ソング映像の放送

名張クリーン大作戦2016 & 名張しぜん環境再発見サミット

②伊賀市

(ア) 「2016年ジュニア・サミットin三重」体験・交流行事

平成28年4月25日（月）に実施された体験・交流行事で、ジュニア・サミット参加者が伊賀流忍者博物館を訪問した。忍者衣装に着替えて伊賀上野城の高石垣の見学や上野公園の散策をした後、忍者ショーの見学や手裏剣打ちを体験した。

(イ) 世界一大きな絵2020

平成27年11月から12月にかけて、世界各国で描かれた「世界一大きな絵」を集めるプロジェクトの一環で、伊賀市の青山小学校3、4年生が協力しあい、5メートル四方の大きな絵（芭蕉や忍者、俳聖殿、児童たちの似顔絵など）を制作した。完成した作品は、配偶者プログラムにおいて、ミキモト真珠島にて披露された。

(ウ) おもてなし大作戦**a クリーンアップ作戦**

平成28年2月16日（火）及び4月6日（水）に市内各地で職員による清掃活動を行った。

b 花いっぱい作戦

平成28年4月に市庁舎玄関等で飾花活動を行った。

(5) 東紀州地域**①尾鷲市****(ア) イベントにおけるPR****a 第30回全国尾鷲節コンクール**

平成27年11月7日（土）、8日（日）、サミット開催200日前ウィークイベントに位置づけて開催した。全国尾鷲節コンクールの大会ポスターへサミット開催の告知を記載するとともに、鈴木知事のPRスピーチや本大会優勝者へのサミット特別賞の協賛など、サミットのPRを行った。

b 尾鷲イタダキ市

サミット開催50日前ウィークイベントとして、平成28年4月2日（土）、朝市「尾鷲イタダキ市」でサミットPRグッズ（クリアファイル・絵ハガキ等）を配布し、サミットのPRを行った。

c 第4回尾鷲旬のコツまみバル

サミット直前の平成28年5月21日（土）に開催された「尾鷲旬のコツまみバル」の本部会場にて、伊勢志摩サミット応援ソング「TIME」をBGMとして流すなどサミットのPRを行った。

(イ) おもてなし大作戦**a クリーンアップ作戦**

- ・平成28年2月14日（日）、尾鷲市自治会連合会が中心となり、約300人の参加者が市内の各所で清掃活動を行った。
- ・平成28年5月18日（水）、例年およそ40人規模で行っている市職員による「まちなか清掃」を、おもてなし大作戦に賛同する形でサミット開催に合わせ実施した。例年の倍以上の約100人が参加し、市役所周辺主要道路の清掃を行った。

b 花いっぱい作戦

- ・平成28年4月6日（水）、尾鷲市自治会連合会の約20人が花苗100苗をプランターに植え付け、市役所前ロータリー及び尾鷲駅前にそれぞれプランター10個を設置した。
- ・平成28年4月24日（日）、例年行っているグリーンクラブや地域3自治会との花植えをサミットに合わせて前倒しして実施した。約30人が参加し、紀望通りや銀杏通り、北川右岸、中央公民館等に970苗（マリーゴールド、ペチュニア、金魚草）を植え付けた。
- ・平成28年4月30日（土）、約10人が参加して尾鷲市中村町地内（銀杏通り）の花壇植え替えを行い、花苗250苗を植え付けた。

(ウ) サミット給食

サミットにちなんで、サミット参加国等の料理を平成28年4月から6月にかけて尾鷲市内の学校給食に取り入れた。

(エ) 子どもふるさとサミット

平成28年5月14日（土）に伊勢市で開催された子どもふるさとサミットに輪内中学校の生徒が参加し、尾鷲市が姉妹提携するカナダのプリンス・ルパート市の交流について発表するため、当時、同市を訪れた派遣団員からの聴き取り学習や、調べ学習に取り組んだ。

(オ) 尾鷲防犯特別パトロール

サミット開催に伴うテロ等、異常事態により地域住民の安全が脅かされることのないよう、テロ対策尾鷲・紀北地区パートナーシップの構成団体である尾鷲地区防犯委員会が、サミット開催直前の平成28年5月25日（水）に沿岸部を中心としたパトロール活動を実施した。

(カ) サミットにおける尾鷲ヒノキの活用

首脳会議で使用されたテーブル等や椅子が、地域の行政を含めた林業・木材関係者の団体である「尾鷲林政推進協議会」において確保した「F S C認証尾鷲ヒノキ材」によって作製された。

また、シェルパ用机、三角プレート、ペン皿、コースター、曲げわっぱ、杉風荘のテーブルセット、国際メディアセンターのダイニング内装材、舞台に尾鷲ヒノキが使われ、すべての材料、製品納入に至るコーディネートの部分で尾鷲市・紀北町の木材関連業者、森林組合おわせ、尾鷲市、紀北町が一丸となって本事業に取り組み、その中でも森林組合おわせは、まとめ役として重要な役割を担った。

②熊野市

(ア) サミット歓迎機運の醸成

サミット歓迎の機運を醸成するため、開催までの節目日（200日前、100日前等）にあわせ、国道42号に面した市管理「道路電光掲示板」にサミット開催バナーを掲出した。

(イ) おもてなし大作戦

a クリーンアップ作戦

平成28年5月20日（金）にサミット直前クリーンアップ大作戦を世界遺産である七里御浜で行い、

清掃活動を通じサミットの機運の醸成を図った。

b 花いっぱい作戦

平成28年4月1日（金）から5月27日（金）まで、「オープンガーデン熊野2016」を実施した。市内18ヵ所のご家庭および事業所のご協力を得て庭を公開していただき、開催期間中延べ1万人の方にお越しいただいた。

4月13日（水）から16日（土）にかけて、松原花華会、心のオアシス・桃源郷、鬼ヶ城センターが、それぞれの地域等の花壇やプランターに花を植える活動を行い、サミットに向けた開催機運の醸成を図った。

(ウ) イベントにおけるPR

平成28年5月22日（日）に開催されたオール熊野世界No. 1 フェスティバルにおいて、サミット応援フェアとしてG7の国にちなんだスイーツ等を販売しサミット開催をPRした。

(エ) サミット参加国との交流

熊野市と姉妹都市提携を結んでいるイタリア・ソレント市の公式使節団6名が、平成28年5月12日（木）から14日（金）まで熊野市を訪問し、姉妹都市提携継続の約束の調印や市民との交流を深めた。



国道42号 電光掲示板



ソレント使節団植樹

③紀北町

(ア) おもてなし大作戦

a クリーンアップ作戦

- 平成28年2月14日（日）、紀北町連合自治会が中心となり、世界遺産熊野古道「馬越峠」及びその周辺の清掃活動を実施した。
- 平成28年5月22日（日）、海山連合自治会が中心となり、「クリーンクリーンデー」と称して例年実施している地域内一斉清掃活動をクリーンアップ作戦の一環として実施した。

b 花いっぱい作戦

- 平成28年4月6日（水）、紀北町連合自治会により、プランターへの飾花活動が行われ、役場庁舎に設置した。
- 平成28年4月14日（木）、紀北町役場職員互助会と環境美化ボランティア団体「フラワーフレンド

サークル」により、役場庁舎前の花壇への飾花活動を実施した。

(イ) 紀北町のPR活動

a サミットでの農林水産物の活用

サミットにおいて、紀北町の様々な農林水産物が首脳会合や国際メディアセンターダイニングで使用され、各国首脳や国外のメディア関係者の方々に、称賛を得ることができた。

首脳会議で使用されたテーブル等や椅子は、地元「FSC認証材の尾鷲ヒノキ」によって作製されたほか、各国首脳の部屋には、「200%トマトジュース」が備え付けられた。

国際メディアセンターでは、紀北町で水揚げされた「伊勢えび」や「アワビ」等の海産物が提供されるとともに、「アオサのり」「卵」「菌床椎茸」等が様々な料理に形を変え、多くの来賓をお出迎えすることができた。

b 海外プレスツアーでのPR活動

平成28年2月17日（水）、県民会議主催の第2回プレスツアーでは、熊野市の鬼ヶ城センターで交流会が行われ、町長も出席した中、特産品のPR活動等を実施した。

(ウ) サミット給食の実施

サミットの開催にあたり、子どもたちがサミット参加国に興味や関心を持つ機会として、平成28年4月から5月にかけて、町内の幼稚園、小学校、中学校において、サミット給食を実施した。



世界遺産熊野古道「馬越峠」及び
周辺の清掃活動風景



プレスツアーでのPR活動風景

④御浜町

(ア) おもてなし大作戦

a 花いっぱい作戦

平成28年4月12日（火）、サミット歓迎の機運醸成のため、地域住民の方々と共に花いっぱい作戦を実施し、庁舎前の花壇に2,000株を植栽した。サミット期間中はのぼり旗や名札も設置し、おもてなしの心と美しい花々での歓迎に努めた。

⑤紀宝町

(ア) おもてなし大作戦

a クリーンアップ作戦

平成28年5月18日（水）、世界遺産にも登録されており、町内の観光スポットとなっている七里御浜の清掃活動を紀宝町職員労働組合が主体となって実施し、サミット関係者など来町される方々を歓迎した。

b 花いっぱい作戦

平成28年4月12日（火）、13日（水）、紀宝町が主体となって町内2箇所に美しい花々を植え、サミット歓迎機運の醸成やサミット関係者の歓迎を図った。

【参考：各市町におけるサミットに関連する会議等の設置状況】

市町名	名称等	
津市	H27.6.15	「津市伊勢志摩サミット関連情報連絡調整会議」を設置。
四日市市	H27.8.20	「伊勢志摩サミット庁内検討チーム」を設置。
伊勢市	H27.6.15	「伊勢志摩サミット伊勢市庁内調整会議」を設置。その後、庁内調整会議の下に、「おもてなし部会」、「情報発信部会」、「安全対策推進部会」の3つの部会を設置。
	H27.7.31	「伊勢志摩サミット伊勢おもてなし会議」を設置。
松阪市	H27.7.24	「伊勢志摩サミット松阪市庁内連絡調整会議」を設置。
桑名市	H27.11.9	「ジュニアサミット推進課」を設置。
	H27.11.25	庁内プロジェクトチームを設置。
	H27.12.18	「ジュニア・サミット桑名市民会議」を設置。市民会議の下に、「おもてなし部会」「交流部会」「運営部会」「発信部会」「危機管理部会」「協賛部会」「支援部会」の7つの部会を設置。
鳥羽市	H27.7.13	「～真珠養殖発祥のまち・海女が日本一多いまち～伊勢志摩サミット鳥羽おもてなし会議」を設置。同実行委員会を設置（9/30）。
熊野市	H27.6.22	庁内に熊野市「伊勢志摩サミット」推進会議を設置。
志摩市	H27.6.19	庁内に「伊勢志摩サミット推進本部」を設置。
	H27.6.24	「企画部サミット推進室」を設置。
	H27.7.3	「伊勢志摩サミット市民会議～光輝く志摩づくり会議～」を設置。その後、市民会議の下に、「まちの雰囲気づくり部会」、「ひらかれた観光地づくり部会」、「未来に続く志摩づくり部会」の3つの部会を設置（7/31）。「伊勢志摩サミット開催100日前記念イベント実行委員会」を設置（12/21）。
明和町	H27.8.1	「伊勢志摩サミット連絡調整会議」を設置。
南伊勢町	H27.6.10	「伊勢志摩サミット南伊勢町プロジェクト委員会」を設置。
	H27.8.3	庁内に「伊勢志摩サミット南伊勢町庁内会議」を設置。
	H27.10.7	「伊勢志摩サミット南伊勢町民会議」を設置。町民会議の下に、「開催支援・おもてなし部会」、「明日へつなぐ・南伊勢の発信部会」の2つの部会を設置（12/16）。

第7章 広域の連携

1 東海三県一市の連携体制 (三県一市：三重県、愛知県、岐阜県、名古屋市)

(1) 伊勢志摩サミット東海三県一市担当課長会議

平成27年9月9日(水)、岐阜県多治見市において「東海三県一市知事市長会議」が開催され、「伊勢志摩サミットについて」を議題に、行政の役割や三県一市の連携する取組を協議するとともに、情報共有や取組について話し合う場として「伊勢志摩サミット東海三県一市担当課長会議」を設置することとなった。

この決定を受け、10月8日(木)に「第一回伊勢志摩サミット東海三県一市担当課長会議」を開催した。

同会議は、サミット開催までに3回開催した。三県一市での国への提言の結果、国際メディアセンター・アネックスにおいて、東海地域の強みであるものづくりに関する情報発信が行われたこと等の成果を確認し、平成28年7月11日(月)に開催した第4回会議をもって解散した。

【国への提言活動】

同会議の検討結果を踏まえ、三県一市では、国に対し、①財政支援スキームの構築、②日本の技術力を集積した展示館と東海ものづくり最新技術PR拠点の設置、③中部国際空港の整備、④国際会議の開催、を要望した。

特に①に関しては、外務省において、「主要国首脳会議開催準備環境整備費補助金」が創設されるなど、開催県である三重県の財政負担が一定程度軽減されることとなった。

また、海外メディアに対し東海地域の魅力を発信するため、国際メディアセンターの政府広報展示スペースでの展示コンテンツについて、外務省に提案を行った。



国への要望(外務省)

【連携した取組】

東海地域の魅力を発信するため、平成28年2月13日(土)、14日(日)に、東京都世田谷区の子玉川ライズで開催された「三重県フェア」において、三県一市のPRブースを設置し、首都圏における東海地域の観光PRを実施した。

また、3月14日(月)に開催された昇龍道プロジェクトによる「第2回昇龍道日本銘酒街道推進会議」(共催：伊勢志摩サミット三重県民会議、伊勢志摩サミット東海会議)において、三県一市の観光PRのほか、関係閣僚会合開催自治体のうち、近隣県である富山県、長野県と連携し、観光PRを実施した。

加えて、三県一市の呼びかけにより、ボランティアによる伊勢湾流域圏の清掃活動である「伊勢湾 森・川・海のクリーンアップ大作戦」を、サミット開催50日前ウィークに併せて実施することで、東海地域のサミット開催機運の醸成を図った。この活動には東海地域の10団体、1,487人に参加していただいた。



二子玉川ライズでの「三重県フェア」



第2回昇龍道日本銘酒街道推進会議

(2) 伊勢志摩サミット東海会議

サミットは、開催県である三重県はもとより、東海地域を海外に知っていただく絶好の機会である。また、東海地域は、「ものづくり」の一大拠点であり、観光資源も豊富であるため、この機会を捉え、最先端技術や豊かな自然、伝統・文化など観光の魅力を世界に向け発信することを目的に、平成27年11月5日（木）、官民一体となった「伊勢志摩サミット東海会議」が設立された。

構成団体は、会員として、三重県、愛知県、名古屋市の行政機関、中部経済連合会をはじめとする経済団体や運輸業界、観光協会など合計24団体となった。会長は中部経済連合会会長、副会長は三重県及び愛知県副知事、名古屋市副市長が務めたほか、岐阜県がオブザーバーとして参加した（事務局は中部経済連合会）。設立総会では、訪日サミット関係者に対し、おもてなしの心で歓迎や案内を行うとともに、ものづくりや観光など東海地域の情報を発信し、地域の更なる活性化につなげていくために、様々な事業を実施することが決定した。

また、11月24日（火）に第一回役員会、第一回企画委員会を開催し、同委員会において、東海会議の具体的な事業の検討を行った。伊勢志摩サミット閉幕後、平成28年6月27日（月）に第2回総会及び役員会を実施し、東海会議は解散した。

なお、東海会議の事業のうち、おもてなし事業は、官民折半で予算を拠出しており、地域情報PR事業、PRツール作成事業は、東海会議が募った寄附金から拠出された。



伊勢志摩サミット東海会議設立総会

【事業内容】

①おもてなし事業

サミット開催機運の醸成やサミット関係者の歓迎のため、中部国際空港やJR及び近鉄名古屋駅、名鉄特急μスカイ内でのバナーやデジタルサイネージを活用した歓迎装飾を実施した。歓迎装飾の実施にあたり、東海地域の特徴を表すキーアイコンやキービジュアルを作成し、装飾に使用した。

また、節目となるサミット開催150日前には中部国際空港に、100日前にはJR名古屋駅にカウントダウンボードを設置し、除幕式を行った。

さらに、サミット開催直前となる5月23日（月）から、中部国際空港、JR名古屋駅に、主に海外メディ

アを対象としたおもてなしブースを設置した。当ブースでは、伊勢志摩サミット三重県民会議の外国語案内ボランティアと連携し、伊勢志摩地域への交通案内を行ったほか、伝統文化、先端技術の展示や体験など、東海地域の魅力発信を行った。おもてなしブースには、6日間で国内外から約5,000人の来場者があった。



カウントダウンボード除幕式（名古屋駅）



キービジュアル（中部国際空港）



おもてなしブースでの書道体験



おもてなしブース外観（中部国際空港）

②地域情報PR事業及びPRツール作成事業

東海地域の魅力を海外に発信するため、伊勢神宮の御用材を使用した「森香炉」を作成したほか、名古屋市の伝統工芸である「有松・鳴海絞」のスカーフを作成した。また、酒処である東海地域をPRするため、昇龍道地域のお酒を用意し、香炉、スカーフとともにおもてなしブースで海外プレスに配布した。

また、外国語ガイドブック「Central Japan」や東海地域の魅力を紹介したDVD「Tradition and Innovation」を作成し、各所でサミット関係者に配布・PRした。

国際メディアセンター・アネックスに政府が設置した広報展示スペースに、東海地域のものづくりの原点である「茶運び人形」を展示・実演し、伝統技術がものづくりの最先端技術につながっていることをPRした。



おもてなしブースでの記念品配布

2 関係閣僚会合開催自治体との連携体制

伊勢志摩サミット開催に合せて、過去国内最多の10の関係閣僚会合が開催されることとなった。

当初は、三重県と神戸市をはじめとする閣僚会合開催自治体で、各々に随時意見交換等を行っていた。平成28年1月から2月にかけて、東京都内にある11館のアンテナショップを巡る伊勢志摩サミット・関係閣僚会合開催県アンテナショップスタンプラリーを実施したところ、伊勢志摩サミットと関係閣僚会合が開催される自治体（茨城県、長野県、富山県、香川県、仙台市、新潟市、神戸市、倉敷市、広島市、北九州市）間で情報共有や連携したPRができないかという声が各自治体間で次第に大きくなった。

このため、三重県と関係閣僚会合開催10県市が全体で連携し、情報共有や開催地の魅力発信をより効果的にPRすること等を目的に、伊勢志摩サミット・関係閣僚会合開催自治体連絡会議（事務局：三重県）を設立することとなり、平成28年1月28日（木）に第1回会議を志摩市で開催した。

会議の中では、主に、ホームページでの相互リンク、各都市が連携したプレスツアーの実施や、各地域で実施するイベントでの相互PRの実施、開催自治体の知事・市長による連携した取組等の企画案について検討し、取り組んだ。

各開催自治体で実施するイベントでの相互PRでは、会議・会合のポスター掲示や、ノベルティ・パンフレットの配布を行った。三重県では、2月21日（日）に開催した「美し国三重市町対抗駅伝」や、3月6日（日）に開催した「三重もんづくし！うまいもん おもろいもん！」（大阪ガスショールーム hu+g MUSEUM）等のイベントで相互PRを行い、4月から6月にかけては、イオンリテール株式会社により開催された「みえ・伊勢志摩フェア」においても、各地域の旗艦店において、サミット及び関係閣僚会合開催地のPRを行った。

また、半年間に及ぶサミットイヤーの皮切りとなるG7広島外相会合の1か月前となる3月10日（木）には、伊勢志摩サミット・関係閣僚会合開催自治体連絡会議の構成自治体の首長ら（三重県知事、茨城県知事、富山県知事、香川県知事、新潟市長、倉敷市長、北九州市長等）が、各会議・会合の成功に向けて、安倍総理を表敬訪問した。



首相官邸での表敬訪問



安倍総理と面談する知事

平成28年7月29日（金）に第2回会議を開催し、各県市での開催結果や取組状況の報告とともに、会議の実績・成果を確認し、解散した。

【関係閣僚会合一覧】

	関係閣僚会合	開催日程	開催地
1	外務大臣会合	平成28年4月10日(日)、11日(月)	広島県広島市
2	農業大臣会合	平成28年4月23日(土)、24日(日)	新潟県新潟市
3	情報通信大臣会合	平成28年4月29日(金)、30日(土)	香川県高松市
4	エネルギー大臣会合	平成28年5月1日(日)、2日(月)	福岡県北九州市
5	教育大臣会合	平成28年5月14日(土)、15日(日)	岡山県倉敷市
6	環境大臣会合	平成28年5月15日(日)、16日(月)	富山県富山市
7	科学技術大臣会合	平成28年5月15日(日)～17日(火)	茨城県つくば市
8	財務大臣・中央銀行総裁会議	平成28年5月20日(金)、21日(土)	宮城県仙台市
9	保健大臣会合	平成28年9月11日(日)、12日(月)	兵庫県神戸市
10	交通大臣会合	平成28年9月24日(土)、25日(日)	長野県軽井沢町

3 ヒロシマ・ナガサキ原爆展

三重県及び伊勢市では、伊勢志摩サミットの開催に合わせて、広島市及び長崎市が主催し開催する「ヒロシマ・ナガサキ原爆展」に共催した。

この原爆展は、サミット参加者、関係者をはじめ県民の皆さんに原爆被害の実相と悲惨さを伝えるとともに、核兵器廃絶と世界の恒久平和祈念のメッセージを広く国内外に発信することを目的として、下記の内容で開催されたものである。

原爆犠牲者の遺品や当時を偲ばせる実物資料、写真パネルなどの展示のほか、被爆者自身による体験証言や体験記の朗読会も実施した。

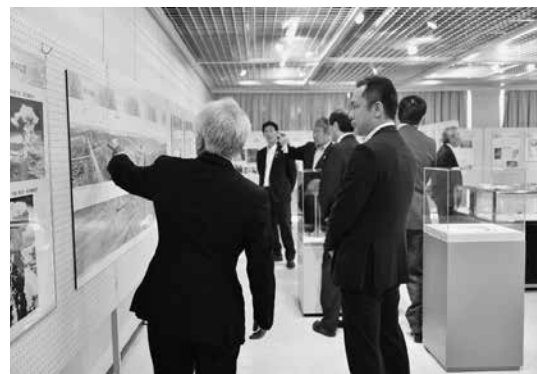
なお、開催初日には、オープニングセレモニーと被爆樹木二世の苗木授与式を行った。

(1) 開催期間及び会場

- ・平成28年5月22日(日)から5月29日(日)まで(8日間)9時から17時まで
- ・伊勢市観光文化会館 2階展示室
- ・原爆犠牲者の遺品ほか実物資料



会場の様子



説明を受ける知事

- ・写真パネル展示
- ・被爆体験証言及び被爆体験記朗読会
5月28日(土) 伊勢市観光文化会館 4階会議室
証言、朗読会ともそれぞれ午前午後各1回の開催

【被爆体験証言】

山本 定男氏（広島での被爆者）による講話

【被爆体験記朗読会】

国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館

被爆体験記朗読ボランティア 被爆体験を語り継ぐ「永遠の会」による朗読



被爆体験証言



被爆体験記朗読会

(2) 関連イベント

○原爆展オープニングセレモニー

平成28年5月22日(日) 9時から 会場前にてテープカット

○被爆樹木二世の苗木授与式

同日、オープニングセレモニー終了後

広島市より被爆アオギリ、長崎市より被爆クスノキ二世の苗木を授与

○主な出席者

広島市長、長崎市長、三重県知事、三重県議会議長、伊勢市長、伊勢市議会議長



オープニングセレモニーでのテープカット



被爆樹木二世の苗木授与式

(3) 来場者数等

①原爆展来場者数

2,992人（8日間の延べ人数）

○主な海外関係来訪者

ドミニク＝ジョルジュ・マロ氏(欧州理事会儀典長)

ニコラ・ドゥ＝ラ＝グランヴィル氏(欧州委員会儀典長)

ジョナサン・ハットウェル氏(駐日欧州連合代表部副代表・公使)

グレアム・ネルソン氏(駐日英国領事・日韓台越領事ディレクター)

②被爆体験証言参加者数

195人（2回の開催の合計者数）

③被爆体験記朗読会参加者数

103人（2回の開催の合計者数）



会場で説明を受けるEU高官

(4) 主催者等

①原爆展

主催 広島市、長崎市

共催 三重県、伊勢市

協力 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館、国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館

②被爆樹木二世苗木授与式

主催 伊勢市

第8章 警備・消防・保健医療

1 警 備

世界各国でテロが頻発し、我が国においてもテロ事件の発生が懸念され、また、サイバーテロやドローンなど新たな脅威への対応も迫られる中、三重県警察は、全国の都道府県警から応援を受け、愛知・三重両県で約2万3千人、三重県内では約1万6千人態勢で警備にあたった（人数は警察庁発表）。

海上保安庁や消防等、多数の機関との連携の結果、サミット開催に伴う警備は大きな事件・事故等もなく無事に終了した。

【警備の様子】



出発を待つ警察部隊※¹



伊勢神宮内宮を警戒する警察官※¹



伊勢神宮内宮から出発する車列※¹



国際メディアセンターに入る車列※¹



検問に従事する警察官※¹



賢島周辺で警戒する警察部隊※¹



賢島駅で警戒する警察官※¹



海上を警戒する警察官※¹



賢島周辺海域を警戒中の海上保安官※²



訓練中の海上保安官※²

伊勢志摩サミット三重県民会議が参画、実施した主な取組は以下のとおりである。

(1) テロ対策三重パートナーシップ推進会議

三重県警察では、伊勢志摩サミットの開催を契機として、テロ対策の恒常的な推進を目的に、官民一体の日本型テロ対策の枠組みとして「テロ対策三重パートナーシップ推進会議」を平成27年10月、警察本部に設立した。

また、平成28年1月末日までに県内の全警察署で地域版のテロ対策パートナーシップが発足し、地域密着型のテロ対策の推進体制がスタートした。

パートナーシップ設立後、テロ対策合同訓練や合同研修会を開催するなど、官民一体のテロ対策を進め、伊勢志摩サミットの成功に向け取り組んだ。



近鉄との合同訓練※¹



三重交通との合同訓練※¹

(2) 交通総量抑制対策

県民会議は、サミット開催に際して、来県される各国首脳等の移動に伴う高速道路や伊勢志摩地域の道路の混雑を緩和するため、「テロ対策三重パートナーシップ推進会議」内の「伊勢志摩サミット交通対策推進ワーキンググループ」と連携して、三重県内各路線における交通総量抑制行動に取り組んだ。

①対策期間 平成28年5月25日（水）から5月28日（土）まで

②対策内容

○期間前「相互啓発の促進」

対策期間中における交通規制の実施、公共交通機関利用促進について、組織内外における周知徹底、自主的な広報に努めた。

○期間中「交通総量抑制行動」

対策期間中の交通規制に伴う一般交通に対する影響を最小限にとどめるため、次のとおり交通総量抑制に取り組んだ。

- ア) 不要不急の乗用車利用の自粛
- イ) 通勤時等における公共交通機関利用の促進
- ウ) 移動時の乗り合い乗車の促進
- エ) 期間中における不要不急の会議、イベント等の自粛 等

③企業・団体との連携の事例

公益社団法人三重県バス協会や乗合バス事業者と連携して、サミット開催期における「公共交通機関の利用」「マイカー利用の自粛」を促進するため、毎週水曜日に実施している「みえエコ通勤デー^{*}」をサミット期間中も特別実施した。

※「みえエコ通勤デー」とは、自動車やバイクでの通勤から二酸化炭素排出の少ない交通手段であるバス等の公共交通機関による通勤へ転換を促す取組。普段、マイカーを使って通勤されている方が、エコパ（みえエコ通勤パス）の発行を受けた場合、毎週水曜日に県内路線バスを運賃の半額で利用できる。

(3) 小型無人機（通称ドローン）の飛行規制

三重県は、伊勢志摩サミット開催時の対象地域及び対象施設周辺地域の上空における小型無人機の飛行を禁止することにより、要人への危険を未然に防止し、もって会議の円滑な実施、良好な国際関係の維持及び地域の安全の確保に資することを目的として、「伊勢志摩サミット開催時の対象地域及び対象施設周辺地域の上空における小型無人機の飛行の禁止に関する条例」を制定した。

①規制の対象

- 〔1〕 小型無人機を飛行させている者、飛行させようとしている者
- 〔2〕 小型無人機とは、飛行機、回転翼航空機、滑空機、飛行船その他の航空の用に供することができる機器であって構造上人が乗ることができないもののうち、遠隔操作又は自動操縦（プログラムにより自動的に操縦を行うことをいう。）により飛行させることができるものをいう。

②規制期間

平成28年3月27日（日）から5月28日（土）まで

③規制場所

- 〔1〕 志摩市賢島内の円山公園内の四等三角点を中心として1,500mの半径を有する円内の地域（海域を含む。）
- 〔2〕 内宮（皇大神宮）、国際メディアセンター（IMC）の区域及びその周囲300mの地域

④規制方法

- 〔1〕 許可制（飛行させようとする日の40日前までの申請が必要）
- 〔2〕 即時強制

⑤罰則

無許可で小型無人機を飛行させた場合は、1年以下の懲役又は50万円以下の罰金が科せられる。

⑥周知への取組

三重県公報、ホームページ及び自治体広報誌への掲載、住民懇話会での説明、広報イベントでのチラシ配布や自治会回覧板の活用、公共施設や大型スーパー等へのチラシ掲出等、あらゆる機会・手段を活用した周知に努めた。

⑦国の法律※との主な相違点等

※国会議事堂、内閣総理大臣官邸その他の国の重要な施設等、外国公館等及び原子力事業所の周辺地域の上空における小型無人機等の飛行の禁止に関する法律

〔1〕 規制対象

国の法律では、人が飛行することができる「特定航空用機器」も規制対象である。

〔2〕 規制場所

国の法律では、対象施設の敷地又は区域及びその周囲おおむね300mの地域が、当該施設に係る対象施設周辺地域として規制対象になる。

〔3〕 規制方法

国の法律は届出制〔飛行させようとする日の48時間前までの届出が必要〕

〔警備の写真：※1は三重県警察提供、※2は海上保安庁第四管区海上保安本部提供〕

2 消 防

サミット開催にあたり、サミット会議場、関係者宿泊施設、国際メディアセンター、空港等における火災等の未然防止と災害発生時の消防活動に万全を期するため、消防・救急の特別警戒体制を構築し、各国首脳等の安全を確保した。

（1） サミット開催までの取組

今回のサミットは平成12年の九州・沖縄サミットや平成20年の北海道洞爺湖サミットに続く地方開催となったが、サミット開催地と各国首脳の日本での発着地が三重県・愛知県の複数県に跨った点はこれまでとの大きな違いである。また、開催地域を管轄する地元消防本部の消防力だけでは十分な対応が困難なことから、県内外の消防本部から広域的な応援を受けて、特別警戒体制を構築することになった。

①会議体及び組織体制の整備

伊勢志摩サミットの円滑な実施に向け、防災・危機対策の推進を図るため、平成27年7月14日（火）に、三重県伊勢志摩サミット推進本部の下に三重県伊勢志摩サミット防災・危機対策委員会を設けるとともに、8月1日（土）に、県防災対策部消防・保安課に4名（後に1名増員し、5名）で構成するサミット対策班を新たに設置してサミット消防特別警戒に必要な準備作業を本格的に行うことになった。委員会は、8月10日（月）以降原則毎週開催し、関連業務の進捗状況の共有や今後の対応方針等について協議するとともに、その下に、「三重県伊勢志摩サミット消防特別警戒連絡協議会」、「三重県伊勢志摩サミット防災・危機対策関係機関連絡会議」、「三重県伊勢志摩サミット県・市町災害対策会議」という3つの会議体を設けた。

②消防特別警戒体制の構築

（ア）三重県伊勢志摩サミット消防特別警戒連絡協議会

後述の伊勢志摩サミット消防・救急対策委員会と連携し、警戒対象施設における火災等の未然防止と災害発生時の消防・救急・救助活動に万全を期すべく、県内消防本部の対応等について協議するため、7月14日（火）に三重県と県内15消防本部で設置した。会議は原則毎月開催し、また、必要に応じて警防分科会及び予防分科会も開催して、サミット消防特別警戒に係る県内消防機関の連携を確認した。

加えて、サミット消防特別警戒に係る作業分担や各種事務調整等を行う場として、地元消防本部のほか県内の代表消防本部等、県内の核となる消防本部で構成する幹事会を当協議会の下に設置し、9月15日（火）以降、概ね2週に1回のペースで開催した。

（イ）伊勢志摩サミット消防・救急対策委員会

伊勢志摩サミット期間中における警防計画（火災、救急、救助活動に係る計画）及び予防計画（事前査察、訓練指導、期間中の予防警戒活動に係る計画）を策定し、円滑な警戒活動（テロ対策を含む。）を実施するための体制を構築することを目的に、7月29日（水）に総務省消防庁に消防庁次長を委員長として設置された。

8月28日（金）に第1回委員会が開催され、消防・救急特別警戒体制の確保に係る基本方針や事務分担、消防特別警戒系統図や消防・救急特別警戒予防計画の素案等が示された。また、名古屋市消防局や東京消防庁を中心に東海地区や近畿・東近畿地区、その他政令指定都市等の消防本部から、約800名弱の消防職員の応援出動が確認された。

また、当委員会には、警防部会と予防部会が設置され（第1回部会は第1回委員会と同時開催）、警防部会では警防計画の策定、予防部会では予防計画の策定をそれぞれ担うこととなり、10月13日（火）から14日（水）にかけて開催された第2回部会では、初日に両部会合同の現地視察、2日目に各部会の会議で消防特別警戒警防計画・予防計画共通事項や警防計画、予防計画の各案が示され、検討が行われた。

その後、11月20日（金）の第3回警防部会及び11月26日（木）の第3回予防部会で、消防特別警戒警防計画・予防計画共通事項や警防計画、予防計画の各案を引き続き検討したほか、警戒対象物ごとの警戒計画や各種マニュアル・要領等が示され、12月16日（水）に開催された第2回委員会で警防計画や予防計画を含む各種警戒計画が決定された。

（ウ）県外応援消防本部への協力要請と応援協定

平成27年11月18日（水）及び平成28年1月20日（水）から2月19日（金）までの間のうち延べ14

日間、知事、防災対策部長及び副部長が分担して、三重県内に応援消防職員を派遣する県外応援消防本部の管理者（東京都知事、管轄市長）や消防長、また航空消防隊を所管する埼玉県の危機管理防災部長に対し、伊勢志摩サミット消防特別警戒への派遣協力を要請した。

なお、上記要請とは別に、消防長会のルートにおいても応援協力要請が行われた（志摩広域消防組合消防本部→三重県消防長会→全国消防長会東海支部→全国消防長会）。

平成28年2月3日（水）には、全国的な応援体制整備のため、県内15消防本部と県外42消防本部、計57消防本部の間で「伊勢志摩サミット消防・救急体制整備に関する応援協定」が締結された。

また、平成28年3月25日（金）には、ヘリサットを搭載したヘリコプターの応援を可能にするため、埼玉県、愛知県及び三重県の3者間で「伊勢志摩サミット消防・救急体制整備に関する航空消防防災応援協定」を締結した。

（工）事前の調査・訓練の実施

平成28年1月19日（火）には京都市消防局の消防ヘリコプター（中型）が賢島島内で、2月19日（金）には同ヘリコプター及び東京消防庁の消防ヘリコプター（大型）がそれぞれ伊勢赤十字病院等や志摩スペイン村第3駐車場で、離着陸訓練を実施した。また、4月25日（月）及び28日（木）には、名古屋市消防局の消防ヘリコプター（中型）が県伊勢志摩広域防災拠点で離着陸訓練を行った。

2月3日（水）から26日（金）にかけて、3月から開始する予防事前対策を円滑に進めるため、対象施設の形態、特徴、火災の危険性等を把握するとともに、地区警戒本部及び対象施設関係者との緊密な連携を図るため、各施設の予防警戒員を対象とした現地説明会・実態調査が行われた。

3月1日（火）から5月19日（木）にかけては、予防計画に基づき、警戒対象施設14施設で関係者に対し、火災等災害発生時における初動対応要領（通報、初期消火、避難誘導及び消防用設備等の取扱等）についての消防訓練指導を原則各3回、延べ37回行った。

また、3月4日（金）から5月11日（水）にかけて、警防計画に基づき、各警戒場所において各現地警戒本部の指揮隊等による現地踏査やNBC対応に係る検討会を実施した。

4月22日（金）には、国際メディアセンターが設置される県営サンアリーナにおいて、施設内での出火を想定した避難誘導、救助、救急、消火等の訓練を実施した。また、5月11日（水）には、サミット主会場となる志摩観光ホテル（ザ ベイスイート）で、施設内で何者かが爆発を発生させ火災が発生し、その後犯人が何らかのスプレーを噴射し複数のけが人を発生させたという想定で、NBC災害対応、避難誘導、救助、救急、消火等の訓練を実施し、本番に備えた。

さらに5月18日（水）には、サミットの救急体制について、医療チームと救急隊で連携を図るため、厚生労働省等が実施する救急対応訓練に救急隊員らが参加し、動きを確認した。



県営サンアリーナでの事前消防訓練(H28.4.22)



志摩観光ホテルでの事前消防訓練(H28.5.11)

③結団式

サミット消防特別警戒が開始される5月24日（火）には、県内の消防本部のほか、県外から応援にあたる消防本部の各部隊も続々現地に到着した。午後5時のサミット消防特別警戒開始に先立ち、志摩市磯部町の「サンアール磯部」には消防職員等約700名、消防車両約50台が集結し、警戒にあたる消防職員の士気向上を図るため、三重県知事も出席のうえ午後3時から結団式を行った。結団式終了後、各部隊はそれぞれの配置場所に向かった。



伊勢志摩サミット消防特別警戒部隊結団式(H28.5.24)

(2) サミット消防特別警戒の概要

①実施期間

平成28年5月24日（火）17時から5月29日（日）9時まで

②警戒対象

各国首脳の入国拠点と想定されている中部国際空港からサミット会議場、各国代表団の宿舎等が置かれる賢島までの経路をはじめ、国際メディアセンターや首脳記者会見場、伊勢神宮、病院、サミット関係者の宿舎等サミットに関係する施設で発生した災害及び各国首脳をはじめとするサミット関係者

※ 対象施設

志摩観光ホテル ザクラシック、志摩観光ホテル ザ ベイスイート、賢島宝生苑、プロヴァンス、プライムリゾート賢島、ホテル志摩スペイン村、伊勢志摩ロイヤルホテル、ホテル近鉄アクアヴィラ伊勢志摩、セレクトグランド伊勢志摩、HOTEL NEMU（合歓の郷）、EXCEED NEMU（合歓の郷）、AMANEMU（合歓の郷）、三重県営サンアリーナ、国際メディアセンター、伊勢神宮（内宮）、鳥羽国際ホテル、タラサ志摩ホテル&リゾート、ホテルアルティア鳥羽、中部国際空港、高速道路（東名阪自動車道、伊勢自動車道、伊勢湾岸自動車道、知多半島道路、知多横断道路、中部国際空港連絡道路）、その他

③警戒体制

(ア) 警戒規模等

対応消防本部55（県内15、県外40）、消防車両99台、消防ヘリコプター4機、県防災ヘリコプター2機、警戒職員1,014名（消防職員965名、防災航空隊員13名、消防庁職員等36名）

(イ) 警戒組織

a 統括警備本部

サミット消防特別警戒の全体を統括した。志摩広域消防組合消防本部の5階に統括警戒本部を設置し、統括警戒本部長には四日市市消防本部消防長、統括警戒副本部長には名古屋市消防局消防部長を充てた。統括警戒本部には警戒支援隊を置き、警戒支援隊長に東京消防庁警防部参事、警戒支援副隊長には四日市市、名古屋市、津市各消防本部の役職者らを充てた。また、統括警戒本部に統括官、調整官、調整官補佐を置き、統括官には消防庁消防・救急課長、調整官には三重県防災対策部長、調整

官補佐には愛知県防災局次長を充てた。

b 地区警戒本部

統括警戒本部と連絡調整を行うとともに、現地警戒本部を統括した。統括警戒本部の下に志摩地区、伊勢地区、鳥羽地区、高速津地区、高速四日市地区、高速名古屋地区、常滑地区の7地区警戒本部を置き、地区警戒本部長には、それぞれの所轄消防本部の消防長を充てた。

c 現地警戒本部

地区警戒本部と連絡調整を行うとともに、警戒活動を実施した。警戒対象施設等の近辺に警戒隊員、消防車両を配置した現地警戒本部を9ヶ所〔賢島主会場、長沢運動公園、プラザ21、国際メディアセンター、鳥羽（船津）、高速津、高速四日市、高速名古屋、中部国際空港〕置き、現地警戒本部長には各指揮隊長を充てた。但し、高速津地区及び高速四日市地区については、それぞれ鳥羽（船津）及びプラザ21の部隊の一部が兼務し、首脳等の移動に合わせて、移動のうえ警戒にあたった。

また、現地警戒本部では、警戒隊員及び消防車両を配置して2交代24時間体制で警戒活動を実施した。なお、救急隊の一部は、主会場及び国際メディアセンターにおける緊急事態に迅速に対応するため、主会場のホテルや国際メディアセンターに配置した。

(ウ) 予防警戒員

サミット消防特別警戒期間中、予防警戒員はサミット関係施設内の防災センター等に常駐し、災害の未然防止と事象発生時の即応体制確保を図った。

④警戒部隊の活動等

(ア) 火災

志摩市神明地内の保安検査場の機器内部が焼損した建物火災（ぼや）が1件あり警戒隊員が出動したが、施設関係者の初期消火により鎮火した。

(イ) 救急搬送

警戒対象施設等での警戒中に発生した救急出動件数は8件あり、そのうち病院への搬送件数は6件、現地医療班による対応や本人の搬送拒否に伴う不搬送件数は2件であった。救急搬送した6件の事例の内訳としては、中等症が3件、軽症が3件で、首脳クラスの搬送事例はなく、特に大きな問題は発生しなかった。

(ウ) 自動火災報知設備の作動

志摩市内のホテルで浴室からの蒸気により自動火災報知設備のベルが鳴動した事例が1件あった。予防警戒員に加え、警戒隊員も出動したが、火災の事実はなく、予防警戒員が換気を実施し復旧を確認した。

(工) 警戒活動

政府ヘリコプターによる要人搬送に伴う陸上警戒、車両による要人の陸路移動に伴う高速道路警戒、要

人等の訪問（伊勢神宮、ミキモト真珠島、国際メディアセンター、記者会見場）に伴う移動警戒、消防ヘリコプターによる上空警戒を、合わせて12件実施した。

（3）まとめ

今回のサミット消防特別警戒では、平成20年の北海道洞爺湖サミットの警戒体制をモデルに、県内外の55消防本部の連携による広域的な体制を整備した。サミットの円滑な運営に万全を期するため、消防本部、県、国、全国消防長会の各者が一体となって協力して取り組み、所期の目的を達成した。

（4）サミット終了後

サミット終了後の8月1日(月)、サミットの消防特別警戒を実施し、災害の未然防止に尽力し円滑な運営の確保に多大な貢献があったとして、警戒に関わった県内外55消防本部と埼玉県及び三重県防災航空隊に対し、消防庁長官から賞状が授与された。

また、県からも、消防特別警戒実施にあたり、職員の派遣、関連施設等の警戒活動や訓練指導等の予防活動等に大きく貢献した県外31消防本部及び埼玉県防災航空隊に対し、8月1日付けて知事感謝状を贈呈した。

3 保健医療

サミット開催期間中は、各国の政府関係者や報道関係者、消防・警察関係者等が多数来県することから、サミットの円滑な開催に向けて、サミット参加者等の健康被害の未然防止及び緊急時の対応を求められた。

そのため、平成27年7月14日（火）に、三重県伊勢志摩サミット推進本部の下に5つの対策班からなる三重県伊勢志摩サミット保健・医療対策委員会（委員長：健康福祉部長）を設置し、サミットにおける保健医療対策の推進体制の確立を図った。

各対策班の取組は、次のとおりである。

（1）開催前

【総務班（健康福祉部健康福祉総務課）】

各対策班の進捗状況の確認や、三重県伊勢志摩サミット推進局、厚生労働省をはじめとする関係機関との連絡調整等により、必要な体制の整備を図った。具体的には、部内関係所属及び関係保健所等への協力要請、IDカードの申請・配付、「伊勢志摩サミットに係る健康被害等発生状況定時報告要領」等の作成・周知など各対策班に共通する業務にあたった。

【食品衛生対策班（健康福祉部食品安全課）】

①食品衛生対策

平成28年1月に策定した「伊勢志摩サミット食品監視指導計画」に基づき、首脳会議場・宿泊施設及び国際メディアセンターなどの主要施設、政府関係者などの宿泊施設、警備等に供給する弁当の製造施設・配送

基地、サミット関連行事に伴う関連施設、主要施設周辺の食品関係施設、伊勢志摩地域以外の大型宿泊施設・大型飲食店等の合計約460施設を対象として、四日市市及び愛知県と連携の上、監視指導や食品等の検査、講習会の開催等を短期間に集中的に実施し、提供食品の安全確保及び食中毒の発生防止を図った。さらに、関係団体との連携による衛生対策として食品衛生セミナーを開催した。

②生活衛生対策

平成28年1月に策定した「伊勢志摩サミット生活衛生監視指導計画」に基づき、各国首脳の前泊施設、政府関係者前泊施設、サミット関係者（警備・報道関係者等）の前泊施設及び大型前泊施設等の合計約330施設を対象として、旅館業法等に基づく各種基準の適合状況について監視指導を実施し、施設の衛生確保等を図った。

③おもてなし事業

伊勢志摩サミット三重県民会議及び公益財団法人三重県生活衛生営業指導センターと連携し、利用者の利便性・接遇の向上を図るため、飲食店におけるアレルギー表示や宿泊者名簿の外国語表記の推進等のおもてなし研修を実施した。

【感染症・医薬品対策班（健康福祉部薬務感染症対策課）】

①感染症情報の収集体制強化

生物テロを含む感染症の発生をより早期に察知するため、平時より実施している感染症発生動向調査事業及び症候群サーベイランス^{*1}（学校欠席者情報、薬局）に加えて、疑似症サーベイランス、救急搬送サーベイランス、警察サーベイランス、医療機関サーベイランスを新設し開催前から実施した。

※1 サーベイランス：感染症の発生状況を調査・集計することにより、予防や感染拡大防止対策に役立つシステムのこと。

②感染症発生予防対策

首脳会議場及び主要施設や会場周辺の前泊施設等に対して、感染症予防に関するチラシの配布及び説明等によって注意喚起を行った。

③患者発生時の対応及び感染拡大防止対策の強化

1類、2類感染症患者発生に備えて、第一種及び第二種感染症指定医療機関に協力依頼し、患者移送車や防護器材を伊勢保健所に配備した。

また、会場周辺で集団感染が発生するなどの不測の事態に対応するため、各定点医療機関に対して協力依頼を行うとともに、サミット会場周辺の主な4病院と個別に連絡調整会議を実施した。加えて、県内の各保健所からの応援体制の整備を図るとともに、県保健環境研究所において、バイオテロも含めた病原体検査の体制を構築した。

④血液製剤の供給対策

三重県赤十字血液センター及び日本赤十字社三重県支部の協力を得て「伊勢志摩サミット血液対策連絡調整会議」を2回開催するとともに、平成28年5月に「伊勢志摩サミット血液対策要領」を策定し、サミット開催

期間中の必要な血液製剤の在庫量の確保及び医療機関からの緊急供給要請に対し、迅速に輸送できる体制等の整備を行った。

⑤医薬品の供給対策

サミット開催期間中の医薬品等の供給については、県が保有している緊急用のワクチン・抗毒素及び常時備蓄している災害時医薬品等で対応するほか、テロ災害用の解毒剤等について必要量を確保した。

また、県内医薬品卸売業者等の協力を得て「伊勢志摩サミット医薬品対策連絡調整会議」を2回開催するとともに、平成28年5月に「伊勢志摩サミット医薬品供給対策実施要領」を策定し、緊急時に必要な医薬品の確保と迅速な供給体制等の整備を行った。

⑥毒物劇物対策

毒物劇物取扱者に対する安全対策講習会の開催や啓発により、毒物劇物の保管管理の徹底等を促すとともに、全保健所において、毒物劇物営業者等に対し立入検査を実施し、適正な販売手続及び盗難・紛失防止のための必要な措置等の遵守について指導を徹底した。

また、平成28年5月に「伊勢志摩サミット毒物劇物対策要領」を策定し、警察、消防等の関係機関との連絡体制等の整備を行った。

【救急医療対策班（健康福祉部医療対策局地域医療推進課、病院事業庁県立病院課）】

サミット参加国首脳や、政府関係者・報道関係者・警備関係者等に対する救急医療体制を確立するため、主会場及び国際メディアセンターに救護所を設置するとともに伊勢市内、志摩市内、南伊勢町内に受入医療機関を確保することとした。そのため、三重県医師会や関係郡市医師会等の協力を得て、県と国との共催で、関係機関を招いて平成27年12月に現地医療対策準備会を開催した。準備会においては、サミットにおける救急医療体制の概要説明及び受入医療機関等に対し、診療体制の確保などの協力依頼を行った。

平成28年3月には受入医療機関に対し、県外から派遣される医師等チームによる現地視察を実施し、受入医療機関との連携の強化を図った。

また、受入医療機関及び隣接する松阪地域の二次救急病院に対して、サミット期間中の地元住民に関する救急医療体制の確保を依頼した。

同年4月には、伊勢志摩地域内の受入医療機関と各消防本部による意見交換会を実施し、サミット期間中の救急医療にかかる検討を実施し、あわせて開催直前まで綿密に情報共有を行った。

【水道対策班（環境生活部大気・水環境課、企業庁水道事業課）】

水道に対するテロ等による人為的な事件・事故の未然防止を図るとともに、緊急事態発生時において迅速に対応できる体制を構築するため、次の対策を実施した。

- ① 平成27年9月、10月、平成28年1月及び4月に伊勢志摩サミット水道対策連携会議を開催し、水道ライフラインの安全確保に向けた体制の構築を図った（対象は各水道事業者、企業庁、各県地域環境室）。
- ② 平成27年10月に「伊勢志摩サミット水道危機管理実施要領」、平成28年1月に「水道水質試験における試料の採取等マニュアル」等の要領やマニュアルを策定し、水道対策連携会議にて周知した。
- ③ 各水道事業者において危機管理マニュアルの点検実施、施設の重要度にあわせた監視強化計画の策定を行うよう依頼した。

- ④ 平成27年11月、平成28年2月及び3月に水道事業等（志摩市、伊勢市、鳥羽市、南伊勢町、南勢志摩水道用水供給事業）への立入検査を実施し、水道施設への侵入・毒物投入防止措置の徹底等を重点的に指導した（大臣認可水道事業等は厚生労働省の検査に同行）。
- ⑤ 平成27年11月、12月及び平成28年1月に首脳等の宿泊施設への立入検査を実施し、主に水道施設の監視強化を指導した。
- ⑥ 平成28年2月及び5月に伊勢志摩サミット水道対策情報伝達訓練を実施し、事件・事故発生時の初動体制や連絡体制の確認を行った（2月は不審電話対応、5月は水道施設事故対応について確認。志摩市、伊勢市、鳥羽市、南伊勢町（2月のみ）、企業庁が参加）。

（2）開催期間における対応

平成28年5月25日（水）から28日（土）の期間中、救急医療対策班は、志摩市内の現地医療対策本部において24時間体制で対応にあたり、その他の対策班は、執務室、県内保健所及び水道事務所等において、緊急時に備え24時間連絡体制を確保し情報共有を図った。



現地医療対策本部

【総務班】

5月25日（水）から28日（土）の期間中、「伊勢志摩サミットに係る健康被害等発生状況定時報告要領」に基づき、毎日9時、13時及び17時現在の健康被害等発生状況について委員会各対策班から定時報告を受け、集約した結果を現地医療対策本部や厚生労働省、三重県伊勢志摩サミット推進局等関係機関と共有し緊急時に備えた。

なお、当該定時報告において健康被害の発生はなく、各対策班の的確な取組により、サミット開催期間中、適切な保健医療体制が確保された。

【食品衛生対策班】

サミット開催前及び開催期間中に関係者及び関連施設に食中毒を疑う事案が発生した場合に適切な調査や検査が実施できるよう、平成28年5月に「伊勢志摩サミット食中毒等対応マニュアル」を策定し、緊急連絡体制を整備した。

また、開催期間中は、首脳会議場・宿泊施設を管轄する保健所への応援、国際メディアセンターの衛生監視体制、緊急時に備え各保健所に食中毒調査に必要な人員を待機させるなどの特別体制を整備した。

平成28年3月から警備関係者等に延べ約33万食に及ぶ弁当が提供されたが、弁当供給業務の実施にあたっ

て、万全の食品衛生管理体制が確保できることを最重要方針と位置付け、弁当の製造過程において、HACCP及び大量調理施設衛生管理マニュアルに基づく衛生管理の徹底を図ることができた。また、提供する弁当が屋外で保管されることを想定し、三重県が定める食品の衛生管理指標の目標値を達成するよう指導・検査を実施した。さらに、県外の弁当製造施設についても愛知県との連携により食品検査及び詳細な監視指導を徹底したことにより、安全な食品を提供することができた。

このことにより、弁当を原因とする食中毒又は食中毒が疑われる事案はなかった。

【感染症・医薬品対策班】

①感染症情報の収集体制強化

感染症の発生を早期に察知し、発生した場合に迅速かつ適切に対応できるようサミット強化サーベイランスを実施し、会場周辺の医療機関や保健所、保健環境研究所、警察等関係機関との連絡体制の下、緊急時の対応に備えた。

疑似症サーベイランスは、サミット会場周辺地域を中心に、定点医療機関を設置し実施した。救急搬送サーベイランスは、県内全域の消防本部から救急搬送患者情報を収集した。警察サーベイランスは、警備にあたる警察官の患者情報を保健師の巡回健康相談等から収集した。また、サミット会場周辺の主な4病院を国立感染症研究所の職員が巡回し、現場の情報を直接収集する、医療機関サーベイランスを実施した。

強化サーベイランスによって収集したすべての情報を県に集約して解析、評価し、一体的な運用を行うことによって感染症発生監視体制強化を図った。

具体的には、県が消防本部、警察、医療機関等からの情報を集約し、国立感染症研究所からの医療機関サーベイランス、症候群サーベイランス等の情報、コメントとあわせて日報を作成することで、感染症発生についての評価を行った。また、毎日定期的に、厚生労働省、医療機関、医師会、警察、消防、保健所等関係機関や医療対策本部へ情報還元を行った。これらのサーベイランスは、サミット開催2か月前から順次開始し、サミット終了後10日間継続した。

②患者発生時の対応及び感染拡大防止対策の強化

厚生労働省や国立感染症研究所と連絡調整を行い、医療機関、保健所等関係機関と連携して患者発生時や感染拡大に備えた。特に、感染症情報の収集、監視については、サミット強化サーベイランスとして情報を一体的に運用し、夜間、休日も含めた各関係機関や医療対策本部等との情報共有体制をとったことで、収集情報への迅速な対応につながった。

こうした取組の結果、緊急対応を要する重大な感染症事案が発生することなく、対策を終えることができた。

③血液製剤の供給対策

開催期間中、県外の赤十字血液センターと需給調整し、必要量を確保することができた。とりわけ、三重県赤十字血液センターにおいては、血液製剤について、通常時の適正在庫量の1.8倍の量を確保するとともに、特に外国人に多いRh（-）型の血液製剤については、通常時の確保目標量の3～5倍の量を確保した。また、医療機関からの緊急供給要請に対応するため三重県赤十字血液センター（津市）及び日本赤十字社伊勢赤十字病院内（伊勢市）に当直職員を増員するなどして緊急輸送体制を確保した。開催期間中、サミットに関係する血液製剤の緊急供給要請はなかった。

④医薬品の供給対策

開催期間中、県が保有及び備蓄しているワクチン等の医薬品に加え、テロ災害用の解毒剤等を医薬品卸売業者に配備し、緊急時に対応できる体制を整備した。開催期間中、サミットに関連する医薬品等の緊急供給要請はなかった。

⑤毒物劇物対策

開催期間中、保健所、警察、消防等の関係機関相互における毒物劇物による危害発生時の迅速な情報収集、提供体制を整備し、緊急対応時に備えた。開催期間中、毒物劇物の盗難等の事故発生報告はなかった。

【救急医療対策班】

5月25日（水）から28日（土）の期間中、救急医療体制を統括するため、厚生労働省との協働により、志摩市内に厚生労働省技術総括審議官を本部長とする医療対策本部を設置し、東京医科大学主任教授及び三重県健康福祉部医療対策局長が副本部長の役割を担った。

県内外から派遣された医療スタッフ支援及び本部と配置先との情報伝達等を行うため、厚生労働省及び三重県の職員合わせて約80名を医療対策本部のほか受入医療機関、救護所等に配置した。

県内外から、約190名に及ぶ医師等チームの派遣を受けて、医療対策本部のほか伊勢市内に2受入医療機関、志摩市内、南伊勢町内に各1受入医療機関、主会場周辺等要所に3救護所、陸上自衛隊が保有する野外手術システム、諏訪赤十字病院が保有するモバイルICU^{※2}を配置するとともに、ドクターヘリ2機を配備した。

※2 モバイルICU：移動式集中治療室。酸素テントや人工呼吸器などのほか、各種のモニターや記録装置を備え、医師・看護師のチームにより構成。

本部では、5月25日（水）から28日（土）の期間中、毎日8時及び20時に救急医療情報の集約を行った。この間、受入医療機関及び救護所から本部へ報告された医師等チームが診療した患者数はのべ75名（患者実数は63名）であった。うちwalk-inの患者が63名、救急搬送された患者が9名、その他（往診等）の患者5名であり、首脳等の診療はなかった。

今回のサミットにおける救急医療は、概ね適切に確保された。県外から派遣された医師等チームによる事前の現地視察や受入医療機関、消防機関等との綿密な課題検討等がなされ、受入医療機関が医師チーム等の受入環境の整備を早くから着手したことにより、期間中も連携がうまく図られ、迅速でフレキシブルな対応が可能となった。

また、医師等チームにより、受入医療機関での地元患者への診療支援も実施された。

なお、空路での搬送については、実際の搬送事例はなかったが、患者の属性や傷病等だけでなく、テロ災害等多数傷病者の発生や首脳等の陸路移動等も想定し、配置場所やヘリコプターの種類を事前に検討したことにより、概ね適切な配置ができた。

今回のサミットが開催された伊勢志摩地域は、必ずしも医療資源が豊富ではない地域であるが、派遣される医師チーム等と各機関が綿密な協議を実施することにより、十分な救急医療体制を確保できる貴重な事例となった。

【水道対策班】

サミット開催一週間前から終了日まで、企業庁水道事業課等と各水道事務所では、24時間職員が常駐する

とともに、取水所等の重要施設は24時間監視体制とし、危機管理体制の確保に努めた。

サミット開催前日から終了日まで、大気・水環境課と南勢志摩地域活性化局環境室では、24時間職員が常駐し、迅速な連絡体制の確保に努めた。

県庁内と志摩市役所に待機する厚生労働省水道課職員と連携して、主会場及び各国代表団宿泊施設等からの定時報告を受けて情報収集を行った。

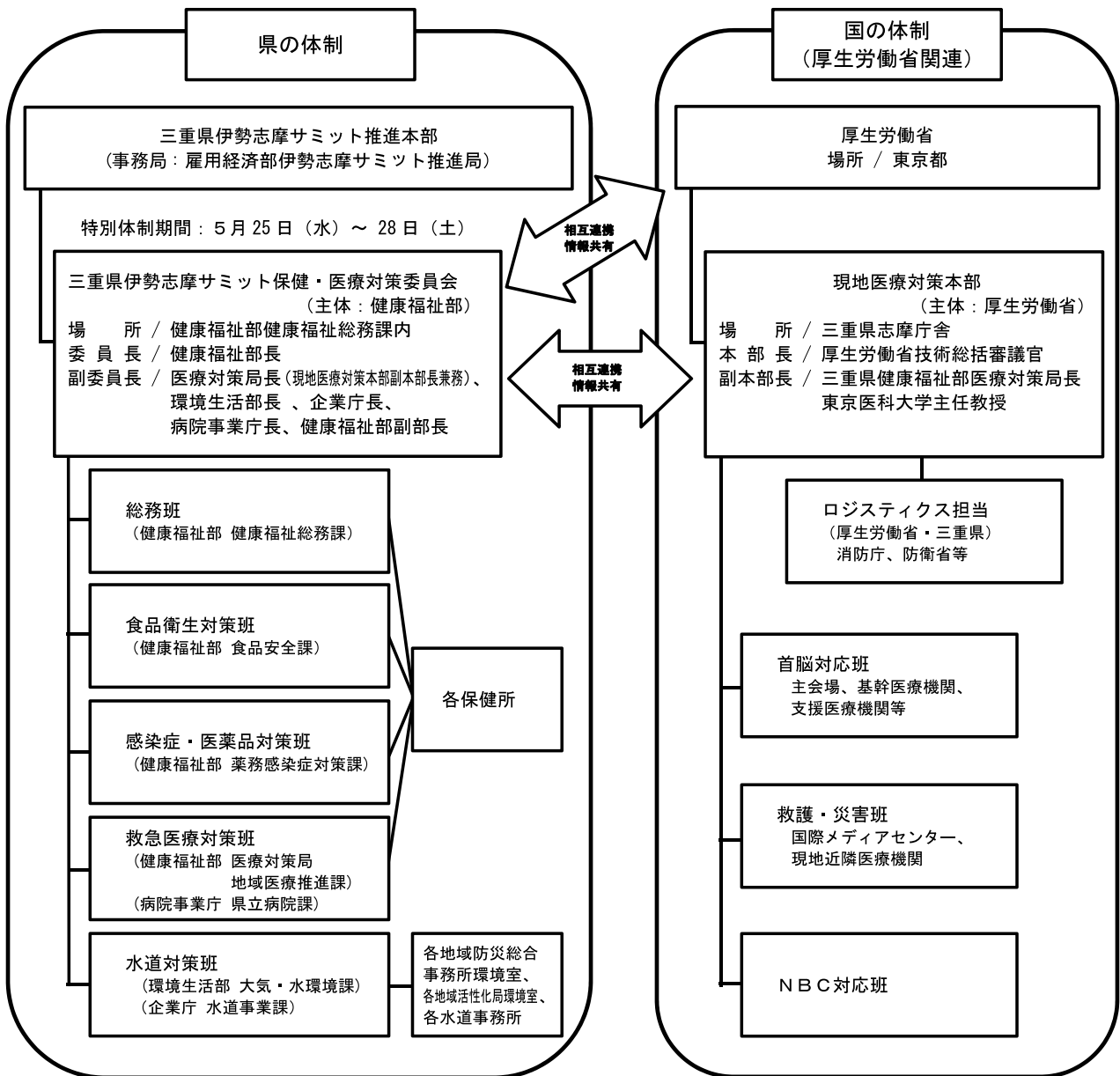
また、緊急時の水質検査及びバイオアッセイ監視魚の判定に対応できるよう、関係事業との24時間連絡体制を確保した。

なお、期間中においてはサミットに係る水道事故の発生はなかった。

対策を講じるにあたっては、要人の訪問先や警察による警備の内容、交通規制及び緊急時の通行方法が直前まで判明せず、計画の立案が想定によらざるを得なかったことがあげられる。また、サミット開催地周辺の水道事業者は、サミットに伴う施設警備強化や水質管理等のため、特別の費用負担が発生した。

今回の取組における成果として、サミットを機に対応マニュアルの整備やバイオアッセイ^{※3}による水質監視が実施されるなど、本県における水道の危機管理体制の充実が図られた。

※3 バイオアッセイ：魚類を飼育し行動を観察することで、水道水の水質異常を監視すること。



伊勢志摩サミット 実施体制概念図

4 警備・防災・医療等事務担当者情報交換会

伊勢志摩サミット開催に伴う警備・防災・医療業務に従事する関係機関の事務担当者が集まり、情報交換、情報共有を図ることで、互いに「顔の見える関係」を構築し、警備・防災・医療計画を遺漏なく適切な運用を図るため、警備・防災・医療等事務担当者情報交換会を開催した。

【開催に至った経緯】

伊勢志摩サミットの開催に伴い、多数の警備・防災・医療関係従事者が活動するにあたり、部隊拠点、駐車場、ヘリポート、船舶等の係留場所として活用される敷地、施設が必要となるが、三重県においては、利用可能な広大な敷地、施設が極めて限定されていた。

このため、大量の人員が投入されることが予想されていた警察、海上保安庁、消防、医療関係者が使用を計画している敷地や施設が競合し、先約機関が仮押さえする状況に陥っていた。関係四市町には、関係機関から多数の使用申請がなされていたが、各機関が必要以上の仮押さえをしていることもあった。

こうした状況の中、関係機関からも、調整する場を設定するよう依頼があり、担当者が情報共有して調整することで、齟齬が生じぬよう協力態勢を構築する必要があった。

【第1回情報交換会】

①実施日時・場所

平成27年8月31日（月）13時から16時まで

三重県志摩庁舎2階「大会議室」

※警備上の観点から、マスコミ非公開とした。

②参加機関

14機関29名

③協議

以下の内容について協議した。

部隊拠点　ヘリポート　駐車場　無線中継基地　船舶係留場所

④会議結果の情報共有

各機関から使用予定施設及び土地について発表された内容については、伊勢志摩サミット推進局サミット開催支援課が、競合している場所等をリスト化した資料を関係機関に情報共有し、合わせて外務省担当者にも情報共有した。

⑤備考

財務省東海財務局は、国有地の活用を通じた伊勢志摩サミットへの協力の一環として、関係地方公共団体及び国関係機関に管理地を提供したいとの意向があり、伊勢志摩サミット開催に関連した一時的な使用に供するための情報提供がなされた。

【第2回情報交換会】

①実施日時・場所

平成27年11月4日（水）13時30分から16時まで

三重県合同ビル4階「G 401会議室」

※警備上の観点から、マスコミ非公開とした。

②参加機関

26機関47名

③内容

ア 各機関が関係する事項の説明

各機関が関係すると予想された事項（仮設建築物に係る建築基準法の取扱い、ヘリポートの使用等）について、各機関担当者（三重県県土整備部、津市都市計画部等）から説明があった。

イ 協議

第1回情報交換会と同様、以下の内容について協議した。

第1回情報交換会以降、新規に検討している施設等

部隊拠点 ヘリポート 駐車場

④会議結果の情報共有

第1回情報交換会同様、各機関から使用予定施設及び土地については、伊勢志摩サミット推進局サミット開催支援課が、競合している場所等をリスト化した資料を関係機関に情報共有し、合わせて外務省担当者にも情報共有した。



第1回情報交換会



第2回情報交換会

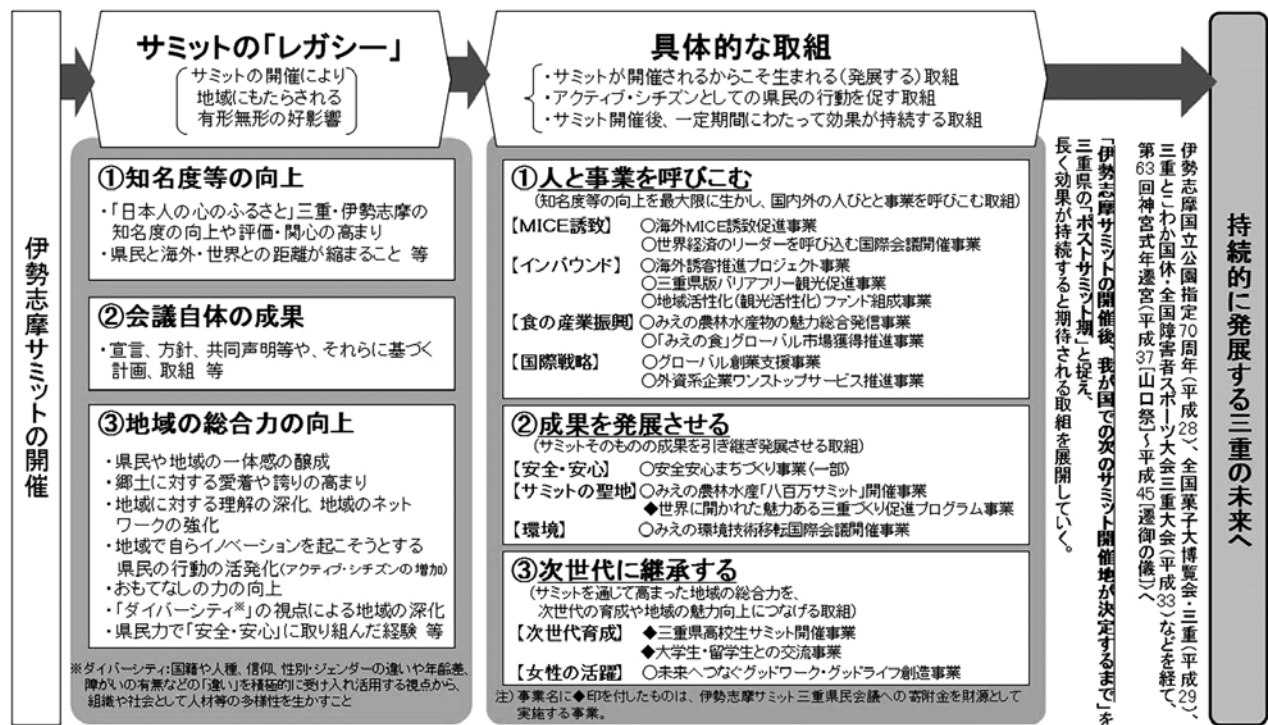


第9章 ポストサミット

伊勢志摩サミットの開催は、三重県にとって千載一遇のチャンスであり、これを一過性のものとせず、サミットの資産を次世代に継承していくため、三重県における「ポストサミット」を、「サミットの『レガシー』を三重の未来に生かすこと」と定義し、具体的な取組を展開していくこととした。

【基本的な考え方】

サミット開催に向けた「オール三重」による取組は、県民の皆さんがサミットの成果を地域の発展のために生かそうとする行動や、地域をより良くしようとする行動へとつながる。そのことにより、地域の活力・魅力が高まって、観光やビジネスなどのさまざまな分野で三重が世界から選ばれるようになり、それが次代を担う若者や子どもたちの希望につながっていくという「正のスパイラル」が生まれ、地域の自立的かつ持続的な活性化が図られる。そのように、サミットのレガシーを最大限に生かし、三重の未来を持続的に発展させていくことを、「ポストサミット」の基本的な考え方とした（平成28年度予算発表時整理）。



【ポストサミット関連予算】

平成28年度のポストサミット関連予算の事業一覧は、次ページのとおりである。

【伊勢志摩サミット三重県民宣言（仮称）】

伊勢志摩サミットに向けて、「オール三重」で一丸となって受け入れ準備を進めた結果、行動力が培われ、サミット自体については、各国首脳等の神宮訪問をスタートに開催され、多くの成果が生まれるとともに、オバマ大統領の広島訪問という歴史的な瞬間も実現した。サミットの成功により、三重の地が持つ様々な力を、

私たちは改めて認識することとなった。

三重の地が受け継いできたものを抱きながら、サミットを一過性のものとせず次世代に引き継ぎ、誰もが幸せを実感できる三重を実現することを目指し、県民が将来にわたってアクティブ・シチズンとして活躍していただくための「伊勢志摩サミット三重県民宣言（仮称）」をつくることとした。

なお、ポストサミットに向けて、県民とサミットの成果やレガシーについて共有する機会とし、また、県民一人ひとりがアクティブ・シチズンとしてさらに活躍するためのきっかけとするため、サミット開催半年後の節目にシンポジウムを開催し、宣言を発表・周知することとした。

ポストサミット関連予算一覧

※平成28年8月時点 (単位：千円)

部局名	事業名	予算額	事業概要
環境生活部	未来へつなぐグッドワーク・グッドライフ創造事業	57,348	G7伊勢志摩首脳宣言及び関連の成果文書を受け、STEM(科学、技術、工学、数学)分野をはじめとする「あらゆる分野における女性の活躍」をテーマにしたフォーラムを開催し、女性活躍推進の一大ムーブメントに繋げる。また、女性の活躍に繋がるプロジェクトやアイデアを発表するアワードを実施し、受賞提案の具現化に向けての支援を行うことで、新しい働き方に繋がる「みえモデル」の創出を図る。 また、企業等において女性活躍推進の取組が進むよう、女性が活躍できる職場づくりの支援を行う。
環境生活部	安全安心まちづくり事業(一部)	1,000	安全・安心な社会にとっての新たな脅威となりつつある諸問題に総合的・横断的に対応するため、「犯罪から県民を守るアクションプログラム(仮称)」の策定を進める。
農林水産部	みえの農林水産物の魅力総合発信事業	18,421	伊勢志摩サミットを通じて注目が高まる県産農林水産物について、ブランド力を一層向上させ、消費者や事業者により強く訴求できるプレミアム食材となるよう、素材の磨き上げや、首都圏での情報発信に取り組む。
農林水産部	みえの農林水産「八百万サミット」開催事業	4,690	伊勢志摩サミットを通じて注目が高まる県産農林水産物の魅力を発信していくため、G7サミットを開催した実績を生かし、さまざまな農林水産物の生産・加工・販売にこだわりをもつ主体を集めて行う各種の「サミット」を、県内で開催する。
雇用経済部	みえの環境技術移転国際会議開催事業	10,000	ASEAN諸国の政府機関の幹部等を招聘した国際会議を開催し、現地における具体的な環境課題に対して、県内中小企業の技術力やICETTの取組を発信し、環境技術の強みを生かした県内中小企業の海外展開と、ASEAN諸国の環境改善及び持続可能な開発につなげる。
雇用経済部	世界経済のリーダーを呼び込む国際会議開催事業	—	伊勢志摩サミット開催により醸成された本県の国際的知名度を更に飛躍させ、本県をMICEの開催地に選ばれる場所として一層進化させるとともに、本県経済の発展にもつなげていくため、世界経済等におけるリーダー等が参加するような国際会議の誘致に向けて取り組む。
雇用経済部	◆世界に開かれた魅力ある三重づくり促進プログラム事業	2,000	「伊勢志摩サミットメモリアルデー」の創設を検討するなど、国際交流の促進のための仕組みづくりに取り組む。
雇用経済部	地域活性化(観光活性化)ファンド組成事業	20,000	国内外からの観光客増加が見込まれる中、さらなるインバウンド需要の拡大等を図るため、関係機関とともに地域活性化ファンドを組成し、当該ファンドを通じて、観光事業者等が実施する施設整備など地域の活性化を進めるために要する長期資金等について、資本金劣後ローン等の供給を行うことにより、地域の自立的・継続的な取組を支援する。

部局名	事業名	予算額	事業概要
雇用経済部	「みえの食」グローバル市場獲得推進事業	33,164	本県の食材や食文化に対する国内外からの注目や関心の高まり、インバウンド需要の拡大を踏まえ、「みえ国際展開に関する基本方針」に基づき、県内事業者の商品戦略の立案や海外への販路拡大に対する支援、食に関する多様な連携の推進や多言語情報発信の強化を行うことで、国内外への県産品の販路拡大につなげ、「みえの食」のブランドイメージの構築と認知度の向上を図り、グローバル市場の獲得を推進する。
雇用経済部	グローバル創業支援事業	6,863	サミットを契機として、伊勢神宮をはじめとする三重の様々な資源により、本県が多様性を認める地域であると認知されることを踏まえ、産業・経済の多様化を目指して、創業・第二創業等を予定している若者、女性、U・Iターン者等（予備軍）を対象に多様性のあるグローバル・スタートアップの創業を促進するためネットワーク化等を支援する。
雇用経済部	外資系企業ワンストップサービス推進事業	5,493	伊勢志摩サミットを契機に、本県が安全で安心して活動できる地域として知名度が向上することや、県内ビジネス環境の特長、優位性を生かして、「外資系企業ワンストップサービス窓口」を設け、外資系企業のニーズに迅速に対応する。さらには、独立行政法人日本貿易振興機構（JETRO）と連携し、サミット参加国等の大使館を通じた誘致活動や海外での誘致活動及び情報発信に取り組む。
雇用経済部（観光局）	海外MICE誘致促進事業	9,000	世界最高峰の国際会議である伊勢志摩サミット開催の経験と、欧米を中心に世界中に本県の知名度が高まった好機を生かし、国際会議等のMICE誘致を、本県のインバウンドの新たな分野として確立させるため、誘致にあたってのセールスツールの整備や国際会議開催に向けた県内の機運醸成などを行いながら、セールス・プロモーション活動を行う。
雇用経済部（観光局）	海外誘客推進プロジェクト事業	46,667	伊勢志摩サミット開催の好機を生かし、さらなる外国人旅行者の誘致を図るため、富裕層・欧米市場・ゴルフツーリズムなどを対象とした新たな分野の取組を進め、これらの市場を本県の海外誘客における新たな分野として確立させる。
雇用経済部（観光局）	三重県版バリアフリー観光促進事業	—	バリアフリー観光の対象を外国人にも拡大し、案内表示の絵文字（ピクトグラム）による非言語化の検討、バリアフリー観光セミナー、バリアフリー観光コンシェルジュ研修の実施等で、旅行者にやさしい観光地の実現を図る。
教育委員会	◆三重の高校生サミット	2,538	県内の高校生や「2016年ジュニア・サミットin三重」参加者等が、「2016年ジュニア・サミットin三重」のテーマ等に関する意見交換等を実施する「三重の高校生サミット」を開催する。
雇用経済部（伊勢志摩サミット推進局）	◆大学生・留学生との交流事業	10,239	サミットの開催成果を確かな資産として「明日へつなぐ」ため、県外大学生や留学生が三重に集い、県内大学生や留学生と共に、サミットに係るテーマ等について討議を行う大学生版のサミットを開催する。

注) 事業名に◆印を付したものは、伊勢志摩サミット三重県民会議への寄附金を財源として実施する事業

第4編 予算・決算

第1章 県民会議事業の予算・決算

伊勢志摩サミット三重県民会議の事業期間は、複数年度にまたがることから、事業総収支決算は、各年度の総額となる。

県民会議の財源は、規約により、県及び地元4市町からの負担金、寄附金及びその他の収入とし、地元4市町の負担金は、県負担金の概ね10分の1と設定した。

県民会議設立当初は、平成27年度の事業費を1億円と見積もり、寄附金については、募集開始前の段階であり見込が難しかったことから、計上しなかった。

寄附金は、県民会議事業に充てることとし、具体的には三重県が県民会議に対し支出する負担金の一部に充当するため、県が寄附金を受け入れることとし、県の一般会計歳入予算に計上したうえで、歳出予算において、寄附金分も含めた県民会議負担金として計上した。

最終的に、県民会議の事業規模は775,630,451円（平成28年8月31日時点での決算見込額）となった。県民会議の平成27・28年度収支決算見込額及びその総計の収支決算見込額は、次ページの各表のとおりである。

また、県民会議解散時において残余となる金額等については、県において基金を設置し、サミットのレガシーを三重の未来に生かすための事業に要する経費の財源に充てることとした。

平成27年度収支決算

(単位：円)

区 分		予算額 (A)	決算額 (B)	差 額 (A-B)	備 考
収 入	1 負担金	300,500,000	639,509,302	△ 339,009,302	
	(1) -1 県負担金	137,500,000	139,000,000	△ 1,500,000	
	(1) -2 寄附金分	150,000,000	487,509,302	△ 337,509,302	
	(2) 市町負担金	13,000,000	13,000,000	0	
	2 諸収入	0	1,555,100	△ 1,555,100	
	合 計	300,500,000	641,064,402	△ 340,564,402	
支 出	1 開催支援	30,914,000	27,712,573	3,201,427	
	2 おもてなし	51,887,000	44,098,230	7,788,770	
	3 明日へつなぐ	15,940,000	9,359,878	6,580,122	
	4 三重の発信	158,541,000	112,245,688	46,295,312	
	5 県民会議開催費	2,300,000	1,374,055	925,945	
	6 事務局運営費	40,918,000	16,834,340	24,083,660	
	合 計	300,500,000	211,624,764	88,875,236	
収 支 差			429,439,638		次年度繰越

平成28年度収支決算見込

(単位：円)

区 分		予算額 (A)	決算見込額 (B)	差 額 (A-B)	備 考
収 入	1 負担金	433,043,000	171,188,980	261,854,020	
	(1) -1 県負担金	120,043,000	120,043,000	0	
	(1) -2 寄附金分	300,000,000	38,145,980	261,854,020	
	(2) 市町負担金	13,000,000	13,000,000	0	
	2 諸収入	0	0	0	
	3 繰越金	0	429,439,638	△ 429,439,638	
合 計	433,043,000	600,628,618	△ 167,585,618		
支 出	1 開催支援	87,766,000	53,905,226	33,860,774	
	2 おもてなし	58,579,000	34,289,719	24,289,281	
	3 明日へつなぐ	144,204,000	285,803,146	△ 141,599,146	
	4 三重の発信	122,451,000	121,734,175	716,825	
	5 県民会議開催費	2,066,000	1,120,717	945,283	
	6 事務局運営費	17,977,000	67,152,704	△ 49,175,704	
	合 計	433,043,000	564,005,687	△ 130,962,687	
収 支 差			36,622,931		

※決算見込額は、8月31日時点。

※「明日へつなぐ」には、平成28年度予備費（ポストサミット分）66,000,000円を含む。

総収支決算見込

(単位：円)

区 分		総予算額 (A)	平成27年度 決算額 (B)	平成28年度 決算見込額 (C)	総決算見込額 (D=B+C)	差 額 (A-D)
収 入	1 負担金	733,543,000	639,509,302	171,188,980	810,698,282	△ 77,155,282
	(1) -1 県負担金	257,543,000	139,000,000	120,043,000	259,043,000	△ 1,500,000
	(1) -2 寄附金分	450,000,000	487,509,302	38,145,980	525,655,282	△ 75,655,282
	(2) 市町負担金	26,000,000	13,000,000	13,000,000	26,000,000	0
	2 諸収入	0	1,555,100	0	1,555,100	△ 1,555,100
	3 繰越金	0	0	(429,439,638)	(429,439,638)	
	合 計	733,543,000	641,064,402	171,188,980	812,253,382	△ 78,710,382
支 出	1 開催支援	118,680,000	27,712,573	53,905,226	81,617,799	37,062,201
	2 おもてなし	110,466,000	44,098,230	34,289,719	78,387,949	32,078,051
	3 明日へつなぐ	160,144,000	9,359,878	285,803,146	295,163,024	△ 135,019,024
	4 三重の発信	280,992,000	112,245,688	121,734,175	233,979,863	47,012,137
	5 県民会議開催費	4,366,000	1,374,055	1,120,717	2,494,772	1,871,228
	6 事務局運営費	58,895,000	16,834,340	67,152,704	83,987,044	△ 25,092,044
	合 計	733,543,000	211,624,764	564,005,687	775,630,451	△ 42,087,451
収 支 差			429,439,638	△ 392,816,707	36,622,931	

※決算見込額は、8月31日時点。

※「明日へつなぐ」には、平成28年度予備費（ポストサミット分）66,000,000円を含む。

開催支援 81,617,799	伊勢志摩サミット宿泊予約センターの設置 弁当供給体制の整備 インフォメーション機能の整備 プレス用シャトルバスの運行 レセプションの開催 県産食材の利用促進 配偶者プログラム 世界との絆づくり 三重のおもてなしバッグ 先遣隊歓迎夕食会 国際メディアセンター完成式および完成記念祝典
おもてなし 78,387,949	伊勢志摩サミットフォーラムの開催 カウントダウンボードの設置 おもてなし大作戦 おもてなし向上研修
明日へつなぐ 295,163,024	ジュニア・サミットの開催 国際理解・国際交流プログラムの実施 大学生留学生交流事業 伊勢志摩サミット記念館（仮称）の設置 伊勢志摩サミット記録誌の作成
三重の発信 233,979,863	シンボルマークの制定 伊勢志摩サミット三重県民会議公式ポスター プレス等を活用した情報発信 三重情報館 情報誌の制作 三重県PR動画の制作・放映

第2章 行政事業（伊勢志摩サミット関連予算）

県民会議以外にも県の各部局が実施した事業や取組もあり、県民会議への負担金も含め県が一般会計予算に計上した伊勢志摩サミット関連予算は、平成28年度当初予算及び平成27年度最終補正予算を反映した時点で、2か年合計で約94億円となった。

その事業内容は、サミットの受入体制の整備等に要する経費のほか、道路整備等の公共事業関係経費、テロ対策も含めた警備関係経費や消防救急・保健医療体制整備費、サミットを契機とした観光関連事業費等であった。

財源内訳は、国庫支出金等が約40億円、寄附金約4億5千万円、県債35億2千9百万円、基金繰入金約4億5百万円、県費約10億6百万円、その他約1千万円であり、県の実質的な負担額は約49億4千万円となった。

県の各部局が実施した伊勢志摩サミット関連事業は、次ページのとおりである。

伊勢志摩サミット関連予算一覧

(単位：千円)

予算年度	部 局 名	事 業 名	予算額	事業(取組)内容
H27	防災対策部	消防防災関係サミット対策事業費	3,707	伊勢志摩サミット開催時の防災・危機対策として、消防・救急特別警戒体制の確保に向けた消防庁、県内・県外消防本部等との調整、高圧ガス事業者等への立入調査による保安確保及び観光関連事業者向け災害対応力向上研修などによる地震・津波等の自然災害対策に取り組んだ。
H27	防災対策部	地震・津波観測システム(DONET)整備事業費	30,502	伊勢志摩サミット開催時における伊勢志摩地域の津波防災対策を強化するため、南海トラフ地震による津波被害等の即時予測が可能な地震・津波観測監視システム(DONET)を活用した津波予測・伝達システムを整備した。
H27	戦略企画部	広聴広報アクションプラン推進事業費	30,500	県外をターゲットとした伊勢志摩サミットのプロモーションを推進するため、首都圏におけるPRイベントの開催や、全国メディアを活用したパブリシティの強化に取り組み、各メディアへの記事化・露出を促進した。
H27	健康福祉部	食の安全総合監視指導事業費	1,753	伊勢志摩サミット開催に向けて、食品による健康被害の発生を防止するため、飲食店営業(旅館・ホテル、仕出し・弁当店)等の食品関係施設の監視を行った。
H27	健康福祉部	食の安全食品検査事業費	10,625	伊勢志摩サミットにおける食品衛生対策として関連施設における食品の収去検査及び施設等の拭取検査を実施し、衛生管理の向上、推進を図った。
H27	健康福祉部	生活衛生諸費	286	伊勢志摩サミットに関連して、宿泊施設における健康被害の発生を防止するため、生活衛生営業施設(旅館等)の監視指導を実施した。
H27	健康福祉部	結核・感染症発生動向調査事業費	1,127	伊勢志摩サミット開催に向けて、感染症発生動向調査の情報収集体制を整備した。
H27	健康福祉部	毒物劇物指導監視費	250	伊勢志摩サミット開催に向けて、年度当初の監視計画とは別途監視計画を定め、毒物劇物の保管管理の徹底等を中心とした監視指導等を実施することで、毒物劇物による事件・事故の未然防止に努めた。
H27	健康福祉部 (医療対策局)	救急・へき地医療施設設備整備費補助金	108,000	伊勢志摩サミット開催期間中の受入医療機関に対して医療体制整備に係る経費を補助した。
H27	健康福祉部 (医療対策局)	救急医療体制再整備・医療情報提供充実事業費	28,343	伊勢志摩サミット時の有事に備え、国や他県等との連携強化を進めるため、ドクターヘリのアナログ無線機をデジタル化した。
H27	健康福祉部 (医療対策局)	がん予防・早期発見事業費	2,847	伊勢志摩サミットの開催を契機に、伊勢志摩地域の飲食店、宿泊施設、公共交通機関等を対象として、受動喫煙防止対策の充実を図った。
H27	環境生活部	地域と共に創る電気自動車等を活用した低炭素社会モデル事業費	111	国際メディアセンターとして利用される三重県営サンアリーナに、サミット期間中や、サミット後にも活用できる、電気自動車用充電施設(急速充電器1台、普通充電器1台)を設置した。
H27	環境生活部 (廃棄物対策局)	不法投棄等の未然防止・早期発見推進事業費	1,983	南勢志摩地域活性化局に監視指導嘱託員を2名配置することにより、不法投棄等の早期是正を図り、景観上だけでなく警備上も問題の多い不法投棄等の防止に取り組んだ。
H27	地域連携部	セキュリティ対策推進事業費	3,209	サイバー攻撃に対する県情報ネットワークのセキュリティ対策を強化した。 ・標的型攻撃対策として、未知のマルウェアを検知できるサンドボックスを導入した。

予算年度	部 局 名	事 業 名	予算額	事業（取組）内容
H27	農林水産部	農林水産資源を活用した三重の「おもてなし」推進事業費	27,189	<p>伊勢志摩サミットの開催を契機として、本県の「食」や「自然」の魅力を発信することにより、国内外からの誘客を促進し、県産農林水産物の販路拡大につなげた。</p> <p>(1) 三重の食材情報グレードアップ事業 本県の農林水産物や、知られていない食材情報、自然の魅力を国内外からの観光客やマスメディアなどに情報提供するため、三重の食材を紹介する冊子を県内のホテル、観光施設等に設置した。また、県の農林水産資源を活用した食の魅力を、食材及びその調理や食べ方等とともに発信するため、食材サンプルと料理サンプル及び解説表示を一体とした映像ディスプレイを作成した。</p> <p>(2) 伊勢茶・花きおもてなし事業 伊勢茶の新たな商品開発として、フレーバーティやティーパックを作製し、「伊勢形紙」デザインのティーパックは、国際メディアセンター内において「おもてなし商品」として配布した。また、PR動画やパンフレットを作製し、情報発信に努めた。 花き花木の飾花については、平成28年2月1日（月）から3月31日（木）まで、伊勢自動車道安濃サービスエリア内および、東名阪自動車道亀山サービスエリア内で実施し、県産花き花木を県内外へPRした。</p>
H27	農林水産部	関西圏における三重の食材魅力発信事業費	1,750	<p>大阪ガス株式会社のショールーム「hu+gMUSEUM（ハグミュージアム）」において、伊勢志摩サミット開催記念イベントを開催した。</p> <p>エンドユーザー向けには、県内市町及び関係団体参加の物産展や観光展、著名料理人による三重の食材を使った料理講習会、飲食店のオーナーや調理師等の「食のプロ」向けに関西のトップシェフによる三重の食材を使った料理のデモンストレーションと試食及び「食の円卓会議」や食材展示・仕入相談会を実施した。</p> <p>また、関西マスメディアとのタイアップ企画では、三重の食材の現地取材をし、情報誌に三重県特集として掲載された。</p> <p>さらに、食のプロを対象に三重県の生産者への訪問ツアーを実施した。</p>
H27	雇用経済部	環境技術を生かした国際展開促進事業費	19,940	<p>ASEAN諸国の駐日大使等を招聘し、環境保全と経済成長の両立等について意見交換を行う「ASEAN環境フォーラムin三重」を公益財団法人国際環境技術移転センター（ICETT）等と連携して平成28年2月12日（金）に開催した。</p> <p>「ASEAN諸国における持続可能な経済発展」をテーマに、知事をコーディネーターとしたパネルディスカッションを行い、ASEAN諸国の現状について認識を深めるとともに、三重県の持つ環境技術の発信を行った。また交流会等を通じて、各国の駐日大使等と県内産学官関係者の間で情報交換、情報共有を図った。</p>
H27	雇用経済部	関西圏三重の自然、文化・伝統の魅力発信事業費	6,950	<p>大阪ガス株式会社のショールーム「hu+gMUSEUM（ハグミュージアム）」において、伊勢志摩サミット開催記念イベントを開催した。</p> <p>エンドユーザー向けには、県内市町及び関係団体参加の物産展や観光展、著名料理人による三重の食材を使った料理講習会、飲食店のオーナーや調理師等の「食のプロ」向けに関西のトップシェフによる三重の食材を使った料理のデモンストレーションと試食及び「食の円卓会議」や食材展示・仕入相談会を実施した。</p> <p>また、関西マスメディアとのタイアップ企画では、三重の食材の現地取材をし、情報誌に三重県特集として掲載された。</p> <p>さらに、食のプロを対象に三重県の生産者への訪問ツアーを実施した。</p>
H27	雇用経済部 （観光局）	県営サンアリーナ環境整備費	19,964	<p>国際メディアセンターとして海外のプレス関係者が多数利用するサンアリーナにおいて、館内の和式トイレを洋式トイレに改修した。</p>

予算年度	部 局 名	事業名	予算額	事業(取組)内容
H27	雇用経済部 (観光局)	関西圏誘客促進事業	10,500	メディアや旅行会社等を対象にファミツアー(現地視察)を実施し、食をはじめとして、自然、文化、歴史等のコンテンツを複合的に絡めた「地域ストーリー」を体感してもらうことにより、効果的な情報発信や旅行商品の造成につなげ、誘客や新しい顧客層の掘り起こしに取り組んだ。 ・関西圏の旅行会社と連携し、旅行商品を5件作成した。 ・関西圏のマスコミ及び旅行会社を対象とした現地視察ツアーを実施した。 ・大阪ガス株式会社のショールーム「hu+gMUSEUM(ハグミュージアム)」において、伊勢志摩サミット開催記念イベントを開催した。
H27	雇用経済部 (観光局)	みえ旅ブラッシュアップ事業	11,891	着地型旅行商品の効果測定を行うため、モニターツアーや意向等調査を雑誌やWEB等を活用して実施し、着地型旅行商品を改良するといったブラッシュアップの過程を通じて、地域の観光関連事業者等のスキルアップにつなげた。 ・モニターツアーを実施し、既存の着地型旅行商品に対する消費者の生の声を聞き出すことで、旅行商品の課題を洗い出した。 ・1200名の女性を対象としたウェブ調査を実施した。 ・調査により洗い出された課題を市町や事業者と共有するための勉強会を開催した。
H27	県土整備部	公共事業	6,167,900	伊勢志摩サミット開催に備え、各国首脳等が安全で円滑に移動できるよう、会場地及びその周辺における県管理道路の整備や景観整備等を行った。 【主な整備内容】 舗装整備、案内標識設置、ガードパイプ設置、照明灯設置、監視カメラ設置、施設修繕、街路樹剪定、除草、清掃
H27	教育委員会	伊勢志摩サミット開催に係るサミット給食推進事業費	490	県内の子どもたちが、学校給食を通してサミット参加国の食文化や特徴を学ぶことを目的として、県内の29市町すべてで「サミット給食」を実施した。結果、子どもたちの参加国についての関心が高まり、参加国の食文化に触れることで、あらためて我が国や本県の食文化を理解する機会となった。
H27	警察本部	交通安全施設整備関連事業	306,353	伊勢志摩サミット開催に備え、各国首脳等が安全で円滑に移動できるよう、会場地及びその周辺における信号機・道路標識等の改良や交通管制機器の整備等を行った。 ・交通管制センター中央装置の改修、情報収集提供装置の新設、交通情報板の更新、管制カメラ、光ビーコン増設、信号機LED化、制御機更新、路側標識更新、横断歩道の塗装
H27	警察本部	テロ等対策費	369,324	伊勢志摩サミットに参加する各国首脳等の安全と伊勢志摩サミット及び関連行事の円滑な遂行を確保するとともに、テロ等違法行為の未然防止を図るため、110番システム端末増設や警備計画書作成システムの整備、警備用カメラ等の装備資機材を整備するほか、警戒警備に当たる各種部隊の活動・運用を図り、万全の警備体制を確立した。 ・現地警備本部に110番システム端末増設、警備計画書作成システム整備 ・サミット対策課・現地本部・拠点等経費、警備計画書の作成、車両等経費、警備用カメラ設置、ドローンの購入等
H28	防災対策部	消防防災関係サミット対策事業費	353,984	伊勢志摩サミット開催時における防災・危機対策に万全を期すため、消防・救急特別警戒体制の確保等に向けた取組を推進した。また、消防・救急特別警戒に伴い、応援活動や、応援活動円滑化のための受援活動を行う地方公共団体に対し交付金を交付した。
H28	総務部	県庁舎等管理事業費(うち、県庁舎警備強化対策事業費)	3,600	来庁者及び職員の安全・安心を確保するため、県庁舎における警備を強化した。
H28	健康福祉部	食の安全総合監視指導事業費	148	伊勢志摩サミット開催に向けて、食品による健康被害の発生を防止するため、飲食店営業(旅館・ホテル、仕出し・弁当店)等の食品関係施設の監視を行った。

予算年度	部 局 名	事 業 名	予算額	事業（取組）内容
H28	健康福祉部	食の安全食品検査事業費	7,086	伊勢志摩サミットにおける食品衛生対策として関連施設における食品の収去検査及び施設等の拭取検査を実施し、衛生管理の向上、推進を図った。
H28	健康福祉部	生活衛生諸費	80	伊勢志摩サミットに関連して、宿泊施設における健康被害の発生を防止するため、生活衛生営業施設（旅館等）の監視指導を実施した。
H28	健康福祉部	結核・感染症発生動向調査事業費	1,140	伊勢志摩サミット開催に向けて、感染症発生動向調査の情報収集体制を整備した。
H28	健康福祉部	激甚災害時医薬品等備蓄・供給体制整備費	690	災害等の発生時に使用する医薬品等を確保するとともに、供給体制を整備した。
H28	健康福祉部	毒物劇物指導監視費	167	伊勢志摩サミット開催に向けて、年度当初の監視計画とは別途監視計画を定め、毒物劇物の保管管理の徹底等を中心とした監視指導等を実施することで、毒物劇物による事件・事故の未然防止に努めた。
H28	健康福祉部 (医療対策局)	災害医療体制強化推進事業費	5,848	伊勢志摩サミット開催時における緊急医療体制を確保するため、現地医療本部の設置や関係機関との連絡調整等を行った。
H28	環境生活部	総合文化センター管理運営費	1,750	伊勢サミット開催時期に合わせ、総合文化センターの警備を増強し、来館者の安全確保を図った。
H28	環境生活部	総合博物館管理運営費	810	伊勢サミット開催時期に合わせ、総合博物館の警備を増強し、来館者の安全確保を図った。
H28	環境生活部	美術館管理運営費	909	伊勢サミット開催時期に合わせ、美術館の警備を増強し、来館者の安全確保を図った。
H28	警察本部	テロ等対策費	1,082,974	各国首脳等の身の安全の確保、伊勢志摩サミット及び関連行事の円滑な進行の確保並びに安全・安心な県民生活の確保に万全を期すため必要な警備諸対策を講じるとともに、テロを未然に防止するため、警察と関係機関・団体、地域住民が緊密に連携して行う官民一体の「日本型テロ対策」を推進した。
H27 H28	雇用経済部 (伊勢志摩サミット推進局)	伊勢志摩サミット推進事業費ほか	779,653	県民会議を中心として、県内市町や関係団体等と連携し、「開催支援」に取り組むとともに、地域の総合力の向上につなげるため、「おもてなし」、「明日へつなぐ」、「三重の発信」を柱に、サミット開催に向けた全県的な取組を展開した。
合 計			9,404,333	

※平成28年度当初予算及び平成27年度最終補正予算反映時点

※予算を伴わない取組

部 局 名	事 業 概 要
環境生活部	気候変動問題をわかりやすく理解してもらうことを目的に、シンポジウム「地域から考える気候変動問題～伊勢志摩サミットに向けて～」を平成28年3月18日(金)に環境省と連携して開催した。
環境生活部	国(経済産業省、環境省、農林水産省、外務省)が行った、G7伊勢志摩サミットのカーボン・オフセットの取組に対して、三重県が保有しているクレジット(148トン-CO ₂)を全量提供した。
環境生活部	サミット開催を控え、美しい日本を世界に発信する機会を逃すことなく、また、東海地域のサミット開催への機運醸成を図るため、サミット50日前ウィークに併せて清掃活動を実施するよう、東海三県一市(愛知県、岐阜県、三重県、名古屋市)で設置した、「伊勢湾総合対策協議会 海岸漂着物対策検討会」から呼びかけを行った。 呼びかけの結果、計10団体(三重県8団体、愛知県1団体、岐阜県1団体)において期間中に活動を実施していただいた。
環境生活部	屋外に設置されたごみ箱に投入されるごみの中には、分別が不十分なために資源として再利用されずに処分される現状があることから、資源回収の一層の推進による資源循環型の地域づくりを進めるとともに、サミット開催期間中の安全性の確保に資すると考えられるため、コンビニエンスストアの屋外に設置されたごみ箱を店内に移設し、ごみ箱の利用者の分別意識の向上に取り組んだ(伊勢市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町の73店舗で実施)。
農林水産部	平成27年7月1日(水)に部長直轄の伊勢志摩サミット対応チームを発足させサミットの成功に向けた、さまざまな取組やポストサミットの方向性等の検討を行った。平成28年4月1日からは、部内職員4名で構成する統括チームが対応チームの用務を引き継ぎ、「三重の食材の知る会」を開催する等、伊勢志摩サミットにおける農林水産物の活用調整を行った。
農林水産部	伊勢志摩サミットを契機に、全国第三位の生産量を誇る伊勢茶を国内外へ情報発信をするために、平成28年5月26日(木)に国際メディアセンターにおいて、日本茶インストラクターによる伊勢茶の呈茶、試供品の提供や茶葉等の展示を通じて伊勢茶の魅力発信を行った。
農林水産部	農林水産部職員ボランティア約50人により、サミット会場への主要道沿道美化活動として、平成28年4月23日(土)に国道167号と近鉄志摩線の間に挟まれた約90アールの農地の草刈を行った。
雇用経済部	ソフトバンク社の伊勢志摩サミット協賛事業として、パーソナルロボット「Pepper」を伊勢志摩サミット開催期間中に三重県の観光・食・伝統工芸・歴史文化・自然をPRするため、伊勢志摩サミット開催前の平成28年5月24日(火)から終了後の6月10日(金)までの間、三重情報館に配置した。Pepperは各国首脳配偶者や安倍総理夫人なども見学され、国内外報道関係者からも多くの関心を集めた。
雇用経済部	平成28年5月24日(火)から28日(土)まで国際メディアセンター屋外展示スペースにて、燃料電池自動車MIRAIの展示と試乗を実施した。また、5月24日(火)から6月10日(金)まで国際メディアセンター屋内展示スペースにて移動式水素ステーションの模型を展示するとともに、5月24日(火)から25日(水)まで伊勢志摩サミット応援ラッピングを施した実物を近隣駐車場にて展示した。

資料編

資料 1

伊勢志摩サミット三重県民会議規約

第 1 章 総則

(名 称)

第 1 条 本会は、伊勢志摩サミット三重県民会議（以下「県民会議」という。）と称する。

(目 的)

第 2 条 県民会議は、地方創生のシンボリック的存在となる「伊勢志摩サミット（以下「サミット」という。）」の成功を期するため、官民一体となった三重県全体の受け入れ体制を確立するとともに、併せて関連する事業の実施により、本県の活性化に資することを目的とする。

(事 業)

第 3 条 県民会議は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) サミット開催に対する支援、協力及び受入れに向けた準備の推進に関する事
- (2) サミット関連事業の企画及び実施に関する事
- (3) サミット開催に関する広報・啓発及び三重県の情報発信に関する事
- (4) その他県民会議の目的を達成するために必要な事業

第 2 章 組織

(構成員)

第 4 条 県民会議の会員は、別表 1 のとおりとする。ただし、設立総会以降参加希望の申し出があったものについては、この限りでない。

2 前項ただし書きの申し出があった場合は、会長は、これを役員会に諮らなければならない。

(役 員)

第 5 条 県民会議に次の役員を置く。

- (1) 会長 1 名
- (2) 副会長 4 名
- (3) 理事 20 名以内
- (4) 監事 2 名

(役員を選任)

第 6 条 会長は、三重県知事の職にある者をもって充てる。

- 2 副会長及び監事は、総会の承認を得て会長が委嘱する。
- 3 理事は、総会の承認を得て会員の中から会長が委嘱する。
- 4 役員は、無報酬とする。

(役員職務)

第 7 条 会長は、県民会議を代表し、会務を総理する。

- 2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、又は会長が欠けたときは、会長があらかじめ指定する順序により、その職務を代理する。
- 3 理事は、県民会議の主要会務に参画するほか、予算その他必要な実施事業の審議を行う。
- 4 監事は、県民会議の会計を監査する。

(任期等)

第 8 条 役員任期は、県民会議を解散するまでとする。ただし、役員が就任時におけるそれぞれの所属機関又は団体等の役職を離れた場合において、その役員は、辞任したものみなし、その後任者が前任者の残任期間を務めるものとする。

- 2 会長は、役員に特別な事情が生じたときは、その職を解き、必要に応じて補充することができる。
- 3 会長は、前 2 項の規定により役員の変更があった場合は、次の総会において報告する。

(顧問等)

第 9 条 県民会議に顧問及び特別顧問（以下「顧問等」という。）を置くことができる。

- 2 顧問等は、会長が委嘱する。
- 3 顧問等は、県民会議の運営に関し、会長が重要と認める事項について、会長の諮問に応じ助言を行う。

- 4 顧問等の任期等は、前条の規定を準用する。
- 5 顧問等は、無報酬とする。

第3章 会議

(会議の種類)

第10条 県民会議に、次の会議を置く。

- (1) 総会
- (2) 役員会

(総会)

第11条 総会は、会長、副会長及び会員をもって構成する。

- 2 総会は、必要に応じて会長が招集する。
- 3 総会の議長は、会長が指名する。
- 4 総会は、次の事項について審議し、決定する。
 - (1) 県民会議の規約の制定及び改廃に関すること
 - (2) 基本方針に関すること
 - (3) 決算に関すること
 - (4) その他第2条の目的の達成に必要と認められること
- 5 総会は、会員の過半数の出席がなければ開会し、議決することはできない。ただし、総会に出席できない会員は、あらかじめ通知された事項について、代理人に権限を委任し、又は書面で議決に加わることができる。
- 6 総会の議事は、出席会員（代理人に権限を委任し、又は書面で議決に加わった者を含む。）の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 7 会長は、必要に応じて顧問等に総会への出席を求めることができる。

(役員会)

第12条 役員会は、会長、副会長、理事及び監事をもって構成する。

- 2 役員会は、必要に応じて会長が招集する。
- 3 役員会の議長は、会長が指名する。
- 4 役員会は、次の事項について審議し、決定する。
 - (1) 事業計画に関すること
 - (2) 予算に関すること
 - (3) 総会提案事項に関すること
 - (4) 県民会議の運営に関すること
 - (5) 県民会議の入会、脱会に関すること
 - (6) その他第2条の目的の達成に必要と認められる事項で、緊急に処理を要すること
- 5 役員会は、前項の規定により審議し、決定した内容を、必要に応じて次の総会に報告する。
- 6 前条第5項及び第6項の規定は、役員会において準用する。

(部会)

第13条 会長は、必要に応じ、県民会議に部会を置くことができる。

- 2 部会に関することは、会長が別に定める。

第4章 会長の専決処分

(会長の専決処分)

- 第14条 会長は、総会及び役員会（以下「総会等」という。）の権限に属する事項で軽易なもの、又は総会等を招集するいとまがないときは、その議決すべき事項を専決処分することができる。
- 2 会長は、前項の規定により専決処分したときは、これを次の総会等において報告し、その承認を得なければならない。

第5章 事務局

(事務局)

第15条 県民会議の事務を処理するため、事務局を置く。

2 事務局に必要な事項は、会長が別に定める。

第6章 会計

(財務)

第16条 県民会議の経費は、負担金、寄附金及びその他の収入をもって充てる。

(予算及び決算)

第17条 県民会議の予算は、役員会の議決により定め、決算は、監事の監査を経て、総会の承認を得なければならない。

(会計年度等)

第18条 県民会議の会計年度は、毎年4月1日から始まり、翌年3月31日までとする。

2 県民会議の財務及び会計に関し必要な事項は、会長が別に定める。

第7章 補則

(解散)

第19条 県民会議は、事業の目的を達成したとき、総会の議決を経て解散する。

2 県民会議が解散するときに有する残余財産は、総会の議決を経て処分する。

(委任)

第20条 この規約に定めるもののほか、県民会議の運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。

附 則

1 この規約は、平成27年6月26日から施行する。

2 県民会議の平成27年度における会計年度は、第18条第1項の規定にかかわらず、県民会議が設立された日から始まり、平成28年3月31日までとする。

※平成28年4月1日時点

資料2

伊勢志摩サミット三重県民会議会員等名簿

【会員：140 団体】

順不同

選出区分	所属機関・団体名	
産業・経済関係 (25)	三重県商工会議所連合会	
	三重県商工会連合会	
	三重県中小企業団体中央会	
	三重県経営者協会	
	三重県中小企業家同友会	
	中部経済同友会三重地区	
	日本労働組合総連合会 三重県連合会	
	公益社団法人 日本青年会議所東海地区三重ブロック協議会	
	三重県商店街振興組合連合会	
	伊勢商工会議所	
	鳥羽商工会議所	
	志摩市商工会	
	小俣町商工会	
	南伊勢町商工会	
	三重県農業協同組合中央会	
	全国農業協同組合連合会三重県本部	
	三重県漁業協同組合連合会	
	三重県森林組合連合会	
	三重県木材協同組合連合会	
	三重県食品産業振興会	
	一般社団法人 三重県建設業協会	
	公益社団法人 三重県緑化推進協会	
	株式会社百五銀行	
	株式会社三重銀行	
	株式会社第三銀行	
	宿泊・観光関係 (11)	公益社団法人 三重県観光連盟
		公益社団法人 伊勢志摩観光コンベンション機構
		志摩市観光協会
		公益社団法人 伊勢市観光協会
		一般社団法人 鳥羽市観光協会
		南伊勢町観光協会
		協同組合三重県物産振興会
		一般財団法人 伊勢志摩国立公園協会
		三重県旅館ホテル生活衛生同業組合
		一般社団法人 全国旅行業協会 三重県支部
		特定非営利活動法人 伊勢志摩バリアフリーツアーセンター
		中部電力株式会社 三重支店
		西日本電信電話株式会社 三重支店
		株式会社NTTドコモ 東海支社
KDDI株式会社 中部総支社		
ソフトバンク株式会社		
交通・運輸・物流・警備関係 (18)	近鉄グループホールディングス株式会社	
	東海旅客鉄道株式会社	
	伊勢鉄道株式会社	
	三重交通グループホールディングス株式会社	
	三重交通株式会社	
	公益社団法人 三重県バス協会	
	一般社団法人 三重県タクシー協会	
	三重県レンタカー協会	
	中日本高速道路株式会社名古屋支社	
	中部国際空港利用促進協議会	
	関西国際空港全体構想促進協議会	
	三重県道路公社	
	津エアポートライン株式会社	
	三重県交通安全協会	
	一般社団法人 三重県トラック協会	
	中部国際空港株式会社	
	一般社団法人 三重県警備業協会	
	日本郵便株式会社 東海支社	
	教育関係 (26)	三重県小中学校長会
		三重県高等学校長協会
		三重県立特別支援学校長会
国立大学法人 三重大学		
学校法人暁学園 四日市大学		
学校法人皇學館 皇學館大学		
学校法人享栄学園 鈴鹿大学・同短期大学部		
鈴鹿医療科学大学		
四日市看護医療大学		
公立大学法人 三重県立看護大学		
津市立三重短期大学		
学校法人高田学苑 高田短期大学		
独立行政法人国立高等専門学校機構 鈴鹿工業高等専門学校		

選出区分	所属機関・団体名	
環境・市民・文化・国際交流関係 (9)	独立行政法人国立高等専門学校機構 鳥羽商船高等専門学校	
	学校法人近畿大学 近畿大学工業高等専門学校	
	三重県私学総連合会	
	三重県PTA連合会	
	三重県高等学校PTA連合会	
	三重県特別支援学校PTA連絡協議会	
	日本ボーイスカウト三重連盟	
	一般社団法人 ガールスカウト三重県連盟	
	三重県子ども会連合会	
	三重県地域婦人団体連絡協議会	
	三重県青年団協議会	
	三重県社会教育委員連絡協議会	
	三重県ユネスコ連絡協議会	
	医療・衛生関係 (10)	公益財団法人 国際環境技術移転センター
		公益財団法人 三重県文化振興事業団
		公益財団法人 三重県国際交流財団
		公益財団法人 三重県体育協会
		一般財団法人 三重県老人クラブ連合会
		公益財団法人 三重県こどもわかもの育成財団
		三重県ボランティア連絡協議会
		三重県自治会連合会
花の国づくり三重県協議会		
公益社団法人 三重県医師会		
公益社団法人 三重県看護協会		
公益社団法人 三重県歯科医師会		
一般社団法人 三重県薬剤師会		
一般社団法人 三重県病院協会		
日本赤十字社 三重県支部		
一般社団法人 三重県食品衛生協会		
公益社団法人 三重県栄養士会		
一般社団法人 三重県調理師連合会		
公益財団法人 三重県生活衛生営業指導センター		
行政 (36)	志摩市	
	伊勢市	
	鳥羽市	
	南伊勢町	
	津市	
	四日市市	
	松阪市	
	桑名市	
	鈴鹿市	
	名張市	
	尾鷲市	
	亀山市	
	熊野市	
	いなべ市	
	伊賀市	
	木曾岬町	
	東員町	
	菰野町	
	朝日町	
	川越町	
	多気町	
	明和町	
	大台町	
	玉城町	
	度会町	
	大紀町	
	紀北町	
	御浜町	
	紀宝町	
	三重県市長会	
	三重県町村会	
	三重県	
	三重県教育委員会	
	三重県警察本部	
	三重県市町教育委員会連絡協議会	
	三重県市町教育長会	

【特別顧問：10名】

敬称略、順不同

所属機関・団体・役職名	氏名
衆議院議員	岡田 克也
衆議院議員	川崎 二郎
衆議院議員	島田 佳和
衆議院議員	田村 憲久
衆議院議員	中川 正春
衆議院議員	中川 康洋
衆議院議員	松田 直久
衆議院議員	三ツ矢 憲生
参議院議員	芝 博一
参議院議員	吉川 ゆうみ

【顧問：79名】

敬称略、順不同

所属機関・団体・役職名	氏名
三重県議会副議長	日沖 正信
三重県議会議員	青木 謙順
三重県議会議員	今井 智広
三重県議会議員	杉本 熊野
三重県議会議員	舟橋 裕幸
三重県議会議員	前田 剛志
三重県議会議員	前野 和美
三重県議会議員	石田 成生
三重県議会議員	稲垣 昭義
三重県議会議員	田中 智也
三重県議会議員	津田 健児
三重県議会議員	芳野 正英
三重県議会議員	山内 道明
三重県議会議員	奥野 英介
三重県議会議員	中川 正美
三重県議会議員	廣 耕太郎
三重県議会議員	後藤 健一
三重県議会議員	田中 祐治
三重県議会議員	野口 正
三重県議会議員	中瀬古 初美
三重県議会議員	倉本 崇弘
三重県議会議員	小島 智子
三重県議会議員	三谷 哲央
三重県議会議員	山本 勝
三重県議会議員	小林 正人
三重県議会議員	下野 幸助
三重県議会議員	彦坂 公之
三重県議会議員	藤田 宜三
三重県議会議員	北川 裕之
三重県議会議員	中森 博文
三重県議会議員	津村 衛
三重県議会議員	東 豊
三重県議会議員	長田 隆尚
三重県議会議員	中村 欣一郎
三重県議会議員	大久保 孝栄
三重県議会議員	藤根 正典
三重県議会議員	水谷 隆
三重県議会議員	中嶋 年規
三重県議会議員	山本 教和
三重県議会議員	稲森 稔尚
三重県議会議員	木津 直樹
三重県議会議員	森野 真治
三重県議会議員	舘 直人
三重県議会議員	服部 富男
三重県議会議員	西場 信行
三重県議会議員	濱井 初男
三重県議会議員	村林 聡
三重県議会議員	吉川 新

所属機関・団体・役職名

三重県市議会議長会会長
三重県町村議会議長会会長
志摩市議会議長
伊勢市議会議長
鳥羽市議会議長
南伊勢町議会議長
伊勢新聞社編集局長
朝日新聞社津総局長
毎日新聞社津支局長
中日新聞社三重総局長
読売新聞社津支局長
産経新聞社津支局長
日本経済新聞社津支局長

所属機関・団体・役職名

中部経済新聞社三重支社長
一般社団法人 共同通信社津支局長
時事通信社津支局長
日刊工業新聞社三重支局長
日本放送協会津放送局長
株式会社CBCテレビ三重支社長
東海ラジオ放送三重支局長
東海テレビ放送三重支社長
三重テレビ放送代表取締役社長
名古屋テレビ放送三重支社長
中京テレビ放送三重支局長
三重エフエム放送代表取締役社長
三重県ケーブルテレビ協議会会長
夕刊三重新聞社代表取締役社長
三重新報社代表
吉野熊野新聞社代表取締役社長
いなべエフエム会長
C T Y (シー・ティール・ワイ) 代表取締役社長

【会長：1名】

選出区分	所属機関・団体・役職名
県（行政）関係	三重県知事

【副会長：4名】

順不同

選出区分	所属機関・団体・役職名
市町関係	志摩市長
県議会	三重県議会議長
産業・経済関係	三重県商工会議所連合会会長
宿泊・観光関係	公益社団法人 三重県観光連盟会長

【理事：20名以内】17名

順不同

選出区分	所属機関・団体・役職名
産業・経済関係	三重県商工会連合会会長
	三重県中小企業団体中央会会長
	三重県農業協同組合中央会会長
	三重県漁業協同組合連合会代表理事会長
	三重県木材協同組合連合会理事長

選出区分	所属機関・団体・役職名
宿泊・観光関係	公益社団法人 伊勢志摩観光コンベンション機構会長
	三重県旅館ホテル生活衛生同業組合理事長
	一般社団法人 全国旅行業協会 三重県支部長
交通・運輸関係	近鉄グループホールディングス株式会社取締役社長
	三重交通グループホールディングス株式会社代表取締役社長
市民・文化・国際交流関係	公益財団法人 三重県国際交流財団理事長
	三重県ボランティア連絡協議会会長
市町関係	三重県市長会会長
	三重県町村会会長
	伊勢市長
	鳥羽市長 南伊勢町長

【監事：2名】

順不同

選出区分	所属機関・団体・役職名
経済・産業関係	三重県商工会連合会事務局長
県（行政）関係	三重県会計管理者兼出納局長

※サミット開催時点

資料3

伊勢志摩サミット三重県民会議部会運営規程

(総 則)

第1条 この規程は、伊勢志摩サミットの開催に伴い、伊勢志摩サミット三重県民会議（以下「県民会議」という。）が行う事業などに関する事項を協議するため、県民会議規約第13条の規定に基づき設置する部会の運営を円滑に行うことを目的とし、次のとおり必要な事項を定める。

(部会の設置)

第2条 県民会議に「企画運営部会」及び「事業推進部会」を置く。

(部会の業務)

第3条 企画運営部会は、次の業務を行う。

- (1) 役員会で審議すべき事項に関すること
- (2) 県民会議の運営全般に関すること
- (3) 収支計画に関すること
- (4) その他必要な事項

2 事業推進部会は、次の業務を行う。

- (1) 事業の企画・立案に関すること
- (2) 民間主導による事業との連携及び調整に関すること
- (3) 県、市町の事業との連携及び調整に関すること
- (4) その他必要な事項

(職 務)

第4条 それぞれの部会は、別表1に掲げる団体をもって構成する。

(部会長)

第5条 それぞれの部会に構成員の互選により部会長を置く。

- 2 部会長は、部会を代表し、会務を総理する。
- 3 部会長に事故があるとき、又は部会長が欠けたときは、部会長があらかじめ指名する者をもって充てる。

(ワーキング)

第6条 部会の運営を円滑に行うため、必要に応じてワーキングを設置することができる。

- 2 ワーキングに関する事項は、部会長が別に定める。

(招 集)

第7条 部会及びワーキングは、必要に応じて部会長が招集する。

- 2 部会及びワーキングの議長は、部会長又は部会長が指名する者をもって充てる。
- 3 部会長は、必要があると認めるときは、関係者を会議に出席させ、意見を求めることができる。

(庶 務)

第8条 部会に関する庶務は、県民会議事務局において処理する。

(補 則)

第9条 この規程に定めるもののほか、部会の運営に必要な事項は部会長が別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成27年7月27日から施行する。

別表 1 (第4条関係)

団体区分	企画運営部会	事業推進部会
産業・経済 関係	三重県商工会議所連合会 三重県商工会連合会 三重県中小企業団体中央会 三重県農業協同組合中央会	三重県商工会議所連合会 三重県商工会連合会 三重県中小企業団体中央会 三重県農業協同組合中央会

	三重県漁業協同組合連合会 三重県木材協同組合連合会	三重県漁業協同組合連合会 三重県木材協同組合連合会
宿泊・観光 関係	公益社団法人 三重県観光連盟 公益社団法人 伊勢志摩観光コンベン ション機構 三重県旅館ホテル生活衛生同業組合 一般社団法人 全国旅行業協会三重県 支部	公益社団法人 三重県観光連盟 公益社団法人 伊勢志摩観光コンベン ション機構 三重県旅館ホテル生活衛生同業組合 一般社団法人 全国旅行業協会三重県 支部 一般財団法人 伊勢志摩国立公園協会
交通・運輸 関係	近鉄グループホールディングス株式会 社 三重交通グループホールディングス株 式会社	近鉄グループホールディングス株式会 社 三重交通グループホールディングス株 式会社 東海旅客鉄道株式会社
教育関係		三重県私学総連合会
環境・市民・ 文化・国際交 流関係	公益財団法人 三重県国際交流財団 三重県ボランティア連絡協議会	公益財団法人 三重県国際交流財団 三重県ボランティア連絡協議会
行政	三重県、志摩市、伊勢市、鳥羽市、南 伊勢町、三重県市長会、三重県町村会	三重県、三重県教育委員会、 志摩市、伊勢市、鳥羽市、南伊勢町、 三重県市長会、三重県町村会、三重県 市町教育長会

※平成 28 年 4 月 1 日時点

資料4

伊勢志摩サミット三重県民会議事務局規程

第1章 総則

(趣旨)

第1条 この規程は、伊勢志摩サミット三重県民会議規約（以下「規約」という。）第15条第2項の規定に基づき、伊勢志摩サミット三重県民会議事務局（以下「事務局」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定める。

第2章 事務局

(設置)

第2条 事務局は、三重県雇用経済部伊勢志摩サミット推進局内に置く。

(業務)

第3条 事務局は、規約第3条に規定する事業に関する事務を処理する。

(組織及び所掌事務)

第4条 事務局に別表第1に掲げる課を置き、それぞれ同表に掲げる事務を分掌する。

(職員)

第5条 事務局に、次の職員を置く。

- (1) 事務総長
- (2) 副事務総長
- (3) 事務局長
- (4) 事務局次長
- (5) 課長
- (6) 班長
- (7) 班員
- (8) その他（特定の業務について指揮する管理職）

2 前項の職員は、別表第2に掲げる三重県職員及び伊勢志摩サミット推進員等をもって充てる。

3 事務局に出納員を置くこととし、その職務等については別に定める。

4 伊勢志摩サミット三重県民会議会長（以下「会長」という。）は、特に必要があると認めるときは、期限を定めて臨時に職員を任用することができる。この場合の任用手続き及び期間は、三重県の例による。

(職務)

第6条 事務局の職員は、それぞれの派遣団体の命を受け、サミットの成功に向けて業務を遂行する。

2 事務総長は、会長の命を受け、事務局の重要な事項を決定する。

3 副事務総長は、会長の命を受け、特定の重要な事項を決定する。

4 事務局長は、事務総長および副事務総長の命を受け、事務局の事務を総括し、事務局の職員を指揮監督する。

5 事務局次長は、事務局長を補佐し、事務局長に事故あるとき又は欠けたときは、その職務を代理する。

6 課長は、上司の命を受け、課の事務を掌理し、所属の職員を指揮監督する。

7 班長は、上司の命を受け、班の事務を掌理し、所属の職員を指揮監督する。

8 班員は、上司の命を受け、当該班の所管に属する特定の事務を処理する。

第3章 事務処理

(専決)

第7条 事務総長、副事務総長、事務局長、事務局次長及び課長は、別表第3に掲げる事項をそれぞれ専決することができる。

2 前項の定めがない場合であっても、その内容により専決することが適当であると認められるものについては、前項の規定に準じて専決することができる。

(代 決)

第8条 決裁権者が不在のときは、別表4に掲げる区分に従い、同表に定める者がその事務を代決することができる。

2 前項の規定にかかわらず、重要又は異例と認められる事項については、代決することができない。ただし、あらかじめその処理について事務局長の指示を受けたもの又は緊急を要するものについては、この限りでない。

3 第1項の規定により代決した者は、当該代決した事項のうち、必要と認めるものについて速やかに決裁権者に報告しなければならない。

第4章 文書の取扱い

(記号及び番号)

第9条 施行する文書には、「サ県会」の記号及び会計年度の通ずる一連番号を付さなければならない。ただし、軽易な文書については、これを省略することができる。

(保存)

第10条 処理済みの文書は、編さんし、事務局長が指示する期間保存しなければならない。

(文書の取扱い)

第11条 前2条に定めるもののほか、文書の取扱いについては、三重県の例による。

第5章 公印

(公 印)

第12条 事務局で使用する公印の種類は、別表5のとおりとする。

2 前項の公印は、事務局長の指定する職員が管理する。

(公印の取扱い)

第13条 前条に定めるもののほか、公印の取扱については、三重県の例による。

第6章 服務及び旅費

(服 務)

第14条 事務局局員の服務については、三重県職員の例による。

(旅 費)

第15条 旅費の額及びその支給方法については、三重県職員の例による。

2 総会、役員会及び部会の開催にあたって旅行したときは、別表6に掲げる者に対し、その旅費について費用弁償することができる。

第7章 財務

第16条 県民会議の財務及び会計については、別に定める。

第8章 補則

第17条 この規程に定めるもののほか、事務局の運営に関し必要な事項は、事務局長が別に定める。

附 則

1 この規程は、平成27年6月26日から施行する。

附 則

1 この規程は、平成27年7月15日から施行する。

附 則

1 この規程は、平成27年8月20日から施行する。

附 則

1 この規程は、平成28年4月1日から施行する。

別表 1 (第4条関係)

課名	分掌事務
総務課	(1) 県民会議事務局の庶務に関すること (2) 県民会議事務局の予算編成・執行管理、経理・審査、出納及び決算に関すること (3) 寄附金の募集及び申込受理に関すること (4) 記念誌の作成に関すること (5) 現地事務所設置に係る調整に関すること (6) 庁内外の総合調整に関すること (7) 推進本部及び同幹事会の開催に関すること (8) 県民会議の総会、役員会及び企画運営部会に関すること (9) 経済界及び関係団体との調整に関すること (10) 報道機関との連絡調整に関すること (11) 諸規定の制定及び改廃に関すること (12) 事務局職員の人事に関すること (13) その他、他課に属さないこと
開催支援課	(1) 首脳会議の開催支援に関すること (2) 外務省との折衝、連絡調整に関すること (3) 国の出先機関との連絡調整に関すること (4) 市町との連絡調整に関すること (5) 県警本部との連絡調整に関すること (6) 首脳等の宿泊・移動に関すること (7) 配偶者プログラムに関すること (8) プレスセンター(メディアセンター(情報センターを含む))の設置に関すること (9) 施設整備(輸送関係を除く)に関すること (10) 通信・電力環境の整備に関すること (11) 政府関係者及び報道関係者の移動に関すること (12) 輸送に係る基盤整備の連絡調整に関すること (13) 宿泊に関すること (14) 宿泊施設との連絡調整に関すること(宿泊予約センターの設置を含む) (15) NGO等の対応に関すること (16) ボランティアスタッフの募集・研修に関すること (17) 地域住民懇話会に関すること
事業推進課	(1) 事業の計画及び実施に関すること (2) 各部局・市町との事業連携に関すること (3) その他事業連携に関すること (4) 民間企業の協賛・応援事業に関すること (5) サミット開催の啓発に関すること (6) サミットに係る三重県の情報発信に関すること (7) プレスツアーの実施に関すること (8) 県民会議の事業推進部会に関すること (9) 地域の環境美化に関すること (10) ジュニアサミットに関すること

別表 2 (第5条関係)

事務局職名	三重県職員等としての職名
事務総長	伊勢志摩サミット推進局長
副事務総長	伊勢志摩サミット推進局理事
事務局長	伊勢志摩サミット推進局次長
事務局次長	
課長	伊勢志摩サミット推進局課長
班長	伊勢志摩サミット推進局班長
班員	伊勢志摩サミット推進局主幹、主査、主任、主事、技師、伊勢志摩サミット推進員
その他(特定の業務について指揮する管理職)	伊勢志摩サミット推進局副参事、伊勢志摩サミット推進局伊勢志摩サミット推進員

別表 3 (第7条関係)

事務局職名	専決事項
事務総長	(1) 事業計画に基づく具体的な事業の企画立案に関すること (2) 事務総長、副事務総長及び事務局長の服務に関すること (3) 事務総長、副事務総長及び事務局長の旅行命令並びに復命の受理に関すること
副事務総長	(1) 事業計画に基づく特定の事業の企画立案に関すること
事務局長	(1) 事業計画に基づく具体的な事業実施に関すること (2) 事務局の組織及び運営に関すること (3) 事務局の予算編成・執行及び決算に関すること (4) 各種規程の制定、改廃に関すること (5) 事務局次長の服務に関すること (6) 事務局次長の旅行命令並びに復命の受理に関すること (7) 総会、役員会の開催及び運営に関すること (8) 寄附金及び協賛金に関すること (9) 重要な刊行物の発行に関すること (10) 会長名をもってする比較的重要な事項に関すること
事務局次長	(1) 事務局課長の服務に関すること (2) 事務局課長の旅行命令並びに復命の受理に関すること (3) 部会の開催及び運営に関すること (4) 会長名をもってする簡易又は定例に属する通知、照会、回答及び届出等に関すること
事務局課長	(1) 所属職員の服務に関すること (2) 所属職員の旅行命令並びに復命の受理に関すること (3) 所属職員の事務分掌に関すること (4) 支出負担行為に関すること (5) 事務局長名をもってする簡易又は定例に属する通知、照会、回答及び届出等に関すること
総務課長	事務局課長の事項に、以下の事項を加える。 (1) 臨時職員の任用に関すること (2) 寄附金及び協賛金以外の収入に関すること (3) 支出命令に関すること (4) 軽易な刊行物の発行に関すること

別表 4 (第8条関係)

決裁権者	代決者
会長	事務総長
事務総長	副事務総長
副事務総長	事務局長
事務局長	事務局次長
事務局次長	事務局課長
事務局課長	事務局班長

別表 5 (第12条関係)

種類	印材	形状	寸法	書体
伊勢志摩サミット三重県民会議会長之印	つげ	正方形	一辺 27mm	てん書
伊勢志摩サミット三重県民会議事務局長之印	つげ	正方形	一辺 24mm	てん書

別表 6 (第15条関係)

支給対象
1 伊勢志摩サミット三重県民会議の役員、会員、顧問並びに部会会員 ただし、下記の職として旅行した場合は除く。 ・ 県議会議員・市町議会議員・市町長・国家公務員・地方公務員
2 その他、会長が必要と認めた者

※平成 28 年 4 月 1 日時点

資料5

三重県伊勢志摩サミット推進本部設置要綱

(設置)

第1条 2016年に本県において開催される主要国首脳会議(以下「サミット」という。)の円滑な実施を図るため、三重県伊勢志摩サミット推進本部(以下「推進本部」という。)を設置する。

(所掌事項)

第2条 推進本部の所掌事項は、次のとおりとする。

- (1) サミットの円滑な実施を図るための総合調整に関すること。
- (2) その他サミットの推進に必要な事項に関すること。

(構成)

第3条 推進本部は、本部長、副本部長及び本部員をもって構成する。

- 2 本部長は知事をもって充てる。
- 3 副本部長は、副知事及び危機管理統括監をもって充てる。
- 4 本部員は、別表1に掲げる者をもって充てる。
- 5 本部長は、必要があると認めるときは、構成員以外の者の出席を求めることができる。

(本部長及び副本部長)

第4条 本部長は、推進本部を代表し、推進本部の事務を総理する。

- 2 副本部長は、本部長を補佐し、本部長に事故あるとき、又は本部長が欠けたときは、別表2に定める順序によりその職務を代理する。

(会議)

第5条 推進本部の会議は、本部長が招集する。

(幹事会)

第6条 推進本部に幹事会を置く。

- 2 幹事会は、幹事長及び幹事をもって構成する。
- 3 幹事長は、雇用経済部伊勢志摩サミット推進局(以下「サミット推進局」という。)次長をもって充てる。
- 4 幹事は、別表3に掲げる職にある者をもって充てる。
- 5 オブザーバーは、別表4に掲げる職にある者とする。
- 6 幹事会は、次の事項について必要の都度開催するものとする。
 - (1) 推進本部に提案する事項
 - (2) 各部局等の所掌事項について相互に調整する事項
- 7 幹事会の会議は、幹事長が招集する。
- 8 幹事長に事故あるとき、又は幹事長が欠けたときは、幹事長があらかじめ指名する幹事はその職務を代理する。
- 9 幹事長は、必要があると認めるときは、構成員以外の者に出席を求めることができる。

(委員会)

第7条 本部員は、サミットの推進体制を確立するため、各部局等に委員会を設置することができる。

(庶務)

第8条 推進本部の庶務は、三重県雇用経済部伊勢志摩サミット推進局サミット総務課において処理する。

(その他)

第9条 この要綱に定めるもののほか、推進本部の運営に関し必要な事項は、本部長が会議に諮って定め、また、幹事会の運営に関し必要な事項は、幹事長が幹事会に諮って定める。

附 則

この要綱は、平成27年6月26日から施行する。

附 則

この要綱は、平成27年7月15日から施行する。

附 則

この要綱は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

別表 1 (第 3 条関係)

防災対策部長
 戦略企画部長
 総務部長
 健康福祉部長
 健康福祉部医療対策局長
 健康福祉部子ども・家庭局長
 環境生活部長
 環境生活部廃棄物対策局長
 地域連携部長
 地域連携部スポーツ推進局長
 地域連携部南部地域活性化局長
 農林水産部長
 雇用経済部長
 雇用経済部観光局長
 雇用経済部伊勢志摩サミット推進局長
 雇用経済部伊勢志摩サミット推進局理事
 県土整備部長
 会計管理者兼出納局長
 企業庁長
 病院事業庁長
 教育長
 警察本部長
 東京事務所長
 関西事務所長

別表 2 (第 4 条関係)

1 副知事 石垣 英一
 2 副知事 渡邊 信一郎
 3 危機管理統括監 稲垣 清文

別表 3 (第 6 条関係)

防災対策部防災対策総務課長
 戦略企画部戦略企画総務課長
 戦略企画部企画課長
 戦略企画部政策提言・広域連携課長
 総務部総務課長
 総務部財政課長
 健康福祉部健康福祉総務課長
 環境生活部環境生活総務課長
 地域連携部地域連携総務課長
 農林水産部農林水産総務課長
 雇用経済部雇用経済総務課長
 県土整備部県土整備総務課長
 出納局出納総務課長
 企業庁企業総務課長
 病院事業庁県立病院課長
 教育委員会事務局教育総務課長
 警察本部サミット対策課長

別表 4 (第 6 条関係)

議会事務局総務課長
 四日市港管理組合総務課長

※平成 28 年 4 月 1 日時点

資料6

三重県伊勢志摩サミット防災・危機対策委員会設置要綱

(設置)

第1条 2016年に本県において開催される主要国首脳会議（以下「サミット」という。）の円滑な実施に向け、防災・危機対策の推進を図るため、三重県伊勢志摩サミット推進本部設置要綱第7条に基づき、三重県伊勢志摩サミット推進本部の下に三重県伊勢志摩サミット防災・危機対策委員会（以下「防災・危機対策委員会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 防災・危機対策委員会の所掌事務は、次のとおりとする。

- (1) サミットの実施に向けた防災・危機対策の推進のための総合調整及び連絡調整に関すること。
- (2) その他防災・危機対策の推進に関すること。

(構成)

第3条 防災・危機対策委員会は委員長、副委員長及び委員をもって構成し、防災・危機対策委員会の下には必要な協議会等を組織する。

- 2 委員長は、防災対策部長をもって充てる。
- 3 副委員長は、防災対策部副部長をもって充てる。
- 4 委員は、別表1に掲げる者をもって充てる。
- 5 防災・危機対策委員会の下には、別表2に掲げる協議会等を設置する。
- 6 協議会等の所掌事項及び構成等は、別に定める。

(会議)

第4条 防災・危機対策委員会の会議は、委員長が招集し、主宰する。なお、会議には、必要に応じて、委員以外の職員の出席を求めることができるものとする。

(庶務)

第5条 防災・危機対策委員会の庶務は、防災対策部消防・保安課において処理する。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、防災・危機対策委員会の運営に必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成27年7月14日から施行する。

附 則

この要綱は、平成27年8月10日から施行する。

別表1（第3条関係）

防災対策部次長
危機管理副統括監
コンビナート防災監
防災対策総務課長
消防・保安課長
防災企画・地域支援課長
災害対策課長
危機管理課長

別表2（第3条関係）

三重県伊勢志摩サミット消防特別警戒連絡協議会
三重県伊勢志摩サミット防災・危機対策関係機関連絡会議
三重県伊勢志摩サミット県・市町災害対策会議

※平成28年4月1日時点

資料7

三重県伊勢志摩サミット保健・医療対策委員会設置要綱

(設置)

第1条 2016年に本県において開催される主要国首脳会議（以下「サミット」という。）の円滑な実施に向け、保健医療対策の推進体制の確立を図るため、三重県伊勢志摩サミット推進本部設置要綱第7条に基づき、三重県伊勢志摩サミット推進本部の下に保健・医療対策委員会（以下「対策委員会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 対策委員会の所掌事項は、次のとおりとする。

- (1) サミットの実施に向けた保健医療対策の推進のための総合調整及び連絡調整に関すること。
- (2) その他保健医療対策の推進に関すること。

(構成)

第3条 対策委員会内には必要な対策班を組織し、対策委員会は委員長、副委員長及び委員をもって構成する。

- 2 委員長は、健康福祉部長をもって充てる。
- 3 副委員長は、医療対策局長、環境生活部長、企業庁長、病院事業庁長及び健康福祉部副部長をもって充てる。
- 4 委員は、別表1に掲げる者をもって充てる。
- 5 対策班長は、別表2に掲げる担当課長をもって充てる。
- 6 対策班の所掌業務は、別表3に掲げるとおりとする。
- 7 対策班の組織構成は、必要に応じて変更（追加）できることとする。

(会議)

第4条 対策委員会の会議は、委員長が招集し、主催する。

なお、会議には、必要に応じて対策班担当課以外の職員の出席を求めることができることとする。

(庶務)

第5条 対策委員会の庶務は、健康福祉部健康福祉総務課において処理する。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、対策委員会の運営に必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成27年7月14日から施行する。

別表 1 (第 3 条関係)

健康福祉部次長 (健康・安全担当)
医療対策局次長
環境生活部次長 (環境担当)
企業庁次長
病院事業庁副庁長
健康福祉部健康福祉総務課長
健康福祉部食品安全課長
健康福祉部薬務感染症対策課長
医療対策局地域医療推進課長
環境生活部大気・水環境課長
病院事業庁県立病院課長
企業庁水道事業課長

別表 2 (第 3 条関係)

対策班	所属	対策班長
総務班	健康福祉部健康福祉総務課	健康福祉総務課長
食品衛生対策班	健康福祉部食品安全課	食品安全課長
感染症・医薬品対策班	健康福祉部薬務感染症対策課	薬務感染症対策課長
救急医療対策班	健康福祉部医療対策局地域医療推進課	地域医療推進課長
	病院事業庁県立病院課	
水道対策班	環境生活部大気・水環境課	大気・水環境課長
	企業庁水道事業課	

別表 3 (第 3 条関係)

対策班	所掌事務
総務班	・対策委員会の庶務に関すること。
	・推進本部及び各対策班等との連絡調整に関すること。
食品衛生対策班	・食中毒の発生予防や拡大防止に関すること。
	・宿泊施設の衛生等の確保に関すること。
感染症・医薬品対策班	・感染症の発生予防や拡大防止に関すること。
	・血液及び県有医薬品等の確保、毒劇物の管理状況の確認等に関すること。
救急医療対策班	・救急医療体制の整備に関すること。
水道対策班	・水道のライフラインの確保に関すること。

※平成 28 年 4 月 1 日時点

資料 8

伊勢志摩サミット開催に向けた全体のスケジュール

実施項目	平成27年度						
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1. 体制 (1) 開催支援	三重県民会議の開催 設立総会・第1回役員会(26日)	第1回部会(27日) 第2回部会(14日)	第2回部会(19日) 第3回部会(7日)	第3回部会(14日) 第4回部会(16日)	第4回部会(13日) 第5回部会(20日)	第5回部会(15日) 第6回部会(18日)	第6回部会(24日)
	三重県推進本部会の開催 第1回推進本部会(26日)	第2回推進本部会(14日)	第3回推進本部会(7日)	第4回推進本部会(9日) 第5回推進本部会(25日)	第6回推進本部会(22日)	第7回推進本部会(13日)	第8回推進本部会(24日)
	国、市町との連絡調整 国、市町との連絡調整(29日) 第1回市町連絡調整会議(14日)	第2回市町連絡調整会議(26日)			市町連絡調整会議(プロダクト別意見交換会)	第2回市町連絡調整会議(16日) 第3回市町連絡調整会議(26日)	
	協議・応援、寄附金等(8/31募集開始)						
	首脳等の移動・宿泊、輸送、歓迎行事等			提案書の作成(10/9)	国への提案(10/9) セミナー及びイベントの開催(10/27)		
	配膳者プログラム			提案準備			
	開催に向けた機運醸成等			御礼施設向けの説明会開催			
	県産食材等の利用促進			協定締結(10日)	設置(24日)		
	宿泊予約センターの設置						
	弁当・注ぎ口の設置						
インフォメーションセンター、ボランティアの募集・研修							
消防・防災(7/14防災・危機対策委員会設置)							
(安全・安心)							
保健・医療(7/14保健・医療対策委員会設置)							
準備 住民懇話会の開催							
社会資本整備(道路等)							
サミットフォーラムの開催							
おもてなし向上研修の実施(市町観光関係職員向け研修はボランティア研修と同期に実施)							
おもてなし大作戦							
花いっぱい作戦							
カウントダウンポードの設置							
ジュニア・サミットの開催							
県内学校・民間団体等における国際理解・交流の展開							
大学生・留学生との交流事業							
記念館							
記録誌							
県内外イベントでのPR							
ホームページ、SNSでの発信							
公式ポスター等によるPR							
動画制作及び放映							
シンボルマークの作成							
海外プレスツアー等の実施							
三重情報館							
(2) おもてなし							
(3) 明日へつなぐ							
(4) 三重の発信							

伊勢志摩サミット開催に向けた全体のスケジュール

実施項目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	
1. 体制	三重県民会議の開催 三重県推進本部会(27日)	第6回総会(2日) 第4回役員会(17日) 第10回推進本部会(17日) 第4回市町連絡調整会議(2日)	第3回総会(29日) 第11回推進本部会(16日) 第3回同等関係機関連絡会議(14日)	第7回部会(12日) 平成28年度第1回推進本部会(17日)	開催結果報告会(20日) 第3回推進本部会(2日)		
2. 協議・応援、密着等(8/31募集開始)	クラフドファンディング募集(12/16~2/29)	各国首脳等と県民との交流~世界との絆づくり~ 東運路歓迎バス(2月~5月)開催	各県首脳等と県民との交流 ~「世界との絆づくり」~実施 各県首脳等と県民との交流 ~「世界との絆づくり」~実施 みえのおもてなしマップの配布 IMC完成式・完成記念式典(5/22)				
3. 事業 (1)開催支援	配膳者プログラム 開催に向けた機運醸成等 県産食材等の利用促進 宿泊予約センターの設置 弁当・注ぎ口の設置 インフォメーションセンター、 ボランティアの募集・研修 消防・防災(7/14)防災・危機対策委員 会設置 保健・医療(7/14)保健・医療対策委員 会設置 警備 住民懇話会の開催 社会資本整備(道路等)	活用促進の動きかけ 宿泊予約センター運営 実施に向けた調整 第1回語学研修(2/14,20) 第2回語学研修(3/13,26) ボランティア研修(4/15,16,17) インフォメーションセンター設置 ボランティア(5/15) インフォメーションセンター設置 ボランティア(6/11)	第2回住民懇話会(4/23,30) 施設バローラの募集 第3回(4/16) 市町観光関係職員向け研修(4/15,16,17) クリーンアップ活動 スタートセミナー開催(4/23,30,10) 寄せ書き体験講座(4/23,30,10) 定植・植花 科50校設置(県民会館100校、応援事業43校) 県民会館100校、応援事業43校 受入・交流事業開催(22日~28日) 受入・交流事業開催(22日~28日) 子どもと楽しむことサミット初日限定イベント(4/29) 多言語化対応 ASEAN環境フォーラムin三重(2/12) リニューアル(17日) 第3弾ポスター展出 第4弾ポスター展出 ポスター公募画展(県内10ヶ所 5/29まで) 放映(3/1~)				
(安全・安心)	消防・防災(7/14)防災・危機対策委員会設置 保健・医療(7/14)保健・医療対策委員会設置	消防・防災(7/14)防災・危機対策委員会設置 保健・医療(7/14)保健・医療対策委員会設置	消防・防災(7/14)防災・危機対策委員会設置 保健・医療(7/14)保健・医療対策委員会設置	消防・防災(7/14)防災・危機対策委員会設置 保健・医療(7/14)保健・医療対策委員会設置	消防・防災(7/14)防災・危機対策委員会設置 保健・医療(7/14)保健・医療対策委員会設置	消防・防災(7/14)防災・危機対策委員会設置 保健・医療(7/14)保健・医療対策委員会設置	
(2)おもてなし	サミットフォーラムの開催 五ヶ所(上野山、上野山、上野山、上野山、上野山) 花いっぱい作戦 おもてなし大作戦 カウントダウンボードの設置	第2回(1/16) 生活衛生関係業者向け研修(2/2,24) キックオフイベント(2/14) 100日前JR東美駅 日本代表決定(2/25) ・開催に資する視察及び県内分設型の関係・交流事業の訪問先決定(2/23) 国際理解・国際交流プログラム H27実施(11/30~3/14)					
(3)明日へつなぐ	ジュニア・サミットの開催 県内学校・民間団体等における国際理解・交流の展開 大学生・留学生との交流事業 記念館 記録誌						
(4)三重の発信	県内外イベントでのPR ホームページ、SNSでの発信 公式ポスター等によるPR 動画制作及び放映 シンボルマークの作成 海外プレスツアー等の実施 三重情報館						

資料9

シンボルマークの使用に関する取扱い

伊勢志摩サミット三重県民会議シンボルマークの使用については、「協賛、応援」の枠組みを活用した。「協賛、応援事業提案シート」により申請いただき、県民会議事務局で内容確認を行った上で申請者に活用していただいた。

※活用事例は応援事業一覧（P280 参照）のとおりである。

なお、シンボルマークの使用に関して、大まかなガイドラインを「シンボルマーク デザインマニュアル」として整備した。

シンボルマーク デザインマニュアル

1_ 基本デザイン



伊勢志摩サミット
三重県民会議



伊勢志摩サミット
三重県民会議

幅 50mm 以下の小サイズ用



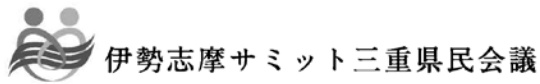
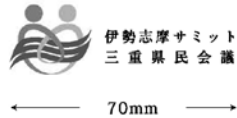
伊勢志摩サミット
三重県民会議

← 50mm →

2_ バリエーション 横長タイプ



幅 70mm 以下の小サイズ用



幅 80mm 以下の小サイズ用



4_ バリエーション 欧文タイプ



幅 50mm 以下の小サイズ用



3_ バリエーション 縦長タイプ



幅 40mm 以下の小サイズ用

伊勢志摩サミット
三重県民会議



伊勢志摩サミット
三重県民会議

← 40mm →

5_ カラー標準版と色指定



伊勢志摩サミット
三重県民会議



- C83_ M40_ Y0_ K0 (DIC-579B)
- C0_ M64_ Y100_ K0 (DIC-161)
- C1_ M31_ Y100_ K0 (DIC-206)

ハート内部 抜き (背景色)





文字 K100

文字 (ベタの場合) 白抜き

6_モノクロ版と色指定



伊勢志摩サミット
三重県民会議

 K90	 K60
 K40	 抜き (背景色)
文字 K100	

7_ベタ面仕様版と色指定



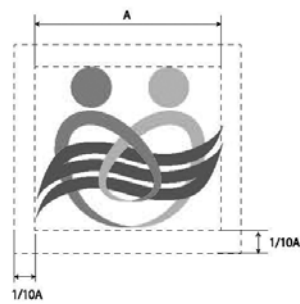
伊勢志摩サミット
三重県民会議

 K10	 K45
 K25	 抜き (背景色)
文字 白抜き	

8_表示サイズ規定

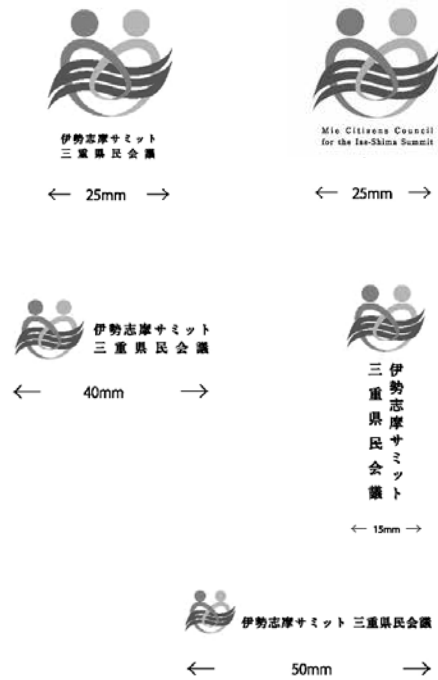
(1) ホワイトスペース

識別性を確保するため、必要なホワイトスペースを定めています。



(2) 最小表示サイズ

識別性を確保するため、最小サイズを定めています。



資料 10**伊勢志摩サミット三重県民会議寄附金要綱**

1 趣旨

伊勢志摩サミット（以下、「サミット」という。）の開催にあたり、地域の活性化につなげていくための事業に県内外の企業、団体、個人と共に取り組むことを目的として、広く協力を求め、寄附金を募ることとする。

2 寄附金募集期間

平成 27 年 8 月 31 日から、平成 28 年 5 月 31 日までとする。

3 寄附金の手続き

(1) 企業、団体の場合

- ア 伊勢志摩サミット三重県民会議は、寄附金募集の旨を県内外に広く周知し、寄附者は、寄附金申込書により三重県知事へ申込を行う。
- イ 寄附者は、三重県からの納付書兼領収証書の送付を受け、三重県が指定する金融機関に払い込み、寄附金を納付する。

(2) 個人の場合

- ア 伊勢志摩サミット三重県民会議は、寄附金募集の旨を県内外に広く周知し、寄附者は、寄附金申込書、インターネットまたは専用払込取扱票により、三重県知事へ申込を行う。
- イ 寄附者は、寄附金申込書による申込の場合は、三重県からの納付書兼領収証書の送付を受け、三重県が指定する金融機関に払い込み、または現金により寄附金を納付する。
- ウ インターネットによる申込の場合は、クレジットカード収納、コンビニエンスストア収納、ペイジー収納により、専用払込取扱票による申込の場合は、同票により寄附金を納付する。

4 税制上の措置

(1) 企業、団体の場合

この寄附金は、法人税法第 37 条第 3 項第 1 号に規定する「地方公共団体に対する寄附金」に該当し、全額が損金算入される。

(2) 個人の場合

この寄附金は、所得税法第 78 条第 2 項第 1 号に規定する「地方公共団体に対する寄附金」に該当し、寄附金控除の対象となる。

5 寄附による特典

- (1) 寄附金の提供を行った者については、予め寄附者の承認を受けた上で、氏名及び寄附金額を伊勢志摩サミット三重県民会議が発行する記録誌等に掲載するものとする。
- (2) (1) の各寄附者に対し、会長名による感謝状を送付する。なお、個人の場合は、「三重県ふるさと応援寄附金（ふるさと納税）」の例によるものとする。

附 則

この要綱は、平成 27 年 8 月 31 日から施行する。

伊勢志摩サミット三重県民会議協賛・応援・寄附趣意書

2016年みえ伊勢志摩サミット誘致推進協議会を中心とする官民一体での誘致活動などが実を結び、平成28年(2016年)5月26日から27日まで、主要国首脳会議(サミット)が三重県・伊勢志摩で開催されることとなりました。

サミットという世界最高峰の国際会議の開催は、本県の国際観光地としてのレベルアップだけでなく、地域の総合力の向上につなげる千載一遇のチャンスであり、三重県ならではの美しい自然、豊かな文化・伝統、先端技術などを強力に発信していく必要があります。

また、サミットを一過性に終わらせることなく、開催後の地域の活性化につなげるためにも、子ども・若者、女性、高齢者や障がい者などさまざまな県民が準備段階から事業の企画に携わり、実施して、サミットに参画することが重要です。

そのため、「オール三重」で一丸となってサミットを成功させるため、伊勢志摩サミット三重県民会議を中心に、「開催支援」「おもてなし」「明日へつなぐ」「三重の発信」の四つの柱に基づき、サミット開催に向けた全県的な取組を展開してまいりたいと考えています。

今後、受入準備が本格化いたしますので、ぜひとも、伊勢志摩サミット三重県民会議を中心とした取組にご賛同をいただき、協賛、応援や寄附によるご支援につきましてご協力賜りますようお願い申し上げます。

平成27年8月

伊勢志摩サミット三重県民会議会長
三重県知事 鈴木 英敬

資料11

協賛、応援事業に関する手続

1 募集内容

(1) 県民会議事業等への協賛

県民会議の主催する事業、県や市町等との連携事業において活用する物品や役務、技術、事業等の提供によるご協力をお願いします。なお、個人からの提案募集は行いません。

(2) 伊勢志摩サミットの応援事業

皆さん自身が主役となって、県民会議の4つの柱「開催支援」「おもてなし」「明日へつなぐ」「三重の発信」に関連する取組を行っていただくことでご協力をお願いします。

※ (1) (2) とともに県民会議の財政負担が伴わないことを前提とします。

2 応募方法および登録

「協賛、応援事業提案シート」に所要事項をご記入のうえ、下記のあて先へ郵送、FAX、E-mail のいずれかでお申込みください。※募集期間は、平成28年5月31日までです。

〒514-0004 三重県津市栄町2-380 HOWAビル津4階

伊勢志摩サミット三重県民会議事務局 総務課あて

TEL 059-253-5491 FAX 059-253-5498 E-mail summit@pref.mie.jp

- ・ 提案シートの内容について、必要に応じヒアリング等を行ったうえで、結果をご連絡させていただきます。公序良俗に反するなど一定の事由に該当するもの以外は、それぞれ協賛、応援事業として登録します。
- ・ 登録に疑義のある提案については、選定委員会で登録の可否について決定します。
- ・ 登録した協賛、応援事業については、その事業名及び事業内容を同意を得たうえで、県民会議ホームページへ速やかに掲載するとともに、記録誌にも掲載します。
- ・ 協賛における物品等の提供方法につきましては、別途協議させていただきます。

3 参考例

(1) 協賛

- ・ サミットPRポスター、チラシなどの印刷
- ・ 各種ノベルティの製作
- ・ サミット開催カウントダウンボードの製作
- ・ サミット関連事業への役務・物品・技術等の提供又は貸与
〔製品(工業製品や加工品だけでなく農林水産物など一次産品も含む)、運行・運営・翻訳・接遇等のサービス、制作・管理等の技術等〕
- ・ クリーンアップやイベント等の事業実施
- ・ サミット関連事業参加者への三重県PRグッズ等の提供
- ・ 「三重県情報館(仮称)」における備品、コンテンツの提供又は貸与
- ・ サミット関係者(警備等)へのサポートグッズの提供

(2) 応援事業(例:企業の場合)

- ・ サミット応援イベントの開催
- ・ サミット応援フェア・セール等の開催
- ・ サミット応援商品の開発、販売(売り上げ金の一部を県民会議へ寄附等)
- ・ サミットを紹介する冊子の作成および顧客への無料配布
- ・ 各施設へのサミット応援メッセージの掲載
- ・ サミット参加国の歴史・文化・食等についての展示紹介
- ・ サミットに関する子ども向け学習会の開催

伊勢志摩サミット三重県民会議協賛、応援事業提案シート

作成日 平成 年 月 日

提案者名(企業・団体・個人名等)		事務担当者	
		所属・役職	
		氏名 (フルネーム)	
〒	-	住所	都 道 府 県 市・町・村
電話番号(固定)		FAX番号	
電話番号(携帯)		E-mailアドレス	
提案事業の種類	1 県民会議事業等への協賛 (該当の番号に○をお願いします。)		
	2 伊勢志摩サミットの応援事業		
シンボルマークの使用	使用する ・ 使用しない	※シンボルマークを使用する場合は、使用イメージがわかる書類(様式自由で、使用方法が具体的にわかる写真等)を添付してください。	
提案内容	<p>企画内容</p> <p>実施日(期間)</p> <p>実施場所</p> <p>実施方法</p> <p>実施体制</p> <p>事業効果 など</p> <p>以上の内容は、下記に規定する協賛、応援事業の登録対象外の提案でないことを誓約します。</p> <p>下記①～③の項目にもご記入ください。</p>		
①応援事業にて、ポスターを掲出頂ける場合は下記ご記入ください			
ポスターの要・不要	要 ・ 不要	サイズ	B1 枚 : B2 枚
		B1:縦1,030×横728 ミリ B2:縦 728×横515 ミリ	
②県民会議ホームページ等への掲載を		希望する ・ 希望しない	掲載希望の場合 公表時期の指定 なし ・ あり
公表時期指定 ありの場合	<input type="checkbox"/> 月 日以降	<input type="checkbox"/> 提案者からの連絡後	<input type="checkbox"/> その他()
③記録誌(サミット開催後の公式記録)への掲載を		希望する ・ 希望しない	
※事務局使用欄	<p>※登録の対象とならないもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業、団体、個人等の売名行為を目的としたもの ・営利のみを目的としたもの ・伊勢志摩サミットの開催および運営に支障を来す恐れのあるもの ・特定の政治、宗教、思想的な意図を持つもの ・伊勢志摩サミット、県民会議や関係者の品位を傷つけるもの ・その他、公序良俗に反するなど一定の事由に基づき県民会議会長が不適当と認めるもの 		

※ いただいた個人情報については、適正な管理を行うとともに、当該事業以外での利用は行いません。

※ 添付資料がある場合は、A4版2枚程度にまとめてください。

資料12

寄附金に関する手続

1 寄附金の申込

「寄附金申込書」に所要事項をご記入のうえ、下記のあて先へ郵送、FAX、E-mail のいずれかでお申込みください。※募集期間は、平成28年5月31日までです。

〒514-0004 三重県津市栄町 2-380 HOWA ビル津 4 階
 伊勢志摩サミット三重県民会議事務局 総務課あて
 TEL 059-253-5491 FAX 059-253-5498 E-mail summit@pref.mie.jp

※個人の場合は、上記の方法のほか、インターネットからクレジットカード、コンビニエンスストア、ペイジーでご寄附いただくこともできます。(具体的な方法は、**三重県ふるさと応援寄附金(ふるさと納税)サイト**(<http://www.pref.mie.lg.jp/FURUSATO/>)をご覧ください)
 この場合、活用を希望する取組として「伊勢志摩サミット」を選択してください。なお、ふるさと応援寄附金申込書等の選択肢にない場合は、「その他希望される活用先」を選択し、「伊勢志摩サミット」とご記入ください。

2 納付書の送付および入金

お申込をいただいた後、概ね2週間以内をめどに納付書を郵送しますので、その納付書を所定の金融機関にお持ちいただき、お振り込みください。

※納付書の取扱が可能な金融機関は、次のとおりです。

【県内】都市銀行、地方銀行、第二地方銀行、信託銀行、商工組合中央金庫、信用金庫、県信用農業協同組合連合会、農業協同組合、県信用漁業協同組合連合会、労働金庫

【県外】百五銀行各支店、第三銀行各支店、三重銀行各支店、三菱東京UFJ銀行本支店、みずほ銀行本支店、りそな銀行本支店、桑名信用金庫各支店、紀陽銀行(新宮支店)、新宮信用金庫(本支店)

※個人の方でインターネットからお申込みいただいた場合は、それぞれ指定の方法によりお支払ってください。

3 寄附金受領証明書の送付

入金を確認できましたら、概ね2週間以内をめどに寄附金受領証明書を郵送します。

※納付書により納付された個人の方は、金融機関で受け取られた「納付書兼領収書」が領収書になるため、寄附金受領証明書は発行していません。

※入金確認までに一定の期間を要する場合があります。

4 税制優遇

【法人の場合】

この寄附金は、法人税法第37条第3項第1号に規定する「地方公共団体に対する寄附金」に該当し、**全額が損金算入されます**。損金算入を行うにあたっては、寄附金受領証明書により税務申告を行っていただく必要があります。

【個人の場合】

この寄附金は、所得税法第78条第2項第1号に規定する「地方公共団体に対する寄附金」に該当し、**寄附金控除の対象となります(三重県ふるさと応援寄附金(ふるさと納税))**。寄附金控除を受けるには、領収書または寄附金受領証明書により確定申告を行っていただく必要があります。

※確定申告が不要となる「ふるさと納税ワンストップ特例」については、寄附金申込書をご確認ください。

寄附金申込書

平成 年 月 日

三重県知事（伊勢志摩サミット三重県民会議会長）あて

【法人の場合】

住 所	
法 人 名	
代表者名	

※担当者連絡先

所属・氏名	
電話/FAX	
E-mail	

【個人の場合】

住 所	
氏 名	
電話/FAX	
E-mail	

私は、伊勢志摩サミット三重県民会議の取組に賛同し、三重県への寄附を申し込みます。

記

ご寄附いただく金額 _____ 円

※一口1,000円以上の申込とさせていただきます。

【通信欄】

- 1 ご寄附をいただいた方のお名前等について、同意をいただいた上で伊勢志摩サミットの記録誌やホームページ等へ掲載する予定です。掲載に同意をいただける場合は、下記に○を記入してください。

- () 法人名/氏名の掲載に同意します。
 () 寄附金額の掲載に同意します。

- 2 個人の場合は、三重県に所定の申請書を提出することで、確定申告を行わなくても寄附金控除を受けることが可能となる「ふるさと納税ワンストップ特例」の手続きを行うことができます。申請書の送付を希望される方は、下記に○を記入してください。（この申請は、平成27年4月1日以降の寄附について、確定申告が不要な給与所得者等で、ふるさと納税先の地方公共団体が5団体以内の場合に限ります。）

- () ふるさと納税ワンストップ特例の申請書の送付を希望します。

資料13

協賛、応援事業の実績

(1) 協賛の実績 計199件

○協賛の分類別内訳

飲料の提供	21	クリーンアップ活動への参加	20
食品の提供	17	花いっぱい活動への参加	17
お菓子の提供	6	ポスター印刷費用の負担	17
物品の提供	59	外国語案内ボランティアの派遣	3
施設の貸与	9	その他	19
情報発信の協力	11	計	199

○協賛の主な活用事例

県民会議が実施する事業に対して、例えば次のような協賛をいただくことで、事業をより効果的かつ効率的に実施することができた。

【開催150日前イベント(H27.12.27)】

松阪牛・いちご・バラの提供、まぐろ解体ショーの調理補助員の派遣等

【第2回サミットフォーラム(H28.1.16)】

ボールペン・清涼飲料水・生け花の提供、会場の無償提供等

【おもてなし大作戦キックオフイベント(H28.2.14)】

伊勢茶・ミネラルウォーター・清涼飲料水・振る舞いぜんざいの提供、ごみ袋・スタンド灰皿の提供等

【花いっぱいスタートセレモニー(H28.4.2)】

しじみ等の提供及び振る舞いの調理員の派遣、菓子類・清涼飲料水・おにぎりの提供、会場の飾花及び講師の派遣等

【第3回サミットフォーラム(H28.4.16)】

進捗管理システムの提供、エコグッズ・メモ帳・コスモス種子の提供、青さのり・伊勢茶の提供等

【ジュニア・サミット(H28.4.22～28)】

海洋深層水・コーヒー・清涼飲料水・かぶせ茶・菓子類の提供、タオル・エコグッズ・メモ帳・シャンプー等の提供、施設の無償提供、救急箱の貸与等

【子どもふるさとサミット(H28.5.14)】

麦茶の提供

【三重情報館(H28.5.24～28)】

千羽鶴・インスタント食品・ボールペン・清涼飲料水・萬古焼の酒盃・伊勢神宮写真集・仮想試着サービスシステム・多言語音声合成サービスシステム・デジタル情報スタンド・バラの提供、伊勢茶の振る舞いおよび要員の派遣、組子建具の無償貸与等

【三重のおもてなしバッグ(H28.5.24～28)】

施設入場券・ボールペン・メモ帳・マスク・おしぼり・菓子類・コーヒー・バス無料乗車証の提供等

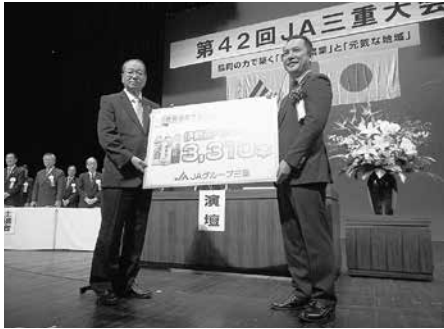
【三重の高校生サミット(H28.6.12)】

清涼飲料水の提供

詳細は、次ページ以降のとおりである。

協賛一覧

受付日	事業者名	内容
H27.8.31	三重トヨタ自動車株式会社	おもてなし大作戦キックオフイベントにゴミ袋5,000袋、軍手720双、ゴミはさみ100本を提供
H27.9.3	尾鷲名水株式会社	ジュニア・サミット、IMC完成記念祝典、各国先遣隊歓迎夕食会などに熊野古道水および海洋深層水 計1,080本を提供
H27.9.11	「小さな親切」運動三重県本部	おもてなし大作戦の一環として、県下各地の道路・側溝・公園・堤防・海浜などを、小中学校、企業や団体等とともに、クリーンアップ活動を実施
H27.9.11 H28.4.4	百五銀行「小さな親切」の会	・おもてなし大作戦の一環として百五銀行の行員3,000名が、百五銀行本店・支店など事業所周辺のクリーンアップ活動を実施 ・第3回伊勢志摩サミットフォーラムにコスモスの種子袋1,000個を提供
H27.12.17 H28.3.3 H28.5.13	株式会社百五銀行	・各国先遣隊歓迎夕食会、中部国際空港セントレア内インフォメーションに外国語案内ボランティアを派遣 ・県民会議第3弾公式ポスターの印刷および発送費用を負担 ・県民会議第4弾公式ポスターの印刷および発送費用を負担 ・花いっぱい作戦への協力として百五銀行店舗にプランターを設置 ・県民会議PR動画の放映協力
H28.3.14	株式会社百五銀行／百五銀行「小さな親切」の会	花いっぱい作戦への協力としてコスモスの種子袋20,000袋を店舗窓口等で配布
H28.3.8	百五コンピュータソフト株式会社／株式会社PIJIN	「県民会議シンボルマークについて」を多言語表示したQRコードシールを提供
H27.9.16	株式会社宝輪	県民会議事務局が入居するHOWAビル津の立体駐車場を貸与
H27.9.18	株式会社アクアイグニス	ジュニア・サミット、花いっぱいスタートセレモニーなどに「伊勢海老パイ」計860枚を提供
H27.9.24	株式会社ビーイング	第3回伊勢志摩サミットフォーラムの進捗管理において、プロジェクトマネジメントツール、コンサルサービスおよび運用支援業務を提供
H27.9.25	NTN株式会社E V モジュール事業本部	伊勢志摩サミット開催等のラッピングを施したEV車両3台を貸与
		 <p>貸与式 (右が鈴木相談役)</p>
H27.12.2 H27.12.21	NTN株式会社 伊勢志摩サミット応援プロジェクト	・国際メディアセンターが設置されるサンアリーナ内及びその周辺歩道等へ複合型（風力・太陽光）の街路灯8基を提供 ・ジュニア・サミット開催等のラッピングを施したEV車両3台を桑名市へ貸与
H27.9.25 H28.5.16	味の素ゼネラルフーズ株式会社	三重のおもてなしバッグの収納物品(4,500セット)、ジュニア・サミット、各国先遣隊歓迎夕食会などへ、スティックコーヒーやドリップコーヒー（煎）、コーヒーサービスなどを提供
H27.10.14	新日本工業株式会社	伊勢志摩サミットの情報誌、三重県をPRするパンフレットなどを入れるケースを作成し提供
H27.10.26	アサヒビール株式会社 中部統括本部	各国先遣隊歓迎夕食会、IMC完成記念祝典にビール420本、ウイスキー2本などのアルコール類を提供
H27.10.28	株式会社マルゴ水産	花いっぱいスタートセレモニーに三重県産しじみ15kgを提供
H27.10.30	日本たばこ産業株式会社 東海支社	おもてなし大作戦キックオフイベントにスタンド灰皿を提供 また、国際メディアセンターの喫煙環境整備として、スタンド灰皿、植栽、案内用サインポールを提供
H27.11.2	株式会社プラトンホテル	150日前イベントに、ミス・ユニバース三重ファイナリストを無償で派遣し、PR活動に協力
H27.11.2	学校法人鈴鹿医療科学大学	第2回伊勢志摩サミットフォーラム会場となる鈴鹿医療科学大学白子キャンパス講堂を貸与
H27.11.5	黒瀬町自治会	各国先遣隊歓迎夕食会での展示品として、第62回式年遷宮にて使用した子供奉曳車を貸与
H27.11.6	株式会社赤福	「伊勢志摩サミット開催レセプション～三重へのいざない～」において、赤福茶屋ブースを出店するとともに、赤福餅と呈茶、銘々箱を提供
H27.11.6	松阪牛協議会	「伊勢志摩サミット開催レセプション～三重へのいざない～」において、特産松阪牛サーロインカット1kgを提供

受付日	事業者名	内容
H27. 11. 6	日本トランスシティ株式会社	各国先遣隊歓迎夕食会、中部国際空港セントレア内インフォメーションに外国語案内ボランティアを派遣
H27. 11. 10	マイスターコーティング鈴鹿店	国際メディアセンターが設置されるサンアリーナ内のトイレや水回りなどにおいて、コーティング施工を提供
H27. 11. 12 H28. 1. 5 H28. 2. 24 H28. 3. 3 H28. 3. 29 H28. 4. 4 H28. 4. 19 H28. 5. 13	J Aグループ三重	<ul style="list-style-type: none"> ・おもてなし大作戦キックオフイベント、I M C完成記念祝典、プレスツアアなどに伊勢茶ペットボトル3,310本を提供 ・150日前イベントの来場者へ伊勢のバラを提供 ・第9回美し国三重市町対抗駅伝における県民会議主催PRブースに三重県産農畜産物を提供 ・県民会議第4弾公式ポスターの印刷および発送費用を負担 ・おもてなし大作戦の一環としてJ A事務所周辺のクリーンアップ活動を実施 ・県民会議PR動画の放映協力 ・ジュニア・サミットでの緊急時用に救急箱を貸与 ・第3回伊勢志摩サミットフォーラムにおいて、伊勢茶の湯茶接待、伊勢茶ペットボトル1,000本を提供 ・三重情報館において、伊勢茶の振る舞いおよびお茶を淹れる要員を派遣 ・三重情報館に伊勢のバラを提供
 <p>J A三重大会にて奥野会長から知事へ目録贈呈</p>		
H28. 5. 10	全国共済農業協同組合連合会三重県本部	志摩市阿児町鶴方地内に太陽光発電の街路灯2基を提供
H28. 4. 4 H28. 4. 26	三重北農業協同組合	<ul style="list-style-type: none"> ・花いっぱいスタートセレモニーに、しじみ汁ふるまいのための調理員を派遣 ・ジュニア・サミット、子どもふるさとサミットなどに、かぶせ茶108ケース、は〜と麦茶108ケースを提供
H27. 11. 13	株式会社電通名鉄コミュニケーションズ	各種アイテムのデザインやイメージの統一化を図るため、名刺・横断幕・懸垂幕などの、伊勢志摩サミット共通デザインを提供
H27. 11. 16	三重県生活衛生同業組合連合会	おもてなし大作戦の一環としてクリーンアップ活動を実施
H27. 11. 16	株式会社三重興農社	花いっぱい作戦への協力として、飾花用のプランター150個を提供
H27. 11. 17	アサヒ飲料株式会社 中部北陸支社	おもてなし大作戦キックオフイベントに清涼飲料水3,000本を提供
H27. 11. 17	株式会社大洋工芸	200日前イベントにおいて、パネルなどを展示する際に必要な展示用ボードを提供
H27. 11. 20	おぼろタオル株式会社	ジュニア・サミット等へフェイスタオル500枚を提供
H27. 12. 1	四日市スーパービジョン	四日市駅前のスーパービジョンでサミット関連動画の放映協力
H27. 12. 8	森林組合おわせ	「伊勢志摩サミット開催レセプション〜三重へのいざない〜」において、オブジェ作成の材料の一部としてヒノキ板を提供
H27. 12. 8	三重県森林組合連合会	外務省、内閣府、国際メディアセンターへ三重県産の木材を使用した電光掲示板式カウントダウンボードを提供 また、県庁知事室前へ木製日めくり式カウントダウンボードを提供
H27. 12. 8	有限会社森と水を守る会	警備関係者、おもてなし大作戦、外国語案内ボランティア研修などに「森の番人」ペットボトル5,000本を提供
H27. 12. 17	西川製菓	ジュニア・サミット、花いっぱいスタートセレモニーに「鈴鹿あられ」を提供
H27. 12. 17	花の国づくり三重県協議会	花いっぱいスタートセレモニーにおいて、プランター作成や花壇装飾に必要な講師役を派遣
H27. 12. 17	三重県花植木振興会	花いっぱいスタートセレモニーにおいて、植木を用いた飾花を提供
H27. 12. 17	株式会社コミュニケーションサービス	サミット関連情報発信のため、フリーマガジン「みえなびプラス」の紙面を提供
H27. 12. 17	株式会社保田商店	ジュニア・サミットでのコーヒーブレイク等に「桑名もち小麦」を使用した商品（お菓子やパン）を提供

受付日	事業者名	内容
H27.12.17	株式会社貫じん堂/ウッド メイクキタムラ	・150日前イベントなどでの展示物として、尾鷲ヒノキを使用した開催記念フ ラッグスタンドを提供 ・県庁1階受付に、尾鷲ヒノキを使用した開催記念フラッグスタンド（8か 国バージョン）を提供
H27.12.17	株式会社ナミカワ	県民会議第3弾公式ポスターの印刷および発送費用を負担
H27.12.17 H28.3.29	イオングループ	・県民会議第3弾公式ポスターの印刷および発送費用を負担 ・おもてなし大作戦の一環として、近鉄鶴方駅からイオン阿児店、マックス バリュ鶴方店までの幹線道路（国道260号、167号、県道17号）において、ク リーン活動を実施
H27.12.28	イオンモール株式会社	200日前イベントにおいて、イオンモール東員のイベントスペースを貸与
H28.1.7 H28.2.9 H28.3.3 H28.4.19	イオンリテール株式会社	・150日前イベントでの伊勢まぐる解体ショーにおいて、必要な技能を有する 職員を派遣 ・おもてなし大作戦の一環として、三重県内のイオン19店舗にてクリーン アップ活動を実施 ・県民会議第4弾公式ポスターの印刷および発送費用を負担 ・県民会議PR動画の放映協力 ・公式ポスター公募原画展を実施する際の場所及び展示備品の貸与
H27.12.17 H28.2.15 H28.3.3	株式会社第三銀行	・県民会議第3弾公式ポスターの印刷および発送費用を負担 ・おもてなし大作戦の一環として志摩エリア地区でのクリーンアップ活動を 実施 ・県民会議第4弾公式ポスターの印刷および発送費用を負担
H27.12.17	株式会社トーエネック 三 重支店	県民会議第3弾公式ポスターの印刷および発送費用を負担
H27.12.17 H28.3.3	損害保険ジャパン日本興亜 株式会社	・県民会議第3弾公式ポスターの印刷および発送費用を負担 ・県民会議第4弾公式ポスターの印刷および発送費用を負担
H27.12.18	桑名の千羽鶴保存会	三重情報館において、コンテンツとして桑名市無形文化財「桑名の千羽鶴」 装飾置物を貸与
H27.12.21	三重県漁業協同組合連合会	150日前イベントでの伊勢まぐる解体ショーにおいて、調理補助員を派遣する とともに、販促物を貸与
H28.3.1	松阪漁業協同組合	第3回伊勢志摩サミットフォーラムに、乾燥青さのり800個を提供
H27.12.21	株式会社朝日屋	150日前イベントでの松阪牛の試食会において、3,310万円で落札した「もも みや」号精肉を提供
H28.1.5	株式会社FIXER	県民会議ホームページのリニューアルにおいて、システム等の構築・開発を 提供
H28.1.5 H28.1.12 H28.6.7	井村屋グループ株式会社	・警備関係者の携行食として、「井村屋スポーツようかんプラス」50,000本 を提供 ・おもてなし大作戦キックオフイベントなどに、振る舞いぜんざい30,000食 分を提供 ・ジュニア・サミットでのコーヒーブレイクなどに、招福ようかん、かすて らケイク、クリームチーズカステラを提供
H28.1.5	コカ・コーライーストジャ パン株式会社	警備関係者、ジュニア・サミット、第2回伊勢志摩サミットフォーラムなど に、コカ・コーラ製品4,800本を提供
H28.1.13	株式会社エルテス	・2016年1～3月と4～5月の期間における、ネット上での三重に関する発 信がどのように変化したか定量的・定数的にまとめたレポートを作成し、県 民会議へ提供 ・外国語案内ボランティア結団式において、WEBリテラシー向上のための 勉強会を実施 ・モニタリングチームを立ち上げ、2016年5月21日～29日まで24時間体制 で、ネット上でのサミット運営に関連するリスク情報の収集を実施
H28.1.18	創作工房ネオ	第3回伊勢志摩サミットフォーラム、ジュニア・サミットへ、県内産の間伐 材で作ったエコ箸1,100膳を提供
H28.1.18	有限会社お花ちゃん生花店	ジュニア・サミットにおいて、開会式場の舞台飾花及び受付デスクのテー ブル花を提供
H28.1.22	サンヨー食品株式会社	国際メディアセンターを訪れる報道関係者向けとして、「伊勢志摩サミット 開催記念 三重亀山ラーメン」7,777個を提供

受付日	事業者名	内容
H28. 1. 25	三菱鉛筆株式会社／第一工業製薬株式会社	三重のおもてなしバッグへの収納物品、国際メディアセンター、第2回伊勢志摩サミットフォーラムなどに、インクにセルロースナノファイバーを使用したボールペン7,000セットを提供  
協賛贈呈式 (左が数原三菱鉛筆(株)社長、右が坂本第一工業製薬(株)会長兼社長)		
H28. 1. 25	住友電装株式会社	各国先遣隊歓迎夕食会、中部国際空港セントレア内インフォメーションに外国語案内ボランティアを派遣
H28. 1. 25	全日本空輸株式会社 名古屋支店	サミット関連情報発信のため、ANAの国内線及び国際線の機内誌(翼の王国、Wing Span)の広告枠1ページ及び国内線の機内VTRの放送枠(30秒)を提供
H28. 1. 25	株式会社伊勢・安土桃山文化村	三重のおもてなしバッグへの収納物品として、伊勢・安土桃山文化村の無料招待券4,500枚を提供
H28. 1. 25	亀山製線株式会社	三重のおもてなしバッグへの収納物品として、フィルター部分にナノファイバーを用いた「アエルマスク」4,500組(9,000枚)を提供
H28. 1. 26	公益社団法人三重県緑化推進協会	花いっぱい作戦に呼応して、県下で花苗の植栽活動を支援
H28. 2. 1	三重いちごブランド化推進協議会	150日前イベントにおいて、来場者プレゼントとして「かおり野」いちごを提供
H28. 2. 1	草月会三重県支部	第2回伊勢志摩サミットフォーラム、各国先遣隊歓迎夕食会において、会場の花装飾などを提供
H28. 2. 1	TOTO株式会社 中部支社	国際メディアセンター(県営サンアリーナ)へ備品を提供
H28. 2. 9	カゴメ株式会社	ジュニア・サミット、三重情報館、外国語案内ボランティア解散式などに、「野菜生活100 早摘みセミノールミックス」50ケースを提供
H28. 2. 9	パナソニックエコシステムズ株式会社／新日本工業株式会社	三重県庁プレザンルームおよび県民会議事務局執務室へ、浮遊ウイルスの除菌や脱臭効果の高い空間清浄機「ジアイノ」2台を提供
H28. 2. 9	アドアムニティ合同会社／株式会社藤波タオルサービス	プレスツアーにおいて、VB(ウイルスブロック)加工を施した伊勢木綿の手ぬぐいおしぼり40個を提供
H28. 2. 9 H28. 3. 29	中部電力株式会社 三重支店	<ul style="list-style-type: none"> ・おもてなし大作戦の一環として、サミット開催100日前に、三重支店および管内事業場周辺のクリーンアップ活動を実施 ・おもてなし大作戦の一環として、サミット開催50日前に、三重支店および管内事業場周辺のクリーンアップ活動を実施
H28. 2. 10	イカワ企画株式会社	市町イベント、第3回伊勢志摩サミットフォーラムなどに、ジュニア・サミットPRシールを貼付したシボリーナ(チューブ入り歯磨き等の使い切り用具)5,000個を提供
H28. 2. 15	一般社団法人三重県安全運転管理協議会	サミット関連情報発信のため、機関紙「みえANKAN」表紙面を提供
H28. 2. 15 H28. 3. 3	株式会社三重銀行	<ul style="list-style-type: none"> ・おもてなし大作戦の一環として志摩市および四日市市においてクリーンアップ活動を実施 ・県民会議第4弾公式ポスターの印刷および発送費用を負担
H28. 3. 1	四日市萬古焼 酔月陶苑	三重情報館、こどもの日イベント(プラネタリウム)、プレスツアーなどに、県民会議のシンボルマークとサミット参加国の国旗を焼き付けた手作りの酒盃1,000個を提供  
協賛贈呈式 (左から2番目が清水酔月代表)		

受付日	事業者名	内容
H28. 3. 1	株式会社稲藤	各国先遣隊歓迎夕食会儀典長への贈呈品として、「海女うちわ」（日永うちわ）6箱を提供
H28. 3. 3	三重交通グループホールディングス株式会社	県民会議第4弾公式ポスターの印刷および発送費用を負担
H28. 5. 13	三重交通株式会社	三重のおもてなしバッグへの収納物品として、三重交通バスの一般バス路線全線無料の乗車証4,500枚を提供
H28. 3. 3	株式会社三菱東京UFJ銀行	県民会議第4弾公式ポスターの印刷および発送費用を負担
H28. 3. 3	日本通運株式会社 三重支店	県民会議第4弾公式ポスターの印刷および発送費用を負担
H28. 3. 3	明治安田生命保険相互会社	県民会議第4弾公式ポスターの印刷および発送費用を負担
H28. 3. 3	東京海上日動火災保険株式会社	県民会議第4弾公式ポスターの印刷および発送費用を負担
H28. 3. 8	スリーエム ジャパン株式会社	三重のおもてなしバッグの収納物品、第3回伊勢志摩サミットフォーラム、ジュニア・サミットなどに、ポスト・イット13,200パックを提供
		  <p>協賛贈呈式（左から2番目が三村社長）</p>
H28. 3. 8	シヤチハタ株式会社	こどもの日イベント、県庁1階ロビー、三重テラスなどへ、シンボルマークデザインのアナログスタンプ20個を提供
H28. 3. 8	三重県ボランティア連絡協議会	おもてなし大作戦の一環として、伊勢市駅周辺・宇治山田駅周辺・五十鈴川駅周辺・二見浦駅周辺・海岸付近において、「クリーンアップ作戦&見守り・見回り活動」を実施
H28. 3. 8	池坊 津支部	各国先遣隊歓迎夕食会において、会場の花装飾を提供
H28. 3. 14	万協製菓株式会社	ジュニア・サミット参加者へ、相可高校の生徒と共同開発したジャンプー、トリートメント70個を提供
H28. 3. 14	株式会社パイロットコーポレーション	警備関係者、IMC一般公開のお土産、こどもの日イベントなどに、県民会議のシンボルマーク入りオリジナル仕様のフリクション20,000本を提供
		  <p>協賛贈呈式（左から3番目が渡辺社長）</p>
H28. 3. 23	株式会社サトー 名古屋支社	こどもの日イベント、市町イベントなどに、オリジナルデザインのサミットステッカー5,000枚を提供
H28. 3. 23 H28. 4. 12	大塚製菓株式会社 津出張所	<ul style="list-style-type: none"> 警備関係者向けとして、ポカリスエット粉末100×180袋、SOYJOY1,500食、カロリーメイト1,500食を提供 外国語案内ボランティア結団式において、熱中症予防啓発の勉強会を実施 外国語案内ボランティアが活動時に着用するユニフォーム370着を提供
H28. 3. 23	クラギ株式会社	花いっぱい作戦への協力として、プランター3,552基、培養土4,613袋を提供
H28. 3. 23	株式会社電通 中部支社	県民会議PR動画の放映協力
H28. 3. 23	御在所ロープウェイ株式会社	ジュニア・サミット交流行事において、ロープウェイ料金などを免除
H28. 3. 23	株式会社宮崎本店	各国先遣隊歓迎夕食会に、大吟醸「宮の雪 酒魂」720ml10本、「海女神」720ml2本を提供
H28. 3. 23	国立大学法人三重大学	各国先遣隊歓迎夕食会に、純米大吟醸「三重大学寒紅梅」1,800ml1本 720ml8本を提供

受付日	事業者名	内容
H28. 3. 23	美里園芸福祉ボランティア	花いっぱい作戦への協力として、国道163号大型花壇に植花するとともに総合支所等に花苗プランターを設置
H28. 3. 23	津市自治会連合会	花いっぱい作戦への協力として、本庁舎と市内9か所の総合支所へ花苗プランターを設置
H28. 3. 23	早修ふるさと未来NAV I	花いっぱい作戦への協力として、歩道上に花苗プランターを設置
H28. 3. 23	亀山市自治会連合会	花いっぱい作戦への協力として、東海道関宿一帯に花苗プランターを設置
H28. 3. 23	四日市農芸高等学校園芸デザインコースの学生及びボランティア	花いっぱい作戦への協力として、四日市中央線の既設花壇に植花するとともに「そらんぼ四日市」周辺に花苗プランターを設置
H28. 3. 23	地縁団体 宮後町会	花いっぱい作戦への協力として、月夜見宮前街路地20か所及び県道街路地の花壇に植花を実施
H28. 3. 28	株式会社アルボース	警備関係者向けに、屋外での感染予防対策サポートとして虫よけスプレー5,000本を提供
H28. 3. 29	株式会社伊藤園	警備関係者、おもてなし大作戦、外国語案内ボランティア研修などに、「おいお茶」20,000ケース、「タリーズ缶コーヒー」20,000ケースを提供
H28. 3. 29	名張園芸福祉ボランティア会	花いっぱい作戦への協力として、名張駅および桔梗が丘駅周辺の花壇に花苗植えを実施
H28. 3. 29	長坂営農組合	花いっぱい作戦への協力として、赤目四十八滝キャンプ場敷地内に花苗プランターを設置
H28. 3. 29	一般財団法人熊野市ふるさと振興公社	各国先遣隊歓迎夕食会に、梅酒「豊穡の海」500ml10本、熊野どぶろく「千枚田」700ml5本、熊野地鶏1.5kgを提供
H28. 3. 31	鳴海製陶株式会社/三重ナルミ株式会社	各国先遣隊歓迎夕食会、こどもの日イベントなどに、カップ&ソーサー2客、絵皿10枚、マグカップ100個などを提供
H28. 4. 4	株式会社おやつカンパニー	三重のおもてなしバッグへの収納物品、IMC一般公開のお土産などに、ベビースターラーメン10,000食を提供
H28. 4. 4	N T T 西日本 三重支店	・県民会議PR動画の放映協力 ・おもてなし大作戦の一環としてN T T ビル周辺のクリーンアップ活動を実施
H28. 5. 10	N T T 西日本/株式会社ミライト	三重情報館において、電子データでパンフレットなどを持ち帰るためのデジタル情報スタンド「PONTANA」を貸与
H28. 4. 12	N T T ドコモ東海支社	県民会議PR動画の放映協力
H28. 5. 2	株式会社ドコモCS東海三重支店	外国語案内ボランティア向けに、ドコモの翻訳サービスアプリ「てがき翻訳」をインストールしたタブレット12台を貸与
H28. 4. 4	日本ボーイスカウト伊賀第1団	おもてなし大作戦の一環として、大村神社および伊賀市阿保地区周辺のクリーンアップ活動を実施
H28. 4. 4	伊勢商工会議所女性部	花いっぱい作戦への協力として、三重県伊勢庁舎前の御木本通り沿い楓橋横花壇へ花植えを実施
H28. 4. 12	五桂池ふるさと村	花いっぱい作戦への協力として、五桂池ふるさと村「花と動物ふれあい広場」へ記念植栽を実施
H28. 4. 12	株式会社伊勢萬	各国先遣隊歓迎夕食会、IMC完成記念祝典に、大吟醸「おかげさま」1,800ml14本 720ml132本 300ml150本、焼酎「光年」720ml1本、「ステラハーフムーン」720ml3本、4斗樽1個、栞300個を提供
H28. 4. 13	アズビル株式会社	第3回伊勢志摩サミットフォーラムで発生するCO ₂ をカーボンオフセットするため、CO ₂ 削減クレジットを提供
H28. 4. 19	一般社団法人三重県建設業協会志摩支部	おもてなし大作戦の一環として、サミット会場周辺道路（市道浜島104号[合歓の郷]）の伐採作業を実施
H28. 4. 19	一般社団法人日本釣用品工業会	おもてなし大作戦の一環として、プロダイバーによる鳥羽市営定期船発着場周辺および熊野市二木島漁港の水中クリーンアップ活動を実施
H28. 4. 19	株式会社Oval Jr.	県民会議PR動画の放映協力
H28. 4. 19	株式会社モビリティランド鈴鹿サーキット	ジュニア・サミット交流行事において、各種体験料金などを免除 また、三重のおもてなしバッグへの収納物品として、鈴鹿サーキット施設入場券4,500枚を提供
H28. 4. 19	合名会社森喜酒造場	各国先遣隊歓迎夕食会に、純米大吟醸「るみ子の酒」1,800ml3本 720ml5本を提供
H28. 4. 19	ソフトバンク株式会社	三重情報館における案内役としてPepperを貸与
H28. 4. 26	フマキラー・トータルシステム株式会社	警備関係者向けなどに、業務用不快害虫駆除器「ウルトラベープPRO」10台を提供
H28. 4. 26	セブンイレブン桑名外堀店	花いっぱいスタートセレモニーに、サミット応援商品として販売している「おむすび」300個を提供
H28. 4. 26	尾呂志夢アグリ	各国先遣隊歓迎夕食会に、純米大吟醸「凧（おろし）」720ml12本を提供

受付日	事業者名	内容
H28. 5. 2	東芝テック株式会社 中部支社 三重支店	県民会議の志摩現地事務所、伊勢現地事務所に、ペーパーリユースシステム「Loops」2セットを貸与
H28. 5. 10	東芝ソリューション株式会社	三重情報館において、「仮想試着サービス」システム（忍者、伊勢木綿の着物）を貸与
H28. 5. 2	真生流いけばな 家元目代 爪橋静華	各国先遣隊歓迎夕食会において、会場の花装飾などを提供
H28. 5. 6	稲田美織（写真家）	三重情報館、名古屋駅、観光協会等において、報道関係者への配布用に、伊勢神宮を英文で紹介した写真集約1,800部を提供
H28. 5. 10	日本風景街道「伊勢熊野みち」推進協議会	・おもてなし大作戦の一環として、国道42号沿いや熊野古道周辺のクリーンアップ活動を実施 ・花いっぱい作戦への協力として、国道42号沿いや熊野古道周辺へ花の植栽などを実施
H28. 5. 10	一般財団法人三重県職員互助会	花いっぱい作戦への協力として、「親子寄せ植え教室」を開催
H28. 5. 10	清水清三郎商店株式会社	各国先遣隊歓迎夕食会に、純米大吟醸「作 雅乃智 中取り」1,800ml 3本 720ml 6本を提供
H28. 5. 10	小林豊子きもの学院 近畿本部	各国先遣隊歓迎夕食会における展示物として、十二単及び束帯の衣裳を貸与
H28. 5. 13	指勘建具工芸	三重情報館において、コンテンツとして組子建具を貸与
H28. 5. 13	NPO法人赤目四十八滝溪谷保勝会	ジュニア・サミットの体験・交流行事において、入山料および駐車料金を免除
H28. 5. 13	株式会社セブン-イレブン・ジャパン	おもてなし大作戦の一環としてJR伊勢市駅周辺のクリーンアップ活動を実施
H28. 5. 13	一般社団法人ガールスカウト三重県連盟	おもてなし大作戦の一環として津センターパレス まんなか広場のクリーンアップ活動を実施
H28. 5. 13	サンディスク ボランティア同好会	おもてなし大作戦の一環として近鉄四日市駅周辺のクリーンアップ活動を実施
H28. 5. 16	株式会社ピーキューテクノ	三重のおもてなしバッグの収納物品として、抗菌・消臭加工の圧縮おしぼり「G2TAMコインおしぼり」4,500パックを提供
H28. 5. 16	株式会社鳥羽水族館	三重のおもてなしバッグの収納物品として、鳥羽水族館施設入場券4,500枚を提供
H28. 5. 16	株式会社マスマ	三重のおもてなしバッグの収納物品として、おにぎりせんべい4,500袋を提供
H28. 5. 16	一般社団法人伊賀上野観光協会	三重のおもてなしバッグの収納物品として、伊賀流忍者博物館の施設入場券4,500枚を提供
H28. 5. 18	志摩ロータリークラブ	花いっぱい作戦への協力として、志摩市磯部町にてフラワーオブジェでの装飾を実施
H28. 5. 18	鳥羽ロータリークラブ	花いっぱい作戦への協力として、鳥羽市ドルフィン広場入口にてフラワーアートでの装飾を実施
H28. 5. 19	株式会社ぎゅーとら	外国語案内ボランティア向けに、お弁当138食を提供
H28. 6. 2	なばりクリーン大作戦実行委員会	おもてなし大作戦の一環として名張市新町河原周辺にてクリーンアップ活動を実施
H28. 6. 9	株式会社小津商店	G7首脳等へのウェルカムメッセージに使用する伊勢和紙を提供
H28. 6. 13	榎並孝子（人形作家）	各国先遣隊歓迎夕食会における展示物として、御所人形を貸与
H28. 6. 13	めがね工房ごうじ	各国先遣隊歓迎夕食会に、桑名の千羽鶴を提供
H28. 6. 14	尾鷲市海面養殖振興協議会	各国先遣隊歓迎夕食会に、尾鷲市と協力のうえ、マハタ1.5kg×2尾を提供

※記録誌への掲載に同意がある事業のみ記載。

※受付日順に記載。但し、同一事業者からの複数の提案等はまとめて記載。

【備考】寄贈品

下記の品は、伊勢志摩サミット三重県民会議から歓迎の意を表し、三重県への訪問を長く記憶に留めていただくため、G7首脳及びアウトリーチ首脳へウェルカムメッセージとともに贈呈したものである。

（※首脳等への贈呈品は、伊勢志摩サミット三重県民会議予算で購入。贈呈品と同じものを事業者から県民会議へ1セットずつ寄贈。）

事業者名	内容
株式会社近鉄百貨店	G7首脳への贈呈品「カップ&ソーサー（ペア）」並びに同ラッピング
指勘建具工芸	アウトリーチ首脳への贈呈品「文箱」並びに同ラッピング
株式会社御木本真珠島	アウトリーチ首脳への贈呈品「ボールペン マーキスシエル」
ウッドメイクキタムラ	メッセージフレーム

(2) 応援事業の実績 計 843 件

○応援事業の分類別内訳

ポスター掲示	123	応援商品	152
独自ポスター・看板	22	応援商品（売上一部寄附）	12
カウントダウン企画	32	応援ソング	6
記念キャンペーン	26	サミットPR	324
記念イベント・セミナー	104	三重の魅力発信	21
記念イベント（売上一部寄附）	2	その他	19
		計	843

サミット応援商品の開発や、サミット応援セール開催の他、講演会や演奏会でのサミットのPR、自社の店舗や施設でのサミット応援メッセージやポスター掲示によるPR等に取り組んでいただくことにより、広くサミットの情報を発信し、開催機運を醸成することにつながった。

詳細は、次ページ以降のとおりである。

応援事業一覧

受付番号	受付日	事業者名	内容	シンボルマーク使用
1	H27.8.31	株式会社百五銀行	伊勢鳥羽志摩地域の観光事業者向けに訪日外国人受入れの一助となるセミナー「百五観光アカデミー」を開催	
2	H27.8.31	堀口文宏の志摩って行こうぜ運営委員会	志摩市のおすすめスポット・料理など志摩の魅力を動画番組、SNS等で配信	
3	H27.8.31	三重の大酒蔵市実行委員会	県内の酒蔵と四日市内の飲食店のコラボイベント「三重の大酒蔵市」を開催し三重の食文化や地酒をPR	
4	H27.9.1	村林浩代ソプラノリサイタル実行委員会	リサイタルにおいてサミット開催をPRするとともに売上の一部を県民会議へ寄附	
5	H27.9.2	J Aグループ三重 J A事業サポートセンター	J Aグループ三重の店舗等へサミットポスターを掲示	
6	H27.9.2	「名港水上芸術花火2015」開催委員会	名古屋港ガーデンふ頭でサミット開催決定記念花火大会を実施	
7	H27.9.2	イオンリテール株式会社	県内のイオン20店舗でサミットポスターを掲示	
8	H27.9.2	マックスバリュ中部株式会社	県内の19店舗でサミットポスターを掲示	
9	H27.9.2	イオンリテール株式会社	関西圏のイオン70店舗で県産品を販売・PR等を行う「三重県フェア」開催	
10	H27.9.2	三重信用金庫	「みんなでおもてなし！伊勢志摩サミット記念定期」キャンペーンを実施し募集総額の0.01%を寄附	
11	H27.9.3	キリンビールマーケティング株式会社 中部圏統括本部 三重支社	「伊勢志摩サミット開催記念」デザイン肩ラベル品を販売し売上1本につき1円を寄附	
12	H27.9.3	三重県漁業協同組合連合会	三重県水産会館敷地内に伊勢志摩サミット開催PRのための看板を設置	
13	H27.9.4	一般社団法人三重県食品衛生協会	サミット成功に向け食中毒を発生を防止するための食品衛生セミナーを開催	
17	H27.9.4	全国詩曲音楽連盟	サミットの記念曲（イメージソング）を制作	
18	H27.9.9	エールアドエイジェンシー合同会社	北勢エリアの社員募集情報誌へサミットポスターを掲載	
20	H27.9.10	アサヒビール株式会社 中部統括本部	伊勢志摩サミットラベル商品を販売し売上1本につき1円を寄附 	
21	H27.9.10	アサヒビール株式会社 中部統括本部	「松阪牛」「東紀州 真鯛と時魚の開き」が当たるインスタントくじ付キャンペーンパックを展開	
22	H27.9.10	近畿日本ツーリスト個人旅行株式会社	首都圏管内の直営店63店舗と提携店60店舗でサミットポスターを掲示	
23	H27.9.11	株式会社第三銀行	伊勢志摩サミット開催記念定期「さんSUNサミット」を販売し抽選で三重県の特産品等をプレゼント	
24	H27.9.14	株式会社百五銀行	「伊勢志摩サミット記念定期預金」を販売し抽選で近鉄しまかぜで行くツアーをプレゼント	
25	H27.9.15	株式会社百五銀行	国内外からの観光客など誰もが利用できる「Wi-Fiサービス」を主要14か店のロビーに整備	
26	H27.9.16	株式会社宝輪	県民会議事務局が入居するHOWAビル津の壁面にサミットポスターを掲出	
27	H27.9.17	三重交通グループホールディングス株式会社	サミットデザインの缶バッジを作成しグループ11社の社員が着用	
28	H27.9.17	株式会社百五銀行	抽選で伊勢志摩地域のレストラン食事券が当たる「伊勢志摩サミット開催決定記念キャンペーン」を実施	
29	H27.9.18	社会福祉法人三重県社会福祉協議会	①各種大会・研修会・業務用封筒へ「サミット開催」文字を刷り込み②イベント会場等でサミットポスターを掲示	○

受付番号	受付日	事業者名	内容	シンボルマーク使用
30	H27.9.18	一般社団法人日本アマチュア無線連盟 三重県支部	サミット開催記念のCall Sign取得のうえ国内外のアマチュア無線局と交信し三重県をPR	○
31	H27.9.18	伊藤印刷株式会社	伊勢志摩サミット開催記念応援グッズ（缶バッジ・三重楽彩・シール）を販売	
32	H27.9.24	特定非営利活動法人ほがらか絵本畑	伊勢志摩サミットを機会に海外を身近に感じるための絵本を使った勉強会やセミナーを実施	
33	H27.9.24	日本ボーイスカウト 伊賀第1団 カブ隊	伊勢志摩サミットに関する子ども向け学習会を実施（テーマ：世界の国ぐに）	
34	H27.9.25	まちづくり団体 楽笑（Raku-Sho）	志摩発の女性会議である「伊勢志摩女子サミットG7（ガールズセブン）」を開催	
35	H27.9.25	株式会社百五ディーシーカード	会員向け「ご利用代金明細書」（毎月約8,000通）へ県民会議寄附金募集の案内を掲載	
36	H27.9.28	株式会社第三銀行	本支店（特に県外店舗）ロビーにサミットポスターを掲示	
37	H27.9.29	三重テレビ放送株式会社	特別番組「世界のリーダーたちが三重に」を放送	
38	H27.9.29	三重テレビ放送株式会社	特別番組「県民みんなで盛り上げよう伊勢志摩サミット」を放送	
39	H27.9.29	三重テレビ放送株式会社	ホームページに「伊勢志摩サミット特設ウェブサイト」を開設	
40	H27.9.29	三重テレビ放送株式会社	伊勢志摩サミットの話点を重点的に紹介する「伊勢志摩サミット応援ウィーク」を実施	
41	H27.9.29	三重テレビ放送株式会社	三重テレビのスタジオに卓上のサミット告知プレートを設置	
42	H27.9.29	神風講社雅楽部	雅楽演奏会のポスターや横断幕に「サミット開催記念」の文言を掲載	
43	H27.9.29	N T N株式会社	近鉄線路沿いの建屋壁面に伊勢志摩サミット・ジュニアサミットをPRする横断幕を設置	
44	H27.9.29	株式会社青葉	天然ミネラルウォーターのペットボトルに「伊勢志摩サミット」応援文字を掲載し売上の一部を寄附	
45	H27.9.29	近鉄グループホールディングス株式会社	近鉄各駅、近鉄GHD各社等においてポスター（自主製作分含む）や看板を掲出	
46	H27.9.30	株式会社百五銀行	会員向け「ご利用代金明細書」（毎月約15,000通）へ県民会議寄附金募集の案内を掲載	
47	H27.9.30	三重畜産有限会社	三重県産牛・豚の魅力をPRするためサミット応援商品を開発	○
48	H27.9.30	鳥羽志摩農業協同組合	鳥羽志摩地域の農産物を使用した「伊勢志摩サミット開催決定記念 G7ランチプレート」を販売	
49	H27.10.1	株式会社第三銀行	ホームページでサミット開催までの日数をカウントダウン	
50	H27.10.1	伊勢鉄道株式会社	全車両の出入ロドアに三重県地域連携部が作成したサミット開催ステッカーを掲示	
51	H27.10.2	伊勢志摩サミット応援ツール制作センター	ビジュアルの統一された応援ツール（のぼり・カウントダウンボード・ジャンパー等）を制作	
52	H27.10.2	株式会社コイサنز	三重の食材を使用したパンを毎月3種類販売し（7か月）、サミット開催月に全21種類を一斉販売	
53	H27.10.5	株式会社T A 西村	商品に「祝 伊勢志摩サミット開催」などのシールやステッカーを貼付	
54	H27.10.5	伊勢志摩真珠館	伝統芸能・文化・芸術やおもてなしを世界に発信するため伊勢志摩サミット「お祭り広場」を開催	
55	H27.10.5	株式会社ダイレクトカーズ	尾鷲ヒノキ家具と伊勢型紙を内装に使用した「伊勢志摩サミット開催記念車」をイベント等で展示	
56	H27.10.5	東邦ガス株式会社 三重支社	第55回ガス展チラシで伊勢志摩サミット開催をPRし会場でサミットポスターを掲示	
57	H27.10.6	石田鉄工株式会社	①アコヤ真珠貝殻入り景観グレーチングを開発②グレーチングカタログにサミットポスターを掲載	
58	H27.10.7	石田鉄工株式会社	展示会（東京ビックサイトなど）自社ブースや社内にサミットポスターを掲示	
59	H27.10.7	鳥羽シーサイドホテル株式会社	フロントロビーやホームページでサミットPRおよび伊勢志摩サミット開催決定記念プラン発売	
60	H27.10.7	鳥羽観光会館ビル株式会社	①鳥羽1番街建物へ「サミット開催」懸垂幕を掲出②1階コンシェルジュでサミット案内業務を実施	
61	H27.10.7	皇學館大学	NIPPONの原点を学ぶ三重の魅力発信セミナー「うまし国 伊勢志摩の神話と日本文化」を開催	
62	H27.10.8	鳴海製陶株式会社／三重ナルミ株式会社	伊勢志摩サミット招致決定記念として「NARUMI テーブルウェアショー2015 in 三重」を開催	

受付番号	受付日	事業者名	内容	シンボルマーク使用
63	H27. 10. 8	株式会社柿安本店	グループ約300店舗で「伊勢志摩サミット開催記念 美し国三重県フェア」として各業態ごとにオリジナルメニューを開発	
64	H27. 10. 9	日本通運株式会社 三重支店	各拠点へのポスター掲示および従業員名刺へのロゴ記載	
65	H27. 10. 9	一般社団法人三重県建設業協会	伊勢志摩サミット応援ポスターを制作し会員企業の事務所や工事現場に掲示	
66	H27. 10. 13	一般社団法人三重県産業廃棄物協会	伊勢志摩地域の産業廃棄物不法処理防止パトロール及び不法投棄撤去作業	
67	H27. 10. 13	北伊勢上野信用金庫	本支店ロビーへサミットポスターを掲示	
68	H27. 10. 13	J Aグループ三重	三重県内J Aバンク主催「LIVE in MIE 2015」にてサミット応援メッセージを記載した県内産茶試供品を配布	
69	H27. 10. 13	いせ毎日会・毎日新聞伊勢支局	「伊勢まつり」にブース出展し「伊勢志摩サミット」をテーマにPR	
70	H27. 10. 14	近畿日本ツーリスト個人旅行株式会社	関西地区の直営店30店舗と提携店約50店舗でサミットポスターを掲示	
71	H27. 10. 14	三重テレビ放送株式会社	津まつりの三重テレビブースで「伊勢志摩サミットにちなんだぬり絵」を実施	
72	H27. 10. 14	株式会社NTTドコモCS東海 三重支店	県内ドコモショップ39店舗でサミットポスターを掲示	
73	H27. 10. 15	まちなか文化祭実行委員会	文化活動を支援する「まちなか文化祭」を開催しチラシでサミット開催をPR	
74	H27. 10. 15	三重県市町村職員共済組合	三重市町村会館および「サンペルラ志摩」でサミットポスターを掲示・リーフレット据え置き	
75	H27. 10. 15	三岐鉄道株式会社	駅および車内へサミットポスター掲示および三重県地域連携部作成ステッカーの掲出	
76	H27. 10. 16	株式会社上田新工業	自社入口にサミットポスターを掲示	
77	H27. 10. 16	株式会社上田新工業	ホームページにシンボルマークを使用し「伊勢志摩サミット開催を応援しています」文言を掲載	○
78	H27. 10. 16	三重執鬼株式会社	地元中学校での出前講座で使用するパワーポイントにシンボルマークを使用	○
79	H27. 10. 16	三昌物産株式会社	自社カタログ等にサミットポスター掲載し商品にも統一シンボルマークを使用	○
81	H27. 10. 19	株式会社伊勢新聞社	伊勢新聞1面突き出しスペースでサミットカウントダウン広告を掲載	
82	H27. 10. 19	株式会社伊勢新聞社	伊勢志摩サミット開催200日前別刷特集で関係者インタビューや準備の状況などを掲載	
83	H27. 10. 19	株式会社ビーズプレアコーポレーション	商品（餃子、餃子のたれ、みそだれなど）にシンボルマークを使用	○
84	H27. 10. 19	はあと福祉タクシー	チラシ・ホームページに「伊勢志摩サミットを応援しています」の文言を掲載し売上の一部を寄附	
85	H27. 10. 19	有限会社観光旅館 福寿荘	サミット開催決定に伴い客室をリニューアルしイメージチラシにシンボルマークを使用	○
86	H27. 10. 19	株式会社ミエライス	商品（米袋）にシンボルマークを使用	○
87	H27. 10. 19	三交興業株式会社	名阪関ドライブイン・名阪上野ドライブインの入口にシンボルマークを使用した看板を掲出	○
88	H27. 10. 20	津市ボランティア協議会	「つ・環境フェスタ」に缶バッジづくりコーナーを出展しシンボルマークの線画を用意	○
89	H27. 10. 20	糸川屋製菓株式会社	商品にシンボルマークを使用	○
90	H27. 10. 20	東邦ガス株式会社 三重支社	名刺にシンボルマークを使用	○
91	H27. 10. 20	イオンリテール株式会社	県内のイオン19店舗で三重県産品の販売や観光情報発信などのイベントを実施	
92	H27. 10. 20	三重県信用金庫協会	「三重県しんきんレポート」へサミットポスターおよび応援メッセージを掲載	
93	H27. 10. 20	マックスバリュ中部株式会社	県内全店舗（44店舗）へカウントダウンボードを設置	
94	H27. 10. 21	J Aグループ三重	県内厚生連病院院内モニターにて伊勢志摩サミット開催をPR	
95	H27. 10. 21	有限会社居酒屋ふぐや	サミット応援商品（食事メニュー）を開発および店内にサミットポスターを掲示	
96	H27. 10. 21	ヒストリックカーミーティング実行委員会	伊勢志摩サミットのプレイベントとして「CLASSIC CAR SUMMIT」を開催し広告等でサミットをPR	


受付番号	受付日	事業者名	内容	シンボルマーク使用
97	H27. 10. 21	三重県漁業協同組合連合会	①出荷に使用する箱にサミットPRするシールを貼付②事務所にサミットポスターを掲示	○
98	H27. 10. 22	損害保険ジャパン日本興亜株式会社	全都道府県の国内拠点1,204か所でサミットポスターを掲示	
99	H27. 10. 22	三重県商工会連合会	「みえのうまいもん物産展」でサミットポスターを掲示	
100	H27. 10. 22	三重県商工会連合会	「みえまるごと物産展」でPRブースを設置しサミットポスターを掲示	
101	H27. 10. 22	三重県商工会連合会	三重県商工会大会における大会誌への伊勢志摩サミットPR及びリーフレット配付	
102	H27. 10. 22	三重県商工会連合会	商工会全国大会におけるリーフレット配布及びPRブースを設置	
103	H27. 10. 22	三重県商工会連合会	「ニッポン全国物産展」においてサミットポスターを掲示しリーフレット配置	
104	H27. 10. 22	八千代エンジニアリング株式会社 名古屋支店	本社を含む全支店にサミットポスターならびに応援メッセージを掲載	
105	H27. 10. 23	白井織布株式会社	①応援商品を開発しシンボルマークを使用②自社入口へサミットポスターを掲示	○
106	H27. 10. 23	三重県馬事畜産振興協議会	「三重の馬い畜産物大抽選会」の開催にあたりサミット応援メッセージを掲載したイベント告知を実施	
107	H27. 10. 23	日本バーテンダー協会三重県本部 三重支部	三重支部の会員店舗40店舗でサミットポスターを掲示	
108	H27. 10. 23	テルウェル西日本株式会社 東海支店 三重営業支店	「電話対応コンクール全国大会」で使用する応援メッセージ（寄せ書き）の中心にシンボルマークを使用	○
109	H27. 10. 23	伊勢形紙協同組合	「匠の里・伊勢型紙フェスタ」を開催し会場でサミットポスターを掲示	
110	H27. 10. 23	有限会社ウラケイパール	看板やPOP・プライスタグへシンボルマークを使用	○
111	H27. 10. 23	株式会社百五銀行	全店舗のロビー（一部店舗を除く）にカウントダウンボードを設置	
112	H27. 10. 23	株式会社百五銀行	グループ（百五銀行・百五証券・百五経済研究所）役職員の名刺にシンボルマークを使用	○
113	H27. 10. 26	中部電力株式会社 三重支店	自社施設にカウントダウンボードを設置	○
114	H27. 10. 26	志摩市観光協会	「御食つ国・志摩 年末海族市」を開催し県産食材を発信するとともに伊勢志摩サミットをPR	
115	H27. 10. 26	志摩市観光協会	「海女小屋体験施設 さとうみ庵」通常料金3,500円を3,310円（サミット）で提供	
116	H27. 10. 26	志摩市観光協会	志摩市観光協会会員（会員数452）へサミットポスター掲示を依頼	
117	H27. 10. 26	志摩市観光協会	サミット開催に伴う情報や会員が開発したサミット関連商品情報をホームページへ掲載	
118	H27. 10. 26	志摩市観光協会	「伊勢志摩ふるさと交流会」にてサミットポスターを配布	
119	H27. 10. 26	志摩市観光協会	「わらじ祭り」でサミット開催記念のぼり旗を設置しサミットをPR	
120	H27. 10. 26	N T T 西日本 三重支店	名刺・封筒・クリアファイルにシンボルマークを使用して開催をPR	○
122	H27. 10. 27	株式会社百五銀行	外国人目線からのおもてなしについてコンサルティングする「百五観光アカデミー おもてなしコンサル」を開催	
123	H27. 10. 27	N T T 西日本 三重支店	「FreeWiFi-MIE」のアクセスポイントと無料利用時間を拡大	
124	H27. 10. 27	マックスバリュ中部株式会社	サミット応援企画としてシンボルマークを使用した応援商品を販売	○
125	H27. 10. 27	中日新聞社広告局	①200日前から開催日まで紙面上でカウントダウン②「伊勢志摩サミット応援商品」企画および100日前・直前・開幕企画を紹介	○
126	H27. 10. 27	伊勢志摩俳句サミット協議会	日本の伝統文化である俳句により「伊勢志摩俳句サミット」を開催	
128	H27. 10. 28	第三カードサービス株式会社	「ご利用明細書」（毎月約8,000通）およびホームページへ県民会議寄附金募集の案内を掲載	
131	H27. 10. 28	有限会社龍宮	シンボルマークを使用したポスター、POP、商品タグ等を制作しサミットをPR	○
132	H27. 10. 28	三重トヨペット株式会社	試乗車・社用車に応援メッセージ入りステッカー掲示など複数の企画を実施	

受付番号	受付日	事業者名	内容	シンボルマーク使用
133	H27. 10. 28	協同組合オールニッポンギフト	ギフトカタログの表紙にシンボルマークを使用しサミットをPR	○
134	H27. 10. 28	三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」	「男女共同参画フォーラム～みえの男女2015～」にてサミットポスターを掲示しパンフレットにシンボルマークを使用	○
135	H27. 10. 28	有限会社二軒茶屋餅角屋本店	「SUMMIT」ホップを使用した「限定醸造ビール サミットビール2016」を販売	○
137	H27. 10. 29	北伊勢上野信用金庫	ウインターキャンペーンのチラシに県民会議「協賛、応援、寄附」募集の案内を掲載	
138	H27. 10. 29	ポートルース津	ご当地グルメ・ご当地キャラ・ご当地武将隊が一堂に会する「全国ご当地大集合サミット」を開催	○
139	H27. 10. 29	株式会社三重銀カード	「ご利用明細」およびホームページに県民会議寄附金募集の案内を掲載	
140	H27. 10. 30	井村屋株式会社	三重県の特産品「伊勢茶」を使用したアイスクリームを開発しパッケージにシンボルマークを使用 	○
141	H27. 10. 30	三重県産業廃棄物対策推進協議会	三重県鳥羽市答志島奈佐の浜での伊勢湾漂着ゴミ海岸清掃活動を実施	
142	H27. 10. 30	NPO法人三重補助犬普及協会	「みえ補助犬 なるほど サミット」を開催し補助犬ハーネス部分やスタッフがシンボルマークをデザインしたバッジを着用	○
143	H27. 10. 30	イオンモール東員	シンボルマークを使用したサミット応援ワッペンを作成しスタッフが着用	○
144	H27. 11. 2	近畿日本ツーリスト株式会社 津支店	JRクーポン袋の広告面にシンボルマークを使用し伊勢志摩サミット三重県開催告知を掲載	○
145	H27. 11. 2	近畿日本ツーリスト株式会社 津支店	JR時刻表の表紙裏全面にシンボルマークを使用し伊勢志摩サミット三重県開催告知を掲載	○
146	H27. 11. 2	三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社	中日新聞社発行の「東海エリアデータブック2016」にシンボルマークを使用し伊勢志摩サミット関連記事を掲載	○
147	H27. 11. 2	株式会社プラトンホテル	ミス・ユニバース三重ファイナリストによる「伊勢志摩サミットカウントダウンブログ」でサミットをPR	○
148	H27. 11. 2	株式会社プラトンホテル	自社館内に「伊勢志摩サミット応援」のぼり旗を設置	○
149	H27. 11. 2	社会福祉法人洗心福祉会	県内約100の事業所でサミットポスターを掲示	
150	H27. 11. 2	赤塚グループ（株式会社赤塚植物園、株式会社赤塚、株式会社エフエフシー・ジャパン）	店頭でサミット応援の横断幕・のぼり旗を設置するとともにホームページなどでもサミットをPR	
151	H27. 11. 2	南長野12志会	「伊勢志摩サミット 日本のおもてなし」をテーマに「南長野イルミネーション2015」を開催しイルミネーションを通してサミットをPR	
152	H27. 11. 2	井村屋株式会社	三重県の特産品「松阪牛」を使用した中華まん（冷凍食品）を開発しパッケージにシンボルマークを使用	○
153	H27. 11. 2	中島製茶株式会社	自社製品（緑茶・玄米茶）にシンボルマークを使用	○
154	H27. 11. 4	有限会社アンドウセンイ	名刺にシンボルマークシールを使用	○
155	H27. 11. 4	株式会社第三銀行	役職員の名刺にシンボルマークシールを使用	○
156	H27. 11. 4	株式会社総本家貝新新七商店	商品にシンボルマークシールを使用	○
157	H27. 11. 4	NEMU HOTEL&RESORT	TV放映CM内で伊勢志摩の文化・自然・食材を魅力をPRするとともにサミット開催告知のテロップを表示	
158	H27. 11. 4	株式会社三重銀行	サミット開催への対応やサミット後のインフラ整備等を支援するため「伊勢志摩サミット応援ファンド」の取扱いを実施	

受付番号	受付日	事業者名	内容	シンボルマーク使用
159	H27.11.4	株式会社三重銀行	伊勢志摩サミット応援融資「事業者向けフリーローン・クイック」金利優遇キャンペーンを実施	○
160	H27.11.4	株式会社三重銀行	県内店舗（55か店）および愛知県内店舗（15か店）にてデジタルサイネージを活用したカウントダウンを表示	
161	H27.11.4	株式会社三重銀総研	リージョネット三重にて三重県の特産品をプレゼントする「伊勢志摩サミット応援キャンペーン」を実施	
162	H27.11.4	サラヤ株式会社	名刺、カタログ、ホームページ等でシンボルマークと応援メッセージを掲載	○
163	H27.11.4	三重北農業協同組合	かぶせ茶ペットボトルのフィルムにシンボルマークと応援メッセージを掲載	○
164	H27.11.5	細川酒造株式会社	商品（三重路 上馬ビール）ラベルにシンボルマークを使用しサミットPR	○
166	H27.11.5	東海テレビ放送株式会社	三重の「自然」「食」「おもてなし」をサミット情報とともに紹介する特別番組を放送	
167	H27.11.5	株式会社百五銀行	外国人の受入に関するノウハウを学ぶための「飲食店の外国人受入準備セミナー」を開催	
168	H27.11.5	株式会社第三銀行	41営業店のデジタルサイネージにサミット開催までのカウントダウンを表示	
169	H27.11.6	HEAL IN 四日市	自社ホームページに伊勢志摩サミットホームページのリンクを貼付	
170	H27.11.6	紀北町観光協会	道の駅 紀伊長島マンボウ内の紀北町観光サービスセンター事務所壁面にカウントダウンボードを設置	
172	H27.11.6	洋菓子ナポレオン	商品（よっかいちぼうむ）包装にシンボルマークを使用	○
173	H27.11.6	J Aグループ三重	役職員の名刺に伊勢志摩サミット応援シールを貼付	
174	H27.11.6	J Aグループ三重	県内J Aグループのホームページにカウントダウン表示と県民会議ホームページへのリンクを貼付	
175	H27.11.6	J Aグループ三重	第42回J A三重大会記念品へ伊勢志摩サミット応援メッセージを記載	
176	H27.11.9	桑名信用金庫	冬のボーナス「ウィンターキャンペーン」チラシに応援メッセージを掲載	
177	H27.11.9	桑名信用金庫	小学生以下を対象とした「子供用通帳」開設キャンペーンチラシに応援メッセージを掲載	
178	H27.11.9	三重県鶏卵販売農業協同組合	事務所にサミットポスターを掲示	
179	H27.11.9	一般社団法人三重県配合飼料価格安定基金協会	事務所にサミットポスターを掲示	
180	H27.11.9	ヤマナカフーズ株式会社	商品にシンボルマークを使用したラベルを添付し販売	○
181	H27.11.9	NPO法人天満浦百人会	天満荘においてサミット開催をPRする行燈を設置するとともにサミットポスターを掲示	
182	H27.11.9	みえリーディング産業展2015実行委員会	「みえリーディング産業展2015」にて「伊勢志摩サミット開催記念クイズ大会」を開催	
184	H27.11.9	三重県賃貸住宅経営者協会	「賃貸経営セミナー」で講演会を開催し伊勢志摩サミットをPR	
185	H27.11.10	丸之内商店街振興組合	2015年歳末大売り出しで「伊勢志摩サミットを応援しよう」をテーマに各加盟店がサミット応援セールを開催	○
186	H27.11.10	三重交通グループホールディングス株式会社	ホームページへカウントダウンを表示するとともにシンボルマークと応援メッセージを掲載	○
187	H27.11.10	三重県社会就労センター協議会／社会福祉法人三重県社会福祉協議会	平成27年度東海北陸社会就労センター研究協議会三重大会の冊子にシンボルマークを使用	○
188	H27.11.10	三重大学男女共同参画推進専門委員会	三重大学男女共同参画フォーラムの案内ポスターにシンボルマークを使用	○
189	H27.11.10	株式会社サン・シャイン	サミット応援ツール（のぼり、プルポン）を使用しサミットをPR	
191	H27.11.10	株式会社第三銀行	お客様配布用のカレンダーにサミット開催日までのカウントダウンを表示	
192	H27.11.10	三重県信用保証協会	①本支店の各フロアにサミットポスターを掲示②名刺にシンボルマークを使用③封筒などにシンボルマークを使用	○
193	H27.11.10	富士ゼロックス三重株式会社	「観光サービス支援Solution Fair 2015」の案内チラシにシンボルマークを使用	○
194	H27.11.11	株式会社クラユニコーポレーション	ホームページ・名刺・商品チラシへサミット応援メッセージを掲載	

受付番号	受付日	事業者名	内容	シンボルマーク使用
195	H27. 11. 12	株式会社トーエネック 三重支店	三重県内にある10事業場の玄関周辺にサミット応援のぼりを設置	
196	H27. 11. 12	N T N株式会社 産業機械事業本部	「みえリーディング産業展2015」にてサミットPR横断幕を設置するとともに説明員ブルゾンに応援メッセージステッカーを貼付	
197	H27. 11. 13	池坊 伊勢支部	J R伊勢市駅内の展示スペース内の生け花を充実させるとともにサミットポスターを掲示	
198	H27. 11. 13	北伊勢上野信用金庫	定期預金満期案内のメッセージ欄に県民会議「協賛、応援、寄附」募集の案内を掲載	
200	H27. 11. 13	鈴鹿花き温室組合	第33回品評会テーマを「フラワーサミットin鈴鹿～サミットの机を飾る花～」とし会場内にサミットポスターを掲示	
201	H27. 11. 13	大内山酪農農業協同組合	大紀公園の牛乳パックモニュメント正面にシンボルマークと応援メッセージを表示	○
204	H27. 11. 13	三重県環境整備事業協同組合	「西日本閉鎖性海域連携サミット」のリーフレット・看板へシンボルマークを表示	○
205	H27. 11. 13	三重県真珠養殖連絡協議会	全国尾鷲節コンクールに「伊勢志摩サミット特別賞」として真珠製品を提供しサミットをPR	
206	H27. 11. 16	中部電力株式会社 三重支店	電柱広告（自社電柱27本）へシンボルマークとサミット応援メッセージを掲載	○
207	H27. 11. 16	中部電力株式会社 三重支店	本店および三重支店の従業員名刺にシンボルマークとサミット応援メッセージ入りのシールを貼付	○
208	H27. 11. 16	ビジネス・iNN・フェニックス	フロントの従業員が伊勢志摩サミット応援のブルズンを着用しサミットPR	
209	H27. 11. 16	富士ゼロックス三重株式会社	名刺の裏面にシンボルマークとサミット開催案内を掲載	○
210	H27. 11. 16	株式会社一号館	広告および商品パッケージにシンボルマークとサミット開催案内を掲載	○
211	H27. 11. 16	公益財団法人三重県生活衛生営業指導センター	旅館ホテル・飲食店・理美容等の事業者を対象に心のこもったおもてなしができるよう「おもてなし研修」を実施	
212	H27. 11. 16	公益財団法人三重県生活衛生営業指導センター	旅館ホテル・飲食店・理美容等の事業者を対象に食中毒・レジオネラ・アレルギー対策のための「衛生管理研修」を実施	
213	H27. 11. 16	三重県生活衛生同業組合連合会	加盟店舗を「OSSS」（おもてなし えいせい サービスステーション）として道案内およびトイレを提供	
214	H27. 11. 16	三重県生活衛生同業組合連合会	シンボルマークを使用した「OSSS」（おもてなし えいせい サービスステーション）ポスターを加盟店舗に掲示	○
215	H27. 11. 16	三重県生活衛生同業組合連合会	観光客へのおもてなしの充実のため加盟店舗において分煙の表示を実施	
216	H27. 11. 16	三重県生活衛生同業組合連合会	加盟店舗約200店舗においてサミットポスターを掲示	
217	H27. 11. 16	小林美智代	CDやDVDのジャケットにシンボルマークを使用した伊勢志摩サミット応援歌を制作	○
218	H27. 11. 16	井村屋株式会社	三重県の特産品「伊勢茶」を使用したカップ入りぜんざいを開発しパッケージにシンボルマークを使用	○
219	H27. 11. 16	株式会社CBCテレビ	小学生の親子を対象とした「学ぼう・ふれよう 伊勢志摩サミット～三重伝統工芸ワークショップ～」を開催	
220	H27. 11. 16	THK株式会社 三重工場	①工場内にサミットポスターを掲示②缶バッジを作成し工場従業員が着用	
221	H27. 11. 17	伊勢志摩サミット応援ツール制作センター	みえリーディング産業展2015にて「伊勢志摩サミット応援ツール制作センター」のPRコーナーを設置	
222	H27. 11. 17	年末・きいながしま港市実行委員会	「2015三重紀北町 年末・きいながしま港市」を開催し出品希望業者によるサミット記念商品の販売と専用ポップの掲示	
223	H27. 11. 17	一般社団法人三重県安全運転管理協議会	機関紙「みえANKAN」へシンボルマークを使用	○
224	H27. 11. 17	日本郵便株式会社 東海支社（三重南部営業統括本部）	三重県・愛知県・岐阜県・静岡県郵便局窓口ロビー等へサミットポスターを掲示	
225	H27. 11. 17	有限会社伊勢文化舎	「ぱるく伊勢志摩」でサミットの問題を継続的に取り上げるとともにシンボルマークを掲載	○
226	H27. 11. 17	株式会社橋本屋徳兵衛	自社商品「黒のり・青さのり・その他乾物」にシンボルマークを使用	○
227	H27. 11. 17	NEMU HOTEL&RESORT	①ホテル内にサミットポスターを掲示②個人向け・団体向けに伊勢志摩サミット開催決定記念プランを販売	
228	H27. 11. 19	株式会社おやつカンパニー	伊勢志摩をテーマとした商品を開発しパッケージにシンボルマークを使用	○
229	H27. 11. 19	鳥羽商工会議所	2016年鳥羽商工会議所新春講演会「観光地の国際化」を開催	○
230	H27. 11. 19	三重県職員信用組合	ディスクロージャー誌の表紙に賢島の風景を使用し裏面にシンボルマークを掲載	○

受付番号	受付日	事業者名	内容	シンボルマーク使用
231	H27. 11. 19	中日本高速道路株式会社 名古屋支社 桑名保全・サービスセンター	高速道路のサービスエリアにシンボルマークを使用したカウントダウンボードを設置	○
232	H27. 11. 20	株式会社伊藤園	「お〜いお茶『お茶で三重を美しく。』」キャンペーン開始に伴う清掃ボランティア活動で「伊勢湾再生」等の環境保全活動に貢献	
233	H27. 11. 20	井村屋グループ株式会社	近鉄名古屋駅構内に伊勢志摩サミット開催をPRする広告を掲示	
234	H27. 11. 20	株式会社柿安本店	伊勢志摩の食材を活用した食育セミナーにおいて会場内にサミットポスター及びのぼりを掲示	
236	H27. 11. 24	株式会社朝日屋	第66回松阪肉牛共進会において優秀賞1席に選ばれた出品牛をサミット価格3,310万円で落札	
237	H27. 11. 24	荒川制服株式会社	名刺にシンボルマークを使用	○
239	H27. 11. 24	有限会社バイテック	①サミット応援ポスターの制作と掲示②サミット開催応援イベントの実施と記念セール	
240	H27. 11. 25	割烹ヤマニ	伊勢志摩サミット開催応援歌として三重県のシンボルを題材とした「三重のシンボル小唄」を作曲	
241	H27. 11. 25	商工中金（津支店、四日市支店）	①東海地区5店舗にサミットポスターを掲示②名刺およびノベルティにシンボルマークシールを使用	○
242	H27. 11. 25	株式会社三重寿庵	自社商品「伊勢奉祝えびせんべい」のパッケージ・販促物にシンボルマークを使用	○
243	H27. 11. 25	国立大学法人三重大学	サミットの開催に合わせて「環境・省エネに貢献するスマートキャンパス国際シンポジウム」を開催	
244	H27. 11. 25	水ing株式会社 中部支店	社内報にシンボルマーク・ポスター・応援メッセージを掲載	○
246	H27. 11. 25	株式会社第三銀行	情報配信サービス「LINE@第三銀行」でサミット応援メッセージを配信	
247	H27. 11. 25	読売新聞 中部支社	東海3県の元旦付紙面で伊勢志摩サミットを紹介する特集ページを掲載	
248	H27. 11. 26	株式会社稲藤	①サミットポスターを掲示②サミット応援商品として「海女うちわ」を開発	
249	H27. 11. 26	J Aグループ三重	三重県内J Aの店舗内モニターにてカウントダウン表示を付した応援メッセージ画像を放映	
250	H27. 11. 26	美しい森林づくり全国推進会議／公益社団法人国土緑化推進機構／ハートツリー株式会社	映画「うみやまあひだ」のチャリティ上映会やトークショー等の開催時に伊勢志摩サミットをPR	
251	H27. 11. 26	三重交通グループホールディングス株式会社	グループ情報誌「ハーモニー」の裏表紙にシンボルマークと応援メッセージを掲載	○
252	H27. 11. 26	三交不動産株式会社	自社テナントビルである「三重会館」1階ロビーにサミットポスターを掲示	
253	H27. 11. 26	公益社団法人伊勢志摩観光コンベンション機構	ホスピタリティ向上のための「和食」研修会を開催し会場建物にサミットポスターおよびのぼりを掲出	○
254	H27. 11. 26	四日市商工会議所女性部	四日市商工会議所女性部会員事業所（90社）の店頭にてサミットポスターを掲示	
255	H27. 11. 26	三重フィルハーモニー交響楽団	「三重フィルハーモニー交響楽団 第45回定期演奏会」の告知ポスター・リーフレットにシンボルマークを使用	○
256	H27. 11. 27	石原健哉	伊勢志摩サミット開催記念「光の芸術 石原健哉 花火写真展」を開催し収益の一部を寄附	
257	H27. 11. 30	N T N株式会社 伊勢志摩サミット応援プロジェクト	三重県内のN T N各事業所へサミットポスターを掲示	
258	H27. 11. 30	N T N株式会社 伊勢志摩サミット応援プロジェクト	東京ビックサイトで開催される部品供給展「N T Nブース」にサミットポスターを掲示	
259	H27. 11. 30	株式会社サークルKサンクス	三重県関連商品を発売し該当商品販促物にシンボルマークを使用	○
260	H27. 11. 30	株式会社稲藤	サミット応援商品として「海女うちわ」を開発し台紙にシンボルマークを使用	○
261	H27. 11. 30	三重県ピーシーエー協会	ホームページトップ画面にシンボルマークを使用	○
262	H27. 11. 30	三重テレビ放送株式会社	役職員の名刺にシンボルマークを掲載	○
263	H27. 11. 30	三重テレビ放送株式会社	ホームページにサミット特設ページを設置しページ内でシンボルマークを使用	○
264	H27. 11. 30	三重テレビ放送株式会社	三重テレビの番組を紹介する冊子「エムテレメッセンジャー」にシンボルマークを掲載	○

受付番号	受付日	事業者名	内容	シンボルマーク使用
265	H27. 11. 30	三重テレビ放送株式会社	三重テレビ自社制作番組でのスタジオにカウントダウンボードを設置	○
266	H27. 11. 30	三重テレビ放送株式会社／公益財団法人三重県文化振興事業団 三重テレビ放送／皇學館高等学校	三重県内の高校生から歌詞を募集し伊勢志摩サミットイメージソングを制作	
267	H27. 11. 30	三重交通グループホールディングス株式会社	平成28年1月1日読売新聞中部支社版朝刊の広告欄に応援メッセージとシンボルマークを掲載	○
268	H27. 11. 30	中部電力株式会社 三重支店	三重テレビ放送・レディオキューブFM三重と連携して運営する「ゲンキ3ネット」を活用しサミット特設サイトを制作	
269	H27. 11. 30	三重テレビ放送株式会社	中部電力・レディオキューブFM三重と連携して運営する「ゲンキ3ネット」を活用しサミット特設サイトを制作	
270	H27. 11. 30	三重エフエム放送株式会社	中部電力・三重テレビ放送と連携して運営する「ゲンキ3ネット」を活用しサミット特設サイトを制作	
271	H27. 11. 30	鳥羽志摩農業協同組合	「伊勢志摩サミット開催決定記念特別企画 加茂牛G7とばーがー」を販売	
272	H27. 11. 30	株式会社ナミカワ	店頭カウンタおよび接客コーナーへサミットポスターを掲示	
273	H27. 11. 30	株式会社ナミカワ	シンボルマークと開催期間を印刷したシールを名刺・封筒・会社案内・カタログへ貼付	○
278	H27. 12. 1	三重県中小企業団体中央会	ポスターや幟を掲示するとともに会員向けに機関誌・ホームページ・メール配信などでサミットを周知	
279	H27. 12. 1	特定非営利活動法人いこの森	伊勢志摩サミット応援企画として日本の伝統文化「和風」に各国首脳の似顔絵を描き展示	
280	H27. 12. 2	ナカムラ産業有限会社	伊勢志摩特産物の商品パッケージにシンボルマークを使用したラベルを貼付	○
281	H27. 12. 2	株式会社中広	「地域みっちゃく生活情報誌 さみつとくらぶ」巻頭特集で地元住民向けにサミット情報を発信	
282	H27. 12. 2	N T N株式会社 伊勢志摩サミット応援プロジェクト	近鉄名古屋線およびJR関西線から見える社屋最上階にジュニアサミットの横断幕を設置	
283	H27. 12. 2	日本太鼓財団 三重県支部	県内各地でサミット開催歓迎の和太鼓演奏イベントを実施しシンボルマークを使用した横断幕を掲出	○
			 <p>参加者の寄せ書き入り横断幕を県庁玄関ロビーに掲出</p>	
284	H27. 12. 2	四日市諏訪太鼓 龍雅	県内各地でサミット開催歓迎の和太鼓演奏イベントを実施しシンボルマークを使用した横断幕を掲出	○
285	H27. 12. 2	業平夢太鼓	県内各地でサミット開催歓迎の和太鼓演奏イベントを実施しシンボルマークを使用した横断幕を掲出	○
286	H27. 12. 2	美杉連山のろし太鼓保存会	県内各地でサミット開催歓迎の和太鼓演奏イベントを実施しシンボルマークを使用した横断幕を掲出	○
287	H27. 12. 2	響座	県内各地でサミット開催歓迎の和太鼓演奏イベントを実施しシンボルマークを使用した横断幕を掲出	○
288	H27. 12. 3	やすらぎくんネット	第15回鈴鹿川流域の環境展会場においてサミットポスターを掲示	
289	H27. 12. 3	株式会社野田米菓	志摩産の伊勢えびを使ったあられを新発売しPOPに応援メッセージを掲載	
290	H27. 12. 3	三重リコピー株式会社	「Value Presentation 2015」会場にサミットコーナーを設置しサミットポスター+ビデオでPR	
291	H27. 12. 3	横山桜会／七栗村	①サミット応援ラベルを貼り付けた商品を販売②「横山さくらまつり」においてサミットをPR	
292	H27. 12. 4	中部電力株式会社 三重支店	伊勢志摩サミット応援イベント～「親子で学ぶ！世界一楽しい授業」を実施	
293	H27. 12. 4	三重県漁業協同組合連合会	洞爺湖サミットの開催地である北海道と連携して「サミット連携北海道・三重県お魚大物産展」を開催	

受付番号	受付日	事業者名	内容	シンボルマーク使用
294	H27.12.4	有限会社べんのかや酒店	伊勢志摩サミット限定酒「G7/M(ジーセブンスラッシュエム)」を発売	
295	H27.12.7	鈴鹿さくらまつり実行委員会	「鈴鹿さくらまつり」の中で特設ブースを設けてサミット応援広報活動を実施	
296	H27.12.7	日本物理探鉱株式会社 三重営業所	全国6支店および11営業所でサミットポスターを掲示	
299	H27.12.7	株式会社戸田家	①サミット参加7カ国の料理フェアを開催②サミット決定記念プランを発売③フロントロビーへサミットポスターを掲示	○
300	H27.12.7	株式会社明和ブラテック	本社・支店・営業所の各事業所へサミットポスターを掲示	
301	H27.12.7	株式会社京口屋	サミット開催記念としてサミットに関連する冷媒フロン破壊費用を優遇する取組を実施	
302	H27.12.8	三重県生涯学習センター	「三重県生涯学習センター3階 情報コーナー みるシル」にサミットポスターを掲示	
303	H27.12.8	有限会社観光旅館 福寿荘	年賀はがきや名刺にシンボルマークを使用	○
304	H27.12.8	サントリー酒類株式会社	サミット応援キャンペーンを実施しキャンペーン告知ツールにシンボルマークを使用	○
305	H27.12.8	株式会社読売情報開発	シンボルマークを使用したオリジナル商品を制作し「伊勢志摩サミット開催記念」オープン懸賞を実施	○
306	H27.12.8	株式会社ダスキン 東海・北陸地域本部	三重オリジナルデザインの商品を製造販売するとともにチラシにサミット応援メッセージを掲載してサミットPR	○
307	H27.12.8	昭和印刷株式会社	桑名の千羽鶴折り方型紙を製作販売するとともに桑名駅前大型ビジョンで「桑名の千羽鶴協賛広告」を実施	○
308	H27.12.8	三重交通株式会社	サミット担当者の名刺に応援メッセージを記載するとともにシンボルマークを使用	○
310	H27.12.9	大内山酪農農業協同組合	大内山牛乳1000mlのパッケージに応援メッセージを表示しシンボルマークを使用	○
311	H27.12.9	株式会社プラネット	自社商品(ご当地練り香水シリーズ)の台紙・表ラベルにシンボルマークを使用	○
312	H27.12.9	株式会社サークルKサンクス	三重県内サークルKサンクス全278店の店頭スクリーンにサミットポスターを掲示	
313	H27.12.9	鳥羽商工会議所	「海女・御食国」を題材とした鳥羽市海女文化写真展「神の漁場」を開催しチラシ・ポスターにシンボルマークを使用	○
314	H27.12.9	株式会社宮川観光振興公社 奥伊勢フォレストピア	①伊勢志摩サミット開催記念として特別宿泊プラン②フロントにカウンタダウンボードを設置③メンバーがサミットのブルゾンを着用	
315	H27.12.10	龍王桜マラソン&ウォーキング大会実行委員会	2016龍王桜マラソン&ウォーキング大会のポスター、パンフレットにシンボルマークを使用	○
316	H27.12.10	株式会社サガミチェーン	ホームページに県民会議のリンクバナーを掲示しシンボルマークを使用	○
317	H27.12.10	株式会社ぎゅーとら	三重県の産物をアピールしたチラシ広告にシンボルマークと応援メッセージを掲載	○
318	H27.12.10	伊勢湾フェリー株式会社	①鳥羽フェリーターミナル館内へポスターを掲示②伊勢湾フェリー船内へサミット応援ステッカーを掲示	
319	H27.12.10	株式会社観光販売システムズ	サミット記念の着地型旅行商品をサミット特別記念価格で提供	
320	H27.12.10	麒麟ビールマーケティング株式会社 中部圏統括本部 三重支社	伊勢志摩サミット開催記念デザイン品(第2弾)を発売し売上1本につき1円を寄附 	
321	H27.12.10	東洋石油化学株式会社	企業案内パンフレット・書類送付用封筒・ノベルティ包装紙・クリアファイル・製品容器にシンボルマークを使用	○


受付番号	受付日	事業者名	内容	シンボルマーク使用
322	H27. 12. 10	三重交通グループホールディングス株式会社	グループ会社各施設40カ所にカウントダウンボードを設置	○
323	H27. 12. 11	三重すし街道	相可高等学校と共同で開催する「すし祭り」で三重の食材を活用したすしを提供し会場でサミットをPR	
324	H27. 12. 11	株式会社電通 中部支社	自社ロビーおよび自社主催の年賀会でカウントダウンボードを設置	
325	H27. 12. 14	西川製菓「鈴鹿あられ」	三重県産の材料を使用した8種類の鈴鹿あられを詰め合わせた「豊饒八彩」を販売し売上の一部を寄附	○
326	H27. 12. 14	AGF 鈴鹿株式会社	自社正門入り口・事務所玄関・厚生棟入り口にサミットポスターを掲示	
327	H27. 12. 14	AGF 鈴鹿株式会社	来場者入門時の面会票にシンボルマークを使用	○
328	H27. 12. 14	AGF 鈴鹿株式会社	役職員の名刺にシンボルマークを使用	○
329	H27. 12. 14	松阪ケーブルテレビ・ステーション株式会社	①サミットののぼりを設置②サミット関連の取材・コーナー・特番を企画③応援メッセージ入りの新聞広告	
330	H27. 12. 14	君ヶ野ダム公園桜まつり実行委員会	「君ヶ野ダム公園桜まつり」で応援メッセージ入りのポスターと看板を掲示	
331	H27. 12. 14	三多気桜まつり実行委員会	「三多気桜まつり」で応援メッセージ入りの看板を掲示	
332	H27. 12. 14	株式会社柿安本店	社員の名刺にシンボルマークを使用	○
333	H27. 12. 14	株式会社種清	「伊勢志摩サミット応援フェア」を開催しサミットをPR	
334	H27. 12. 14	全国建具組合連合会	月刊「建具報」裏表紙にシンボルマークを掲載	○
335	H27. 12. 15	清水建設株式会社 名古屋支店 三重営業所	①企業の森での環境貢献活動の中でサミットをPR②営業所や工事現場等でサミットポスターを掲示	
336	H27. 12. 15	公益社団法人伊勢志摩観光コンベンション機構	国内外報道関係者等に伊勢志摩の伝統・文化・歴史・食などの情報を発信するため日英併記の伊勢志摩事典を作成	
337	H27. 12. 15	公益社団法人伊勢志摩観光コンベンション機構	国内外報道関係者等に伊勢志摩の伝統・文化・歴史・食などの情報を発信するため伊勢志摩のPR映像を制作	
338	H27. 12. 15	公益社団法人伊勢志摩観光コンベンション機構	個人外国人旅行者の新規来訪促進のためホームページを多言語化(英語・中国語・韓国語・フランス語)	
339	H27. 12. 15	公益社団法人伊勢志摩観光コンベンション機構	名刺に伊勢志摩サミット・伊勢志摩国立公園70周年・お伊勢さん菓子博の3大事業を入れてPR	
341	H27. 12. 15	鳥羽志摩農業協同組合	①「伊勢志摩からのメッセージ企画」として世界へメッセージを発信②「JAまつり」で参加国国旗のボディールイイベントを実施	
342	H27. 12. 15	株式会社山口商会	自社商品のパッケージや外装箱に応援メッセージとシンボルマークを表示	○
343	H27. 12. 16	浅井 夢帆	「サミット開催100日前イベントon the Ship!」でサミットをPRするとともに三重の情報を発信	
344	H27. 12. 16	三重県真珠振興協議会	会員販売店の店頭や国内・海外展示販売会場等にてサミットポスター(日本語版・英語版)を掲示	
345	H27. 12. 17	長島観光開発株式会社	ナガシマリゾート内各所にて応援イベントの開催・応援メッセージ掲載・応援商品の開発販売等を実施	
346	H27. 12. 17	三交不動産株式会社	社内報「THE・燦」にシンボルマークを掲載し社員およびその家族にサミット開催を周知	○
347	H27. 12. 17	おひなさまめぐりin二見実行委員会	「祝伊勢志摩サミット開催」を冠に「雛たちのサミット」をメインテーマに「おひなさまめぐりin二見」を開催	
348	H27. 12. 17	美し国三重ひな街道実行委員会	「めぐって! 三重ひな街道」を開催しチラシにシンボルマークを使用	○
349	H27. 12. 17	寿がきや食品株式会社	伊勢志摩の素材を使用したカップめんを販売しパッケージにシンボルマークを使用	○
350	H27. 12. 17	中部電力株式会社 三重支店	川越電力館でサミット応援イベントとしてブースを設置しサミットをPR	
351	H27. 12. 17	中日本エクスシス株式会社 名古屋支店	「みえ旅パスポート」のSA・PA限定版を発行し見開きページでサミットをPR	
352	H27. 12. 17	中日本エクスシス株式会社 名古屋支店	インバウンド向けスタンプラリー帳を発行し配布時にサミット開催記念の取組であることをPR	
354	H27. 12. 18	ふるさとマルシェ三重	①インターネットショッピングサイト「ふるさとマルシェ三重」へシンボルマークを掲載②首都圏での即売会や展示会でサミットポスターを掲示	○
355	H27. 12. 18	株式会社朝日屋	歳末イベント「名牛まつり」で3,310万円で落札した「ももみや」号を販売しサミット応援の横断幕を掲出	

受付番号	受付日	事業者名	内容	シンボルマーク使用
356	H27. 12. 18	A G F 鈴鹿株式会社	広報誌へシンボルマークを使用しサミットをPR	○
357	H27. 12. 18	株式会社トーエネック 三重支店	県内10事業場に第3弾サミットポスター（協賛申し込み分）を掲出	
358	H27. 12. 21	井村屋株式会社	「招福ようかん」に賢島の写真や参加国国旗をデザインした商品を開発しパッケージにシンボルマークを使用	○
359	H27. 12. 21	井村屋株式会社	三重県産の原料を使用した菓子ギフトを開発しパッケージにシンボルマークを使用	○
361	H27. 12. 21	株式会社伊藤園	シンボルマークを掲載した「PET伊勢茶」を販売しサミットをPR	○
362	H27. 12. 21	三重交通株式会社	社内誌「tomorrow」にシンボルマークと第2回伊勢志摩サミットフォーラム開催のお知らせを掲載	○
363	H27. 12. 21	株式会社安全	①高速道路SAにて伊勢志摩商品をPR②サミット応援商品の開発販売	
364	H27. 12. 21	株式会社赤福	購入された商品を入れるサービス袋にシンボルマークを使用	○
365	H27. 12. 21	三重テレビ放送株式会社	特別番組「サミットフォーラム」を放送しインターネットでも動画配信	
366	H27. 12. 22	株式会社NTTドコモ 東海支社	東海地区（愛知県、岐阜県、三重県、静岡県）におけるドコモショップ（278店舗）店内にサミットポスターを掲示	
367	H27. 12. 22	ことば屋 知恩禅	サミットをイメージした詩を制作することでサミットをPR	
368	H27. 12. 22	中日新聞三重県中日会伊勢志摩委員会	伊勢志摩地区販売店にてサミットポスターを掲示	
369	H27. 12. 22	百五証券株式会社	伊勢志摩特産品をプレゼントする「伊勢志摩サミット記念キャンペーン」を実施	○
370	H27. 12. 22	アサヒビール株式会社 中部統括本部	伊勢志摩サミットラベル商品の追加発売および売上1本につき1円を寄附	
372	H27. 12. 22	ララスクエア四日市	「伊勢志摩サミット応援ララスクエア四日市スイーツサミット」を開催しサミットをPR	
373	H27. 12. 22	重要無形文化財保持団体伊勢型紙技術保存会	伊勢志摩サミット特別企画「伊勢型紙 JAPAN・BLUE展」を開催し三重の魅力を発信	
374	H27. 12. 22	株式会社戸田家	伊勢志摩サミット開催記念団体宿泊プランを発売しチラシにシンボルマークを使用	○
375	H27. 12. 22	公益社団法人「小さな親切」運動本部	全国で実施する「日本列島クリーン大作戦」の告知の中でサミット応援を掲げ実施日をサミット開催時期等に合わせるよう地域組織に呼びかけ	
376	H27. 12. 24	村山音楽教室／ラニフラススタジオ	村山音楽教室とラニフラススタジオのコラボによりサミット参加国の音楽を紹介	
377	H27. 12. 24	株式会社鳥羽国際ホテル	100日前ウィークに合わせて行うセミナーで伊勢志摩の食材の魅力を伝える調理実習実施	
378	H27. 12. 24	N T N株式会社	N T N賀詞交換会の会場に自社協賛内容とシンボルマークを掲載したパネルを設置	○
379	H27. 12. 24	N T N株式会社 伊勢志摩サミット応援プロジェクト	HPへサミットとジュニア・サミットの開催を周知するカウントダウンバナーを設置	○
380	H27. 12. 25	独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金部	平成28年度地球環境基金助成金制度でサミットに関連した活動に対して重点的に助成	
381	H27. 12. 25	三重県土地改良事業団体連合会 他44土地改良区	事務所にサミットポスターを掲示	
383	H27. 12. 28	イオンリテール株式会社	県内のイオン20店舗およびイオン新宮店にカウントダウンボードを設置	
384	H27. 12. 28	イオンリテール株式会社	イオンモール東員およびイオン東員店にてみえのくに観光大使によるイベントやサミット参加主要国に関連したイベントを実施	
385	H27. 12. 28	イオンリテール株式会社	県内18店舗で「三重県地物一番」フェアを実施しチラシに応援メッセージを掲載	
386	H27. 12. 28	イオンモール株式会社	イオンモール東員にカウントダウンボードを設置	
387	H27. 12. 28	有限会社磯笛	本社屋・製造工場・直営売店・食品展示会自社ブース等にサミットポスターを掲示	
389	H27. 12. 28	協同組合三重県物産振興会	物産展でサミットをPRするとともにシンボルマークシールを貼付した開催記念商品（あられ）を配布	○
390	H27. 12. 28	株式会社百五銀行	伊勢鳥羽志摩地域の観光事業者向けに国内外へ向けた情報発信や観光客からの口コミへの対応策の一助となる「百五観光アカデミー第5回セミナー」を開催	
391	H27. 12. 28	三重県漁業協同組合連合会 他5団体	三重県水産会館の壁にサミットPRのための大きな看板を設置	

受付番号	受付日	事業者名	内容	シンボルマーク使用
392	H27. 12. 28	東京海上日動火災保険株式会社	海外駐在所（28ヶ国・59事業所）へ英語版サミットポスターを掲示	
393	H27. 12. 28	東京海上日動火災保険株式会社	グループ社内報「GROUP Nextage」へサミットの話題を掲載しグループ社員4万人へ配布	
394	H27. 12. 28	東京海上日動火災保険株式会社	グループ会社TCSの社内報「Levante」へサミットの話題を掲載しTCS従業員1.4万人へ配布	
395	H27. 12. 28	N T N株式会社 伊勢志摩サミット応援プロジェクト	ニューイヤー駅伝へ出場する自社社員のウインドコート胸部にシンボルマークを使用	○
396	H27. 12. 28	三重県中小企業共済協同組合	代理所向けの情報誌でサミットを取り上げるとともにシンボルマークを掲載	○
397	H27. 12. 28	大和リゾート株式会社 伊勢志摩ロイヤルホテル	①社員の名刺にサミット開催を案内表示②サミットポスターを掲示③開催記念宿泊プランを販売④サミット記念「志摩あられ」を販売	
398	H27. 12. 28	有限会社加藤商会	サミット開催記念商品を制作するとともに商品・POPへシンボルマークを貼付しサミットをPR	○
399	H28. 1. 4	千里ヶ丘動物病院	院内にサミットポスターを掲示	
400	H28. 1. 4	株式会社大山真珠店	サミット開催記念商品販売しPOPにシンボルマークを使用	○
401	H28. 1. 4	ISHIDA1098	店内にサミットポスターを掲示	
403	H28. 1. 4	株式会社ダスキン 東海・北陸地域本部	サミット応援商品の販売イベントやクリーンアップ活動を通してサミットをPR	
404	H28. 1. 4	株式会社ブレイン・ゲート	本社・各支店・事業所の事務所にサミットポスターを掲示	
406	H28. 1. 5	株式会社エコクリーン	社内にサミットポスターを掲示	
407	H28. 1. 5	ミズ・ネットワーク松阪	「第10回松阪撫子どんな花？祭り」を開催しチラシにシンボルマークを使用	○
408	H28. 1. 5	火場焼 はまじま	店舗案内名刺へシンボルマークを掲載しサミットをPR	○
409	H28. 1. 5	みえ水素ステーション合同会社	「移動式水素ステーショントラック」のボディ部分にサミット開催をPRする内容をラッピング	○
411	H28. 1. 6	J Aグループ三重	「伊勢志摩サミット開催記念第9回美し国三重市町対抗駅伝」走路沿道の清掃活動	
412	H28. 1. 6	株式会社百五銀行	桑名市内の飲食店向けに観光客の受入に関するノウハウや外国人受入準備の一助となる「飲食店の観光客獲得セミナー」を開催	
413	H28. 1. 6	株式会社百五銀行	松阪市内の飲食店向けに観光客の受入に関するノウハウや外国人受入準備の一助となる「飲食店の観光客獲得セミナー」を開催	
414	H28. 1. 7	株式会社荻野建設	サミット歓迎ステッカーを制作し自社車両および重機に貼りサミットをPR	
415	H28. 1. 7	イオンリテール株式会社	県内19店舗およびイオンスタイル常滑においてシンボルマークを表示した懸垂幕を掲出	○
416	H28. 1. 8	一般財団法人竹田研究財団	①伊勢市・志摩市・鳥羽市内のホテル客室に古事記を無償配布②伊勢神宮を紹介する「伊勢アプリ」を制作	
417	H28. 1. 8	三重県輸入自動車販売店協会	「2016三重輸入車ショー」を開催し会場内でサミットポスターを掲示するとともにチラシ等にシンボルマークを使用	○
418	H28. 1. 8	サンジルス醸造株式会社	「伊勢フェア」を開催し伊勢志摩産のあおさを使用した商品のパッケージにシンボルマークを使用	○
419	H28. 1. 8	独立行政法人国際協力機構 中部国際センター	JICAサミット「日本の国際協力と三重県のつながり～南の島から見える三重づくり～」を開催しサミットをPR	
421	H28. 1. 8	KHネオケム株式会社	HPおよび社内報にシンボルマークを掲載してサミットをPR	○
422	H28. 1. 8	株式会社伊勢新聞社	「おもてなしに向けた県民の行動喚起」をテーマとした「伊勢志摩サミット開催100日前特集」を発行	
423	H28. 1. 12	株式会社オリバー 名古屋支店	名刺にシンボルマークを使用しサミットをPR	○
424	H28. 1. 12	フジパン株式会社	三重県産の伊勢茶を原料にした商品のパッケージにシンボルマークを使用	○
425	H28. 1. 12	株式会社近商ストア	各店舗でサミットポスターを掲示するとともにチラシやホームページにポスターデータを掲載しサミットをPR	
426	H28. 1. 12	J Aグループ三重	「県内農畜産物付年金定期貯金～結いの恵み～」のチラシおよびポスターに応援メッセージを掲載	
427	H28. 1. 12	株式会社観光販売システムズ	プロダクトショップ&桜通りカフェ店内にサミットポスターを掲示するとともに自主制作のカウントダウンPOPを掲出	

受付番号	受付日	事業者名	内容	シンボルマーク使用
428	H28. 1. 12	株式会社戸田家	セントレアセントラルジャパントラベルセンターや三重県観光交流会「戸田家」ブース内にシンボルマークを使用したポスターを掲示	○
429	H28. 1. 12	中部電力株式会社 三重支店	シンボルマークを使用したサミット応援メッセージシールを各種グッズに貼付して配布	○
430	H28. 1. 12	中部電力株式会社 三重支店	伊勢営業所・志摩サービスステーションの社有車へシンボルマークとサミット応援メッセージを掲載	○
431	H28. 1. 13	一般社団法人三重県観光開発機構	サミット応援ノベルティ（記念メダル・記念キーホルダー・記念ピンズ・記念バッグハンガー・記念ボールペン）を販売し売上の一部を寄附	
433	H28. 1. 13	中島製茶株式会社	伊勢茶ファミリーサイズほうじ茶180gパッケージにシンボルマークを使用	○
434	H28. 1. 13	中島製茶株式会社	お伊勢参りおかげ冠茶100gパッケージにシンボルマークを使用	○
435	H28. 1. 13	中日本高速道路株式会社 名古屋支社	社屋等へサミットポスターを掲示するとともに名古屋支社管内のSA・PA（14か所）の電子掲示板でサミットポスターを掲出	
436	H28. 1. 13	中日本高速道路株式会社 名古屋支社	県内のSA・PAの商業施設周辺において花による修景を実施	
437	H28. 1. 13	中日本高速道路株式会社 名古屋支社／中日本エクス株式会社 名古屋支店	三重県内のSA・PAで三重県の地場産品の商品陳列を促進し地場産品のPR	
438	H28. 1. 13	丹頂ガス株式会社	本社玄関にサミットポスターを掲示	
439	H28. 1. 14	日本通運株式会社 三重支店	引越販促品としてポスターデータを使用したメモ帳を作成し三重県内発着の引越利用顧客へ配布	
440	H28. 1. 14	歌で伝える歴史文化の会／三重が見える会	三越劇場にて「日本橋と松阪の伊勢物語」を開催しチラシにシンボルマークを使用	○
441	H28. 1. 14	芸濃ふるさとガイド会	「芸濃名所めぐり」のポスター・パンフレットにシンボルマークを使用	○
442	H28. 1. 14	荒川制服株式会社	シンボルマークデザインを編込んだネクタイを制作しサミットをPR	○
443	H28. 1. 14	東邦ガス株式会社 三重支社	MieMuでサミット的话题を絡めた著名人のトークショーなどサミット応援イベントを開催しチラシにシンボルマークを使用	○
444	H28. 1. 14	株式会社三重電子計算センター	名刺にシンボルマークを使用するとともに社内イベント時にサミットポスターを掲示	○
445	H28. 1. 14	株式会社ミタス伊勢	①施設内へサミットポスターを掲示②POPや自社発行の掲示物にシンボルマークを使用	○
446	H28. 1. 14	創作工房ネオ	県内産の間伐材を使用したサミット関連商品（シンボルマーク使用）を制作しサミットをPR	○
447	H28. 1. 15	トバパール	店舗内や催事会場で使用するPOPにシンボルマークを使用	○
448	H28. 1. 15	三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」	「男女の生き方は世界共通？国際理解のためのテーブルトーク」にてサミットポスターを掲示	
449	H28. 1. 15	株式会社パワービー	ホームページや商品リーフレットへ応援メッセージやシンボルマークを掲載	○
450	H28. 1. 18	公益財団法人三重県体育協会	鈴鹿青少年センターの施設無料開放イベント「センターフェスタ」でサミットポスターを掲示	
452	H28. 1. 18	株式会社建設技術研究所 中部支社 三重事務所	社内の執務室・来客室等にサミットポスターを掲示	
453	H28. 1. 18	一般財団法人言語交流研究所ヒッポファミリークラブ 鈴鹿グループ	多言語活動を通してサミット参加国のことばや音楽を体験する講座を開催しチラシにシンボルマーク使用	○
454	H28. 1. 18	シノブフーズ株式会社	伊勢産の海苔佃煮・ひじきを使用したおにぎりのパッケージにシンボルマークを使用	○
455	H28. 1. 18	NSファーファ・ジャパン株式会社	オリジナルギフトの商品パッケージにシンボルマークを使用	○
456	H28. 1. 18	三重リコピー株式会社	営業車の後方ガラス面にシンボルマークを使用したサミット応援シールを貼付しサミットをPR	○
457	H28. 1. 18	株式会社石昆	「松阪牛」混ぜご飯の商品パッケージにシンボルマークを使用	○
458	H28. 1. 19	スーパーサンシ株式会社	サミット応援フェアを開催し売り場にのぼりやPOPで応援メッセージを掲示するとともにチラシにシンボルマークを使用	○
459	H28. 1. 19	公益財団法人三重県文化振興事業団	サミット開催に向けた「テロ対策合同研修会」に会場を提供し施設内にサミットポスター等を掲示	

受付番号	受付日	事業者名	内容	シンボルマーク使用
461	H28. 1. 19	全日本空輸株式会社 名古屋支店	国のロゴマークと県民会議のシンボルマークを機体へ掲示しサミットをPR  ロゴマーク・シンボルマークを掲示した機体	○
462	H28. 1. 20	株式会社百五銀行	鳥羽市・志摩市において観光支援の一環として清掃活動を実施	
463	H28. 1. 20	社会福祉法人伊勢亀鈴会	機関誌「きれい」の表紙にシンボルマークを掲載しサミットをPR	○
464	H28. 1. 20	株式会社内外製粉	「ニッポンの小麦『麺』提案会2016」の展示ブースにてサミットポスターを掲示	
465	H28. 1. 20	福祉と環境を融合した花園「かざはやの里」～かっぱのふるさと～	サミット応援イベントを企画しチラシにシンボルマークを使用してサミットをPR	○
466	H28. 1. 20	箕曲地域づくり委員会	①住民支援商品へシンボルマークシールを貼付②地域事業協力店舗へサミットポスターを掲示	○
467	H28. 1. 20	みえ・グリーン購入倶楽部	国内外の来訪者を心地よくお迎えするための「観光施設における環境経営セミナー」を開催	
468	H28. 1. 21	株式会社伊勢・安土桃山文化村	①施設内にサミットポスターを掲示②イベント時にサミット参加国の歴史・文化等をパネルで紹介	
469	H28. 1. 21	J,s style美容室	店内にサミットポスターを掲示しサミットをPR	
470	H28. 1. 21	小林豊子きもの学院 近畿本部	県内金融機関の展示スペースにサミット応援メッセージを添えた創作帯結びの展示を実施	
471	H28. 1. 21	東海テレビ放送株式会社	桑名市を中心とした旅番組を制作し全国放送によりジュニア・サミットをPR	
472	H28. 1. 21	東海テレビ放送株式会社	東海3県のテレビCMにおいて「伊勢志摩サミット開催告知」を実施	
473	H28. 1. 22	中日本エクス株式会社 名古屋支店	観光客が快適に利用いただけるようSA・PAの商業施設周辺にお花の飾り付け実施	
474	H28. 1. 22	エキサイト四日市・バザール実行委員会	伊勢志摩サミット応援！！「第25回エキサイト四日市・バザール2016」を開催し三重の物産と観光をPR	
475	H28. 1. 22	株式会社電通 中部支社	平成28年電通年賀会において招待客へ伊勢料理・赤福などでおもてなしすることでサミットをPR	
476	H28. 1. 22	株式会社シーズジェム	百貨店での展示販売時に商品タグにシンボルマークを使用しサミットをPR	○
477	H28. 1. 22	サンヨー食品株式会社	サミット開催記念パッケージ商品「三重亀山ラーメン」を開発するとともに発売開始記念イベントでサミットポスターを掲示  商品発表会	
478	H28. 1. 25	マックスバリュ中部株式会社	①WEBサイトトップページにサミット開催までのカウントダウンを表示②県民会議HPへリンク	
479	H28. 1. 25	イオンリテール株式会社	①WEBサイトトップページにサミット開催までのカウントダウンを表示②県民会議HPへリンク	

受付番号	受付日	事業者名	内容	シンボルマーク使用
480	H28. 1. 25	株式会社伊勢新聞社	7カ国5言語翻訳特集で、伊勢志摩を、三重を、世界へ発信！するため「伊勢志摩サミット開催記念特集号」を発行	○
481	H28. 1. 25	安達本家酒造株式会社	サミット応援ラベルのお酒にシンボルマークを使用してサミットをPR	○
482	H28. 1. 25	三重交通株式会社	社内誌「tomorrow」にシンボルマークと開催までのカウントダウンを掲載	○
483	H28. 1. 25	ユニー株式会社 アピタ桑名店	桑名市民会議と連携しジュニア・サミットのPRと三重県特産品のセールを実施	
484	H28. 1. 25	防災一座	「アクアイグニス 聖バレンタインデーチャリティーコンサート2016」を開催し会場にサミットポスターを掲示	
485	H28. 1. 25	株式会社不二家	商品（カントリーマアム）のパッケージにシンボルマークを使用してサミットをPR	○
487	H28. 1. 25	株式会社柿安本店	社内にサミットのぼりを掲出しサミットをPR	
488	H28. 1. 25	株式会社柿安本店	月に1～2回の清掃活動「カウントダウン清掃プロジェクト」を実施し多くの方へサミットに触れる機会を提供	
490	H28. 1. 25	株式会社百五銀行	イトーヨーカ堂・三重県との連携のもとイトーヨーカドー10店舗にて「三重県フェア」を開催し三重県産の食品を県外へPR	
491	H28. 1. 25	鈴鹿市植木振興会	「植木まつり」を開催しチラシにシンボルマークを使用するとともに会場内にのぼりやサミットポスターを掲示	○
492	H28. 1. 25	公益財団法人三重県体育協会	「平成27年度（公財）三重県体育協会表彰式・第13回三重県スポーツ人の集い」の配布資料にシンボルマークを使用し会場にサミットポスターを掲示	○
493	H28. 1. 25	よろこびのうた	犬用サミット記念クッキーのパッケージにシンボルマークを使用し売上の一部を寄附	○
494	H28. 1. 25	有限会社アクアヴィタエ	ホームページ・商品ラベル・梱包材にシンボルマークを使用しサミットをPR	○
495	H28. 1. 26	てら小屋遊学舎	「サミットで話し合ってほしいこと」をテーマに小学生による作文発表会を開催	
496	H28. 1. 26	松阪市自治会連合会	「松阪市自治会連合会だより」にシンボルマークとサミット関連情報を掲載	○
497	H28. 1. 26	株式会社UL Japan	三重県タクシー協会様向けに「英語でおむかえ」研修を実施しインバウンドの受け入れ体制を支援	○
498	H28. 1. 26	株式会社第三銀行	子ども向けイベント「伊勢志摩サミットってなんだろう？」を実施し子どもと父兄に対しサミットをPR	
499	H28. 1. 27	J Aグループ三重	150日前イベントで「三重いちご・マルゴみかん・伊勢茶」の試食・試飲・販売を行いサミットをPR	
500	H28. 1. 27	J Aグループ三重	サミット応援文言を記載した「県内農産物付定期貯金～結いの恵み～」の新聞広告を実施	
501	H28. 1. 27	久居庵早田	ギャラリーへサミットポスターを掲示しサミットをPR	
502	H28. 1. 27	コカ・コーライーストジャパン株式会社	名刺にシンボルマークを使用しサミットをPR	○
503	H28. 1. 27	J Aいがほくぶ伊賀米センター	米袋・オリジナルカレー・宅配用段ボール・パンフレットなどにシンボルマークを使用	○
504	H28. 1. 27	アメイジングファクトリー 名前詩作家 村木 祐加子 ／オリオンプラス合同会社 似顔絵師 桐生 めぐみ	「伊勢和紙」「鈴鹿墨」「三重県産杉」等を使い各国首脳の似顔絵に詩を添えた作品を制作するとともに縮小版の絵ハガキを広く配布	
				
			作品	
505	H28. 1. 27	カゴメ株式会社	サミット開催を記念して商品にシンボルマークを使用してサミットをPR	○

受付番号	受付日	事業者名	内容	シンボルマーク使用
506	H28. 1. 27	川邊秀子	「伊勢・鳥羽・志摩・南紀熊野」をテーマに写真展を開催し伊勢志摩の魅力を発信	
507	H28. 1. 27	丸彦酒造株式会社	商品「清酒 純米吟醸 三重の寒梅」にシンボルマークを使用した首掛けタグを取り付け	○
510	H28. 2. 1	一般財団法人言語交流研究所 ヒッポファミリークラブ (桑名グループ)	青少年の海外ホームステイ・高校交換留学の体験報告とプログラムの説明会に関するチラシおよびポスターにシンボルマークを使用	○
511	H28. 2. 1	蒼築舎株式会社	自社および工房内にサミットポスターを掲示しサミットをPR	
512	H28. 2. 1	公益財団法人三重県生活衛生営業指導センター	サミット開催に向けて公衆浴場・ホテル・旅館等を対象に入浴施設におけるレジオネラ症を防止するための「衛生管理研修」を実施	
513	H28. 2. 1	公益財団法人三重県生活衛生営業指導センター	サミット開催に向けてホテル・旅館・飲食店・理美容室等を対象に「障害者差別解消法について」研修を実施	
514	H28. 2. 1	松阪ちくまの郷	みえセレクト選定商品である「松阪赤菜」のぬか漬のパッケージにシンボルマークを使用	○
515	H28. 2. 1	コカ・コーライーストジャパン株式会社	自販機・冷蔵クーラー・配送トラックにシンボルマークを使用したサミット応援ステッカーを貼り付け	○
516	H28. 2. 2	一般社団法人ガールスカウト三重県連盟	「伊勢志摩サミット100日前ウイーク三重県連盟活動報告会及びガールスカウトシンキングデー2015」を実施しサミットをPR	
518	H28. 2. 2	三重りコピー株式会社	自社ロビーにて伊勢志摩のPRビデオを放映し来社される方へサミットをPR	
519	H28. 2. 2	昭和印刷株式会社	桑名市公認キャラクター「ゆめはまちゃん」にシンボルマークとサミット応援メッセージ入りのタスキをかけてサミットをPR	○
520	H28. 2. 2	カゴメ株式会社	三重県産セミノールを使用したオリジナル商品にシンボルマークを使用	○
521	H28. 2. 3	一志ゴルフ倶楽部	「伊勢志摩サミット開催記念オープンコンペ」を開催しシンボルマークを使用したポスターを掲示	○
522	H28. 2. 3	Hatch Out Project伊勢志摩サミット応援チームfrom NTTドコモ東海支社	アーバンネット名古屋ビルおよびBlossa (商業施設ビル) のデジタルサイネージへサミット応援メッセージを掲出	
523	H28. 2. 3	株式会社三重銀行	職員の名刺へシンボルマークを使用	○
526	H28. 2. 4	伊賀上野N I N J Aフェスタ実行委員会	「伊賀上野N I N J Aフェスタ2016」を開催しチラシ・ポスターへシンボルマークを使用	○
527	H28. 2. 4	株式会社鳥羽水族館	ホームページ・イベントチラシおよびポスターへシンボルマークとサミット応援メッセージを掲載	○
528	H28. 2. 4	フジパン株式会社	三重県産の伊勢茶を使った商品 (メロンパン・ホットケーキ) のパッケージにシンボルマークを使用	○
529	H28. 2. 4	中日新聞東京本社 (東京新聞)	東京新聞フォーラム「サミットで注目！みんなで三重においない！」を実施しサミットの基礎から知られざる実情まで幅広い観点でサミットをPR	○
530	H28. 2. 4	松尾表具店	店頭にて「伊勢みやげ名所八葉」を展示し案内掲示にシンボルマークを使用	○
531	H28. 2. 5	イオンフィナンシャルサービス株式会社	伊勢志摩サミット記念キャンペーンを実施し各種告知物にシンボルマークを使用	○
533	H28. 2. 8	トヨタL&F中部株式会社	県内5営業所にサミットを応援するのぼりを掲示	
534	H28. 2. 8	くまの花いっぱいネットワーク	「オープンガーデン熊野2016」のガイドマップにシンボルマークを使用	○
535	H28. 2. 8	敷島製パン株式会社	三重県産原料を使用した伊勢茶バウムのパッケージにシンボルマークを使用	○
536	H28. 2. 9	日本郵便株式会社 東海支社 (三重南部営業統括本部)	三重県内郵便局 (372局) 等でシンボルマークを入れたのぼりを掲出およびポケットティッシュを配布	○
537	H28. 2. 9	株式会社コメリ	店舗内に「伊勢志摩サミット開催記念・花いっぱいコーナー」を設置しおもてなし大作戦をPR	
538	H28. 2. 9	一般社団法人三重県タクシー協会	三重県内のタクシー車両にシンボルマークステッカーを貼付しサミットをPR	○
539	H28. 2. 9	三重交通グループホールディングス株式会社	開催100日前に日経新聞全国版に新聞広告を実施しサミット応援メッセージとシンボルマークを掲載	○
540	H28. 2. 9	三重交通グループホールディングス株式会社	開催100日前に朝日新聞首都圏版に新聞広告を実施しサミット応援メッセージとシンボルマークを掲載	○
541	H28. 2. 9	浪花FOODS	サミット開催記念として商品やPOPにシンボルマークを使用	○

受付番号	受付日	事業者名	内容	シンボルマーク使用
543	H28. 2. 9	明日の伊賀市図書館を考える会	サミット参加国の絵本の読み聞かせや各国の歴史・文化・食等を身近に感じてもらうため「ななつの国のおはなし会」を開催	○
544	H28. 2. 9	株式会社サークルKサンクス	三重県関連商品（パン）を販売し該当商品販促物にシンボルマークを使用	○
546	H28. 2. 10	株式会社朝日新聞 名古屋本社	サミット開催100日前に「伊勢志摩サミット100日前特集」を掲載	○
547	H28. 2. 10	社会福祉法人志摩市社会福祉協議会	食堂の壁面や商品にシンボルマークを使用してサミットをPR	○
548	H28. 2. 10	尾鷲イタダキ市実行委員会	「尾鷲イタダキ市」でのぼり旗を設置するとともにPRグッズを配布しサミットをPR	
549	H28. 2. 12	株式会社スコルチャ三重	県営サンアリーナ正面エントランスロビーに歓迎の横断幕掲出及び特設広報コーナーに国旗等を設置	○
550	H28. 2. 12	N T N株式会社 伊勢志摩サミット応援プロジェクト	和歌山県で開催される紀州口熊野マラソンにおいてEV車両の展示とのぼり旗の掲出によりジュニア・サミットをPR	
551	H28. 2. 12	魚歳食品株式会社	サミット応援イベントを開催し商品にシンボルマークを貼付しサミットをPR	○
552	H28. 2. 12	石田鉄工株式会社	県営サンアリーナの正面玄関の既設側溝蓋をサミット応援仕様のシェル・グレーチングに入替え	
554	H28. 2. 15	松阪競輪場	「伊勢志摩サミット開催記念競輪」を実施しスタジオパネル等へシンボルマークを使用するとともに場内へサミットポスターを掲示	○
555	H28. 2. 15	株式会社ジェイアール東海ホテルズ 名古屋マリオットアソシアホテル	名古屋マリオットアソシアホテル内レストランで三重フェアを開催しチラシにシンボルマークを使用	○
556	H28. 2. 15	株式会社アツミメガネ	県内5店舗の店内においてサミットポスターを掲示	
557	H28. 2. 15	有限会社エヌアール／一般社団法人志摩スポーツコミッション	伊勢志摩出身のアーティストetsuco作曲のサミット応援ソングを制作し志摩スポーツコミッションが関わるイベント等で使用	
558	H28. 2. 15	日本赤十字社三重県支部	アマチュア無線による交信をした相手に送付するQ S Lカード（無線交信証）にシンボルマークを使用	○
559	H28. 2. 15	N T N株式会社 伊勢志摩サミット応援プロジェクト	桑名市の児童・生徒を対象に世界の問題・省エネルギー技術について学ぶ講座を開催するとともにジュニア・サミットをPR	
560	H28. 2. 15	株式会社サークルKサンクス	三重県産の食材を使用した商品（デザート）を発売し該当商品販促物にシンボルマークを使用	○
562	H28. 2. 15	石崎旭	CDアルバムのジャケットにシンボルマークを使用してサミットをPR	○
565	H28. 2. 16	株式会社コミュニケーションサービス	自社媒体フリーマガジン「みえなび+」の表紙にシンボルマークを掲載してサミットをPR	○
567	H28. 2. 16	一般社団法人三重県畜産協会	事務所にサミットポスターを掲示	
568	H28. 2. 17	イオンリテール株式会社	カードの券面にシンボルマークを使用した電子マネー「伊勢志摩WAON」を発行	○
569	H28. 2. 17	イオン株式会社	2016イオン「夏ギフト」DMカタログで「食」を中心に伊勢志摩の情報を発信	
570	H28. 2. 17	イオン株式会社	伊勢志摩サミット開催記念として三重県とのコラボ企画「伊勢志摩」フェアを開催	
571	H28. 2. 17	一般社団法人茶道裏千家淡交会 三重南支部	日本の文化をおもてなしの心で！をテーマとした県内の茶会会場でサミットポスターを掲示	
572	H28. 2. 17	株式会社セディナ	名刺・キャンペーンチラシ等へシンボルマークを使用してサミットをPR	○
573	H28. 2. 17	シンフォニアテクノロジー株式会社	近鉄宇治山田駅構内階段のステップ広告にサミット応援メッセージを追加した広告を掲出	
574	H28. 2. 17	中京テレビ放送株式会社	報道特別番組「伊勢志摩サミットまで1ヶ月～三重県の今と未来を語る～」を放送し番組内でシンボルマークを使用	○
575	H28. 2. 18	糸川屋製菓株式会社	店内にサミットポスターを掲示	
576	H28. 2. 18	公益財団法人三重県文化振興事業団	公募美術展「第67回みえ県展」において伊勢志摩サミット開催記念特別賞を提供するとともにチラシにシンボルマークを使用	○
577	H28. 2. 18	一般財団法人言語交流研究所 ヒップファミリークラブ伊勢	これからの国際交流について考えるため国際理解講座「世界とつながるワークショップ」を開催	○

受付番号	受付日	事業者名	内容	シンボルマーク使用
578	H28. 2. 18	三重県酒造組合	伊勢志摩サミットを記念した限定ボトル（三重県内の地酒）を制作し売上の一部を寄附 	
579	H28. 2. 18	三重県酒造組合	三重の地酒と食に関するキャッチコピーを募集し三重の情報を発信	
580	H28. 2. 18	三重県酒造組合	三重の地酒を織り込んだイメージソングを制作し三重の情報を発信	
584	H28. 2. 19	伊勢志摩経済サミット	伊勢志摩地域アンテナショップ入口看板やノベルティに「祝 伊勢志摩サミット開催」と記載するとともにショップ内にサミットポスターを掲示	
585	H28. 2. 19	イオンビッグ株式会社	三重県地産商品の拡大販売のためチラシにシンボルマークを掲載するとともに名札の下付け告知を実施	○
588	H28. 2. 22	株式会社東洋軒	商品パッケージにシンボルマークを使用しサミットをPR	○
589	H28. 2. 22	株式会社セブン-イレブン・ジャパン	①店舗（108店）にてサミットポスターを掲示②同店舗にてリーフレットを配置③伊勢志摩サミット開催記念デザイン「nanaco」を限定10,000枚発行	
590	H28. 2. 22	株式会社柿安本店	柿安スイーツファクトリー第10回記念感謝祭会場で伊勢志摩サミットおよびジュニア・サミットをPR	
591	H28. 2. 22	株式会社イトーヨーカ堂	百五銀行・三重県との連携のもとイトーヨーカドー10店舗にて「三重県フェア」を開催し三重県産の食品を県外へPR	
592	H28. 2. 22	三重県高等学校文化連盟 文芸部門	サミット開催記念として中高生向け特別講演「古典は新訳で召し上がれ！」を一般公開として開催	
593	H28. 2. 23	日本経済新聞社 名古屋支社	日本経済新聞（朝刊・全国版）で「伊勢志摩サミット100日前広告特集」によりサミットの準備情報や開催後の経済効果などを発信	
594	H28. 2. 23	株式会社INS	商品に「伊勢志摩サミットを応援します」シールを貼付しサミットをPR	
595	H28. 2. 23	株式会社ドコモCS東海 三重支店	地域みっちり生活情報誌「さみつくらぶ」の自社広告枠へ応援メッセージとシンボルマークを掲載	○
596	H28. 2. 23	婚活・結婚サポートThe Best Mariage	店舗内にサミットポスターを掲示	
597	H28. 2. 23	三重県生涯学習センター	国際協力・貢献をテーマに講座を開催し会場内にサミットポスターを掲示するとともにチラシに応援メッセージを掲載	
598	H28. 2. 23	株式会社Oval Jr.	新幹線名古屋駅前大型ビジョンNAGYでシンボルマークを使用した「サミット開催告知」放送を実施	○
599	H28. 2. 23	アトリエ翔子	ダウン症の書道家「金澤翔子」による伊勢の「勢」の文字を動画にして配信	○
600	H28. 2. 23	サントリービール株式会社 ／サントリー酒類株式会社	「ザ・プレミアム・モルツ 350ml 伊勢志摩サミットデザイン缶」を発売し売上1本につき1円を寄附 	○
601	H28. 2. 24	中島製茶株式会社	伊勢茶新茶100g パッケージにシンボルマークを使用	○

受付番号	受付日	事業者名	内容	シンボルマーク使用
602	H28. 2. 24	中島製茶株式会社	すいざわ茶かぶせ茶100 g パッケージにシンボルマークを使用	○
603	H28. 2. 24	中島製茶株式会社	伊勢新茶50 g パッケージにシンボルマークを使用	○
604	H28. 2. 24	イオンモール株式会社 営業統括部 東海・長野事業部	県内イオンモール各店においてシンボルマークを使用したポスター・フラッグを掲出するとともに館内スタッフがピンバッジを着用	○
605	H28. 2. 24	四日市萬古焼 酔月陶苑	シンボルマークおよび各国の国旗を焼き付けたサミット限定の酒盃を制作し三重の陶芸文化・地場の伝統産業を世界にPR	○
606	H28. 2. 25	一般財団法人言語交流研究所 ヒッポファミリークラブ 津グループ	異文化への好奇心と壁をつくらぬ心を育むための教育講演会「7か国語で話そう。」を開催	○
607	H28. 2. 25	ザ・レイクス・ジャズ・オーケストラ	ジャズライブに併せてサミット応援イベントを開催しチラシにシンボルマークを使用	○
608	H28. 2. 25	イオン株式会社	サミット応援フェア時に三重県食材を使ったオリジナル商品にシンボルマークを使用	○
610	H28. 2. 25	株式会社フィールコーポレーション	愛知県65店舗・静岡県2店舗の折り込みチラシやホームページ・店内ポスター等で三重県産の特産物をPR	○
611	H28. 2. 26	イオンリテール株式会社	県内店舗においてサミット応援商品他の集合販売を実施しサミットをPR	
612	H28. 2. 26	J Aグループ三重	三重県内J Aファーマーズマーケットにおいてサミット応援キャンペーンを開催	
613	H28. 2. 26	茶寮びん	店内にサミットポスターを掲示	
614	H28. 2. 26	一般財団法人澄懷堂美術館	「友の会だより」にシンボルマークを使用しサミットをPR	○
615	H28. 2. 26	株式会社小学館	WEBマガジン「ブックピープル」において文筆家の千種清美さんによる「伊勢神宮125社めぐり。」の連載を開始	○
616	H28. 2. 29	株式会社大丸松坂屋百貨店	「愛知・岐阜・三重の味と技の物産展」を開催し会場内装飾にサミットポスターを掲示	
617	H28. 2. 29	東員花卉くらぶ	シンボルマークをデザインした花壇を設置	○
619	H28. 3. 1	株式会社イオン銀行	愛知・岐阜・三重の店舗限定で伊勢志摩サミット開催記念定期預金キャンペーンを実施	
620	H28. 3. 1	株式会社鳥羽国際ホテル	伊勢志摩サミット開催記念として三重の文化を体験する滞在プログラムを実施	
621	H28. 3. 1	公益財団法人三重県生活衛生営業指導センター	訪日外国人来店時の挨拶や道案内等の対応について学ぶ～英語・中国語を学ぼう～「外国人おもてなし実践講習会」を開催	
622	H28. 3. 2	株式会社柿安本店	精肉本店前にサミットとジュニア・サミット各々のカウントダウンボードを設置	○
623	H28. 3. 2	イオンモール株式会社 営業統括部 東海・長野事業部	東海3県内のイオンモール各店で発行する折込チラシにおいてサミット告知とシンボルマークを掲載	○
624	H28. 3. 2	日本郵便株式会社 東海支社（三重南部営業統括本部）	三重県内の郵便局（372局）等でシンボルマークを使用した切手台紙を作成しサミットをPR	○
626	H28. 3. 2	有限会社若松屋	①サミット記念商品「Gu 7」を発売し売上の一部を寄附②WEBサイトにシンボルマークを使用	○
628	H28. 3. 3	中部電力株式会社 三重支店	省エネ活動として実施している「緑のカーテン運動」のツールとしてサミット応援メッセージ付きのアサガオ・ニガウリの種を配布	○
631	H28. 3. 3	株式会社津松菱	伊勢志摩サミット開催記念「三重県洋画協会有志による志摩の風景画展」を開催	
632	H28. 3. 4	イオンリテール株式会社	「伊勢志摩サミット開催100日前 記念写真展」を開催しサミット紹介パネル等を展示	
634	H28. 3. 4	まるや	店内にサミットポスターを掲示	
635	H28. 3. 4	株式会社ホテルガーデンパレス	三重県及び伊勢志摩の食材を使った料理・地酒のフェアや観光DVD上映などによりサミットや県産食材をPR	
636	H28. 3. 4	三重県茶業会議所	機関誌「茶情報」の紙面にサミットに関するPR情報を掲載	○
637	H28. 3. 4	三重県立みえ夢学園高等学校生徒会（漫画研究部）	三重の農林水産物等を題材としたLINEスタンプを作成し売上の一部を寄附	
638	H28. 3. 4	大建工業株式会社 三重工場	全国からの工場来場者へシンボルマーク入りのノベルティ（尾鷲ヒノキ製）を配布	○
639	H28. 3. 4	公益財団法人鈴鹿国際交流協会	訪日外国人と県民の交流を推進するため国際理解セミナー「キッチンハイク de 世界とつながろう」を開催	○

受付番号	受付日	事業者名	内容	シンボルマーク使用
640	H28. 3. 7	香栄化学株式会社	商品にシンボルマークを貼付しサミットをPR	○
641	H28. 3. 7	英国紅茶の店 アールグレイ	亀山紅茶にシンボルマークを貼付しサミットをPR	○
642	H28. 3. 7	株式会社コイサンズ	第9回美し国三重市町対抗駅伝市町交流市場物産展へ出展しサミット7ヶ国にちなんだオリジナルパンを販売	
644	H28. 3. 8	三重エフエム放送株式会社	サミット60日前応援イベント「MIE MUSIC SUMMIT ON THE RADIO」を開催し配付物にシンボルマークを使用	○
645	H28. 3. 9	株式会社サークルKサンクス	三重県関連商品（デザート・パン・弁当）を発売し販促物にシンボルマークを使用	○
646	H28. 3. 9	株式会社粹峯	催事会場のショーケースにシンボルマークを入れた立て札を設置しサミットをPR	○
647	H28. 3. 10	三重県小売酒販組合連合会	「未成年者飲酒防止・飲酒運転撲滅キャンペーン」においてサミット開催文言を印刷したリーフレットを配付	
648	H28. 3. 10	三重交通株式会社／三交伊勢志摩交通株式会社	「バスタ新宿」完成記念イベントにおいて夜行バスを展示するとともに車両横にサミットポスターを掲示	
649	H28. 3. 10	有限会社新星食品	商品にシンボルマークを貼付しサミットをPR	○
650	H28. 3. 10	尾鷲旬のコツまみバル実行委員会	第4回「尾鷲旬のコツまみバル」を開催しチラシに国のロゴマークを使用	
651	H28. 3. 10	寿がきや食品株式会社	伊勢志摩サミット開催記念商品販売時のPOPにシンボルマークを使用	○
652	H28. 3. 10	株式会社まるよし	店舗内へサミットポスターを掲示	
653	H28. 3. 10	株式会社小津商店	深野和紙・松阪木綿・伊勢和紙・伊勢形紙・鈴鹿墨を紹介する「三重展」を開催しギャラリー内でサミットポスターを掲示	
655	H28. 3. 10	神楽サロン有限会社	映画うみやまあひだの上映企画の際にオフィス・店舗入り口にサミットポスターを掲示	
657	H28. 3. 11	株式会社ワークス	小学校で使用する社会科資料集にサミット紹介ページを作りシンボルマークを掲載	○
659	H28. 3. 11	株式会社名鉄グランドホテル	伊勢志摩サミット開催記念として三重県の食材をテーマとした「初夏の美食フェア」を開催	○
660	H28. 3. 11	公益社団法人こども環境フォーラム	「こども環境フォーラム in 伊勢・皇學館」を開催し会場内にサミットポスターを掲示するとともにチラシにシンボルマークを使用	○
661	H28. 3. 11	有限会社たぬきや商店	店内外にサミットポスターを掲示	
662	H28. 3. 11	イオンリテール株式会社	折込チラシで「イオンリテールは伊勢志摩サミット開催を応援します」の帯を掲載	
663	H28. 3. 11	イオンリテール株式会社	三重県内19店舗にて伊勢志摩サミット開催記念の撮影スポット用のボードを設置	○
664	H28. 3. 11	イオンリテール株式会社	賢島空撮とシンボルマークを掲載したエコバックを作成	○
665	H28. 3. 14	学校法人みどり学園 ゆたか幼稚園	サミット開催にちなんで①年長児が自分の好きな国旗を描く②応援用の万国旗を園の周囲に掲出	
666	H28. 3. 14	御在所ロープウェイ株式会社	①施設内にサミットポスターを掲示②宣伝用ポスターに国のロゴマークを表示	
667	H28. 3. 14	株式会社まるよし	商品「松阪牛しぐれ煮」へシンボルマークを使用してサミットをPR	○
668	H28. 3. 14	ミニストップ株式会社	伊勢志摩産の食材を使用した商品パッケージにシンボルマークを使用	○
669	H28. 3. 14	森欽業株式会社	「オリンピックサミット2016」を開催しオリンピックスポーツクラブの一部を無料開放するとともに館内にサミットポスターを掲示	
670	H28. 3. 14	カイロプラクティック natural leaf	サミット開催記念とした施術会を開催しチラシにシンボルマークを使用	○
672	H28. 3. 14	株式会社三越伊勢丹	2016年お中元施策における告知物へシンボルマークを掲載してサミットをPR	○
673	H28. 3. 15	株式会社マルト神戸屋	伊勢茶を使用した商品のパッケージにシンボルマークを使用	○
674	H28. 3. 15	フラフェスタ四日市実行委員会	「第6回フラフェスタ四日市イベント」を開催し会場内でサミットポスターを掲示	
675	H28. 3. 15	津駅前ストリート倶楽部	津駅前に歓迎ムードを盛り上げる看板およびのぼりを設置しサミットをPR	
676	H28. 3. 15	J Aグループ三重	量販店でのサミット応援イベント開催時に三重県産青果物袋にシンボルマークを使用	○
678	H28. 3. 16	富士通株式会社 三重支店	富士通グループ東海4県の事業所を中心にサミットポスターを掲示	

受付番号	受付日	事業者名	内容	シンボルマーク使用
679	H28. 3. 16	トヨタカローラ三重株式会社／ネットヨタノヴェル三重株式会社	スーパーG T選手権シリーズにおいて出走する車体にシンボルマークステッカーを貼付しサミットをPR	○
680	H28. 3. 16	株式会社ドコモCS東海三重支店	伊勢志摩サミット開催記念として訪日外国人を迎える宿泊施設等へ翻訳サービスアプリ「てがき翻訳」内蔵のタブレットを貸与	
681	H28. 3. 16	三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」	平成28年度三重県男女共同参画センター年間パンフレットにシンボルマークを使用	○
682	H28. 3. 16	株式会社中広	地域みっちゃく生活情報誌にサミットPRのための知事インタビューとシンボルマークを掲載	○
683	H28. 3. 17	手駒銘茶センター	商品パッケージにシンボルマークを使用してサミットをPR	○
684	H28. 3. 17	富士ゼロックス三重株式会社	社有車124台へサミット応援メッセージとシンボルマークを掲載したステッカーを貼付	○
685	H28. 3. 17	香栄化学株式会社	商品にシンボルマークを貼付しサミットをPR	○
686	H28. 3. 17	日本通運株式会社 三重支店	自社車両3台へ国のロゴマークとサミットポスターをマーキングしてサミットをPR	
687	H28. 3. 17	株式会社百五銀行	サミット開催記念として外貨定期預金「ウエルカム105」の特別金利キャンペーンを実施しチラシやポスターにシンボルマークを使用	○
688	H28. 3. 17	株式会社サガミフード	三重県の食材を使った料理フェアを実施しのぼりやポスターにシンボルマークを使用するとともに店内にサミットポスターを掲示	○
690	H28. 3. 17	オール熊野世界No. 1 フェスティバル実行委員会	「オール熊野世界No. 1 フェスティバル」においてサミット参加国の料理などを提供する「伊勢志摩サミット応援フェア」を実施	○
692	H28. 3. 18	株式会社オークワ 東海事業所	愛知・岐阜・三重・静岡の店舗において伊勢志摩産の商品販売時にシンボルマークを使用したPOPを掲出	○
694	H28. 3. 18	萬古陶磁器振興協同組合連合会	「第55回四日市萬古まつり」「四日市萬古陶磁器コンペ2016」においてサミット応援の懸垂幕やサミットポスターを掲示	
695	H28. 3. 22	株式会社サンショク	百貨店において商品（さくらポーク）を販売する際にサミットポスターを掲示	
696	H28. 3. 22	コカ・コーライーストジャパン株式会社	ぎゅーとらなどにおける自社商品販売箇所にシンボルマーク付き応援ポスターと応援ボードを掲示	○
697	H28. 3. 22	三重交通株式会社／三交興業株式会社	名阪上野ドライブイン駐車場内にシンボルマークを掲載した高さ約20mの旗ポールを設置	○
698	H28. 3. 22	サントリー酒類株式会社／株式会社ぎゅーとら	サミット応援キャンペーンを実施しぎゅーとら各店においてシンボルマークを使用したキャンペーン告知ツールを掲示	○
699	H28. 3. 23	三重北農業協同組合	サミットデザインの冠茶を販売するとともにポスターにシンボルマークを使用	○
703	H28. 3. 24	J Aグループ三重	「J A三重マルシェ」を開催し三重県産農畜産物の魅力を発信するとともに会場にてサミットポスターの掲示やPR動画等を放映	
704	H28. 3. 25	有限会社マサヤ	店内にサミットポスターを掲示	
705	H28. 3. 25	ミニストップ株式会社	伊勢志摩産の食材を使用した商品販売時にシンボルマーク入りのPOPを掲出	○
706	H28. 3. 25	N T N株式会社 経営戦略本部 広報・IR部	近鉄桑名駅構内にサミットおよびジュニア・サミットPRを目的とした看板を掲出	
707	H28. 3. 25	公益財団法人三重こどもわかもの育成財団	伊勢志摩サミット開催記念イベントを開催しイベント情報誌に応援メッセージとシンボルマークを掲載	○
708	H28. 3. 25	鳥羽志摩農業協同組合	鳥羽志摩地域の農産物を使用した「伊勢志摩サミット開催決定記念 G 7ランチプレート」第2弾を販売	
709	H28. 3. 25	中島製茶株式会社	三重県産のお抹茶30gパッケージにシンボルマークを使用	○
710	H28. 3. 28	中日新聞社	伊勢志摩サミット開催記念として女性の働き方をテーマにした「中部の輝く女性サミット」を開催	
712	H28. 3. 28	株式会社ホンダカーズ三重	感謝祭セールにおいて伊勢志摩サミット開催記念キャンペーンを開催しチラシ等にシンボルマークを使用	○
713	H28. 3. 28	万葉うたいびと風香	HP・ブログへシンボルマークを使用するとともにyoutube等で万葉歌「伊勢志摩の島影」を発信する際にサミット応援メッセージを掲載	○
715	H28. 3. 29	株式会社アンデュール	チラシにシンボルマークを使用してサミットをPR	○
716	H28. 3. 30	トヨタカローラ三重株式会社	ホームページ上にシンボルマークとサミット応援メッセージを掲載	○
717	H28. 3. 30	サミット株式会社	東京23区内をはじめとした首都圏の店内にサミットポスターを掲示	
718	H28. 3. 30	ミタスマつり2016実行委員会	サブタイトルを「祝 伊勢志摩サミット」とした「ミタスマつり」を開催しポスターにシンボルマークを使用	○

受付番号	受付日	事業者名	内容	シンボルマーク使用
720	H28. 3. 30	株式会社ローソン	東海北陸7県の1,400店舗において三重県食材を使用したオリジナル商品等を扱う「伊勢志摩サミット開催記念フェア」を開催	○
721	H28. 3. 30	株式会社コイサンズ	伊勢志摩サミット開催記念として「世界のパンフェア」を開催しPOP等にシンボルマークを使用	○
722	H28. 3. 31	サントリー酒類株式会社/ ユニー株式会社	サミット応援キャンペーンを実施しユニー アピタ・ピアゴ各店においてシンボルマークを使用したキャンペーン告知ツールを掲示	○
723	H28. 3. 31	サントリー酒類株式会社/ 株式会社一号館	サミット応援キャンペーンを実施し一号館各店においてシンボルマークを使用したキャンペーン告知ツールを掲示	○
724	H28. 3. 31	サントリー酒類株式会社/ スーパーサンシ株式会社	サミット応援キャンペーンを実施しスーパーサンシ各店においてシンボルマークを使用したキャンペーン告知ツールを掲示	○
725	H28. 3. 31	N T T 西日本 三重支店	N T T 桜橋ビルの玄関にサミットポスター・のぼり・カウンタダウンボードを掲示	
726	H28. 3. 31	日進ガルバ工業株式会社	事務所にサミットポスターを掲示	
727	H28. 3. 31	株式会社Zephyr Translation	H P ・ 名 刺 ・ チ ラ シ 等 に シ ン ボ ル マ ー ク を 使 用 し サ ミ ッ ト を P R	○
728	H28. 3. 31	アトム習字教室	「がんばれ伊勢志摩サミット子供の書作品展」を開催し掲示ボードにシンボルマークを使用するとともに展示場内にサミットポスターを掲示	○
729	H28. 3. 31	株式会社図書館流通センター	伊勢図書館内にサミットに参加する7か国について紹介するコーナー「伊勢志摩サミット関連企画～のぞいてみよう★世界の国～」を設置	
731	H28. 4. 1	株式会社大田酒造	伊勢志摩サミットコラボ企画として開催記念酒セット（「半蔵純米大吟醸 神の穂」「たべるかつお節」「真珠のチャーム」）を販売 	
			伊勢志摩サミット開催記念酒セット	
733	H28. 4. 1	協同組合三重県物産振興会	「三重展とパールフェア」でサミットのPRおよびシンボルマークシールを貼付した開催記念商品（あられ）を配布	○
734	H28. 4. 4	株式会社ウェルソック	防犯ステーションにシンボルマークを貼付して設置	○
735	H28. 4. 4	株式会社サークルKサンクス	三重県関連商品（おにぎり・弁当・惣菜・デザート・パン）を発売し販促物とポスターにシンボルマークを使用	○
736	H28. 4. 5	中国名菜しらかわ	①店内にサミットポスターを掲示②伊勢志摩サミット開催記念としてサミットメニューを開発	
738	H28. 4. 5	株式会社フクナガエンジニアリング	正面玄関受付や応接室にサミットポスターを掲示	
739	H28. 4. 5	国立大学法人三重大学 地域ECOシステム研究センター	持続可能社会や生物多様性についての啓発を行うイベント「AQUA SOCIAL FES!!」を開催しチラシにシンボルマークを使用	○
741	H28. 4. 6	株式会社セブン銀行/株式会社百五銀行	伊勢志摩サミット応援ポスターを制作し近鉄主要駅・中部国際空港・日経新聞・中日新聞などへ掲出	
742	H28. 4. 6	N T N 株式会社 伊勢志摩サミット応援プロジェクト	N T N 陸上競技部「駅伝」チームのポスターにサミットとジュニア・サミット応援メッセージを掲載し先端技術研究所のロビーに展示	
743	H28. 4. 7	株式会社百五ディーシーカード	自社ビル玄関・事務所にサミットポスターを掲示	
744	H28. 4. 7	サガミインターナショナル株式会社	イタリア・ミラノのレストランWellKomeで独自ポスターにシンボルマークを使用するとともにサミットポスターを掲示	○
745	H28. 4. 7	公益財団法人三重こどもわかもの育成財団	伊勢志摩サミット記念企画「サミットなぞときラリー！」を開催し参加賞としてシンボルマークを使用した絆創膏を配布	○
746	H28. 4. 7	株式会社まるよし	自社ホームページ内にサミット紹介ページを制作しシンボルマークを使用	○
747	H28. 4. 7	三重テレビ放送株式会社	伊勢志摩サミット応援・特別番組をゴールデンウィークに編成	
748	H28. 4. 7	三重テレビ放送株式会社	①伊勢志摩サミット応援・特別番組をサミット期間に合わせて編成②海外メディア向けにスマホを活用した情報発信を実施	

受付番号	受付日	事業者名	内容	シンボルマーク使用
749	H28. 4. 8	LLP ASOBIDEA (アソビディア)	①WEB内に「三重県・サミット」をテーマとしたパズル問題データを掲載②パズルで遊ぶイベントでサミットをテーマにしたおもちゃを提供	
752	H28. 4. 11	マリーナ甘夏ファーム	商品発送時の段ボールにシンボルマークとサミット応援メッセージを掲載したシールを貼付	○
754	H28. 4. 11	イオンタウン株式会社 イオンタウン伊勢ララパーク	「サミットパネル展&サミットクイズラリー」を開催しチラシにシンボルマークを使用	○
755	H28. 4. 11	生活協同組合ひろしま	サミット応援イベントを開催し広告・POPにシンボルマークを使用	○
756	H28. 4. 11	株式会社UL Japan	シンボルマーク入りサミット歓迎横断幕を作成し国際メディアセンター近くの自社駐車場フェンスへ設置	○
757	H28. 4. 11	ミニストップ株式会社	伊勢志摩産の食材を使用した商品販売時にシンボルマーク入りのPOPを掲出(第2弾)	○
758	H28. 4. 12	サンジルス醸造株式会社	伊勢志摩産の商品を集めた伊勢志摩サミット応援フェアを開催し自社商品にシンボルマークを使用	○
759	H28. 4. 12	三重県漁業協同組合連合会	魚介類を全国に運ぶ運送用トラック20台の後部に特別仕様のポスターを貼り付けてサミットをPR	○
760	H28. 4. 13	熊野市観光協会	伊勢志摩サミット応援イベント～熊野から伊勢へ～を開催	
761	H28. 4. 13	三重交通株式会社	「伊勢志摩サミット2016記念フリー切符」を作成しポスターや乗車券袋にシンボルマークを使用	○
762	H28. 4. 13	浦村アカガイ・トリガイ研究会	サミット開催記念として出荷の際にシンボルマーク入りのチラシを添付しトリガイを発信	○
763	H28. 4. 13	三重県地域婦人団体連絡協議会	日本の民謡披露やご当地の郷土料理などを提供する伊勢志摩サミットおもてなし大作戦「和のおもてなし」を実施	
764	H28. 4. 13	名張市スポーツ少年団	伊勢志摩サミットおもてなし大作戦として記念植樹などの各種イベントを実施	
765	H28. 4. 14	トヨタカローラ三重株式会社	TV-CFにてサミット応援告知とシンボルマークを掲載	○
766	H28. 4. 14	ボートレース津	場内にサミットPR特設ブースを設置するとともに場内映像や出走表等でサミット開催や交通規制などを案内	
768	H28. 4. 14	株式会社中広	伊勢志摩サミット応援企画として三重県内9誌のフリーマガジンでサミット開催をPR	○
769	H28. 4. 14	有限会社小林物産	自社商品やノベルティ配付商品・POP・取引先への送付状等にシンボルマークを使用してサミットをPR	○
770	H28. 4. 14	お伊勢参り本舗株式会社	商品パッケージにシンボルマークを使用してサミットをPR	○
771	H28. 4. 14	株式会社柿安本店	柿安スイーツファクトリー第11回感謝祭会場でノボリやパネルなどを設置しサミットおよびジュニア・サミットをPR	
772	H28. 4. 14	株式会社柿安本店	本社および精肉本店内にジュニア・サミットのノボリ・ポスターを掲示	
773	H28. 4. 14	株式会社柿安本店	ジュニア・サミットin三重開催50日前記念イベント「桑名フェア」へ出展	
774	H28. 4. 15	株式会社柿安本店	ジュニア・サミットin三重開催50日前記念イベント「桑名力探検隊研修ツアー」に協力しジュニア・サミットをPR	
775	H28. 4. 15	株式会社CBCテレビ	「CBCテレビ伊勢志摩サミット特別番組企画」として三重県の魅力を伝える番組を放送	
776	H28. 4. 15	熊野市観光協会	協会建物内にサミットポスターを掲示	
777	H28. 4. 15	三重エフエム放送株式会社	伊勢志摩サミット開催30日前からカウントダウンスポットとして平井壑のサミット応援ソングに乗せてカウントダウン形式のスポットCMを放送	
780	H28. 4. 19	auショップ伊勢バイパス	伊勢志摩サミット応援キャンペーンを開催しチラシにシンボルマークを使用	○
781	H28. 4. 19	ナーサリー富田幼稚園	幼稚園に懸垂幕・横断幕を設置しサミット開催をPR	
782	H28. 4. 20	イオンモール株式会社 営業統括部 東海・長野事業部	伊勢志摩サミット応援企画「伊勢志摩サミット検定キャンペーン」を実施しチラシにシンボルマークを使用	○
784	H28. 4. 21	株式会社丸正	警備関係者向けのクリーニングサービスを実施しチラシにシンボルマークを使用	○
785	H28. 4. 22	ユニー株式会社 ビアゴ上地店	サミット応援として三重県産商品の販売時にPOP等でサミットをPRするとともに店内にサミットポスターを掲示	
787	H28. 4. 22	くもづホテル&コンファレンス	伊勢志摩サミット開催記念としてサミット参加国の料理を集めたバイキングを開催	○
788	H28. 4. 22	有限会社玉谷製麺所	自社商品「サクラパスタ」に国のロゴマークを貼り付けしサミットをPR	

受付番号	受付日	事業者名	内容	シンボルマーク使用
789	H28. 4. 22	イオンリテール株式会社	弁当のパックシールと箸袋にサミット訴求と応援の告知を実施	○
790	H28. 4. 25	有限会社お焼屋	商品（お菓子）にシンボルマークを使用しサミットをPR	○
791	H28. 4. 25	三交不動産株式会社 賃貸事業本部 アンク事業部	GWサミット応援イベントを開催しチラシにシンボルマークを使用	○
792	H28. 4. 26	七里御浜鯉のぼりの会	イベント「泳げ！鯉のぼりくん」を開催しサミットのぼり旗を掲示してサミットをPR	
794	H28. 4. 26	ASANTE SANA（あさんてさあな）	「ママと子どものための 絵本と小さな音楽会」を開催し会場内でジュニア・サミット幕を掲出	
795	H28. 4. 26	日本ボーイスカウト三重連盟桑名第3団	「平和への架け橋 ～吊り橋を作ろう～」を開催しイベント内でジュニア・サミットを周知	
796	H28. 4. 26	桑名の千羽鶴を広める会	「ジュニア・サミット参加者に桑名の千羽鶴を見てもらおう♪」を開催しイベント内でジュニア・サミットを周知	
797	H28. 4. 26	子ども応援ネットワークinくわな	「ジュニア・トークセッションinくわな」を開催し会場内でジュニア・サミットポスターを掲示	
798	H28. 4. 26	ボランティアちびっこの会	「わんぱく広場 ジュニアサミットがやってくる」を開催しイベント内でジュニア・サミットを周知	
799	H28. 4. 26	ボランティアちびっこの会	「子どもの広場 世界の国を知ろう」を開催しイベント内でジュニア・サミットを周知	
800	H28. 4. 26	子ども応援ネットワークinくわな	「世界の国を知ろう」を開催し会場内にサミットポスターおよびジュニア・サミットポスターを掲示	
801	H28. 4. 27	婚活・結婚サポートThe Best Mariage	ホームページ上でシンボルマークを使用しサミット開催をPR	○
802	H28. 4. 27	株式会社サークルKサンクス	三重県関連商品（惣菜・パン）を発売し販促物にシンボルマークを使用	○
803	H28. 4. 27	株式会社セブン-イレブン・ジャパン	三重県産食材を使用した記念商品を発売し「伊勢志摩サミット記念商品nanacoキャンペーン」を実施	
805	H28. 4. 28	株式会社マウスビーチ	碧志摩メグ公式サイト・伊賀嵐マイ公式サイトおよびツイッターにシンボルマークを使用しサミットをPR	○
806	H28. 4. 28	株式会社百五銀行/株式会社イトーヨーカ堂	三重県と連携しイトーヨーカドー全国150店舗にて「三重県フェア」を開催し三重県産の食品を県外へ発信	
807	H28. 4. 28	みずほフィナンシャルグループ	みずほFGの大手町・内幸町本部ビルで三重県物産展・食堂フェアを開催しサミットポスターを掲示	
808	H28. 4. 28	イセシマンプロジェクト	「観光戦隊イセシマン」がショー等において伊勢志摩サミットを取り上げるとともにサミットPRのポケットティッシュを配布	
809	H28. 4. 28	office 志野	書家の先生と協働し伊勢和紙を使用した扇子を制作し書を通じてサミット開催をPR	
810	H28. 5. 2	三重交通グループホールディングス株式会社	日経新聞全国版にサミット開催を記念してシンボルマークを使用した新聞広告を実施	○
811	H28. 5. 2	三重交通グループホールディングス株式会社	中日新聞および東京新聞にサミット開催を記念してシンボルマークを使用した新聞広告を実施	○
812	H28. 5. 2	株式会社トランタンネットワーク新聞社	月刊「ジャパン味噌プレス」にシンボルマークと開催告知を掲載しサミットをPR	○
813	H28. 5. 2	北村木箱株式会社	ホームページやフェイスブックなどにシンボルマークを使用しサミット開催をPR	○
814	H28. 5. 2	株式会社モスフードサービス	伊勢志摩サミット開催を記念して三重県内18店舗において限定商品を販売	
816	H28. 5. 6	日本金融通信社	金融専門誌「ニッキン」紙面で伊勢志摩サミット特集枠を設けサミット情報や各金融機関の取組などを紹介	○
817	H28. 5. 6	J A全中/J Aグループ三重	中日新聞および東京新聞に知事と全中会長の開催記念対談を掲載	
818	H28. 5. 6	パナソニック・パナソニックビジネスサービス株式会社	自社ショールームスペースにカウントダウンボードを設置するとともにサミットポスターを掲示	○
819	H28. 5. 6	ふるさとマルシェ三重	東京にて伊勢志摩サミット応援イベント「じばさんマルシェ三重」を開催しチラシにシンボルマークを使用	○
820	H28. 5. 6	株式会社フレッシュネス	全国160店舗で松阪牛・三重県産はなびら茸を使用した伊勢志摩サミット開催記念商品を発売	○
821	H28. 5. 6	有限会社ティアラ	パールフェアを開催しサミットポスターを掲示	
822	H28. 5. 6	中日本高速道路株式会社名古屋支社	県内の各休憩施設における電子掲示板でサミット開催に向けた三重県の観光PRポスターを掲示	○
823	H28. 5. 6	「三重県検定」協会	シンボルマーク入りTシャツを着用することでサミットをPR	○

受付番号	受付日	事業者名	内容	シンボルマーク使用
825	H28. 5. 9	エヌ・ティ・ティ・メディアサブライ株式会社/西日本電信電話株式会社 三重支店	「Free-WiFi-MIE」のアクセスポイントの無料利用時間の開放（無制限へ拡大）	
826	H28. 5. 9	有限会社森と水を守る会	シンボルマーク入り特別シュリンクラベルの「森の番人」を限定的に販売しサミットをPR	○
827	H28. 5. 9	京セラドキュメントソリューションズ株式会社	社内や事業所にサミットポスターを掲示	
828	H28. 5. 9	三重交通グループホールディングス株式会社	中部経済新聞にサミット開催を記念してシンボルマークを使用した新聞広告を実施	○
829	H28. 5. 9	三重交通グループホールディングス株式会社	毎日新聞にサミット開催を記念してシンボルマークを使用した新聞広告を実施	○
830	H28. 5. 9	三重交通グループホールディングス株式会社	月刊誌「J2TOP」にサミット開催を記念してシンボルマークを使用した広告を実施	○
831	H28. 5. 9	株式会社アゴーラ・ホテルマネジメント大阪	フロントまたはフロアにカウントダウンボードを設置しサミットをPR	○
832	H28. 5. 9	株式会社アゴーラ・ホテルマネジメント堺	フロントまたはフロアにカウントダウンボードを設置しサミットをPR	○
833	H28. 5. 10	株式会社魚力	首都圏・中部圏の60店舗で「みえ伊勢志摩サミットフェア」を開催しサミットをPR	
834	H28. 5. 10	三交興業株式会社	名阪関ドライブイン・名阪上野ドライブインにおいて伊勢志摩サミット開催記念商品（松阪牛カレー）を販売	
836	H28. 5. 10	社会福祉法人洗心福祉会	ホームページ上でサミット応援メッセージを掲載	
837	H28. 5. 10	社会福祉法人洗心福祉会	志摩シルバーケア豊壽園に伊勢志摩サミットの応援看板を設置しサミットをPR	
838	H28. 5. 10	J Aグループ三重	伊勢志摩サミット開催記念特集として中部経済新聞に新聞広告を掲載	
839	H28. 5. 10	J Aグループ三重	伊勢志摩サミット開催直前に中日新聞に新聞広告を掲載	
840	H28. 5. 10	J Aグループ三重	伊勢志摩サミット開催直前に伊勢新聞に名刺広告を掲載	
841	H28. 5. 11	トラベレックスジャパン株式会社	関空店舗・セントレア中部国際空港店舗においてサミット期間中のみ外貨両替のレートを割引しポスターにシンボルマークを使用	○
842	H28. 5. 11	株式会社三重毎日広告社	毎日新聞三重版紙面に地域企業の応援広告特集を掲載しシンボルマークを使用	○
843	H28. 5. 11	井村屋グループ株式会社	ホームページおよびECサイトホームページにシンボルマークを使用しサミット応援商品を紹介	○
844	H28. 5. 12	損害保険ジャパン日本興亜株式会社	国のロゴマーク入り応援メッセージシールを名刺に貼り付けしサミットをPR	
845	H28. 5. 13	有限会社モンパクトル	自社商品（ロールケーキ）にシンボルマークを模した飾り付けをして販売	○
846	H28. 5. 13	J Aグループ三重	サミット関連イベントへ伊勢茶ギフトセットを提供し県外に三重の魅力をPR	
847	H28. 5. 16	株式会社玉屋船具店	自社社屋正面2階にサミット参加国の国旗を掲出しサミットをPR	
848	H28. 5. 18	株式会社藤波タオルサービス	自社ホームページにシンボルマークと応援メッセージを掲載しサミットをPR	○
849	H28. 5. 18	三重大学附属図書館	三重大学附属図書館所蔵資料展示「伊勢志摩」を開催しポスターにシンボルマークを使用	○
851	H28. 5. 30	海の熊野地名研究会	「第13回全国鬼サミットinそお」において伊勢志摩サミットをPRするとともに会場にサミットポスターを掲示	
852	H28. 5. 31	株式会社近鉄・都ホテルズ志摩観光ホテル	お土産用のショップ販売品としてシンボルマークをデザインした和三盆干菓子を製作	○
855	H28. 6. 2	グローバル産業株式会社	サミットを末永く記憶にとめていただくための伊勢志摩サミット記念メダルを発行	○
856	H28. 6. 2	イオンリテール株式会社	三重県内19店舗とイオンスタイル常滑の従業員および東海長野カンパニースタッフの名札下ワッペンにて開催告知を実施	○

※記録誌への掲載に同意があり、かつ実施完了報告書が提出された事業のみ記載

資料14

寄附金の実績

合計		993 件	525,655,282 円
内 訳	企業・団体	605 件	499,377,271 円
	個人	一般	140 件 25,465,538 円
		クラウドファンディング ※	248 件 812,473 円

(1) 100万円以上の寄附者〔企業・団体〕

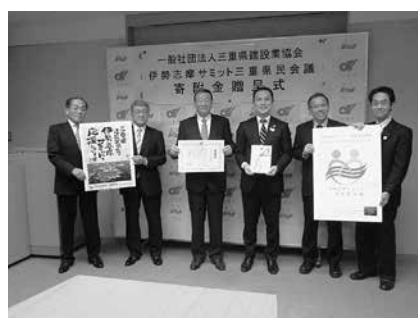
名 称	金額(円)
近鉄グループホールディングス株式会社	50,000,000
イオングループ	50,000,000
株式会社百五銀行	30,000,000
株式会社岡三証券グループ	30,000,000
一般社団法人三重県建設業協会	20,000,000
ジャパンマテリアル株式会社	20,000,000
日本トランスシティ株式会社グループ	15,000,000
三重県漁業協同組合連合会	10,000,000
株式会社ビーイング	10,000,000
株式会社第三銀行グループ	10,000,000
株式会社ZTV	10,000,000
三重交通グループホールディングス株式会社	10,000,000
株式会社三重銀行グループ	10,000,000
三重県内4信用金庫(桑名信用金庫、北伊勢上野信用金庫、三重信用金庫、紀北信用金庫)	10,000,000
J Aグループ三重	10,000,000
京楽産業. 株式会社	10,000,000
住友電装株式会社	10,000,000
長島観光開発株式会社	10,000,000
株式会社伊藤製作所	7,000,000
NTN株式会社	5,000,000
三重県民共済生活協同組合	5,000,000
三重県生コンクリート工業組合	5,000,000
三重県三師会(公益社団法人三重県医師会、公益社団法人三重県歯科医師会、一般社団法人三重県薬剤師会)	3,000,000
東邦ガス株式会社	3,000,000
三重県信用保証協会	3,000,000
ミキモトグループ	3,000,000
アサヒビール株式会社中部統括本部	2,636,592
大内山酪農農業協同組合	2,000,000
谷口石油株式会社・谷口石油精製株式会社	2,000,000
スーパーサンシ株式会社	2,000,000
株式会社ぎゅーとら	2,000,000
清洋水産株式会社	1,000,000
サラヤ株式会社	1,000,000
赤塚グループ	1,000,000
三重県旅館ホテル生活衛生同業組合	1,000,000
富士ゼロックス三重株式会社 社員一同	1,000,000

三重県環境整備事業協同組合	1,000,000
東海労働金庫	1,000,000
三重県木材協同組合連合会	1,000,000
株式会社鳥羽水族館	1,000,000
株式会社中京銀行	1,000,000
三重県土地改良事業団体連合会	1,000,000
株式会社ミエライス	1,000,000
江南化工株式会社	1,000,000
辻製油株式会社	1,000,000
一般社団法人日本自動車販売協会連合会三重県支部	1,000,000
三重県砂利協同組合連合会	1,000,000
井村屋グループ株式会社	1,000,000
一般社団法人三重県社会基盤整備協会	1,000,000
株式会社リオグループホールディングス	1,000,000
株式会社NTジオテック中部 三重支社/NPO法人 日本徒手空拳道連盟 優真会	1,000,000
株式会社サイネックス	1,000,000
株式会社ADEKA三重工場	1,000,000
株式会社JTB中部	1,000,000
株式会社かじり	1,000,000
三重県看護連盟	1,000,000
株式会社暁興産	1,000,000

◆名称及び金額の掲載に同意いただいた団体のみ掲載（計 57 団体）



(株) 百五銀行寄附金贈呈式
(平成 27 年 9 月 9 日)



(一社) 三重県建設業協会寄附金贈呈式
(平成 27 年 12 月 3 日)



イオングループ寄附金贈呈式
(平成 28 年 2 月 12 日)

(2) 100 万円以上の寄附者〔個人〕（敬称略）

氏名	金額(円)
榎本 宏	10,000,000
櫻井 八郎	1,500,000

◆氏名及び金額の掲載に同意いただいた方のみ掲載（計 2 名）

全ての寄附者一覧は、次ページ以降のとおりである。

※クラウドファンディングを活用した寄附金募集

インターネットにより多数の個人から資金を集める手法であるクラウドファンディング（寄附型）を活用した。個人からの寄附金の募集と収納にかかる事務を一般財団法人ジャパンギビングに委託した。1口500円からの寄附とし、寄附者は同社のホームページから申し込み、クレジットカード等により支払う方法を使った。

寄附者一覧〔企業・団体〕

番号	受付日	名称	寄附金額(円)	備考
1	H27.8.31	三重県漁業協同組合連合会	10,000,000	
2	H27.8.31	清洋水産株式会社	1,000,000	
3	H27.8.31	長永スポーツ工業株式会社	【非公表】	
4	H27.8.31	株式会社百五銀行	30,000,000	
5	H27.8.31	株式会社岡三証券グループ	30,000,000	
6	H27.9.8	株式会社ビーイング	10,000,000	
7	H27.9.10	公益社団法人三重県バス協会	【非公表】	
8	H27.9.11	サラヤ株式会社	1,000,000	
9	H27.9.14	協同組合津卸商業センター	【非公表】	
10	H27.9.28	株式会社第三銀行グループ	10,000,000	
11	H27.9.30	赤塚グループ	1,000,000	
12	H27.10.1	株式会社ZTV	10,000,000	
13	H27.10.1	中部電力株式会社	【非公表】	
14	H27.10.2	一般社団法人三重県食品衛生協会	【非公表】	
15	H27.10.5	株式会社ランドフォーライフ研究所	【非公表】	
16	H27.10.5	一般財団法人食品分析開発センター SUNATEC	【非公表】	
17	H27.10.5	一般社団法人三重県調理師連合会	【非公表】	
18	H27.10.6	株式会社片岡不動産鑑定	【非公表】	
19	H27.10.6	株式会社マット鑑定コンサルタント	30,000	
20	H27.10.7	一般社団法人三重県不動産鑑定士協会	100,000	
21	H27.10.7	大内山酪農農業協同組合	2,000,000	
22	H27.10.8	木づくり同交会	200,000	
24	H27.10.9	前田不動産鑑定コンサルタント	【非公表】	
25	H27.10.13	株式会社赤福	【非公表】	
26	H27.10.13	株式会社オオコーチ	【非公表】	
27	H27.10.13	株式会社コスモ鑑定コンサルタント	【非公表】	
28	H27.10.13	近鉄グループホールディングス株式会社	50,000,000	
29	H27.10.14	樹田不動産鑑定所	【非公表】	
30	H27.10.14	有限会社四日市酪農	30,000	
31	H27.10.15	朝日土木株式会社 三重リサイクルセンター	【非公表】	
32	H27.10.19	三重交通グループホールディングス株式会社	10,000,000	
33	H27.10.20	三重県醤油味噌工業協同組合	500,000	
35	H27.10.21	三重県三師会(公益社団法人三重県医師会、公益社団法人三重県歯科医師会、一般社団法人三重県薬剤師会)	3,000,000	
36	H27.10.22	八千代エンジニアリング株式会社 名古屋支店	【非公表】	
37	H27.10.23	伊勢三銀会	500,000	
38	H27.10.23	三重県レンタカー協会	30,000	
39	H27.10.23	四日市電気工事業協同組合	100,000	
40	H27.10.23	三重県旅館ホテル生活衛生同業組合	1,000,000	
41	H27.10.26	株式会社三重銀行グループ	10,000,000	
42	H27.10.26	NPO法人日本科学士協会	10,000	
43	H27.10.27	近藤緑化株式会社	【非公表】	
44	H27.10.27	伊勢私立幼稚園・こども園協会	【非公表】	
45	H27.10.28	三菱マテリアルテクノ株式会社四日市事業所	【非公表】	
46	H27.10.28	塩浜運送株式会社	【非公表】	
47	H27.10.29	三重県内4信用金庫(桑名信用金庫、北伊勢上野信用金庫、三重信用金庫、紀北信用金庫)	10,000,000	
48	H27.11.2	【非公表】	【非公表】	
49	H27.11.2	北勢きらら学園PTA	【非公表】	
50	H27.11.4	一般社団法人三重県清掃事業連合会	【非公表】	
51	H27.11.4	株式会社コスモ	【非公表】	①
52	H27.11.4	城田運送株式会社	【非公表】	①
53	H27.11.4	有限会社サトー工業	100,000	①
54	H27.11.4	東海総合産業株式会社	【非公表】	①
55	H27.11.4	【非公表】	【非公表】	①
56	H27.11.4	有限会社市川メンテナンス工業	10,000	①
57	H27.11.4	三岐通運株式会社	【非公表】	①
58	H27.11.4	塩浜運送株式会社	【非公表】	①
59	H27.11.4	塩浜工運株式会社	【非公表】	①
60	H27.11.4	株式会社全栄	10,000	①
61	H27.11.4	株式会社リーテック	【非公表】	①
62	H27.11.4	有限会社繁栄商事	10,000	①
63	H27.11.4	河本産業株式会社	【非公表】	①
64	H27.11.4	アイトム建設株式会社	【非公表】	①
65	H27.11.4	株式会社吉野興産	【非公表】	①
66	H27.11.4	株式会社雅建	【非公表】	①

番号	受付日	名称	寄附金額(円)	備考
67	H27.11.4	三光運輸株式会社	【非公表】	①
68	H27.11.4	株式会社ミヤテック	10,000	①
69	H27.11.4	伊勢舗装工業株式会社	10,000	①
70	H27.11.4	メスキュード中央株式会社	20,000	①
71	H27.11.4	有限会社出馬重機	100,000	①
72	H27.11.4	株式会社山本建材	100,000	①
73	H27.11.4	志摩環境事業協業組合	50,000	①
74	H27.11.4	株式会社山野建設	【非公表】	①
75	H27.11.4	有限会社クリーンテック名張	【非公表】	①
76	H27.11.4	株式会社サイセイ	10,000	①
77	H27.11.4	三重中央開発株式会社	200,000	①
78	H27.11.4	有限会社尾鷲環境開発	10,000	①
79	H27.11.4	有限会社海山環境衛生	【非公表】	①
80	H27.11.4	株式会社丸昇建設	10,000	①
81	H27.11.4	株式会社ナカミチ建機サービス	30,000	①
82	H27.11.4	近藤産興株式会社	50,000	①
83	H27.11.4	新英金属株式会社	10,000	①
84	H27.11.4	山本行政書士事務所	5,000	①
85	H27.11.4	株式会社東海テクノ	10,000	①
86	H27.11.4	四日市海運株式会社	100,000	②
87	H27.11.4	ヨンソー開発株式会社	100,000	②
88	H27.11.4	トランスシティコンピュータサービス株式会社	100,000	②
89	H27.11.5	セントラル自動車整備株式会社	100,000	②
90	H27.11.5	極東冷蔵株式会社	100,000	②
91	H27.11.5	四日市物流サービス株式会社	100,000	②
92	H27.11.5	株式会社濱田総業	【非公表】	
93	H27.11.5	有限会社伊勢福	【非公表】	
94	H27.11.5	株式会社マサグループ本社	200,000	
95	H27.11.5	株式会社マサヤ	500,000	
96	H27.11.5	株式会社伊勢萬	300,000	
97	H27.11.6	一般社団法人三重県水質保全協会	【非公表】	
98	H27.11.6	日本トランスシティ株式会社	14,000,000	②
99	H27.11.6	富士ゼロックス三重株式会社 社員一同	1,000,000	
100	H27.11.6	中部シティフレイト株式会社	100,000	②
101	H27.11.6	四日市ポートサービス株式会社	100,000	②
102	H27.11.6	一般社団法人三重県タクシー協会	【非公表】	
103	H27.11.9	トランスシティロジスティクス中部株式会社	100,000	②
104	H27.11.9	株式会社ハツメック	【非公表】	
105	H27.11.10	東邦ガス株式会社	3,000,000	
106	H27.11.10	津西ライオンズクラブ	【非公表】	
107	H27.11.10	四日市みたきライオンズクラブ	10,000	
108	H27.11.11	三鈴カントリー倶楽部 三鈴開発株式会社	100,000	②
109	H27.11.12	都不動産	【非公表】	
110	H27.11.12	有限会社土井林業	【非公表】	
111	H27.11.12	亀山ライオンズクラブ	10,000	
112	H27.11.12	株式会社ぜにやH・C	【非公表】	
113	H27.11.12	株式会社宮崎本店	【非公表】	
114	H27.11.12	J Aグループ三重	10,000,000	
115	H27.11.13	津ライオンズクラブ	10,000	
116	H27.11.13	三重県環境整備事業協同組合	1,000,000	
117	H27.11.16	J S R 株式会社	【非公表】	
118	H27.11.16	一般社団法人三重県安全運転管理協議会	50,000	
119	H27.11.16	一般社団法人三重県指定自動車教習所協会	50,000	
120	H27.11.17	株式会社伊藤製作所	7,000,000	
121	H27.11.18	京楽産業. 株式会社	10,000,000	
122	H27.11.19	三恵工業株式会社	【非公表】	
123	H27.11.20	コスモエネルギーホールディングス株式会社	【非公表】	
124	H27.11.20	三重県信用保証協会	3,000,000	
125	H27.11.24	【非公表】	10,000	
126	H27.11.25	株式会社サークルKサンクス	【非公表】	
127	H27.11.25	一般社団法人三重県ビルメンテナンス協会	100,000	
128	H27.11.25	タカノ商事株式会社	100,000	
129	H27.11.25	一般社団法人鳥羽市観光協会	【非公表】	
130	H27.11.25	住友電装株式会社	10,000,000	
131	H27.11.26	N T N 株式会社	5,000,000	
132	H27.11.26	東海労働金庫	1,000,000	
133	H27.11.27	三重県林業団体連絡協議会	【非公表】	③
134	H27.11.27	三重県林業経営者協会	【非公表】	③
135	H27.11.27	一般社団法人三重県森林協会	【非公表】	③

番号	受付日	名称	寄附金額(円)	備考
136	H27.11.27	三重県水源林造林推進協議会	【非公表】	③
137	H27.11.27	三重県林業技術普及協会	【非公表】	③
138	H27.11.27	三重県林業研究グループ連絡協議会	【非公表】	③
139	H27.11.27	公益財団法人三重県農林水産支援センター	【非公表】	③
140	H27.11.27	一般社団法人三重県猟友会	【非公表】	③
141	H27.11.27	三重県民共済生活協同組合	5,000,000	
142	H27.11.30	有限会社居酒屋ふぐや	【非公表】	
143	H27.12.2	三重県木材協同組合連合会	1,000,000	
144	H27.12.2	東ソー株式会社	【非公表】	
145	H27.12.3	一般社団法人三重県労働者福祉協議会	【非公表】	
146	H27.12.3	公益財団法人三重県国際交流財団	【非公表】	
147	H27.12.4	河田フェザー株式会社	【非公表】	
148	H27.12.4	日本電気株式会社	【非公表】	
149	H27.12.7	株式会社鳥羽水族館	1,000,000	
150	H27.12.7	全労済三重県本部	【非公表】	
151	H27.12.7	株式会社トータル建築確認評価センター	【非公表】	
152	H27.12.7	久居ライオンズクラブ	【非公表】	
153	H27.12.8	KHネオケム株式会社	【非公表】	
154	H27.12.8	株式会社中京銀行	1,000,000	
155	H27.12.9	公益社団法人三重県栄養士会	200,000	
156	H27.12.10	三重県土地改良事業団体連合会	1,000,000	
157	H27.12.10	株式会社ミエライス	1,000,000	
158	H27.12.10	三重県労働者住宅生活協同組合	【非公表】	
159	H27.12.10	三菱マテリアル株式会社四日市工場	【非公表】	
160	H27.12.11	【非公表】	【非公表】	
161	H27.12.11	近藤不動産鑑定	【非公表】	
162	H27.12.14	国際ソロプチミスト三重	100,000	
163	H27.12.15	西日本電信電話株式会社三重支店	【非公表】	
164	H27.12.15	江南化工株式会社	1,000,000	
165	H27.12.15	【非公表】	【非公表】	
166	H27.12.15	日産三重会(三重県日産自動車販売グループ)	【非公表】	
167	H27.12.15	三重県地質調査業協会	100,000	④
168	H27.12.15	株式会社アオイテック	20,000	④
169	H27.12.15	青葉工業株式会社 三重営業所	10,000	④
170	H27.12.15	川崎地質株式会社 三重営業所	【非公表】	④
171	H27.12.15	基礎地盤コンサルタント株式会社 三重事務所	【非公表】	④
172	H27.12.15	協和地研株式会社	20,000	④
173	H27.12.15	株式会社キンキ地質センター 三重営業所	20,000	④
174	H27.12.15	株式会社中部ウェルボーリング社	20,000	④
175	H27.12.15	株式会社東建ジオテック 三重事務所	【非公表】	④
176	H27.12.15	東邦地水株式会社	30,000	④
177	H27.12.15	南海カツマ株式会社	10,000	④
178	H27.12.15	日本物理探鑛株式会社 三重営業所	10,000	④
179	H27.12.15	富士開発株式会社 三重営業所	10,000	④
180	H27.12.15	松阪鑿泉株式会社	20,000	④
181	H27.12.15	イオングループ	50,000,000	
182	H27.12.16	株式会社白清舎	【非公表】	
183	H27.12.16	三菱ガス化学株式会社四日市工場	【非公表】	
184	H27.12.16	株式会社三重電子計算センター	【非公表】	
185	H27.12.16	昭和四日市石油株式会社	【非公表】	
186	H27.12.16	ミキモトグループ	3,000,000	
187	H27.12.17	辻製油株式会社	1,000,000	
188	H27.12.17	一般社団法人日本自動車販売協会連合会三重県支部	1,000,000	
189	H27.12.18	三菱化学株式会社	【非公表】	
190	H27.12.18	明成化学工業株式会社	【非公表】	
191	H27.12.18	味の素株式会社	【非公表】	
192	H27.12.18	三重県生コンクリート工業組合	5,000,000	
193	H27.12.21	I C D Aホールディングス株式会社	【非公表】	
194	H27.12.22	株式会社ダスキン	500,000	
195	H27.12.22	石原産業株式会社四日市工場	【非公表】	
196	H27.12.24	三重県砂利協同組合連合会	1,000,000	
197	H27.12.24	J F Eエンジニアリング株式会社津製作所	【非公表】	
198	H27.12.24	太陽化学株式会社	【非公表】	
199	H27.12.28	井村屋グループ株式会社	1,000,000	
200	H27.12.28	株式会社テイビョウ	50,000	
201	H27.12.28	村林浩代ソプラノリサイタル実行委員会	【非公表】	
202	H28.1.4	一般社団法人三重県警備業協会	100,000	
203	H28.1.6	長島観光開発株式会社	10,000,000	
204	H28.1.7	株式会社エコクリーン	100,000	

番号	受付日	名称	寄附金額(円)	備考
205	H28.1.7	株式会社タスカル	100,000	
206	H28.1.8	株式会社NTTドコモ東海支社	【非公表】	
207	H28.1.12	一般社団法人三重県社会基盤整備協会	1,000,000	
208	H28.1.13	谷口石油株式会社・谷口石油精製株式会社	2,000,000	
209	H28.1.14	エイベックス株式会社	【非公表】	
210	H28.1.14	株式会社イクシー	【非公表】	
211	H28.1.15	第一工業製菓株式会社	【非公表】	
212	H28.1.15	松阪木材株式会社	【非公表】	
213	H28.1.18	株式会社ジオ	【非公表】	
214	H28.1.19	志摩環境事業協業組合	200,000	
215	H28.1.20	株式会社建設技術研究所 中部支社	【非公表】	
216	H28.1.21	ダスキン三重県加盟店一同	1,690	⑥
217	H28.1.21	一般社団法人三重県トラック協会	50,000	
218	H28.1.21	株式会社イチミ	200,000	
219	H28.1.22	一般財団法人三重県交通安全協会	50,000	
220	H28.1.25	株式会社鈴工	【非公表】	
221	H28.1.26	一般財団法人三重県環境保全事業団	【非公表】	
222	H28.1.29	三重県獣医師政治連盟	100,000	
223	H28.1.29	株式会社リオグループホールディングス	250,000	
224	H28.1.29	株式会社リオフジワラカントリー	250,000	
225	H28.1.29	株式会社リオキャピタル	250,000	
226	H28.1.29	株式会社アサヒリオ	250,000	
227	H28.1.29	うどん屋池澤湯	【非公表】	
228	H28.1.29	三重県砕石工業組合	【非公表】	
229	H28.1.29	株式会社NTTジオテック中部 三重支社	700,000	
230	H28.1.29	NPO法人 日本徒手空拳道連盟 優真会	300,000	
231	H28.1.29	伊賀市のお風呂や 池澤湯	【非公表】	
232	H28.1.29	株式会社柳川建材店	100,000	
234	H28.2.1	西川製菓	【非公表】	
235	H28.2.2	株式会社東産業	【非公表】	
236	H28.2.2	スーパーサンシ株式会社	2,000,000	
237 ~540	H28.2.4	一般社団法人三重県建設業協会	20,000,000	⑤
542	H28.2.5	三重信用金庫	【非公表】	
543	H28.2.8	トバパール	【非公表】	
544	H28.2.9	有限会社小林鉄工	50,000	
545	H28.2.15	株式会社サイネックス	1,000,000	
546	H28.2.15	大阪三重県人会	300,000	
547	H28.2.16	株式会社賃貸コーポレーション	100,000	
548	H28.2.16	株式会社賃貸メイト	100,000	
549	H28.2.18	株式会社デンソー大安製作所	【非公表】	
550	H28.2.18	株式会社マイクロキャビン	【非公表】	
551	H28.2.18	ダスキン三重県加盟店一同(2回目)	141,560	⑥
552	H28.2.23	新成運輸株式会社	【非公表】	
553	H28.2.24	株式会社ADEKA 三重工場	1,000,000	
554	H28.2.25	太平洋建設株式会社	【非公表】	
555	H28.2.25	NTTコミュニケーションズ株式会社	【非公表】	
556	H28.2.26	株式会社ぎゅーとら	2,000,000	
557	H28.2.29	日進ガルバ工業株式会社	【非公表】	
558	H28.3.2	キリンビールマーケティング株式会社中部圏統括本部三重支社	【非公表】	⑦
559	H28.3.4	三井共同建設コンサルタント株式会社	30,000	
560	H28.3.9	一般社団法人三重県LPガス協会	【非公表】	
561	H28.3.9	四日市サウスライオンズクラブ	【非公表】	
562	H28.3.11	NPO法人Earthアース530	10,000	
563	H28.3.11	大内山川漁業協同組合	20,000	
564	H28.3.11	兵庫三重県人会	100,000	
565	H28.3.14	ダスキン三重県加盟店一同(3回目)	157,580	⑥
566	H28.3.15	株式会社JTB中部	1,000,000	
567	H28.3.15	株式会社かじり	1,000,000	
568	H28.3.15	ジャパンマテリアル株式会社	20,000,000	
569	H28.3.17	損害保険ジャパン日本興亜株式会社三重支店	【非公表】	
570	H28.3.22	東洋ゴム工業株式会社桑名工場	【非公表】	
571	H28.3.23	三井不動産株式会社	【非公表】	
572	H28.3.24	伊勢百友会	300,000	
573	H28.3.24	鳥羽百友会	100,000	
574	H28.3.24	三重テレビ放送株式会社	【非公表】	
575	H28.3.24	サントリー酒類株式会社東海・北陸営業本部	240,000	
576	H28.3.25	一般社団法人三重県病院協会	500,000	
577	H28.3.25	三重県中小企業家同友会	【非公表】	

番号	受付日	名称	寄附金額 (円)	備考
578	H28. 3. 28	四日市中央ライオンズクラブ	10,000	
579	H28. 3. 31	近畿日本ツーリスト株式会社	【非公表】	
580	H28. 4. 1	三重県酒造組合	【非公表】	
581	H28. 4. 6	三重県木材市売連盟	10,000	
582	H28. 4. 11	三重すし街道	【非公表】	
583	H28. 4. 11	株式会社プラトンホテル	【非公表】	
584	H28. 4. 11	株式会社サノプランニング	【非公表】	
585	H28. 4. 11	ダスキン三重県加盟店一同 (4回目)	171,690	⑥
586	H28. 4. 14	【非公表】	8,861	
587	H28. 4. 15	株式会社星たる観光 ホテル 星たる	20,000	
588	H28. 4. 19	一般社団法人三重県観光開発機構	50,000	
589	H28. 4. 20	ボートレース津	244,200	
590	H28. 4. 22	三重県看護連盟	1,000,000	
591	H28. 4. 28	office志野	5,000	
592	H28. 5. 2	JTB協定旅館ホテル連盟三重支部	300,000	
593	H28. 5. 2	NPO法人日本福祉タクシー協会「はあと福祉タクシー」	【非公表】	
594	H28. 5. 9	【非公表】	【非公表】	
595	H28. 5. 9	【非公表】	【非公表】	
596	H28. 5. 9	松阪ユネスコ協会	【非公表】	
597	H28. 5. 9	明星グループ (アミカン株式会社、東洋工業株式会社、東洋電機株式会社)	【非公表】	
598	H28. 5. 10	株式会社日本旅行津支店	700,000	
599	H28. 5. 12	ダスキン三重県加盟店一同 (5回目)	11,760	⑥
600	H28. 5. 13	株式会社財団評価研究所	【非公表】	
601	H28. 5. 16	株式会社暁興産	1,000,000	
602	H28. 5. 16	三重県立みえ夢学園高等学校生徒会 (漫画研究部)	11,853	
603	H28. 5. 18	三重県中小企業共済協同組合	100,000	
604	H28. 5. 20	【非公表】	【非公表】	
605	H28. 5. 20	【非公表】	【非公表】	
606	H28. 5. 25	株式会社青葉	【非公表】	
607	H28. 5. 31	有限会社若松屋	30,000	
608	H28. 5. 31	キリンビールマーケティング株式会社中部圏統括本部三重支社 (2回目)	【非公表】	⑦
609	H28. 5. 31	アサヒビール株式会社中部統括本部	2,636,592	
計	605	件	499,377,271	

※ 名称、金額の公表に同意がある寄附者を掲載。同意がない場合は【非公表】と記載。番号の欠番は申込を取り消したものの。

備考	① No51から85(計35社)は(一社)三重県産業廃棄物協会が取りまとめ	909,000
	② No86から91, 98, 100, 101, 103, 108(計11社)は日本トランスシティグループ	15,000,000
	③ No133から140(計8社)は三重県森林組合連合会が取りまとめ	480,000
	④ No167から180は三重県地質調査業協会が取りまとめ(協会1・企業13社)	300,000
	⑤ No. 237から540は(一社)三重県建設業協会が取りまとめ(協会本部・2支部・企業301社) ※企業名は別表のとおり	20,000,000
	⑥ No. 216, 551, 565, 585, 599はダスキン三重県加盟店一同から複数回寄附	484,280
	⑦ No. 558, 608はキリンビールマーケティング株式会社中部圏統括本部三重支社から複数回寄附	【非公表】

【別表】一般社団法人三重県建設業協会が取りまとめた企業一覧（企業別の金額は非公表）

番号	名称	番号	名称	番号	名称	番号	名称
237	一般社団法人三重県建設業協会	313	株式会社井上工業	389	株式会社西組	465	長谷川興業株式会社
238	一般社団法人三重県建設業協会亀山支部	314	鈴南建設株式会社	390	株式会社百木組	466	株式会社廣嶋組
239	一般社団法人三重県建設業協会津支部	315	株式会社日館建設	391	株式会社松本組	467	株式会社福田豊工務店
240	一色建設株式会社	316	株式会社大栄管清土木	392	海老屋建設株式会社	468	株式会社福森組
241	株式会社巧建社	317	有限会社磯部組	393	株式会社西工務店	469	株式会社堀池組
242	株式会社伊藤水道建設	318	株式会社伊勢土木	394	有限会社本田組	470	丸山建設株式会社
243	日本興業株式会社	319	株式会社佐野組	395	有限会社野田建設	471	余田土建株式会社
244	正田建設株式会社	320	石鈴産業株式会社	396	山添建設株式会社	472	株式会社川島工業
245	霞興業有限公司	321	株式会社豊穰	397	株式会社丸吉建工	473	スガコー建設株式会社
246	株式会社藤井建設	322	株式会社NI P P O 三重統括事業所	398	株式会社小西組	474	株式会社大道建設
247	株式会社伊丹組	323	高砂建設株式会社鈴鹿支店	399	有限会社中西工務店	475	株式会社西山建設
248	天元工業株式会社	324	株式会社新美工務店	400	磯部工業株式会社	476	株式会社丸栄建設
249	伊勢土建工業株式会社	325	有限会社本城建設	401	株式会社山口工務店	477	株式会社山中建設
250	水谷建設株式会社	326	堀田建設株式会社	402	中倉土建株式会社	478	株式会社吉岡組
251	富山建設株式会社	327	白川建設株式会社	403	株式会社谷口組	479	株式会社岡村建設
252	水谷建設株式会社	328	有限会社関建設	404	浜口土木株式会社	480	奥建設株式会社
253	株式会社岡興産	329	株式会社佐野組	405	吉川建設株式会社	481	株式会社F K C
254	株式会社太多建設	330	有限会社クワハラ	406	株式会社谷口建設	482	阿山建設株式会社
255	株式会社出口組	331	有限会社川戸建設	407	株式会社近藤建設	483	株式会社竹島建設
256	株式会社三輪建設	332	有限会社藤島組	408	株式会社上村組	484	中山建設株式会社
257	株式会社中村組	333	株式会社米倉建設	409	株式会社丸宗土建	485	和興舗道株式会社
258	株式会社サンエイ工務店	334	有限会社山内組	410	株式会社伊藤工務店	486	大地建設株式会社
259	中央建設株式会社	335	有限会社山内建設	411	南建工業株式会社	487	山王建設株式会社
260	西出建設株式会社	336	島内建設株式会社	412	中津建設株式会社	488	株式会社マツザキ
261	株式会社徳積建設	337	有限会社浦野建設	413	稲葉建設株式会社	489	株式会社青山建設
262	信藤建設株式会社	338	西村建設株式会社	414	株式会社原田組	490	株式会社三和工務店
263	鹿島道路株式会社中部支店	339	有限会社丸昌組	415	株式会社前田組	491	大有建設株式会社伊賀上野営業所
264	朝日土木株式会社	340	田中土木株式会社	416	株式会社西邦建設	492	東亜道路工業株式会社三重営業所
265	東邦地水株式会社	341	株式会社辻工務店	417	株式会社堀崎組	493	株式会社東組
266	大和宏業株式会社	342	株式会社アイケーディ	418	宮本建設株式会社	494	株式会社紀南組
267	日進建設株式会社	343	株式会社土生組	419	朝日丸建設株式会社	495	株式会社眞建
268	中村建設株式会社	344	株式会社萩原建設	420	株式会社荻田建設	496	七宝建設株式会社
269	伊藤管機工業株式会社	345	東海土建株式会社	421	株式会社森組	497	株式会社セルフ倉建設
270	株式会社河北組	346	有限会社大森組	422	株式会社山野建設	498	株式会社中村組
271	小林建設株式会社	347	大和建設株式会社	423	下建設株式会社	499	中村建設株式会社
272	有限会社服部組	348	敷建設株式会社	424	株式会社西山組	500	株式会社橋本組
273	岡田工業株式会社	349	株式会社河合組	425	株式会社中島組	501	有限会社浜口組
274	株式会社丸谷建設	350	東進産業株式会社	426	大達建設株式会社	502	株式会社丸昇建設
275	株式会社上田新工業	351	高砂建設株式会社	427	なかむら建設株式会社	503	株式会社村田組
276	株式会社ナルックス	352	株式会社佐南組	428	株式会社東出林業	504	株式会社岡本組
277	株式会社山本邦組	353	三重農林建設株式会社	429	船谷建設株式会社	505	株式会社五味建設
278	新興建設株式会社	354	株式会社岸田建設	430	株式会社富士建設	506	株式会社幸組
279	株式会社服部組	355	株式会社林組	431	有限会社世古林業	507	三栄建設株式会社
280	株式会社第一工務店	356	株式会社広山建設	432	株式会社桜井組	508	株式会社塩谷組
281	株式会社杉本組	357	株式会社西川組	433	株式会社佑成産業	509	濱田建設株式会社
282	松岡建設株式会社	358	株式会社藤谷建設	434	株式会社森田建設	510	有限会社奥田組
283	生川建設株式会社	359	有限会社小林組	435	マルヒロ産業株式会社	511	有限会社鈴木組
284	大宗建設株式会社	360	勢和建設株式会社	436	日本工業株式会社	512	株式会社銅勝
285	株式会社矢野組	361	株式会社磯田土建	437	朝日土木株式会社伊勢営業所	513	東建興業株式会社
286	株式会社東海起業	362	有限会社大村建設	438	廣建設	514	株式会社平野組
287	高砂建設株式会社	363	株式会社マエダ組	439	丸文工業株式会社	515	株式会社前川組
288	日本道路株式会社三重営業所	364	株式会社ユーサン	440	大西建設工業有限公司	516	山岸建設株式会社
289	塩浜建設株式会社	365	株式会社藤田組	441	株式会社亀川組	517	堀組
290	三和建工株式会社	366	株式会社藤久建設	442	株式会社大進	518	株式会社井本組
291	株式会社院南組	367	有限会社永井組	443	有限会社北出建設	519	株式会社川上組
292	福道建設株式会社	368	西川工業有限公司	444	株式会社石吉組	520	株式会社三石組
293	中日本建設株式会社	369	竹原建設株式会社	445	宮崎建設工業株式会社	521	株式会社榎本工務店
294	伊藤工業株式会社	370	向川建設株式会社	446	三橋建設株式会社	522	株式会社西美組
295	株式会社久志本組	371	木原造林株式会社美杉事業所	447	有限会社山勝建設	523	有限会社藪根組
296	横内建設株式会社	372	株式会社前田組	448	株式会社山下組	524	有限会社橋本建設
297	新陽工業株式会社	373	有限会社中川組	449	磯部建設工業株式会社	525	大平組
298	朝明鉱業株式会社	374	宇野重工株式会社	450	株式会社山本建材	526	株式会社宇城組
299	別府建設株式会社	375	有限会社大河内建設	451	作田建設有限公司	527	有限会社桂建設
300	アイトム建設株式会社	376	株式会社北村組	452	畑中建設工業株式会社	528	有限会社杉本建設
301	イケダクト株式会社	377	株式会社北定組	453	有限会社出馬重機	529	有限会社森組
302	株式会社西城組	378	株式会社田村組	454	有限会社岡権組	530	有限会社下桐建設
303	西口建工株式会社	379	東部建設株式会社	455	村瀬建設株式会社	531	有限会社堀工務店
304	中尾建設株式会社	380	中井土木株式会社	456	日本道路株式会社中部支店	532	大和緑化株式会社
305	株式会社大久保建設	381	中村土建株式会社	457	上野ハウス株式会社	533	日本土木工業株式会社
306	勢州建設株式会社	382	松阪興産株式会社	458	奥中建設株式会社	534	株式会社ウエジ建設
307	株式会社奥村産業	383	丸亀産業株式会社	459	株式会社川口組	535	株式会社川合
308	有限会社浜村工務店	384	株式会社宮本組	460	共栄建設株式会社	536	有限会社徳田組
309	三愛建設株式会社	385	株式会社上山組	461	株式会社大栄	537	株式会社山口建設
310	有限会社共和建設	386	株式会社尾鍋組	462	大興土建株式会社	538	ユウテック株式会社
311	株式会社荻野建設	387	中井組株式会社	463	大同建設工業株式会社	539	崎建設株式会社
312	三舞建設株式会社	388	カネセ建設株式会社	464	中近向井工業株式会社	540	有限会社森溝組

寄附者一覧〔個人（一般）〕

番号	受付日	氏名	寄附金額（円）
1	H27. 8. 27	前田 敦	【非公表】
2	H27. 8. 28	内山 哲志	【非公表】
4	H27. 8. 30	谷川 高士	【非公表】
5	H27. 8. 30	服部 繁男	【非公表】
6	H27. 8. 31	太田 誠	【非公表】
7	H27. 9. 3	【非公表】	【非公表】
8	H27. 9. 5	堀内 正巳	【非公表】
9	H27. 9. 7	【非公表】	【非公表】
10	H27. 9. 7	【非公表】	【非公表】
11	H27. 9. 8	佐脇 優子	【非公表】
12	H27. 9. 10	【非公表】	【非公表】
13	H27. 9. 11	真弓 大伸	【非公表】
14	H27. 9. 11	加藤 竜将	【非公表】
15	H27. 9. 11	【非公表】	【非公表】
16	H27. 9. 17	岡本 幸治	【非公表】
17	H27. 9. 18	【非公表】	【非公表】
18	H27. 9. 21	太田 彩	【非公表】
19	H27. 9. 22	中出 真人	【非公表】
20	H27. 9. 24	【非公表】	5,000,000
22	H27. 10. 5	斧田 正長	【非公表】
23	H27. 10. 8	南 幸男	2,000
24	H27. 10. 10	飯田 啓貴	【非公表】
25	H27. 10. 12	金子 雄一	7,000
26	H27. 10. 13	前田 正男	【非公表】
27	H27. 10. 13	【非公表】	【非公表】
28	H27. 10. 15	【非公表】	【非公表】
29	H27. 10. 15	【非公表】	【非公表】
30	H27. 10. 20	中西 光男	5,000
31	H27. 10. 21	佐々木 勝己	【非公表】
32	H27. 10. 21	篠田 哲	10,000
33	H27. 10. 22	【非公表】	1,000
34	H27. 10. 22	瀬古 利男	10,000
35	H27. 10. 26	岡宗 眞一郎	100,000
36	H27. 10. 29	【非公表】	10,000
37	H27. 11. 2	【非公表】	【非公表】
38	H27. 11. 4	大久保 隆	10,000
39	H27. 11. 4	服部 素尚	【非公表】
40	H27. 11. 5	【非公表】	【非公表】
41	H27. 11. 5	後藤 雅和	5,000
42	H27. 11. 5	市川 純一	10,000
43	H27. 11. 5	田中 正孝	【非公表】
44	H27. 11. 11	矢田 泰生	1,000
45	H27. 11. 13	川喜田 宏	10,000
46	H27. 11. 14	【非公表】	【非公表】
47	H27. 11. 16	【非公表】	50,000
48	H27. 11. 17	【非公表】	【非公表】
49	H27. 11. 17	古賀 義文	1,000
50	H27. 11. 17	【非公表】	【非公表】
51	H27. 11. 19	湯川 光代	1,000
52	H27. 11. 20	榎本 宏	10,000,000
53	H27. 11. 20	【非公表】	【非公表】
54	H27. 11. 23	【非公表】	【非公表】
55	H27. 11. 24	【非公表】	【非公表】
56	H27. 11. 25	永井 玲子	【非公表】
57	H27. 11. 25	【非公表】	【非公表】
58	H27. 11. 26	園村 元弘	10,000
59	H27. 11. 27	阪本 勉	【非公表】
60	H27. 11. 29	【非公表】	【非公表】
61	H27. 11. 30	【非公表】	【非公表】
62	H27. 12. 3	【非公表】	【非公表】
63	H27. 12. 6	杉本 正直	2,000
64	H27. 12. 6	【非公表】	【非公表】
65	H27. 12. 7	【非公表】	【非公表】
66	H27. 12. 7	小川 みどり	10,000
67	H27. 12. 9	小路 裕弘	【非公表】
68	H27. 12. 9	湯浅 茂雄	10,000
69	H27. 12. 9	飛田 真一	【非公表】
70	H27. 12. 10	【非公表】	【非公表】

番号	受付日	氏名	寄附金額（円）
71	H27. 12. 11	【非公表】	【非公表】
72	H27. 12. 13	稲葉 嘉久	【非公表】
73	H27. 12. 14	宮田 金譽	20,000
74	H27. 12. 14	【非公表】	【非公表】
75	H27. 12. 15	米川 孝	100,000
76	H27. 12. 17	別所 智司	【非公表】
77	H27. 12. 18	【非公表】	【非公表】
78	H27. 12. 19	【非公表】	【非公表】
79	H27. 12. 21	玉津 欽治	10,000
80	H27. 12. 21	玉津 貞子	10,000
81	H27. 12. 22	【非公表】	【非公表】
82	H27. 12. 24	東山 大	20,000
83	H27. 12. 24	【非公表】	【非公表】
84	H27. 12. 25	【非公表】	【非公表】
85	H28. 1. 4	【非公表】	【非公表】
86	H28. 1. 4	【非公表】	30,000
87	H28. 1. 4	【非公表】	【非公表】
89	H28. 1. 8	【非公表】	1,000
90	H28. 1. 8	森 正則	10,000
91	H28. 1. 9	山田 憲一	【非公表】
92	H28. 1. 12	井倉 一政	10,000
93	H28. 1. 13	加藤 敦央	10,000
94	H28. 1. 22	斉田 幸夫	2,000
95	H28. 1. 24	高士 雅史	5,000
96	H28. 1. 25	山本 美千代	10,000
97	H28. 1. 29	久米 繁則	10,000
98	H28. 2. 1	松永 智宏	30,000
99	H28. 2. 3	森谷 泰三	10,000
100	H28. 2. 9	【非公表】	【非公表】
101	H28. 2. 15	山下 敏広	5,000
102	H28. 2. 15	【非公表】	5,000
103	H28. 2. 15	古川 万	【非公表】
104	H28. 2. 18	矢代 由美子	3,000
106	H28. 2. 22	【非公表】	【非公表】
107	H28. 2. 25	梅谷 幸弘	2,000
108	H28. 2. 25	【非公表】	【非公表】
109	H28. 2. 26	【非公表】	【非公表】
110	H28. 3. 1	池尻 薫	10,000
111	H28. 3. 1	池尻 千代	5,000
112	H28. 3. 1	池尻 益夫	3,000
113	H28. 3. 10	平賀 尉哲	10,000
114	H28. 3. 14	山路 裕樹	【非公表】
115	H28. 4. 4	小沼 健悦	2,000
116	H28. 4. 5	東山 勝子	1,000
117	H28. 4. 5	東山 正美	1,000
118	H28. 4. 8	櫻井 八郎	1,500,000
120	H28. 4. 11	田中 守	50,000
121	H28. 4. 12	【非公表】	【非公表】
122	H28. 4. 14	山岡 義夫	2,000
123	H28. 4. 14	宮木 康雄	5,000
124	H28. 4. 17	【非公表】	【非公表】
125	H28. 4. 18	西野 正敏	10,000
126	H28. 4. 19	大西 丈二	【非公表】
127	H28. 4. 19	森 正則	10,000
128	H28. 4. 19	柘植 史雄	70,000
129	H28. 4. 25	遠山 堯郎	20,000
130	H28. 4. 27	萩原 剛	20,000
131	H28. 5. 2	阿部 正典	10,000
132	H28. 5. 6	岡村 是彦	10,000
133	H28. 5. 8	早川 善久	20,000
134	H28. 5. 10	大西 昌澄	【非公表】
135	H28. 5. 10	【非公表】	【非公表】
136	H28. 5. 10	村井 克昌	10,000
137	H28. 5. 16	【非公表】	10,000
138	H28. 5. 20	【非公表】	【非公表】
139	H28. 5. 21	【非公表】	2,000
140	H28. 5. 24	【非公表】	5,000
141	H28. 5. 25	【非公表】	【非公表】

番号	受付日	氏名	寄附金額 (円)
142	H28. 5. 27	倉田 美佳	20,000
143	H28. 5. 28	中里 瑠花	【非公表】
144	H28. 5. 30	石原 健哉	30,000
145	H28. 5. 30	村口 正人	【非公表】
計	140	件	25,465,538

寄附者一覧 [個人 (クラウドファンディング)]

番号	受付日	氏名	寄附金額 (円)
1	H27. 12. 16	【非公表】	【非公表】
2	H27. 12. 16	小澤 宏幸	500
3	H27. 12. 16	【非公表】	【非公表】
4	H27. 12. 16	林 健太郎	【非公表】
5	H27. 12. 16	【非公表】	【非公表】
6	H27. 12. 17	【非公表】	【非公表】
7	H27. 12. 17	【非公表】	【非公表】
8	H27. 12. 17	【非公表】	【非公表】
9	H27. 12. 17	【非公表】	【非公表】
10	H27. 12. 17	【非公表】	【非公表】
11	H27. 12. 17	【非公表】	【非公表】
12	H27. 12. 17	東 秀光	【非公表】
13	H27. 12. 17	堀田 英伸	2,000
14	H27. 12. 17	【非公表】	【非公表】
15	H27. 12. 17	【非公表】	【非公表】
16	H27. 12. 21	美濃谷 正徳	【非公表】
17	H27. 12. 17	【非公表】	【非公表】
18	H27. 12. 18	村主 清尚	5,000
19	H27. 12. 18	【非公表】	【非公表】
20	H27. 12. 18	【非公表】	【非公表】
21	H27. 12. 18	宮本 聡	【非公表】
22	H27. 12. 18	【非公表】	【非公表】
23	H27. 12. 21	堅田 正樹	1,000
24	H27. 12. 19	【非公表】	【非公表】
25	H27. 12. 19	【非公表】	【非公表】
26	H27. 12. 19	【非公表】	【非公表】
27	H27. 12. 21	【非公表】	【非公表】
28	H27. 12. 23	【非公表】	【非公表】
29	H27. 12. 23	【非公表】	【非公表】
30	H27. 12. 24	【非公表】	【非公表】
31	H27. 12. 25	佐熊 薫	2,000
32	H27. 12. 25	【非公表】	【非公表】
33	H27. 12. 25	海住 禎人	【非公表】
34	H27. 12. 28	【非公表】	【非公表】
35	H27. 12. 28	【非公表】	【非公表】
36	H28. 1. 3	【非公表】	【非公表】
37	H28. 1. 5	【非公表】	【非公表】
38	H28. 1. 5	【非公表】	【非公表】
39	H28. 1. 6	【非公表】	【非公表】
40	H28. 1. 7	山敷 剛	2,000
41	H28. 1. 8	【非公表】	10,000
42	H28. 1. 10	【非公表】	【非公表】
43	H28. 1. 12	【非公表】	【非公表】
44	H28. 1. 12	黒澤 優	【非公表】
45	H28. 1. 13	【非公表】	【非公表】
46	H28. 1. 13	【非公表】	【非公表】
47	H28. 1. 14	【非公表】	【非公表】
48	H28. 1. 15	【非公表】	【非公表】
49	H28. 1. 15	【非公表】	【非公表】
50	H28. 1. 15	【非公表】	【非公表】
51	H28. 1. 15	【非公表】	【非公表】
52	H28. 1. 15	【非公表】	【非公表】
53	H28. 1. 15	【非公表】	【非公表】
54	H28. 1. 15	【非公表】	【非公表】
55	H28. 1. 15	【非公表】	【非公表】
56	H28. 1. 15	【非公表】	【非公表】
57	H28. 1. 15	【非公表】	【非公表】
58	H28. 1. 15	【非公表】	【非公表】
59	H28. 1. 16	岡村 昌和	10,000

番号	受付日	氏名	寄附金額 (円)
60	H28. 1. 16	井上 誠二	2,000
61	H28. 1. 16	【非公表】	【非公表】
62	H28. 1. 17	【非公表】	【非公表】
63	H28. 1. 17	【非公表】	【非公表】
64	H28. 1. 18	【非公表】	【非公表】
65	H28. 1. 19	【非公表】	【非公表】
66	H28. 1. 19	【非公表】	【非公表】
67	H28. 1. 19	【非公表】	【非公表】
68	H28. 1. 20	【非公表】	【非公表】
69	H28. 1. 20	高沖 芳寿	【非公表】
70	H28. 1. 20	【非公表】	【非公表】
71	H28. 1. 21	【非公表】	【非公表】
72	H28. 1. 21	【非公表】	【非公表】
73	H28. 1. 21	【非公表】	【非公表】
74	H28. 1. 23	【非公表】	【非公表】
75	H28. 1. 23	【非公表】	【非公表】
76	H28. 1. 23	【非公表】	【非公表】
77	H28. 1. 23	【非公表】	【非公表】
78	H28. 1. 24	【非公表】	【非公表】
79	H28. 1. 24	【非公表】	【非公表】
80	H28. 1. 24	【非公表】	【非公表】
81	H28. 1. 24	犬塚 卓磨	3,000
82	H28. 1. 25	【非公表】	【非公表】
83	H28. 1. 26	【非公表】	【非公表】
84	H28. 1. 26	【非公表】	【非公表】
85	H28. 1. 27	【非公表】	【非公表】
86	H28. 1. 27	【非公表】	【非公表】
87	H28. 1. 27	【非公表】	【非公表】
88	H28. 1. 27	【非公表】	【非公表】
89	H28. 1. 27	【非公表】	【非公表】
90	H28. 1. 28	【非公表】	【非公表】
91	H28. 1. 29	【非公表】	【非公表】
92	H28. 1. 30	【非公表】	【非公表】
93	H28. 1. 30	【非公表】	【非公表】
94	H28. 1. 31	【非公表】	【非公表】
95	H28. 1. 31	【非公表】	【非公表】
96	H28. 1. 31	【非公表】	【非公表】
97	H28. 1. 31	【非公表】	【非公表】
98	H28. 1. 31	【非公表】	【非公表】
99	H28. 1. 31	【非公表】	【非公表】
100	H28. 1. 31	【非公表】	【非公表】
101	H28. 1. 31	【非公表】	【非公表】
102	H28. 2. 1	【非公表】	【非公表】
103	H28. 2. 1	【非公表】	【非公表】
104	H28. 2. 1	【非公表】	【非公表】
105	H28. 2. 1	浜田 敏貴	【非公表】
106	H28. 2. 2	【非公表】	【非公表】
107	H28. 2. 2	【非公表】	【非公表】
108	H28. 2. 2	【非公表】	【非公表】
109	H28. 2. 2	【非公表】	【非公表】
110	H28. 2. 3	【非公表】	【非公表】
111	H28. 2. 3	【非公表】	【非公表】
112	H28. 2. 4	中村 晃康	【非公表】
113	H28. 2. 4	【非公表】	【非公表】
114	H28. 2. 5	【非公表】	【非公表】
115	H28. 2. 6	中西 友彦	【非公表】
116	H28. 2. 6	【非公表】	【非公表】
117	H28. 2. 7	【非公表】	【非公表】
118	H28. 2. 7	【非公表】	【非公表】
119	H28. 2. 7	【非公表】	【非公表】
120	H28. 2. 8	【非公表】	【非公表】
121	H28. 2. 8	【非公表】	【非公表】
122	H28. 2. 8	【非公表】	【非公表】
123	H28. 2. 8	【非公表】	【非公表】
124	H28. 2. 8	【非公表】	【非公表】
125	H28. 2. 8	【非公表】	【非公表】
126	H28. 2. 8	【非公表】	【非公表】
127	H28. 2. 9	【非公表】	【非公表】

番号	受付日	氏名	寄附金額 (円)
128	H28. 2. 9	【非公表】	3,000
129	H28. 2. 10	佐藤 晶英	【非公表】
130	H28. 2. 10	【非公表】	【非公表】
131	H28. 2. 10	【非公表】	【非公表】
132	H28. 2. 10	【非公表】	【非公表】
133	H28. 2. 11	【非公表】	【非公表】
134	H28. 2. 11	【非公表】	【非公表】
135	H28. 2. 11	【非公表】	【非公表】
136	H28. 2. 12	【非公表】	【非公表】
137	H28. 2. 12	【非公表】	【非公表】
138	H28. 2. 12	【非公表】	【非公表】
139	H28. 2. 12	【非公表】	【非公表】
140	H28. 2. 12	【非公表】	【非公表】
141	H28. 2. 13	【非公表】	【非公表】
142	H28. 2. 13	【非公表】	【非公表】
143	H28. 2. 14	【非公表】	【非公表】
144	H28. 2. 14	【非公表】	【非公表】
145	H28. 2. 14	【非公表】	【非公表】
146	H28. 2. 15	原 志穂	【非公表】
147	H28. 2. 15	【非公表】	【非公表】
148	H28. 2. 15	【非公表】	【非公表】
149	H28. 2. 15	【非公表】	【非公表】
150	H28. 2. 16	【非公表】	【非公表】
151	H28. 2. 16	【非公表】	【非公表】
152	H28. 2. 16	【非公表】	【非公表】
153	H28. 2. 16	【非公表】	【非公表】
154	H28. 2. 16	【非公表】	【非公表】
155	H28. 2. 16	【非公表】	【非公表】
156	H28. 2. 17	松橋 陽一郎	【非公表】
157	H28. 2. 18	山本 英樹	2,000
158	H28. 2. 18	三澤 雅子	【非公表】
159	H28. 2. 18	【非公表】	【非公表】
160	H28. 2. 18	嶋田 大輝	2,000
161	H28. 2. 19	【非公表】	【非公表】
162	H28. 2. 19	【非公表】	【非公表】
163	H28. 2. 20	【非公表】	【非公表】
164	H28. 2. 21	【非公表】	【非公表】
165	H28. 2. 21	【非公表】	【非公表】
166	H28. 2. 21	【非公表】	【非公表】
167	H28. 2. 21	【非公表】	【非公表】
168	H28. 2. 21	馬場 立巳	2,000
169	H28. 2. 22	【非公表】	【非公表】
170	H28. 2. 23	【非公表】	【非公表】
171	H28. 2. 23	【非公表】	【非公表】
172	H28. 2. 24	小林 俊也	2,000
173	H28. 2. 24	【非公表】	【非公表】
174	H28. 2. 24	山口 尚茂	2,000
175	H28. 2. 24	和田 真幸	【非公表】
176	H28. 2. 24	【非公表】	【非公表】
177	H28. 2. 24	【非公表】	【非公表】
178	H28. 2. 24	【非公表】	【非公表】
179	H28. 2. 24	【非公表】	【非公表】
180	H28. 2. 24	【非公表】	【非公表】
181	H28. 2. 25	【非公表】	【非公表】
182	H28. 2. 25	【非公表】	【非公表】
183	H28. 2. 25	【非公表】	【非公表】
184	H28. 2. 26	【非公表】	【非公表】
185	H28. 2. 26	【非公表】	【非公表】
186	H28. 2. 26	【非公表】	【非公表】
187	H28. 2. 26	【非公表】	【非公表】
188	H28. 2. 26	【非公表】	【非公表】
189	H28. 2. 26	【非公表】	【非公表】
190	H28. 2. 26	【非公表】	【非公表】
191	H28. 2. 26	【非公表】	【非公表】
192	H28. 2. 26	【非公表】	【非公表】
193	H28. 2. 26	【非公表】	【非公表】
194	H28. 2. 26	高松 宏幸	【非公表】
195	H28. 2. 26	【非公表】	【非公表】

番号	受付日	氏名	寄附金額 (円)
196	H28. 2. 26	【非公表】	【非公表】
197	H28. 2. 26	【非公表】	【非公表】
198	H28. 2. 26	【非公表】	【非公表】
199	H28. 2. 26	【非公表】	【非公表】
200	H28. 2. 26	野村 廉士	【非公表】
201	H28. 2. 26	【非公表】	【非公表】
202	H28. 2. 26	【非公表】	【非公表】
203	H28. 2. 27	【非公表】	【非公表】
204	H28. 2. 27	【非公表】	【非公表】
205	H28. 2. 27	【非公表】	【非公表】
206	H28. 2. 27	【非公表】	【非公表】
207	H28. 2. 27	【非公表】	【非公表】
208	H28. 2. 28	【非公表】	【非公表】
209	H28. 2. 28	【非公表】	【非公表】
210	H28. 2. 28	山内 大祐	【非公表】
211	H28. 2. 28	前田 彩葉	【非公表】
212	H28. 2. 28	前田 陽彩	【非公表】
213	H28. 2. 28	河井 英利	【非公表】
214	H28. 2. 28	【非公表】	【非公表】
215	H28. 2. 28	稲垣 智代	【非公表】
216	H28. 2. 29	【非公表】	【非公表】
217	H28. 2. 29	奥野 元洋	2,000
218	H28. 2. 29	中野 広海	3,000
219	H28. 2. 29	三澤 篤志	3,000
220	H28. 2. 29	稲垣 真	2,000
221	H28. 2. 29	【非公表】	【非公表】
222	H28. 2. 29	高沖 芳寿	10,000
223	H28. 2. 29	【非公表】	【非公表】
224	H28. 2. 29	【非公表】	【非公表】
225	H28. 2. 29	【非公表】	【非公表】
226	H28. 2. 29	【非公表】	【非公表】
227	H28. 2. 29	【非公表】	【非公表】
228	H28. 2. 29	【非公表】	【非公表】
229	H28. 2. 29	【非公表】	【非公表】
230	H28. 2. 29	竹内 正幸	【非公表】
231	H28. 2. 29	福家 明子	【非公表】
232	H28. 2. 29	今井 亮太	3,000
233	H28. 2. 29	【非公表】	【非公表】
234	H28. 2. 29	【非公表】	【非公表】
235	H28. 2. 29	【非公表】	【非公表】
236	H28. 2. 29	木場本 真一	【非公表】
237	H28. 2. 29	【非公表】	【非公表】
238	H28. 2. 29	山本 規晴	【非公表】
239	H28. 2. 29	【非公表】	【非公表】
240	H28. 2. 29	早川 哲生	3,310
241	H28. 2. 29	【非公表】	【非公表】
242	H28. 2. 29	【非公表】	【非公表】
243	H28. 2. 29	【非公表】	【非公表】
244	H28. 2. 29	山本 明	3,310
245	H28. 2. 29	水越 成孝	2,000
246	H28. 2. 29	【非公表】	33,100
247	H28. 2. 29	【非公表】	【非公表】
248	H28. 2. 29	西村 尚子	2,000
計	248	件	812,473

※ 氏名、金額の公表に同意がある寄附者を掲載。同意がない場合は【非公表】と記載。番号の欠番は申込を取り消したものの。

資料15

サミット食材等活用リスト

1 首脳に提供された県産食材

番号	場面	分類	市町	品目	関連事業者名 [※]
1	5月26日ワーキング・ランチ	水産業	志摩市	鯉節	
2	5月26日ワーキング・ランチ	水産業	志摩市	鯛（造り）	
3	5月26日ワーキング・ランチ	水産業	志摩市	鱧（造り）	
4	5月26日ワーキング・ランチ	水産業	志摩市	鯨（造り）	
5	5月26日ワーキング・ランチ	水産業	志摩市	油目（炊合せ）	
6	5月26日ワーキング・ランチ	農業	熊野市	熊野地鶏（前菜）	
7	5月26日ワーキング・ランチ	農業	津市	胡瓜（造り）	
8	5月26日ワーキング・ランチ	農業	南牟婁郡	マイヤーレモン果汁（前菜）	
9	5月26日ワーキング・ランチ	水産業	尾鷲市	太刀魚（造り）	
10	5月26日ワーキング・ランチ	農業	桑名市	フルーツトマト（前菜）	
11	5月26日ワーキング・ランチ	水産業	桑名市	蛤（御椀）	
12	5月26日ワーキング・ランチ	水産業	鳥羽市	若布（御椀）	
13	5月26日ワーキング・ランチ	農業	大台町	山葵（造り）	
14	5月26日ワーキング・ランチ	農業	伊勢市	空豆（前菜）	
15	5月26日ワーキング・ランチ	農業	伊勢市	里芋（炊合せ）	
16	5月26日ワーキング・ランチ	農業	伊勢市	伊勢醤油（造り）	
17	5月26日ワーキング・ランチ	林業	松阪市	椎茸（炊合せ）	
18	5月26日ワーキング・ランチ	農業	大紀町	特産松阪牛（食事）	松阪牛協議会
19	5月26日ワーキング・ランチ	農業	伊賀市	伊賀牛（焼物）	
20	5月26日ワーキング・ランチ	農業	伊賀市	米（食事）	
21	5月26日ワーキング・ランチ	水産業	度会郡	鯛（前菜）	
22	5月26日ワーキング・ランチ	水産業	度会郡	伊勢まぐろ（造り）	
23	5月26日ワーキング・ディナー	農業	津市	トマト（前菜）	
24	5月26日ワーキング・ディナー	農業	伊勢市	トマト（前菜）	
25	5月26日ワーキング・ディナー	水産業	志摩市	鮑（前菜、魚料理）	
26	5月26日ワーキング・ディナー	水産業	志摩市	金目鯛（前菜）	
27	5月26日ワーキング・ディナー	水産業	志摩市	真珠貝柱（前菜）	
28	5月26日ワーキング・ディナー	水産業	志摩市	伊勢えび（スープ）	
29	5月26日ワーキング・ディナー	水産業	志摩市	あおさ（魚料理）	
30	5月26日ワーキング・ディナー	水産業	志摩市	車海老（前菜）	
31	5月26日ワーキング・ディナー	水産業	桑名市	蛤（前菜）	
32	5月26日ワーキング・ディナー	水産業	紀北町	アオリイカ（前菜）	
33	5月26日ワーキング・ディナー	農業	度会郡	卵（ロワイヤル）（スープ）	
34	5月26日ワーキング・ディナー	農業	度会郡	セミノール（デザート）	
35	5月26日ワーキング・ディナー	農業	伊賀市	伊賀米コシヒカリ（リゾット）（魚料理）	全国農業協同組合中央会
36	5月26日ワーキング・ディナー	農業	松阪市	松阪牛（肉料理）	
37	5月26日ワーキング・ディナー	林業	松阪市	アラゲキクラゲ（肉料理）	
38	5月26日ワーキング・ディナー	林業	松阪市	しいたけ（肉料理）	
39	5月26日ワーキング・ディナー	農業	大台町	わさび（肉料理）	
40	5月26日ワーキング・ディナー	農業	四日市市	伊勢茶（肉料理）	
41	5月26日ワーキング・ディナー	林業	鈴鹿市	花びら茸（肉料理）	
42	5月27日ワーキング・ランチ	林業	松阪市	椎茸（炊合せ）	
43	5月27日ワーキング・ランチ	農業	大紀町	特産松阪牛（肉料理）	松阪牛協議会
44	5月27日ワーキング・ランチ	農業	松阪市	新玉葱（揚げ物）	
45	5月27日ワーキング・ランチ	水産業	志摩市	鱈（口取り）	
46	5月27日ワーキング・ランチ	水産業	志摩市	鮑（揚げ物）	
47	5月27日ワーキング・ランチ	農業	志摩市	南張メロン（水菓子）	
48	5月27日ワーキング・ランチ	水産業	志摩市	桜扇貝（炊合せ）	
49	5月27日ワーキング・ランチ	水産業	志摩市	鯛の子（炊合せ）	
50	5月27日ワーキング・ランチ	水産業	志摩市	鯨（寿司）	
51	5月27日ワーキング・ランチ	農業	志摩市	船越味噌（御椀）	
52	5月27日ワーキング・ランチ	農業	志摩市	三つ葉（御椀）	
53	5月27日ワーキング・ランチ	水産業	桑名市	蛤（口取り）	
54	5月27日ワーキング・ランチ	農業	熊野市	ボン酢（マイヤーレモン土佐酢入り）（肉料理）	
55	5月27日ワーキング・ランチ	農業	伊勢市	伊勢どり（口取り）	
56	5月27日ワーキング・ランチ	農業	伊勢市	空豆（口取り）	
57	5月27日ワーキング・ランチ	水産業	伊勢市	鱧（揚げ物）	
58	5月27日ワーキング・ランチ	水産業	伊勢市	穴子（寿司）	
59	5月27日ワーキング・ランチ	水産業	伊勢市	浅利（御椀）	
60	5月27日ワーキング・ランチ	水産業	鳥羽市	海苔（揚げ物）	

※：関連事業者名は無償提供等されたものであることを県民会議が確認できたものを記載。

2 配偶者に提供された県産食材

番号	場面	分類	市町	品目	関連事業者名 [※]
1	5月26日総理夫人主催昼食会	水産業	志摩市	酒盗（八寸）	
2	5月26日総理夫人主催昼食会	水産業	志摩市	鳥賊（八寸）	
3	5月26日総理夫人主催昼食会	水産業	志摩市	初かつお（八寸）	
4	5月26日総理夫人主催昼食会	水産業	志摩市	車海老（八寸）	
5	5月26日総理夫人主催昼食会	水産業	志摩市	あおりふぐ（八寸）	
6	5月26日総理夫人主催昼食会	水産業	志摩市	伊勢えび（煮物椀）	
7	5月26日総理夫人主催昼食会	農業	熊野市	熊野地鶏（八寸）	熊野市ふるさと振興公社
8	5月26日総理夫人主催昼食会	農業	多気町	ミニトマト（八寸）	
9	5月26日総理夫人主催昼食会	農業	津市	卵（だし巻き卵）	
10	5月26日総理夫人主催昼食会	農業	多気町	卵（八寸）	
11	5月26日総理夫人主催昼食会	農業	明和町	特産松阪牛（すき焼き）	全国農業協同組合中央会
12	5月26日総理夫人主催昼食会	農業	松阪市	松阪赤菜（御飯）	
13	5月26日総理夫人主催昼食会	農業	松阪市	伊勢茶	
14	5月26日総理夫人主催昼食会	農業	伊賀市	結びの神（米）（八寸）	
15	5月26日総理夫人主催昼食会	農業	大紀町	大内山牛乳（八寸）	
16	5月26日総理夫人主催昼食会	水産業	鳥羽市	五月鱒（八寸）	株式会社T A 西村
17	5月26日総理夫人主催昼食会	水産業	松阪市	五月鱒（八寸）	うきさと清流センター
18	5月26日総理夫人主催昼食会	水産業	伊勢市	穴子（八寸）	
19	5月26日総理夫人主催昼食会	水産業	志摩市	アワビ（八寸）	
20	5月26日総理夫人主催昼食会	農業	松阪市	大根（煮物椀）	
21	5月26日総理夫人主催昼食会	水産業	志摩市	あおさ（だし巻き卵）	
22	5月26日総理夫人主催昼食会	林業	四日市市	椎茸（すき焼き）	野呂食品株式会社
23	5月26日総理夫人主催昼食会	林業	鈴鹿市	本シメジ（すき焼き）	
24	5月26日総理夫人主催昼食会	農業	松阪市	こまつな（すき焼き）	
25	5月26日総理夫人主催昼食会	農業	松阪市	たまねぎ（すき焼き）	
26	5月26日総理夫人主催昼食会	農業	松阪市	ごぼう（すき焼き）	
27	5月26日総理夫人主催昼食会	農業	松阪市	ニンジン（すき焼き）	
28	5月26日総理夫人主催昼食会	農業	松阪市	白ねぎ（すき焼き）	
29	5月26日総理夫人主催昼食会	農業	松阪市	焼豆腐（すき焼き）	
30	5月26日総理夫人主催昼食会	農業	松阪市	温泉卵（すき焼き）	
31	5月26日総理夫人主催昼食会	農業	多気町	醤油（すき焼き）	
32	5月26日総理夫人主催昼食会	林業	伊勢市	はたけしめじ（すき焼き）	鈴鹿はなびらたけ工房
33	5月26日総理夫人主催昼食会	農業	伊勢市	味噌（御飯）	
34	5月26日総理夫人主催昼食会	水産業	志摩市	あおさ（御飯）	
35	5月26日総理夫人主催昼食会	農業	松阪市	キャベツ（御飯）	
36	5月26日総理夫人主催夕食会	農業	大紀町	特産松阪牛（御飯）	全国農業協同組合中央会
37	5月26日総理夫人主催夕食会	農業	伊賀市	伊賀牛	
38	5月26日総理夫人主催夕食会	水産業	南伊勢町	三重鮪	
39	5月27日昼食会	水産業	志摩市	黒鮪	
40	5月27日昼食会	農業		伊勢茶	
41	5月27日昼食会	農業	大紀町	特産松阪牛	全国農業協同組合中央会
42	5月27日昼食会	農業	大台町	ワサビ	
43	配偶者プログラム	菓子類	桑名市	シフォンケーキ	はあぶ工房
44	配偶者プログラム	菓子類	伊賀市	伊賀の飛猿サブレ	ふっくりあモオンマール
45	配偶者プログラム	農業	度会町	伊勢茶	中森製茶

※：関連事業者名は無償提供等されたものであることを県民会議が確認できたものを記載。

3 サミットで提供された飲料・軽食

番号	分類	市町	事業者	銘柄	備考
1	日本酒	明和町	旭酒造	伊勢旭 純米酒	
2	日本酒	朝日町	安達本家酒造	純米大吟醸 富士の光	
3	日本酒	四日市市	石川酒造	噴井 純米吟醸 石川改詰	
4	日本酒	伊勢市	伊勢萬	おかげさま 大吟醸	
5	日本酒	四日市市	伊藤酒造	純米大吟醸 鈿女	
6	日本酒	津市	今村酒造	純米吟醸 白砂青松	
7	日本酒	伊賀市	大田酒造	半蔵 純米大吟醸	乾杯酒 (26日ワーキング・ディナー)
8	日本酒	伊賀市	大田酒造	半蔵 大吟醸 伊賀山田錦	
9	日本酒	四日市市	神楽酒造	純米酒 神楽	
10	日本酒	多気町	河武醸造	鉾杉 弓形穂しずく 純米吟醸酒	
11	日本酒	津市	寒紅梅酒造	純米吟醸 寒紅梅	
12	日本酒	名張市	木屋正酒造	而今 純米吟醸 山田錦	食中酒 (27日ワーキング・ランチ)
13	日本酒	大台町	元坂酒造	酒屋八兵衛 伊勢錦山麩	
14	日本酒	大台町	元坂酒造	酒屋八兵衛 山麩純米酒 伊勢錦	食中酒 (26日ワーキング・ランチ)
15	日本酒	桑名市	(資)後藤酒造場	青雲 大吟醸	
16	日本酒	名張市	澤佐酒造 (名)	純米吟醸 アンプレヴェユ	
17	日本酒	鈴鹿市	清水清三郎商店	作 智 純米大吟醸 滴取り	乾杯酒 (26日ワーキング・ランチ)
18	日本酒	鈴鹿市	清水清三郎商店	作 純米酒	カクテル
19	日本酒	鈴鹿市	清水清三郎商店	作 雅乃智 中取り	
20	日本酒	四日市市	タカハシ酒造	天遊琳 特別純米酒	
21	日本酒	名張市	瀧自慢酒造	純米大吟醸 瀧自慢	
22	日本酒	名張市	瀧自慢酒造	瀧自慢 辛口純米 滝水流	食中酒 (26日ワーキング・ディナー)
23	日本酒	名張市	瀧自慢酒造	瀧自慢 純米大吟醸	乾杯酒 (27日ワーキング・ランチ)
24	日本酒	伊賀市	中井酒造場	純米大吟醸 三重錦	
25	日本酒	松阪市	中山酒造	琥珀城 純米	
26	日本酒	松阪市	新良酒造	古色蒼然 15年余	
27	日本酒	菰野町	(名)早川酒造	特別純米酒 田光 神の穂	
28	日本酒	名張市	(名)福持酒造場	純米酒 天下錦	
29	日本酒	桑名市	細川酒造	上げ馬 純米吟醸 山田錦	
30	日本酒	四日市市	丸彦酒造	純米吟醸 三重の寒梅	
31	日本酒	四日市市	清水清三郎商店/三菱化学	concentration 作 凝縮 H	
32	日本酒	四日市市	宮崎本店	純米大吟醸 宮の雪 酒魂	
33	日本酒	四日市市	宮崎本店	宮の雪 純米酒	カクテル
34	日本酒	伊賀市	(名)森本仙衛門商店	MORIMOTO Vintage SAKE 1998	
35	日本酒	伊賀市	若戎酒造	育醗 純米吟醸 真秀	
36	日本酒	伊賀市	若戎酒造	BLACK 三重山田錦 純米吟醸 義左衛門	
37	水	大台町	森と水を守る会	森の番人	カクテル、コーヒープレイク
38	ジュース	紀北町	デアルケ	200%トマトジュース	カクテル、コーヒープレイク
39	ジュース	南伊勢町	農事組合法人土実樹	五ヶ所みかん完熟こつぶストレートジュース	カクテル、コーヒープレイク
40	ジュース	御浜町	御浜柑橘	孫心完熟みかんジュース	カクテル、コーヒープレイク
41	ジュース	御浜町	御浜柑橘	みかんのしずく	
42	ジュース	熊野市	夢工房くまの	マルチみかん100%ジュース	カクテル、コーヒープレイク
43	菓子類	志摩市	志摩観光ホテル	落雁 (和三盆)	
44	菓子類	伊勢市	シラセ	神宮スギ	
45	菓子類	四日市市	洋菓子ナポレオン	本かぶせ茶フィナンシェ	
46	菓子類	伊勢市	ふらんす (有)	伊勢茶生チョコレート	
47	菓子類	鳥羽市	ブランカ	シエルレーヌ	

4 (1) IMCで提供された県産食材

番号	分類	市町 ^{※1}	食材名	ブランド	関連事業者名 ^{※2}
1	水産業	志摩市	アオサ		三重県漁業協同組合連合会
2	水産業	紀北町	アオサ		みやまや
3	水産業	紀北町	アオリイカ		魚匠 海人
4	水産業	志摩市	アカモク		三重外湾漁業協同組合志摩支所
5	水産業	紀北町	アワビ		魚匠 海人
6	水産業	桑名市	黒海苔		伊曾島漁業協同組合
7	水産業	南伊勢町	クロマグロ (養殖)	なだまぐろ	三重外湾漁業協同組合
8	水産業	松阪市	サツキマス (養殖)	みえサツキマス	うきさと清流センター
9	その他	尾鷲市	塩	しお学舎の塩	(株) モクモクしお学舎
10	水産業	紀北町	トコブシ		魚匠 海人
11	水産業	尾鷲市	ヒジキ		三重県漁業協同組合連合会
12	水産業	尾鷲市	ブリ (養殖)		尾鷲物産 (株)
13	水産業	南伊勢町	マダイ (養殖)	伊勢まだい	三重県漁業協同組合連合会
14	水産業	南伊勢町	マダイ (養殖)	お炭付き鯛	(株) 南勢水産
15	水産業	尾鷲市	マハタ (養殖)	おわせマハタ	尾鷲市海面養殖振興協議会
16	水産業	尾鷲市	メバチマグロ	長久丸のもちもちマグロ	(株) 長久丸
17	水産業	紀北町	伊勢えび		魚匠 海人
18	水産業		伊勢えび粉末		(有) 珍海堂
19	水産業		海老	剥き海老	(株) 松阪魚市
20	水産業	木曾岬町	黒海苔	桑名海苔 (焼き海苔)	木曾岬漁業協同組合
21	水産業	鈴鹿市	黒海苔		鈴鹿市漁業協同組合
22	水産業	南伊勢町	アサリ	剥きアサリ	
23	水産業	南伊勢町	クロマグロ (養殖)	伊勢まぐろ	三重県漁業協同組合連合会
24	水産業	桑名市	ハマグリ	活ハマグリ・剥きハマグリ	
25	水産業	南伊勢町	ヒオウギガイ	剥きヒオウギ貝 (冷凍)	三重県漁業協同組合連合会
26	水産業	尾鷲市	マダイ (養殖)		
27	その他	伊勢市	飴菓子	みえックスキャンディ3	(株) 松屋製菓
28	その他	伊勢市	地ビール	パールエール	(有) 二軒茶屋餅角屋本店
29	その他	玉城町	醤油	伊勢のあま〜いおさしみしょうゆ	(資) 西村商店
30	その他		チーズケーキ		(株) 鳥羽国際ホテル
31	その他	玉城町	調味料	伊勢うどんのたれ(アオサ入り)	(資) 西村商店
32	その他	津市	個包装焼き菓子	平治煎餅	(有) 平治煎餅本店
33	その他	松阪市	和菓子	老伴	(株) 柳屋奉善
34	農業		伊勢うどん麺	伊勢うどん	(有) かいだ食品
35	農業	四日市市	伊勢抹茶	奥雲母	(有) 萩村製茶
36	農業	伊賀市	猪肉	みえジビエ (猪肉)	(株) サンシヨク
37	農業	いなべ市	加工肉	さくらポーク熟成ウイン ナー・ペーコン・ロースハム	(株) サンシヨク
38	農業	伊賀市	加工肉	みえジビエ鹿肉ハンバーグ	(株) サンシヨク
39	農業	松阪市	加工肉	プレミアム松阪豚生ハム	(有) ミスズ
40	農業	熊野市	カラマンダリン	南紀みかん	三重南紀農業協同組合
41	農業	御浜町	カラマンダリン	南紀みかん	三重南紀農業協同組合
42	農業	紀宝町	カラマンダリン	南紀みかん	三重南紀農業協同組合
43	農業	御浜町	柑橘ジュース	100%みかんジュース	(株) かさうち農園
44	農業	熊野市	柑橘ジュース	みかん100%ジュース (マルチ栽培)	(株) 夢工房くまの
45	農業	御浜町	柑橘ジュース	セミノール青みかんどリンク	農業生産法人 (有) すぎもと農園
46	農業	御浜町	柑橘ジュース	みかんしぼり	農業生産法人 (有) すぎもと農園
47	農業	名張市	牛肉	伊賀牛	伊賀産肉牛生産振興協議会
48	農業	名張市	牛肉	伊賀牛	(株) サンシヨク
49	農業		大内山牛乳		大内山酪農農業協同組合
50	農業		山村牛乳		(有) 山村乳業
51	農業	伊賀市	グリーンアスパラガス	伊賀産グリーンアスパラガス	伊賀園芸振興協議会
52	農業	名張市	グリーンアスパラガス	伊賀産グリーンアスパラガス	伊賀園芸振興協議会
53	農業	松阪市	鶏肉	三重県産錦爽どり	丸トポトリー食品 (株) 松阪工場
54	農業	紀北町	鶏卵		垣善フレッジ (株)
55	農業	松阪市	鶏卵		(株) 山下鶏園
56	農業	伊賀市	鹿肉	みえジビエ (鹿肉)	いがまち山里の幸利活用組合かじか
57	農業	伊勢市	地産味噌		(株) 靴屋
58	農業	熊野市	新姫果汁		(一財) 熊野市ふるさと振興公社
59	農業	伊賀市	精米	伊賀米コシヒカリ	伊賀米振興協議会

番号	分類	市町※ ¹	食材名	ブランド	関連事業者名※ ²
60	農業	名張市	精米	伊賀米コシヒカリ	伊賀米振興協議会
61	農業		個包装豆腐	美し豆腐	井村屋(株)
62	農業	木曾岬町	トマト	木曾岬町産トマト	J Aみえきた木曾岬トマト部会
63	農業	木曾岬町	トマト	とまりッチ	J Aみえきた木曾岬トマト部会
64	農業	紀北町	トマト		(株) デアルケ
65	農業	紀北町	トマトジュース	200%トマトジュース	(株) デアルケ
66	農業	熊野市	鶏肉	熊野地鶏	熊野市ふるさと振興公社
67	農業		生クリーム・バター	大内山バター	大内山酪農農業協同組合
68	農業	四日市市	ハチミツ	百花蜜	川村養蜂場
69	農業		パック入り牛乳・コーヒー牛乳	大内山牛乳・大内山コーヒー	大内山酪農農業協同組合
70	農業	津市	豚肉	伊勢美稲豚	(株) 大里食肉センター
71	農業	いなべ市	豚肉	さくらポーク	(株) サンショク
72	農業	伊賀市	ベーコン	原形ベーコン	(株) 伊賀の里モクモク手づくりファーム
73	農業	御浜町	みえ紀南4号	みえのスマイル	(有) 御浜柑橘
74	農業	松阪市	ミニトマト(赤)		うれし野アグリ(株)
75	農業	津市	豚肉	伊勢美稲豚	(株) 大里畜産
76	農業	伊賀市	もろみ味噌		(株) 福岡醤油店
77	農業		焼そば麺		(株) 堀製麺
78	農業		ヨーグルト	大内山NAGヨーグルト	大内山酪農農業協同組合
79	農業	伊賀市	鹿肉	みえジビエ(鹿肉)	(株) サンショク
80	農業	菰野町	木綿豆腐	まめの郷 菰野名水とうふ もめん	(株) 八里屋
81	農業	津市	筍	筍水煮スライス	美里農産物加工組合
82	農業	尾鷲市	甘夏	尾鷲甘夏	全国農業協同組合中央会
83	農業		伊勢茶		全国農業協同組合中央会
84	農業	伊勢市	伊勢茶粉末		
85	農業	伊勢市	イチゴ	かおり野	全国農業協同組合中央会
86	農業	いなべ市	キヌサヤ		
87	農業	伊勢市	キヌサヤ		
88	農業	松阪市	牛肉	松阪牛	全国農業協同組合中央会
89	農業	四日市市	牛肉	三重県産和牛	全国農業協同組合中央会
90	農業	伊賀市	グリーンアスパラガス	伊賀産グリーンアスパラガス	全国農業協同組合中央会
91	農業	名張市	グリーンアスパラガス	伊賀産グリーンアスパラガス	全国農業協同組合中央会
92	農業		精米	結びの神	全国農業協同組合中央会
93	農業		精米	伊賀米コシヒカリ	伊賀米振興協議会
94	農業	四日市市	精米	結びの神	全国農業協同組合中央会
95	農業	津市	そば粉		
96	農業	伊勢市	ネギ	伊勢のねぎらいねぎ	伊勢農業協同組合
97	農業	津市	春キャベツ		全国農業協同組合中央会
98	農業	四日市市	万能ネギ		全国農業協同組合中央会
99	農業	名張市	水菜		全国農業協同組合中央会
100	農業	伊勢市	三つ葉		全国農業協同組合中央会
101	農業	津市	ミニトマト(黄)		
102	農業	四日市市	メロン	四日市メロン	
103	農業	伊勢市	もやし		
104	農業	鳥羽市	ローズマリー	生ローズマリー	
105	農業	津市	玉葱		
106	農業	桑名市	筍		
107	林業	松阪市	アラゲキクラゲ	アラゲキクラゲ	松阪飯南森林組合
108	林業	紀北町	菌床椎茸		海山きのこ園
109	林業	伊勢市	ハタケシメジ		鈴鹿はなびらたけ工房
110	林業	鈴鹿市	ハナビラタケ		鈴鹿はなびらたけ工房
111	林業	鈴鹿市	ヒラタケ		全国農業協同組合中央会
112	農業	津市	タマネギ		全国農業協同組合中央会
113	その他	大台町	飲料水	森の番人	有限会社森と水を守る会
114	その他	尾鷲市	飲料水	尾鷲市海洋深層水	尾鷲市水産課
115	その他		菓子類	伊勢茶冷やしぜんざい	井村屋(株)
116	その他		菓子類	あずきバー	井村屋(株)
117	農業	津市	みえパン(9種類)	みえジビエ(鹿肉)・鈴鹿ハナビラタケ・松阪牛・三重県産錦爽どり・さくらポーク	(株) コイサンズ

※1：市町名は食材の生産地が確認できたものを記載。

※2：関連事業者名は無償提供等されたものであることを県民会議が確認できたものを記載。

4 (2) 伊勢志摩サミットIMCダイニング提供メニュー一覧

エリア	5/25 (星)	5/25 (夜)	5/26 (朝)	5/26 (星)	5/26 (夜)	5/27 (朝)	5/27 (星)	5/27 (夜)	5/28 (朝)
ヒュッパエ	みえジビエ鹿肉の煮込ハンバーグ	伊賀牛もも肉とみえジビエ鹿肉のコースト2種のソース	さくらポークボーイル熟成ワインナー	三重の錦爽鳥のスパイシーグリル	さくらポークのロースト 夏ソースで	さくらポークボーイル熟成ワインナー	三重の和牛の特製ハッシュ・ド・ビーフ	三重の和牛の赤ワイン煮込み	さくらポークボーイル熟成ワインナー
	さくらポークのトンカツ	みえジビエ猪肉の回鍋肉	さくらポークカリ	さくらポークと地卵の生姜焼き	紀北のどごぶしの塩麩グラタン	ブレミアム松阪豚生ハム	イカと地野菜の中華風炒め	さくらポークの角煮 針生姜添え	三重の錦爽鳥の唐揚げ
	近海魚介のペンネアラビアータ	伊勢まじい岩塩焼き 塩釜風	ブレミアム松阪豚生ハム	長久丸のもちもちマゴロのアンチョビパン粉焼き	三重県産真鯛の竜田揚げ 地産野菜の和風あんかけ	さくらポーク熟成ロースハム	近海魚介の「ラザニア」	長久丸もちもちマゴロのチロントロ卵添え	ブレミアム松阪豚生ハム
	ハマグリとアオサのペペロンチーノ	ハマグリ酒蒸し	春野菜サラダ	近海魚介入り「白い麻婆豆腐」	三重県産牛のすき焼き	春野菜サラダ	熊野地鶏と地卵のすき焼き	伊勢海老のピスタチオ	春野菜サラダ
	春野菜のペペロンチーノ	春野菜のブイヨン煮	三重のひじきとあさり・竹輪の炒め物	厚揚げと蚕豆の塩炒め	春野菜のラタトゥーユ	じゃがいもとペーコンのグラタン	地野菜のシヨート	里芋と椎茸の甘辛煮	三重のひじきと大豆の煮物
	春野菜サラダ	地野菜にざり寿司	冷やし豆腐	春野菜サラダ	地野菜にざり寿司	冷やし豆腐	春野菜サラダ	三重の地野菜にざり寿司	冷やし豆腐
	ジャーマンポテト	ブレミアム松阪豚生ハム	大内山酪農プレーンヨーグルト	フライドポテト&フライドオニオン	ブレミアム松阪豚生ハム	大内山酪農プレーンヨーグルト	マッシュポテト	ブレミアム松阪豚生ハム	大内山酪農プレーンヨーグルト
	伊賀米コシヒカリの炊きたてご飯	地産野菜のパニーヤ・カウダ	コーンポタージュ	伊賀米コシヒカリの炊きたてご飯	地産野菜のパニーヤ・カウダ	伊賀産グリーンアスパラガスのポターージュ	伊賀米コシヒカリの炊きたてご飯	地産野菜のサラダ	三重のアカモクとアサリの味噌汁
	焼きたてパン	三重の地魚にざり寿司	里芋の味噌汁	焼きたてパン	三重の地魚にざり寿司	三重のアオサと卵のスープ	焼きたてパン	三重の地魚にざり寿司	伊賀米コシヒカリの炊きたてご飯
	豆腐とホウレン草の味噌汁	チーズ各種&ドレイフルーツ	伊賀米コシヒカリの炊きたてご飯	ハマグリとアオサの味噌汁	チーズ各種&ドレイフルーツ	伊賀米コシヒカリの炊きたてご飯	オニオンスープ	チーズ各種&ドレイフルーツ	伊賀米コシヒカリの炊きたてご飯
	きのこのポターージュ	伊賀米コシヒカリの炊きたてご飯	焼きたてパン	地産野菜のミネストローネ	伊賀米コシヒカリの炊きたてご飯	焼きたてパン	カットフルーツ	伊賀米コシヒカリの炊きたてご飯	焼きたてパン
		焼きたてパン	カットフルーツ	カットフルーツ	焼きたてパン	カットフルーツ	個包装焼き菓子	焼きたてパン	三重のアワビと二つ葉の澄まし汁
		具だくさん「伊勢美稲豚汁」		個包装焼き菓子	伊勢海老のビスケット	剥き身アサリの癒しスープ		三重のママハタと二つ葉の澄まし汁	三重のママハタと二つ葉の澄まし汁
		SWEETS あれこれ			フルーツカクテル	SWEETS あれこれ		地産フルーツカクテル	地産フルーツカクテル
					SWEETS あれこれ	SWEETS あれこれ		SWEETS あれこれ	SWEETS あれこれ
OPキッチン	かけ蕎麦	伊勢まじいのオープン塩焼き	伊勢まじいのオープン塩焼き	かき玉うどん	三重の地魚にざり寿司	三重のサツキマスのオーブン塩焼き	熊野地鶏胸肉の鉄板焼き	松阪牛と地野菜のしゃぶしゃぶ 胡麻だれ添え	長久丸もちもちマゴロの西京味噌焼き
	伊勢うどん	スクランブルエッグ	スクランブルエッグ	さくらポークカレー蕎麦	亀山ラーメン	ハムエッグ	伊勢うどん	三重の地魚にざり寿司	三重のサツキマスのオーブン塩焼き
	三重の地魚にざり寿司	三重県産小麦麵の醤油ラーメン	三重の地魚にざり寿司	三重の地魚にざり寿司	三重県産小麦麵の醤油ラーメン		伊勢のねざらいね蕎麦	亀山ラーメン	三重のサツキマスのオーブン塩焼き
	ミニ天丼	伊勢海老の天麩羅	かき揚げ天茶漬	かき揚げ天茶漬	地魚と地野菜の天麩羅		三重の地魚にざり寿司	三重県産小麦麵の醤油ラーメン	三重のサツキマスのオーブン塩焼き
	さくらポークと地野菜の焼ソバ	みえジビエ鹿肉の鉄板ステーキ			熊野地鶏尾鷲塩炙り焼き		かき揚げ丼	地魚と地野菜の天麩羅	三重のサツキマスのオーブン塩焼き

注1) 延べメニュー数156品目を提供(内、一部での三重県産食材等を使用した延べメニュー数162品目) 総メニューのうち、一部でも三重県産食材等を使用したメニューの割合は、97.4%
注2) 二重線で囲まれたメニューは、三重県産食材を使用しています

5 サミットで活用された県産品

番号	活用場面	分類	市町	品名	関連事業者名*	備考
1	首脳ワーキング・ディナー 総理夫人主催夕食会	食器類	四日市市	酒盃	酔月陶苑	四日市萬古焼
2	首脳ワーキング・ランチ	食器類	伊勢市	二重弁当箱		伊勢春慶
3	首脳会議用 円卓・椅子等	木材	紀北町 尾鷲市	会議・ランチ・ディナー 用円卓各1台、シェルパ 用机、国名名札、ペン 皿、デスクマット		尾鷲ヒノキ
4	総理夫人主催昼食会 (配偶者プログラム)	木材	紀北町 尾鷲市 大紀町	昼食用テーブル・椅子		尾鷲ヒノキ、 県産杉
5	IMCアネックス	木材	松阪市ほか	木工事個所(本棟、渡り 廊下、外構)		県産材
6	三重情報館	木材	紀北町 尾鷲市	三重情報館 内装装飾		尾鷲ヒノキ
7	IMCダイニング	木材	津市	IMC ダイニング用割 り箸		津市美杉産杉 (2万膳)
8	総理夫人主催昼食会 (配偶者プログラム)	調度品	津市	おしぼり・お手拭き	おぼろタオル (株)	
9	総理夫人主催昼食会 (配偶者プログラム)	調度品	伊勢市	ナプキン	(株)SUNKI Branding	伊勢形紙
10	総理夫人主催昼食会 (配偶者プログラム)	食器類	四日市市	箸置	清水きし代・ 酔月陶苑	四日市萬古焼
11	総理夫人主催昼食会 (配偶者プログラム)	食器類	伊賀市	平鉢	森里博信・ 香山窯	伊賀焼
12	総理夫人主催昼食会 (配偶者プログラム)	食器類	桑名市	飯碗	稲垣直	四日市萬古焼
13	総理夫人主催昼食会 (配偶者プログラム)	食器類	志摩市	カップ&ソーサー	千羽鶴プロジェ クト実行委員会	
14	総理夫人主催昼食会 (配偶者プログラム)	食器類	四日市市	煎茶椀	岸寿美子・ 工房彩磁庵	四日市萬古焼
15	総理夫人主催昼食会 (配偶者プログラム)	食器類	四日市市	ワインカップ	稲垣竜一・ 三位陶苑	四日市萬古焼
16	総理夫人主催昼食会 (配偶者プログラム)	食器類	伊勢市	酒杯	(株)ボルボレッ タ	
17	総理夫人主催昼食会 (配偶者プログラム)	食器類	志摩市	ワイングラス・タンブ ラー	三重ナルミ(株)	
18	総理夫人主催昼食会 (配偶者プログラム)	調度品	伊勢市	ランチョンマット		伊勢紙
19	総理夫人主催昼食会 (配偶者プログラム)	調度品	伊勢市	メニュー	(株)小津商店	伊勢紙
20	総理夫人主催昼食会 (配偶者プログラム)	調度品	伊賀市	メニュー	前澤組紐店	伊賀くみひも
21	総理夫人主催昼食会 (配偶者プログラム)	調度品	熊野市	クッション		市木木綿
22	竹あかりワークショップ (配偶者プログラム)	食器類	四日市市	カップ	苔米地正樹	四日市萬古焼
23	総理夫人から 配偶者へ	贈呈品	鳥羽市	真珠ペンダント		
24	総理夫人から 配偶者へ	贈呈品	鳥羽市	真珠ピンブローチ		
25	総理夫人から 配偶者へ	贈呈品	桑名市	ペタンコバッグミニ		M. I. Eブランド (ラッピング)
26	総理夫人から 配偶者へ	贈呈品	松阪市	ペタンコバッグミニ		M. I. Eブランド (ラッピング)
27	総理夫人から 配偶者へ	贈呈品	多気町	風呂敷	すかや呉服店	伊勢木綿、伊勢形 紙(ラッピング)
28	総理夫人から 配偶者へ	贈呈品	伊賀市	飾りひも	松島組紐店	伊賀くみひも (ラッピング)
29	総理夫人から 配偶者へ	贈呈品	伊勢市	のし紙		伊勢紙(ラッピン グ)

番号	活用場面	分類	市町	品名	関連事業者名※	備考
30	県民会議から G 7 首脳へ	贈呈品	志摩市	カップ&ソーサー		
31	県民会議から G 7 首脳へ	贈呈品	松阪市	木箱		県産スギ (ラッピング)
32	県民会議から G 7 首脳へ	贈呈品	伊賀市	飾りひも		伊賀くみひも (ラッピング)
33	県民会議から G 7 首脳へ	贈呈品	津市	中袋		伊勢木綿 (ラッピング)
34	県民会議から G 7 首脳へ	贈呈品	松阪市	風呂敷		松阪木綿 (ラッピング)
35	県民会議から アウトリーチ首脳へ	贈呈品	菰野町	文箱		県産ヒノキ・スギ
36	県民会議から アウトリーチ首脳へ	贈呈品	鳥羽市	真珠付きボールペン		
37	県民会議から アウトリーチ首脳へ	贈呈品	伊賀市	飾りひも		伊賀くみひも (ラッピング)
38	県民会議から アウトリーチ首脳へ	贈呈品	伊勢市	中紙		伊勢紙 (ラッピング)
39	県民会議から アウトリーチ首脳へ	贈呈品	津市	風呂敷		伊勢木綿 (ラッピング)
40	県民会議からG 7 首脳・ アウトリーチ首脳へ	贈呈品	紀北町 尾鷲市 鈴鹿市 伊勢市	ウェルカムメッセージ及 びフレーム	伊勢形紙協同組 合 (株)小津商店	フレーム：尾鷲ヒ ノキ、伊勢形紙 メッセージ：伊勢 紙
41	配偶者プログラム	贈呈品	松阪市	松阪木綿手提げ		
42	首脳が着用	装飾品	志摩市	真珠ラペルピン	三重県真珠振興協議会	

※：関連事業者名は無償提供等されたものであることと県民会議が確認できたものを記載。

資料16

おもてなし大作戦の実施状況一覧

(1) 各市町におけるクリーンアップ作戦の実施状況

市町	実施時期	備考
津市	2.10～2.17, 5.18～5.25	公共施設のトイレの清掃・点検
四日市市	2.14	自治会、商工会議所等によるクリーンアップ活動
	3.12	鈴鹿川クリーン作戦
	5.21	近隣住民、三菱化学グループ従業員等によるクリーンアップ活動
伊勢市	2.14, 5.7, 5.15	伊勢志摩サミット伊勢おもてなし会議によるクリーンアップ活動
松阪市	2.17, 5.22	自治会によるクリーンアップ活動
桑名市	3.5	ジュニア・サミット桑名市民会議によるクリーンアップ活動
	4.11, 4.16	自治会によるクリーンアップ活動
	2.15, 3.1, 3.15, 4.1, 4.15	木曾三川ゴミの会によるクリーンアップ活動
鈴鹿市	2.14, 4.3, 4.10	自治会によるクリーンアップ活動
	3.26	白子公民館
	4月中旬～5月下旬	自治会、団体等によるクリーンアップ活動
	4.28, 5.17, 5.27	一宮公民館, 郡山公民館, 清和公民館
名張市	5.15を中心に実施	名張クリーン大作戦2016
尾鷲市	2.14	自治会によるクリーンアップ活動
	5.18	職員によるクリーンアップ活動
亀山市	2.14	自治会によるクリーンアップ活動
	3.13	地区衛生組織連合会によるクリーンアップ活動
	5.15	里山公園みちくさクリーンアップ活動
鳥羽市	2.14, 2.21	自治会連合会によるクリーンアップ活動
	2.16	職員による市庁舎周辺等のクリーンアップ活動
	4月～5月	各町内会によるクリーンアップ活動
	4.11～5.31	市内環境パトロール拡充
	4.12	鳥羽市観光協会加盟会員によるクリーンアップ活動
	4.24	鳥羽清港会(第39回海の大掃除)
	5.24～5.28	LOVE BLUE～地球の未来を～水中清掃活動 in 三重
熊野市	4.17	七里御浜・王子ヶ浜一斉クリーン作戦(雨天中止)
	5.20	サミット直前クリーンアップ大作戦(七里御浜海岸清掃)
いなべ市	5.14	職員によるクリーンアップ活動
志摩市	2.14	伊勢志摩サミット市民会議によるクリーンアップ活動
	2月～5月	自治会、企業、団体等によるクリーンアップ活動
伊賀市	2.16, 4.6	職員によるクリーンアップ活動
木曾岬町	2.28	木曾岬スポーツ少年団によるクリーンアップ活動
東員町	4.24	町内各主体によるクリーンアップ活動
菰野町	3.20	菰野町クリーン大作戦
朝日町	5.15	自治会によるクリーンアップ活動
川越町	4.6	川越町工業団地連絡協議会によるクリーンアップ活動
多気町	2.14	町内各所におけるクリーンアップ活動
	5.15	自治会によるクリーンアップ活動
明和町	5.8	大淀ビーチクリーンによるクリーンアップ活動
大台町	4.10	町民によるクリーンアップ活動
玉城町	4.21	ボランティア団体等によるクリーンアップ活動
	5.22	田丸城跡クリーン作戦
度会町	4.3	春祭開催時におけるクリーンアップ活動
大紀町	5.15	町民によるクリーンアップ活動

南伊勢町	2. 14, 2. 21, 2. 28	自治会によるクリーンアップ活動
	4. 23	町内各主体によるクリーンアップ活動
紀北町	2. 14, 5. 22	自治会によるクリーンアップ活動
御浜町	4. 17	七里御浜・王子ヶ浜一斉クリーン作戦（雨天中止）
紀宝町	4. 17	七里御浜・王子ヶ浜一斉クリーン作戦（雨天中止）
	5. 18	職員労働組合によるクリーンアップ活動

(2) 協賛、応援事業としてのクリーンアップ作戦の実施状況

提案者名	内容
三重トヨタ自動車株式会社	清掃用資材の提供ほか
「小さな親切」運動三重県本部	小中学校や企業等とともに環境美化活動を実施
百五銀行「小さな親切」の会	百五銀行行員 3,000 名による環境美化活動を実施
一般社団法人三重県産業廃棄物協会	伊勢志摩地域の産業廃棄物不法処理防止パトロール及び不法投棄撤去作業の実施
三重県産業廃棄物対策推進協議会	答志島奈佐の浜での伊勢湾漂着ゴミ海岸清掃活動の実施
三重県生活衛生同業組合連合会	約 100 名によるクリーンアップ活動への参加
株式会社伊藤園	清掃ボランティア活動で「伊勢湾再生」等の環境保全活動に貢献
公益社団法人「小さな親切」運動本部	全国で実施する「日本列島クリーン大作戦」をサミット開催時期に合わせて告知
株式会社ダスキン東海・北陸地域本部	サミット応援商品の販売イベントの前にクリーンアップ活動の実施
J Aグループ三重	クリーンアップ活動の実施、伊勢茶ペットボトルの提供
株式会社百五銀行	鳥羽市、志摩市における清掃活動の実施
株式会社柿安本店	月に 1～2 回クリーンアップ活動を実施する「カウントダウン清掃プロジェクト」を実施
中部電力株式会社三重支店	管内事業場周辺のクリーンアップ活動の実施
日本たばこ産業株式会社東海支社	イベント会場への灰皿提供
アサヒ飲料株式会社中部北陸支社	清涼飲料水の提供
有限会社森と水を守る会	「森の番人」の提供
コカ・コーライーストジャパン株式会社	清涼飲料水の提供
井村屋グループ株式会社	ふるまいぜんざいの提供
サンヨー食品株式会社	三重亀山ラーメンの提供
イオンリテール株式会社 東海・長野カンパニー	クリーンアップ活動の実施
株式会社第三銀行	クリーンアップ活動の実施
株式会社三重銀行	クリーンアップ活動の実施
三重県ボランティア連絡協議会	県民会議のクリーンアップ活動に同調したクリーンアップ作戦 & 見守り・見回り活動の実施
イオングループ	クリーンアップ活動の実施
西日本電信電話株式会社 三重支店	クリーンアップ活動の実施
日本ボーイスカウト伊賀第 1 団	クリーンアップ活動の実施
国立大学法人三重大学 地域 ECO システム研究センター	松名瀬海岸でのクリーンアップ活動の実施
名張市スポーツ少年団	名張駅周辺地域でのクリーンアップ活動の実施
一般社団法人三重県建設業協会志摩支部	おもてなし大作戦の一環としてサミット会場周辺道路の伐採作業実施
一般社団法人日本釣用品工業会	おもてなし大作戦の一環としてプロダイバーによる水中清掃実施
日本風景街道「伊勢熊野みち」推進協議会	おもてなし大作戦の一環としてクリーンアップ活動を実施
株式会社セブン-イレブン・ジャパン	おもてなし大作戦の一環としてクリーンアップ活動を実施

一般社団法人ガールスカウト三重県連盟	おもてなし大作戦の一環としてクリーンアップ活動を実施
サンディスク ボランティア同好会	おもてなし大作戦の一環としてクリーンアップ活動を実施

(3) 東海三県一市との連携事業として実施したクリーンアップ作戦の主な実施団体・場所

実施団体	実施日	実施場所
岐阜県西濃建設業協会	4. 2	揖斐川右岸 等
五十鈴川をきれいにする会	4. 2	五十鈴川右岸
四日市市環境保全課	4. 3	吉崎海岸
南知多町厚生部環境課	4. 6	南知多町内道路、漁港 等
白子高等学校ボランティア部	4. 8	白子港周辺
ながしまエコの会	4. 9	長良川左岸堤防
「きれいな伊勢志摩づくり」連絡会議	4. 9	伊勢市内県道 37 号沿い
鵜方浜里海美化ボランティア	4. 9, 4. 10	志摩市内道路
大淀ビーチクリーン	4. 10	大淀海岸周辺
梅村学園 三重中学校・高等学校科学技術部	4. 10	櫛田川河口

(4) 各市町における花いっぱい作戦の実施状況

市町	実施時期	場所
津市	3. 29, 4 月	市内各所
四日市市	4. 18, 5. 2, 5. 9	四日市市民公園「そらんぼ四日市」、他
伊勢市	5. 7, 4 月中旬～5 月末	朝熊山麓公園花の広場、市内各所
松阪市	4. 5, 4. 19	クラギ文化ホール、市役所本庁舎前、他
桑名市	3. 5	桑名駅、他
鈴鹿市	4 月上旬～5 月下旬	鈴鹿市駅、白子駅、市立体育館、市内公民館、他
名張市	4 月	名張駅、桔梗が丘駅、赤目キャンプ場、他
尾鷲市	4. 6～5 月上旬	紀望通り、銀杏通り、北川右岸、他
亀山市	4 月	関宿ほか市内各所
鳥羽市	4. 9, 4. 17, 4. 23	鳥羽駅周辺、近鉄中之郷駅、他
熊野市	4. 1～5. 27	市内各所（協力家庭等）
いなべ市	4. 14	市庁舎玄関付近、他
志摩市	3. 27, 4. 9, 4. 23, 4 月中旬	市役所、鵜方駅前、道の駅「伊勢志摩」前、市内各所
伊賀市	4 月	市庁舎玄関、他
木曽岬町	5. 8	町内各所
東員町	H27. 12, H28. 4	町役場、公共施設、他
菰野町	4 月下旬～5 月	町内一円
朝日町	4 月	町内各所
川越町	4. 11	庁舎入口前、川越富洲原駅前広場、他
多気町	4 月, 4. 23, 4. 24	五桂池ふるさと村、ふれあいの館、元丈の館
明和町	4. 17～24	さいくう平安の杜
大台町	4 月下旬	町内沿道
玉城町	4. 20, 4. 21	町内沿道、駅前、他
度会町	4 月	町庁舎、町内各施設、県道沿い花壇、他
大紀町	4. 14～27	町庁舎、公共施設、観光施設、他
南伊勢町	4. 6, 4. 12～25	町庁舎、町内各施設、他
紀北町	4. 6, 4. 14	庁舎花壇、他
御浜町	4. 12	県道（御浜紀和線）沿い、他
紀宝町	4. 12, 4. 13	紀宝町ウミガメ公園、県道 35 号沿い花壇

(5) 協賛、応援事業としての花いっぱい作戦の実施状況

実施団体	内容
株式会社三重興農社	飾花用のプランターの提供
花の国づくり三重県協議会	花いっぱい運動に必要な講師役の派遣
三重県花植木振興会	イベント会場等で植木を用いた飾花
中日本高速道路株式会社名古屋支社	S A、P Aの商業施設周辺にお花の飾り付け
有限会社お花ちゃん生花店	応援装飾、玄関装飾、テーブル花等の提供
中日本エクス株式会社名古屋支店	S A、P Aの商業施設周辺にお花の飾り付け
公益社団法人三重県緑花推進協会	春季緑化運動の中で花いっぱい運動を実施し、資材費・花壇・プランターを支援
草月会三重県支部	伊勢志摩サミットフォーラム会場にいけばなの提供
株式会社コメリ	店舗内に「伊勢志摩サミット開催記念」花いっぱいコーナーの設置
東員花卉クラブ	県民会議シンボルマークをデザインした花壇の設置
池坊津支部	生け花作品の提供
株式会社百五銀行及び百五銀行「小さな親切」の会	花いっぱい運動に連携してコスモスの種子袋 20,000 袋を窓口等で配布
クラギ株式会社	プランター3,500 基、培養土 4,500 袋を提供
美里園芸福祉ボランティア	花いっぱい作戦に協力し花苗プランターを設置
津市自治会連合会	花いっぱい作戦に協力し花苗プランターを設置
早修ふるさと未来NAV I	花いっぱい作戦に協力し花苗プランターを設置
亀山市自治会連合会	花いっぱい作戦に協力し花苗プランターを設置
四日市農芸高等学校園芸デザインコースの学生及びボランティア	花いっぱい作戦に協力し花苗プランターを設置
地縁団体 宮後町会	花いっぱい作戦に協力し花壇へ植花
株式会社百五銀行	花いっぱい作戦に協力し、百五銀行店舗にプランターを設置
名張園芸福祉ボランティアの会	花いっぱい作戦に協力し花壇へ花苗植え
長坂営農組合	花いっぱい作戦に協力し花苗プランター設置
株式会社アクアイグニス	スタートセレモニーでの抽選会景品提供
株式会社マルゴ水産	スタートセレモニーでの振る舞いのためのしじみの提供
西川製菓「鈴鹿あられ」	スタートセレモニーでの抽選会景品提供
コカ・コーライーストジャパン株式会社	スタートセレモニーでの飲料の提供
J Aみえきた	スタートセレモニーでの振る舞いのための調理員派遣
(非公表)	スタートセレモニーでの駐車場の提供
セブンイレブン桑名外堀店	スタートセレモニーでのおむすびの提供
伊勢商工会議所女性部	花いっぱい作戦に協力し花壇へ花植え
五桂池ふるさと村	花いっぱい作戦に協力し花壇へ記念植栽
真生流いけばな 家元目代 爪橋静華	県民会議が主催するレセプション等へ生け花作品を提供
日本風景街道「伊勢熊野みち」推進協議会	花いっぱい作戦に協力し植栽
一般財団法人三重県職員互助会	花いっぱい作戦に協力し「親子寄せ植え教室」実施
志摩ロータリークラブ	花いっぱい作戦に協力しフラワーオブジェで装飾
鳥羽ロータリークラブ	花いっぱい作戦に協力しフラワーアートを設置

資料17

プレスツアーの取材に基づく報道状況

1 県民会議主催プレスツアー

(1) 第1回 (12/7～8) 取材地：伊賀市、名張市、松阪市

国名	社名	記事等タイトル
中国	金融時報 (新聞)	日本の地域活性化には長い道のり
	人民日報 (新聞)	伊賀流忍者博物館を訪ねて
	亜太日報 (新聞)	日本の近代史の裏に“隠密の力”
	法制日報 (新聞)	日本は数多くの政策により 農村経済の発展を支援
韓国	SBS TV	「忍者」を前面に出し観光客を誘致 8年ぶりに韓国を追い越す
	YTN TV	観光大国を狙う日本 「忍者を押し出せ」
ドイツ	フランクフルター・アルゲマイネ・ ツァイトゥング (新聞)	野心的な日本の農家
スイス	ノイエ・チュルヒャー・ ツァイトゥング (新聞)	同上
ロシア	ロシア24TV	今日の忍者
ニュージー ランド	ファーマーズウィークリー (Web)	六次産業化で更に儲かる農家

(2) 第2回 (2/17～18) 取材地：紀北町、熊野市、尾鷲市

国名	社名	記事等タイトル
カザフ スタン	24KZ (テレビ)	日本、漁師と水産加工業者の 確保が喫緊の課題

(3) 第3回 (5/11～12) 取材地：志摩市、鳥羽市、伊勢市、鈴鹿市、津市

国名	社名	記事等タイトル
ドイツ	ドイツ写真通信社 (新聞)	G7サミットに向けテロ対策訓練
	ARDドイツテレビ (テレビ)	「自然！瞑想！調和！」、「行くな！そう ではない！止まれ！」
フランス	AFP (通信社)	日本G7テロ対策訓練
アメリカ	ブルームバーグ (通信社)	安倍首相が宗教を推し進めるなか、日本の 神社は危機に
ベトナム	ベトナムニュース (通信社)	「伊勢神宮、日出国で一番神聖な神社」、 「日出国で最も神聖な場所への巡礼」、「鈴 鹿墨」、「1200年の歴史をもつ墨の加工技 術を日本で発見」、「答志島 日本特有の 伝統を受け継ぐ」、「答志島 地域のつな がりパート1」、「答志島 地域のつな がりパート2」、「答志島 (魚市場、競りの 様子)」

2 海外の富裕層への戦略プロモーション事業

(1) フランスの著名シェフ及び海外メディアを招へい (2/15~19)

取材地：伊賀市、志摩市、鳥羽市、伊勢市、多気町、松阪市、名張市

国名	社名	記事等タイトル
フランス	VOYAGE (Web)	伊賀上野
	リートラベル (Web)	三重の食文化
	ル・モンド (Web)	自然と美食の
	デイリーミール (Web)	旅の味

(2) 欧米を中心とする海外メディアを招へい (3/3~6)

取材地：鳥羽市、志摩市、松阪市、伊勢市、亀山市、伊賀市

国名	社名	記事等タイトル
イギリス	BBC	海女たちにとってのサミット景気
イタリア	TGCOM24 (テレビ)	日本のG7、知事インタビュー
	ILSOLE24 (新聞)	G7
	Food Confidential (Web)	「海女は、平和で調和に満ちた微笑みをくれた素晴らしい女性たち」、「おかげ横丁」、「かつお節」、「松阪牛」、「赤福」
	SETTE (雑誌)	G7に日本が「賭ける精神性と真珠漁」
	CLASS (雑誌)	G7の開催地はもっとも美食に溢れた場所
イタリア	VANITYFAIR (雑誌)	いいもの発見
日本	The Japan Times (雑誌)	伊勢神宮：世界に語られるべき物語

(3) 著名シェフ及び海外メディアを招へい (3/28~30)

取材地：伊勢市、鳥羽市、南伊勢町、紀北町、尾鷲市、熊野市、松阪市

国名	社名	記事等タイトル
日本	ジャパントラベル (Web)	三重県

3 外務省主催プレスツアー

(1) 第1回 (ASEAN10ヶ国) (8/27~28) 取材地：四日市市、菰野町

国名	社名	記事等タイトル
タイ	デイリー・ニュース紙 (新聞)	地域と産業が共生する三重
ブルネイ	ボルネオ・ブレティン紙 (新聞)	産業と環境にやさしい四日市

(2) 第2回 (中東5ヶ国) (8/30~31) 取材地：伊勢市、鳥羽市

国名	社名	記事等タイトル
カタール	アルジャジーラ・ネット紙 (Web)	日本、アラブ人の目からみて (副題：真珠の町、志摩)

(3) 第3回 (ベルギー) (10/30~31) 取材地：伊勢市、鳥羽市

国名	社名	記事等タイトル
ベルギー	モルゲン誌 (雑誌)	現代的な国に伝統的な精神
	ヘット・ヴァカンティサロン誌 (雑誌)	日本が熱い

(4) 第4回 (イスラエル) (11/14~15) 取材地: 鳥羽市、多気町、大紀町

国名	社名	記事等タイトル
イスラエル	ハアレツ紙 (新聞)	日本は乗り越えるために支援を得ることを学んでいる
	ハアレツ紙 (新聞)	魚と人々について

(5) 第5回 (クウェート) (1/30~31) 取材地: 志摩市、鳥羽市、伊勢市

国名	社名	記事等タイトル
クウェート	アル・アンバー紙 (新聞)	素晴らしい国日本
	クウェートタイムズ紙 (新聞)	同上

(6) 第6回 (G7の5ヶ国) (5/11~13) 取材地: 鳥羽市、伊勢市、鈴鹿市、津市

国名	社名	記事等タイトル
イギリス	ザ・ヘラルド紙 (新聞)	我々スコットランド人は日本人から多くを学ぶことができる

(7) 第7回 (11ヶ国) (5/25、28) 取材地: 鳥羽市、伊勢市

国名	社名	記事等タイトル
ラオス	ラオス国営通信 (通信社)	三重県では漁の伝統が素晴らしく保護されている

(8) 第8回 (ケニア) (5/26、28) 取材地: 鳥羽市、伊勢市

国名	社名	記事等タイトル
ケニア	ケニア	包括的教育
		おばあちゃんダイバーが日本の海で狩りをする

資料 18

三重情報館及び国際メディアセンター政府広報展示スペースの出展内容一覧

(1) 三重情報館展示コンテンツ一覧

No.	展示カテゴリー・コンテンツ名		展示方法
1	自然	伊勢志摩の自然	映像等
2		真珠	実物、映像等
3		三重熊野の自然	映像等
4		三重の木材	実物（ステージ）
5	歴史・文化	海女	出演、映像等
6		伊賀流忍者	実演、画像等
7		桑名の千羽鶴	実物
8		斎宮	映像等
9		神宮	映像等
10		世界遺産熊野古道伊勢路	映像等
11		関宿	映像等
12		丸山千枚田と赤木城跡	映像等
13		餅街道	餅菓子振舞い等
14		伊賀くみひも	実演、実物、映像等
15		伊賀焼	実物、映像等
16	伝統工芸	伊勢形紙	実演、実物、映像等
17		伊勢木綿	実物、外国語案内ボランティアの着用（一部）
18		組子（指勘建具工芸）	実物
19		鈴鹿墨	実演、実物、映像等
20		松阪木綿	実物
21		四日市萬古焼	実物、映像等
22		断熱・保温ペイント HIP エアロ（オキツモ株式会社）	実物
23		伊勢型紙文様を彫刻したジュラルミン削り出しスマートフォンケース（有限会社ギルドデザイン、株式会社オコシ型紙商店）	実物、映像等
24		三重県にて生産したフラッシュメモリー製品（サンディスクコーポレーション・サンディスク株式会社）	実物、映像等
25		夢の新素材 セルロースナノファイバー『レオクリスタ』（第一工業製薬株式会社）	実物
26	先端技術	低温焼成磁器製 照明器具（有限会社泰成窯）	映像等
27		TMPS®担持触媒（太陽化学株式会社）	実物
28		日本で唯一、国内屈指の抽出・発酵技術（辻製油株式会社）	実物
29		競技用ヨーヨー（東海アツミテクノ株式会社）	実物、映像等
30		精密減速機RV（ナブテスコ株式会社）	実物
31		可搬式ソーラーパネル nanoGrid（株式会社ナベル）	実物
32		高級磁器食器（ナルミボーンチャイナ）（鳴海製陶株式会社・三重ナルミ株式会社）	実物
33		蛍光表示管（ノリタケ伊勢電子株式会社）	映像等
34		三重県産の消える筆記具『フリクション』（パイロットインキ株式会社）	実物
35		デジタルサイネージ自動販売機（富士電機株式会社）	映像等
36	真珠由来スキンケア（御木本製薬株式会社）	映像等	

37		ゼオライト膜および濃縮日本酒（三菱化学株式会社）	実物、映像等
38		マンション用電気錠 iEL Zero（美和ロック株式会社）	映像等
39		競技用二輪車（株式会社モリワキエンジニアリング）	実物・映像等
40		屏風型吸音パーティション（株式会社リバ技研）	実物
41		リキッドアイスによる高鮮度保存技術（N I T株式会社、丸太水産）	映像等
42	食	あおりふぐ	映像等
43		伊勢えび	映像等
44		伊勢まだい	映像等
45		あわび	映像等
46		岩がき	映像等
47		ハマグリ	映像等
48		的矢かき	映像等
49		青さのり	映像等
50		ひじき	映像等
51		伊賀米コシヒカリ	映像等
52		結びの神	映像等
53		ハタケシメジ	映像等
54		ハナビラタケ	映像等
55		南紀みかん	映像等
56		新姫	映像等
57		三重いちご（かおり野）	映像等
58		伊賀牛	映像等
59	熊野地鶏	映像等	
60	松阪牛	映像等	
61	みえジビエ	映像等	
62	伊勢茶	振舞い、映像等	
63	三重の日本酒	振舞い、実物、映像等	

(2) 国際メディアセンター政府広報展示スペースの出展内容一覧

出展物・出展内容	企業・団体
インフラ・交通	
質の高いインフラ投資	外務省/財務省/経済産業省/国土交通省/総務省/ 国際協力機構 (JICA)
新幹線車両 E 5 系	東日本旅客鉄道 (株)
新幹線車両 E 6 系	東日本旅客鉄道 (株)
新幹線車両 E 7 系	東日本旅客鉄道 (株)
超伝導リニア	東海旅客鉄道 (株)
N700A新幹線	東海旅客鉄道 (株)
MRJ (三菱リージョナルジェット)	三菱航空機 (株)
航空機業界を支える中小企業紹介	天竜エアロコンポーネント (株) / 光製作所 (株) / 航空機部品生産協同組合
MOON PARKA	Spiber (株) / 新エネルギー・産業技術総合開発 機構 (NEDO)
オートバイ用カーボンコンポジットホイール/ e プレート/ 熱可塑性炭素繊維複合材料 CABKOMA ストランドロッド	東レ (株) / 三菱樹脂インフラテック (株) / 小 松精練 (株) / 新エネルギー・産業技術総合開発 機構 (NEDO)
炭化ケイ素連続繊維ニカロン	NGS アドバンスドファイバー (株)
軽くて透明な夢の素材 セルロースナノファイ バー (CNF)	王子ホールディングス (株) / 日本製紙 (株) / 京都大学・京都市産業技術研究所他NEDOプロ ジェクト/新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO)
環境・エネルギー	
マグボックス	古河電池 (株)
エネルーブ ソーラーストレージ装置	パナソニック (株)
Honda の考えるスマートコミュニティ 移動式水素ステーション	本田技研工業 (株) みえ水素ステーション (同)
触れる地球	Earth Literacy Program / AZLAB, Inc.
森林資源リグニンからの機能材料	森林総合研究所 (FFPRI)
温室効果ガス観測技術衛星 (GOSAT)	環境省/宇宙航空研究開発機構 (JAXA) / 国立環 境研究所 (NIES)
航空機上で外気のCO ₂ 濃度を連続観測する装置 (CME)	国立環境研究所 (NIES) (気象研究所、日本航 空 (株)、(株) ジャムコ、JAL 財団との連 携)
ロールブランター	東レ (株)
フミンコーティング	(株) フミン
ポリグル	Poly-Glu Social Business (株)
逆浸透膜モジュール	日東電工 (株)
ゼロ・エネルギー・ビル「ZEB」	大成建設 (株)
Winglet	トヨタ自動車 (株)
UNI-CUB β	本田技研工業 (株)
次世代電動パーソナルモビリティ「ILY-A (ア イリーエー)」	アイシン精機 (株) (千葉工業大学と共同開 発)
医療・保健	
Honda 歩行アシスト	本田技研工業 (株) / 新エネルギー・産業技術総 合開発機構 (NEDO)
WHILL Model A (ウィル モデル エー)	WHILL (株) / 新エネルギー・産業技術総合開発 機構 (NEDO)
ロボットアシストウォーカー RT. 1	RT. ワークス (株)
HAL 介護支援用 (腰タイプ)	CYBERDYNE (株) / 新エネルギー・産業技術総 合開発機構 (NEDO)
生活支援ロボット	トヨタ自動車 (株)
コミュニケーションロボット PALRO (パルロ)	富士ソフト (株)
ネオスケア	ノーリツプレジジョン (株)
アザラシ型ロボット・パロ	(株) 知能システム/産業技術総合研究所 (AIST)
3D-Gene	東レ (株)
心筋シート、ハートシート	大阪大学大学院医学系研究科/テルモ (株)
まほろ (バイオ産業用汎用ヒト型ロボット: ラ ボドroid)	産業技術総合研究所 (AIST) / 産総研技術移転ベ ンチャー ロボティック・バイオロジー・インス ティテュート (株)
母子保健の向上を支える母子手帳の役割	国際協力機構 (JICA)
Anti-Mosquito (防蚊塗料)	関西ペイント (株)
感染症ワクチンに関する日本の取組 (エボラ、 デング熱、結核、ポリオ)	国際協力機構 (JICA)

出展物・出展内容	企業・団体
復興・防災	
日本の海陸観測網	防災科学技術研究所 (NIED)
東日本大震災からの復興への取組	復興庁
東日本大震災への支援感謝	復興庁
世界津波の日	外務省
ハイブリッドTASS 構法	大成建設 (株)
宇宙・深海	
世界最大の地下ニュートリノ観測装置スーパーカミオカンデ	東京大学宇宙線研究所
地球深部探査船「ちきゅう」	海洋研究開発機構 (JAMSTEC)
Deep NINJA	海洋研究開発機構 (JAMSTEC)
深海探査用ドローン「ほぼりん」	海上・港湾・航空技術研究所 (MPAT) / 海上技術安全研究所 (NMRI)
KIROBO (ロボット宇宙飛行士)	トヨタ自動車 (株)
H3 ロケット	宇宙航空研究開発機構 (JAXA)
宇宙ステーション補給機「こうのとり」 (HTV)	宇宙航空研究開発機構 (JAXA)
RoBoHoN (ロボホン)	シャープ (株)
蛍光タンパク質を発現させた遺伝子組換えカイコの繭、生糸および布	農業・食品産業技術総合研究機構 (NARO)
伝統工芸	
山形緞通 (やまがただんつう)	オリエンタルカーペット (株)
妖精の羽 「Fairy Feather」	齋栄織物 (株)
からくり人形 (茶運び人形)	中部経済連合会
日本の伝統的工芸品	伝統的工芸品産業振興協会
畳	熊本県いぐさ・畳表活性化連絡協議会
食	
和食文化と食品産業のイノベーション	農林水産省
その他	
8K スーパーハイビジョン	日本放送協会 (NHK)
4K モニター	パナソニック (株)
生け花	日本いけばな芸術協会
森香炉 中部の自然と技術	中部経済連合会
ビジット・ジャパン	観光庁
屋外展示スペース	
燃料電池自動車 (FCV) MIRAI	トヨタ自動車 (株)
燃料電池自動車 「クラリティ FUEL CELL」	本田技研工業 (株)
ロボットタクシー	ロボットタクシー (株)
日産ニューモビリティコンセプト	日産自動車 (株)
MC-β	本田技研工業 (株)
TOYOTA i-ROAD	トヨタ自動車 (株)
マツダ アテンザ	マツダ (株)
スバル アウトバック (アイサイト装着車)	富士重工業 (株)
ハスラー	スズキ (株)
インテリジェントパーキングアシスト	日産自動車 (株)
Winglet	トヨタ自動車 (株)
UNI-CUB β	本田技研工業 (株)
次世代電動パーソナルモビリティ「ILY-A (アイリーエー)」	アイシン精機 (株) (千葉工業大学と共同開発)
スポーツ関連展示	
2020年東京オリンピック・パラリンピック関連展示	東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
ラグビーワールドカップ2019関連展示	ラグビーワールドカップ2019組織委員会
スポーツ・フォー・トゥモロー関連展示	スポーツ・フォー・トゥモロー・コンソーシアム

資料 19

知事臨時記者会見記録

日 時／平成 27 年 6 月 5 日（金）

19：45～20：20

場 所／県庁プレゼンテーションルーム

【知事冒頭発言】

(知 事)

本日、2016 年に日本で開催されます主要国首脳会議、サミットについて、開催地を三重県に決めた旨、安倍総理が発表をされました。これまで 2016 年みえ伊勢志摩サミット誘致推進協議会を設置し、官民一体となって、誘致活動に取り組んでまいりました。誘致が実現したことは、三重県に新たな歴史が刻まれることとなった瞬間であると考えています。大変喜ばしく光栄であるとともに、責任の重大さに身の引き締まる思いです。

サミットと最高峰の国際会議の開催は、国際観光地としてのレベルアップだけでなく、国内外の人々に対する本県の知名度を向上させる絶好の機会であり、地域の総合力向上につながります。今後、サミットの成功に向け、首相官邸、外務省、警察庁など、国の関係機関はもとより、地元市町、関係団体などの皆さんと連携し、しっかりと準備を進め、万全を期すとともに、県民の皆さんの生活への影響は最小限に抑え、日本人の精神性や豊かな伝統・文化、美しい自然や日本のふるさとの原風景などを感じていただけるよう、対応してまいります。また、開催後の地域活性化につながる取組についても、速やかに着手します。

最後に、誘致に向けてご尽力いただきました協議会の皆さんや関係者の皆さん、三重県開催を求める決議をいただいた三重県議会や 9 つの市町議会の皆さんに厚く御礼を申し上げたいと思います。県民の皆さんには、県民全体でサミットを盛り上げるよう、応援をお願いしたいと思います。

さて、サミットの誘致に、サミット誘致推進プロジェクトチームを設置して取り組んでまいりましたが、今回の開催決定を受けまして、みえ伊勢志摩サミット推進局を 6 月 8 日（月）に雇用経済部に設置します。みえ伊勢志摩サミット推進局は、局長、次長のもと、当面は 3 課 16 名体制でスタートしますけれども、関係者の受け入れ体制の整備やおもてなし、三重県の魅力の PR などに全力で取り組んでまいります。開催準備の進捗状況を踏まえながら、順次人員を拡充していきたいと考えています。ちなみに、先ほど内示しましたが、局長は現子ども・家庭局長の西城昭二です。局の設置に加えて、庁内の推進体制についても、整備する予定です。また、現在、2016 年みえ伊勢志摩サミット誘致推進協議会を設置しているところですが、今後、開催に向けて官民一体となった三重県全体の受け入れ体制の確保などに取り組むため、新たにみえ伊勢志摩サミット県民会議（仮称）を設立したいと考えています。協議会の構成員団体、現在 36 団体ありますが、皆さんには引き続きご参画いただいた上で、より幅広い関係者の皆さんにご参画いただきたくと考えています。庁内の体制及びみえ伊勢志摩サミット県民会議（仮称）については、準備が整い次第、設置したいと思っておりますので、これらの詳細については、後日改めて発表いたします。私のほうからは、以上です。

【記者からの質問】

(記 者)

おめでとうございます。総理の選定理由のほうがですね、三重県のアピールしてきたところとよく似ていると思うんですけど、その点を含めて、率直な感想を改めて。

(知 事)

もちろん、警備というようなことは、今ドローンとか I S のことがありましたので、私どもが手を挙げたときよりも、重要性が

増したと思います。そういう中で、警備の優位性ということが一つ反映されたのではないかと考えています。ちなみに、僕が申し上げることは、別に総理からどうこうあったわけではありませんので、総理が選定理由でおっしゃった部分についても、やはりこの日本人の精神性、日本人の心のふるさとと呼ばれる場所であります。特に、サミットの議題は、来年はこの年末の COP21 を踏まえた気候変動、IS のテロなどの対応を含めた世界平和、あるいは持続的な成長、そういうことが非常に重要になる中で、持続可能性が一つのキーワードだと思うんですね。で、我々は伊勢神宮、常若の精神で、つまり、2 千年にわたる伊勢神宮は、ああやって 20 年に 1 回新しくすることで、持続可能にしているわけですね。石と木であれば、石のほうは耐久性が高いけれども、パルテノン神殿はああいう形で廃墟になり、伊勢神宮はずっとこういうふうには持続可能であると、そういう持続可能性ということを訴えていただく意味でも、非常にいいと思いますし、何より総理はこれまで 3 回サミットに行かれていますか、静かな環境で胸襟を開いて、議論できるところを望んでおられたんだと思います。そういう意味で、それが賢島という場所が、伊勢志摩という場所が合致したんじゃないかと思っています。

(記 者)

連絡は事前、事後のどういう形であったのでしょうか。

(知 事)

6 時台になって、まあ NHK さんに、バアッと出る数分前です。で、いろいろ人事の内示とか準備をしないといけないと思っていたら、NHK でバアッと出たのでちょっとびっくりしましたけれども、そういうタイミングでお電話を頂戴しました。

(記 者)

どこから。

(知 事)

総理から。正確に言うと、秘書官の方から、直接僕の私用の携帯に電話がかかってきて、秘書官が総理につないで、総理に代わって、総理からお話ががあったということです。

(記 者)

あの、総理からはどういった言葉で、決定を伝えてもらったのか。また、知事としては、どういうふうに応じたのか。

(知 事)

総理からは、安倍晋三ですと、来年の日本で開催されるサミットは三重県で伊勢志摩で開催することに決めましたと。私が 18 時 25 分から会見をしますので、それまでは誰にも言わないでくださいというふうに言われました。素晴らしい環境のある場所なので、首脳たちといい議論ができるようにしたいというようなことをおっしゃっていただきましたので、私のほうから、大変光栄ですと、安倍総理が議長となられてのサミットだと思いますので、政府と連携して、全力でやらせていただきますと、あとウクライナとドイツとお話を付けていかれてくださいと、そういうことを極めて短いあれでしたけれども。それで一回切って、秘書官から名前は伊勢志摩でよいのかという確認がありましたので、場所は賢島なんだけども、伊勢志摩という名前であっていただけるとありがたいという話をしました。

(記 者)

8 つ候補地があったと思うんですけど、勝因はどのようなふうにご考えていますか。

(知事)

勝因ですか。まあ、非常に元々全部一長一短だという情報が多かったですし、どこが極めて優れているというのはなかなかを比較するのは難しいかもしれませんが、まあそうですね、総理がお伝えされたい、首脳たちを迎えてお伝えしたいような内容がある場所、あとは総理の思いもあるのかなあと思いましたけどね。例えば、平成25年の遷宮のときには、昭和4年の濱口雄幸首相以来84年ぶりに遷宮に来ていただいたということとか、総理になられる前も志摩にも何度も訪れていただいておりましたし、詳しくはそういうお話をいただきませんでしたけれども、そういう思いを持っておられるのではないかと思いますけどね。

(記者)

遷御の儀のときに、6時間ぐらい、普通ありえない、内閣総理大臣を拘束したじゃないですか。あれが終わったあとぐらいに、ひよっとしたらサミットで三重県が名乗りを上げたら、いけるのではないかという考えは、知事の中ではありましたか。

(知事)

直後はなかったですけどね、まあいけるんじゃないかというか、最初結果として関係閣僚会合で手を挙げたので、まあ手を挙げたいなあというのは考えたことはありましたけどね。

(記者)

関係はダミーでしょ。

(知事)

そんなことないです。元々、関係閣僚会合というか、ホンチャンいきたかったですけどね、いろいろ財政上のことがいけるのかとか、若干の懸念がある点がありましたので、関係閣僚会合に手を挙げたというのはありましたけどね。

(記者)

決まるまでに、いろいろ記事が出て、例えば、神戸にもう一回警察庁が入ってチェックしたということで神戸が有力じゃないかとか、あるいは東日本大震災の被災地や広島とか、変わってそういうところが出てきて、志摩というところが震んだ部分があったと思うが、そのときに知事はもう駄目かと思っていたんですか。

(知事)

駄目かと思ったことはないですけども、最後の最後まで活動を続けましたね、私の場合は。いろんな働きかけなど。確かに、最後のほうは、神戸説とか結構流れたので、神戸かあみたいなことを結構思ったりしましたけども、駄目かなとは思いませんでした、最後まで働きかけを続けないと粘り腰で頑張らないといけないとは思いましたけどね。

(記者)

知事がサミット本体の誘致を決めたのは、直接総理から何かそういう誘いというか、呼び水があったのでしょうか。

(知事)

正確にいうと、総理から働きかけを直接僕にということではなくて、僕が手を挙げたということです。まあ、洞爺湖のときはよくわかりませんが、ぜひ手を挙げろという働きかけではなく、総理周辺の方から伊勢志摩はいいところだよなということについては、意見をいただいたことはありますけどね。

(記者)

結局、名古屋とか愛知県を蹴り倒して、三重県に決まったわけなんですけど、官邸職員をやられた経験とか、三重県というか、

東海地域の中で自民党が政権をとるまでに知事になられているとか、そういうところでの、安倍総理とのつながりというのが、今回やっぱり功を奏したということですか。

(知事)

どうですかね。やっぱりサミットなんで、最期まで官房長官や総理も、警備、海上交通アクセスなどで決めるというふうにおっしゃっていたので、人間関係とかがどうかわかりませんでしたけれども、官邸で働いていたことによって、僕がいたときもちょうど洞爺湖を決めるときだったので、どういう意思決定がきつと行われるんだろうとか、どういう情報の流れなんだろうとかいうことは、別に洞爺湖が決まったときということよりは、官邸にいたことによって、そういうのは、誘致活動をするにあたって参考になりました。

(記者)

他の候補地に比べて、有利だったのですか。

(知事)

いやいや、そんなことはないですけど。だから決まったわけではないと思いますけども、僕たちがどういうふう誘致活動をするかというときに、官邸にいた時の経験は役に立ったと思いますね。

(記者)

西村危機管理監とは、何かお話をされたんですか。

(知事)

今日はまだしてないです。西村危機管理監にもアドバイスを3月にお邪魔したときにいただきましたので、また御礼にお伺いしたいと思います。

(記者)

警備面に関しては、ISやドローンの問題などがありますが、そのあたりで優位性があったのではないかと、知事が考える賢島の優位性はどういうところで、今後警備面は実際どうしていくのか、県民生活への影響を最小限に抑えるためにどうしていくのか、教えていただきたいと思います。

(知事)

警備については、もちろん三重県警だけでやるわけではなく、全国警察、警察庁を筆頭にすべてでやると思いますから、今後具体的に警察庁とつめていく必要があると思っていますけれども、我々が優位性があるというふうに言っていたのは、二つの橋梁しなくて、それを封鎖すると完全に閉鎖する空間ができるということですね。その中には市民生活を日々、ホテルとかはいくつかありますけれども、市民の生活、街中で通勤や通学へ影響が出るということまではないと思っていますので、その影響を抑えるような、いろんな通行規制や入島規制などがあるんでしょうけれども、そこは警察と具体的に詰めていかなければいけないと思っています。

あとは、結構緑がありますけども、一定の見通し、高層ビルみたいなところから狙われるとかいうようなことが可能性が少ない場所なんじゃないかと。

(記者)

ドローンに関しては、どうしてされますか。

(知事)

今回決めていただきましたので、時限にするのか、どういう地域指定にするのか、いつから始めたらいいのか、そういうものも

ありますけれども、一定の条例で規制できるように、国と協議をしたいと思います。警備をいつから入り、例えば、沖縄とかでも、数ヶ月前から入って、一個一個鍾乳洞を調べたりということとかをやっていたようなので、そういう準備をいつから警察庁が始めるのかということ踏まえて、その前には規制を周知する必要があると思うので、その辺は相談したいと思います。近く警察庁から幹部の方が視察に来られると思うので、そのあたりでもキックオフとして話したいと思う。

(記者)

先ほど、遷宮の日に総理が来られたということなんですけど、そのときお話しなさって、総理も神宮に対して、そのときに思いのある言葉を述べられたりしていたのですか。

(知事)

遷御の儀のときは、サミットの話ではなく、神宮の話についてですか。直接は伊勢神宮に対する思いはどうですかと聞いたことはないように思いますが、そもそも総理として84年ぶりに参加をすることとか、ああいう長い時間を使って参加をしていただくということとか、あとは2回目総理をやられたときに、伊勢神宮で記者会見をすると、官邸から伊勢神宮での記者会見に切り替えていただいたこととか、そういう状況証拠とか、総理の立ち振る舞いから考えて、伊勢に対する思いを持ってらっしゃるのではないかと。今日、会見のときにも、悠久の思いを精神性を紡いでということをおっしゃっていたと思います。あとは、志摩の自然ということがあったと思います。

(記者)

ジュニア・サミットも来るんですね。

(知事)

ええ。開催をお願いしたいと思っています。ジュニア・サミットのほうは、ユニセフとともに、県がより関与する範囲が多いと思いますので、そこは是非お願いしたいと思っています。洞爺湖のときは、洞爺湖が本体で、ジュニア・サミットは千歳市でしたので、離れている場所も可ということのようです。

(記者)

ジュニア・サミットの関係も、県民会議の中でやることになるんですか。

(知事)

県民会議の中で議論することになると思いますが、そこは協議会の皆さんと話してから決めたいと思いますけどね。

(記者)

西城さんをはめたのは、その絡みなんですか。

(知事)

それはないです。前から西城でいこうと決めていましたので、サミットが決まったらね、局長は西城でいこうと決めていましたので。

(記者)

その心は。

(知事)

そうですね、調整業務も多いと思いますけれども、やっぱり、どういうサミットが行われるのか、ジュニア・サミットも含めて、メッセージとか言葉とか大事になってくると思うんですけど、僕は知事になったとき、彼は当時政策部の総括室長で、健康福祉部

の副部長もやり、今局長をやっている中で、そういう言葉、思いを込めた言葉の使い方とか、そういう部分で能力を買っていますので、発信の機会になるわけですから、彼がいいんじゃないかなと思いましたけどね。

(記者)

経済効果に関してなんですけど、北海道のときは、5百数十億円あったと思いますが、今回は県としてどれぐらいかという試算を持ってらっしゃるのか、特にポスト遷宮という意味合いかねて、知事として経済効果にどれぐらい期待されてらっしゃるのか。

(知事)

そうですね、あの北海道のときのやつは、経済団体の試算によれば、直接が3百数十億円、パブリシティ効果が1千億円ぐらいだったと思いますけれども、現時点では三重県としては経済効果の試算はしていません。しかし、これは必ずしなければいけないことだと思いますので、協議会の皆さんのご理解を得て、試算を行う準備をしたいと思っています。具体的な数字はわかりませんが、洞爺湖のときは、今回日数がどうなるかわからないですけども、G20も一緒にやったので、あの参加国が多かったということもありますから、そのあたりの違いが出てくるかもしれないですけども、大きい経済効果を期待しています。やはり、それは一定の県費を投入することにもなるでしょうし、先ほど申し上げたような、最小限にはするものの、一定の県民の皆さんの生活に影響が出る可能性がありますから、それはサミットが来ることは効果があるんだということを説明していく責任の一つだと思いますので、そういう効果は是非試算したいと思っています。

(記者)

サミットが決まったということで、開催地の志摩市で行われている準備をいろいろ追っていたのですが、県のほうだと懸垂幕などだけでさびしいなと思ったのですが、この週末や週明け月曜日にかけて、関係機関の会議とか、何かPRの看板を設置するなど、何か取組があれば是非教えていただきたいのですが。

(知事)

月曜日に看板が各庁舎に立ちます。吉田沙保里さんが金メダルやったっけ、国民栄誉賞のときの看板をうちの庁舎、伊勢庁舎、志摩庁舎にやりますのと、鶴方とか、いくつかの駅のところにサミット開催決定みたいな看板などを出す準備をしていると思いますけど。週明けかな。3つの庁舎以外にどこに立てるんやっただけ。

(雇用経済部)

看板自体は3つの庁舎ですけど、駅とかに看板とかディスプレイとかを予定しています。

(記者)

土日とかに何か動きとかはありますか。

(知事)

土日はやらないです。

(記者)

可能な限りで、決まるまでに総理と直接サミットに関して、伊勢神宮にお越しになったこともありましたが、一回4月に東京でお会いになったと思いますが、そのときも含めて可能な範囲で、どんなやり取りがあったのか教えてもらえますか。

(知事)

それは難しい質問ですね。まあ、4月20日に僕が再選して行

ったときは、サミットの話は基本的にしてません。最後にサミットよろしくお願ひしますと僕が2回言って、しっかり検討しますと言っていたただけで、本当にしゃべっていません。伊勢神宮のあとは、地域再生計画の認定を2件もらったときがあったと思うんですけども、そのとき官邸で石破大臣と総理がいたと思うんですが、1月22日やったかな、そのときは認定書をもらうとき、2件もあるんだねということで、欲張りですからという話をして、確か1月21日に僕が首脳会議に手をあげますということをやったと思うんですけど、昨日発表しましたので、ということをやったんじゃないかな。総理と直接は、言える範囲はその辺かな。

(記者)

知事自身が、手を挙げようと決意したのは、首相参拝のときだったのですか。

(知事)

決意はもうちょっと早いです。その前の年の年内です。平成26年。これは元々、繰り返しになりますが、8月に関係閣僚会合に手を挙げたときも、元々自分としてもサミット、本体いきたいなと思っていましたけれども、財政とかいろんな懸念があって、関係閣僚会合でまずいこと。あとから出したじゃないかと言われるんですけど、正確にいうと8月に出した計画書にも、手を挙げる場合があると留保を付けてあるんですけどね。それは役人的なので置いておきますけれども、で、そういうのを発信したらいろんな人たちが、そんなのいくんやったら、本体のほうがいいやないかと言っていたく県内外の方がおられましたので、そういう声を受け止めながら、年末予算編成とかがあって、地方創生交付金が来るということがわかって、いろんなソフト事業を少し玉突きしたりすると財源の捻出もできるのではないかとという一定の目途が立ったりしてきたのと、県費負担があってもそれはほとんど警備の強化に回るということで、それが三重県のレガシーになるのではないかという思いがあったので、年内最後のほうに決断したということです。

(記者)

手を挙げさせていただくと伝えたのが参拝。

(知事)

1月5日です。はい。

(記者)

それをすべて踏まえて、今日総理から電話があったと思いますが、心の中ではどのような思いでしたか。

(知事)

いろんな情報が飛び交いましたので、携帯の秘書官の番号を見たときは、僕や三重県が誘致に対して非常に高い意欲をもって、様々な水面下を含めて、総理に関係する人脈に働きかけをしていたのは、総理ご自身よく御存じだと思っていたので、僕は総理から見たら元部下ですから、決めれなかったけど、ごめんねという可能性もあるのかなと、一瞬東京大学物語の村上君じゃないですけども、思いましたけどね。やったというよりは、電話の番号を見たときは、そういう決めれなくて、例えば、仙台にしたんだよという労いの言葉なのかなという可能性もあるかなと思ったりしましたけど。

(記者)

で、実際出てみて。

(知事)

実際に出てみて、秘書官から総理に代わりますと言って、安倍晋三ですということから、先ほど申し上げたような感じでした。そのときの気持ちですか、声が裏返りそうだったんじゃないですか、たぶん。裏返っていたかもしれないけど。外にみんな中継準備してたんじゃないかと思いますが、声がでかくならないようにしましたけど。非常にうれしかったです。正確な文言はそうだったかはわかりませんが、総理は大体そんなことを言っていたと思います。天にも昇るといふか、うれしかったです。さっき言った25分から僕が会見しますので、と総理が言ったときくらいから、むしろ重大なことになってきたな、気を引き締めてやらなといけないなという思いになりました。電話を切ったからは、しっかりやらないという思いのほうが強かったですけど。

(記者)

あらゆる場面で、三重県民のおもてなしが問われると思うんですけども、県民に向けてどんなメッセージを発信したいですか。

(知事)

そうですね。本当に千載一遇のチャンスだと思うんですね。僕は遷宮のときのお白石持行事の地元の皆さんの様子とか、遷御の儀付近のときの地元の皆さんの様子とか、そういうのを見ていて、絶対やればできると思っているの、あのときは主に対日本人でありましたけれども、対世界の人たちに対してどういうことができるのか、もちろん県もしっかりサポートしますけれども、千載一遇のチャンスだということをつまえて、ぜひここでワンステージ上がる努力をみんなしてほしいと思いますし、僕はさっきあったジュニア・サミットのような子どもたちにも何か関与してほしいと思っているの、子どもたちが夢を持てるような、子どもたちにもそういうことを説くことができる県民の大人の皆さんであってほしいと思いますし、県民の皆さん全員の協力なくしては、成功しないと思いますから、是非ご協力いただきたいですね。

(記者)

洞爺湖であれば環境、沖縄であれば平和ということメッセージにされてたと思いますが、改めて知事が伊勢志摩から発信できるメッセージとして一番大きなものはどういうものと考えていますか。

(知事)

そうですね。今日総理もおっしゃっていただいたと思いますけれども、日本人が持つ精神性と、日本の地方の自然の原風景のこの2つなんだと思うんです。総理がそういうところを拘られているのは、うちの紙にも書いてあるとおり、テロとかに対して毅然とした対応をとるといふことに加えて、総理がおっしゃっているのは国際協調主義に基づく、積極的平和主義ということをおっしゃっています。国際協調主義に基づく、積極的平和主義とは、テロとかには毅然と対応するけれども、多様な宗派、民族、文化、人種、歴史、そういうものを越えて、多様な価値観を受け入れていこう、そこから平和をつくっていこうということだと僕は理解をしていて、日本の伊勢神宮とかの神道の考え方は、宗派を超えて多様な価値観を受け入れよう、志摩にあるような自然公園においては、自然との共生の中で、いろんな自然の多様性を受け入れていこうということなので、多様性を受け入れる精神性、それが日本人の心のふるさとがここにあるということと、ふるさとの原風景がここにあると、そういうことなのではないかと思っております。まあ、総理に聞いたわけではないのでわかりませんが、あと皆さんも覚えていると思いますが、訪米前にジャカルタのバンドン会議に参加されたときに、僕が今申し上げたようなことを共に生きるというところで演説でまさに述べられています。それは当時のインドネシアの大統領のバンドン会議でつくったときの思いから引っ張られていますけれども、それと共通性が

高いと思っていますので。あとは、さっき言った持続可能性じゃないですかね。

(記者)

新しい部局の推進局についてですけれども、現在 16 名で最終的にはどれぐらいの規模になりますか。

(知事)

洞爺湖のときは、117 名までいっています。先ほど言いましたように G20 ではないので、もう少し小規模にはなるとは思いますが、加えて、県の職員だけではなく、民間からの出向者、市町からの出向者も洞爺湖のときはたくさんありましたので、そういうものも含めて、117 名は一つの目安だと思いますけども。もう少し小さくなると思いますけど。

(記者)

県庁内のどこになりますか。

(知事)

場所は、もしかしたら外に行くかもしれません。外の施設をどこか借りるかもしれません。

(記者)

それは我々対策ですか。

(知事)

今、それだけの規模入る部屋がないですもん。

(記者)

講堂とかありますやん。

(知事)

講堂はあれ、一応災害のときのオペレーションルームなので、講堂はちょっときついですね。なので、たぶん外を借りることになるとは思います。それか、今うちが持っているところのどこかでやることになると思います。

(記者)

県として、どれぐらいの財政負担が発生しますか。

(知事)

今のところ、まだ全然話をしていないのでわかりませんが、北海道のときは、道の一般財源の県費が約 15 億円と聞いていますが、G20 とかやったり、日にちが一日長かったりしたので、主に警備に係るお金だと聞いていますので、詳しく聞いたら、特別交付税とかで裏があるのかなど、なかなか覚えている人が北海道にいらっしやらないので、実際どういう財源手当てができるのかわかりませんが、北海道とかもいろんな県費縮減努力をしてきたみたいなので、なるべく厳しい財政状況の折りですから、負担軽減に向けて、国とも調整したいと思いますけどね。だから、北海道洞爺湖のそれを上回ることはないと思いますけれども、それが現時点での一つの参考になるのはその数字だと思っています。

(記者)

県の財政も、警備面に主に使われるということになるのでしょうか。

(知事)

北海道から聞いたところでは、機動隊の盾とか、防毒マスクとかは、サミットが終わったあとも、県警本部のレガシーになるので、県費で出すことが多いですけれども、まあ結果としては、

そういう財政負担をしても、県の警備力の強化にもつながりますから、それは全く一過性の金ではないと思っていますけどね。

(記者)

サミット開催に向けて、知事が考えている不安要素はあるのでしょうか。不安要素があるのであれば、来年に向けてどのように改善していくのでしょうか。

(知事)

不安要素というか、我々警備上の優位性があると申し上げましたけれども、警備って際限がないと思いますから、早く警察庁さんと相談して、具体的に警備を万全にしたいなと思いますね。場合によっては、ドローンのこともそうだし、過去の例えば、ワールドカップとかでデモみたいなこともあったりしますから、そういうことに対して、どういうふうに対応するか、県民の皆さんの安心・安全をどう守るかということなので、そこは全警察をあげてやっていくと思いますから、警察庁さんと相談したいと思います。まだ具体的に見えていない部分、県だけでできない部分なので、課題がある点としては警備のことをしっかりやりたいと思います。

(記者)

これまで決まるまで、自信の根拠は何だったのでしょうか。

(知事)

いつもその指摘を受けていましたが、総理から何か言われてたとか、確約されていたということがあつたわけではなく、様々な情報を総合すると、自信というか、決めていただく選択肢の一つではあるとは、常に思っていました。

(記者)

総理の電話の前に、自信が確信に変わった瞬間はありましたか。

(知事)

確信は 1 回もないですよ。僕は特に 5 月に入ってから様々な情報収集をやらさせていただいたので、普通に考えてですよ、G7 サミットを三重県でやるというのは、相当ナローパス、狭き門だと思うんですよ。そこで、交通アクセスが一つの要素に入っていると考えると、東京からの距離も遠いし、その狭き門を突破するには、僕がうちが一番だというふうには信じ切っておかないと、ついてくる職員たちも大変だったと思うんです。で、市町や協議会に入ってくれている人たちも本当に大丈夫かと思っていたと思うんですね。僕がそういうところでぶれない姿勢でいなければいけないという今思えば、強がりもあったと思いますけども。

(記者)

思い続ければ、思いは叶うという確信、今後の人生において。

(知事)

あの、僕だけではなくて、多くの皆さんがいろんな角度で、いろんな働きかけをさせていただきましたので、あと、アマンが来るとか、志摩観をたまたま改修しなければいけなくなったとか、運もあったと思いますね。それが大きいかな。あとは、みんながよくがんばってくれたと思いますよ。自信があつたように見えたかもしれないませんが、特に、5 月 24 日ぐらいから後ぐらいは、なかなか寝付きにくい日が続きましたけどね、不安もありましたよ。

(記者)

伊勢志摩サミットとなっているんですけれども、鳥羽や他の伊勢志摩地方の市町は一体どうなるのですか。

(知事)

これは、ご案内のとおり、伊勢志摩国立公園は、鳥羽市とか南伊勢町とかも含めてなので、伊勢から一つの公園になっていますので、例えば、伊勢志摩コンベンション機構というの、鳥羽市を含めた一つの観光の共同体ですから、伊勢志摩地域ということで、伊勢市も志摩市も鳥羽市も入っているという理解です。最終的な名前は、もう1回調整することになると思いますけれども、総理は伊勢志摩サミットとおっしゃっていただきましたけれども。

資料20

知事定例会見記録

日 時／平成 28 年 5 月 30 日（月）10:30～11:27
場 所／県庁プレゼンテーションルーム

発表項目等

- ・伊勢志摩サミットを終えて（報告）
- ・伊勢志摩サミット第 5 弾公式ポスターについて（発表）
- ・平成 29 年度国への提言・提案活動（ポストサミット事業等への協力・支援）について（発表）

質疑事項

- ・発表項目等に関する質疑

発表項目等

（知事）

それでは 3 つ、私のほうから話をしますが、冒頭伊勢志摩サミットを終えてということでご報告させていただきますけれども、若干長くなるかもしれませんがよろしくお願ひしたいと思います。5 月 26 日、27 日の 2 日間にわたり開催されました伊勢志摩サミットは、全日程を安全かつ成功裡に閉幕することができました。天気も予報を覆し、奇跡的な状況をもたらしました。開催が決定した昨年 6 月 5 日から約 1 年間にわたりオール三重で大活躍かつご理解ご協力いただいた県民の皆様はじめ、県内外の事業者の皆様、警備や消防・医療等に携わった全国の関係者の皆様など、挙げればキリがありませんが、ひとえに多くの方々のご協力ご尽力の賜物です。改めてサミットに関わった全ての皆様に深く感謝を申し上げます。また、第一第二の各県政記者クラブの皆様はじめ、東海地域のメディアの皆様にも、丁寧な取材で様々な情報発信をしていただいたことにも改めて感謝を申し上げます。メディアの世論調査におきましても、共同通信さんのもので、今回の伊勢志摩サミットを「評価する」「どちらかといえば評価する」が合計で 78 パーセントに達しており、洞爺湖サミット時の読売新聞さんの調査で「評価する」が 44 パーセント、これ「評価しない」は 52 パーセントでしたけども、であったことを考えれば、単純比較はできませんが、多くの関係者の皆様のご尽力のおかげで、国民の多くの皆様にご評価いただけるサミットだったのではないかと感じています。今回のサミットを振り返り、感想を 4 点述べます。もっともっと申し上げたいことはあるのですが、まずはこの 4 点のみにしたいと思います。1 つ目は、サミットに関わった県民の皆様の素晴らしい大活躍であります。とにかく感動した、という思いであります。県民の皆様のおもてなしは、首脳や配偶者からも感銘を受けたとの言葉をいただいたと聞きました。ある首脳は「おもてなしが日本の特徴だと知っていたが、それを証明するおもてなしであった」とおっしゃっていたそうです。国際メディアセンターのダイニングや三重情報館でも、国内外の方々から高い評価をいただきました。全市町で取り組まれた「おもてなし大作戦」は 6 万人を超える皆様クリーンアップ活動にご参加いただいたほか、合計 1 1 万本以上の花で歓迎していただきました。これらオール三重での取組を通じて、私は三重県民の底力を改めて感じました。とりわけ、次世代を担う若者の活躍には非常に感動し、何度も目頭が熱くなる思いでした。ジュニア・サミット参加者をはじめ、配偶者プログラムで昼食を提供してくれた相可高校生、植樹や伊勢音頭などで交流してくれた小学生、外国語ボランティアとして活躍してくれた高校生など、紹介するとキリがありません。また、県内全域でその何十倍、何百倍もの子どもたちが、様々な形で参加をしてくれました。ある高校生は「三重の良さを再発見でき、海外で学びたいという自分の目標もはつき

りした」と述べていました。彼らが経験したことや味わった達成感は、彼らの未来を選択する際に貴重な材料となっていくと思います。この例にとどまらず、そのような次世代がサミットを通じて育まれたことは、まさに今回のサミットの「レガシー」の重要なものの一つであり、三重県の財産です。2 つ目は、とにもかくにも安全であったことです。日本警察の威信をかけ、過去最大規模で臨んだ警備。加えて、海上保安庁や自衛隊など多くの関係機関との連携を行いました。逮捕者もゼロという結果に、日本の警察力を世界に見せつけることができたのではないかと思います。また、ここには県民の皆様のご協力も欠かせませんでした。当日の首脳の車列実施等における交通規制など、ご不便もおかけした中でありましたが、多大なご協力をいただきました。中でも、官民で協力してテロ等を未然に防止するという試みは、まさに日本型テロ対策であり、これらは三重県でも今回のサミットの「レガシー」として、今後の取組に繋げていきたいと思っています。3 つ目は、私達も切望していた各国首脳による伊勢神宮訪問です。今回の参加国の首脳が伊勢神宮を訪問するのはもちろん初めてのことであります。宇治橋前で各国首脳を一人ひとりお迎えし、最後にオバマ大統領を伴って安倍総理は二人で宇治橋を渡る。その後、横一列で和やかに談笑しながら歩く。そして、御正宮の前で歴史的な記念撮影。それらの様子を画面で見た時、本当に感無量でありました。その後、参集殿に戻ってきた首脳たちは、それぞれの思いを記帳しました。オバマ大統領は「幾世にもわたり、癒しと安寧をもたらしてきた神聖なこの地を訪れることができ、非常に光栄に思います。世界中の人々が平和に、理解しあって共生できるようお祈りいたします」と。伊勢神宮が「平和への祈り」「自然と人との共生」「他者や多様性への寛容や調和」「日本の伝統文化の継続性を示す」などの場であることを各国首脳に感じていただきました。それらは、私たち県民が式年遷宮を自ら担って体験し、心に記憶してきたものに他なりません。メルケル首相は、伊勢神宮訪問について「シンゾウありがとう」とおっしゃったとも聞きました。総理は、議長記者会見において「神宮は五穀豊穡を祈り、平和を祈り、人々の幸せを祈りながら 2,000 年もの悠久の歴史を紡いできました。今日の平和と繁栄は、そうした人々の祈りの上に築かれたものであります。その神宮から、今年の G 7 サミットはスタートいたしました」と述べました。世界のトップがその場に勢揃いした姿そのものが、世界平和への強力なメッセージになったと思っています。その後のオバマ大統領の広島への訪問と合わせ、それらは日本の、世界の歴史において「前向きな未来志向」という共通点を持つ大変意義深い神宮訪問であったのではないかと思います。私は、先般の式年遷宮後「世界の巡礼地などに匹敵するような、世界から人が訪れる場所にしたい」と議会などでも繰り返し述べてまいりました。その一歩が踏み出せたのではないかと考えております。4 つ目は、情報発信です。サミット開催という千載一遇のチャンスを捉え、全力で三重県の情報発信に努めてまいりました。当初の予想を超える成果が得られたと感じています。食材では、首脳や配偶者のランチやディナーは概ね三重県産であり、国際メディアセンターでの食事は 156 種類の食材のうち 152 種類において何らか県産のものが使用されていました。また、首脳の食事の乾杯日本酒は全て県内の酒蔵であり、提供した複数の酒蔵では問い合わせが殺到し、1 日で 1 年分の注文があったところもあるそうです。食材以外にも、乾杯で使用された萬古焼、首脳が会議で囲んだ尾鷲ヒノキのテーブルなど多くの県産品が使われました。これらは、生産者の皆様が命や日々の生活をかけて育ててきたものであり、それらが世界へ配信されたことは誇りであります。三重情報館は、5 日間で来場者数が延べ 1 万 2,729 人。実演や体験、展示にご協力いただいた関係者の皆様のお

かげで、多くの方々に来場いただくことができました。それら以外にも、延べ36カ国のプレスの方々にご参加いただいたプレスツアーや多くの国内外メディアからの取材など、あらゆるメディアを通じて全国へ、世界へ、三重の魅力が存分に発信されました。ある海外記者は「自然、文化、歴史などの日本の魅力が凝縮された場所」とのコメントもあり、私たち自身もそれを感じるきっかけとなりました。最後になりましたが、改めて県民の皆様へ感謝を申し上げます。安倍総理は、最後の議長国会見において、世界中のメディアに対し「今回のサミット開催にあたって大変なご協力をいただいた伊勢志摩の地元の皆さん、三重県の皆さんに、心からの感謝を申し上げます」と締めくくりました。開催県知事としてはありがたく思いましたし、地元の皆様にはご不便をかけたところもありましたが、今回のサミットは間違いなく大成功であり、国内外からも評価されるものであったと思います。それは何度も繰り返しますが、県民の皆様のご協力なくしてはあり得ませんでした。「感動した」「涙がとまらない」「成功は日本と三重県民の誇り」「改めて三重県の良さを感じる」「日本の、日本人の素晴らしさを感じる」「これから〇〇(マルマル)に挑戦したい」というサミットを契機とした意欲を語る言葉など、多くの県民の皆様からの声をいただきます。多くの県民の皆様が自分たちのふるさとを改めて見直し、その魅力に気付き、好きになることができたことも、今回のサミットの大きな「レガシー」の一つだと思います。その思いは、間違いなく今後の地域づくりに対する動機付けになるからです。また、県民の皆様から、とりわけ「ありがとう」という言葉をたくさんいただきます。本当に開催まで紆余(うよ)曲折様々なことがありましたが、県民の皆様がそのように思っていたく気持ちを心から嬉しく思います。サミット開催はあくまでチャンスにしか過ぎません。チャンスは貯金できません。我々行政もしっかり取り組んでまいります。県民の皆様一人ひとりがチャンスを掴(つか)みにいこうとする思いと行動がなければ、サミット開催の成果を未来に生かすことはできません。それがあって初めて、中長期的な視点から「伊勢志摩サミットは成功だった」と歴史において言われると思います。私たち三重県は新たなスタート地点に立ちました。引き続き皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いします。これが1点目です。

2点目ですが、これです。伊勢志摩サミット三重県民会議でシリーズの最終版となります第5弾の公式ポスターを作りました。お配りしたポスターの縮小版をご覧くださいと思います。まず、ポスターの上部には、サミット開催に向けて様々な受入準備にご協力いただいた多くの県民の皆さんや企業、団体の皆さんに対して、サミットを無事に終えることができたお礼をここに書かせていただいております。次に真ん中、これですね、これは、写真ですけども、昨年6月5日の開催決定から今年5月15日の外国語案内ボランティア結団式までの27枚の写真を使いまして、オール三重で丸となってサミットの成功に向けて取り組んだ成果を表現しました。一番下につきましては、ここですね、今回のサミットを一過性にせず「明日へつなぐ」、そういう思いで「つぎの三重へ、つぎの明日へ」というメッセージとして発信するものです。サミット開催決定から閉幕まで、本当に多くの皆さんが様々な活動に取り組んでいただきました。いずれも素晴らしい活動ばかりで、写真を選ぶのに本当に苦労しましたが、皆さんの活動と三重県全体の一体感が生き生きと表現されたポスターになったと思います。サミットに関わっていただいた多くの皆さんが、サミット成功に向け共に歩んできた道のりを振り返っていただき、ポストサミットに向けたスタートとして、これからのアクションに繋げていただくきっかけとなるポス

ターにしたいと思っています。

そして最後3点目ですけども、6月6日と7日に行います「平成29年度予算に向けた国への提言・提案活動」についてであります。すでに5月25日にお知らせしましたが、そのうち未発表でありました「ポストサミット事業等への協力・支援」について、資料をお配りさせていただいております。女性のやつとかMICEとかインバウンドとか、あるいは国立公園のナショナルパークとか、こういうようなものが入っています。地方の取組を成功に導くために、サミットと同様、国と地域が一体となった取組が不可欠であることから、国の協力・支援について提言を行います。サミット開催の経験と成果を一過性に終わらせず、「レガシー」として三重県そして日本全体の地方創生に繋げていくことができるよう、協力・支援についてしっかり提言したいと思います。長くなりましたが私のほうからは以上です。

【発表項目等に関する記者からの質問】

○伊勢志摩サミット第5弾公式ポスターについて(発表)

(記者)

では発表項目について幹事社から質問させていただきます。2点あるんですが、まず1点目がこのポスター、1万枚製作枚数ということなんですが、配付先を見ると各団体なんかが多いと思うんですが、これって個人で多分県民の方でほしいという方もかなり多いかと思うんですが、そういう場合の、例えば手に入るのかどうかということ、もし手に入るのであればその連絡先等教えていただけたらと思います。

(答:雇用経済部)着払いですけども、県民会議事務局にお問い合わせいただければと思います。事業推進課までご連絡いただければと思います。

○平成29年度国への提言・提案活動(ポストサミット事業等への協力・支援)について(発表)

(記者)

あともう1点がポストサミット事業についてなんですが、インバウンドの推進ということで私もIMCの三重情報館へ行かせていただいて伊賀の忍者ショーとか海女さんの講話なんかを聞いたんですが、例えば具体的に今後日程等が決まっている、例えばこう、イベントであるとか何か考えていること、もし決まっていれば何えたらなと思ったんですが。

(知事)

インバウンドのですか。

(記者)

ええ。

(知事)

もう既に今年度予算ちょっと今手元にありませんが、海外誘客課に聞いてもらえば分かりますけども、幾つか台湾とかタイとかマレーシアやったかな、旅行博に出展するとか、あとメディアとかを招請する事業とか、そういうのを幾つかもう既に準備を予算化されていますんで準備をしていますんで、ちょっと細かい事業の日程とか対象国とか、そういうのはまた海外誘客課に聞いてください。

(記者)

他社さんから質問のほうをお願いします。

(記者)

改めてですけど、国の提言のやつを含め、これをどうやって地域を元気にするか、に繋げていっていかってこの今のお気持ちと、今の質問とちょっと重複するかもしれませんが取組、どんな取組を進めていきたいかというのを改めてお願いします。

(知事)

先ほども言いましたようにサミットはチャンスではないので、口開けて待ってれば何か地域が良くなるというものではありませんから、そのしっかりと行政も県民の皆さんも事業者の皆さんもそのチャンスを掴(つか)みに行くという、そういうような思いと行動が大切だというふうに思います。例えば、先ほどご質問あったような地域、海外の地域旅行博に出展して三重県全体の魅力を効率的に説明するというは一つひとつの事業者では難しい面もあると思いますから、そういうこのインバウンドに関する情報発信であるとか、あるいはMICEの誘致であるとか、そういうものの民間事業者の皆さんとか県民の皆さんだけではなかなか取り組めないものを中心に、行政が先頭に立って取り組んでいきたいと思っています。一方でそれで観光客に来ていただいて、次にレポートにその例えば旅館とかホテル、レポートに繋げるか、あるいはもう1回その自分ところの食べ物を食べてもらえるかどうか、それは着地地点における民間事業者の皆さんや生産者の皆さんやホテル・旅館の皆さんのチャレンジだと思うんですね。だからあのそういうこの皆さんが着地地点において最大限の努力を発揮できる、そういうフィールドづくりを行政としては様々な場面で、さっきの国際会議だとか観光誘客であるとか、あと観光誘客は海外だけじゃなくて、私は今回先ほど次世代の話もしましたが、改めて教育旅行ですね、内外の皆さんに教育旅行で来てほしいというようなことを日本中にも、また海外にも言っていきたいと思いますが、そういう面とかそういう辺りを中心に、あとここに書いてあるような伊勢志摩国立公園、これはあの今、国が今年度中なるべく早い時期だと思いますけど、全国で5つぐらいナショナルパークにしよう、その要は単に自然環境が整っている、自然が豊かな公園というのではなくて、海外の人たちも訪れて魅力を感じることができるようなナショナルパークにしようという、そういう計画になっていますので、我々はその5つに選ばれるように働きかけを強めて、さっきの行政ができるという意味では地域全体のブランド化というんですか、そういうフィールドづくりと地域全体のブランド化、そういうものにやっぱり積極的にチャレンジしていきたいと思っています。

(記者)

あとそのための予算を、支援をしにいくと？

(知事)

あと既存の予算であるとか、いろんな地方創生の交付金や新設交付金とか、そういうのも活用してやっていきたいと思っています。

○伊勢志摩サミットを終えて(報告)

(記者)

三重情報館の人数が1万3,000人弱で、洞爺湖の、北海道の情報館と比べて2倍以上ですね、っていう形になったと思うんですけど、そういう意味で今回三重情報館を振り返って知事はこの人数をどう受け止めておられるのかと、成功だとおっしゃられたと思うんですけど、その情報館での成功の要因というのを伺いできればと。

(知事)

1つは、何個かあると思うんですけど、受け止めについては非常にたくさん来ていただいたと思います。僕が洞爺湖のメディアセンターだったルスツリゾートを視察した時からこの情報館の重要性、あるいは北海道が作った記録誌などを見てる中での情報館の重要性、そういうのを認識していましたので、力を入れてやってきた結果、非常に多くの皆さんに訪れていただいたというふうに思っています。IMCを利用した人が正確にはまだ分かりませんが6,000人ぐらい、人ベースでいったとすると1万3,000人近くというのは、非常に多かったと思います。その成功の要因は、1つはコンテンツだと思います。大画面それから実演・体験、ポンタナ、それから写真撮るやつとか、あとフリクションペンとか、そういう動的で体験型で双方向、そういうことを目指してやってきましたので、そういうコンテンツを揃えることができたということと、のべつまくなく何でもええよというのではなくて、一定の選択と集中を図って、コンセプトに合う展示というのを心掛けたというようなことが要因の一つ、まずはコンテンツということだと思います。2つ目は動線です。やっぱりダイニングを終えて真正面にありますから、あれは元々本当は大画面に向かってもうちょっと左の所に入口ができる予定、出口、入口かな、できる予定だったんで、もし皆さん想像していただいて、正面からもっとちょっと左にあつたら、左行ってそのまま出口出てしまいそうだと思いますので、それを最後交渉で真ん中に持ってきて、大画面がバーンていこうにしましたので、そういう意味では動線は勝利の要因の一つ、勝利というか良かった要因の一つではないでしょうか。3つ目は、やっぱりその中の人たちの積極的な声掛けとか、ソフトのおもてなし対応というのが非常に良かったんじゃないでしょうか。例えばこの前最後のぶら下がりでも言いましたけど、セントヨゼフの高校生の女の子なんか最初躊躇(ちゅうちよ)してあんまり声掛けられませんでしたけど、慣れてきて積極的に声を掛けてみたりとか、あるいはお茶の振る舞いをしてる人たちもだんだん工夫を試みたりとか、そういうソフト、これはほかのこと言うのも何ですけど、例えば広島外相会合の時のセンター、なかなかそういうのがなかったというふうにも聞きましたので、そういう積極的な声掛け、ソフトのおもてなしっていうのを頑張ってやっていこうというふうに言うてましたんで、それが功を奏したっていう、3点ぐらいやりましたね。

(記者)

もう1点だけ、レガシーとして記念館の構想があると思うんですけど、終えられて改めてどういうものにしたのかというのと、具体的な日程もし多少なりともあればお願いします。

(知事)

1年以内には作りたいというふうに思いますけど、スペースの関係もありますので、どういう展示ができるかっていうのは、あるいはその何ていうか、恒久的な施設にするのか一時的な施設にするのかということにもよっても変わってきますので、またあとそれがどういう展示物を入手することができるのかということもありますから、まだこれから最終調整をしていかないとはいけませんけど、1年以内にオープンをしたいというふうに思います。そんな中で、やっぱり何ていうんですかね、さっきの情報館もそうですけど、動的な、何かパネルがいっぱい並んでますねとかじゃなくて、何か動きのあるものにしたというふうに思います。あとはスペースをどれぐらい取れるかということと、あんまり大き過ぎるものどうなのかなというのも思わなくもないので、少し、あとは人がなるべく何ていうか、行きやすい場所にするとか、なるべく既存の施設を使うとか、そういうようなことは考えてますけどね。

○平成29年度国への提言・提案活動（ポストサミット事業等への協力・支援）について（発表）

（記者）

国への提案に絡んでですけど、サミット開催自治体への柔軟な財政支援、これ、だから三重県のような地方にこういうことをしてくれ、という意味なんですか。

（知事）

そうですね。我々最終的に国の多大なるご理解の下、国交省と、外務省が新たな制度を設けてくれたので一定の負担を国にしてもらうことができるようになりましたけども、これは元々決まっていたわけではないので、7年後か8年後には日本でまたサミットが普通に考えれば開催されるわけですから、事前にそういうスキームをちゃんと作っというて、前年の概算要求の段階から、それは取りまとめがどこになるのか分かりませんが、そういうスキームで、ほかの私たちの次にやる自治体の皆さんがご苦労がなるべくないようにしてくださいねという、そういう思いですね。

○伊勢志摩サミットを終えて（報告）

（記者）

多分、メリット、もちろん東京都も自治体ですけど不交付団体ですから、そこは念頭に置いてないと思いますけど、つまり知事は次回のサミットも地方で開催すべきだとお考えなのかどうか、もしそうであればその理由は。

（知事）

そりゃあもう間違いなく地方で開催するべきであるというふうに思います。今回の手応えの一つもやっぱり三重県とか伊勢志摩というのはほとんどの人が、特に海外の方々で知らない方が多い中で、日本の地方にもこういう素晴らしい場所があるのだということと、さっきのコメントも紹介しましたが、日本の文化とかの日本の凝縮してる場所だと、また来たいとおっしゃっていただくようなこともあったわけですが、やっぱりその地方の良さというのを発信していくというためにも、地方開催は望ましいと思いますし、あと警備という観点で、今回デモが非常に少なかったし、大きな混乱はなかったという中で、もちろん警備当局の最大限の頑張りのもあったと思いますが、なかなかその距離的に、でも行くの遠いという話がかもしましたらあったかもしれませんけれども、やっぱり僕らはその2001年のジェノバのイタリアのサミットで、NGOと警官隊の衝突により死者が出てしまうということがあったということは、やっぱり重く受け止めなければならないと思うので、首脳セキュリティという観点からもやはり大きな都市部というよりは地方で開催されるほうが望ましいのではないかとこのように思います。以上2点から、地方開催をすべきというふうに思います。

（記者）

もう1点、サミットに絡んでですけど、今回、僕が見る限りでは議長とか副議長とか、知事に比べるとあまり大きい出番がなかったように見えるんですが、何かこれは政治的な背景があるんでしょうか。

（知事）

政治的背景はないと思います。ないと思いますが、元々かなり人を絞れと。例えば、参集殿で僕が順番にお迎えをする時も、知事プラス1人しかあかんと、秘書もだめと、通訳もだめと、1人と。それでうちは足田副参事に、あいつ通訳と写真とロジと全部、足田にやってもらいましたが、すべての場面においてセキュリティの観点から人を減らすというようなことだったので、そういう決まった役割の定められてない方があまり

くさんにならないようにという元々の外務省や警備当局などの意向が強かったので、県が何かどうしたとか、あるいは国で政治的意向が発揮されたとか、そういうのではないというふうに思います。セキュリティや全体の行事の進行という観点で極力人数を絞るということであったと思います。

（記者）

サミット無事開催できたことについて、官邸だったり関係者にお礼に行く予定はありますでしょうか。

（知事）

これはとにかく今日幹部が集まって会議でも言ったんですけど、徹底してお礼に行こうと、県内それから県外に行きます。県外、政府を中心とした所は明日行きます。本日夕方、日程を公表します。今、現在アボ調整中ですので、明日東京に行きまして、政府関係の所を中心にお礼に上がる予定です。県内は随時、私と両副知事、それからサミット局長、理事を、分担をして県内のお礼回りをしたいと思います。

（記者）

明日の東京のお礼回りは、これは取材可能になる見込みなんでしょうか。

（知事）

それは例えば仮に、官邸とか外務省とか経産省とか行くようになった場合には、それぞれの広報の仕切りになると思うので、そこが何ていうか、やな？冒頭カメラ撮りで終わりとか、そもそも無しとか、無しで僕が1階でぶら下がりだけするとかっていうケースもあるかもしれません。ちょっと向こうのご意向もあるので、それも含めて公表させていただきます。

（記者）

他の発表に関して大丈夫でしょうか。

（記者）

先ほど日本のおもてなしの素晴らしさ知ってたがという話ありましたが、これはどなたから？

（知事）

これ、どなたとはちょっと申し上げられないですけども、首脳の中でこういうふうに使っていたということを政府高官から聞きました。

（記者）

なぜなんでしょうか。

（知事）

これは県民の皆さんの歓迎の様子とか、あとはホテルの様子とか、あと食事とかそういうのを含めて全般的なことでおっしゃっていただいたというふうに聞いています。ああ、なぜ、誰かと言ってはいけないということですか。

（記者）

ええ。

（知事）

何か言っていていいと言われてないから。何か一人歩きしちゃうとね、言語で、どの言語で言ったか僕聞いてませんが、どの言語かで言って、それを日本語に意識をし、その政府高官が僕に伝えて、でこうなってますから、ちゃんとしたニュアンスかどうか分からない部分もあるので、誤解を避ける

という意味でもどなたがというのはちょっと避けたほうがいいのかと思いますね。

(記者)

僕も代表映像をずっと見てたんですけど、そういったところで分からない印象に残ったようなことってありましたか。

(知事)

分からない印象に残ったこと。いっぱいありますけどね。

(記者)

一番を。一番のやつを。

(知事)

一番か。それは首脳との絡みとかということですよ。

(記者)

そうですね。

(知事)

印象、めっちゃ、そりゃもう初めての経験ですから、あらゆるところが印象に残りましたが。そうだな、どれがええかな。いっぱいありますけどね。オバマ大統領の手はあまり大きくなかったです。いや、それが一番印象に残ったわけじゃないから。そうやな、何がええかな。

(記者)

結構、コミュニケーション取った機会とかはあったんですか。

(知事)

あんまり無かったですね。参集殿でお迎えをし、オランダさんが一番最初に着いたんですけども岸田大臣が対応してましたので、その時、前ちょっとぶら下がりて言ったかもしれませんが、伊勢神宮の年間参拝客数をオランダさんに聞かれたので、僕が説明をして、平成25年は1,420万人、去年は838万人で、その前が25年が2013年が1,420万人で、これは東京ディズニーリゾートに次ぐ多さですよって言ったら笑ってましたけど。とかやって、あとは僕ずっと立ってたんで、帰りますか、帰りに少し参集殿からプロトコール順番、決められた順番に出ていく時にトルド首相と話したりはしましたけどね。

(記者)

今回のサミットで、僕、概念が間違っているかもしれないんですけど、友好姉妹都市的な何か新たな関係をどこかと結ぼうとかそういうところはどうでしょうか。

(知事)

まだ直接は考えてませんが、明確に具体的なものはありませんが、今、構想として、こうしたいよねって話をしてるのは、1つは今度イタリアでジュニア・サミットが開催されたら、桑名市さんがそのジュニア・サミットが開催されるイタリアの場所と何らかの友好とかをやってみるというのは面白いんじゃないかと。イタリアの次のサミットがシチリア島で決まりましたので、シチリア島というのは風光明媚な離島の海洋リゾートですから、我々三重県全体よりも人口多いですけども、シチリア州というのは、そういうところが何かあるかもしれませんし、あとは、G7はちょっとまだ友好とか幾つかこのサミットまでのやりとりの中で、例えばイギリスとかからライフイノベーションの関係の産業協力を

たいな話が具体的に上がってきたりとか、あるいは、ベトナムの首相から熱烈なベトナム訪問を要請されたりとか、そういう、そこはホイアン市が松阪とやってますし、ホイアン市ってクアンナム省っていうところで入ってるんですけど、クアンナム省は首相の出身地なんで、フック首相の。そういうのも生まれるかもしれません、まあこれから、少し。一方で、他のフランスやったらヴァルドワーズ県とか、アメリカだったらシアトルとかサンアントニオとか既にやっているところが結構多いので、追加的にということの可能性があるとしたら、今申し上げたようなところは今想定し得るところだと思います。

(記者)

あと、もう1点だけ。サミット記念館は恒久的なものじゃないものになる可能性も結構あるんですか。

(知事)

ゼロではない。

(記者)

そんなにない？

(知事)

ゼロではない。

(記者)

今回、特にG7の首脳の中で、好評だった三重県の食材というのはどれでしょうか。

(知事)

どの食材がというのは、ちょっと個別に誰々さんがこれを良いつて言ってたというのはなかなか申し上げにくいんですけども、僕らも詳しくはあんまり分かりませんので、全般的には好評であったということや、牛肉関係は楽しんでいただいたというようなことも聞いてますけどね。

(記者)

サミット全体でメリットはもう数えきれないくらいたくさんあるんですけども、これが例えば安倍首相の増税延期のトリプルA作りのための壮大なショーであったとすれば、全員の徒労感があふれ出るんでしょうけども、そういう批判はどうですか。

(知事)

どうでしょうね。私はそれぞれの方々の解釈なんで、その解釈を否定することは無いと思いますけども、サミットの成果を次の国内のアクションに生かすっていうのは、それこそ名古屋外国語大学の高瀬先生の著書にもたくさんあるように、例えば、あれいつやったかな、1990年やったかな、91年のロンドンサミットの時には、PKO法案の原案みたいなやつを、そういう法律を作らなければならないということ合意してもらった上でPKO法案を作ったというようなことがありますから、何かその逆算でバックキャストでこういう成果を得るためにサミットをこうしたというようなことが、僕はそもそも不可能だと思うんですよ、各国の首脳が国益かけてやりますので、基本的にはそういうものを一国の個別事情のみが影響するということはなかなか考えられないと思いますし、一方、逆にさっきもPKO法案で言いましたように、成果を得てそれを踏まえてこうするという点については、それは当たり前の話やと思いますから、それぞれの解釈があるので、その解釈を否定することはしませんが、僕は今申し上げたよ

うに感じています。貴殿がどっち向きに書くのかよく分かりませんが、社的に書くのが貴殿的に書くのか分からんからあれやけど。

(記者)

命懸けられやんし。

(知事)

でも、個別の、議長国が当然一定の裁量あるのは当然ですけども、個別の事情のために全体を大きく仕組むというのは、なかなか、例えば消費税のことを言ったとしても、一つとってもですよ、その前段には財務大臣会合と中央銀行総裁会合が仙台でやってるわけで、それを踏まえて成果をやっていくわけですから、そんな一国の事情だけでなかなか、政治利用という言葉がいいのかどうか分かりませんが、やることのできる仕組みではあんまりないと思いますけどね。その成果をどう活用するかとか、どう解釈してどう伝えるかは、それぞれの首脳や政治家の裁量だと思いますけどね。

(記者)

もう一つだけ絡めて、経済が大きなテーマになったとしても、それはある意味、何ていうか、まだ危機的な状況じゃないと、一番、何ていうか、非常に重要な課題ではないと、経済問題は。もっと喫緊である課題があれば差し迫った問題かもしれないけど、そういうラッキーなサミットでもあった？ 経済問題が最重要課題になったという。

(知事)

ああ、なるほどね。そうだな、ていうか、情勢としてもこの日本が議長国になった今年初めぐらいからは、中国を中心として経済の低迷があったので、新興国の経済低迷がありましたから、経済が議題になるというのは必然だったと思います。一方で、いい成果は残りましたが、その何ていうかな、あまり総理が経済が一番だとおっしゃってたんで、より共通性の高いということで経済が一番だとおっしゃってたんで、もちろんそうなったと思いますが、アジアの我々や日本という観点からは、海洋安全保障の南シナ海の問題であるとか北朝鮮に対する対応について、G7各国首脳と一定の認識共有ができたということは、これは大きな成果だと思いますけどね。それはもちろん国として中国などが反発しているというのは当然存じ上げておりますけれども、G7の中で価値観を共有するメンバーでそういう成果がなされたということは、経済が一番だと言っていたものの、いい成果、大事な成果なんじゃないかと思いますね。

(記者)

では、第二記者クラブも含めて質問をお願いします。

○伊勢志摩サミット第5弾公式ポスターについて(発表)

(記者)

最初に戻りますけど、ポスターですけど、事業推進課って住所も含めていつまで存在するの。住所変われば申し込みしたって届かないじゃないですか。

(知事)

事業推進課は、そうですね、今月いっぱいはあると思います。6月いっぱいあります。

(記者)

7月からは本庁に申し込みということですか。

(知事)

その時はまた変更を申し上げることになると思います。6月いっぱい、現在の課の名前の体制は、体制というか人数は減ったりしますが、課は存続をします。

(記者)

ということは6月いっぱい、そこへ例えば申し込みをしたら、今の住所のままでいいわけですね。

(知事)

はい、結構です。

○伊勢志摩サミットを終えて(報告)

(記者)

あとサミットですけど、見方が歪んでるんだと思いますが、私の場合、イベントとしては成功しても会議としては果たして成功したかどうか、さっきお話にもありましたけど、要は、サミット宣言がある程度世界を動かしてきたというムーブメントを過去のことを考えると、決して今回がそういう成果があったのか、それを今後生かすにしてもですね、ということであるならば、知事はどちら、そのイベント部分が成功したのか、さっきから成功、成功とおっしゃってるのは、それとも会議として成功というのか、どちらの観点に立られるわけですか。

(知事)

私は開催地知事としてでありますので、外交上の内容よりはそれ以外の安全であったとか、情報発信ができたとか、スムーズな運営ができたとか、そういう三重県としてこのサミットはどうだったかという解釈で申し上げましたので、外交上の首脳宣言などの位置付けだとかその今後の歴史に果たす役割などについては私が論ずるところではないののではないかと思いますけどね。論ずるところではないというか、でもどうですかね、首脳宣言が言葉として残ることもあることながら、首脳宣言に表れてこないような首脳同士のやり取りとかも当然あったと思いますから、このサミットというタイミングが今後意義を持つということは、いろんなところであり得るんじゃないかと思いますけどね。

(記者)

いや、だからイベントして成功というのと国際会議として成功というのじゃ、県の政策これから変わってきますやん。イベントで政策ならば取って国際会議誘致に課も作って職員も設ける必要はなくて、むしろ例えば祭りでも人呼べるわけですよ、イベントならば。今回、その受けた部分で外国メディアも含めて言ったのは会議の中身じゃなくて、それは各国それぞれの記者によって感覚、捉え方も違うし記事も違うだろうから、ただ共通して言えるのはおもてなしであるとか、あるいは食材であるとか、そういった部分で、これははっきり言えば祭りであっても多分受けると思うんですね。あと、それは県がどちらの方へこれから踏み出すかということの指針が違ってきますやん。その辺はいかがですか。

(知事)

それは、外交上、その会議の中身が良かったかどうかは別としても、三重県が関係する、あるいは三重県が今回の首脳宣言の中身とかを活用して今後の政策に生かしていくべき点というのはたくさんあったと思います。例えばテロの対策行動計画が今回初めてまとめられましたけども、そこにおいては、異文化、異人種、異宗教、そういうものに対して寛容で、それらを包摂して、そしてみんなが繋がりが合っていく、そう

というようなことでテロの未然防止を図っていかなければならないということが盛り込まれています。それは我々が誘致計画書においてそういうことも書いてきたわけでありますから、開催地に関連するという形でそういうものが含まれていますから、そこを引き出して我々がそういう取組をしっかりやっていくということが大事ですし、あと地球温暖化のところも、パリ協定をその長期目標を早めにセットしようというようなこと、早めに実現しようというようなことも書いてありましたんで、そこにおいては地球温暖化の取組を三重県が加速してやっていこうというのであるとか、あるいは女性の活躍という部分においても、教育などの面におけるの提言などもなされていますので、そういうところも三重県としては活用できる中身のものも多々あったというふうに思います。なので、外交評論家が外交の成果として、国全体の評価として宣言内容を評価するかどうかの成功は私は分かりません。でも、三重県として会議の内容で生かすべきところは多々あると、そういう意味も含めて成功であると思います。

(記者)

ちょっと論点ずれてますけど。

(知事)

ずれてないですよ。

(記者)

いや、だから宣言の中身とかどうのこののじゃなくて、国際会議をこれから三重県はやっていきたいということを政策的に打ち出されて、今年一応課みたいな形も作りましかけど、これを維持すること含めて今回の様なイベント的側面を人呼べたというならば、あえて国際会議を誘致する必要はないじゃないですか。

(知事)

でも国際会議ではだめだということもないですよ。

(記者)

ないですけど、基本的に都市圏、大都市圏と決定的に違うのは交通アクセスの悪さとか、あるいは宿泊施設の不十分さとかそういうのがないじゃないですか。だとすれば、そこで勝負しないで本来のイベントのところと呼ぶというやり方もあると思うんですね。知事はどちらに舵切るかということをお聞きしたい。

(知事)

それをいえば両方じゃないですか。両方というのはなぜかという、イベント、イベントって言い方僕あんまり好きじゃないですけど、会議としての運営の中で出る効果もあれば、我々が今国際会議として誘致をしたいと考えている会議の分野は、環境であるとか、防災であるとか、観光であるとか、三重県の政策にマッチをした内容の中身のものを誘致しようというふうに思っていますので、それは何だろうな、両方、どっちかというのではないと思います、両方じゃないですかね。

(記者)

両方？

(知事)

ええ、だから何かイベントっていうか、何かとにかく人を呼びたいからMICEを誘致するというのではなくて、それはMICEを誘致する中にも今申し上げたように三重県の施策と関連するようなものを中心に呼んでよーと思ってま

すから、あるいは今回訪れてきていただいた人がいろんな印象を語ったり、いろんなこの三重県に対する評価をなされるわけで、そういうのを生かしていくという意味ですから、イベント的要素だけでなく中身も当然関係あると思いますけどね。論点ずれてるかな。

(記者)

国際会議っていう言い方は言葉では優しいけど、実際はじゃあ例えばこういう政治的な政治家の、要は会議じゃなくてって学術会議でも構わんですけど、それ引っ張ってくる時に、その地域地域でそれなりに今回ほどじゃないにしてもある程度のインフラ整備は必要かもしれないじゃないですか。そういうこと自身が三重県の財政からいって耐えられる、耐えられないっていう問題も当然あると思うんで、そういう全体的に考えた場合に果たしてどちらへ軸足を向けるか。これは両方並行して行くんだっていうんならそれはそれでええですけど。

(知事)

それは並行していくとして、あと財政についてはそれはもう何ていうか、そうですね、民間の学術学会などにおいても何か通常の財政を考えた中で全く、全く無理筋な財政負担をして国際会議を呼んでくるということはあり得ないわけがありますので、それはその一定の当然負担金みたいななん払うケースもあると思いますけど民間のやつでも。そういうケースもだからその当然何ていうか、国際会議の誘致だけ仕事でやればいいのではないので、当然財政とのバランスっていうのは取ってやるということになると思いますけどね。だから財政を押しでも今回のこの経験から国際会議を引っ張りまくるといふようなことではないですけどね。だからその何か中身も関係ないのに、何かそのとにかく人が来るから会議呼びまくろうという、財政を無視してでも、っていうのではないですよ。

(記者)

終わり良ければすべて良しですけど、ただ終わるための中でいろいろなものがあつたと思うのでそれは国もそうだろうし、県内のその組織体制も全部そうだろうし、そこはある程度検証されて今後のために報告書なり、それは議会の委員会か何か分からないですけど、そういうことはおやりになるんですか。それとももうそこは不問に付す？

(知事)

いえいえ、今日も今朝もいろんな両副知事とかと議論してる中でも、とにかく今回の教訓や課題、良かったところ、反省点、そういうのをサミット局だけでじゃなくてちゃんと各部署で共有できるような仕組みにしていこうというようなことを、仕組みとか共有できるようにしなければならぬというふうに言っていますので、何らかその単純に記録誌というのを発行するというだけではなくて、サミットをやってこういう成果があつたり、準備の過程においてはこういう課題や反省点もあつたというようなことも含めて、普通に考えれば常任委員会とか、あるいはその今回できる特別委員会とかですか、そういうところが議会との関係では適切なのではないかと思います、何らかそういう報告は当然、何か記録誌作ってそれを配って終わりというのではなくて、やらせていただきたいと思いますけどね。

(記者)

それは予算が発生してるんで、ある程度県監査委員事務局、監査委員のほうもその部分もあり得るということですか。

(知事)

どういう体制でやるか分かりませんが、既に経理などの監査などについてはもう出納局を中心にチームを組んでやらせていただいていますので、全体のそういう検証というか成果とか課題とかを踏まえる報告についてどういう体制でするかは、まさにこれから考えることになりますけど、それは当然税金をやっていますから、やらざるを得ないというか、やらなければならないと思いますけどね。

(記者)

例えば25日、知事は県庁内にいつまでいらっしゃったか分からないですけど、昼にいつものとおりサミットの案内が流れて、平井堅さんの曲がかかるじゃないですか。25日の既にこの段階で、今伊勢志摩サミットが開幕されますっていうナレーションなんです。全然その直前とか知事があれだけ朝訓示で直前で明日は、っていううんぬんのことおっしゃってるにも関わらず全然これ一致してないじゃないですか。そういうこと含めて総務に聞いたら原稿は伊勢志摩サミット推進局だって、これも本当かどうか分からないですけど、その辺のある程度部分含めて何らかの検証ってのはされるんですね。

(知事)

それはどこまで網羅できる、庁内放送のとこまで網羅的にできるかどうか分かりませんが、当然サミット推進局の仕事だけでなく、サミットに関わった部分における業務などについての成果、課題の検証っていうか報告はぜひしたいと思います。そんな僕あれ午前には、昼過ぎかな、12時の時は聴いてなかったかな。

(記者)

だから高校生が学園祭やるにしたってある程度盛り上げるなら、それなりのストーリー作るじゃないですか。

(知事)

明日で一すとか、そりゃそうだ。

(記者)

これだけ優秀な学歴というか、県内で優良企業である県庁へ就職する職員が全くそのお仕着せな仕事のやり方のように、今月に吹き込んだナレーションがそのまま存在して、途中で気付いて変えましたけど、それも最終日も最終日の盛り上げもなく、サミットが開幕してまっすっていう、それで終わるっていうのは。

(知事)

なるほどね、それあきません。そういうの僕ちょっと存じ上げてなかったんでそういう部分も含めて庁内放送までいけるかどうか分かりませんが、せっかくのチャンスだったわけですからね、それはおっしゃるとおり、いろいろ成果、課題、反省点、報告したいと思います。

○平成29年度国への提言・提案活動（ポストサミット事業等への協力・支援）について（発表）

(記者)

今回の国への要望の一番メインは、4月段階で予算が付かなかったMICE課の関係の設置費とか職員の費用とかその辺りですか。

(知事)

一番というか、短期的にはそれですね。短期的には次のその平成29年度予算とか、分かりませんが、仮に補正予算とかがあった場合における短期的なものではそれですね。それを加えてインバウンド全体とか、あるいはMICEのこととか、あるいは財政スキームを作ってほしいとか、あとはあのナショナルパーク化のやつとかですね、今その辺りですね。そういう意味では短期的にはその辺りは重要なポイントになると思いますね。

(記者)

MICE課の関係課のやつは、例えば6月補正であるとか9月であるとか、その辺での予算付けを望んでるんですか。

(知事)

今、事業を調整して、全部フルフルではないと思いますけども、どうしてもスタートしたいというものについては、一定の財源を確定できたということであれば補正予算などに出すことも視野に入れています。

(記者)

ということは補正もあり得るということですか。

(知事)

あり得るということですね。分かりませんがね。財源が既存予算で全部調整がつけばそうなりません。

○伊勢志摩サミットを終えて（報告）

(記者)

非常にマイナーなお伺いしますが、外務省のこのサミットの次長の清原さんは。

(知事)

菅原、菅原清行。

(記者)

菅原さんは、灘中の1年生から同じクラス？

(知事)

そうです。中学1年1組で菅原、杉山、鈴木で並んでましたけど。

(記者)

大体今回のサミット開催誘致は、この方の知恵とかもある程度あるわけですか。

(知事)

いや、菅原次長はこの3月にアメリカ、在米日本大使館から助っ人で来てますので、サミット誘致のところはあんまり菅原次長は絡んでませんが、開催までの間の広報分野の外務省との連携とか我々が情報入手しにくいものとかを耳打ちしてくれたりとか、そういうのはしてくれましたよ。

(記者)

要は藤崎さんが大使の時から大使館員ですよ、ワシントンの。

(知事)

そうそう、よくご存じですね。

(記者)

本人そう言ってました。

(知事)

そうそう、藤崎さん、そう。藤崎さんとか今の佐々江大使が次官の時も官房総務課にいて、佐々江大使のお気に入りでもあるらしいです。

(記者)

ということは石垣副知事が知事の代わりに、平成23年にワシントンの桜祭りうんぬんという等も関与してたんですね。

(知事)

どうだったかな、あの時はでも明確に僕から何か菅原に頼んだっていうのはなかったですけどね。でもそういう巡り合せて会えたのは良かったんですけどね。中学1年の時の友達ですけどね、あいつめっちゃ賢かったんですけどね。こんな一緒に仕事できるのも何かありがたいですね。

(記者)

今日は今まで隠してたこと全部言うって言いましたやん、この前のぶら下がりで。

(知事)

言えることは言いますよ。言えることは言います、はい。

(記者)

他にないですか。本音の部分。

(知事)

僕から何かこうダラダラこう何か垂れ流すみたいなのはなかなかあれなんで、何か聞いてもらったら言えるやつは言いますしね。言えないものは言えないですしね。そんな感じですけどね。

(記者)

外務省にはもう感謝だけですか。

(知事)

だけかどうかは分かりませんが、感謝が大半ですよ。感謝が大半。もう9割方はもう感謝ですよ。

(記者)

1割は今後地方がやる時の自治体に対してのアドバイスの意味でどういうところがありますか。

(知事)

やっぱりこれ外務省なんで、ある程度あんまり地方と付き合いがないので仕方がないのかもしれませんが、地方の仕事のスピードとか、意思決定の仕組みとか、二代表制であって議会との関係でこうするとかそういうことをちょっと知っておいてもらって、そういうことにも配慮はしてほしいと、いろいろ物事決めたりする時にね、というのが1つと、もう1つはやっぱりその貴殿もよく指摘してますけど、広報の体制などでもうちょっと地域の自治体の広報なんかもうまく巻き込んでいただけると、もっとこう裾野広くいろいろいけるのにな、みたいなのはありますけどね。まあそんな感じかな。基本的にはかなりお世話になりましたよ。やっぱりその菅原もそうですし、齋木次官もあれですしね、志摩ですし。そういう意味では人に恵まれたっていうのは。あと報道課長も鈴鹿ですしね、大きかったと思いますね。

(記者)

ありがとうございます。

(知事)

今ので良かったですか。

資料21

伊勢志摩サミットに係る経済効果等の最終試算結果

伊勢志摩サミットに係る経済効果等の最終試算結果は下記のとおりとなった。

記

項目	最終試算結果	中間試算結果
(1) 直接的な経済効果 (県内)	約 483 億円	約 480 億円
(県外)	約 587 億円	約 591 億円
(合計)	約 1,070 億円	約 1,071 億円
(2) パブリシティ効果 (国内)	約 1,874 億円	約 440 億円
(海外)	約 1,224 億円	—
(合計)	約 3,098 億円	—
(3) ポストサミットの経済効果 (県外観光客数の増加)	約 1,485 億円	—
(国際会議の開催件数の増加)	約 4 億円	—
(合計)	約 1,489 億円	—

各経済効果等の試算方法については、次ページ以降のとおりである。

(1) 直接的な経済効果

直接的な経済効果を試算する前提条件

- ・サミット関連事業に関する経費として、国・県（県内市町を含む）の予算及び民間投資のうち、県内外において直接生じる費用を測定。
- ・北海道洞爺湖サミットの事例の考え方を参考に県内需要増加額を約 395 億円、県外需要増加額を約 102 億円と想定。【別表 1】
- ・経済予測や経済効果など産業連関の分析を行うために用いる「平成 17 年三重県地域間産業連関表」により、伊勢志摩サミットに係る直接的な需要増加額を産業 36 部門に分類し、地域内自給率を乗じるなどして一部各需要の出入りを調整して、「直接効果」「第 1 次間接波及効果」「第 2 次間接波及効果」の 3 段階に分けて試算。【別表 2】【参考※1】

【別表 1】 洞爺湖サミットの試算結果を参考にした県内外需要増加額の推計

県内需要増加額

(単位：億円)

費用項目	最終結果	中間試算結果
サミット開催費用	449.1	449.3
イベント・PR 関係費	8.3	8.3
改装・景観整備費	202.7	202.7
運営費※	61.2	61.2
警備費	75.6	78.4
県警分	18.3	18.3
他都道府県応援分	53.3	56.2
警備会社	4.0	4.0
消防・水道・保健医療対策費	9.8	9.8
外交団接遇	2.3	2.3
その他（企業協賛・市町応援事業等）	89.2	86.6
プレス関係消費額	2.3	2.3
他都道府県応援者人件費	▲56.7	▲60.0
合計	394.7	391.6

※単位未満を四捨五入しているため、内訳と合計が一致しない場合がある。

※太字下線付きの部分が中間試算からの変更点。

※運営費に外務省との契約により行われた西日本電信電話株式会社、株式会社NTTドコモ、中部電力株式会社のインフラ整備を含む。なお、外務省との契約以外では株式会社NTTドコモにより伊勢道路の不通区間の解消もインフラ整備として行われた。

県外需要増加額

(単位：億円)

費用項目	最終結果	中間試算結果
他都道府県応援者人件費	56.7	60.0
外務省予算（県分以外）	45.5	45.5
合計	102.2	105.5

※太字下線付きの部分が中間試算からの変更点。

【別表 2】 経済効果の内訳

(括弧内の数値は中間試算の数値)

(単位：億円)

効果別	県内	県外	全国
直接効果	334.3 (332.2)	151.2 (153.4)	485.5 (485.6)
第1次間接波及効果	85.7 (85.2)	266.8 (267.2)	352.6 (352.4)
第2次間接波及効果	63.2 (63.4)	169.6 (170.5)	232.8 (233.9)
合計	483.2 (480.8)	587.7 (591.1)	1,070.9 (1,071.9)

※単位未満を四捨五入しているため、内訳と合計が一致しない部分がある。

試算結果

- ・「直接効果」を県内分約334億円、県外分約151億円と算出。
- ・「直接効果」に伴う原材料等の購入による生産額である「第1次間接波及効果」を県内分約85億円、県外分約266億円と算出。
- ・「直接効果」と「第1次間接波及効果」を通じて発生した雇用者所得のうち、新たに消費される民間消費支出の増加による「第2次間接波及効果」を県内分約63億円、県外分約169億円と算出。
- ・合計は、三重県内では約483億円、全国では約1,070億円と算出。
- ・今回試算した経済効果を産業36部門別にした内訳は【別表3】のとおり。

【別表 3】 経済効果の内訳（産業36部門別）

(単位：億円)

産業別	県内	県外	全国
01 農業	1.2	6.3	7.5
02 林業	0.3	0.7	1.0
03 漁業	0.2	1.3	1.5
04 鉱業	0.3	9.7	9.9
05 飲食料品	5.0	21.3	26.3
06 繊維製品	0.6	2.3	2.9
07 パルプ・紙・木製品	5.6	14.1	19.7
08 化学製品	2.6	13.1	15.8
09 石油・石炭製品	17.0	13.0	30.0
10 窯業・土石製品	6.8	16.2	23.0
11 鉄鋼	1.2	8.0	9.2
12 非鉄金属	0.8	9.1	10.0
13 金属製品	4.5	22.7	27.2
14 一般機械	1.2	6.8	8.0
15 電気機械	1.1	6.4	7.4
16 情報・通信機器	1.0	4.2	5.2
17 電子部品	0.4	1.0	1.4
18 輸送機械	4.6	10.1	14.8
19 精密機械	0.0	8.5	8.5
20 その他の製造工業製品	3.6	5.0	8.6

21 建設	259.3	4.9	264.2
22 電力・ガス・熱供給	5.1	11.5	16.7
23 水道・廃棄物処理	2.4	4.0	6.4
24 商業	8.3	72.6	80.9
25 金融・保険	14.1	25.7	39.8
26 不動産	35.4	25.5	60.9
27 運輸	10.3	39.9	50.2
28 情報通信	26.8	43.8	70.6
29 公務	1.5	1.6	3.1
30 教育・研究	1.6	10.4	12.0
31 医療・保健・社会保障・介護	4.5	4.8	9.4
32 その他の公共サービス	1.9	2.3	4.2
33 対事業所サービス	32.6	93.3	125.9
34 対個人サービス	17.8	63.9	81.7
35 事務用品	0.5	1.0	1.5
36 分類不明	3.0	2.5	5.5
合計	483.2	587.7	1,070.9

※単位未満を四捨五入しているため、内訳と合計が一致しない場合がある。

※直接的な影響（マイナス効果含む）の試算について

- ・サミット開催前後1カ月及び当月の三重県全体の影響を把握するため、観光庁宿泊旅行統計調査の延べ宿泊者数の対前年度増減を使用。
(4月：+10.7%、5月：+17.5%、6月：+9.3%)。
- ・影響が生じた観光入込客数については、「三重県観光レクリエーション入込客数推計書・観光客実態調査報告書」より、平成27年の数値を使用。
(4月：2,065,000人、5月：2,625,000人、6月：1,559,000人)
- ・県内を5地域（北勢、中南勢、伊勢志摩、伊賀、東紀州）に分けて、それぞれの地域における日帰り及び宿泊客の割合やそれらの平均消費単価などをもとに、三重県内の観光消費額を推計。
- ・観光消費の把握を行うために、「平成17年三重県地域産業連関表（40部門）」により試算。**【参考※2】**
- ・直接的な影響を試算した結果、三重県全体においては、各月においてプラスの影響が出たと算出されたため、経済効果の試算額からの減額なし。**【別表4】【参考※3】**

【別表4】直接的な影響の試算結果

(単位：億円)

	4月	5月	6月
試算結果	+37.5	+78.0	+24.6

(2) パブリシティ効果

パブリシティ効果を試算する前提条件

- ・国内外における伊勢志摩サミットに関する記事や番組等によるパブリシティ効果について、サミット開催決定後の紙面掲載件数や放映時間数等を、広告料金やCM料金等に換算し測定。
- ・調査キーワードは、「伊勢志摩」and「サミット」。**【参考※4】**
- ・調査対象とするエリアは、首都圏、東海圏、関西圏及び海外（G7（米国、英国、フランス、ドイツ、イタリア、カナダ）及び中国・香港・台湾、韓国、ロシアの11か国（地域））。**【参考※5】**
- ・調査対象とするメディアは、新聞、雑誌、テレビ、インターネット。**【参考※6】**
- ・調査対象期間は、平成27年6月1日から平成28年6月30日まで。**【参考※7】**
（ただし、首都圏の新聞の一部、関西圏及び東海圏の新聞・テレビ及び一般雑誌の調査対象期間については、平成28年4月1日から6月30日までとして広告費換算を実施。）

※広告換算値の算出について

- ・国内の新聞、雑誌は、記事の文字数を計測し、広告料金を乗じて算出。（画像、図は含まず。ただし、東海版、関西版はすべて目視で調査をしているため、写真、図も考慮。）**【参考※8】**
- ・国内のテレビは、放映時間を計測し、CM料金を乗じて算出。
- ・国内のインターネットは、該当サイトへの週間の訪問者数を計測し、サイト上に1回表示される単価を乗じて算出。
- ・海外の新聞、雑誌は、記事の文字数を計測し、広告料金を乗じて算出。（画像、図は含まず。）
- ・海外のテレビは、放映時間、件数から算出。（広告料金と連動するとされる日本と対象国のGDP比を考慮して試算。）
- ・海外のインターネットは、該当サイトへの週間の訪問者数を計測し、サイト上に1回表示される単価を乗じて算出。（広告料金と連動するとされる日本と対象国のGDP比を考慮して試算。）

パブリシティ効果の試算結果

- ・調査対象の範囲内で得られたパブリシティ効果は、国内約1,874億円、海外約1,224億円、合計で約3,098億円と算出。メディア別の内訳は**【別表5】**のとおり。**【参考※9】**

【別表 5】パブリシティ効果の試算結果一覧

		最終試算結果		中間試算結果	
国内メディア		件数	広告換算値	件数	広告換算値
	新聞	5,834	約 148 億円	1,425	約 50 億円
	雑誌	306	約 4 億円	28	約 1 億円
	テレビ	4,761	約 1,160 億円	482	約 230 億円
	インターネット	88,687	約 563 億円	21,425	約 159 億円
国内合計			約 1,874 億円		約 440 億円
海外メディア		件数	広告換算値	件数	広告換算値
	新聞・雑誌	2,623	約 133 億円	—	—
	テレビ	830	約 630 億円	—	—
	インターネット	45,197	約 461 億円	—	—
海外合計			約 1,224 億円	—	—
合計			約 3,098 億円		約 440 億円

※単位未満を四捨五入しているため、内訳と合計が一致しない場合がある。

(3) ポストサミットの経済効果

ポストサミットの経済効果を試算する要素

- ・平成 28 年～32 年の 5 年間の効果を「①県外観光客数の増加」、「②国際会議の開催件数の増加」の 2 つの要素で試算。【参考※10】

①「県外観光客数の増加」によるポストサミットの経済効果を試算する前提条件

- ・伊勢志摩サミット開催により三重県の知名度が向上すること等で、今後増加が見込まれる県外の観光客の観光消費額の増加を測定。
- ・「三重県観光レクリエーション入込客推計書・観光客実態調査報告書」のデータに基づき、観光入込客数の増加、県外観光客数の宿泊及び日帰り客の割合及び観光消費額の増加額に基づき推計。
- ・観光入込客数の増加については、サミット開催の効果を含んでいないサミット開催決定前の平成 26 年の県外観光客 24,437 千人をもとに増加を推計。
- ・県内を 5 地域（北勢、中南勢、伊勢志摩、伊賀、東紀州）に分けて、それぞれの地域における宿泊及び日帰り客の割合やそれらの平均消費単価などをもとに、各年の県外観光客による三重県内の観光消費額を推計。
- ・サミット開催による誘客効果について、観光庁宿泊旅行統計調査における平成 28 年 6 月の延べ宿泊者数の対前年度増加率である 9.3%と想定。
(24,437 千人×9.3%=2,273 千人をサミット開催による誘客効果とする)
- ・サミット開催による誘客効果について、平成 29 年以降、次回日本でのサミット開催が決定されると想定される平成 34 年まで効果が持続すると想定。
- ・誘客効果は、当県が実施するポストサミット事業などにより、一時に減じられるのではなく、1 年ごとに一定の率で逡減していくと考え、年間 1.6%ずつ逡減すると想定。(9.3÷6≒1.6%)
- ・「平成 17 年三重県地域産業連関表 (40 部門)」を用いて試算。【参考※11】

①試算結果

- ・「県外観光客数の増加」の要素によるポストサミット経済効果は、約 1,485 億円と算出。【別表 6】

【別表 6】 県外観光客数の増加によるポストサミット効果の試算結果

	誘客効果	サミット効果 による誘客	観光消費額の 増加	経済効果
平成 28 年	9.3%	2,273 千人	323.2 億円	453.1 億円
平成 29 年	7.7%	1,882 千人	267.6 億円	375.1 億円
平成 30 年	6.1%	1,491 千人	212.0 億円	297.2 億円
平成 31 年	4.5%	1,100 千人	156.4 億円	219.2 億円
平成 32 年	2.9%	709 千人	100.8 億円	141.3 億円
合計		7,453 千人	1060.0 億円	1,485.9 億円

※単位未満を四捨五入しているため、内訳と合計が一致しない部分がある。

②「国際会議の開催件数の増加」によるポストサミットの経済効果を試算する前提条件

- ・「三重県観光振興基本計画（平成 28 年度～31 年度）」の目標値を用いて試算。
- ・国際会議の平均人数及び開催日数を、県内での平成 10 年以降の開催実績平均値から試算。（1 回あたり 230 人、開催日数 3 日間）
- ・平成 26 年度（2 回開催）からの増加分すべてをポストサミット効果と想定。
- ・観光庁の「MICE 開催による地域別経済波及効果測定のための簡易測定モデル」を使用。【参考※12】

② 試算結果

- ・「国際会議の開催件数の増加」の要素によるポストサミットの経済効果は、約 4 億円と算出。【別表 7】

【別表 7】 国際会議の開催件数の増加によるポストサミット効果の試算結果

	国際会議の開催（目標）件数	増加件数	経済効果
平成 26 年（現状値）	2 件	—	—
平成 28 年	4 件	2 件	0.4 億円
平成 29 年	4 件	2 件	0.4 億円
平成 30 年	5 件	3 件	0.6 億円
平成 31 年	7 件	5 件	1.0 億円
平成 32 年（仮置き）	10 件	8 件	1.6 億円
28～32 年の合計	30 件	20 件	4.0 億円

ポストサミットの経済効果の合計額の試算結果

- ・ポストサミットの経済効果は、①約 1,485 億円＋②約 4 億円＝約 1,489 億円と算出。

参考

- 【※1】 一般的な分析で用いられている産業部門の統合大分類に対応した 36 部門表を用いて試算を行った。
また、三重県は隣接自治体を含む広域圏で経済が循環していることから、伊勢志摩サミット開催の効果について全国への波及効果も測定するため、三重県地域間産業連関表を用いて試算を行った（北海道経済連合会の試算では県外（全国）を考慮しない地域産業連関表を用いた試算により 437.7 億円と試算していた）。
- 【※2】 直接的な影響については、三重県内への観光入込客による観光消費額の増減をもって算出した。観光消費額は主に「宿泊費」、「飲食費」、「入場料」などから求められるが、一般的な 36 部門表では、それら特に観光消費に深く関係する産業部門が「対個人サービス業」の一つにまとめられている。
このため、一般的に観光消費額による経済波及効果を算出するために、「対個人サービス業」をそれら観光消費の費目に対応するべく「宿泊業」「飲食店」「娯楽サービス」「浴場業」「その他対個人サービス」の 5 つに分割した 40 部門表で試算した。
- 【※3】 北海道経済連合会の試算では、サミット開催により影響を受けた地域を開催地である洞爺湖周辺地域及び厳重な警備がなされた新千歳空港、札幌市等を含む道央圏と想定し、サミット開催前月及び当月（6 月、7 月）の新千歳空港の来道者数の減少値である 6.1%をもとに、86.9 億円のマイナス効果を算出していた。
- 【※4】 北海道洞爺湖サミット道民会議の試算では、『北海道』and『サミット』及び『洞爺湖』and『サミット』の 2 つのキーワードに分けて、検索を実施していた。
ただし、海外メディアのうち、「サミット」という言葉が使われていない国や「G8」というキーワードが多い国については、『北海道』and『G8』及び『洞爺湖』and『G8』によっても抽出していた。
今回の調査では、「伊勢志摩サミット」が国内外にどれだけ発信され、「伊勢志摩」という地名がどれだけ認知されたか、を調査することを目的としたため『伊勢志摩』and『サミット』のみを調査対象とした。
国内と国外で同一条件により効果を測定することが一般的であり、調査キーワードを基本的に国内外で分けて調査することはしなかった。
「G7」については検索を行うと他の関係閣僚会合の記事を引用するために調査対象としなかったが、海外のロシアのみ事象の発生地での言及が多かったため、『志摩』+『G7』で調査した。

- 【※5】 北海道洞爺湖サミット道民会議の試算では首都圏のみが対象であったが、三重県の地理的特性から物理的・経済的に距離が近く重要なエリアである「東海圏」及び「関西圏」を調査対象に加えた。
海外ではアウトリーチ招待国がサミット開催決定直前まで判明しなかったため、「みえ国際展開に関する基本方針」における重点国・地域であり、受託者の検索システム上対応可能な中国・香港・台湾、韓国及びG8では構成国であったロシアを調査対象に加えた。
- 【※6】 北海道洞爺湖サミット時との社会情勢の変化から、情報発信の媒体として不可欠なインターネットを調査対象として加えた。

<国内>

- 新聞（首都圏）：一般新聞全国紙5紙（読売、朝日、毎日、日経、産経）及びスポーツ新聞全国5紙（日刊スポーツ、スポーツニッポン、デイリースポーツ、スポーツ報知、サンケイスポーツ）に加え、東京新聞、東京中日スポーツ
- 新聞（東海圏）：一般新聞全国紙5紙（読売、朝日、毎日、日経、産経）の名古屋版のみに掲載されていた記事及びエリアの主要メディアである中日新聞（三重版は除く）、中日スポーツ
- 新聞（関西圏）：一般新聞全国紙5紙（読売、朝日、毎日、日経、産経）及びスポーツ新聞全国5紙（日刊スポーツ、スポーツニッポン、デイリースポーツ、スポーツ報知、サンケイスポーツ）の関西版のみに掲載されていた記事に加え、エリアの主要メディアである大阪日日新聞、京都新聞、神戸新聞

北海道洞爺湖サミット道民会議の試算から、①国内一般新聞全国紙（産経新聞、東京新聞）、②国内スポーツ新聞全国紙2紙（サンケイスポーツ、東京中日スポーツ）を調査対象に加え、東海圏及び関西圏については、エリアの主要メディアの新聞紙、スポーツ紙を加えた。

- ビジネス誌 : 週刊エコノミスト、週刊ダイヤモンド、週刊東洋経済、日経ビジネス、プレジデント、ニューズウィーク日本版、フォーブスジャパン
- 一般雑誌 : 「PRESIDENT WOMAN」等経済誌8誌、「ESSE」等女性誌・ファッション誌25誌、「一個人」等旅行雑誌10誌、「週刊文春」等週刊誌14誌

サミット開催決定後、ビジネス誌のみならず女性誌など様々な分野の雑誌から取材を受けており、ビジネス誌に限らず調査対象を広げた。

- テレビ（首都圏）：NHK 及び在京キー局（日本テレビ、TBS、フジテレビ、テレビ朝日、テレビ東京）
- テレビ（東海圏）：NHK 名古屋及びローカルキー局（東海テレビ、中京テレビ、CBC テレビ、メ〜テレ、テレビ愛知の局制作番組
- テレビ（関西圏）：NHK 大阪及びローカルキー局（毎日放送、朝日放送、テレビ大阪、関西テレビ、読売テレビ）の局制作番組
- インターネット：日本語のメディアサイト

<海外>

- 新聞・雑誌：各国の自国通信社配信記事及び主要新聞、雑誌での掲載
※通信社が全世界に発信する特性を持っていても、自国のみを調査対象とする。
- テレビ：各国の自国国営放送を中心とした主要局番組
- インターネット：各国メディアから発信されたニュース全体

北海道洞爺湖サミット道民会議の試算の調査対象は

- 国内新聞：一般新聞全国紙（読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、日本経済新聞）、スポーツ紙（日刊スポーツ、スポーツニッポン、デイリースポーツ、スポーツ報知）
- 国内雑誌：日経ビジネス、週刊東洋経済、週刊ダイヤモンド、週刊エコノミスト
- 国内テレビ：NHK 及び在京キー局（日本テレビ、TBS、フジテレビ、テレビ朝日、テレビ東京）放映のサミット関連ニュース、特集番組、ワイドショー等
- 海外新聞・雑誌：各国の主要な新聞、雑誌
- 海外テレビ：NHK-BS、CNN、台湾電視公司、ロイター通信等提供番組となっていた。

【※7】 北海道洞爺湖サミット道民会議の試算では、調査対象期間を平成 19 年 4 月 1 日から平成 20 年 7 月 31 日までとし、テレビに関しては 5 月 30 日から 6 月 6 日まで、6 月 28 日から 7 月 11 日までのみ測定し、その他の期間を推計して測定していた。

【※8】 北海道洞爺湖サミット道民会議の試算では、新聞・雑誌について、画像と図を含んだ形で試算をしていた。

【※9】 北海道洞爺湖サミット道民会議の試算では、次のとおり試算していた。

国内（新聞・雑誌）	6,451件	約	275億円
（テレビ）	268件	約	701億円
海外			
（新聞・雑誌）	888件	約	9億円
（テレビ）	212件	約	28億円
合計			約1,013億円

【※10】 北海道経済連合会の試算でも同要素により5年間のポストサミット効果の試算を行っていた。

【※11】 観光消費額の増加により経済効果を測定するため、直接的な影響と同様に三重県地域産業連関表（40部門）を用いて試算した。

北海道経済連合会の試算では、沖縄県の例を参考にサミット開催後の平成12年9月からNHK朝の連続ドラマ「ちゅらさん」の放映が始まる直前の平成13年3月までの入域観光客数の増加分0.6%をサミット開催による誘客効果と想定し、次回の日本でのサミット開催年まで一定ごとにその効果を減じながら、サミット効果が継続すると想定し、248.1億円と算出していた。

【※12】 北海道経済連合会の試算では、平成12年北海道産業連関表により、沖縄県の例を参考に5年間にわたり、平均3.5日間+前後日程（=5日間）の650人規模の国際会議が年に6~7回北海道に誘致されるケースを想定し、35.6億円と測定を行っていた。

資料22

伊勢志摩サミットの「レガシー」

サミットの取組結果と主な成果

サミットの「レガシー」については、「サミットの開催により、地域にもたらされる有形無形の好影響」と定義するとともに、「知名度等の向上」「会議自体の成果」「地域の総合力の向上」の3つの柱で基本的な考え方を整理した。

この基本的な考え方にに基づき、伊勢志摩サミットが成功裏に閉幕した結果をふまえ、取組結果と主な成果を以下のとおり整理した。

レガシーの項目	取組結果と主な成果
<p>1 知名度等の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三重及び伊勢志摩の知名度向上や評価・関心の高まり ・県民と海外・世界との距離が縮まること 等 	<p>○首脳等による神宮訪問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神宮が「平和への祈り」「調和（自然と人との共生）」「融和（他者や多様性への寛容）」「日本の伝統文化の継続性」等を示す場であることを各国首脳等が実感。世界平和の確立に向けたメッセージを発信 <p>→世界の巡礼地等に匹敵するような、世界中から人が訪れる場所へ</p> <p>○情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三重情報館による発信（5日間で総入館者数12,729人） ・海外プレスツアーによる取材（36か国・地域のプレスが22回実施） ・首脳会議や配偶者プログラム、IMCにおいて、伊勢えびや伊勢マグロ、アワビ等の海産物、松阪牛や伊賀牛、伊勢茶等の農畜産物、さらには日本酒、加工品など、県内26市町から、少なくとも269品目の県産食材等の使用 ・首脳会議用円卓に尾鷲ヒノキが使用されたほか、会議用机・椅子などに少なくとも42品目の県産品、食器類の使用 ・IMCの外壁や内装に多くの県産材の使用 ・各国首脳が着用した「ラペルピン」へのアコヤ真珠の提供 ・警備、消防などに提供された33万食の弁当に、伊勢ひじきやおおさ等、少なくとも18品目の県産食材の使用 ・ローソンと連携・開発した、伊勢茶を使用した伊勢志摩サミット開催記念スイーツの店舗販売（H27.10～H28.5、7品目） ・513ベーカリーと連携・開発した、県産食材を使用した「みえパン」の店舗販売（H27.10～、24品目） ・県産の食材や物産、県産食材を使用したメニューへの「伊勢志摩サミット県民会議のシンボルマークを活用した統一マーク」の貼付（55事業者、248商品） <p>→伊勢志摩・三重県の知名度向上へ 商品開発や販路開拓等による新たなビジネスチャンスへ</p>

	<p>○三重も加わった非核平和の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(G7伊勢志摩首脳宣言による世界平和の確立に向けたメッセージの発信に加え) オバマ大統領が現職の米国大統領として初めて広島を訪問、三重と広島が平和というキーワードで結び付いた。広島・長崎両市主催(三重県・伊勢市後援)のヒロシマ・ナガサキ原爆展を伊勢市で開催、EU高官を含む約3,000人が来場 <p>→三重を、広島・長崎に次ぐ平和発信の地として印象付けた</p>
<p>2 会議自体の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宣言、方針、共同声明や、それらに基づく計画、取組等 	<p>○「伊勢志摩」の名を冠した首脳宣言等</p> <ul style="list-style-type: none"> G7伊勢志摩首脳宣言(G7伊勢志摩経済イニシアチブ含)、質の高いインフラ投資の推進のためのG7伊勢志摩原則、国際保健のためのG7伊勢志摩ビジョン <p>→伊勢志摩・三重県の知名度向上へ</p> <p>○議論された課題への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> 感染症対策、認知症施策、女性の能力開花支援、エネルギー・環境問題への対応等 <p>→世界的な課題への県施策によるアプローチへ</p>
<p>3 地域の総合力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県民や地域の一体感の醸成 ・郷土に対する愛着や誇りの高まり ・地域に対する理解深化、地域のネットワーク強化 ・アクティブ・シチズンの増加 	<p>○県民の皆様の活躍</p> <p><おもてなし大作戦の県内全市町での展開></p> <p>「クリーンアップ作戦」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キックオフイベントへの参加者 約700名 ・市町における活動 29市町(6万人以上) ・企業、団体等による活動 34団体 ※キックオフイベントへの協賛等を含む ・東海二県一市と連携した活動 1,487名 <p>「花いっぱい作戦」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタートセレモニーへの参加者 約300名 ・花の寄せ植え体験講座への参加者 1,000名 ・市町における活動 29市町 ・企業、団体等による活動 36団体 ※スタートセレモニーへの協賛等を含む ・飾花数 11万本以上 <p><外国語案内ボランティアの活躍></p> <ul style="list-style-type: none"> ・10代から80代まで幅広い層から1,003名応募 ・300名採用(277名活動)、約2,700名の外国人に対応 ※企業・学校単位の協賛事業による派遣含む339名 ・ユニフォームデザイン提案 飯野高等学校2名 <p><配偶者プログラムでの参加></p> <p>(真珠島交流プログラム) 延べ148名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海女によるお出迎えや交流85名 ・鳥羽市女将団体によるお出迎え9名

	<ul style="list-style-type: none"> ・伊勢音頭保存会・「伊勢っ子」との踊りによる交流 41 名 ・鳥羽九鬼水軍太鼓保存会による演奏 8 名等 <p>(I M C 視察)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統工芸士による伊賀くみひもの実演 1 名 ・県手もみ茶技術伝承保存会による伊勢茶手もみ実演と体験 2 名 ・通訳ボランティアによる竹細工ワークショップの通訳サポート 2 名 <p><三重情報館での参加></p> <ul style="list-style-type: none"> ・鈴鹿墨を使用した書のパフォーマンスと書の実演 5 名 ・県内 35 全ての蔵元からの日本酒の振る舞い 2 名 ・伊勢形紙の実演 1 名 ・伊賀忍者特殊集団「阿修羅」による忍者ショー 5 名 ・伊賀くみひもの実演 1 名 ・現役海女による講話と対話 2 名 ・伊勢茶と三重の餅菓子の振る舞い 2 名 <p><各国首脳等と県民との交流～世界との絆づくり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベトナム・フック首相のお出迎え等 約 30 名 ・ベトナム・閣僚の松阪市訪問時のお出迎え 約 30 名 <p><ジュニア・サミットでの参加></p> <ul style="list-style-type: none"> ・KUWANA NIGHTでの桑名市民によるお出迎え 約 2,000 名 ・サポートデスクの設置 (看護師・臨床心理士等) ・将棋体験 日本将棋連盟三重県支部連合会 5 名 ・三重県出発の見送り (通訳ボランティア、スタッフ等) <p>< I M C アネックスガイドツアーの実施></p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般県民等対象 1,040 名 <p><協賛、応援、寄附></p> <ul style="list-style-type: none"> ・合わせて 1,000 件を超える協賛・応援 ・5 億円を超える寄附 <p>→地域の一体感の醸成、郷土に対する愛着や誇りの高まり 地域をより良くしようとする意欲の醸成へ</p> <p>○次代を担う子ども・若者の大活躍</p> <p><首脳の神宮訪問での参加></p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園児 (神宮附属幼稚園) によるお出迎え 46 名 ・南勢志摩地域の小学生による植樹のお手伝い 20 名 <p><配偶者プログラムでの参加> (総理夫人主催昼食会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相可高等学校食物調理科生徒等による食事の提供 11 名
--	---

(総理夫人主催夕食会)

- ・若手バイオリニスト (津市在住中学生) による演奏 1 名
(真珠島交流プログラム)
- ・伊勢音頭保存会・「伊勢っ子」との踊りによる交流
(植樹)
- ・志摩市立神明小学校児童によるサポート 9 名
(IMC 視察)
- ・障がい者等とのパラスポーツ体験 (伊勢市小学生) 約 50 名

<ジュニア・サミットでの参加> 延べ 518 名

- ・日本代表参加者 (高校生) 4 名
- ・討議に資する視察への参加 (案内・交流) 四日市高等学校 9 名
- ・県内分散型体験・交流行事への参加 (案内・交流) (各地域の高校生) 28 名 (4 コース×7 名)
- ・県内農業高校等 (6 校) による花のプランターづくり (180 個) 141 名
- ・開催日程中のハンドベル演奏 セントヨゼフ女子学園高等学校・中学校 32 名
- ・県内分散型体験・交流行事でのおもてなし
鈴鹿墨のパフォーマンス 鈴鹿高等学校 14 名
まごの店での昼食のふるまい 相可高等学校 19 名
太鼓演奏 特別支援学校玉城わかば学園 31 名
歓迎 141 名 (小・中・高・保育園)
お囃子演奏 亀山市立関小学校 17 名
- ・三重県送別ランチレセプションでの吹奏楽演奏等
白子高等学校吹奏楽部 30 名
スタンド花作成 久居農林高等学校 3 名
- ・参加者用名札 (伊賀くみひも) の作成
特別支援学校 (2 校) 19 名
- ・土産品 マイ箸袋 (さをり織り) の作成
特別支援学校 (2 校) 25 名
- ・ウェルカムメッセージの作成 相可高等学校生産経済科 5 名

<各国首脳等と県民との交流～世界との絆づくり>

- ・英国首相同行プレスによる皇學館大学生との交流
(雅楽部学生による演奏や舞の披露) 55 名

<国際理解・国際交流プログラム>

- ・平成 27 年度 91 回実施
幼稚園・保育所 22 園・所 (25 回)、小中学校 28 校 (44 回)、高等学校 6 校 (7 回)、特別支援学校 3 校 (5 回)、その他 10 団体 (10 回)
- ・平成 28 年度 30 回実施
小中学校 16 校 (25 回)、高等学校 1 校 (1 回)、特別支援学校 4 校 (4 回)

	<p><外務省事業「イチからわかる！サミット塾」> ・小中学校 20 校、高等学校 9 校で実施</p> <p><サミット給食> ・小中学校（全 29 市町）229 回、特別支援学校（11 校）63 回、計 292 回実施</p> <p><子どもふるさとサミット> ・小中学校児童生徒ほか 430 名（うち小中学生 180 名）</p> <p><三重の高校生サミット> ・高校生ほか 延べ 148 名 （ジュニア・サミット日本代表、同体験・交流行事参加者、国際地学オリンピック生徒実行委員、大学生、県外のサミット関連事業に参加した高校生等）</p> <p><IMC アネックスガイドツアーの実施> ・小中高特別支援学校の児童生徒対象 2,424 名（小中学校 27 校、高等学校 4 校、特別支援学校 2 校、引率者含む） ・子どもふるさとサミット及び高校生サミット参加者対象 103 名（保護者等を含む）</p> <p><食の情報発信> ・三重県立みえ夢学園高等学校と連携し、三重の農林水産物をモチーフしたLINE スタンプ「三重のええもんスタンプ」の作成・販売 →地域をより良くしようとする意欲の醸成、郷土に対する愛着や誇りの高まり、グローバル教育の推進、グローバル人材の育成へ</p>
<p>・おもてなしの力の向上</p>	<p>○研修等によるおもてなし力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪日外国人おもてなし研修（2回）（飲食店、旅館業等延べ 151 人参加） ・インバウンド対応接客研修（各市町観光部署・観光協会・観光案内所等職員等延べ 301 人参加） ・外国人観光客対応人材育成講座（県内 4 地域で基礎、専門研修を実施したとともに、宿泊施設や観光施設での実地研修、外国語研修などを実施。関係団体、事業者、個人等、累計で 414 名が参加。） ・サミットに関わった多くの事業者による貴重な経験 （ジュニア・サミットや首脳会議等の受入れ、各国要人等の受入れ、食事・食べ物の安全な提供等） ・受動喫煙防止対策（受動喫煙ゼロ宣言、飲食店・旅館業・公共交通機関・公共施設等の協力） <p>→国際観光地としてのレベルアップへ</p>

・ダイバーシティの視点による地域の深化

○障がい者の活躍

＜配偶者プログラムでの参加＞

- ・お菓子の提供（はあぶ工房 together によるシフォンケーキ、維雅幸育会ふっくりあモオンマールによる伊賀の飛猿サブレの提供）
- ・障がい者等とのパラスポーツ体験（約 50 名）

＜贈呈品＞

- ・総理夫人から首脳等配偶者への贈呈品ラッピング（ペタンコバックミニ（三重の手づくりブランド「M. I. E」（ミー））

＜ジュニア・サミットでの参加＞

- ・県内分散型体験・交流行事でのおもてなし
太鼓演奏 特別支援学校玉城わかば学園 31 名
- ・参加者用名札（伊賀くみひも）の作成
特別支援学校（2 校）19 名
- ・土産品 マイ箸袋（さをり織り）の作成
特別支援学校（2 校）25 名

○在日外国人等の活躍

- ・国際理解・国際交流プログラムでの講師派遣（121 回）

○外国人向けの情報発信

- ・県民会議 HP の多言語化
- ・県 HP（多文化共生課）でのサミット情報の発信
→障がいの有無、国籍等にとらわれず、共生できる社会へ

○訪日外国人等への対応

- ・無料公衆無線 LAN の整備状況 1,287 か所
(民設民営方式での設置を含む)
- ・消費税免税店開設準備状況 16 か所
- ※ 平成 27 年度三重県海外誘客促進環境整備補助金で支援した施設数
- ※ 三重県内の消費税免税店数は 390 か所（平成 28 年 4 月 1 日現在）
- ・施設内外国語表記等改善状況 39 か所
- ※ 平成 27 年度三重県海外誘客促進環境整備補助金で支援した施設数
→訪日外国人旅行者の誘致へ

<p>・県民力で「安全・安心」に取り組んだ経験 等</p>	<p>○官民協働による安全・安心の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・官民で協力してテロ等を未然に防止するため取り組んだ「テロ対策パートナーシップ」(41 機関が参加) ・テロ対策パートナーシップ交通対策推進ワーキンググループと連携して取り組んだ交通総量抑制対策 開催期間中、高速道路等で著しい渋滞発生はなく、円滑な交通流を確保。 →今後の安全・安心なまちづくりへ <p>○社会資本整備の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サミット関係会場周辺等の道路・河川・港湾等の整備 ・携帯電話通話不可区域の解消(伊勢道路) <p>○防災・危機対策委員会の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催期間中、救急案件 8 件、首脳クラスの救急搬送なし。傷病者の症状はいずれも中等症又は軽傷。 ・DONET を活用した津波予測・伝達システムを整備、5 月 19 日、運用開始。5 月 24 日から 27 日までは、専門家待機の下、システムを運用。 ・観光事業者において、自然災害対策として津波避難マップ等を整備し、4 月 12 日、DONET を活用したシステムの動作試験と、これに連動した避難訓練を 3 市町で実施。 →地震・津波対策の一層の充実、 今回の経験を次の M I C E 開催へ <p>○保健・医療対策委員会の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催期間中、食中毒・感染症の発生なし。毒物劇物取扱施設・水道施設の異常なし。 ・救急患者数 63 名(延べ 75 件)、首脳クラスの患者なし。 →今回の経験を次の M I C E 開催へ
-------------------------------	--

資料 23



G7 伊勢志摩首脳宣言

平成 28 年 5 月 27 日

前文

我々G7首脳は、地球規模の経済的及び政治的な主要課題に対処するため、2016年5月26日及び27日に伊勢志摩で会合を開催した。世界的な成長は、低成長のリスクが残る中、依然として緩やかであり、かつ、潜在成長力を下回っている。拡大した地政学的な紛争、テロ及び難民の流れが、世界の経済環境を複雑にしている。暴力的過激主義、テロリストによる攻撃及び他の諸課題の増大は、既存のルールに基づく国際秩序並びに全人類に共通する価値及び原則に対する深刻な脅威をもたらしている。

G7は、これら諸課題に対処するための国際的な取組を主導する特別な責任を有する。我々は、自由、民主主義、法の支配及び人権の尊重を含む共通の価値及び原則によって導かれるグループとして引き続き結束する。さらに、我々は、持続可能な開発のための2030アジェンダ(2030アジェンダ)及び気候変動に関するパリ協定の昨年の採択に続き、我々のコミットメントを実施するために更に努力する。我々は本日、経済、安全保障及び開発に関する広範な政策的項目について、目に見える進展を遂げるための我々の能力を発揮し、また、世界の平和、安全及び繁栄を確保するための主要な課題の解決に向けた道筋を、我々の行動を通じて明示する。

G7 伊勢志摩経済イニシアティブ

我々は、より強固な長期の世界的成長の基盤を整えつつ、現在の経済的諸課題に共同で対処することを誓約する。これに従い、我々は、強固で、持続可能な、かつ、均衡ある成長の達成に貢献するための対応として、以下の諸分野において我々のコミットメントを発展させた。

- 世界経済:世界の成長は、我々の喫緊の優先事項である。我々は、各国の状況に配慮しつつ、強固で、持続可能な、かつ、均衡ある成長軌道を速やかに達成するため、我々の経済政策による対応を協力して強化すること及びより強力な、かつ、均衡ある政策の組合せを用いることにコミットする。
- 我々は、債務を持続可能な道筋に乗せていくための取組を継続しつつ、世界的な需要を強化し、供給側の制約に対処するため、全ての政策手段—金融、財政及び構造政策—を個別的にまた総合的に用いるとの我々のコミットメントを再確認する。我々は、強固で、持続可能な、かつ、均衡ある成長を達成するための我々の取組を強化することに対する3本の矢のアプローチ、すなわち相互補完的な財政、金融及び構造政策の重要な役割を再確認する。我々は、強じん性を高め、債務残高対GDP比を持続可能な道筋に乗せることを確保しつつ、

経済成長、雇用創出及び信認を強化するため我々の財政戦略を機動的に実施し、及び構造政策を果敢に進めることに関し、G7 が協力して取組を強化することの重要性について合意する。我々は、成長、生産性及び潜在産出量を増加するために構造改革を進展させること並びに構造的な課題への対処に際して自ら模範を示すことにコミットしている。我々は、環境、エネルギー、デジタル・エコノミー、人材育成、教育、科学及び技術など、経済成長に資する分野への更なる投資にコミットする。

- 移民及び難民: G7 は、現在進行中の移民及び難民の大規模な移動を、世界的な対応をとる必要がある地球規模の課題として認識する。我々は、難民、その他の避難民及びその受け入れコミュニティの即時の及びより長期的なニーズに応えるための世界的な支援を増加することにコミットする。G7 は、国際金融機関及び二国間ドナーに対し、資金的及び技術的な支援を促進することを奨励する。
- 貿易: 我々は、労働者、消費者及び企業のための経済的な機会を創り出すために貿易を活用することにコミットしている。我々は、我々の開かれた市場を維持すること及びあらゆる形態の保護主義と闘うことへのコミットメントを再確認する。我々は、自由貿易を更に促進するため、ルールに基づく多角的貿易体制を強化し、WTO における交渉を促進することにコミットする。我々はまた、環太平洋経済連携協定(TPP)、日 EU 経済連携協定(EPA)、環大西洋貿易投資パートナーシップ(TTIP)及び包括的経済貿易協定(CETA)を含む地域的な貿易協定を通じての貿易の自由化努力を奨励する。我々は、工業部門、特に鉄鋼における世界的な過剰生産能力は、世界的な影響を伴う差し迫った構造的課題であり、この問題は、市場を歪曲する措置を取り除き、もって市場の機能を高めることを通じて、緊急に対処する必要があると認識する。
- インフラ: 我々は、世界の需給ギャップに対処するため、「質の高いインフラ投資の推進のための G7 伊勢志摩原則」を支持し、我々自身のインフラ投資を同原則に沿ったものとするよう努める。我々は、さらに、国際金融開発機関(MDBs)を含む関連するステークホルダーに対し、それら機関のインフラ投資及び支援を同原則に沿ったものにすることを奨励する。
- 保健: 我々は、経済的繁栄及び安全保障の基盤となるであろう「国際保健のための G7 伊勢志摩ビジョン」に詳述されている、国際保健を前進させるための具体的な行動をとることにコミットする。我々は、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)を促進し、並びに我々の経済に深刻な影響を与える可能性がある公衆衛生上の緊急事態及び薬剤耐性(AMR)への対応を補強することを主導するよう努めることにコミットする。我々はまた、これら及びその他の保健分野において、研究開発(R&D)及びイノベーションを促進することを強調する。
- 女性: 我々は、全ての女性及び女兒がエンパワーされ、持続可能で、包摂的で、かつ、公平

な経済成長に積極的に携わる社会の創出にコミットする。我々は、教育や訓練などの能力構築によることのほか、科学、技術、工学及び数学(STEM)分野における女性の積極的役割の促進によることを含め、女性及び女兒をエンパワーすることにコミットする。我々は、我々の行動のための共通の指導原則として、「女性の能力開花のための G7 行動指針」を支持する。

- サイバー:我々は、経済成長及び繁栄のための一つの不可欠な基盤として、アクセス可能で、開かれた、相互運用可能な、信頼できる、かつ、安全なサイバー空間を強く支持する。我々は、革新的なビジネス・モデル及び安価で、普遍的な、かつ、質の高い情報通信技術(ICTs)へのアクセスを可能にし、並びにデジタル・リテラシーを向上させるため、デジタル・デバイドを埋めることにより、生活の質の向上のためのデジタル導入を促進する。我々は、「サイバーに関する G7 の原則と行動」を支持し、断固たる行動をとることにコミットする。
- 腐敗対策:腐敗と戦うための我々の集団的及び個別的行動は、経済成長、持続可能な開発並びに平和及び安全の維持にとり決定的に重要である。我々は、公共調達透明性を改善し、財政的な透明性を向上させ、腐敗対策のための能力を強化し、及び法執行に関する協力を強化するための措置をとることを決意する。我々は、腐敗防止に関するグローバルな計画を前進させるに際して自ら模範を示すための我々のコミットメントとして、「腐敗と戦うための G7 の行動」を支持する。
- 気候:G7 は、引き続き指導的な役割を担い、パリ協定の 2016 年中の発効という目標に向けて取り組みつつ、同協定の可能な限り早期の批准、受諾又は承認を得るよう必要な措置をとることにコミットするとともに、全ての締約国に対し、同様の対応を求める。我々は、更なる野心を時間の経過とともに促進しつつ、自国が決定する貢献を、早期に透明性をもって、かつ、着実に実施することで先導することにコミットする。また、我々は、5 年ごとに行うグローバルな評価手続の定期的な検証に積極的に参加することにコミットする。我々は、2020 年の期限に十分先立って今世紀半ばの温室効果ガス低排出型発展のための長期戦略を策定し、通報することにコミットする。
- エネルギー:我々は、パリ協定の実施のためにエネルギー・システムが担わなければならない役割の重要性を認識しつつ、世界経済の脱炭素化を可能にするエネルギー・システムへの転換に向けた取組を加速することを決意し、温室効果ガスの削減を伴う経済成長を確保するため、エネルギー技術におけるイノベーションの支援並びにクリーンなエネルギー及びエネルギー効率の奨励に更に投資することにコミットする。我々はまた、現在のエネルギー価格水準によって増大する不確実性に直面し、エネルギー投資、特に質の高いエネルギー・インフラ及び上流開発における投資の促進において、主導的役割を果たすことにコミットする。

世界経済

世界経済の状況

世界経済の回復は続いているが、成長は引き続き緩やかでばらつきがあり、また、前回の会合以降、世界経済の見通しに対する下方リスクが高まってきている。近年、世界的な貿易のパフォーマンスは、期待外れの状況にある。弱い需要及び未対応の構造的な問題が、実際の及び潜在的な成長に負荷を与えている主な要因である。非経済的な由来による潜在的なショックが存在する。英国のEUからの離脱は、より大きな国際貿易及び投資に向けた傾向並びにこれらが生み出す雇用を反転することになり、成長に向けた更なる深刻なリスクである。悪化した地政学的な紛争、テロ及び難民の動きは、世界の経済環境を複雑にする要因である。我々は、新たな危機に陥ることを回避するため、経済の強じん性を強化してきているところ、この目的のため、適時に全ての政策対応を行うことにより、現在の経済状況に対応するための努力を強化することにコミットする。

政策的対応

このような背景に照らし、我々は、各国の状況に配慮しつつ、強固で、持続可能な、かつ、均衡ある成長経路を迅速に達成するため、我々の経済政策による対応を協力して強化すること及びより強力な、かつ、均衡ある政策の組合せを用いることにコミットする。我々は、必要に応じて短期的及びより長期的な成長を支えるため、強固な政策的対応を講じる用意がある。我々は、債務を持続可能な道筋に乗せていくための取組を継続しつつ、世界的な需要を強化し、供給側の制約に対処するため、全ての政策手段-金融、財政及び構造政策-を個別にまた総合的に用いるとの我々のコミットメントを再確認する。我々は、強固で、持続可能な、かつ、均衡ある成長を達成するための我々の取組を強化することに対する3本の矢のアプローチ、すなわち相互補完的な財政、金融及び構造政策の重要な役割を再確認する。我々は、成長が、包摂的で、多くの雇用を伴い、かつ、我々の社会の全ての層の利益となることを確保することに引き続きコミットしている。

金融政策当局は、そのマニフェストと整合的に、非伝統的な金融政策も含め、経済回復及びデフレ脱却を支援することにコミットしてきた。しかしながら、金融政策のみでは、強固で、持続可能な、かつ、均衡ある成長に繋がらない。

我々は、強じん性を高め、債務残高対GDP比を持続可能な道筋に乗せることを確保しつつ、経済成長、雇用創出及び信認を強化するため我々の財政戦略を機動的に実施し、及び構造政策を果敢に進めることに関し、G7が協力して取組を強化することの重要性について合意する。これにより、我々が、新たに生じつつあるリスク並びに緊急の社会的及び人道的ニーズに対応することも可能となる。

我々はまた、質の高い投資を支える支出を重点化することを含め、税制及び公共支出を、できるだけ成長に配慮したものとしている。我々は、生産性、雇用、包摂性及び成長を支えるため、我々の歳出及び歳入の構成を考慮する。我々は、我々の財政的及び構造的な政策が持続可能な社会保障サービスを支え、当該サービスが我々に共通の人口動態に関する課題への対応に寄与することを確保することにコミットする。我々は、適切な水準の公共投資を確保することを意図するとともに、民間部門との連携による資源の効果的な動員によることを含め、不足に対処するための質

の高いインフラ投資を促進する。我々は、環境、エネルギー、デジタル・エコノミー、人材育成、教育、科学及び技術など、経済成長に資する分野への更なる投資にコミットする。

我々は、成長、生産性及び潜在産出量を増加するために構造改革を進展させること並びに構造的な課題への対処に際して自ら模範を示すことにコミットしている。労働市場改革は、我々の経済のいくつかにおいて引き続き重要である。我々は、女性、若者及び高齢者による労働市場参加を推進し、また、雇用の機会と質を改善することにコミットする。我々は、柔軟性、包摂性及び失業者に機会を提供することを確保するため、積極的な労働市場政策を促進することにコミットする。我々は、物価安定を達成することの重要性を認識し、賃金の動態が生産性と整合的であるべきことを強調する。我々は、企業がその収益を生産的な形で投資及び賃金に回すことを支える強固なコーポレート・ガバナンスの枠組みを確保することにコミットする。我々は、新たな企業参入に対する障壁を下げることを含め、競争、起業家精神及びイノベーションを促進している。イノベーションは、持続可能な成長を実現するために極めて重要である。競争はイノベーションの源であり、我々は、知的財産権を保護することにコミットする。

我々は、工業部門、特に鉄鋼の世界規模での過剰な生産能力は、世界的な影響を有する構造的な課題であることを認識する。

我々は、為替レートは市場において決定されること、そして為替市場における行動に関して緊密に協議すること、という我々の既存の為替相場のコミットメントを再確認する。我々は、我々の財政・金融政策が、国内の手段を用いてそれぞれの国内目的を達成することに向けられてきていること、今後もそうしていくこと、そして我々は為替レートを目標にはしないことを再確認する。我々は、全ての国が通貨の競争的な切り下げを回避することの重要性を強調する。我々は、為替レートの過度の変動や無秩序な動きは、経済及び金融の安定に対して悪影響を与えうることを再確認する。安定的で強じんな国際金融アーキテクチャーは、経済的及び金融安定のために極めて重要である。我々は、2010年のIMFクォータ・ガバナンス改革の発効を歓迎し、強固で、クォータを基礎とし、かつ、十分な資金基盤を有するIMFへの我々のコミットメントを再確認する。

金融規制

我々は、持続的な経済成長という我々の目標の達成に資する、G20金融セクター改革の課題の、適時の、完全な、かつ、統合的な実施を支持するというコミットメントを改めて表明する。我々はまた、規制改革の課題の主要な要素の最終化に引き続きコミットする。我々はまた、銀行セクターにおける資本賦課の全体水準を更に大きく引き上げることなく、バーゼルⅢ枠組みの一貫性を確保し、有効性を最大化するため、その枠組みの要素を改良するバーゼル委員会の作業に対する支持を再確認する。我々は、シャドーバンキング、資産運用業及びその他の市場型金融活動に関連するものを含め、金融システムにおいて生じつつあるリスク及びぜい弱性を引き続きしっかりと監視し、必要に応じ対処する。我々は、各国・地域及び各資産クラスにおける市場流動性の変化の程度、原動力及び予想される持続性を包括的に評価し、必要に応じ政策手段を検討するという、

他の基準設定主体と協力した金融安定理事会(FSB)の作業を歓迎する。

我々はまた、重大で意図せざるいかなる影響にも対処することを含め、改革の実施と影響の監視を、我々の全体的な目的とそれらとの整合性を確保するため、引き続き向上させる。この点に関し、我々は、関連する改革の複合的な影響及びセクターを越えた相互作用を含む、G20 金融規制改革の影響分析を向上させるための FSB 及び基準設定主体による作業を歓迎し、規制改革の実施及び影響に関する FSB の第 2 回 G20 向け年次報告を期待する。我々は、技術的に可能となった金融イノベーションの、金融の安定性及び市場の健全性に対する潜在的な影響を管理しつつ、それらイノベーションの経済的利益を享受する考えである。我々は、金融分野におけるサイバーセキュリティを促進し、G7 各国間での協力を強化するための、この分野の G7 サイバー専門家グループの作業を歓迎する。我々はまた、G20/OECD のコーポレート・ガバナンス原則の効果的な実施を歓迎し、支持する。特に、我々は、その原則の評価メソドロジーの策定を期待する。

租税及び透明性

G20/OECD 税源浸食と利益移転(BEPS)パッケージの着実な、一貫性ある、かつ、足並みを揃えた実施は、税制への市民の信頼を回復させ、経済活動に従事する全ての者にとって、世界的に公平な競争条件を達成するために極めて重要である。我々は、模範を示しつつそのプロセスをリードすることに引き続きコミットする。我々は、BEPS パッケージの幅広い実施を確保するため、全ての関連し、関心のある国・地域が BEPS パッケージの実施にコミットし、かつ、新たな包摂的枠組みの第 1 回会合が 6 月に京都で開催されることに留意しつつ、その枠組みに参加することを奨励する。

税に関する情報の透明性向上を通じて税制に対する市民の信頼を回復するため、我々は、全ての金融センター及び国・地域を含む全ての関連する国による自動的情報交換に係る基準の、コミットした期限までの実施及び多国間条約への署名の G20 による呼びかけ並びに OECD に対する「税の透明性に関する非協力的地域を特定するための客観的基準」の策定の要請を再確認する。これらの行動は、非協力的国家・地域に対して検討され得る防御的措置の可能性と併せて、全ての関連する国・金融センターによる、税の透明性に関する合意された基準の実施へのコミットメントの確保を助ける。

我々は、世界的に競争条件を公平にするためには、途上国の税制や税務行政に関する能力強化が不可欠であると認識する。我々は、この分野における支援の量と質の双方を向上させるため、アジス税イニシアティブの諸原則にコミットしており、その他の国に対しても、同様のコミットメントを奨励するとともに、開発途上国、先進国及び関連機関が定期的に情報や知見を共有できる機会を提供するために、「税に関する協働のためのプラットフォーム」が積極的に活用されることを求める。

法人及び法的取極の実質的所有者の透明性の改善は、腐敗、脱税、テロリストへの資金供与及び資金洗浄のためにこれらの主体や取極が悪用されることを防止するために極めて重要である。

我々は、透明性に関する国際基準の履行にコミットし、全ての国・地域に対し、そのようにするよう求める。この点について、我々は、金融活動作業部会(FATF)及び税の透明性と情報交換に関するグローバル・フォーラムが、10月のG20財務大臣・中央銀行総裁会議までに提示することとなっている、実質的所有者情報の入手可能性及びその国際的な交換に関するものも含む、国際基準の履行改善のための方法についての初期提案に期待する。

貿易

貿易及び投資は、成長、我々の国民の繁栄及び世界的な持続可能な開発の達成の主要な原動力である。それは、広範な物品及びサービスへの我々のアクセスを可能にし、競争力を向上させ、それによって投資を呼び込み、雇用創出及び改善された生活水準に繋がる。我々は、国際的に認められた、労働、社会及び環境上の基準が、世界的なサプライ・チェーンにおいてより良く適用されるよう引き続き努力する。

我々は、労働者、消費者及び企業のための経済的な機会を創り出すために貿易を活用することにコミットしている。このような高度に相互に関連し合う世界経済において、保護主義は、負の影響しか生み出さない。我々は、我々の開かれた市場を維持すること並びにスタンスティル及びロールバックによることを含むあらゆる形態の保護主義と闘うとの我々のコミットメントを再確認する。我々は、貿易及び投資に対する障壁を削減すること並びに我々の経済を自由化することによって競争力を向上させることに引き続きコミットしている。我々は、公的輸出信用を含む全ての分野において公平な競争条件を確保することの重要性を認識し、また、この点に関し、我々は、公的に支援された輸出金融の指針を策定するための国際作業部会に対する我々の支持を改めて表明するとともに、全ての参加者に対し、積極的な関与を通じて実質的な進展を追求することを奨励する。

我々は、特に鉄鋼の世界規模での過剰生産能力が、我々の経済、貿易及び労働者に与える負の影響を認識する。特に、我々は、海外へ生産能力を拡大するために与えられる支援を含め、市場を歪曲し、世界規模の過剰生産能力を助長する、政府及び政府によって支援された機関による補助金その他の支援について懸念している。我々は、このような補助金等の支援を特定し、その排除を求める協調的な行動によることを含め、市場機能を向上させること及び調整を奨励することによってこの問題に対処する措置をとるにあたり、速やかに行動することにコミットしている。この点に関し、我々は、OECD その他のフォーラムなどの場を活用しつつ、他の主要な生産国と協議するとともに、必要に応じ、かつ、WTO ルールの規則及び規律と整合的な形で、我々の権利を行使するための広範な貿易政策上の措置及び行動を検討する用意がある。我々の専門家は、この問題によって影響を受けている他の国と協力しつつ、引き続き行動を調整する。

我々は、WTO で具現化されている、ルールに基づく多角的貿易体制が、強固で、繁栄した世界経済の構築を支えてきたことを強調する。我々は、WTO の機能を、交渉、紛争解決及び監視に係るものを含め、引き続き強化する。我々は、ナイロビにおけるWTO 閣僚会議の成功裡の結果を歓迎し、最近の閣僚会議において達成された成果を確固たるものとするため、貿易円滑化協定の2016

年末までの速やかな発効及び「貿易のための援助」に対する協調的なアプローチによることを含むその完全な実施並びに合意されたとおりの情報技術協定(ITA)拡大の実施を求める。我々は、未来志向の協定を念頭に、9月のG20杭州サミットまでに、広範な環境製品に対する障壁を撤廃する、野心的な環境物品に関する協定(EGA)の妥結を目指す。我々はまた、2016年末までに、野心的で、バランスのとれた、かつ、互恵的な新サービス貿易協定(TiSA)について交渉を妥結することを期待する。同時に、我々は、様々なフォーラムにおける我々のパートナーとの前向きなポスト・ナイロビ協議を促進し、未解決の及び新たな課題並びに新たな形式の交渉に対処する。デジタル技術及びグローバル・バリュー・チェーンが世界的な物品、サービス及び投資の動きを変革する中、我々は、全てのWTO加盟国に対し、WTOが中小企業(SMEs)を含む民間部門及びその他ステークホルダーのニーズに対応するよう建設的に取り組み、かつ、切迫感をもってジュネーブにおける交渉を再開することを呼びかける。より多くの途上国がこの変わりつつある環境からの利益を享受し始めてきている中、我々は、成長及び開発に対する貿易の積極的な役割に新たな光を当てる必要性を認識するとともに、OECD及びその他国際機関による有益な取組に期待する。

我々は、多角的貿易体制の有益な補完及び礎石として、様々な形態による貿易自由化の取組を奨励する。TPPの署名は、アジア太平洋地域の共通の貿易ルールの土台を構築し、貿易を統合するための重要なステップであり、我々は、各TPP署名国に対し、国内手続を完了することを奨励する。我々は、2016年のできる限り早期に、包括的で、レベルの高い、かつ、バランスのとれた日EU-EPAについて大筋合意に達することに向けた、日本とEUの強固なコミットメントを歓迎する。我々は、できる限り早期に環大西洋経済の潜在成長力を活用することを視野に入れ、野心的で、包括的で、高い水準で、かつ、互恵的なものであるならば、本年にもTTIPの合意に達するため、必要な政治的意思を傾注することにコミットしている。我々は、CETAに本年署名するとカナダ及びEUの共通のコミットメントを歓迎する。我々は、カナダ及びEUに対し、できる限り早期にCETAを発効させることを奨励する。

インフラ

インフラ投資の世界的な需給ギャップは、雇用創出を含む現在の成長及び世界が直面している開発課題にとって深刻なボトルネックである。量的な面での効果的な資金の動員が不可欠であることを認識しつつ、我々は、質的な側面を欠いた投資は、より高額なライフサイクルコスト、より低い耐久性、不公平な分配効果、大きな負の環境的及び社会的影響並びに自然災害及び気候変動による影響に対するぜい弱性を有するインフラを導入する結果となり得ることを強調する。したがって、我々は、生産性の向上に対する重要な貢献を伴って、強固で、持続可能な、かつ、均衡ある成長を促進し、我々の社会における強じん性を向上させるとともに、2030アジェンダ、パリ協定及びアディスアベバ行動目標において特定されているものを含む開発課題に対処することにより、持続可能な開発を前進させるための世界的な取組に貢献するため、政府、国際機関及び民間部門を含むステークホルダーが、質の高いインフラ投資の推進を通じて現存するギャップを埋めるために一貫して取り組むことが極めて重要であることを再確認する。

そのような質の高いインフラ投資を推進するため、我々は、附属書に規定されたとおり、我々自身のインフラ投資を、「質の高いインフラ投資の推進のための G7 伊勢志摩原則」に沿ったものとするよう努める。我々は、さらに、関連するステークホルダー、具体的には政府、MDBs を含む国際機関及び民間部門に対し、PPP プロジェクトのように、価格に見合った価値及びインフラの質を完全に考慮した、透明性があり、競争的な調達手続の導入及び促進を含め、インフラ投資及び支援を同原則に沿ったものにすることを奨励する。

保健

我々は、個人のみならず国家にとっても、保健が繁栄及び安全保障の基盤であることを強調する。2030 アジェンダの歴史的な採択が行われた後初の G7 サミットであるこの節目において、我々は、全ての段階における健康的な生活及び全ての個人のための健康安全保障を確保し、かつ、国家の包摂的な経済成長を促進する、そこに盛り込まれた保健関連の持続可能な開発目標(SDGs)を実施することに完全にコミットしている。この点において、我々のリーダーシップがかつてないほどに必要とされている。UHC は、全ての保健目標を支える包括的な枠組みを提供する。UHC を達成するため、保健システムは、強固で、強じん、持続可能であり、かつ、その対象となる人々の現在及び将来のニーズに応えるものであることが必要である。このことは、女性、子供及び青少年の精神的及び身体的な健康を促進すること、いかなる種類の差別もなく、性と生殖に関する健康及び権利を確保すること並びに栄養不良及び環境的な要因及び高齢化によるものを含む感染症及び非感染性疾患に対処することを含むが、これらに限定されない。

我々は特に、「健康危機に対する世界的な対応に関する国連ハイレベルパネル」による取組を含め、世界中の広範囲の専門家から提供された知見を通じて、エボラ出血熱の流行から教訓を学びつつ、保健システムが、強じんであり、かつ、パンデミックその他の深刻な事態のような地球規模の公衆衛生上の脅威に対応し、より良く備え、及びこれを予防する能力を備える必要があることを認識する。公衆衛生上の緊急事態に対する迅速かつ効果的な対応はまた、世界保健機関(WHO)改革、迅速な対応のための速やかな拠出を可能にする資金調達メカニズム、関連するステークホルダー及びシステムの間における行動の協調的な実施並びに国際保健規則(IHR)のより良い実施を必要とする。

我々は、UHC に向けた取組や成果、保健システム強化(HSS)並びに公衆衛生上の緊急事態に対する準備や対応が、AMR によりもたらされる重大な脅威によって、更に危機にさらされていることに留意する。我々はまた、これらのほか、顧みられない熱帯病及び貧困に起因する感染症並びに高齢化に関連する状態のような保健分野において、既存の治療法を維持・展開し、また、新たな治療法を発見するための R&D 及びイノベーションの重要性及び貢献を認識する。

これらの点を念頭に、我々は、別添に示されているとおり、「国際保健のための G7 伊勢志摩ビジョン」に詳述されている以下の分野において、具体的な行動をとることに特にコミットする。我々はまた、我々の保健大臣に対し、9 月の神戸での会合において、これらの分野に関して必要な行動に

つき更に詳しく検討するよう指示する。

公衆衛生上の緊急事態への対応強化のためのグローバル・ヘルス・アーキテクチャー(国際保健の枠組み)の強化

エボラ出血熱の流行が大規模流行となった原因の一部として、関係するステークホルダー間の迅速かつ協調した行動の欠如があったことを認識し、我々は、既存の組織を強化することにより、グローバル・ヘルス・アーキテクチャーの強化を主導することにコミットする。

我々は、公衆衛生上の緊急事態に対する、より迅速で、効果的かつ協調的な対応を可能にし、また、支援するための、当該アーキテクチャーにおける WHO の中心的な役割を再確認する。この観点から、我々は、WHO 本部、地域事務局及び国別事務所の3つのレベルを通じて「One WHO」アプローチをとることを含め、適時に、及びその必要な資源を認識しつつ、WHO が緊急及び広範な改革を実施することを強く求め、かつ、支持する。我々はまた、公衆衛生上の緊急事態に対する適切な対応を確保するため、十分な、責任ある、かつ、適時の資金拠出が極めて重要であることを強調する。この関連で、我々は、国際社会に対し、WHO による迅速な初動対応を可能にするため、緊急対応基金(CFE)を支援することを要請する。さらに、各国政府、多国間機関及び NGO による緊急対応を支援するため、我々は、パンデミック緊急ファシリティ(PEF)の立上げに関する世界銀行による公式発表を歓迎するとともに、G7 メンバー国を含む国際社会に対し、この目的のために技術的及び資金的な貢献を行うことを招請する。我々は、また、関連する国際機関に対し、PEF と、CFE を含む他の関連する資金調達メカニズムとの間の調整を確保することを求める。

我々は、特に感染症における WHO の中心的役割並びに感染症の流行が小規模から大規模に発展し、公衆衛生上の緊急事態に至るまでの期間全体を通じて、WHO が、特に国際連合人道問題調整事務所(OCHA)のような既存の調整機構を活用しながら、継続性があり、予測可能で、迅速かつ効率的な対応の必要性を考慮し、大規模な感染症の流行や公衆衛生上の緊急事態において関係するパートナー間の調整を主導する取組を加速していることにつき、賞賛する。我々は、WHO 及び OCHA に対し、国連事務総長(UNSG)の下で、WHO、国連及び他の関係するパートナー間における連携のためのアレンジメントを検証し、強化し、及び公式化すること並びに G7 保健大臣に対してその進捗について 9 月に報告することを招請する。

エボラ出血熱及びジカウイルス感染症の最近の流行は、自然発生的、故意的又は偶発的なものであるかどうかを問わず、公衆衛生上の緊急事態の予防、検知及び対応を向上させることが不可欠であることを浮き彫りにしている。その観点から、我々は、世界健康安全保障アジェンダ(GHSA)を通じて行うことを含め、WHO の IHR 目標の遵守を進展させることに引き続きコミットしている。

我々は、76 の国及び地域に対し具体的な支援を提供するための協調的なアプローチに対する我々の支援並びに WHO 及び他の関連する機関との緊密な協調に基づき、国家計画策定に関するこれらのパートナーへの支援を新たにする。我々は、各国の IHR コア能力の強化についての主要な責任は各国にあること認識しつつ、これらのパートナーが、国連食糧農業機関(FAO)や国際

獣疫事務局(OIE)などの他の機関とのパートナーシップにより、WHO によって発表され合同外部評価(JEE)の共通で測定可能な目標を達成するよう支援することを意図する。我々は、また、そのような評価を我々のパートナーと共有し、支援し、及び行うことにコミットする。IHR の実施を強化するため、及び、新健康危機プログラムの実施に即して、我々は、WHO に対し、国際危機管理能力・警戒・対処部門及びそのリヨン事務所などの既存の組織並びに「世界健康安全保障の国別評価のためのアライアンス」による新たな取組を基礎とすることを奨励する。我々は、パンデミックに対する備え及びその予防を強化するために、関連する国際機関の資金を動員することの重要性を認識し、国際開発協会など、世界銀行を含むそれらの機関との間でこの問題について協議することを期待する。

強固な保健システム及び危機へのより良い備えを有する UHC の達成

我々は、誰一人取り残さないとの原則に基づき、UHC の達成を加速化することの重要性を認識し、特に途上国において、保健システムを強化し、より強じん、包摂的、費用負担可能、持続可能、かつ、公平なものとするため、我々の支援及び協調を強化することに対するコミットメントを改めて表明する。この目的のため、我々は、特定の疾病に関する取組を含め、関係する全てのステークホルダー及び様々な国際的な場／国際的イニシアティブの取組及び知見を調整するための国際的枠組みの強化の必要性を強調する。この関連で、我々は、国際保健パートナーシップ・プラス(IHP+)の原則の確保を追求し、かつ、「健康なシステム、健康な暮らしに関するロードマップ」などのイニシアティブによって支援される「UHC2030」の設立を支持する。我々はまた、分野横断的にUHC に向けた取組を促進し、及び触媒するための特使を指名することにつき、国連事務総長との意見交換を期待する。我々は、IHR コア能力の強化を含め、公衆衛生上上の緊急事態の予防及び備えの向上が、保健システム強化に関する取組の一部となることが期待されていることを確認する。

その一方で、我々はまた、保健システムが特に弱い低所得国(LICs)及び低中所得国(LMICs)における保健システム強化の喫緊の必要性を考慮し、WHO を含む関係するパートナーとの協働により、各国の主導による保健システム強化を支援することにコミットしている。この関連で、我々は、WHO 及び他の関連する国際機関との連携の必要性を強調しつつ、アフリカにおいてUHC を促進する世界銀行の取組を歓迎する。我々は、グローバル・ファンド(GF)などとのパートナーシップにより、エイズ、結核及びマラリアを終息させることにコミットしている。この目的のため、我々は、9月のモントリオールでのGF増資会合の機会を捉え、GFの第5次増資の成功を完全に支持するとともに、伝統的な及び新たなドナーに対し、増資を支援するよう求める。

UHC の促進はまた、全ての個人の生涯を通じて健康を守り、改善するためのサービスの提供を必要とする。我々は、そのような取組の一環として、急速な人口動態の変化に伴って緊急の対応が必要とされる分野に集中しつつ、性と生殖に関する健康と権利及びサービス、予防接種、より良い栄養並びに緊急事態及び災害におけるニーズに応じた対応へのアクセスを提供するための取組によることを含め、女性及び女兒、青年並びに子供の健康を促進することを引き続き主導する。こ

の観点から、我々は、「エブリ・ウーマン、エブリ・チャイルド」を支援するグローバル・ファイナンス・ファシリティ、Gavi ワクチン・アライアンス及び「女性、子供及び青少年の健康のための世界戦略」などのプラットフォームを歓迎するとともに、ポリオ撲滅のための目標達成への我々の継続したコミットメントを再確認する。我々はまた、高齢者にやさしいコミュニティを促進すること及びコミュニティが認知症にやさしいものとなることへの支援を含む多分野にわたるアプローチを通じ、一方の性に特有の側面にしかるべく配慮しつつ、活動的な高齢化を促進することにコミットする。この目的のため、我々は、本年日本で開催される活動的な高齢化に関するフォーラムを通じて行うことを含め、知識及び経験を共有し、並びに途上国を奨励する。我々は、革新的な研究開発のための前向きな環境を促進すること、医薬品及び医療へのアクセスを奨励すること並びに保健システムの持続可能性を確保することという立ち上る課題を認識する。また、我々は、これらの問題について、各国の特別な状況、優先事項及び保健システム設計を認識しつつ、次回の G7 保健大臣会合の機会において行われる意見交換を歓迎する。

薬剤耐性 (AMR)

WHO の薬剤耐性に関するグローバル・アクション・プラン並びに FAO 及び OIE の関連決議の採択を含め、AMR との闘いにおいて適切な進展が見られるが、より多くのことが行われる必要がある。G7 によるこれまでのコミットメントを基礎として、我々は、人及び動物の健康、農業、食品並びに環境を含む分野を考慮し、多分野にわたるワン・ヘルス・アプローチを積極的に実施し、及び強化するための共同の取組を行うことにコミットする。我々は、分野横断的なサーベイランスを全ての分野において強化するため、並びに他の国及び民間部門のパートナーとの協力により、加速された支援を通じて効果的な抗微生物剤へのアクセスを向上するため、既存の抗菌剤の保存によることを含め、抗微生物剤の有効性を維持するために特段の努力を行う。我々はまた、AMR に直面する中で、感染症と闘うために必要な新しい診断薬や薬剤を製薬会社が提供していないという市場の失敗に対処する必要性を認識しつつ、AMR に関する研究開発 (R&D) を促進するための新たなインセンティブの潜在的可能性を検討することにコミットするとともに、国際社会に対し、更なる行動をとることを要請する。このような背景の下、我々は、多分野にわたる世界的、地域的、国内的及びコミュニティの協働による取組を通じて「グローバル・アクション・プラン」の効果的実施を促進する国連総会における「AMR に関するハイレベル会合 2016」を支持することにコミットしており、また、AMR に関するワン・ヘルス EU 閣僚会合、アジア AMR 東京閣僚会議、GHSA・AMR 行動パッケージなどにおいて強調されている既存のイニシアティブを認識する。

女性のエンパワーメント及びジェンダー間の平等

我々は、女性及び女児のエンパワーメント並びにジェンダー間の平等は、我々の社会の経済的、社会的及び政治的領域に、彼女たちが変化の担い手として平等に参画するために不可欠であることを強調する。世界的に、女性及び女児は、彼女たちの完全な潜在力を実現することを阻む障壁及び差別に、依然として直面している。我々はまた、女性の権利を促進し、及び保護することの重要性を確認し、また、暴力的過激主義の脅威、現在続いている避難の危機及び長引く紛争や災害に対処する場合を含め、平和及び安全を確保するための主要な当事者としての女性の役割を

認識する。したがって、全ての女性及び女兒がエンパワーされ、持続可能な、包摂的であり、かつ、公平な経済成長及び平和のために積極的に関与する社会並びにその人権が普遍的に尊重され、かつ、保護される社会を構築することは、引き続き G7 の目標である。我々は、この強い確信を念頭に、SDGs の実施及び気候変動への対処におけるジェンダーに配慮したアプローチを主導することにコミットしており、また、我々の国内政策及び公的財政管理が、公平、ジェンダー間の平等並びに女性及び女兒のエンパワーメントを促進することを確保しつつ、SDGs の全体を通じて、及び全ての政策分野において、ジェンダー間の平等を主流化することを計画する。我々は本日、以下の3つの分野を特に強調する：能力構築を含め女性及び女兒がエンパワーされること、STEM 分野における女性の積極的な役割を促進すること、並びに「女性・平和・安全保障」の議題において具体的な進展を達成すること。

完全な潜在力を開花させるための女性及び女兒のエンパワーメント

過去の G7 サミット、女性との対話のための G7 フォーラム及び国際女性会議(WAW!)の成果を基礎として、我々は、民間部門の積極的な参加を呼びかけつつ、UN Women の女性のエンパワーメント原則(WEPs)を我々自身も促進することを含め、女性の平等の権利、完全かつ効果的な参加、同一の労働に対する同一の賃金及び指導的地位への平等の機会を確保することを決意している。我々はまた、女性の経済的エンパワーメントに関する国連ハイレベルパネル(HLP)の任務を支持する。我々は、質の高い教育及び訓練によることを含む能力構築によって女性及び女兒の機会を拡大すること並びに女性及び女兒がその完全な潜在力を開花することを支援することに対する我々のコミットメントを改めて表明する。そのようなコミットメントを行動に移すため、我々は、ジェンダー間の平等、保健及び教育分野の SDGs を基礎とする、附属書に記載されている共通の行動指針「女性の能力開花のための G7 行動指針：持続可能な、包摂的で、かつ、公平な成長と平和のために」を支持する。我々は、他の関心ある国に対し、これらのコミットメントに参加することを招請する。

STEM 分野及び職種における女性の積極的な役割の促進

我々は、国際競争力の極めて重要な決定要素は人材であること、また、STEM 分野及びキャリアにおける女性の積極的な役割を促進することは、人材プールを拡大し、かつ、創造性及びイノベーションを高め、また、経済成長及び生産性につながることを認識する。我々は、より高給な職への女性のアクセスを改善し、性別による賃金格差を縮小することを目指す。そのような利益にもかかわらず、STEM 分野を卒業する女性の数は増加している一方で、STEM 職種で雇用されている女性の割合は、過去 10 年間にわたりわずかな変化しか見られない。我々は、教育及び訓練に加え、女性が直面する性別に基づく偏見を除去し、構造的な変化を促進し、並びにこれらの職種におけるジェンダー間の平等を促進する法的及び政策的な環境を創ることが重要であることを強調する。この観点から、我々は、STEM 分野及びキャリアにおける女性の進出を促進するための世界的な気運を醸成するため、OECD、UN Women 並びにその他の国際機関及びステークホルダーとのパートナーシップにより、G7 イニシアティブとしての「女性の理系キャリア促進のためのイニシアティブ(WINDS)」を立ち上げる。

「女性・平和・安全保障」における具体的進展

我々は、紛争及び紛争後の状況において、紛争からの避難時又は移住時に、並びに自然災害のさなか及びその事後において、性的暴力を含むあらゆる形態のジェンダーに基づく暴力が増加していることにごく然としている。したがって、我々は、性的及びジェンダーに基づく暴力を、防止するための全ての取組を、我々の社会におけるものも含め行いつつ、全ての形態のジェンダーに基づく暴力に立ち向かい、被害者を支援し、かつ、不処罰の文化に取り組むべく加害者の責任追及の重要性を再確認する。我々はまた、「女性・平和・安全保障」の目標を前進させるために国連などと協力することにコミットしている。この関連で、我々は、全ての国に対し、性的搾取に対する国連事務総長のゼロ・トレランス政策及び国連安全保障理事会決議第 2272 号の完全な実施を支持するよう求める。我々は、国連安全保障理事会決議第 1325 号及びそれに続く決議に従い、紛争の予防及び解決、調停、平和維持、人道的対応、平和構築並びに紛争後の復興における女性の積極的な、かつ、意味のある参加の重要性を強調する。したがって、我々は、全ての国に対し、昨年
の安保理決議第 1325 号に関する国連安全保障理事会ハイレベル・レビュー会合における各国のコミットメントを実施するよう求めるとともに、「女性・平和・安全保障」に関する国家行動計画又は類似の、ジェンダー間の平等関連戦略を策定し、及び実施するための他の国による取組に対し、財政的及び技術的に支援することに引き続きコミットしている。さらに、我々は、国際紛争調停者に占める女性の割合が少ないことを認識し、そのような地位における女性の数を増加させることにコミットする。

サイバー

我々は、経済成長及び繁栄のための一つの不可欠な基盤として、アクセス可能で、開かれた、相互運用可能な、信頼できる、かつ、安全なサイバー空間を強く支持する。これはまた、自由、民主主義並びにプライバシー及び人権の尊重などの G7 共通の価値を高める。我々は、国家及びテロリストを含む非国家主体の双方によるサイバー空間の悪意のある利用に対し、密接な協力の下で、断固とした強固な措置をとる。我々は、国際法がサイバー空間において適用可能であることを再確認する。我々は、既存の国際法のサイバー空間における国家の行動への適用、平時における国家の責任ある行動に関する自発的な規範の促進並びにサイバーに関する国家間の実務的な信頼醸成措置の発展及び実施から構成される国際的なサイバー空間の安定に関する戦略的枠組みを促進することにコミットする。この文脈において、我々は、2015 年の国連政府専門家会合報告書を歓迎するとともに、全ての国に対し、この報告書の評価及び勧告を指針とすることを要請する。我々はまた、いずれの国も、企業又は商業部門に競争上の優位性を与えることを意図して、ICT により可能となる、営業上の秘密その他の企業秘密に係る情報を含む知的財産の窃取を実行し、又は知りつつ支援すべきでないことを再確認する。我々は、プライバシー及びデータの保護やサイバーセキュリティを尊重しつつ、インターネットの開放性、透明性及び自由を確保するため、情報の自由な流通及びデジタル・エコノミーの全ての主体によるサイバー空間への公平かつ平等なアクセスを促進することにコミットする。我々は、オンラインでの人権の保護及び促進にコミットする。我々は、政府、民間部門、市民社会、技術コミュニティ及び国際機関による十分かつ積極的な

参加を含むインターネット・ガバナンスに関するマルチステークホルダー・アプローチを促進することにコミットする。我々は、ICT 環境においては、その他の全ての環境における場合と同様に、国家が安全、安定及び繁栄を促進する特有の責任及び役割を有することを認識する。我々は、デジタル連結世界の潜在力を最大化し、地球規模課題に対処し、デジタル・デバイドを埋め、包摂的な発展を実現し、2030 アジェンダに関する進展を成し遂げるため協力することにコミットする。我々は、開かれた、相互運用可能な、信頼できる、かつ、安全なサイバー空間を促進し、保護するため、附属書に掲げる「サイバーに関する G7 の原則と行動」を支持する。我々は、サイバー空間の安全及び安定を促進するための我々の政策協調及び実務的な協力を強化するため、サイバーに関する新たな G7 作業部会を立ち上げることを決定する。

腐敗対策

腐敗は、我々の共通の価値、とりわけ法の支配、民主主義及び公正な競争に根本的に反する。我々は、腐敗と戦うための我々の集団的及び個別的行動は、経済成長、持続可能な開発並びに平和及び安全の維持にとり決定的に重要であることを改めて表明する。我々は、世界的な腐敗の問題の重大さを認識しつつ、腐敗と戦うとの我々の新たなコミットメントを明示し、また、世界の至る所で透明性を確保する、附属書に掲げる「腐敗と戦うための G7 の行動」を支持する。我々は、国連腐敗防止条約(UNCAC)及び OECD 外国公務員贈賄防止条約のようなその他の重要な国際文書の効果的な実施を促進し、また、個別のレビュー・メカニズムへの完全な参加を促進する。我々は、国際社会における腐敗対策の行動並びにオープン・ガバメント・パートナーシップ、採取産業透明性イニシアティブ(EITI)及び国連グローバル・コンパクトのような価値あるイニシアティブを活性化するために英国が 5 月に主催した腐敗対策サミットによって創り出された成果及びモメンタムを歓迎する。我々は、国際的な腐敗対策のアジェンダを、他の国際場裡におけるものも含め、前進させるに際して自ら模範を示すことにコミットする。

外交政策

テロ及び暴力的過激主義対策

我々は、あらゆる形態のテロを強く非難する。市民及びその他の犠牲者を対象とし、ISIL/Dae' sh, アル・カーイダ及びその他のテロ組織によって行われる攻撃、残虐行為及び人権侵害は、平和と国際の安全並びに全人類に共通の価値及び原則に対して深刻な脅威をもたらす。我々は、特に、アクセスが開かれていて警備上の防壁が限られるがゆえにぜい弱な場所並びに文化的財産を狙ったテロ攻撃の増加について、深刻な懸念をもって留意する。インターネット及びソーシャル・メディアは、テロリストの勧誘やテロ資金の調達及びテロ攻撃の計画や調整のような、テロ、暴力的過激主義及びその他の犯罪目的のために世界中で悪用されている。航空保安もまた、全ての国に対し、テロの脅威に対応するために発展し得る、適切かつ持続可能な安全措置の実施を確保することが求められる世界的な課題である。

我々は、世界的な安全保障上のこの喫緊の脅威と闘うため、国際社会が共同の、かつ、協調された更なる取組を行うことが不可欠であることを改めて表明する。我々は、民間部門、市民社会及び

コミュニティとの継続した協力及び「社会全体による」アプローチの重要性を強調する。

我々は、世界的に、地域的に、二国間で、及び国内的に既に行われている集中的なテロ対策の取組を賞賛する。我々は、ギャップを埋め、そのような既存の取組を加速させることの重要性を強調するとともに、G7 は、世界的な発展の触媒として、国際的な人権上の義務を完全に遵守する形で国際社会と協力しつつ、テロ対策措置の効果的な実施の促進において主導的な役割を果たすことができることを再確認する。我々は、外国人テロ戦闘員並びにテロ関連物資及び機材の流れを防止するため、引き続き協力する。我々は、仙台での G7 財務大臣・中央銀行総裁会議の「テロ資金対策に関する G7 行動計画」において宣言されたとおり、テロ資金対策への我々のコミットメントを改めて明言する。

テロ集団への身代金の支払いは、彼らのリクルートに向けた活動を支え、また、テロ攻撃を組織し、実行する彼らの作戦能力及び将来的な身代金目的の誘拐事件に対するインセンティブを強める収入源の一つであり、それによって我々の国民に対するリスクが増大している。我々は、身代金を支払わず、我々の国民の生命を守り、かつ、関連の国際条約に従ってテロ集団の生存及び繁栄を可能とする資金を得る機会を減少させるという我々の決意を改めて明確に表明し、全ての国に対し、そのようにするよう求める。我々は、暴力及び憎悪の連鎖を断ち、かつ、暴力的過激主義の発生及び蔓延を防止するため、意見、文化及び信仰の相違がどこに存在しようとも、平和的共存、多様性の尊重、寛容性及び包摂的な対話を促進することにコミットする。この点に関し、我々は、「暴力過激主義防止のための国連事務総長行動計画」を歓迎し、その実施を呼びかけ、及び真の国連全体によるアプローチを実践する力強い国連の指導モデルを支持する。

我々はまた、地元コミュニティ、特に女性及び若者の役割並びに教育及び対話によることを含む、他の意見を表明させる力の強化の重要性を強調する。

我々はまた、テロ及び暴力的過激主義対策のための能力構築を必要としている国に対する支援のための連携強化にコミットする。

これらの原則を具体的な行動に移すことを決意しつつ、我々は、添付の「テロ及び暴力的過激主義対策に関する G7 行動計画」に記載されている行動をとることにコミットする。我々は、関連する国連安全保障理事会決議の実施を支持し、情報共有を促進し、国境警備を強化し、航空保安を向上させ、テロ資金対策を講じ、文化財の密輸入と闘い、暴力的過激主義を防止し、及びこれに対抗し、民間部門との我々の関与を強化し、並びに我々の能力構築支援を更に連携させるために取り組むことにコミットする。我々は、同行動計画の実施を定期的に評価することにコミットする。

移民及び難民危機

難民、庇護申請者、国内避難民 (IDPs) 及びせい弱な移民の数が第二次世界大戦以降最大の水準にある中で、G7 は、現在進行中の移民及び難民の大規模な移動を、人権を完全に尊重し、か

つ、適用可能な国際法にのっとりつつ、世界的な対応をとる必要がある地球規模の課題として認識する。我々は、人道上の影響及び大規模な避難の根本原因の双方に対処しつつ、この課題を人道的及び効果的に管理することを最優先する。人々の大規模な移動は多面的な現象であり、自然災害と同様に紛争、国家のぜい弱性及び安全の欠如並びに人口構成、経済及び環境の変化からもたらされる根本原因に対処する必要がある。したがって、国際社会は紛争予防、安定化及び紛争後の平和構築に向けた努力を強化するとともに、貧困を削減し、平和、グッド・ガバナンス、法の支配及び人権の尊重を促進し、包摂的な経済成長を支援し、並びに基礎的サービスの提供を向上させるための解決策を見出すことに焦点を当てるべきである。

我々は、人道、開発及びその他の主体の間でのより緊密な連携の必要性を認識しつつ、我々の国際的義務と統合的な貿易及び投資を支援するその他の措置と同様に、人道的支援、資金的支援、開発援助及び協力を通じて、難民、その他の避難民及びその受入れコミュニティの即時の及びより長期的なニーズに応えるための世界的な支援を増加することにコミットする。我々は、特に教育、医療、インフラ並びに人権及び公平な機会の促進に関する、影響を受けている地域の社会経済開発の増加を目指す。我々は、効果的な移民の管理に関する 2030 アジェンダの実施の重要性を認識し、出身国及び通過国であるアフリカ、中東及び近隣諸国へ特別な注意を払いつつ、我々のパートナー国との開発協力を強化することにコミットする。

G7 は、国際金融機関及び二国間ドナーに対し、難民、その他の避難民及びその受入れコミュニティに対する資金的及び技術的な支援を促進することを奨励し、かつ、特に、「中東・北アフリカ (MENA) 地域支援のための新規融資イニシアティブ」の立ち上げを歓迎する。我々はまた、「シリア危機に対応するための EU 地域信託基金 (Madad 基金)」、「トルコにおける難民のための EU ファシリティー」及び「アフリカのための EU 信託基金」といった既存の機能及び資金調達メカニズムとの緊密な連携を求める。我々は、ヨルダン、レバノン及びケニアなどの最も影響を受けている受入れ国に対する支援を増加することの重要性を強調するとともに、ロンドンにおける「シリア危機に関する支援会合」の成果を実施することを支援することとなるトルコとの緊密な協力を継続する。シリアの危機は、長期化する避難民問題に対処する上で、国際社会が、全ての所得レベルの、かつ、全ての地域の開発途上国を支援するためのより良い態勢を備える必要性を浮き彫りにしている。国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)、世界食糧計画 (WFP) 及び国連児童基金 (UNICEF) のような、関連する国際的な人道及び緊急支援機関への世界的な支援の増加は、不可欠である。

我々は、経済移民及び難民の流れ急増の根本原因に対処するための、広範かつ長期的な戦略及び措置をとることを呼びかける。我々は、雇用、教育、医療サービス及び基礎インフラへのアクセスを支援するための資金調達並びに技術的助言を通じ、難民及びその他の避難民並びにその受入れコミュニティのために持続可能な生活を提供することについて、各国を支援する手段が必要であることを認識する。我々は、他の世界銀行出資国と共に、世界銀行に対し、難民を受け入れている国々を支援するためのツールキットを拡大するための新たなプラットフォームを整備するよう求める。我々はまた、欧州投資銀行が、地中海地域及びアフリカにおける持続可能な開発、

極めて重要なインフラ及び社会の一体性を支援する長期的な危機対応イニシアティブを構築する方法を探求していることを歓迎する。

移住のための合法的ルートは、非正規の移住への対処と並行して、国内及び地域的枠組と整合的に強化される。G7 は、最大数の難民を受け入れている国に対する圧力を緩和するため、一時的な難民受入れ及び第三国定住制度の構築を奨励する。既存のイニシアティブによる貢献を認識し、第三国定住の機会及び他の形態による安全かつ法的な人道的受入れを拡大するための取組が継続されるべきである。我々は、受入れコミュニティの安定及び繁栄並びに帰還後における母国の復興に貢献する将来の資産として難民の能力を強化するため、難民のための教育及び雇用の機会の創出につき、前線にある国々を支援することにコミットする。

G7 は、難民の地位に関する条約及び同議定書の中核的原則を促進すること及び迫害から逃れる者に対して逃避先を提供することを通じ、国際的保護のアプローチを強化することを支持する。しかしながら、保護の枠組みは正当な難民・移民の審査を免れるために使われてはならないことも明らかである。これらの目的のため、迫害から逃れる個人は、最初に入国した安全な国において効果的な保護を与えられるべきであり、政府は、難民並びに受入れ国及びコミュニティに対し国際的な人道支援及び開発援助を提供することと併せて、安全で秩序ある第三国定住プロセスの機会を提供するべきである。

同時に、我々は、難民の地位に関する条約及び同議定書に基づくものを含む、国際的保護の対象でない移民の安全な、かつ尊厳ある帰還及び再統合を円滑化するため、出身国及び中継国との協力を奨励する。我々は、移民の密入国及び現代の奴隷制と闘うこと並びに出身国、中継国及び目的国と共に人身取引の被害者を保護することを継続することを決意する。我々は、国連国際組織犯罪防止条約及びその議定書をはじめとする関連する国際文書の締結及び完全な実施を呼びかける。

さらに、我々は、人道危機に対応するための国際システムの長期的な能力及び有効性を強化する国連主導の取組を支持する。そのような国際システムは、(i)人道的支援のための資源を増加すること、(ii)強じん性及び防災に投資すること並びに避難民問題の恒久的解決を追求することにより、人道援助への依存を低減すること、(iii)資金ベースを拡大すること、(iv)人道支援提供システムへのアクセス、その効率及び効果を高めることを含む。我々はまた、人権侵害を含む、避難民問題の根本原因に対処することの重要性を改めて表明する。

G7 は、シリアを含む出身国での持続可能な政治的解決のみが、難民を含む強制的な避難民の問題に対する永続的解決をもたらすことを想起する。

我々は、世界人道サミットを歓迎し、また、9月にニューヨークで行われる国連総会での「難民及び移民の大規模な移動に関するハイレベル会合」及び「難民に関するハイレベル・サミット」に期待す

る。

ドーヴィル・パートナーシップ

我々は、MENA の国々の経済及びガバナンス改革に係る取組を支援するための、ドーヴィル・パートナーシップに対するコミットメントを改めて表明する。

我々は、移行期にあるアラブ諸国(ACTs)が直面している、暴力的過激主義の台頭、軍事紛争の激化、複雑な人道危機及びかなりの数の難民を含む新たな諸課題を認識する。我々は、安定性、民主化及び包摂的な経済成長の必要性を強調する。そのため、構造的な経済改革、ガバナンスの改善、女性のエンパワーメント及び強固な市民社会の参加の重要性を強調する。

ドーヴィル・パートナーシップは、引き続き、ACTs、地域パートナー及び関連する国際機関との対話及び協力のための重要なプラットフォームである。我々は、この地域における女性の社会経済的役割を促進すること及びこの論点について専門家会合を開催することにコミットする。我々は、「経済的ガバナンスに関するドーヴィル・コンパクト」、「金融包摂のための行動計画」及び MENA 移行基金から資金提供を受けたプロジェクトを実施するとの共通のコミットメントを歓迎する。我々は、中小企業関連プロジェクトの重要性を認識し、また、ACT 中小企業行動計画の更新を奨励する。我々は、国ごとに適応したアプローチにより ACTs を支援することに引き続きコミットする。

シリア

我々は、全ての当事者及びその支援者に対し、国際シリア支援グループ(ISSG)の取組に基づいて達成された全国的な「敵対行為の停止」を完全に履行することを求める。我々は、特にアレッポ市内及びその周辺でのシリア政権による「敵対行為の停止」違反を最も強い表現で非難し、全ての当事者が市民に対する無差別の攻撃を停止しなければならないことを改めて表明する。我々は、全ての当事国が、更なる無差別の攻撃の停止を確保するための取組を強化するとの ISSG のコミットメントを歓迎し、また、2016年5月9日の共同声明における、「主として文民及び停止の全ての当事者が居住する地域における航空作戦を最小化するためにシリア当局と協働する」とのロシアのコミットメントを歓迎する。我々は、ロシア及びイランが、シリア政権に対して新たな停戦の遵守及び文民に対する攻撃の停止を促すことを期待するとともに、停止の全ての当事者に対し、停止の期間を遵守するよう強く促す。我々は、国際社会の全てのメンバー及び当該紛争の当事者に対し、国連特使の取組を支持するため、関連する全ての国連安全保障理事会決議、特に第 2254 号、第 2258 号及び第 2268 号を完全に遵守し、並びにジュネーブ・コミュニケに基づいたシリアにおける包摂的かつ平和的な政治的移行にコミットすることを強く求める。我々は、国連安全保障理事会決議第 2254 号によって設けられた 2016 年 8 月 1 日という目標期日までに、当事者が、完全な執行権を持つ、広範で包摂的かつ非宗派的な移行統治機構を含む真の政治的移行のための枠組みについて合意に達することを ISSG が改めて明確に表明したことを歓迎する。

我々は、シリアにおける人道状況の悪化に深刻な懸念を表明し、全ての当事者、特にシリア政権

に対し、人道支援機関による迅速で、安全で、制限がなく、かつ、持続的なシリアにおけるアクセスを、特に包囲された地域及び到達することが困難な場所において即時に認めること並びに女性及び子供を含む恣意的に拘束されている全ての人々を解放することを求める。我々は、指定され、包囲された全ての地域への国連による人道アクセスが否定される場合には、国際連合世界食糧計画が必要とされる全ての地域のために空輸及び空中投下計画を直ちに実行すべきであるとの、2016年6月1日以降のISSGのコミットメントを歓迎する。我々は、避難民及びその受入れコミュニティを支援すること、シリアの長期的かつ持続可能な紛争後の安定化及び復旧に向けて取り組むこと並びに暴力的過激主義を助長する状況を撲滅することにコミットしている。

我々は、シリアでの化学兵器の使用に関する化学兵器禁止機関(OPCW)による調査結果に関し深刻な懸念を表明する。OPCW及びOPCW・国連共同調査メカニズムへの実践的かつ政治的な支援は、それらをシリアにおける化学兵器の使用に関与した人々を特定し、その責任を問うために不可欠である。

イラク

我々は、政治的・経済的改革を加速化し、国民和解を加速するイラク政府の取組とともに、イラクの統一、主権及び領土的一体性並びにイラク国民に対する我々の継続的な支援にコミットする。我々は、イラク軍のISIL/Da'eshとの戦いにおける努力を称賛する。我々は、国際社会に対し、人道支援の拡大及びISIL/Da'eshから解放された地域の安定化努力への支援を含め、イラク政府を引き続き支援することを要請する。我々はまた、IMF及び他の国際金融機関と協調し、改革を通じて財政面での課題に対処し、経済を強化するイラクの取組に対して支援を提供すること及び必要に応じてそれを促進することにコミットする。この支援から、イラク・クルディスタン地域を含む全てのイラク人が利益を受けることが極めて重要である。この文脈で、G7は、国際金融機関からの支援を補完するため、二国間支援及び他の金融支援により36億米ドル以上を動員している。

イラン

我々は、包括的共同作業計画(JCPOA)の完全かつ効果的な履行を積極的に支援することに対する我々のコミットメントを再確認する。JCPOAに規定された核関連の経済制裁及び金融制裁の解除は、イランにとって、国際社会に再び関与するための機会となる。我々は、イランに対し、地域において建設的な役割を果たし、それにより、政治的解決、和解及び平和を達成するための取組に貢献すること並びにテロリズム及び暴力的過激主義の拡散を防止し、及びこれに対抗するために協力することを呼びかける。我々は、国連安全保障理事会決議第2231号に背ちする弾道ミサイル実験を進めるとのイランの決定を深く懸念する。我々はさらに、イランに対し、国際的な人権に関する義務を遵守することを呼びかける。

北朝鮮

我々は、北朝鮮による1月の核実験及びそれに続く弾道ミサイル技術を使用した発射を最も強い表現で非難する。これらの行為は、複数の国連安全保障理事会決議に違反しており、地域及び国際の平和及び安全に対して深刻な脅威を与えるものである。我々は、北朝鮮に対し、関連する全

での国連安全保障理事会決議及び 2005 年の六者会合共同声明の下でのコミットメントを即時かつ完全に遵守し、今後いかなる核実験や発射も行わず、また、その他の不安定化をもたらす行動や挑発的行動も行わないことを要求する。我々は、国際社会に対し、関連する国連安全保障理事会決議を完全に履行し、執行するよう呼びかける。また、我々は、北朝鮮の人権侵害に対して遺憾の意を表明するとともに、北朝鮮に対し、拉致問題を含む国際社会の懸念に直ちに対処するよう強く求める。

ウクライナ／ロシア

我々は、ウクライナにおける紛争は、外交手段によって、また国際法、特にウクライナの主権、領土の一体性及び独立を尊重する法的義務の完全な尊重によってのみ解決され得るとの確信をもって連帯する。我々は、ロシアによるクリミア半島の違法な併合に対する我々の非難を改めて表明し、同併合の不承認政策及び関係者に対する制裁を再確認する。

我々は、停戦合意に違反してコンタクト・ラインに沿って継続的に行われている暴力を懸念する。我々は、全ての当事者に対し、ミンスク合意の下で求められている完全な停戦合意につながる具体的な措置をとることを要請する。我々はまた、全ての当事者に対し、ミンスク合意に従って可能な限り早期にドネツク及びルハンスク地域のいくつかの場所において地方選挙を実施するとの観点から、各自のコミットメントを遅滞なく履行することを要請する。我々は、ミンスク合意の完全な履行並びにノルマンディー・フォーマット及び三者コンタクト・グループの取組に対する我々の最も強い支持を強調する。我々は、ロシアが、自国のコミットメントに従って行動し、及びコミットメントを完全に充足するように分離派に対し影響力を行使することを期待する。我々は、危機の緩和に資する形での欧州安全保障協力機構(OSCE)の主要な役割を強調し、全ての当事者、特に分離派に対し、OSCE の監視要員に紛争地域全域への完全かつ妨害されないアクセスを提供するよう呼びかける。

我々は、制裁の期間はロシアのミンスク合意の完全な履行及びウクライナの主権の尊重に明確に関連付けられていることを想起する。制裁は、ロシアがこれらのコミットメントを履行したときに後退され得る。しかし、我々はまた、ロシアの行動に応じて必要ならば、ロシアのコストを増大させるため、更なる制限措置をとる用意がある。我々は、ロシアがこれまで自ら行ったコミットメント及び国際法を遵守することを確保するため、並びにこの危機に対する包括的、持続可能、かつ、平和的な解決に至るため、ロシアとの対話を維持する重要性を認識する。

我々は、ウクライナが包括的な構造、ガバナンス及び経済改革を実施するためにとっている措置を称賛及び支援するとともに、ウクライナに対し、当該プロセスを継続し、及び加速することを奨励する。我々は、ウクライナに対し、腐敗対策及び検事総局を含む司法の改革のモメンタムを維持し、拡大することを強く求める。我々は、この目的のために長期的な支援を提供することに引き続き完全にコミットしている。我々はまた、キエフ駐在の G7 大使によるウクライナ・サポート・グループの取組を賞賛する。

我々は、大災害から30年後の今年、チェルノブイリ原子力発電所のサイトを安定的かつ環境上安全な状態にするために、ウクライナと共同で取り組むとの我々のコミットメントを再確認する。

リビア

我々は、正式な宣誓までの間、国民統一政府(GNA)の閣僚が任務を担い、各省に対する監督権を行使することを承認する首脳評議会の布告を歓迎する。我々は、リビアの唯一の正統政府としてのGNAと緊密に連携し、全てのリビア関係者に対し、GNAの権限を認め、リビア政治合意を履行することを求める。我々は、平和、安全及び繁栄の回復を助け、並びに深刻な人道上の苦しみに対処するため、GNAに支援を提供する用意がある。我々は、コブラー国連事務総長特別代表による、リビア政治合意の完全履行を促進する継続的な努力に対する我々の完全な支持を表明する。我々は、増大するテロの脅威、リビアにおける人身取引並びに移民及び武器の密輸について引き続き深く懸念する。我々は、リビアの全ての当事者及び治安部隊に対し、ISIL/Dae' sh と戦うリビア政治合意に従い、かつ、GNAと協調し、統一指令の実施に迅速に取り組むよう強く求める。我々は、GNAによる、リビアの金融機関及びリビア国営石油公社に対する唯一の、かつ、効果的な監視を支持し、それらが全てのリビア人の利益のために機能することを確保する。我々は、そのような機関の統合性及び一体性を損ない得る活動に対する懸念を表明し、リビアから原油を不法に輸出しようとする全ての試みを非難する。我々は、GNAが、国連指定のテロリスト・グループに対抗し、また、同国の至る所でISIL/Dae' sh と闘うために必要な致死性の武器や物質を調達するため、国連リビア制裁委員会に対する適切な武器禁輸措置の免除要請を提出するとのGNAの意図を完全に支持する一方で、適用可能な国連安保理決議に従い、武器禁輸を続けるとの我々のコミットメントを再確認する。

アフガニスタン

アフガニスタン政府がテロと闘い改革を実施していることを受け、アフガニスタン及びその国民に対する我々の長年のコミットメント並びにアフガニスタン政府に対する我々の継続的な支援という点において我々は微動だにしない。我々は、アフガニスタンにおける安全及び安定に対する脅威を引き続き懸念するとともに、アフガニスタン政府主導の和平プロセスの構築に向けた取組を強く支持する。我々は、アフガニスタンにとって改革の継続及び進展に対するコミットメントを再確認する上で、かつ、国際社会にとってアフガニスタンに対する政治、治安及び開発に関する支援についてのコミットメントを新たにする上で重要な機会となる7月のNATOワルシャワ・サミット及び10月のアフガニスタンに関するブリュッセル会合への国際社会の他のメンバーの参画に期待する。

中東和平プロセス

我々は、双方の当事者に対し、二国家解決を脅かし得る措置を含め、更なる悪化を避けるよう強く求めるとともに、中東和平カルテットにより実施されるものを含め、交渉による解決に向けて行う国際的な取組を強く支持する。我々は、来るパリでの閣僚会合を歓迎する。

イエメン

我々は、全ての当事者に対し、関連する国連安全保障理事会決議に従った政治的移行の再開を含む、イエメンでの紛争を終結させる包摂的で、平和的な解決及びイエメン経済の再建に向けて取り組むことを呼びかける。我々は、イエメンにおける暴力を終結させるため及び全ての当事者に対して停戦を完全に遵守することを要請するため、イスマイール・ウルド・シェイク・アハメド国連事務総長イエメン担当特使による、クウェートで現在行われている和平対話を促進する取組を完全に支持する。我々は、同国の全ての地域への迅速で、安全な、かつ、阻害されない人道支援アクセスを可能とするため、全ての当事者が直ちに措置をとることの必要性を強調する。

アフリカ

我々は、安定、安全、包摂的で説明責任のあるガバナンス並びに経済成長及び多様化が、引き続きアフリカの長期的繁栄及び持続可能な開発の基盤であることを確信している。我々は、これらの分野において多くのアフリカのパートナーによって成された進歩を認識し、マリ及び南スーダンでの最近の前向きな進展並びに中央アフリカ共和国及びブルキナファソでの成功裏の政治的移行を歓迎する。我々はまた、特にチャド湖流域、サヘル地域及びアフリカの角における、テロ及び暴力的過激主義に対抗するアフリカのパートナー間の一層の協調を歓迎する。我々は、腐敗対策、ガバナンスの向上、経済の強化及びあらゆる形態の暴力的過激主義の壊滅のためのアフリカの取組に関するものも含め、我々が 2015 年にナイジェリアでプレッジした支援を継続し、かつ、深めることにコミットする。我々はまた、腐敗及びこの地域における経済の多様化と同様、スーダン、チャド湖流域、南スーダン、ソマリア、コンゴ民主共和国、中央アフリカ共和国及びブルンジでの一貫した不安定性及び深刻な人道的状況を含め、引き続き存在する現下の諸課題及び重大な障害の直接的及び根本的な原因の双方に対処する必要性を認識する。我々は、それゆえに、紛争を予防及び解決し、民主的制度を強化し、人身取引と闘い、非正規移住を管理し、通常兵器の違法な取引と闘い、若者のために雇用を創出し、腐敗をさらし、かつ、対処し、持続可能な開発及び強じん性を促進することを含め、これらの取組におけるアフリカ各国のオーナーシップの重要性を強調しつつ、これらの課題に対処するアフリカ及び地域機関の取組を引き続き支持する。我々は、アフリカ連合ソマリア・ミッション (AMISOM) を引き続き支援し、ソマリアの治安部隊の発展を引き続き支持する。我々はまた、野生動物の違法取引と闘うとの我々のコミットメントを再確認するとともに、状況の緊急性を認識しつつ、国連総会で採択された決議 69/314 への我々の以前のコミットメントを更に再確認する。

ベネズエラ

我々は、ベネズエラ政府に対し、ベネズエラ政府及びその市民が、人々の意思を尊重しつつ、ますます危急の迫るベネズエラの経済的・政治的危機を解決する平和的手段を見いだすため、公正な裁判及び適正手続へのアクセスを提供する基本的権利、民主的プロセス、自由及び法の支配を完全に尊重し、かつ、政府と市民との対話を可能とする状況を作るよう求める。我々は、ベネズエラの行政機関及び国会が、この目的のため、緊急に協働することを求める。

海洋安全保障

我々は、海洋法に関する国際連合条約(UNCLOS)に反映された国際法の諸原則に基づく、ルールを基礎とした海洋秩序の維持、信頼醸成措置により支えられ、法的手段によるものを含む平和的紛争解決及び持続可能な海洋の利用並びに航行及び上空飛行の自由の尊重に対する我々のコミットメントを改めて表明する。我々は、国家が、国際法に基づく主張を行い、及び明確にすること、緊張を高め得る一方的な行動を自制し、自国の主張を通すために力や威圧を用いないこと並びに仲裁を含む法的手続を通じたものを含む平和的な手段による紛争解決を追求することの重要性を再確認する。

我々は、国際及び地域協力を通じて、海上安全及び海洋安全保障、特に海賊との闘いを強化することの重要性を再確認する。

我々は、東シナ海及び南シナ海における状況を懸念し、紛争の平和的管理及び解決の根本的な重要性を強調する。

我々は、海洋安全保障に関する G7 外相声明を支持する。

不拡散・軍縮

我々は、不拡散及び軍縮に関する課題が、我々の最優先事項の一つであることを再確認する。我々は、国際社会の安定を促進する形で、全ての人にとりより安全な世界を追求し、核兵器のない世界に向けた環境を醸成するとコミットメントを再確認する。この文脈で、我々は、「核軍縮及び不拡散に関する G7 外相広島宣言」及び「不拡散及び軍縮に関する G7 声明」を承認する。我々は、とりわけ大量破壊兵器の拡散を防ぎ、これに対抗することに関連する条約、特に核兵器不拡散条約、化学兵器禁止条約及び生物兵器禁止条約の普遍化に引き続きコミットする。

国連改革及び国連平和活動のレビュー

我々は、強化された、より効果的で、かつ、効率的な国際連合を実現することの重要性及び必要性を再確認し、この目的のため、安全保障理事会などの国際連合の改革の継続的関与の重要性に留意する。

我々はまた、国連平和活動及び平和構築活動に関する進行中の改革プロセスを支持し、国連加盟国、国連システム並びに関連する国際及び地域のパートナーによる、これらのプロセスを前進させるための更なる取組を呼びかける。我々は、PKO サミットにおけるプレッジを歓迎し、その適時の履行を強く求める。

人権

我々は、全ての人々の人権及び基本的自由、平和的な多元的共存並びに多様性の尊重の促進及び保護に対する我々の支援にコミットする。我々は、国際人権法及び国際人道法の下での義務の遵守が平和及び安全の礎であることを想起する。我々は、人権及び基本的自由の遵守の普遍

的な尊重の促進における国家と市民社会との間の協力の重要性、人権の擁護者及び他の市民社会の関係者の独立した声の重要性を再確認する。

原子力安全及び核セキュリティ

我々は、原子力安全セキュリティ・グループの報告書を歓迎する。福島第一原子力発電所の事故から5年、我々は、世界中で最高水準の原子力安全を達成し、維持することに対する我々のコミットメントを再確認し、また、原子力計画を有する全ての国及び原子力移転を含む国際的な原子力協力に参与している全てのステークホルダーに対し、強固な安全基準と基盤を促進することを求める。この点に関し、原子力安全条約を含め、原子力安全のための多国間協力の枠組みへの完全な参加は不可欠であり、我々は全てのステークホルダーに対し、積極的な関与及びこれらの枠組みの継続的な強化を求める。我々はまた、ワシントンでの第4回核セキュリティ・サミットの成果を歓迎する。我々は、核物質及び他の放射性物質のセキュリティを引き続き優先する。我々は、世界的な核セキュリティ構造の更なる強化に取り組む。我々はまた、特に閣僚級のIAEA核セキュリティ国際会議において、核セキュリティに関する我々の政治的交流を継続する。

気候変動、エネルギー及び環境

気候変動

我々は、パリでの歴史的な業績を歓迎し、気候変動に対する我々の世界的な取組における継続的なコミットメントのみならず、COP21のモメンタムを維持し、緩和、適応及び資金に関する長期目標を含め、パリ協定の速やかな、かつ、成功裏の実施を確保するとの我々の決意もまた再確認する。この文脈において、我々は、全てのG7諸国を含む、国連気候変動枠組条約(UNFCCC)のほぼ全ての締約国がパリ協定に署名した事実を歓迎する。G7は、引き続き指導的な役割を担い、パリ協定の2016年中の発効という目標に向けて取り組みつつ、同協定の可能な限り早期の批准、受諾又は承認を得るよう必要な措置をとることにコミットするとともに、全ての締約国に対し、同様の対応を求める。

我々は、時間の経過に伴い、野心の向上を促進しつつ、自国が決定する貢献を早期に透明性をもって、かつ、着実に実施することで先導することにコミットする。また、我々は、世界全体の実施状況の5年ごとの定期的な検討に積極的に参加することにコミットする。

我々はまた、世界の平均気温の上昇を、工業化以前の水準と比較して摂氏2度を十分に下回るものに抑えること、気温の上昇を、工業化以前の水準と比較して摂氏1.5度までに制限するための取組を追求すること並びに今世紀後半に温室効果ガスについて発生源による人為的な排出と吸収源による除去との均衡を達成することの重要性に留意しつつ、2020年の期限に十分に先立って今世紀半ばの温室効果ガス低排出型発展のための長期戦略を策定し、通報することにコミットする。

我々は、全ての締約国に対し、主要排出国を含む全ての国によるパリ協定の、効果的な、かつ、

透明性のある実施のための詳細ルールについて合意するために、技術的な作業に建設的に関与することを奨励する。

我々は、他のドナー国と共に、意味のある緩和のための行動及び実施の透明性の文脈において、2020年までに年間1000億米ドルを共同で動員するとの目標の達成に向け、着実に前進しつつあることを認識しつつ、官民双方の資金源からより多くの気候資金を提供し、動員するための我々の取組を継続する。我々は、その他の国に対し、気候資金を提供し、又は引き続き提供し、かつ、動員することによって、開発途上国が緩和及び適応に取り組み、国家の気候計画(NDCs)の実施に際して支援することを奨励する。

我々は、MDBs及び開発金融機関による、より多くの水準の気候資金を提供するとのコミットメントを歓迎する。我々は、MDBs及び開発金融機関に対し、開発戦略において気候変動行動を主流化し、また、この目標を達成するために各国主導のプログラムを支援すべく自らのバランス・シート並びに民間資金及び他のパートナーを動員する能力を最大限可能な範囲で用いることを求める。この目標の文脈において、我々はまた、最も弱い開発途上国において増大するニーズへの対応に際して、適応計画及び行動を支援するために資金を動員し、並びに適切な技術移転及び能力構築を促進するとの我々の継続的なコミットメントを強調する。

我々は、これまでの進展を歓迎し、気候リスク保険拡充のイニシアティブ、気候リスクに関する早期警報システム(CREWS)やアフリカ再生可能エネルギー・イニシアティブのような、気候リスク保険、早期警戒システム及びアフリカにおける再生可能エネルギーに関する関連のイニシアティブを更に促進する用意がある。我々はさらに、リマ・パリ行動アジェンダを通じた、民間部門、国家以下の主体及びその他の者の関与を歓迎する。我々は、我々が共有する気候変動の課題に対して世界全体が効果的、かつ、長期的に対応していくにあたって、イノベーションが重要であることを認識し、ミッション・イノベーションにおいて指導的な役割を担う考えである。我々はまた、これに関する民間部門のリーダーシップを歓迎する。我々は、国内政策及びカーボン・プライシング(炭素の価格付け)などの手段を含めた、排出削減活動へのインセンティブの提供の重要な役割を認識する。我々は、炭素市場プラットフォームの設立及び東京で開催予定のその最初の戦略的対話を歓迎する。

我々は、国際航空分野における効果的な取組の喫緊の必要性を認識し、建設的な対話への関与を通じ、第39回国際民間航空機関(ICAO)総会で決定に至ることにより、2020年からの炭素中立な成長を可能とするため、市場メカニズムに基づく排出削減枠組(GMBM)の採択のために協働するとの我々の強いコミットメントを表明する。我々は世界の全ての首脳に対し、本年後半に決定への支持に加わることを奨励する。

我々はまた、短期的な温暖化速度を遅らせることを助けるための、ブラック・カーボン、ハイドロフルオロカーボン(HFCs)及びメタンを含む、寿命の短い気候汚染物質の排出の緩和の重要性を認

識する。特に、我々は、我々のメタン排出を抑制することを決意し、また、国内措置の採用の重要性を更に認識する。

我々は、モントリオール議定書の下で HFCs 対策に向けた作業を行うとの同議定書締約国によるドバイでの決定を歓迎するとともに、HFCs の段階的削減に係る野心的な同議定書改正の 2016 年中の採択を支持し、その実施に向け、改正が採択された後には、同議定書多数国間基金を通じて追加的支援を提供する考えである。

我々は、エネルギーの生産及び利用が世界の温室効果ガスの排出の約 3 分の 2 を占めるという事実を踏まえ、エネルギー部門が気候変動に対処する上での重要な役割を果たさなければならないことを認識する。我々は、非効率な化石燃料補助金の撤廃に引き続きコミットしており、全ての国に対し、2025 年までにそのようにすることを奨励する。

エネルギー

エネルギーは、世界の経済成長を支える上で極めて重要な役割を果たす。この点を念頭に、我々は、現在のエネルギー価格水準によって増大する不確実性はあるものの、世界経済の将来の成長に対するリスクを緩和するため、エネルギー投資を円滑にする上での主導的な役割を果たすことにコミットし、かつ、関連するステークホルダーに対し、エネルギー部門、特に質の高いエネルギー・インフラ及び上流開発への投資を持続させることを奨励する。我々は、エネルギー・システムがパリ協定の実施において果たさなければならない重要な役割を認識する。この点に関し、我々は、世界経済の脱炭素化を可能とするエネルギー・システムへの移行に向けた我々の作業を加速することを決意する。我々は、ミッション・イノベーションに対する我々の強い支持を改めて表明し、温室効果ガスを削減しつつ経済成長を確保するため、エネルギー技術の革新を支え、かつ、クリーンでエネルギー効率の高い製品、設備及び建物を奨励する更なる投資にコミットする。我々は、エネルギー効率及び水力発電を含む再生可能エネルギー並びにその他の国産資源の活用に関する強化された取組を支持する。

我々は、2014 年にブリュッセルで、また、2015 年にエルマウ城で決定された、エネルギー安全保障の原則及び行動の実施を継続するとともに、「グローバル成長を支えるエネルギー安全保障のための北九州イニシアティブ」を支持し、国際エネルギー機関(IEA)を含むパートナーとの連携で達成された進展を歓迎する。我々は、日本の液化天然ガス(LNG)市場戦略、EU の LNG 及びガス貯蔵戦略、IEA による天然ガス安全保障に関する計画を含む、パイプラインガス及び液化天然ガス(LNG)の双方の天然ガスについてのエネルギー安全保障を強化するための具体的行動を歓迎する。我々は、仕向地条項の緩和、価格指標の確立及び開かれたアクセスを有する十分かつ強じんなインフラの構築等により、更なる透明性及び柔軟性がある、良く機能する天然ガス市場を強化し、また、世界レベルでの LNG サプライ・チェーンの戦略的な視点を促進する継続的な取組に対する我々のコミットメントを再確認する。我々はまた、我々のエネルギー部門におけるサイバーセキュリティの向上及び電力安定供給の分野における我々の協力の強化に関する継続的な作業にコミットする。

ロシア連邦とウクライナとの間の継続中の危機に関し、我々は、エネルギーが政治的威圧の手段や安全保障上の脅威として用いられるべきでないことを改めて表明する。我々は、ウクライナにおいてエネルギー政策の重要な改革が進行中であることを歓迎し、ウクライナに対し、エネルギー部門の更に野心的な改革を強く要請する。我々はまた、ウクライナの国営ガス配送システム事業者及び関連する国際的事業者との間の協力強化を求める。

我々は、福島第一原子力発電所における廃炉及び汚染水対策の着実な進展、並びに福島状況に関する国際社会の正確な理解の形成に向けて、国際社会と緊密なコミュニケーションの下でオープンかつ透明性をもって日本の取組が進められていることを歓迎する。原子力の利用を選択する国にあっては、原子力は、将来の温室効果ガス排出削減に大いに貢献し、ベースロード電源として機能する。これらの国においては、原子力政策に対する社会的理解を高めるために、科学的知見に基づく対話と透明性の向上もまた極めて重要である。我々は、原子力の利用を選択する全ての国に対し、独立した効果的な規制当局を含め、安全性、セキュリティ及び不拡散において世界最高レベルの水準を確保し、その専門的な知見や経験を交換することを求める。我々は、国際原子力機関(IAEA)、OECD 原子力機関(NEA)及び世界原子力発電事業者協会(WANO)などの国際機関を通じて相互協力と情報交換が行われることを歓迎する。

資源効率性及び 3R

資源の持続可能な管理及び効率的な利用の達成は、2030 アジェンダにおいて取り上げられており、また、環境、気候及び惑星の保護のために不可欠である。持続可能な物質管理及び循環型社会の重要性に留意し、我々は、「富山物質循環フレームワーク」を支持する。この新たな枠組みは、資源効率性及び 3R(リデュース、リユース、リサイクル)に関する我々の取組を深めるための共通のビジョン及び将来の行動のための指針を提供する。我々は、引き続き「資源効率性のための G7 アライアンス」を通じて協力する。我々は、また、イノベーション、競争力、経済成長及び雇用創出を促進することも目標として、資源効率性を改善するために企業及びその他のステークホルダーと共に取り組む。我々は、全ての国に対し、我々のこれらの取組に参加することを奨励する。

我々は、資源効率性及び 3R に関する我々の取組が、陸域を発生源とする海洋ごみ、特にプラスチックの発生抑制及び削減に寄与することも認識しつつ、海洋ごみに対処するとの我々のコミットメントを再確認する。さらに、我々は、科学的知見に基づく海洋資源の管理、保全及び持続可能な利用のため、国際的な海洋の観測及び評価を強化するための科学的取組を支持する。

開発

持続可能な開発のための 2030 アジェンダ

2015 年は、2030 アジェンダの歴史的な採択、パリ協定、アディスアベバ行動目標と共に、全ての国における貧困削減及び持続可能な開発への我々のアプローチにおける新たな時代の幕開けとなった。このアジェンダは、持続可能な開発の、環境、社会及び経済という三つの側面を均衡ある

形で統合し、全ての国に普遍的に適用される。2030 年アジェンダは、2030 年までに貧困を撲滅し、世界を持続可能なものに変革するという国際社会の揺るぎない決意を反映し、誰一人置き去りにせず、より平和で、安定した、包括的で、かつ、繁栄する国際社会のための基礎を築く。この目的のため、我々は、平和と安全、開発及び人権の尊重が相互に関連し合い、かつ、補強し合うものであることをよく認識しつつ、17 の SDGs の、統合された不可分の性質を強調するとともに、2030 アジェンダの実施を、人間中心の、かつ、地球に配慮した形で、国内的及び国際的に進めることにコミットする。我々は、全ての国々及びステークホルダーに対し、マルチステークホルダー・アプローチを確保するため、再活性化され、かつ、強化されたグローバル・パートナーシップの下で、この共同の取組に携わることを強く求める。

我々は、持続可能な経済への世界的な移行に実質的に貢献するため、野心的な国内の行動をとることを決意する。我々は、国内の行動に加え、せい弱なグループにおける個人の尊厳及び人間の安全保障の促進を特に強調しつつ、2030 アジェンダを実施するための開発途上国の取組を支援することにコミットする。我々の共同の対応における重要な要素は、全ての女性と女児のエンパワーメントとジェンダー平等、国際保健、質の高いインフラ投資、特に後発開発途上国(LDCs)の若年者のための支援、平和及び安全に対する脅威への対応の活性化、強制移動及び現代の奴隷制度への対処、産業人材育成、包摂的なイノベーション、食料安全保障と栄養、CONNEX イニシアティブ、世界津波の日を通じての活動を含む災害リスクの低減への支援、気候変動の緩和及び適応への支援、エネルギー安全保障及び持続可能なエネルギー、海洋ゴミに対処することを含む資源効率性及び 3R 並びに持続可能な森林経営及び違法伐採の根絶を含む。我々は、また、世界人道サミットを歓迎する。

我々は、全てのステークホルダーと連携しつつ、2030 アジェンダの不可欠な部分である第 3 回開発資金国際会議のアディスアベバ行動目標の適時の実施に対する我々の強いコミットメントを確認する。我々は、政府開発援助(ODA)及びその他政府資金(OOF)が、開発のためのその他の資金源の触媒として、また、それを補完するものとして果たす重要な役割もまた再確認すると同時に、優先事項の中でも、国内資金源の動員並びに国内及び外部の民間投資を刺激することが可能な好ましい環境の創出が第一義的に重要であることを強調する。この観点から、我々は、持続可能な開発を前進させるための革新的なパートナーシップ及び資金の仕組みを引き続き追求する決意である。我々はまた、国民総所得(GNI)に対する ODA 比 0.7% 目標などの我々のそれぞれの ODA コミットメントや、後発開発途上国に対する ODA の減少傾向を逆転させ、かつ、ODA をそのニーズが最も大きい国に一層振り向けることに対するコミットメントを改めて表明する。我々は、安全保障、開発、気候変動及びジェンダー間の平等が相互に依存しており、また、繁栄し、平和なアフリカを確保するための手段となっていることを認識しつつ、アフリカにおける課題に対処することが、SDGs の実現のための中心となることを確認する。このため、我々は、アジェンダ 2063 及びその最初の 10 年間の実施計画に記載されたようなアフリカの開発願望の促進を、アフリカ連合及びそのメンバーと協力して支援する用意がある。我々は、アフリカ開発会議(TICAD)、イタリア・アフリカ閣僚会議、EU・アフリカ・パートナーシップ及び米・アフリカ・リーダーズ・サミットを含む我々の二国

間及び多国間のアフリカ各国との連携によることも含め、そのような支援を行う。我々は、2016年8月27日及び28日にケニア・ナイロビで、初のアフリカ開催となる TICAD VI が、世界の理念をアフリカのための行動に移す重要な節目となることを確認する。

食料安全保障及び栄養

飢餓及び栄養不良を終わらせることは、2030 アジェンダの基本的な要素である。SDGs を達成するためのより広範な取組の一部として、我々は、2030年までに開発途上国における5億人を飢餓及び栄養不良から救い出すという我々の目的の達成に向け、関連するパートナー及びステークホルダーと連携し、具体的行動に共同で携わる。

「食料安全保障及び栄養に関する広範な G7 開発アプローチ」を基礎として、我々は、(i)女性のエンパワーメント、(ii)農村から都市にわたって人々が直面する多様な食料安全保障上の課題を認識する人間中心のアプローチを通じた栄養の改善、(iii)農業及びフード・システムにおける持続可能性及び強じんさの確保といった優先分野における共同の行動を概括する「食料安全保障と栄養に関する G7 行動ビジョン」を支持する。我々は、関連する国際的なイニシアティブとの相乗効果を向上させることにコミットする。

我々は、SDGs 及び気候変動に関するパリ協定に沿った、世界の食料安全保障及び栄養に関するグッド・プラクティスの発展を支持する。これは、農業の可能性を拓げる取組、農村コミュニティの活性化並びに農業及びフード・システムにおける生産量、生産性、責任ある投資、貿易及び持続可能性の向上を含み得る。

我々は、日本で開催される食料安全保障及び栄養に関する国際シンポジウム並びに成長のための栄養サミットを歓迎する。

複雑な契約交渉の支援強化(CONNEX)

我々は、当初採取部門に焦点を当て、複雑な商業契約交渉のための分野横断的かつ具体的な専門性を開発途上にあるパートナー国に対して提供するため、CONNEX イニシアティブの下での我々の取組を強化することにコミットする。現状の一次産品価格の下落は、開発途上国が自国の天然資源から公正な収入を確保することを支援するためには良い契約を交渉することが重要であることを明確に示している。我々は、開発途上国における国内資源の動員を促進し、SDGs の達成に貢献するよう設計された「持続可能な開発に向けた CONNEX 基本指針」を支持する。我々は、開発途上国において能力を構築し、また、採取部門のガバナンス及び透明性を向上するため、CONNEX を既存のイニシアティブに合致させることにコミットする。更なる進展は、OECD と共に設立されたネゴシエーション・サポート・フォーラム及び東京で開催される能力構築と透明性に関する CONNEX 国際会議を含む、ステークホルダーとの緊密なパートナーシップを通じて追求する。

G7 説明責任

我々は、我々が行った約束について、オープンな、かつ、透明性のある方法で、説明責任を持つことに引き続きコミットする。我々は、我々の開発関連コミットメントに関する 3 回目の包括的な報告書である「伊勢志摩進捗報告書」を歓迎する。この報告書は、2030 アジェンダの実施に向けた G7 の重要な貢献を強調する。前向きな成果は、保健、食料安全保障、教育及びガバナンスなどの分野で見られる。我々は、我々のコミットメントに対する進展を引き続き監視する。

結語

我々は、イタリア議長の下、2017 年に会合することを楽しみにしている。

(了)

G7伊勢志摩首脳宣言(骨子)

1 前文

- 2016年5月26日及び27日に伊勢志摩でG7首脳会合を開催。世界的な成長は、低成長のリスクが残る中、依然として緩やかであり、かつ、潜在成長力を下回っている。暴力的過激主義、テロ攻撃その他の課題は、既存のルールに基づく国際秩序並びに全人類に共通する価値及び原則への深刻な脅威。G7は、国際的な取組を主導する特別な責任を有する。また、自由、民主主義、法の支配及び人権の尊重を含む共通の価値及び原則によって導かれるグループとして引き続き結束。世界の平和、安全及び繁栄を確保するための主要な課題の解決に向けた道筋を我々の行動を通じて明示。

2 G7伊勢志摩経済イニシアティブ

- 強固で、持続可能な、かつ、均衡ある成長に貢献するため、世界経済、移民及び難民、貿易、インフラ、保健、女性、サイバー、腐敗対策、気候、エネルギーの分野でのコミットメントを発展。

3 世界経済

(1) 世界経済

<世界経済の状況>

- 世界経済の回復は継続しているが、成長は引き続き緩やかでばらつきがある。また、前回の会合以降、世界経済の見通しに対する下方リスクが高まってきている。我々は、新たな危機に陥ることを回避するため、経済の強靭性を強化してきているところ、この目的のため適時に全ての政策対応を行うことにより現在の経済状況に対応するための努力を強化することにコミット。

<政策的対応>

- 各国の状況に配慮しつつ、強固で、持続可能な、かつ、均衡ある成長経路を迅速に達成するため、我々の経済政策による対応を協力して強化すること及びより強力な、かつ、均衡ある政策の組合せを用いることにコミット。
- 債務を持続可能な道筋に乗せていくための取組を継続しつつ、世界的な需要を強化し、供給側の制約に対処するため、全ての政策手段－金融、財政及び構造政策－を個別にまた総合的に用いることにコミット。
- 3本の矢のアプローチ、すなわち相互補完的な財政、金融及び構造政策の重要な役割を再確認。
- 財政戦略を機動的に実施し、及び構造政策を果敢に進めることに関し、G7が協力して取組を強化することの重要性について合意。
- 過剰な生産能力は、世界的な影響を有する構造的な課題。
- 為替レートの過度な変動や無秩序な動きは、経済及び金融の安定に対して悪影響を与えうる。

(2) 金融規制改革

- G20金融セクター改革の課題の適時、完全かつ統合的な実施を支持。

(3) 税と透明性

- BEPSパッケージの着実な、一貫性のある足並みのそろった実施は極めて重要。全ての関連・関心のある国・地域がBEPSパッケージ実施にコミットし、新たな包摂的な枠組みに参加することを奨励する。
- 実質的所有者情報の透明性の改善は、腐敗、脱税、テロ資金供与及び資金洗浄防止のために極めて重要。透明性に関する国際基準の全ての国・地域による実施を求める。

(4) 貿易

- 貿易及び投資は、成長、繁栄、持続可能な開発達成の主要な原動力。あらゆる形態の保護主義と闘うとのコミットメントを再確認。
- 過剰生産能力が経済、貿易及び労働者に与える負の影響を認識。市場機能の向上及び調整を通じてこの問題に迅速に対応することにコミット。
- 環境物品に関する協定(EGA)の本年9月のG20杭州サミットまでの妥結を目指す。
- 各TPP署名国に対し、国内手続を完了することを奨励。2016年のできる限り早期に日EU・EPAの大筋合意に達することに向けた、日本とEUの強固なコミットメントを歓迎。

(5) 質の高いインフラ

- 質の高いインフラ投資の推進のため、「質の高いインフラ投資の推進のためのG7伊勢志摩原則」に沿ったインフラ投資を実施するよう努力。ステークホルダーにも同原則に沿った投資及び支援を奨励。

(6) 保健

- 「国際保健のためのG7伊勢志摩ビジョン」に基づき行動することにコミット。公衆衛生上の緊急事態への対応強化のための国際保健の枠組み強化。
- 強固な保健システム及び危機へのより良い備えを有したUHC達成に向けた取組を促進。このため途上国の保健システム強化支援や母子保健からアクティブ・エイジング(活動的な高齢化)までライフ・コースを通じた保健サービスを確保。
- 薬剤耐性(AMR)への対応強化。企業にインセンティブを与える取組等を提唱。

(7) 女性

- 質の高い教育や訓練等を通じた女性の能力開花を支援。そのための「G7行動指針」を採択。「女性の理系キャリア促進のためのG7イニシアティブ(WINDS)」を立ち上げ。
- 女性に対するあらゆる形態の暴力への対応強化にコミット。国連決議に基づく「国別行動計画」の策定を支援するとともに平和・安全保障分野における女性の活躍を推進。

(8) サイバー

- 開かれた、相互運用可能な、信頼できる、かつ、安全なサイバー空間を支持。「サイバーに関するG7の原則と行動」に合意。サイバー空間の安全及び安定促進のためG7作業部会を立ち上げ。

(9) 腐敗対策

- 腐敗と戦う集団的及び個別的行動は、経済成長、持続可能な開発並びに平和及び安全の維持にとり決定的に重要。「腐敗と戦うためのG7の行動」に合意。

4 政治外交

(1) テロ・暴力的過激主義

- テロ対策に関し、国際社会において主導的役割を発揮。寛容の精神や対話を促進する。テロ対策における各国の能力構築を支援。「G7テロ・暴力的過激主義対策行動計画」に合意。

(2) 難民

- 難民の人道上的影響及びその根本原因に対処することが最優先事項。影響を受けた地域の社会経済発展を後押し。難民ホスト国を支援。移民の密入国や人身取引等との闘いを継続。

(3) 中東

- ジュネーブ合意に基づくシリアの政権移行を呼びかけ。安定・復興への支援にコミット。イラクの改革と国民和解を支援。G7は、36億ドル以上の二国間の支援及び他の金融支援を結集。ISILから解放された地域の安定化支援を呼びかけ。イランの核合意の履行を歓迎。イランに対し、地域における建設的な役割を呼びかけ。アフガニスタン、リビア及びイエメン等の平和と安定に向けた取組等にコミット。

(4) 北朝鮮

- 北朝鮮による1月の核実験及び弾道ミサイル技術を用いた発射を最も強い表現で非難。北朝鮮に対し、安保理決議及び六者会合共同声明を遵守し、今後核実験、発射その他の挑発行動を行わないことを要求。拉致問題を含む国際社会の懸念に直ちに対応するよう強く求める。

(5) ウクライナ・ロシア

- ロシアのクリミア併合を非難。ミンスク合意の完全な履行を強く支持。露のミンスク合意履行と対露制裁は明確に関連。露との対話の重要性を認識。ウクライナの改革を支持。

(6) 海洋安全保障

- 国際法に基づいて主張を行うこと、力や威圧を用いないこと、紛争解決には、仲裁手続を含む司法手続によるものを含む平和的手段を追求すべきことの重要性を再確認。東シナ海・南シナ海の状況を懸念し、「海洋安全保障に関するG7外相声明」を支持。

(7) 軍縮・不拡散

- 核兵器のない世界に向けた環境を醸成するとのコミットメントを再確認。「広島宣言」を支持。

(8) 国連安保理改革

- 国連を強化し、より効果的・効率的にすることの重要性・必要性を再確認し、安保理改革を含む国連改革の重要性に留意。

5 気候変動・エネルギー・環境

(1) 気候変動

- G7は、引き続き指導的な役割を担い、パリ協定の2016年中の発効という目標に向けて取り組みつつ、同協定の可能な限り早期の締結に必要な措置をとることにコミット。全ての締約国に、同様の対応を求める。
- 主要排出国を含む全ての国によるパリ協定の、効果的な、かつ、透明性のある実施のための詳細ルールについて合意するため建設的に関与することを奨励。官民双方からより多くの気候基金を提供し、動員するための努力を継続するとともに、G7以外の国にも資金の提供を奨励。

(2) エネルギー

- 質の高いインフラ及び上流開発への投資持続を奨励。クリーンでエネルギー効率の高い製品、設備等への投資にコミット。透明性及び柔軟性がある、良く機能する天然ガス市場を強化する取組を継続。
- 福島原発の廃炉及び汚染水対策に関する着実な進展を歓迎。原子力の利用に関し、安全性、セキュリティ及び不拡散において世界最高レベルの水準を確保し、知見や経験を共有することを求める。

(3) 資源効率・3R

- 「富山物質循環フレームワーク」を支持。海洋ゴミ対処のコミットメントを再確認。

6 開発

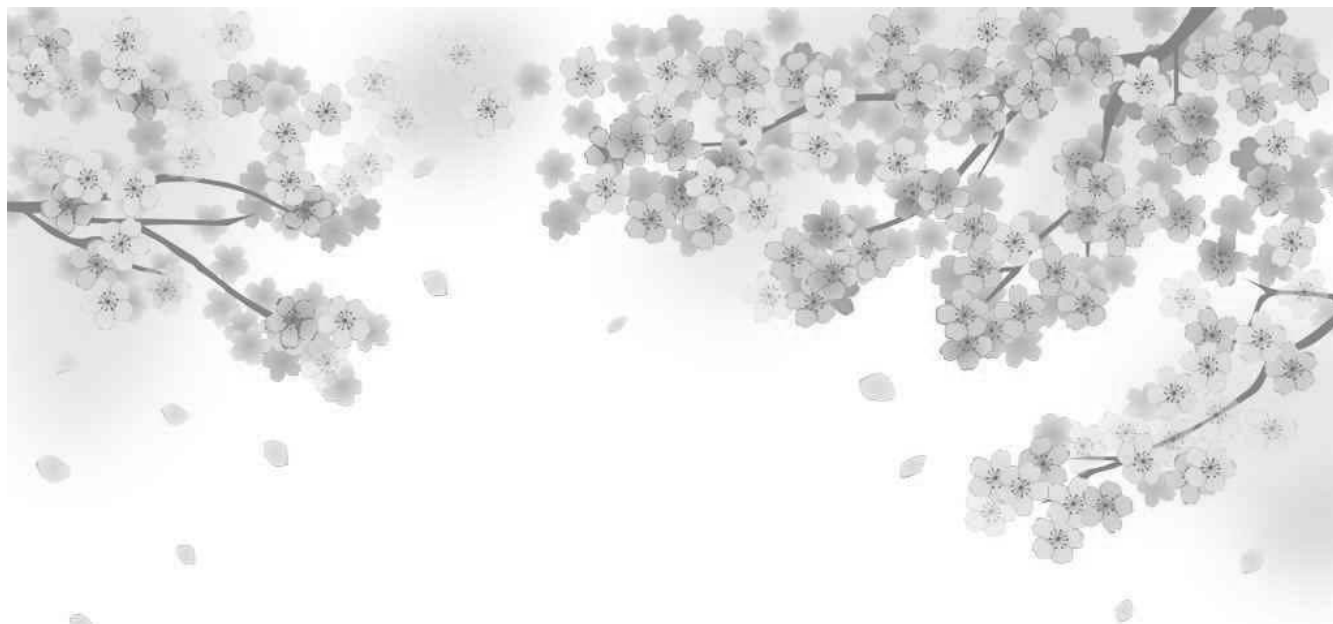
- 2030アジェンダの採択は、貧困削減及び持続可能な開発へのアプローチにおける新時代の幕開け。2030アジェンダの実施を、人間中心の、かつ、地球に配慮した形で、国内的及び国際的に進めることにコミット。
- アフリカにおける課題に対処することが、SDGsの実現のための中心となることを確認。初のアフリカ開催となるTICAD VIが、世界の理念をアフリカのための行動に移す重要な節目となることを確認。

7 結語

イタリア議長の下、2017年に会合することを楽しみにしている。

(了)

資料24



桑名ジュニア・コミュニケ
(仮訳)

桑名市 平成 28 年 4 月 26 日

序文

「2016 ジュニア・サミット in 三重」は、G7 伊勢志摩サミットに関連するイベントとして、世界の青少年間の国際的な対話の促進を目的とし、三重県桑名市に於いて4月22日から28日まで開催されました。G7 各国から選出された15～18才の男女各2名、総勢28名が、G7 伊勢志摩サミットの議題とも関連する「次世代につなぐ地球～環境と持続可能な社会」とのテーマで、2つのサブテーマ「環境保全と経済成長の両立」「より良い社会とより良い世界に向けて」に沿った議論を活発に行いました。ここに示した重要な諸課題が今後も議論されていくことを希望し、ここに参加者の議論の結果を『桑名ジュニア・コミュニケ』としてまとめました。

ジュニア・サミット開催の1週間前にマグニチュード7.0の地震が、日本の南西部、九州地方を襲いました。ジュニア・サミットの参加者は、犠牲者の方々に対し、心からのお見舞いを申し上げます。

気候変動と脱炭素化

私たちの美しい地球を守る

経済格差と包括的成長

包括的成長への障壁を取り除く

人材育成

全ての子どもたちに初等・中等教育を

ジェンダーによる格差の克服

職場と学校におけるジェンダーによる格差を克服するために

気候変動と脱炭素化

私たちの美しい地球を守る

筆者: Kenji Nicoleau (FR), Tuqqaasi Nuqingaq (CN), Rikuoh Kamihoriuchi (JP), Michele Valentini (IT), Daniel Tan (US), Svea Venus (GR), Chloe Hedman (UK)

導入

科学により今日明らかになっていること:人類は、大規模な化石燃料の使用によって地球温暖化を進行させ続けています。史上最も暑いとされた年の15年のうち14年分は、今世紀に入ってから記録されました。気候変動に関する政府間パネル (IPCC)は、もし各国が今行動を起こさないなら、農業、水資源、エコシステムや人類の健康が破滅的な結果になることを警告しています。温暖化を摂氏 2 度未満に抑えるためには (世界的な“炭素収支”によると)、今世紀末までに排出量を正味ゼロにしないとはいけません。

気候変動による壊滅的な結果と戦うためには、G7 各国はより強力なカーボン・プライシングの仕組みを実行し、再生可能エネルギー技術への投資を増やし、都市の緑化インフラ開発への投資を始める必要があります。

問題提起：気候変動の現状に関する暗澹たる事実

アル・ゴア氏は、*The Case for Optimism on Climate Change* と題された有名な TED トークにおいて、「国際社会が燃焼している年間エネルギーの 85%は、汚れた炭素ベース燃料に頼っている」と述べています。急速に進む気候変動に関する以下の証拠は非常に説得力をもち、反論できるものではありません。

- 過去 100 年において 17 センチメートル**海面上昇が進みました**。
- 海面から 700 メートルまでの海水温度が過去 50 年間で華氏 0.302 度**上昇しました**。
- 2002 年から 2006 年の間、年間 150 から 250 立法キロメートルの**氷床が減少し**、一方、2002 年から 2005 年の間、南極では約 152 立法キロメートルの氷床が減少しました。
- **極端な事象**：熱風、沿岸部における洪水、極端な降雨、甚大な干ばつの頻度とその深刻さが急激に増加しました。

- **海水の酸化**：海水は 30%酸化し、海洋の上層により吸収された二酸化炭素量は年間 2 億トンと増加しています。

これらの人為起源の気候変動は、先進国及び開発途上国の食糧安全保障、生物多様性、健康と経済に対して、マイナスの影響を及ぼします。

解決策 1:炭素税及び排出量取引制度を通じたカーボン・プライシング

仮に再生可能エネルギーの技術が大きく発展したとしても、気候に悪影響を及ぼしている化石燃料から環境に優しいエネルギー技術への転換には、環境保護策と同時に経済成長との均衡を保つことのできるような段階的な行動計画を策定することを要します。炭素税の増加は、エネルギーへの投資に変革をもたらす、消費パターンを変え、さらには温暖化を加速させている炭素排出を削減することにつながります。

したがって、私たちは、G7 各国に炭素税及び排出量取引制度を各国において導入することを提言します。これらの施策の導入の目的は以下のとおりです。

- **代替案の推奨**：カーボン・プライシングにより、低炭素あるいはゼロ炭素技術が魅力的な代替投資先になり、それが安価なゼロ炭素エネルギー源の利用につながると同時に、化石燃料を効率よく利用できるようになります。
- **新規雇用とイノベーションを促進する**：カーボン・プライシングによる収益は、低所得者のための減税や生活費削減につながるのみならず、所得税の減税と、新規雇用をもたらす投資を促します。

解決策 2: 再生可能エネルギー発電

温室効果ガス排出削減のために再生可能エネルギーの果たす役割を考慮すると、展望が開けます。2015 年、再生可能エネルギーに対する世界の投資額は最高額を達成しました。また、2015 年に導入されたすべての発電技術の 53.6%の発電能力（ギガワット）は再生可能エネルギーによるものでした。発電能力の過半数を超えたのは初めてのことであり、同年における二酸化炭素 1.5 ギガトン分の排出を回避することに寄与しました。

太陽光発電と風力発電への追加投資は、G7 各国及び開発途上国にとって、再生可能エネルギーという代替手段のうち最も有効な二つといえます。集光型太陽光発電及びに光電変換

型太陽光発電は大気・水質を汚染せず、温室効果ガスを一切発生させません。太陽光エネルギーは、予想可能であり、稼働率が高い場合は最も効率がよい選択肢です。また、風力タービンは大気を汚染せず、冷却用の冷水を必要とせず、電気料金を低額に保ち、化石燃料が影響を受ける価格変動から消費者を守ります。一方、風力及び太陽光エネルギーはエネルギー貯蔵におけるイノベーションが不足しているため、私たちは、エネルギーの貯蔵及び供給網の整備への投資を推奨します。

解決策 3: 都市部のインフラ開発を通じた気候変動への適応と緩和

政府は、年間のエネルギー消費需要を満たすよう、再生可能エネルギー源から十分な発電を行う技術を備えたゼロ・エネルギー建築を推進すべきです。G7 各国はカーボン・プライシング戦略から得られた収益を活用し、以下を達成すべきです。

- **LED 電球を公的インフラに設置する:** 例えば学校や病院、オフィス等のエネルギー消費量を削減し、エネルギー効率を上げるために、これらに LED 電球を設置することができます。
- **エネルギー効率の高いデザインの住宅及び公的な建物の建築:** 熱効率や照明の効率を上げ、高いエネルギー効率のメリットを最大限享受する住居デザインの標準化を進めます。
- **アーバン・フォレスト:** 都市部に森林を育てるための場所を作り、大気汚染やヒート・アイランド現象に対処し、水質管理やエネルギーの利用を改善します。

これらから生じる環境上の相乗作用は、複合的な機能を有する、包括的な環境インフラの実現を推進し、気候変動に適応し緩和することができます。

結論

気候変動は、現代のグローバルな課題の中の最も深刻なもののひとつです。何十年にも亘る開発の進展を脅かし、生命や暮らし、そして経済成長を危険にさらします。二酸化炭素排出の大幅削減に合意した 2015 年 12 月のパリでの第 21 回気候変動枠組条約締約国会議（COP21）は大きな前進であったものの、依然として十分とは言えません。日本は、より気候変動対策に強力なリーダーシップをとることができます。なぜなら、2015 年 7 月 17 日、日本は約束草案（Intended Nationally Determined Contribution, INDC）を提出し、その中で、2030 年までに 2013 年の排出レベルから 26%の排出量を削減する見通

しを示しました。次世代のために、このようなコミットメントは、他国を革新的かつ持続可能なテクノロジーに注目させ、気候変動に対峙していく上でより強いリーダーシップを発揮していくことを促すものです。

経済格差と包括的成長

包括的成長への障壁を取り除く

筆者: Esmé Archer-Roussel (CN), Carole Gautier (FR), Jon-Luca Klockow (GR),
Silvia Race (IT), Harui Fujiyama (JP), Thomas Williams (UK), Omar Saracevic (US)

導入

G7 各国はこれまで世界における貧困削減に大きく貢献してきました。世界経済の成長を促進させる貿易自由化や民営化等の政策により、多くの開発途上国は比較的速く成長してきたのです。一方で、富は一握りの人に集中する傾向がでてきています。現在、世界の総収入の42%は最も裕福な10%の人々に集中しており、最も貧しい10%の人々は世界の総収入の1%しか得られていません。中流層の給与は停滞し、少数が報酬の多くを手に入れ、その結果、政治家に対する不信や、有権者の無関心、過剰なナショナリズムへの傾倒、人種や階級、民族間の緊張も高まりました。格差を減少させるためには、G7 各国はマクロ経済政策の中で、包括的な経済成長の戦略を推進し、世界の先進国及び開発途上国に対してリーダーシップを発揮していかなければなりません。ここに、私たちは、短期的にはG7 各国の利益にならないかもしれませんが、中長期的に持続可能で公平なグローバル社会を支え、結果的に先進国にも投資利益がもたらされるような解決策を提案します。

問題提起 1 : 先進国と開発途上国の資本格差への対応

開発途上国においては、十分な報酬を伴い安全な労働環境が整備されている仕事を得る機会が限られています。そのため、高い報酬を求めて豊かな国に流れる未熟な労働力としての労働者の移住が続く傾向があります。私たちは、(反対に) 先進国から開発途上国への労働力の移転の重要性に着目し、各国が、開発目標の一つとして、今後、労働者の自由な行き来を可能にすることを期待します。同時に、開発途上国の経済がより自立し、自国のでの就労を労働者にとってより魅力的な選択肢とするよう、G7 各国は支援するための早急な行動をとるべきです。具体的には、質の高いインフラ(交通網や電力へのアクセス等)及び医療衛生状況改善等への取組を意味します。私たちは、政府に対し、以下に述べる提言によって、開発途上国の投資リスクに躊躇するG7 各国企業にインセンティブを与え、情報やベストプラクティスの共有を奨励することを求めます。

解決策 1

1. 先進国から開発途上国への技術移転(クリーンエネルギー、製薬、モバイル金融技術、輸送及び配送等)を促進するため、税控除やその他のインセンティブを外国に投資しようとする企業に付与します。
2. 開発途上国の人材による革新的技術の開発、商業科を可能にする地元・地域レベルでの研究開発及びイノベーショングループへの支援を行います。このグループには、工場や機器等にメンテナンスやサポートを提供できる海外からの専門化により訓練を受けた労働者も含まれます。
3. 先進国から開発途上国に対する民間・公的資金の提供(マイクロクレジットなど)及び新規事業立ち上げに係る国内の規制緩和を通じて起業を奨励します。
4. 開発途上国の生産性を高めるため、先進国企業のベストプラクティスなどの必要な知識を開発途上国内の労働者と共有します(例: 労務上の健康や特定の技術に関する知識)。

問題提起 2 : 汚職と租税回避

汚職と租税回避は、先進国と新興国の双方に様々な形で影響を与えます。まず、富の損失が挙げられます。世界の GDP の 5%以上が汚職により失われており、そして約 8%は租税回避地に流出しています。また、2001 年から 2010 年の間、開発途上国は違法取引により 5.9 兆米ドルを失いました。超富裕層の租税回避による隠された富の埋め合わせは、追加税や世代間債務などを通じて、先進国各国の平均的な納税者の負担となります。

二つ目の影響は、政府への信頼を失うことです。1 兆米ドルが賄賂という形で失われた場合、市民の政府への見方は厳しくなり、包括的成長の実現に必要な社会政策への支持がさらに国民から得にくくなります。三つ目の影響としては、汚職と租税回避は潜在的な投資家による開発途上国への外国直接投資(FDI)を躊躇させ、これにより資本金格差が広がり、これらの国における起業イニシアティブを減退させます。

解決策 2

私たちは、G7 各国が汚職対策と租税回避対策においてリーダーシップを発揮することを提案します。

1. 起業プロセスの簡素化を行い、行政官と一般市民との連絡窓口をワンストップモデルとします(つまり、インターネット等を通じた包括的なサービスを利用でき、各関係組織へそれぞれ連絡する必要がないようにします)。

-
2. 安全かつシンプルで、費用対効果と透明性の高い国家間及び国内の送金方法を策定します。これにより、全ての人々（と企業）による公平で透明性の高い納税を実現することができます。
 3. 汚職が発生しうる仕事に従事する行政官に対しては、公正な賃金を提供し、誘惑に乗らないように支援します。
 4. 企業の租税回避を防ぐため、統一的な租税ならびに経済的な国際規制の枠組みを設定します。

結論

持続可能なグローバル社会をつくるため、G7 各国の指導者は上述の提言を検討してください。開発途上国とともに、資本金格差を減らし、汚職撲滅及び租税回避に努めることにより、開発途上国は成長に必要な更なる投資を得やすくなり、諸国間の富の格差を減らすことが可能となります。開発途上国の消費者需要が先進国へと広がるにつれ、先進国の企業は開発途上国へと投資をしやすくなり、すべての国々の国民が利益を得ることができます。

人材育成

全ての子どもたちに初等・中等教育を

筆者: Patrick Stillman (UK), Giulia Ambrosiani (IT), Ryan Hawa (CN), Kei Sugamiya (FR), Gerold Stabel (GR), Ami Kato (JP), Kaitlyn Nicholls (US)

導入

G7 各国の次世代を担う私たちは、教育を受けていない子どもたちの存在は、機会の損失になるとの強い懸念を持っています。G7 各国は、教育への支援を増やすために「教育のためのグローバル・パートナーシップ」(GPE)や「国連グローバル・エデュケーション・ファースト・イニシアティブ」(GEFI)などの様々な取り組みを立ち上げ、これまで多くの進捗がみられましたが、良質な教育への公平なアクセスがない子どもたちは依然として 6000 万人います。教育支援活動が G7 各国にもたらす利益は、数多く挙げられます。教育による持続可能な環境に対する施策の促進、男女平等、福祉へのアクセスや福祉に関する意識の向上を通じて命が救われ、教育は究極的には力強い包括的成長へとつながるのです。

教育は全ての人にとっての普遍的権利であるべきです。そのため、G7 各国はさらに多くの子どもたちへの初等・中等教育の機会を更に確保するべきです。子供達が経済的・社会的幸福度を高め、グローバル市民として生きていくための教育が必要です。具体的には、生徒がより長く学校教育を受けられる環境、質の高い学習、実社会において有用な能力開発の提供が必要です。

問題提起 1 : アクセスの欠如 + 低い継続率

開発途上国と紛争影響下の脆弱国 (FCACs) において、学校への就学・修了を阻む最も大きい障壁には、高額な教育の追加的費用、地方や社会的に阻害された地域における教室の不足、自然災害や紛争による人道的危機が挙げられます。

解決策 1 : 初等教育分野の国際的なパートナーシップ確立への国内外での支出の増加

子どもたちの普遍的な初等教育へのアクセス、教育の質や公平な教育機会提供を図るために、G7 各国と開発途上国は、GPE と GEFI に対する既存のコミットメントへの政府の支出を増やすべきです。

GPE と GEFI などの初等教育の国際的なパートナーシップ確立への国内外への支出を増やすことにより、以下の点を達成できます。

- **高額な追加的費用を下げる**ことにより、**全ての生徒が学校に通うことができるようになる**：教科書、学用品、教師の給与、学校設備の維持管理の費用を削減し、基本的な初等教育に参加し最後まで学校に通えるように、様々な費用障壁をなくしていきます。
- **より多くの教室を設け、質の高い教材や資料を整備する**：とりわけ地方や社会から取り残されているような地域の子どもたちに質の高い教育へのアクセスを確保するため、より多くの学校を建設し、それらの教室には最新の書籍や学習教材を整備し、情報通信技術を活用します。
- **人道的危機に際しても教育を最優先とする**：人道的危機に見舞われた国の対応として、教育を保証することは中核的な要素です。人道支援予算全体の少なくとも 4% は確実に教育に充てるように努めるべきです。
- **教師の研修を増やす**：政府支出の一環として教師の賃金増額を行うことにより、地域社会における教師の価値を高めるとともに、教師への研修を行うことで読み書き・数学の基礎を教えることができる状態にすることが可能です。

問題提起 2: 教師の質の低さと有用性のない教育内容

先進国においては、良い教師の不足、早期教育の基盤の弱さ、その後の人生に有用な教育プログラムの不足といった全体的な教育の危機が相まって、中等教育における多くの子どもたちの教育の機会を阻んでいます。

解決策 2: パートナースクール・イニシアティブ –中等教育における新しい教育モデルの構築

私たちは貧困地域に住む生徒たちが良い初等教育を受けるべきだと固く信じていますが、各国は中等教育にも投資するべきです。この年齢の子どもたちは、学力を伸ばすことももちろん大事な一方で、より大切なのは収入のある将来と一般的な幸福をつかむために実社会を生きるスキルを身につけることです。G7 各国の子どもたちもまた、さらに高い教育と仕事のために有用なスキルを切に必要としています。G7 各国は、開発途上国の新興市場と一層協力するようになるため、子どもたちは将来に向けて、そうした国の人たちとの協力

の仕方を学ばなければなりません。例えば、外国語の学習や文化を理解するスキルを修得することが必要です。こうした生きるスキルは、読み書きや、財務管理、起業するスキル、チームワークスキル、問題解決能力、プロジェクト管理、健康管理と健康管理能力及びグローバル市民としてのスキルです。

私たちが提案するパートナーズクール・イニシアティブ (Partner Schools Initiative : PSI) というモデルは、先進国の学校と開発途上国の学校がペアを組み、文化的な意識の高い、異文化間協力や国際的なリーダーシップスキルの高い学生を育てることを目的とします。このモデルでは、学校の在り方は昔ながらの共通テストに基づいた教育から、グローバルな、経験学習ベースの結果をより重視しています。例えば、異なる社会・文化的環境における起業、財務管理、保健、文学関連の科目を双方の学校の必修とします。この生徒中心の学習プログラムは、基本的な数学、科学、歴史、文学等の基礎科目を超えて、グループプロジェクト活動を通じ、生徒が複雑な問題を解決し、パートナー校の生徒と協力的に推進する多様な取組を行います。学校は、これらプロジェクトを通じて、生徒がどのような力をつけたかを評価し、国際的な奉仕プロジェクトや事例研究の機会、パートナー校との国際学生交流を重視し、生徒たちの活動がいかに経済や社会の改善と、そこに住む人々に役立つのかを評価します。

このアプローチが実施されれば、生徒達がそれぞれのコミュニティにおいて実生活の問題に取り組んでいくことでしょう。例えば、起業分野でのプロジェクトでは、コミュニティ内でビジネスに発展しうる機会を発見することで社会的価値を生み出すことも含まれます：例えば、学校の菜園を栽培したり、コミュニティでリサイクル事業を行ったりといったことも考えられます。手を洗う、沸騰したお湯を使う、マラリア除けの蚊帳を使うといった基本的な保健・衛生に関する知識を広めることも健康分野でのプロジェクトとなりえます。

結論

G7各国が全ての人に包括的かつ質の高い教育を保証するための持続可能な開発目標を達成し、生涯学習を促進するために着手しているように、私たちは現在の教育の危機に対応するためにより多くの取組が必要であるという事実に向き合わなくてはなりません。子どもたちに質の高い教育機会へのアクセスが確保されず、あるいは初等・中等教育を修了せず

に教育システムから外されてしまうならば、教育に関する既存のコミットメントを達成することができません。

G7 各国の若者として、私たちは、G7 各国首脳の方々に私たちの提案する解決策を熟考し、行動のきっかけとしていただきたいと考えます。教育が行き届かない人々が引き起こす問題は循環します。貧困、不健康、男女不平等、気候変動といった社会問題は取り組まれず、更に深刻化しています。この悪い連鎖から脱するためには、私たちは、世界で最も脆弱で貧しい子どもたちがその潜在能力を探究することを妨げている鎖を断ち切らなくてはなりません。結果として、G7 各国および途上国の次世代の子どもたちは、より平和な世界で学習するより多くの機会を得ることでしょう。

ジェンダーによる格差の克服

職場と学校におけるジェンダーによる格差を克服するために

筆者: Akansha Ravishanker (US), Maxim Makarov (CN), Umi Maisy (FR),
Mariano Maresca (IT), Haruki Inaba (JP), Jessica Monkman (UK),
Thea Hammer (GR)

導入

2015年G7サミット宣言の中では、男女の格差問題へ高い重要性が与えられました。すべての女性と女子の職場への参画とエンパワメントの推進について、G7伊勢志摩サミットでも話し合われることが想定されます。

このジュニア・サミットで、私たちは、女性、開発、そして経済成長に大きな影響を与えているこの問題の解決に向けて、G7各国の首脳達は全世界に対してリーダーシップを発揮すべきであると提言いたします。特に、女性に質の高い教育及び平等な教育機会を提供することへの重要性を認識しない職場環境やその規範意識を変えることが重要です。

問題設定 1：職場における女性に対する制約

世界のほぼ全ての地域において、女性は相対的に収入が少なく、子育ての負担の多くを担っています。また女性は、ビジネス界や政治のリーダーとしての役割においては、存在感が低い状況です。このような傾向を変えるためには、よりインクルーシブな職場をつくることが大切です。最初はG7各国で、そして世界各地で、職場での男女間の平等に関連する様々な指標を評価することは、一般市民や産業界、及び政府のリーダー達を教育するうえでも有益です。一方で、例えば米国では歴代の大統領達が提言したにもかかわらず、過去約100年間に及ぶ悲劇的な死や、衝撃的な事故、裁判が繰り返され、ようやく近代の労働安全衛生法が生まれました。

解決策 1：ワークプレイス・インクルーシビティ・スコア

過去と比べ現在は、政府が民間セクターと協力して、データを収集・分析し、活用することが可能です。市民の意識を高め、男女を問わず活躍できる環境を整えた企業や組織が恩恵を得られるよう、私たちは政府が産業界の意見に耳を傾け、働く人々が月に数回、男女

間の格差に関連する問題について、職場の満足度を様々な角度から報告するためのオンラインツールを作成するように協力すること（例えば、昇進の見通しや、管理職や上司に対する満足度、産休・育休の取りやすさ、保育園に子供を預けるためのサポート、人材投資における平等な機会など）、そのデータを蓄積して、様々な企業や機関のためにワークプレイス・インクルーシビティ・スコア(**Workplace Inclusivity Score:WIS**)を作成し、求職者や政府機関、及び一般市民がそのデータを参照して議論できるような仕組みの構築を提案します。このWISスコアにはオンラインでアクセスでき、リアルタイムでアップデートされます。また、自分が活躍できる職場を選ぶ際にこのデータを参考にできます（このような意味で高いWISスコアを獲得した企業には恩恵があるのです）。経営者は、このスコアと、例えば企業の業績(あるいは事業の失敗や株式の状況リスク)との関係性を把握することができます。成功や進展があれば当該企業を奨励し、またすべての関係者と情報を共有することを通じて、G7各国やそれ以外の国々で、労働環境や規範の改善を加速することができますと考えます。

問題設定2：インターネット・アクセスと教師への支援不足

WISスコアが女性の職場環境を改善したとして、次のステップは、とりわけ開発途上国において女性が男性と同等の質の高い教育を確実に受けられるようにすることです。小中学校の男女比は、世界51カ国において、男子1名に対して女子0.79人という世界平均値を上回っていますが、ある調査結果によると、平均的な女子の学習結果は平均基礎学力以下になっています。良い教師は1年間で1年分のカリキュラムを習得させることができますが、素晴らしい教師を持った生徒は1.5年以上学ぶことができることが分かっています(Hanushek and Rivkin 2010)。したがって、開発途上国で若者の教育を改善するためには、まず教師という職につくにあたって、またそれ以降は「良い」教師から「素晴らしい」教師になろうとするように、適切なインセンティブを与えることが必要です。UNESCOの推計によると、教育需要に十分に応えるためには、サハラ以南のアフリカ地域だけでも、約620万人の新しい教師が必要だとされます。新しい教師はトレーニング、良い報酬や福利厚生はもとより、世界の若者の多くを教える役割の中で活躍できるよう様々なリソースにアクセスできることが必要です。

解決策2：インターネット・アクセスの拡大と教師支援

私たちは、G7のリーダー達が、教師のトレーニングや教育リソースの共有や、オンラインでの給与支払を可能にするために、特に開発途上国においてインターネットへのアクセス

拡大を支援することを支持します。これらの投資は、教師のトレーニングをサポートし、給与支払をタイムリーかつ確実にを行うことを可能とし、より多くの人々が教師を志望する誘因になります。より高いトレーニングやモチベーションを持つ教師が増えれば、一クラスあたりの人数が減り、女子教育の質の向上にもつながるでしょう。そして、それが彼女達をグローバルな労働市場で競争力のある人材にすることに導くでしょう。

問題設定 3 : 教育におけるジェンダーによる格差

よりインクルーシブな職場環境を整えたり、教育の質を上げたり、教師の数を増やすことは、女の子や女性により多くの機会を与えることになります。しかし、女の子が学校に通うことを確実にするためには、より直接的なインセンティブが必要です。

解決策 3 : 条件付現金給付の拡大を通じた女子教育の機会確保

学校への入学率の男女間の格差が十分に縮まっていない国が未だ約 80 カ国あり、この問題の解決のために条件付現金給付 (CCT) を提言いたします。バングラデシュの様な国では、この様な手法が、早期の結婚や危険度の高い妊娠を減らすことに大きく貢献し、女の子の中学卒業者の割合を増やしてもいます。私たちは、多くの国において、条件付現金給付プログラムの数を増やすことを提言します。私たちが提案する CCT の支給の条件は、年間を通じた高い出席率(85%)や将来の職業に適用できる技能や知識を与える、質の高い教育を確保すること、また、妥当な試験の合格率というものです。更に、この様なプログラムを実行するに際し特別な条件を考慮すること提案します。例えば、若年の結婚や妊娠で女の子が教育を修了できないことが多い国においては、中等教育学校を卒業するまで女性は結婚したり妊娠したりすることができないようにするという条件もありうるかもしれません。以前の CCT プログラムでは、学校が休みの間の月は支給が止まったり、年額を一括支給したりしたので、まばらな頻度での支給が原因で、多くの家庭ではこういったプログラムから脱退することになりました。したがって、私たちは、隔月での支給によって安定した収入を保証することを提案します。私たちは G7 に現在の政府開発援助(ODA)充当金を見直し、少女の就学率を上げる手段として CCT を更に検討することを提案します。

結論

世界の人口の半分を占める女性は、世界経済において活かされていない潜在的な資産とも言えます。経済活動に十分に貢献するために、女性は教育の機会を得なくてはなりません。そして更に、女性は労働力として貢献する機会を平等に得なくてはならず、先進国のリー

ダーとして、これらの事項の変化を先導することは G7 の責任です。賢明な政策を段階的であつても実行し、先進国と開発途上国においてジェンダーによる格差を埋めていく必要不可欠であり、これによって我々の社会で繁栄と調和ある発展が促進されることとなります。

伊勢志摩サミット記録誌

平成28年11月 発行

発 行 伊勢志摩サミット三重県民会議

印 刷 伊藤印刷株式会社